AsukaBook

写真集制作ソフトウェア

AsukaBook Maker™ 2

リファレンス マニュアル

このマニュアルは、ABM バージョン 2.19 に対応しています。

初版　2011 年 1 月 10 日
第 19b 版 r1　2021 年 01 月 07 日

ご注意

バージョン 2.19 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.18 以前では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

◆このリファレンスマニュアルについて

●本書はパソコンの基本的な操作を行うことできる方を対象に書かれています。特に記載のない操作については、一般的なパソコンの操作と同様に行ってください。

●本書での説明において、実際の運用との間に相違点がある場合は、実際の運用方法を優先するものとします。

●本書において、ABM2 の画面やダイアログのキャプチャー（説明図）は、Windows 版と macOS 版が混在していますが、操作に相違はありません。お使いのコンピュータシステムに読み替えでご利用ください。

●本書は、ASUKABOOK Maker 2.19 においての追加機能、および操作性の変更箇所の解説を含むものです。

●本書は「もくじ」・「索引」から調べたい機能に簡単に移動できるようになっています。
本書を Adobe Acrobat Reader® でご覧頂く場合は「しおり」（もくじ）が左側に表示されます。閲覧したいもくじにマウスポインタ を置くとマークに変わり、クリックすると該当するページに直接ジャンプします。

●本書を、macOS の「プレビュー」でご覧いただく場合は、メニューの「表示」から「目次」をクリックすると「しおり」（もくじ）を表示することができます。

●文中に「○ページをご覧ください。」と書かれた文章をクリックすると、該当ページ、および該当するホームページにジャンプできます。 マークが目印です。

●本書では巻末に「索引」を用意しました。ページ数表記の部分にマウスポインタを置くと マークに変わり、クリックすると該当するページに直接ジャンプします。調べたい項目を探し出す時にお役立てください。

1．本製品（ASUKABOOK Maker 2）の一部、または全部を無断で複製することを禁止します。
2．本製品（ASUKABOOK Maker 2）の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
3．本製品（ASUKABOOK Maker 2）は内容について万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
4．運用した結果については、3．項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
5．ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、弊社はその責任を負わないものとします。
6．本ソフトウェア（ASUKABOOK Maker 2）の解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアッセンブリを禁じます。
7．アスカネット、ASUKABOOK、ASUKABOOK Maker、およびそのロゴは株式会社アスカネットの登録商標です。
8．Adobe Photoshop®、Adobe Acrobat Reader®　アドビシステムズ株式会社の登録商標です。
9．Windows は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。macOS は Apple Inc. の登録商標です。

免責事項

本書記載されている内容は、あくまで参照用として示すものです。また、記載内容は予告なく変更される場合があります。従って当該情報が株式会社アスカネットの責務として解釈されるわけではないことをご了承ください。株式会社アスカネットは、本マニュアルにおけるいかなる誤謬、また不正確な記述に対してもなんら責任、補償を負うものではありません。

株式会社　アスカネット

もくじ

目次

免責事項 ・・・

※テンプレートをオートレイアウトで利用する際の注意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-39
2-9.　ブックファイルを閉じる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-41
【解説】 カラープロファイルについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-42
【解説】 保存ファイル形式について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-43
① 4 種の保存ファイル形式に対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-43
② 各保存形式の比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-44
③ 保存ファイル形式の変換について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-45
④ 保存ファイル形式の設定方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-46
保存形式を環境設定から設定する (macOS) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-46
保存形式を新規作成時に設定する (macOS) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-47
ABM を起動した際の新規作成 (macOS) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-48
保存形式を環境設定から設定する (Windows) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-48
保存形式を新規作成時に設定する (Windows) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-49
ABM を起動した際の新規作成 (Windows) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-50
透明色を含む PNG ファイルの作り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-51
3.　メインメニューの解説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-1
3-1.　ABM2 の画面構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-1
3-2.　メインメニューの解説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-2
3-2-1.　環境設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-2
① 環境設定／言語と入稿先 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3
② 環境設定／ユーザー設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-4
③ 環境設定／ルーラーとガイドライン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-4
③ -1.「ルーラーを表示する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-4
③ -2.「ルーラー単位」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-4
③ -3.「ガイドラインを表示する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-4
③ -4.「ガイドラインへの吸着」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5
③ -5.「ガイドラインの色」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5
③ -6.「スマートガイドを表示する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5
③ -7.「起点のポインタを表示する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5
③ -8.「スマートガイドの色」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5
④ 環境設定／動作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-6
④ -1.　ボックス配置時の自動再配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-6
④ -2.　ボックス配置時にボックスの固定をしない ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-6
④ -3.　選択した画像からボックスを絞り込む ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-6
④ -4.　画像サイズを自動調整して配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-7
④ -5.　同時に開けるドキュメントウインドウの数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-8
④ -6.　ブック作成時の保存形式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-8
④ -7.　保存先などのフォルダを前回と同様にする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-8
⑤ 環境設定／表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-9
⑤ -1.　拡張子表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-9
⑤ -2.　トリミングエリア表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-9

もくじ

⑤ -3. 警告 ・・・

⑦ 設定 ・・・

もくじ

◆たち落とし表示　について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-3
4-2.　画像の読み込み ・・ 4-4
4-3.　オブジェクトの選択方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-6
4-3-1.　クリックして選択する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-6
4-3-2.　マウスをドラッグして選択する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-7
4-4.　画像を移動する ・・ 4-8
4-4-1.　マウスでドラッグして画像を移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
4-4-2.　ショートカットキーによる画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
① 細かく移動する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
② 大きく移動する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-9
4-4-3.　数値入力による画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-9
① ボックスの位置を移動する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-9
② ボックスの位置は変更せずに内部画像のみを移動する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-10
4-5.　画像を拡大・縮小する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-11
4-5-1.　マウスでドラッグして画像を拡大縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-11
【解説】 画像の拡大縮小に伴う画質の劣化について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-12
4-5-2.　数値入力による画像の拡大縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
① ボックスサイズと共に、画像を拡大縮小する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
② ボックスサイズは変更せずに、内部画像のみ拡大縮小する ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
4-5-3.　画像拡大縮小時の「警告マーク」について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-16
4-6.　画像を回転する ・・ 4-17
4-6-1.　マウスでドラッグして画像を回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-17
4-6-2.　数値入力による画像の回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-18
① ボックスと共に画像を回転させる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-18
② ボックスの回転角度は変更せずに、内部画像のみ回転させる ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-19
4-7.　ボックス内部の画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-20
4-7-1.　画像コントローラによる内部画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-20
4-7-2.　ショートカットキーによる内部画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-21
4-7-3.　数値入力による内部画像の移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-22
4-8.　ボックス内部の画像の拡大・縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-23
4-8-1.　画像コントローラによる内部画像の拡大縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-23
4-8-2.　ショートカットキーによる内部画像の拡大縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-24
4-8-3.　数値入力による内部画像の拡大縮小 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-24
4-9.　ボックス内部の画像の回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-25
4-9-1.　画像コントローラによる内部画像の回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-25
4-9-2.　数値入力による内部画像の回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-25
4-10.　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動 ・・・・・・・・・・・・ 4-26
4-10-1.　水平・垂直方向の動き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-26
4-10-2.　回転方向の動き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-26
4-11.　画像のトリミング方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-27
4-11-1.　通常のマウス操作による動き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-27

4-11-2.　ショートカットキーによるトリミング操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-28
4-12.　ガイド機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

もくじ

6-4.　ガイドラインをコピー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-4
6-5.　ガイドラインをペースト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-4
6-6.　ページをクリア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-5
6-7.　エクスポート／ページを保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-7
6-7-1.　特定のページのみを「ページ保存」する場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-7
6-7-2.　複数のページを「ページ保存」する場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-8
6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-9
6-8-1.「確認用 JPEG」とは？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-9
6-8-2.　ページ別に確認用 JPEG を出力する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-10
6-8-3.　全ページをまとめて JPEG 出力する方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-12
6-9.　リプレース／ページを置き換え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-13
6-10.　リプレース／ JPEG で置き換え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-15
6-11.　ボックス保存・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-17
6-12.　閉じる ・・・ 6-18
6-13.　サムネイルサイズの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-18
6-14.　ページの入れ替え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-19
6-14-1.　選択したページを前方に移動する場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-19
6-14-2.　選択したページを後方に移動する場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-20
7.　ボックス ・・ 7-1
7-1.　ボックスの使い方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-1
7-2.　画像を新しいボックスに再配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-3
7-3.　画像数連動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-4
7-3-1.　オーガナイザーを使用した場合の「画像数連動」について ・・・・・・・・・・・・・・・ 7-4
7-3-2.　オーガナイザーを使用していない場合の「画像数連動」について ・・・・・・・・・・・・ 7-5
①画像を選択していない場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-5
②画像を 2 つ選択している場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-5
③画像を 3 つ選択している場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-5
【解説】　ボックスの縦横比とは？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-6
7-4.　縦横完全一致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-6
7-5.　正方形を含める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-7
ボックス絞り込み機能の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-7
①「画像数連動」＝「OFF」、「縦横完全一致」＝「OFF」の状態・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-7
②「画像数連動」＝「ON」、「縦横完全一致」＝「OFF」の状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-8
③「画像数連動」＝「ON」、「縦横完全一致」＝「ON」の状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-8
④「画像数連動」＝「ON」、「正方形を含める」＝「ON」の状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-9
7-6.　「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を使用しない場合 ・・・・・・・・・・・・ 7-9
7-6-1.　ボックスタブのプルダウンメニューの表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-10
7-6-2.　ボックス数選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-10
7-7.　お気に入りに追加する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-11
7-8.　左右反転 ・・ 7-13
7-9.　上下反転 ・・ 7-14
7-10.　ボックスの取消 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-15
7-11.　カテゴリ ・・ 7-15

7-12.　参照先フォルダを開く ・・・

もくじ

10-5.　最新の状態に更新 ・・・

12-8.　オーガナイザー　／　オートレイアウト　表示 / 非表示 ・・・・・・・・・・ 12-20
12-9.　オーガナイザー　／　ブック情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-21
12-9-1.　ブック情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-21
12-9-2.　ブックタイプの変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-21
12-10.　オーガナイザー　／　「キャンセル」ボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-21
12-11.　オーガナイザー／「編集画面へ」ボタン（レイアウト編集画面へ進む）・・・ 12-22
12-11-1.　「編集画面へ」ボタン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-22
12-11-2.　デザインパレット／オーガナイザータブ （レイアウト編集画面）・・・・・・・・・・ 12-23
① ページ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-23
② オーガナイザー画面へ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-24
③ 並び替え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-24
④ サムネイルサイズの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-24
12-12.　オーガナイザータブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-25
12-12-1.　ページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-25
12-12-2.　ソートの種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-25
12-12-3.　ソートの方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-25
12-12-4.　選択したファイルの削除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-26
12-12-5.　このアプリケーションで開く ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-26
12-12-6.　最新の状態に更新 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-26
12-12-7.　プロパティ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-27
12-12-8.　オーガナイザーへ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-27
12-13.　オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 12-28
12-13-1.　オートレイアウト領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-31
12-13-2.　オプションボタン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-31
12-13-3.　見開きページの並び替え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-31
12-13-4.　レイアウト変更ボタン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-32
12-13-5.　ボックステンプレートメニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-35
12-13-6.　オーガナイザーでテンプレートを利用する・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-36
※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点 ・・・・・・・・・・・・ 12-40
13.　ガイドラインタブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-1
13-1.　ガイドラインの保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-1
13-2.　カテゴリの新規作成と登録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-4
13-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-7
13-4.　ガイドラインタブと各種メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-9
13-4-1.　カテゴリ選択メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-9
13-4-2.　サムネイルサイズの変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-10
13-4-3.　メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-10
①「お気に入りに追加する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-10
②「カテゴリ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-11
③「参照フォルダを開く」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-11
④「最新の状態に更新」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-12
⑤「削除」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-12

13-5.　保存したガイドの利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-13
13-6.　保存したガイドの便利な使い方と注意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-14
13-6-1.　ガイドラインのページ種類と分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-14
13-6-2.　異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合 ・・・・・・・・・・・・ 13-15
13-6-3.　ガイドの保存を「単位」の「%」以外で保存した場合 ・・・・・・・・・・・・・・・ 13-16
13-6-4.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるガイド ・・・・・・・・・・・・・ 13-17
13-6-5.　ガイドの原点位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13-17
14.　ページテンプレートタブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-1
14-1.　ページテンプレートの保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-1
他のパソコン等で作成したページテンプレートをドラッグで登録する場合 ・・・・・・・・・・ 14-5
他のパソコン等で作成したページテンプレートをフォルダに登録する場合 ・・・・・・・・・・ 14-6
14-2.　カテゴリの新規作成と登録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-7
14-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-10
14-4.　ページテンプレートタブと各種メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-12
14-4-1.　カテゴリ選択メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-12
14-4-2.　サムネイルサイズの変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-13
14-4-3.　メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-13
①「お気に入りに追加する」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-13
②「カテゴリ」・・ 14-14
③「参照フォルダを開く」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-15
④「最新の状態に更新」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-15
⑤「削除」・・ 14-15
14-5.　保存したページテンプレートの利用　便利な使い方と注意点 ・・・・・・・・ 14-16
14-5-1.　ページテンプレートのページ種類と分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-16
14-5-2.　異なるブックサイズで同じページテンプレートを使用したい場合の注意点・・・・・ 14-17
14-5-3.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるページテンプレート ・・・・・・ 14-17
14-5-4.　保存したページテンプレートの利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-18
14-6.　保存したページテンプレートの利用 (位置を固定したオブジェクトを含むの設定結果) ・・・ 14-19
14-6-1.「位置を固定したオブジェクトを含む」とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14-19
14-6-2.「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れた場合 ・・・・・・・・・・ 14-20
14-6-3.「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れない場合 ・・・・・・・・・ 14-20
15.　ツールバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-1
15-1.　ツールバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-1
15-1-1.　元に戻す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-1
15-1-2.　やり直し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-1
15-1-3.　選択 ・・・ 15-1
15-1-4.　表示移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-1
15-1-5.　削除 ・・・ 15-2
15-1-6.　図形 ・・・ 15-2
15-1-7.　文字入力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-3
15-1-8.　左回転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15-4

15-1-9.　右回転 ・・・

【解説】 罫線の太さについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-7
16-4-2. 色調の調整範囲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-9
①露出調整の範囲と傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-9
②ガンマ調整の範囲と傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-9
③コントラスト調整の範囲と傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-9
④色相調整の範囲と傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-10
⑤彩度調整の範囲と傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-10
【解説】 色相 と 彩度 について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-10
16-4-3. 写真の補正　その 1 ／明るさの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-12
16-4-4. 写真の補正　その 2 ／色の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-13
16-4-5. 写真に効果をつける　その 3 ／効果的なモノクロ写真を作る・・・・・・・・・・・・ 16-14
16-4-6. 写真に効果をつける　その 4 ／セピアカラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-16
【解説】 チャンネルミキサーの効果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-16
【解説】 セピアカラー／色相・彩度の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-18
16-5. オーバーレイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-19
16-6. 透明度・・・ 16-22
【解説】 グラデーション開始位置とは? ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-25
17. 文字の入力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-1
17-1. 文字ツールの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-1
【解説】 フォントのウエイト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-2
17-2. 文字入力の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-2
17-3. 文字の変更、修正の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-3
17-4. 文字ツールのオプション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-4
① 縦書き横書き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-4
② 太文字 ・・ 17-4
③ 斜体 ・・・ 17-4
④ 下線 ・・・ 17-4
⑤ フォントサイズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-4
【解説】 文字高さについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-5
⑥ 色選択 ・・ 17-6
⑦ カーニング ・・ 17-6
⑧ 行揃え ・・ 17-7
均等割り付けの使い方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-7
17-5. 文字のラスタライズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-8
【解説】どのような場合にフォントをラスタライズするのか？ ・・・・・・・・・・・・・・・ 17-8
17-6. 文字　小さな文字、細い文字の注意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17-9
18. 編集時のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-1
18-1. たち落とし領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-1
18-2. 巻き込み部分 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-1
18-3. のど部分・・ 18-1
18-4. バーコードの印刷廃止について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-2
18-5. レイアウト中のフォルダ、ファイルについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-2

【解説】 たち落とし領域 について ・・・

もくじ

21-23.　ボックス保存 ・・・

◆ヘルプの表示方法 ・・・

④ 左右選択 ・・・

2.1-4.　ロック機能　（位置固定）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-43
2.1-5.　キーボードによるオブジェクト移動量の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-43
2.1-6.　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動　・・・・・・・・・・・・ 28-43
2.1-7.　ボックス保存機能に「お気に入り」を追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-43
2.1-8.　オブジェクトの拡大率を数値で入力する方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-44
2.1-9.　画像拡大縮小時の中心位置の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-44
2.1-10.　画素数の大きな画像における自動サイズ調整機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-45
2.2.　バージョン 2.2 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-40
2.2-1.　オーガナイザー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-40
2.2-2.　Adober Photoshop® 形式画像の簡易読み込み機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-40
2.2-3.　3 種の保存ファイル形式に対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-40
2.2-4.　ヘッダーでの計算式入力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-40
2.2-5.　縦横比固定機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-41
2.2-5.　整列ツールバー／オブジェクト間隔の調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-41
2.2-6.　画像の拡大縮小時の「警告マーク」表示　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-41
2.2-7.　テンプレート保存機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-41
2.3.　バージョン 2.3 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-34
2.3-1.　レイアウト確認システム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-34
2.3-2.　ドラッグによるオブジェクトの選択とグループ化機能　・・・・・・・・・・・・・・・ 28-34
2.3-3.　レイアウト領域の原点位置の変更　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-35
2.3-4.　ファイル名の拡張子を表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-35
2.3-5.　ルーラーの目盛り表示の変更　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-35
2.3-6.　画像表示ウインドウの「利用済マーク」の変更　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-36
2.3-7.　画像の縦横比を元に戻す機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-37
2.3-8.　画像のトリミングされている部分を半透明表示する機能　・・・・・・・・・・・・・・ 28-37
2.3-9.　ページレイアウトの反転機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-37
2.3-10.　ボックス固定の解除に対するオプション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-37
2.3-11.　ズームボタンの表示方法を変更　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-37
2.3-12.　画像の拡大縮小「警告マーク」について、警告拡大率を変更・・・・・・・・・・・・ 28-38
2.3-13.　ドロップシャドウの改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-38
2.5.　バージョン 2.5 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-32
2.5-1.　オートレイアウト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-32
2.5-2.　スマートガイド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-32
ABM2.5 では、新機能として「スマートガイド」を装備しました。　・・・・・・・・・・・・ 28-32
2.5-3.　「表示移動」ツールにショートカットキーを追加　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-32
2.5-4.　オブジェクトの吸着を一時的に無視する機能を追加　・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-33
2.5-5.　ボックス内の画像を拡大縮小する機能にショートカットキーを追加　・・・・・・・・・ 28-33
2.5-6.　右クリックにコピー＆ペーストを追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-33
2.5-7.　ボックスの種類を追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-33
2.6.　バージョン 2.6 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-28
2.6-1.　文字のラスタライズ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-28
2.6-2.　背景機能の追加　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-28
2.6-3.　型抜きパターンの追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-29

もくじ

2.6-4.　Windows8 および macOS 10.8 に対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-29
2.6-5.　64bit 版をリリース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-29
2.6-5-1.　64bit と 32bit 何が違うのか？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-29
2.6-5-2.　64bit 版と 32bit 版では、ABM の操作方法に違いはあるか？・・・・・・・・ 28-30
2.6-5-3.　64bit 版と 32bit 版では、ブックファイルには互換性はあるか？ ・・・・・・・ 28-31
2.6-5-4.　64bit 版の ABM を 32bit 版の OS にインストールできるか？・・・・・・・・・ 28-31
2.6-5-5.　ABM2 の開発の方向性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-31
2.7.　バージョン 2.7 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-24
2.7-1.　イラストタブの追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-24
2.7-2.　オートレイアウトにおけるテンプレート読み込み機能 ・・・・・・・・・・・・・・ 28-24
2.7-3.　確認用 PDF の出力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-25
2.7-4.「ブックタイプ変更」機能でのサイズアップ変更が可能になりました ・・・・・・・ 28-25
2.7-5.　ASUKABOOK 新商品に対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-26
2.7-6.　macOS 10.9 に対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-26
2.7-7.　溝の表示について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-26
2.7-8.　最小フォントサイズの変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-26
2.8.　バージョン 2.8 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-22
2.8-1.　文字の均等割り付け機能の追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-22
2.8-2.　画像表示ウィンドウにおいて、画像が使用されているページを表示する機能を追加・ 28-22
2.8-3.　ボックスの絞り込みについて、ボックス個数を指定する方式に変更 ・・・・・・・・ 28-23
2.8-4.　リンク切れのオブジェクトが存在する場合の処置 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-23
2.9.　バージョン 2.9 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-20
2.9-1.　2015 年 5 月 27 日発表の新商品に対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-20
2.9-2.　画像表示ウインドウの動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-21
2.9-3.　ボックスの追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-21
2.10.　バージョン 2.10 で追加された機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-12
2.10-1.　オーガナイザー機能にオートレイアウト機能を追加・・・・・・・・・・・・・・・ 28-12
2.10-2.　ヘッダーの機能追加（ボックス内部画像の情報表示と数値操作） ・・・・・・・ 28-13
2.10-3.　ボックス絞り込み機能を改善 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-13
2.10-4.　確認用 JPEG 出力のサイズを変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-14
2.10-5.「画像表示ウインドウ」のソート機能に使用・未使用の項目を追加・・・・・・・ 28-14
2.10-6.　全ページで使用している写真画像の使用カット数表示を追加 ・・・・・・・・・ 28-14
2.10-7.　ガイドライン保存機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-15
2.10-8.　ボックスの追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-15
2.10-9.　旧レイフラット仕様の生産終了に伴う処置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-15
現行商品へのブック変換の手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-15
2.10-10.　ファイル表示ダイアログの変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-17
2.10-11.　各タブのサムネイル拡大率の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-17
2.10-12.　オブジェクトをグループ化した際の拡大・縮小時のズレを修正・・・・・・・・ 28-18
2.11.　バージョン 2.11 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-10
2.11-1.　新商品と追加商品、ページ数変更に対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-10
2.11-2.　ツールバーの機能追加と変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-11

2.11-3. 保存先などのフォルダを前回と同様にする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-11
2.12. バージョン 2.12 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-8
2.12-1. リンク形式の再リンク機能を追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-8
2.12-2. 整列ツールバーの機能追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-8
2.12-3. ページテンプレートの保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-9
2.12-4. 画像の全画面表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-9
2.12-5. ショートカットキーの追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-9
2.13. バージョン 2.13 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-6
2.13-1. 新商品と追加商品、ページ数変更に対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-6
2.13-2. 新規作成画面で保存形式が選択できるようになりました ・・・・・・・・・・・・・・ 28-7
2.14. バージョン 2.14 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-5
2.14-1. 「eraview」からの連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-5
2.14-2. ショートカットキーを追加しました ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-5
編集パレットの表示%を一つ前の%に戻す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-5
2.15. バージョン 2.15 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-4
2.15-1. 2018 年 5 月にリリースした新商品に対応しました ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-4
2.15-2. ページ分割で保存する機能を追加しました ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-4
2.15-3. 背景パターンを追加しました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-4
2.16. バージョン 2.16 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-3
2.16-1. テンプレートをオーガナイザーで利用できるようになりました ・・・・・・・・・・・ 28-3
2.16-2. よく使うブックを「お気に入り」に登録して簡単に利用できるようになりました ・・・ 28-3
2.16-3. 全ページの背景を一括して塗りつぶすことができるようになりました・・・・・・・・ 28-3
2.16-4. 使用画像数の表示をわかりやすくしました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-3
2.16-5. ボックス、イラスト、ページテンプレートの追加データを簡単に登録 ・・・・・・・・ 28-3
2.17. バージョン 2.17 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-3
2.18. バージョン 2.18 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-2
2.19. バージョン 2.19 で追加された機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28-1
29. ブックサイズごとの寸法とピクセル数 (本文) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29-1
30. お問い合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30-1
■ ASUKABOOK Maker2 に関するお問い合わせメールアドレス ・・・・・・・・・・・・・・・ 30-1
■ ASUKABOOK Maker2 に関するお問い合わせ電話番号・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30-1
索　引 ・・・索引ー 1

1.　はじめに

このリファレンスマニュアルは ASUKABOOK Maker2（以下、ABM2　と略す）のバージョンアップ版の追加機能を含む内容となっています。

1-1.　ABM2 のインストール

インストール手順 (Windows、および macOS)

ASUKABOOOK Maker2 ダウンロード先：

https://abm.asukabook.com/jp/download/index.html

1. ダウンロードした ASUKABOOK Maker2 のダブルクリックします。macOS の場合は、解凍して「setup」を実行します。
2. ABM2 使用許諾契約書をご確認の上、「同意する」を選択します。
3. 後は表示される指示に従ってインストールを進めてください。

1-1-1.　macOS で「開発元が未確認で開けません」というメッセージが出た場合 (ABM2 旧バージョンのみ)

※ macOS Sierra (10.12) 以降で ASUKABOOK Maker2 バージョン 2.18.2.1 以降であれば、表示されません。

MacOS10.8 よりセキュリティが強化され、標準設定では Mac App Store と確認済みの開発元からのソフトウェアしか実行できなくなっています。
macOS で「setup」を実行する際に「開発元が未確認のため開けません」というメッセージが出た場合は、下記の操作をしてください。

操作

手順 1　コントロールキーを押しながら「setup」ファイルを開く

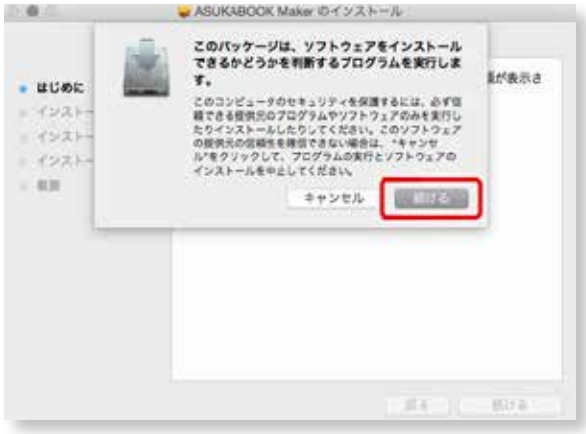
「コントロール」キーを押しながらダウンロードをした setup.mpkg をクリックして、コンテキストメニューから「開く」を選択してください。

手順 2　「開く」をクリックします

「開発元は未確認です。開いてもよろしいですか ?」のメッセージが出たら「開く」をクリックします。

手順 3　「続ける」ボタンをクリック

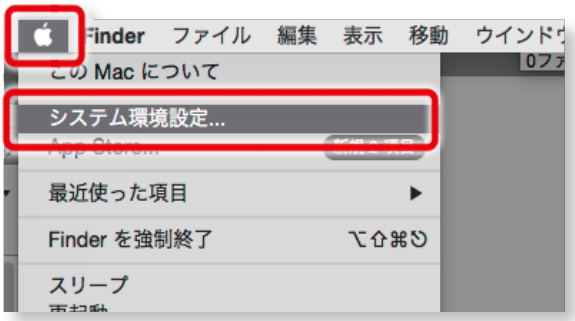
表示されるウィンドウの「続ける」ボタンをクリックしてインストールを実行してください。



その他の操作：セキュリティ設定を開く

手順 1　「システム環境設定」を開く

「アップル」メニューから「システム環境設定」を開きます。



手順2　「セキュリティーとプライバシー」をクリックします

手順3　「このまま開く」ボタンをクリックします

「このまま開く」ボタンをクリックするとインストールが出来るようになります。。

macOS Sierra 以後の場合

バージョン：10.12 以降

macOS Sierra 以降は、この操作方法になります。

※現行バージョンは下記には対応しておりません。

OS X El Capitan 以前の場合

バージョン：10.10 ～ 10.11.6

※ OS X El Capitan 以前のバージョンは、セキュリティを変更してインストールを実行する事も可能です、下記の 手順4 以下をご参照ください。

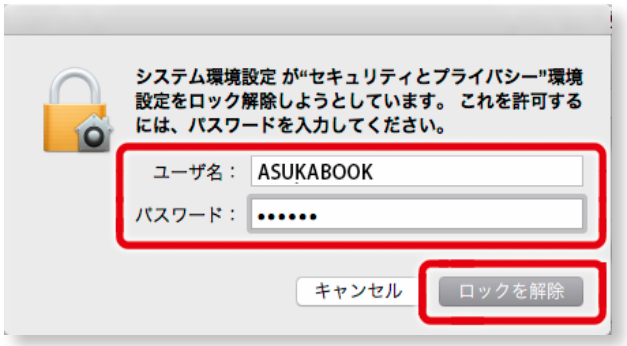
手順4　「カギ」アイコンをクリックします

「変更するにはカギをクリックします。」の カギをクリックします。

OS X El Capitan 以前の場合

手順5　ロックを解除します

ユーザー名とパスワードを入力して「ロック解除」ボタンをクリックします。



手順6　アプリケーションを許可します

「すべてのアプリケーションを許可」のラジオボタンにチェックを入れ、ダイアログの「すべてのアプリケーションを許可」をクリックします。

これで「ASUKABOOK Maker2」のインストールが出来るようになります。

※インストールが完了したら、設定を元に戻してください。

1-2.　ABM2 の概要

ABM2 は、ASUKABOOK 専用のレイアウトソフトです。
ABM2 には以下の特長があります。

- 編集パレット上に配置した画像は、移動、サイズの変更、回転、トリミング、加工が可能です。
- 画像の位置、サイズ、回転、ルーラーは 数値によって正確に配置することができます。
- 文字は、移動、書体、サイズの変更、行揃え、縦書き、カラー設定、回転などが可能です。
- レイアウトした画像をボックスとして保存することができます。
- 編集パレット上にてルーラー、ガイドの使用が可能です。
- 寸法単位の初期設定は「mm」ですが、「inch」「pixel」「%」に変更することができます。
- ABM2 は使用する画像の解像度に関わらず、表紙ページは 260dpi、本文ページは 271dpi の印刷解像度で出力されます。
- ABM2 で使用できる画像形式は「jpg」、「png」となります。

1-3.　商品ラインナップ

ABM2 にて作成可能な商品は、一部商品を除く ASUKABOOK シリーズの全商品です。
詳しくは、アスカブックのホームページの「商品一覧」をご覧ください。
http://asukabook.jp/products/index.html

1-4.　動作環境

	macOS	Windows
OS	macOS Big Sur(11.0.1) macOS Catalina (10.15) macOS Mojave (10.14)	Windows 10 (32bit、64bit) Windows 8 /8.1(32bit、64bit)
CPU	Intel Core i5/i7 以上（推奨）	Intel Core i5/i7 以上（推奨）
ハードディスク	40GB 以上の空き容量（推奨） PC 内蔵ディスクを推奨（外部メディア・ネットワークドライブは推奨しません。）	
メモリー	8GB 以上（推奨）	
モニタ	1600 × 1200　High Color 以上（推奨） マルチモニターには対応していません。	
	※ macOS をダークモードでご使用の場合、 ASUKABOOK Maker2 は通常モードで動作します。	

1-5.　ABM2 で扱える画像ファイル形式

画像ファイル形式	**「JPEG」と「PNG」**
	●バージョン 2.2 からは、Adobe Photoshop® の保存形式である「PSD」形式が利用できるようになりました。 ただし、PSD 形式は Adobe Photoshop® のバージョンによっても仕様が異なり、数多くの機能が含まれているため、その全ての機能を利用できる訳ではありません。
カラーモード	**「RGB」モード** ※「CMYK」モード、および「グレースケール」モードの画像は利用できません。
モノクロ画像	モノクロ画像を作成するために Adobe Photoshop® のグレースケールモードを使用した場合は、RGB モードに戻してから、画像を保存してください。 （グレースケールモードではカラープロファイルを埋め込むことができません。RGB モードに戻しても、見た目のモノクロ階調は保たれます。）

PSD 形式の読み込みについての詳細は、本書の「16-4-2.　色調の調整範囲」16-9 ページをご覧ください。

PNG 画像の制作方法については、2-51 ページの「透明色を含む PNG ファイルの作り方」をご覧ください。

■参考資料

JPEG	ジェイペグ　／ Joint Photographic Experts Group の略称　／　拡張子は「.jpg」 ISO（国際標準化機構）と CCITT（国際電信電話諮問委員会）によって提唱された画像データ圧縮のため、国際統一基準の圧縮画像データ形式です。画像容量を非常に高く圧縮できる（オリジナルデータ容量の 1/10 ～ 1/50）のが特徴です。 デジタルカメラ等ではある決められた記憶容量の記憶装置（メモリーカード等）を有効に活用するため、JPEG 形式を用いることが一般的になっています。ただし「非可逆圧縮」であるため、何度も再保存を繰り返すとディテールの乱れ、色の滲みなどが発生する場合があるので注意が必要です。できるだけ良質の画質を得るため、Adobe Photoshop® で再加工する場合は、JPEG 保存時に「最低圧縮率（高画質）」を選択してください。カラープロファイルを埋め込むことができるため、写真画像に利用する場合にはプロファイルを必ず埋め込んでください。
PNG	ピーエヌジー　／　ピング　／　Portable Network Graphics の略称　／　拡張子は「 png」 PNG フォーマットは 1995 年から開発が始められ、現在では ISO（国際標準化機構）規格になっています。 PNG は「可逆圧縮」であり、再保存による画像劣化が発生しないことが特徴ですが、圧縮アルゴリズムの関係から、写真よりもロゴや線画など色の境界がはっきりした画像に適しています。 PNG の大きな特徴として、透明色を設定できることが上げられます。ロゴやトリムを PNG で作成して背景を透明に指定しておくと、写真の上にロゴを重ねるなどの使い方ができます。

1-6.　ABM2 で扱えるフォントのタイプ

ABM2 で利用できるフォントの種類は、Windows 版・macOS 版共に「True Type」と「Open Type」 両タイプがご利用できます。実際に利用できるフォントについては、ABM の「フォント選択」欄に表示されますので、新しいフォントをインストールした場合などは、前もってご確認ください。

インストールされているフォントの確認方法

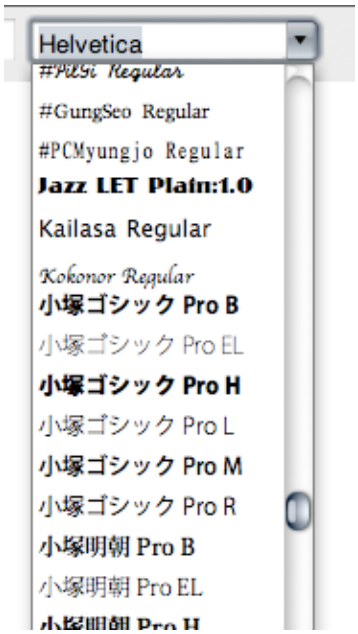
手順 1　「文字入力」アイコンをクリック

「ツールバー」の「文字入力」アイコンをクリックしてください。

手順 2　ヘッダー領域の「フォント選択」欄をクリック

ヘッダー領域が「文字入力」モードに変化しますので、「フォント選択」欄をクリックしてください。
お使いのコンピュータにインストールされているフォントの一覧が表示されます。利用できるフォントはここに表示されているものになります。

macOSの場合



Windowsの場合

1-7.　バージョンアップについて

1-7-1.　ABM2 のバージョン確認方法

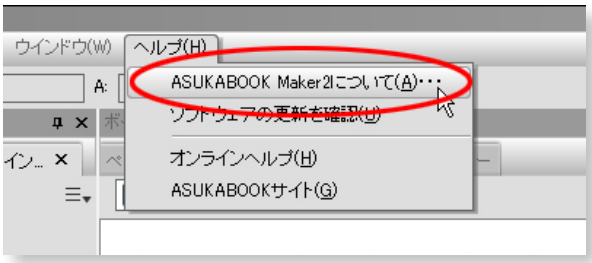
macOSの場合

ABM2 のメインメニュー「ASUKABOOK Maker 2」から「ASUKABOOK Maker2 について・・・」をクリックしてください。

「ASUKABOOK Maker2 について」のダイアログに表示されている「Version ～」が現在お使い頂いているバージョンになります。

Windowsの場合

ABM2 のメインメニュー「ヘルプ」から「ASUKABOOK Maker2 について・・・」をクリックしてください。



「バージョン情報 ASUKABOOK Maker2」のダイアログに表示されている「Version ～」がお使い頂いているバージョンになります。

1-7-2.　ソフトウェア更新の確認方法　（バージョンアップの確認）

ABM2 では、新機能追加、不具合の解消のための小まめなバージョンアップを行っています。
バージョンアップのファイル配布はオンライン（インターネットを通して）で行いますので、お使いのコンピュータをインターネット回線に常時接続しておくことをお薦めします。

macOSの場合

メインメニューの「ASUKABOOK Maker 2」から、「ソフトウェアの更新を確認」をクリックしてください。

ご利用中の ABM2 より新しいバージョンがある場合は、右図のメッセージが表示されます。

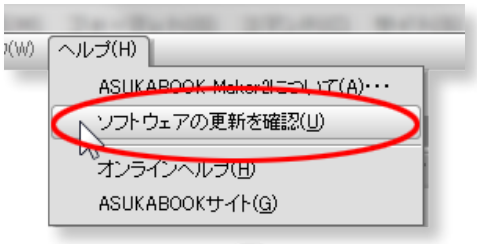
●更新を行う場合は、「更新」をクリックし、画面の指示に従って操作を続けてください。
●今すぐに更新を行わない場合は、「閉じる」をクリックしてください。

もしくは

ご利用中の ABM2 が最新のバージョンである場合は、右図のメッセージが表示されます。

Windowsの場合

ABM2 のメニューから「ヘルプ ／ ソフトウェアの更新を確認」をクリックしてください。



ご利用中の ABM2 より新しいバージョンがある場合は、右図のメッセージが表示されます。

●更新を行う場合は、「更新」をクリックし、画面の指示に従って操作を続けてください。
●今すぐに更新を行わない場合は、「閉じる」をクリックしてください。

もしくは

ご利用中の ABM2 が最新のバージョンである場合は、右図のメッセージが表示されます。

2.　新規作成 / 保存 / 保存形式

ASUKABOOK Maker2 でのブックファイルの新規作成と保存形式、既存のブックファイルを開く方法について説明します。

ご注意

過去に作成したブックファイルを新しいバージョンで開いて再保存した場合、そのブックファイルは過去のバージョンでは開くことができなくなります。上位互換となりますので、ご注意ください。

2-1.　ブックファイルの作り方

2-1-1.　ブックの新規作成

手順 1　ユーザー情報の入力

はじめて ABM2 を起動すると、右図のような「ユーザー情報の入力」というダイアログが表示されます。

各欄に「ユーザー ID」、「お名前」、「電話番号」を入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。

● この工程をスキップしたい場合には、「後で入力する」ボタンをクリックしてください。

●「ユーザー情報の入力」ダイアログは、「ユーザー ID」、「お名前」、「電話番号」を入力すると、次回の起動時には表示されなくなります。

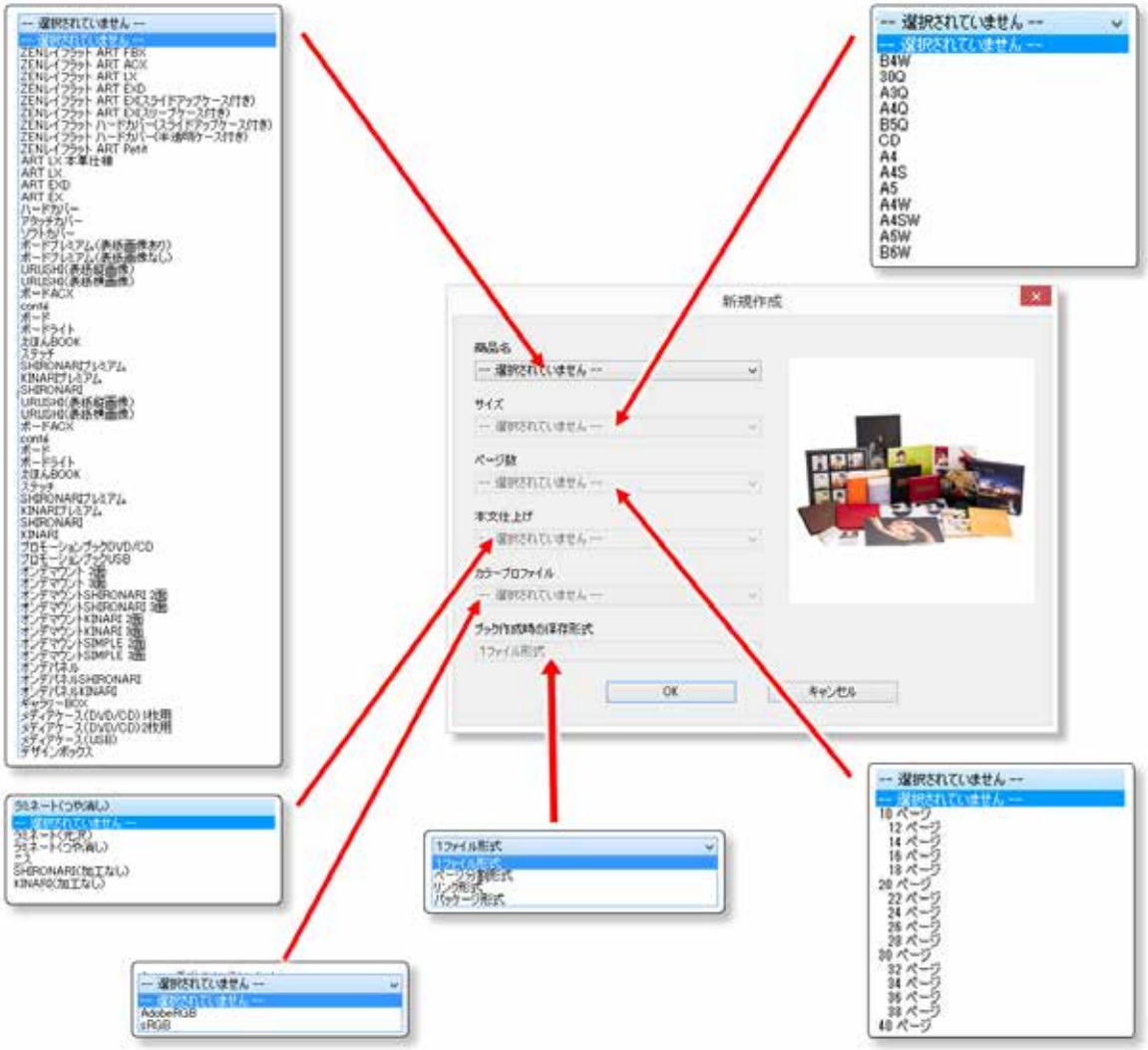
ユーザー情報の入力については、本書の「3-2-1.　環境設定」3-2 ページをご参照ください。

手順 2　「新規作成」をクリック

右図の「ASUKABOOK Maker2」ダイアログが表示されますので、「新規作成」をクリックしてください。

手順 3　ASUKABOOK の仕様を選択

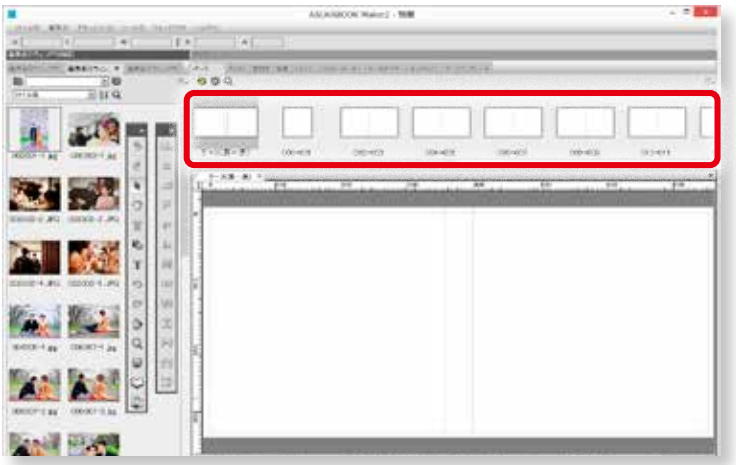
「新規作成」ダイアログが表示されますので、これから作成する ASUKABOOK の商品名、サイズ、ページ数、本文仕上げ、カラープロファイル、保存形式を各欄から選択してください。すべての欄を選択したら「OK」をクリックしてください。



ASUKABOOK の種類に関しては、アスカブックのホームページの「商品一覧」をご参照ください。

カラープロファイルの選択に関しては、本書の
「【解説】　カラープロファイルについて」2-42 ページをご参照ください。

ABM2 に表紙、本文ページ、ケースなど、必要なページが白紙の状態で用意されます。
この状態からレイアウト編集を開始します。



● ABM2 では同時に複数のブックファイルを開くことはできません。すでにブックファイルが開かれている場合は、開いているブックファイルを閉じてから、新規作成または別のブックファイルを開いてください。

ブックファイルを閉じる方法については、本書の 2-41 ページの「2-9.　ブックファイルを閉じる」をご参照ください。

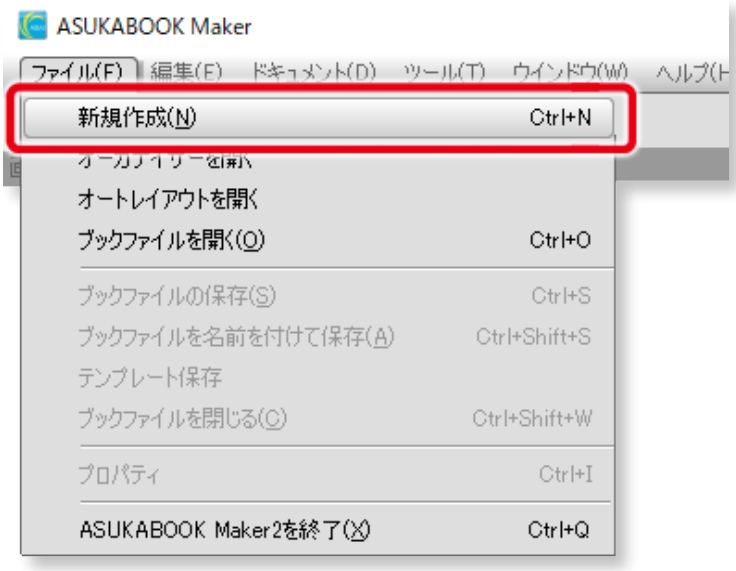
2-1-2.　お気に入りブックの登録

よく作成するブックをお気に入りとして登録しておけば、次回から同じブックをすぐに利用することができます。

手順 1　「新規作成」をクリック

「ASUKABOOK Maker2」を起動すると右図の「ASUKABOOK Maker2」ダイアログが表示されますので、「新規作成」をクリックしてください。

もしくは、「ファイル」メニューから「新規作成」をクリックします。



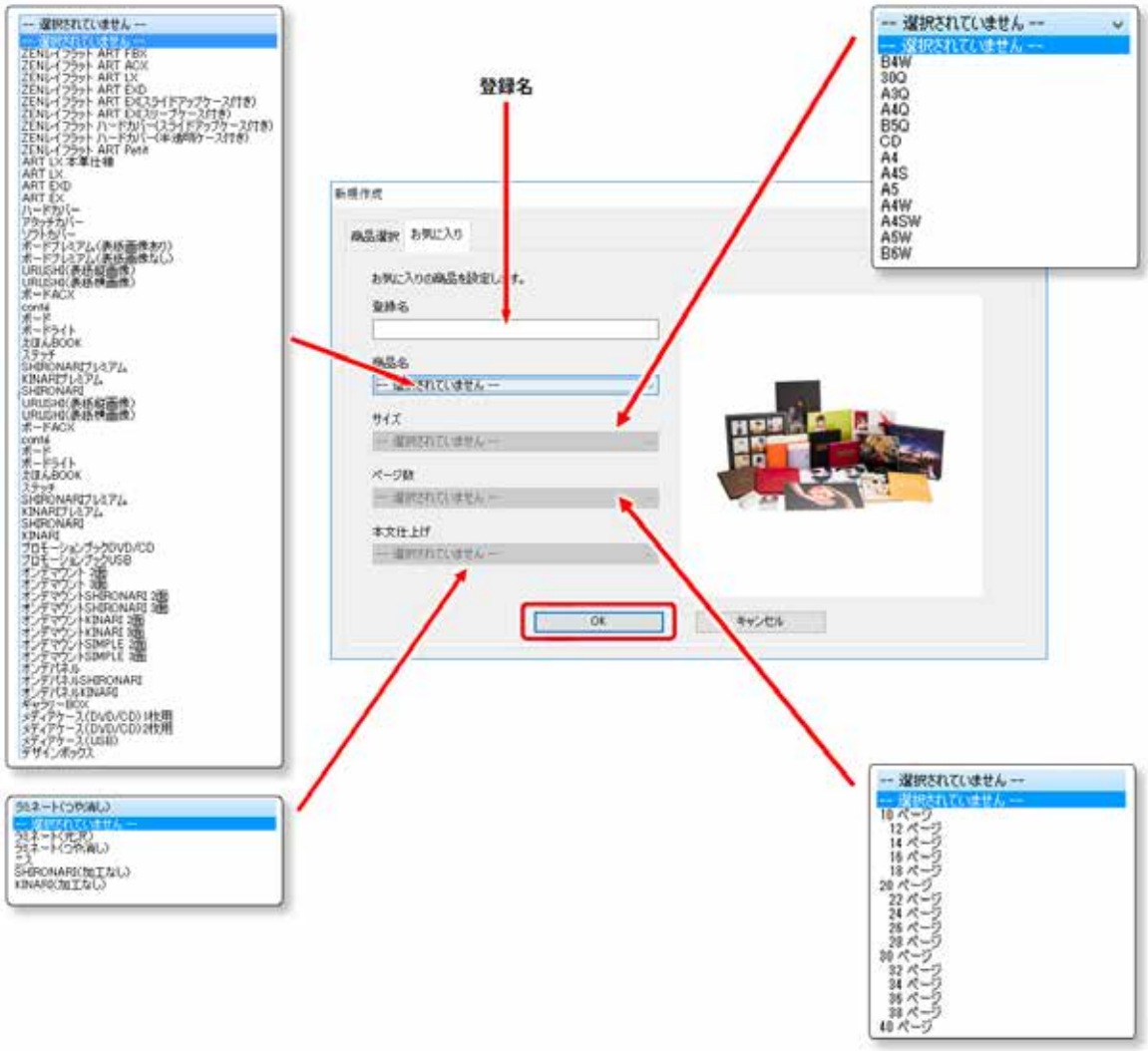
手順 2　「お気に入り」の登録

①「お気に入り」タブをクリックします。

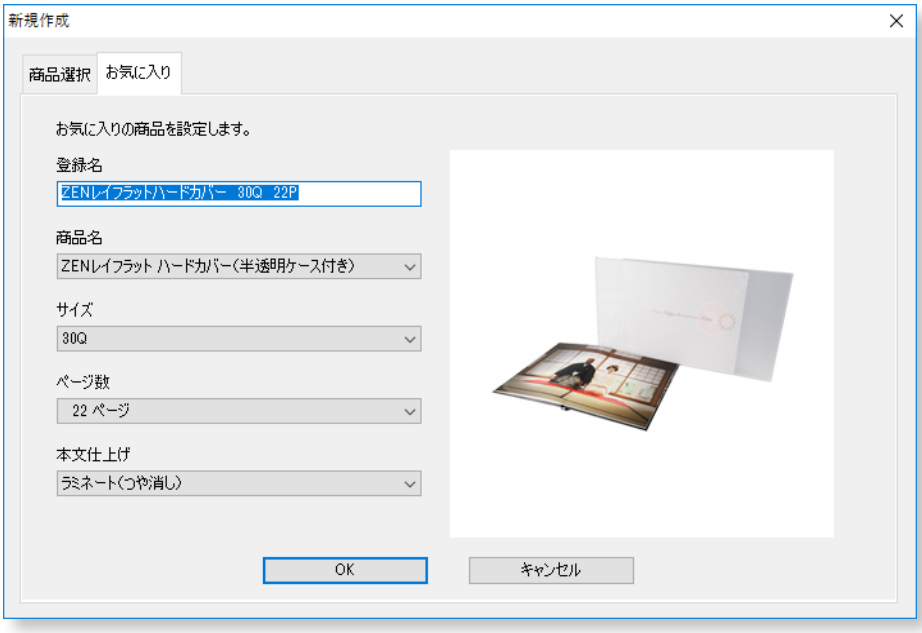
②「新規お気に入りを登録」をクリックします。

手順3 ASUKABOOK の仕様を選択

「新規作成」ダイアログが表示されますので、お気に入りに登録する登録名、ASUKABOOK の商品名、サイズ、ページ数、本文仕上げを各欄から選択してください。すべての欄を選択したら「OK」をクリックしてください。



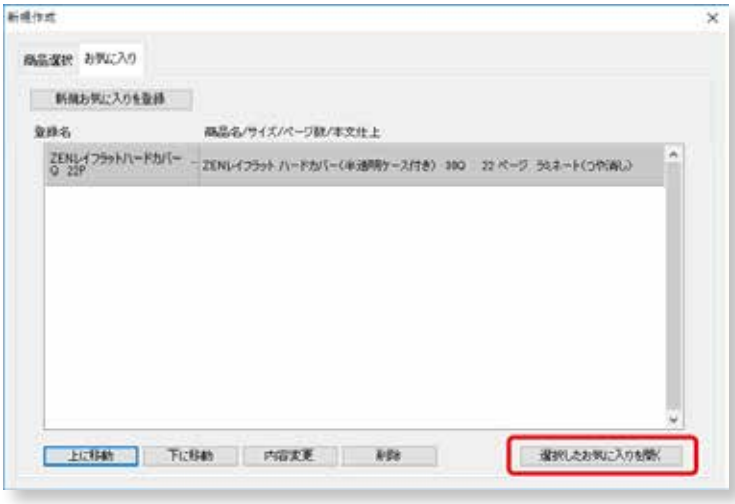
入力例



手順4　「お気に入り」に登録が完了します

お気に入りによく使うブックが登録されます。登録ブックを選択して「選択したお気に入りを開く」ボタンをクリックすると商品選択画面に移行します。

商品選択画面で、入力項目の確認と必要に応じて変更し、「OK」ボタンをクリックすれば、レイアウト画面に移行します。



2-1-3.　お気に入りブックの変更と削除

お気に入りに登録したブックの順番を変更することができます。

「上に移動」ボタン：

登録してあるブックを選択して「上に移動」ボタンをクリックすると上に順番が移動します。

「下に移動」ボタン：

登録してあるブックを選択して「下に移動」ボタンをクリックすると下に順番が移動します。

「内容変更」ボタン：

ブックの内容を修正できます。

「削除」ボタン：

お気に入りに登録したブックを削除します。

2-2.　ブックファイルの保存

手順 1　「ブックファイルの保存」をクリック

ブックファイルを作成しても、保存しない限り、ブックファイルは消えてしまいます。

ブックファイルを保存するには、メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルの保存」をクリックしてください。 保存形式は、「1 ファイル形式」、「ページ分割形式」、「パッケージ形式」、「リンク形式」の 4 つをご用意しています。

ファイルの保存形式の設定に関しましては、2-46 ページの「④ 保存ファイル形式の設定方法」をご参照ください。

保存形式は、2-43 ページの「【解説】 保存ファイル形式について」をご参照ください。

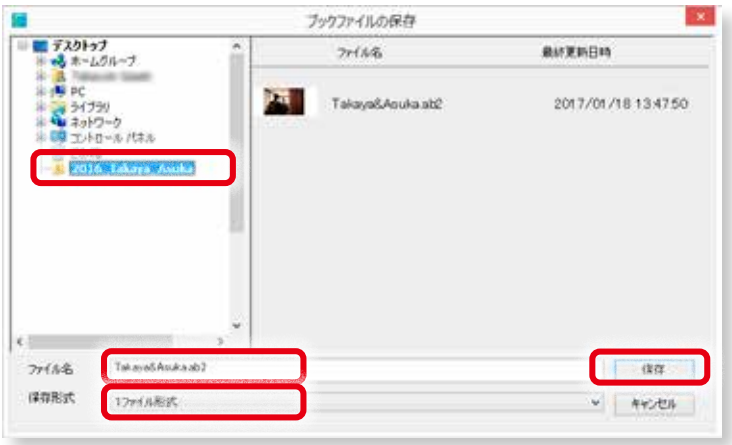
手順 2　ファイル名を入力

①「ファイル名」欄にファイル名を目的に沿うように書き換えてください。

②「保存形式」欄には「1 ファイル形式」と表示されていますので、必要に応じて保存形式を選択してください。

特に保存形式を意識しない場合は、初期設定である「1 ファイル形式」をご利用ください。

③ファイル名と保存形式を設定したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

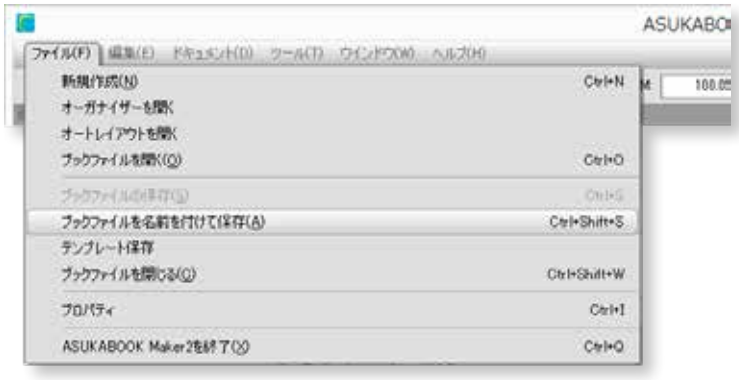


保存形式は、2-43 ページの「【解説】 保存ファイル形式について」をご参照ください。

2-3.　一度作成したブックファイルを別名で保存する

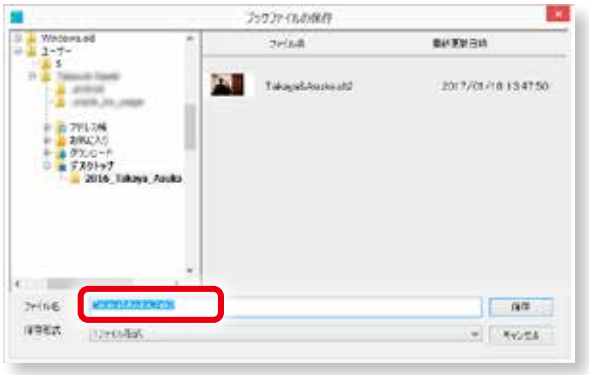
手順 1　「ブックファイルを名前を付けて保存」をクリック

ABM2 メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを名前を付けて保存」をクリックします。



手順 2　ファイル名を書き換えて保存

「ファイル」名欄に現在のファイル名が表示されますので、ファイル名を書き換えてから、「保存」ボタンをクリックしてください。



2-4.　ページ分割形式の活用

ページ分割形式とは、ページごとに分割してデータを保存する形式です。ページごとに分割して保存するため、他の保存形式のようにすべてのページを開いて編集する必要がありません。ページ分割形式は、編集したい任意のページのみを開いて編集できますので、軽快に操作が可能です。また、何らかの理由でパソコンがクラッシュしたり、正常に保存できなかった場合でも、最後に正常に保存を行ったまでのページファイルは影響を受けませんのでデータの保全性に優れています。また、ページ単位で編集し、保存することで、保存処理時間が大幅に短縮できます。

保存形式の設定方法は、2-9 ページの「2-4-1.　ページ分割形式の設定と保存」をご参照ください。

ページ分割形式は、ブック管理ファイルとページファイルの 2 種類が保存されます。

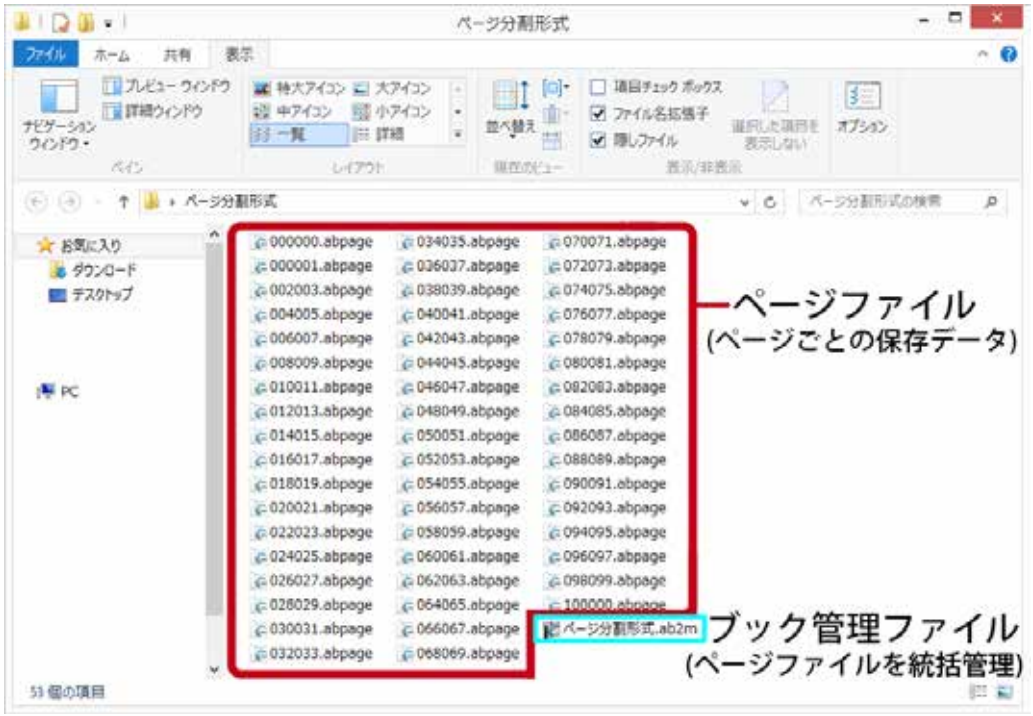
ブック管理ファイル

ページファイルを統括管理している保存データ。必ずこのデータからページファイルを開きます

ページファイル

1 ページごとに保存されているデータです。**直接開くことはできません**。ブック管理ファイルから利用します

ブック管理ファイルがページファイルを統括しています。



2-4-1.　ページ分割形式の設定と保存

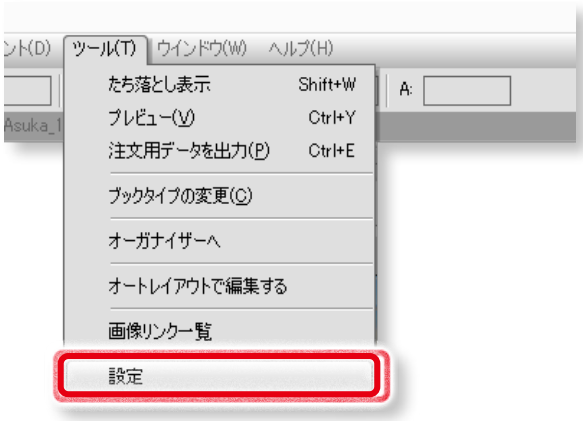
「ページ分割形式」を使用するための設定をご説明いたします。

手順 1　「保存形式」の設定

新規作成時に保存形式を設定するか、ABM2 メインメニューの「ツール」から「設定」をクリックしてください。

※ mac OS の場合は、ABM2 の環境設定をクリックしてください。

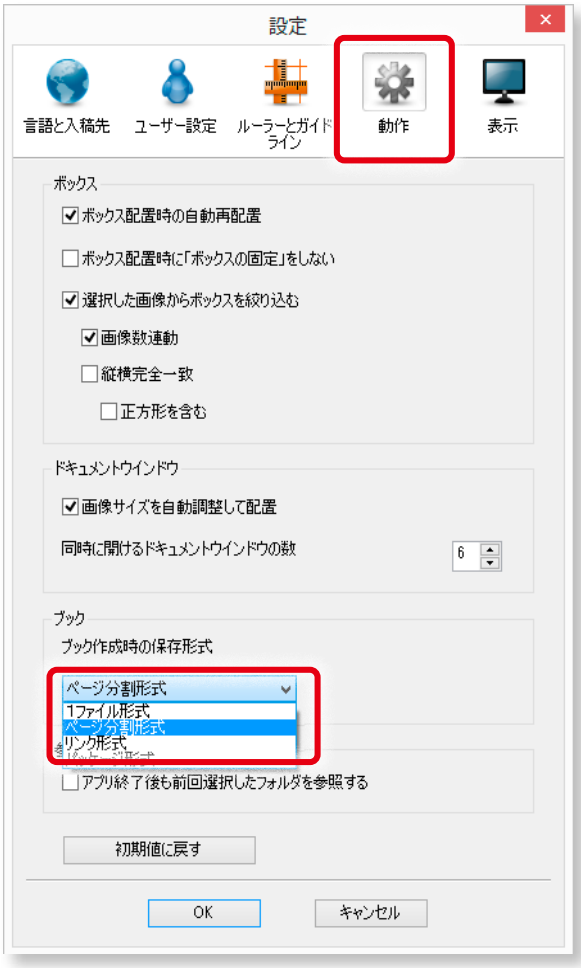
もしくは、新規作成時の設定画面で設定できます。



手順 2　ブック作成時の保存形式

設定画面で「動作」をクリックし、「ブック作成時の保存形式」のプルダウンメニューから今回は、「ページ分割形式」を選択します。保存形式に「ページ分割形式」を反映させるため、ABM2 を再起動してください。再起動後にページ分割形式での保存ができるようになります。

保存形式に関しましては、2-43 ページの「【解説】　保存ファイル形式について」をご参照ください。

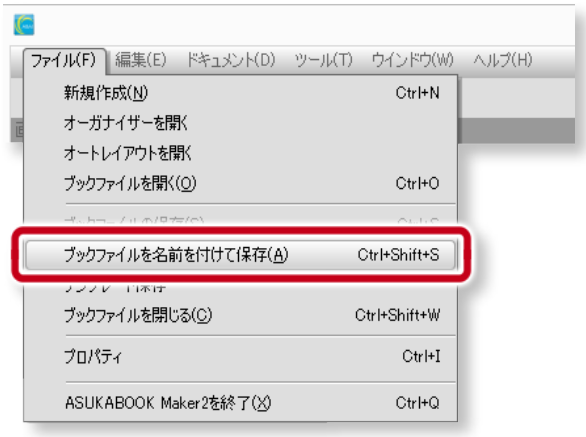


2-4-2.　ページ分割形式での保存

「ページ分割形式」での保存を行います。

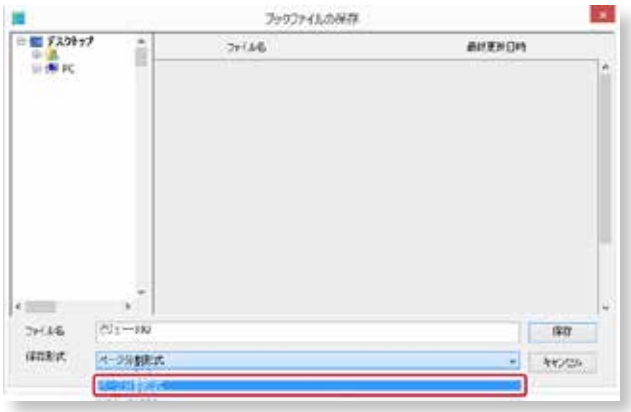
手順 1　「ブックファイルを名前を付けて保存」

ブックを作成したら ABM2 メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを名前を付けて保存」をクリックします。



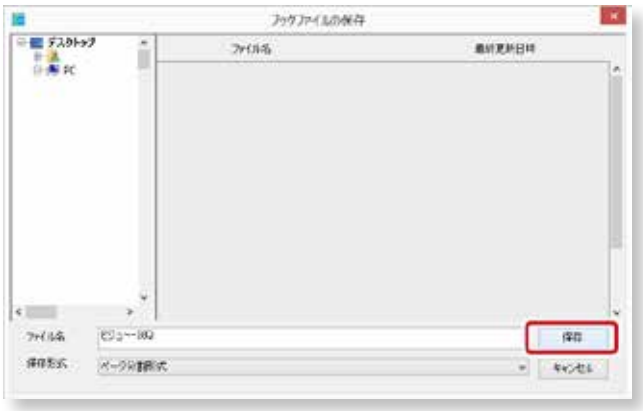
手順 2　保存形式の設定

保存形式に「ページ分割形式」を選択します。



手順 3　「保存」する

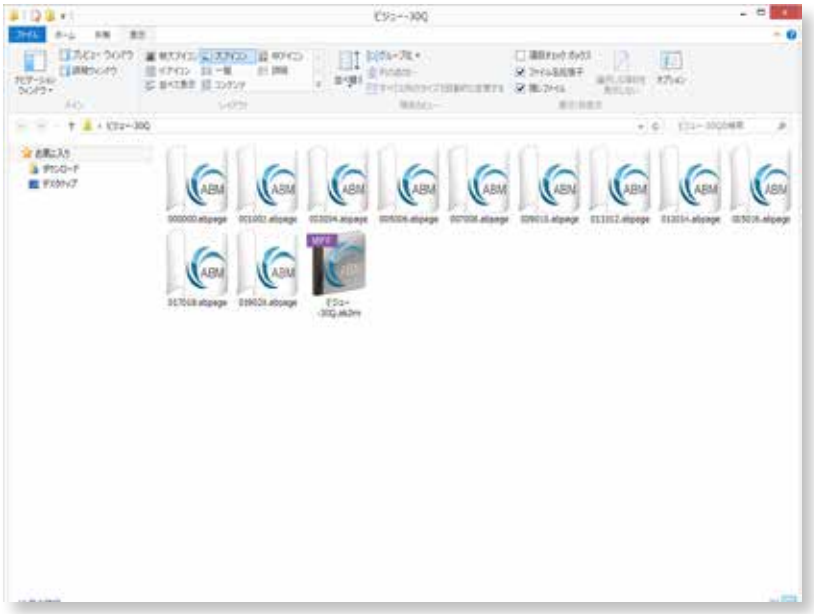
保存場所にデスクトップを選択し、ファイルの名称を付けて「保存」ボタンをクリックします。



手順 4　ページ分割形式で保存されます

右図のようにブック管理ファイルと各ページのページファイルごとに保存されます。

右図は 20 ページのブックデータです。



ブック管理ファイル

ページファイルを統括管理している保存データ。必ずこのデータをからページファイルを開きます、拡張子は、「.ab2m」になります。

ページファイル

1 ページごとに保存されているデータです。直接開くことはできません。ブック管理ファイルから利用します。拡張子は、「.abpage」になります。

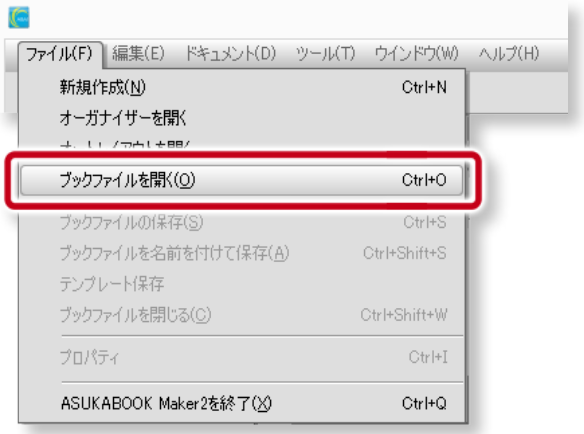
2-4-3.　ページ分割形式を開く

ページ分割形式で保存したデータを開く場合をご説明します。

手順 1　ページ分割形式で保存したデータを開きます

ABM2 を起動した場合は、右図の「ブックファイルを開く」をクリックします。

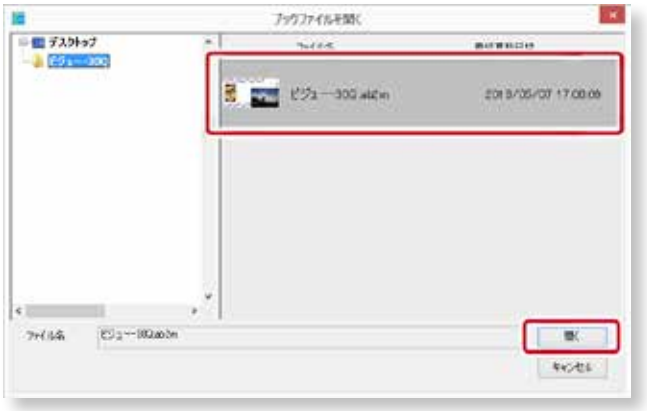
ABM2 がすでに起動している場合は、メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを開く」をクリックします。



手順2 保存したデータを選択します

ご注意 で保存したデータを選択し「開く」ボタンをクリックします。

ページ分割形式の拡張子は、「.ab2m」になります。



手順3 開き方を選択する

右図のように「すべてのページを開く」と「一部のページを開く」の選択画面がでますので、ここでは「一部のページを開く」をクリックします。

※全てのページを開きたい場合は、「すべてのページを開く」を選択してください。

※ブック変換機能や保存形式を変更する場合は、「すべてのページを開く」を選択してすべてのページを開いて作業してください。

手順4 開きたいページを選択する

右図のように「開くページの選択」パネルが開きます。

Windowsの場合

ctrl キーを押しながらページの上でクリックすると 1 ページずつ複数ページを選択できます。

shift キーを押しながらクリックすると最初にクリックしたページから次にクリックしたページまでの範囲にあるページを選択できます。

マウスのドラッグ&ドロップでも選択できます。

macOSの場合

command キーを押しながらページの上でクリックすると複数ページを選択できます。

shift キーを押しながらクリックすると最初にクリックしたページから次にクリックしたページまでの範囲あるにページを選択できます。

マウスのドラッグ&ドロップでも選択できます。

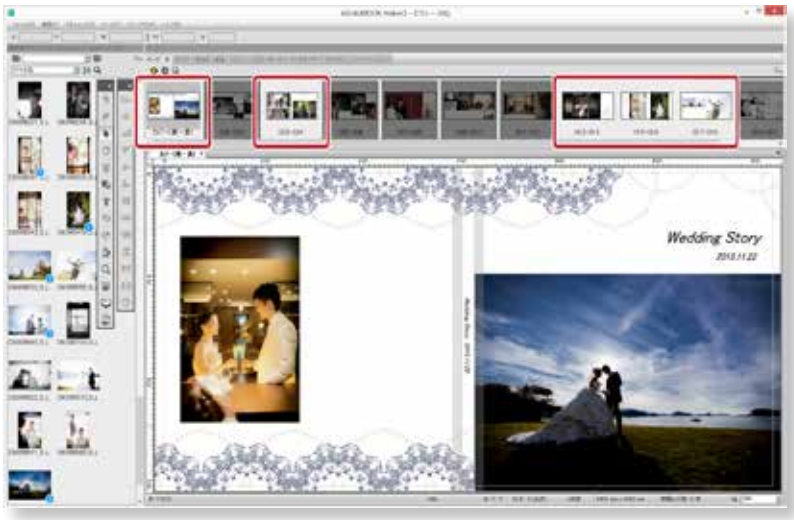
手順5 開きたいページを開く

開きたいページを選択したら「OK」ボタンをクリックします。

手順6 選択したページだけ開きます

選択したページだけ開きます。グレイアウトしているページは、開いていないページです。

※編集したいページのみ開きますので、全ページを開いて操作するより動作が軽快になります。また、何らかの問題が発生し、保存に失敗した場合、開いていなかったページデータは破損しませんので、データの喪失が最低限で済みます。



手順7 ページファイルを追加して開く

グレイアウトしているページをダブルクリックするとページファイルを追加して開くことができます。

2-5.　リンク形式の活用

リンク形式とは、フォルダにある画像を ABM2 のレイアウトページにリンクさせて表示する機能です。リンクされているため ABM2 の保存データには、画像データ自体は内包しません。ABM2 のページレイアウトデータと外部の画像データのリンク (パス) 情報を持っているだけです。そのため ABM2 のページレイアウトデータにリンクしている元の画像データを修正すると、即座に修正した画像に変更されます。画像のレタッチを Adobe Photoshop® 等で行い、レイアウトおよびデザインを ABM2 で行うといったことがより簡単になります。ABM2 の保存データ内に画像を含めて保存する必要が無いため非常にデータが軽く、操作も軽快に行えます。画像フォルダや画像データを移動しても、ファイルを指定すれば自動で再リンクする機能も追加されました。リンク形式は、最初に保存形式をリンク形式に設定しておく必要があります。

保存形式の設定方法は、2-15 ページの「2-5-1.　リンク形式の設定と保存」をご参照ください。

ABM2 上に写真フォルダの写真をリンク (参照) して表示しています。

フォルダ内の写真を Adobe Photoshop® 等で修正すると、ページレイアウト上に即座に修正した写真が反映されます。

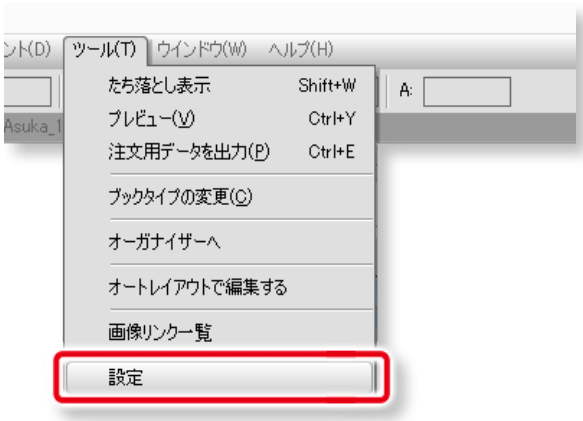
2-5-1.　リンク形式の設定と保存

「リンク形式」を使用するには、最初から「リンク形式」での保存を選択しておく必要があります。途中からリンク形式への変更はできませんので、ご注意ください。

手順 1　「保存形式」の設定

新規作成時に保存形式を設定するか、ABM2 メインメニューの「ツール」から「設定」をクリックしてください。

※ Mac OS の場合は、ABM2 の環境設定をクリックしてください。



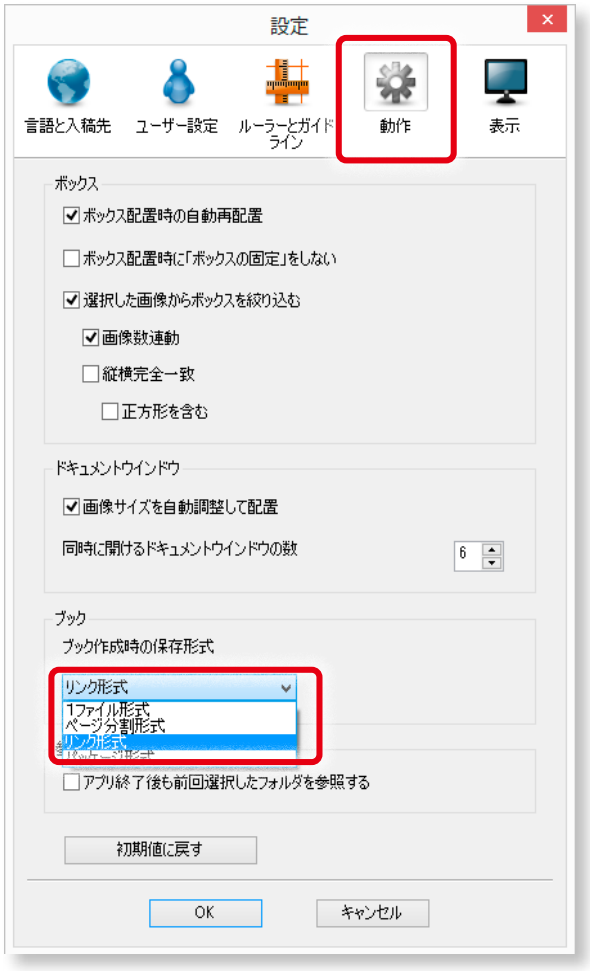
もしくは、新規作成時の設定画面で設定できます。

手順 2　ブック作成時の保存形式

設定画面で「動作」をクリックし、「ブック作成時の保存形式」のプルダウンメニューから今回は、「リンク形式」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

ブック新規作成時に「ブック作成時の保存形式」がデフォルトで「リンク形式」になります。

※ただし、保存時に他の保存形式を選択して保存するとその保存形式がデフォルトとなりますのでご注意ください。

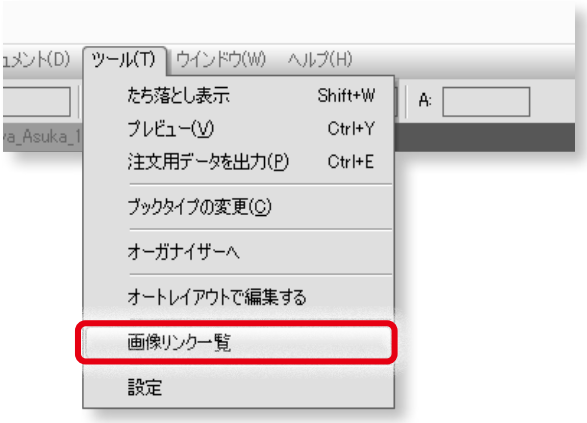


2-5-2.　画像リンク一覧

「画像リンク一覧」は、「ツール」メニューから「画像リンク一覧」を選択してください。

手順 1　「画像リンク一覧」パネル

ABM2 メインメニューの「ツール」から「画像リンク一覧」をクリックします。



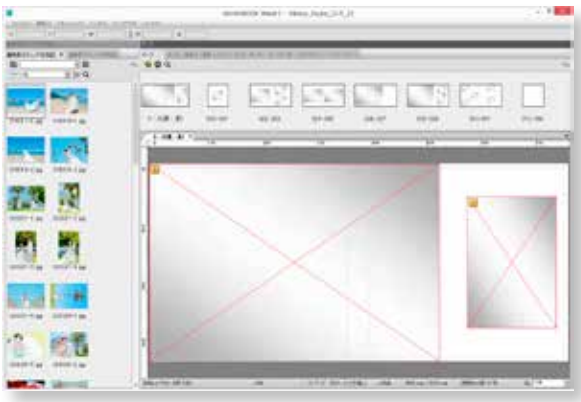
手順 2　リンク状況の確認

「画像リンク一覧」パネルが開きます。画像のリンク状況を確認することができます。リンクが外れている場合は、このパネルから再リンクを行う事ができます。

再リンクの方法は、2-16 ページの「2-4-3.　リンク切れが発生した際の再リンク」をご参照ください。

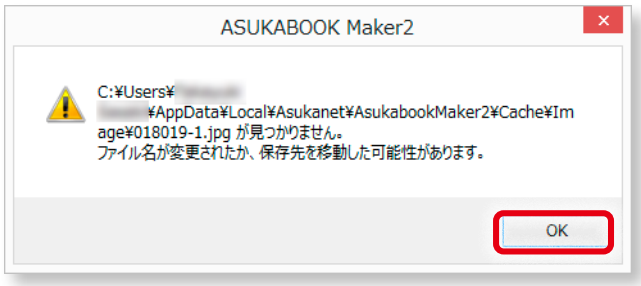
2-4-3.　リンク切れが発生した際の再リンク

リンクされている画像のリンクが外れると、ボックスがグレーになり「×」が表示されます。



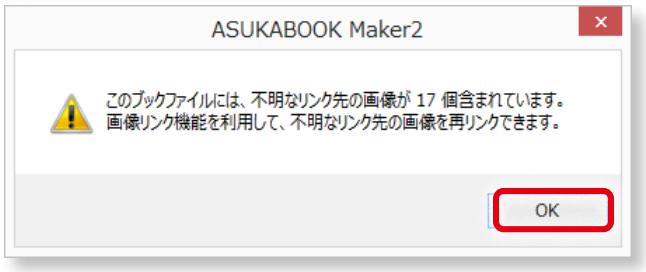
手順 1　リンク切れ警告

リンクが切れていると、「・・・・(ファイル名) が見つかりません。ファイル名が変更されたか保存先を移動した可能性があります」という警告が出ますので「OK」ボタンをクリックしてください。



手順 2　リンク状況の確認

「このブックファイルには、不明なリンク先の画像が XX 個含まれています・・・・」というメッセージが出ますので「OK」ボタンをクリックします。



手順 3　「画像リンク一覧」パネル

「画像リンク一覧」パネルが開きます。リンク切れをしていると赤色で表示されます。

任意に開きたい場合や表示されない場合は、2-16 ページの「2-5-2.　画像リンク一覧」から「画像リンク一覧」パネルを開いてください。

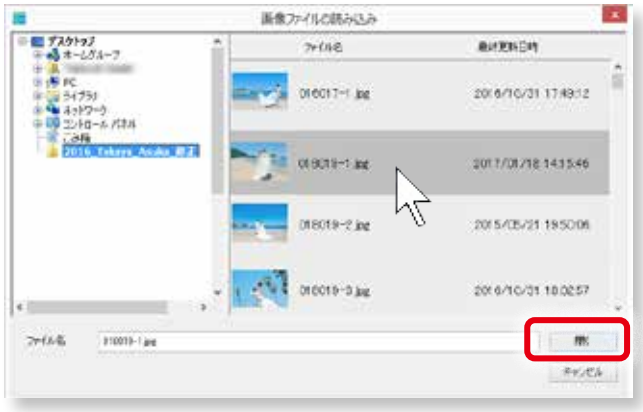
手順4 再リンクする

赤色でリンク切れ表示されているファイル名をダブルクリックしてください。

手順5 画像を選択して再リンクする

再リンクしたいファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

※リンクしたい画像データの場所が不明の場合は、OS の検索機能等を利用して探し出してください。

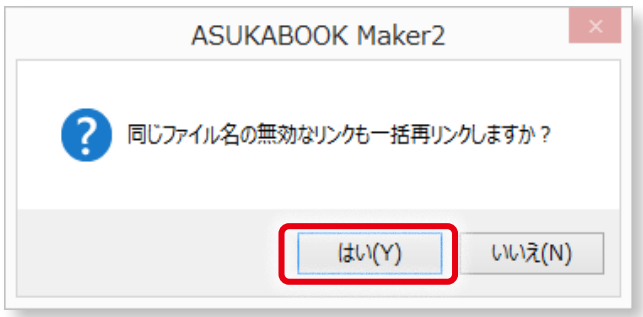


手順6 一括でリンクを再更新する

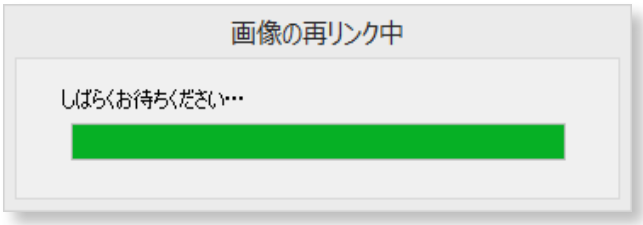
再リンクする画像データが複数ある場合は、右図のように「同じファイル名の無効なリンクも一括更新しますか?」という表示が出ます。

同じフォルダ内に同じファイル名であれば、「はい」をクリックすると一括でリンクが更新されます。

※ファイル名が変更されている場合は、一括リンク更新はされません。ファイル名を変更した画像データを個々に再リンクしてください。

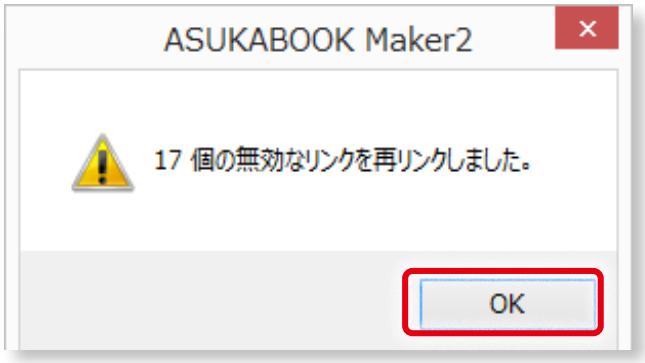


再リンクを開始します。



手順 7　リンクが再更新される

再リンクの結果が表示されます。「OK」ボタンをクリックすると「画像リンク一覧」パネルが、再び表示されますので、他にリンク切れの画像データが無いか確認してください。



すべての再リンクを確認したら「閉じる」をクリックしてください。

再リンクが完了しました。

2-5-4.　リンク形式の注意点

「リンク形式」は、リンクしている画像が入っているフォルダおよび画像を管理しています。画像データが、複数のフォルダにリンクされていると非常に複雑になりますので、一つのフォルダにまとめておくことをお奨めいたします。

フォルダや画像を移動したり、ファイル名を変更するとリンクがはずれます。ファイル名を変更したり、リンクしているフォルダや画像データを移動して、それらの移動場所がわからなくなりますと再リンクができなくなりますのでご注意ください。リンク先のフォルダや画像は、デスクトップ等のわかりやすい場所に置いてください。

2-6.　ブックファイルの開き方

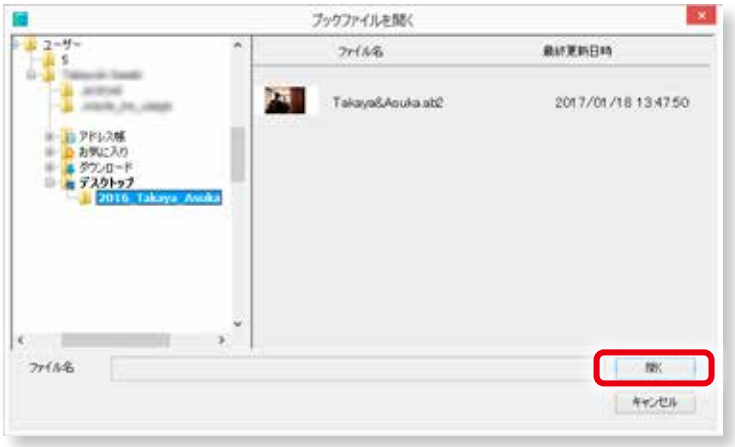
ABM2 がすでに起動している状態から、保存済みのブックファイルを開く場合

手順 1　「ブックファイルを開く」をクリック

ABM2 を起動すると右図のようなダイアログが表示されますので、「ブックファイルを開く」をクリックしてください。

手順 2　ブックファイルを選択して「開く」をクリック

「ブックファイルを開く」ダイアログが表示されますので、開きたいブックファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



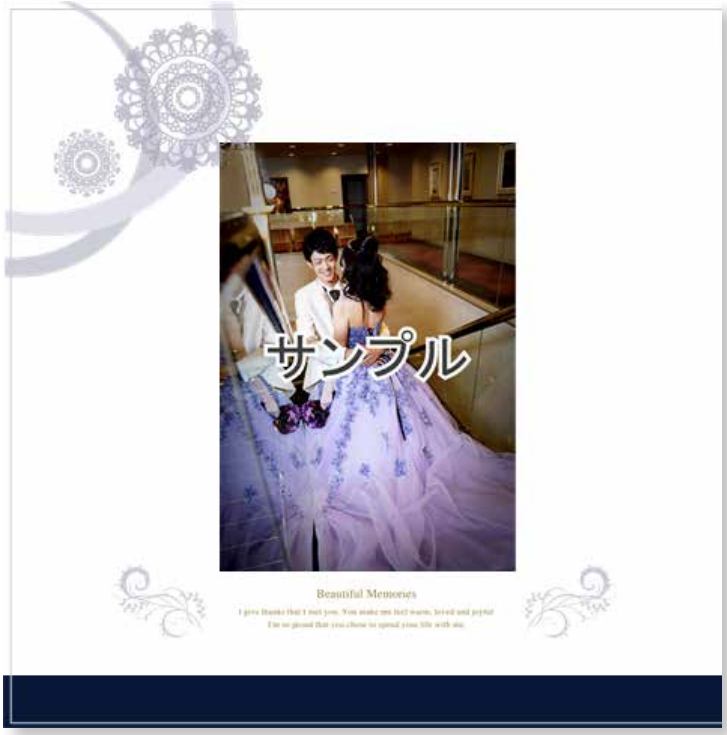
もしくは

もしくは、

ABM2 のメインメニュー「ファイル」から「ブックファイルを開く」をクリックすると、上記の「ブックファイルを開く」ダイアログが表示されますので、ブックファイルを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。

2-7.　テンプレート保存の方法

ABM2 で作成したブックデータは、そのままでもテンプレートになるように作られています。画像を入れ替えれば、同じレイアウトでありながら別の写真集を作ることができます。



解　説

ここで紹介する「テンプレート保存」という機能は、一度レイアウトしたデザインを再利用可能なデータ (テンプレート) として保存する機能です。
この機能を利用すれば、一からレイアウトすることなく同じレイアウトとデザインで写真を入れ替える作業のみで簡単かつ手早くブックを作成することが可能になります。

差し替え可能な画像には、「サンプル」等のテキストが入りますので、テンプレートの中のどの画像を差し替えれば良いかが一目で確認できます。
（右図の例では「サンプル」という文字が画像に入っています。この画像を差し替えます。）

●テンプレート保存では、元のブックファイルのコピーを作り、コピーした画像データに「サンプル」という文字をラスタライズデータとして記入します。

●テンプレート保存されたブックファイルは、拡張子が「.ab2template」となった別ファイルになります。

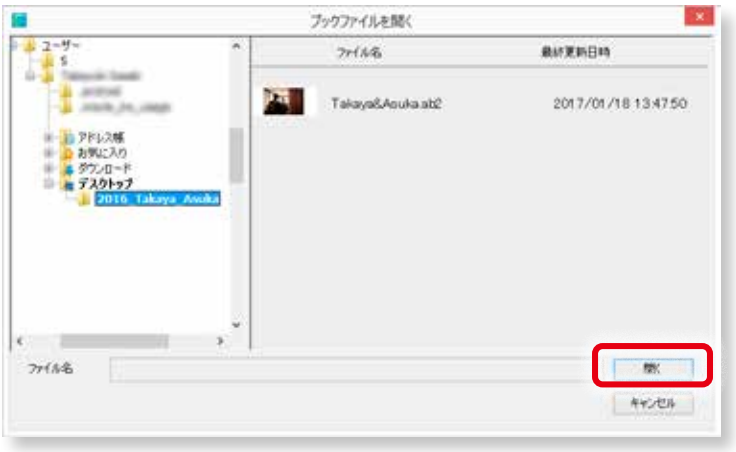
●「サンプル」という語句は、他の語句に書き換えて入力することができます。

2-7-1.　テンプレートブックファイルの作成方法

手順 1　テンプレートの元となるブックファイルを開く

メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを開く」をクリックします。

テンプレートの元としたいファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。



手順2 テンプレートの準備作業

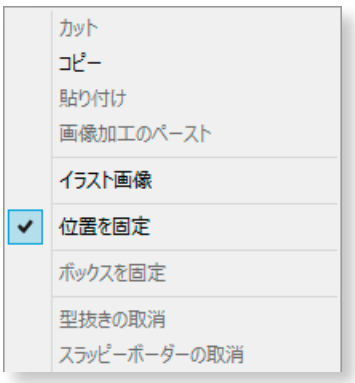
① レイアウトを整える

テンプレートにするために、デザイン変更、修正などがあれば作業して、レイアウトを整えてください。

② 固定的に利用する画像を「位置固定」を設定する

装飾的に毎回固定して利用する画像（変更しない画像）には、必ず「位置固定」の設定を行ってください。

この設定は、「サンプル」文字を記入したく無い画像を選択し、右クリックしてください。Mac OS でワンボタンマウスの場合は、「control」キーを押しながらクリックしてください。右図のサブメニューが表示されますので「位置を固定」をクリックしてください。

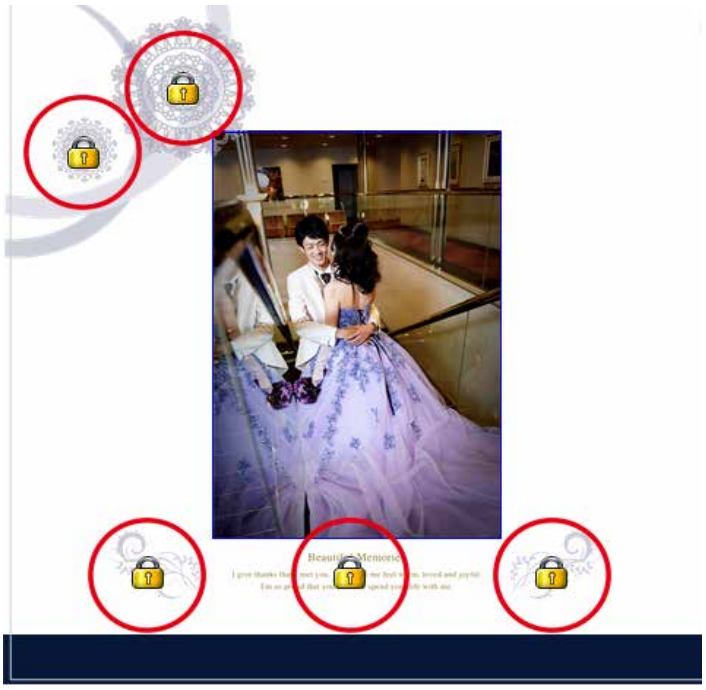


●右図は「位置固定」を設定する場合。

ご注意

「位置固定」設定を行わないと、その画像に「サンプル」文字が記入されてしまいます。

選択した画像に 「鍵マーク」が表示され、位置固定されたことを示します。
このように、「サンプル」文字を記入したく無い画像の全てに「位置固定」の設定を行ってから、「手順 3」に進んでください。



変更しない画像は、「位置固定」を設定しておきます。

テンプレート保存されたブックファイルを開くと、入れ替えを行う画像のみに「サンプル」文字が入っていることが確認できます。

入れ替え可能な、画像のみに「サンプル」の文字が入ります。

ご注意

固定する画像には、好ましくない例

固定して使いたいイラスト画像等に「位置固定」の設定をしていない場合は、右図のように差替用のサンプル画像となり「サンプル」という文字が入ってしまいます。

固定して利用したい画像も差替用の画像になります。

「位置を固定」の設定は、画像の上で右クリックしてください。Mac OS でワンボタンマウスの場合は、「control」キーを押しながらクリックしてください。

手順 3 テンプレート保存をクリック

メインメニューの「ファイル」から「テンプレート保存」をクリックします。

ファイル欄に、現在開いているブックファイルのファイル名が表示されます。

●「テキスト」欄に画像に入れたい語句を入力してください。全角、半角どちらの文字も使えます。ただし、フォントを選ぶことはできません。
初期設定では「サンプル」となっています。

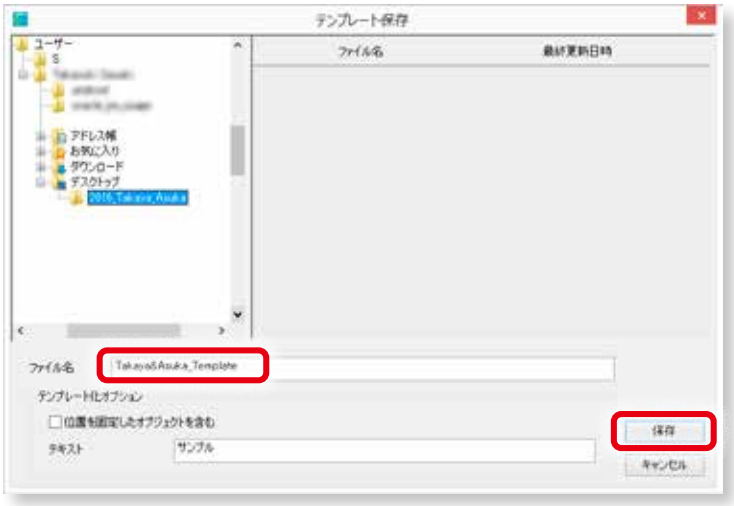
●ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力してください。

●ファイル名を変更しない場合は、そのまま「保存」ボタンをクリックしてください。

●テンプレート保存すると、拡張子が「.ab2template」となった別ファイルが生成されます。

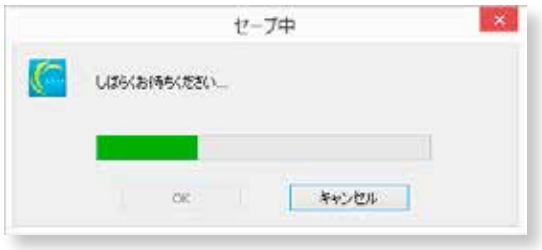
●テンプレートブックファイルは「1 ファイル形式」となります。

●「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れると、「位置を固定」でロックした画像にも文字が入ります。
初期設定は、チェックが解除されています。



手順 4　保存が完了したら「OK」をクリック

保存が終わると右図のダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。
画面は「手順 2」の状態（元ファイルを開いている状態）に戻ります。



テンプレート形式で保存したファイルは下記アイコンで表示されます

2-7-2.　テンプレートの確認方法

「ブックファイルを開く」を使って、拡張子が「.ab2template」となったブックファイルを開いてください。

この例では、画像に「サンプル」という文字が入ります。

2-8.　テンプレートの利用方法

テンプレートを利用する場合、下記の 3 つのモードをご用意しています。

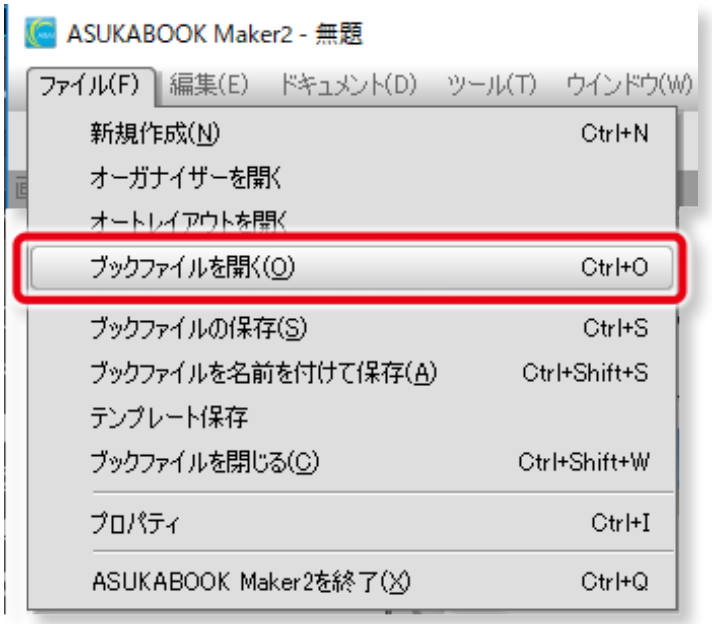
編集モード	概要	お奨め	作業
「編集画面へ進む」	画像のセレクトと割り付け、修正等を編集画面で行います。		画像を 1 枚 1 枚手動でボックスに割り付けるので、やや時間がかかる。
「オーガナイザーへ進む」	テンプレートのレイアウトに合わせページごとに写真を割り付ける事により、簡単・スピーディーに完成度の高いレイアウトができます。	レイアウトを確認しながらセレクトしたい。簡単、スピーディーに作成したい。	画像をページごとにセレクトすれば、自動で流し込まれる。レイアウトに沿った画像をセレクトできるので完成度が高い。
「オートレイアウトへ進む」	テンプレートの画像ボックスに自動的に一括で画像を流し込みます。簡単・スピーディーにレイアウトができます。	撮影した画像をテンプレートに一括して自動で流し込みたい。簡単、スピーディーに作成したい。	画像フォルダを指定すれば、一括して全ボックスに自動で流し込まれる。あらかじめ、カット数とセレクト、流し込む順番を準備しておくことにより完成度が上がる。

2-8-1.　テンプレートの利用 (編集画面へ進む)

テンプレートを編集画面上で写真を割り付けていく使用方法です。

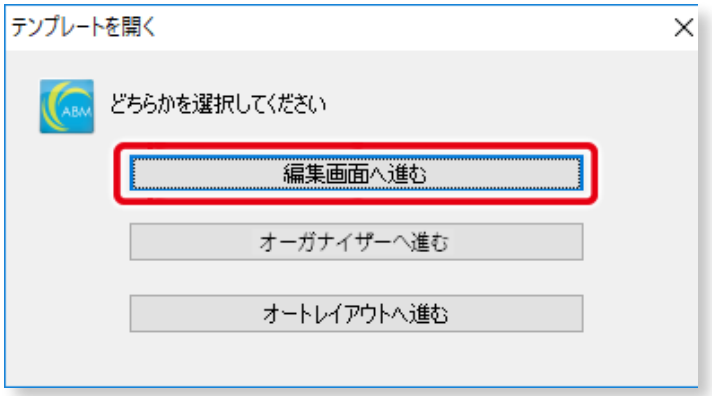
手順 1　テンプレートを開く

ファイルメニューより「ブックファイルを開く」を使って、拡張子が「.ab2template」となっているテンプレートファイルを開きます。



手順 2　「編集画面へ進む」をクリック

右のパネルが表示されますので「編集画面へ進む」をクリックします。



この例では、画像に「サンプル」という文字が入っていますので、この画像を新しい画像と差し替えていきます。

手順 3 画像表示ウインドウに画像を読み込む

画像表示ウインドウに新しい差し替え用の画像を読み込みます。

画像表示ウインドウに関しましては、5-1 ページの「5-1.　画像の読み込み」をご参照ください。

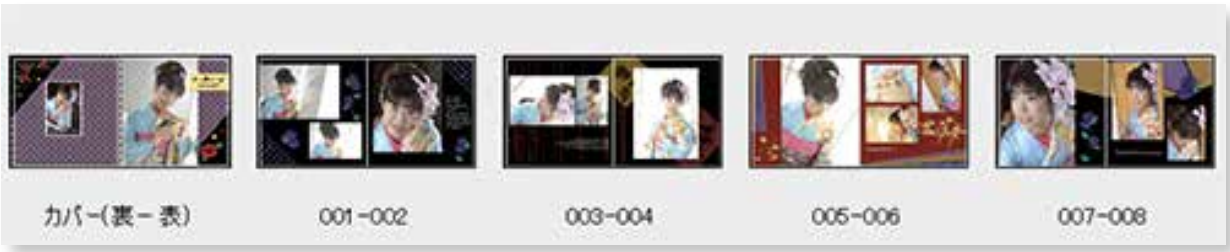
手順4 画像の入れ替え

既存の画像の上に、新規のお客さまの画像をドラッグ＆ドロップして入れ替えます。
スラッピーボーダーや型抜きなどのエフェクトも引き継ぐことができます。
すべてのページで画像の入れ替えを行います。

手順5 画像の確認

画像全てが新規のお客さまのデータになっているか確認します。

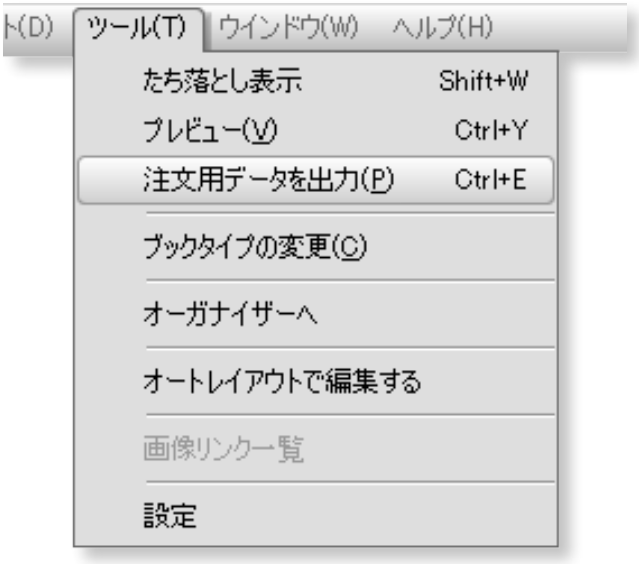
※以前入っていた画像が残らないようにご注意ください。



手順 6　注文用データの確認

注文用 PDF データを出力して、データに問題が無いか最終確認を行って入稿してください。

※画像のトリミングや配置、変更が必要なテキストなどは、特にご注意ください。



2-8-2.　テンプレートの利用 (オーガナイザーへ進む)

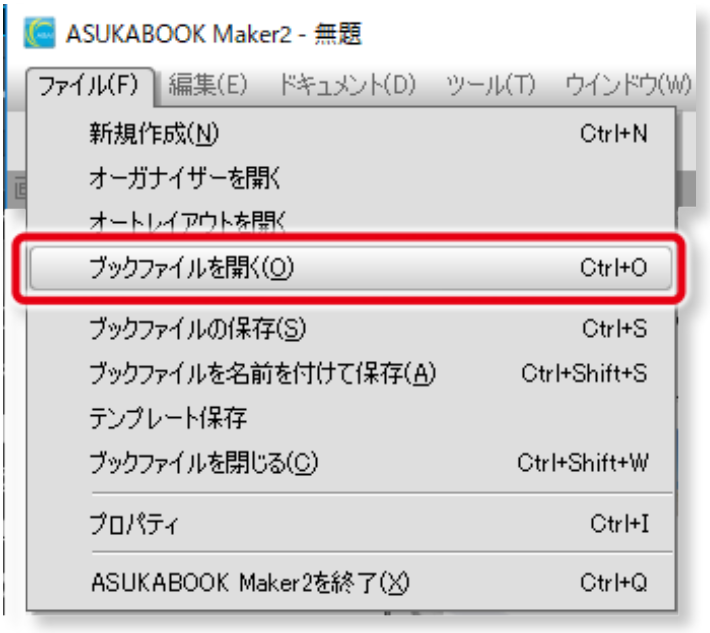
テンプレートを読み込み、画像をページごとに割り付けるオーガナイザー機能とボックスに画像を自動配置することにより、簡単に手早くレイアウトを仕上げる事ができます。各ページへの写真の割り付けが一度でできますので効率よくレイアウトが完了します。

※テンプレートをオーガナイザーで利用する場合、一度、編集画面に移行しますとオーガナイザーの機能は利用できますが、テンプレートに自動配置する機能は利用できなくなりますのでご了承ください。

詳細は、2-34 ページの「※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点」をご一読ください。

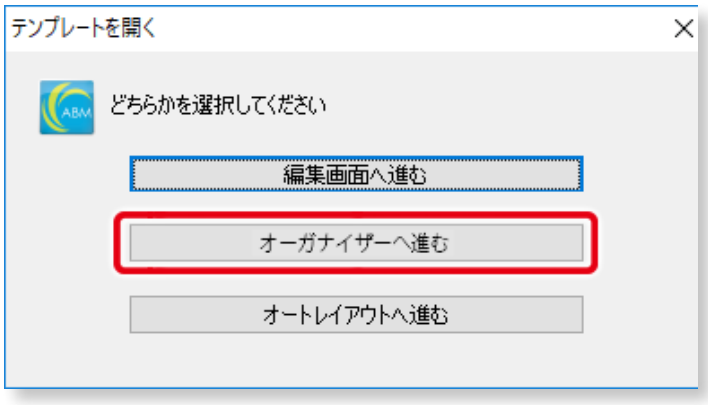
手順 1　テンプレートを開く

ファイルメニューより「ブックファイルを開く」を使って、拡張子が「.ab2template」となっているテンプレートファイルを開きます。

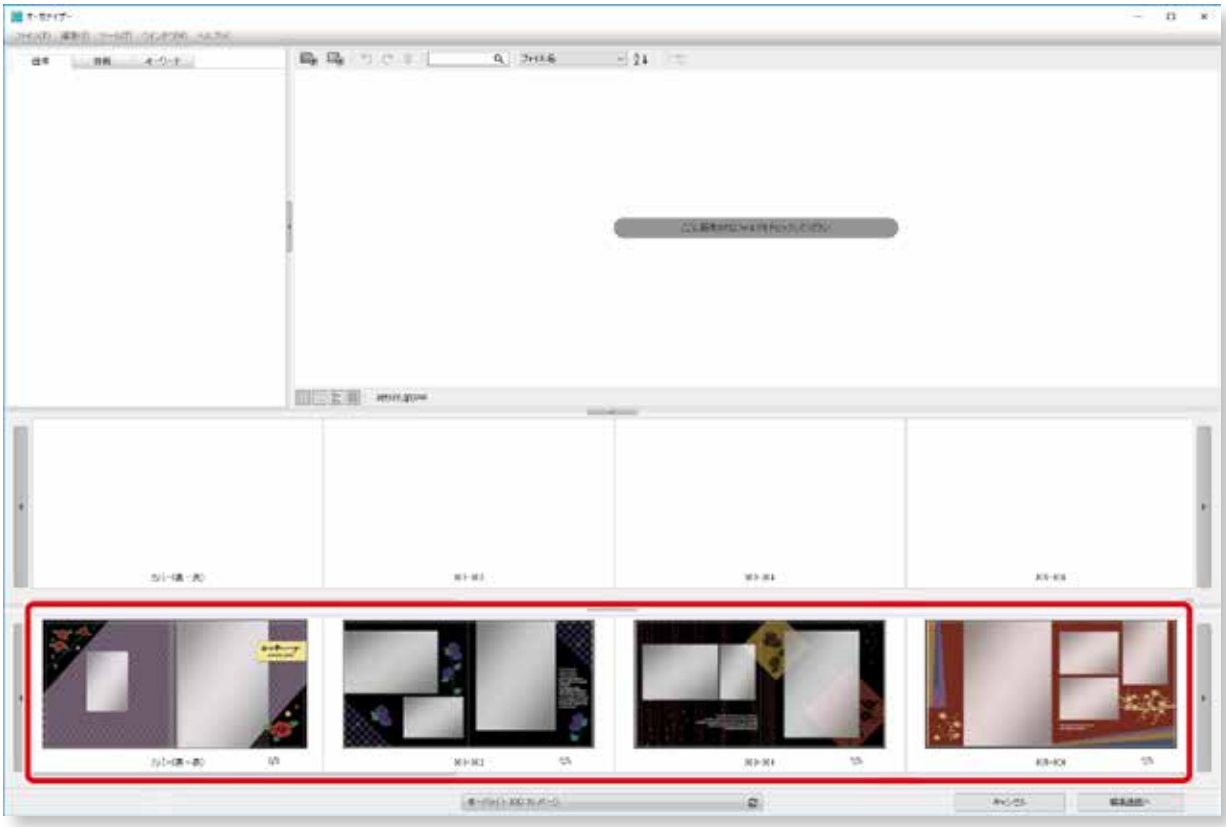


手順2　「編集画面へ進む」をクリック

右のパネルが表示されますので「オーガナイザーへ進む」をクリックします。



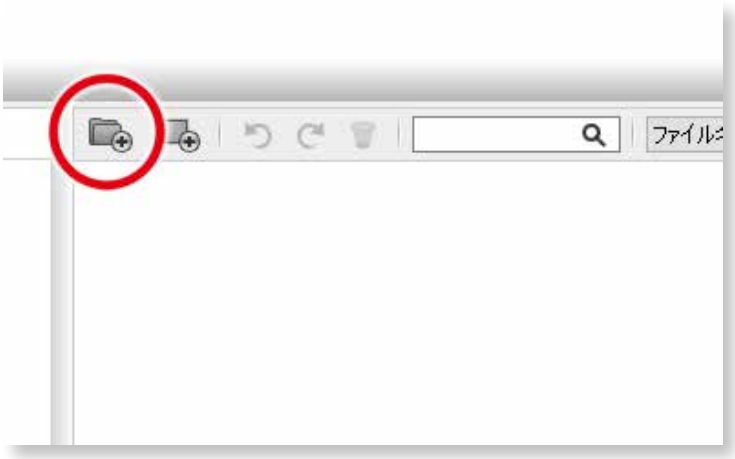
オーガナイザー画面が開きます。レイアウト領域にテンプレートのプレビューが表示されています。



手順3 画像表示領域に画像を読み込む

「フォルダを選択」ボタンをクリックして新しい画像を読み込みます。

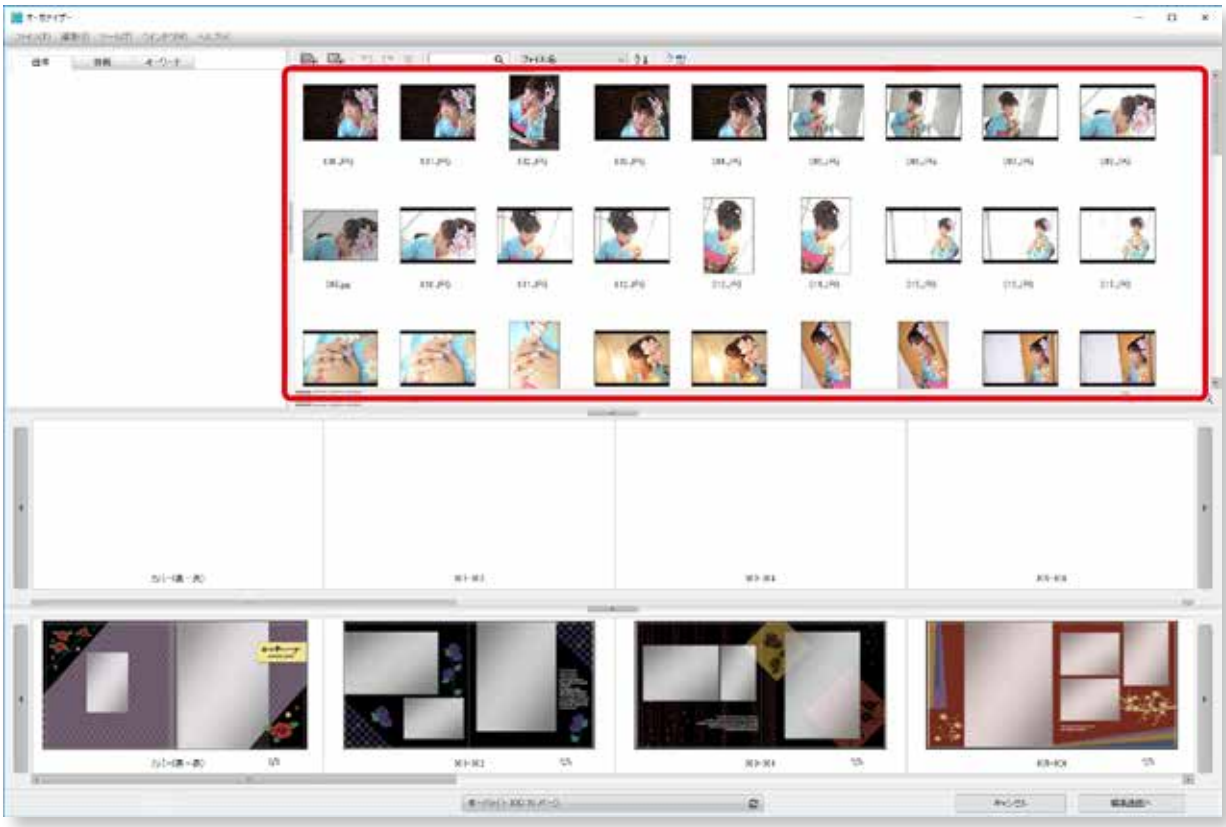
※画像の入ったフォルダを画像領域に直接ドラッグしても読み込めます。



手順4 画像フォルダを開く

使用する画像の入ったフォルダを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。

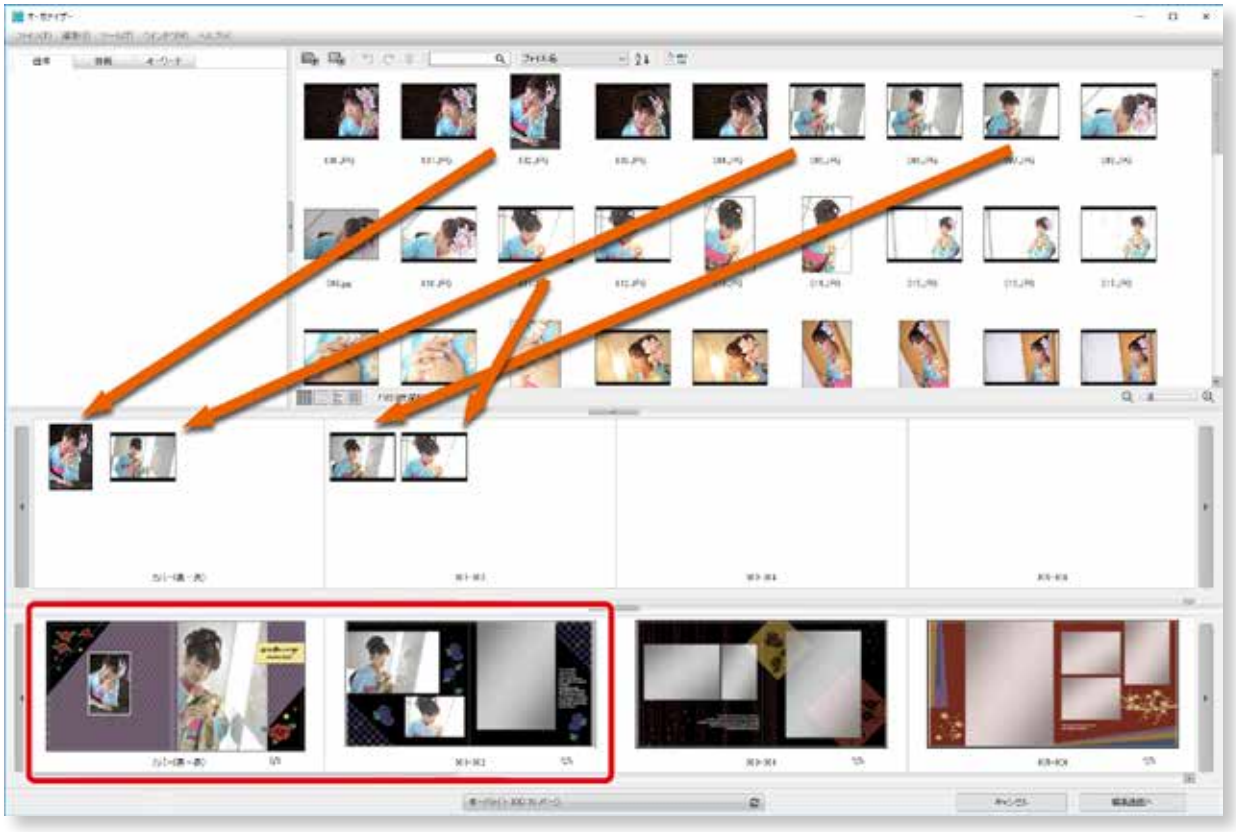
画像が読み込まれます。



手順5 画像をページごとに割り付ける

画像をページ領域にドラッグしてページごとに割り付けます。

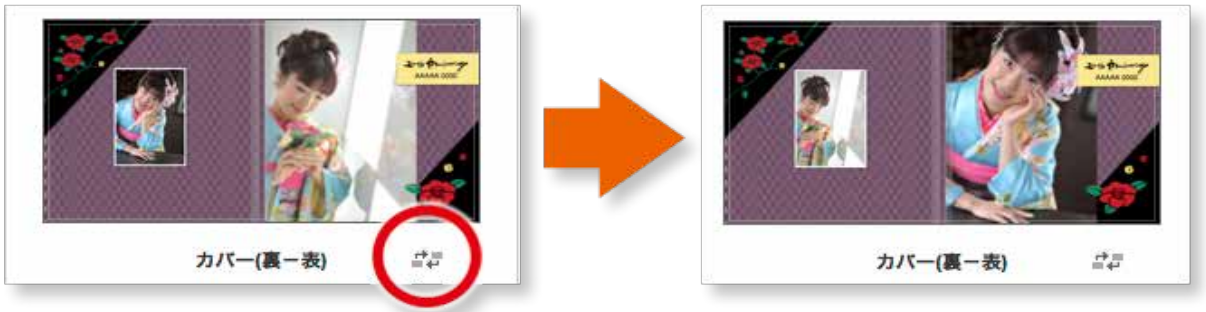
割り付けた画像は、テンプレート表示領域に即座に反映されます。全体のレイアウトやイメージを確認しながら画像を割り付けることにより、簡単且つスピーディーにレイアウトが完成します。



画像が流し込まれる順番は、ボックスを作成した順番 (最背面に配置されたボックスから) になります。

ボックスの作成順を変更したい場合は、テンプレートデータ作成時の編集画面でボックスを選択して右クリック、「順序」で順番を変更します。テンプレートでは、最背面に配置されたボックスから画像が流し込まれます。

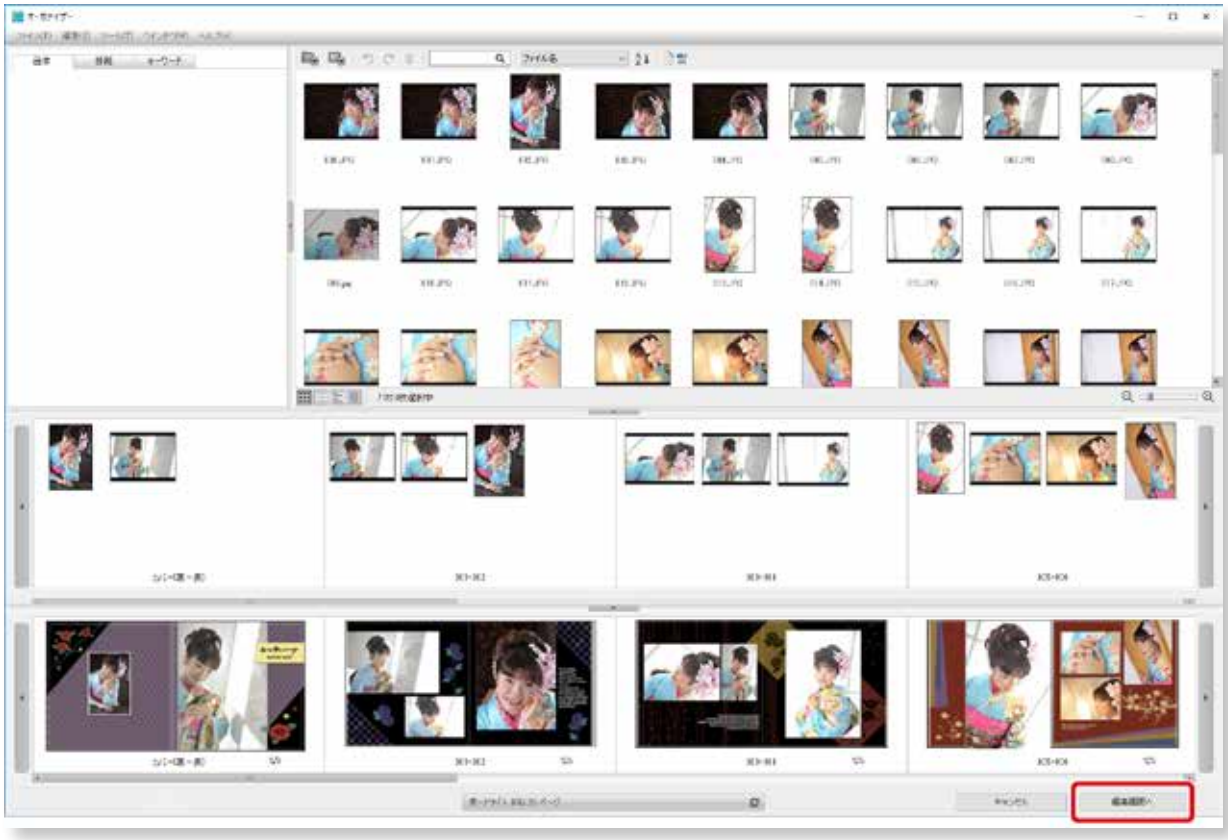
順序は、21-6 ページの「21-13.　順序」をご参照ください。



「並べ替え」ボタンをクリックするたびに画像が並び変わります。

手順6 編集画面へ

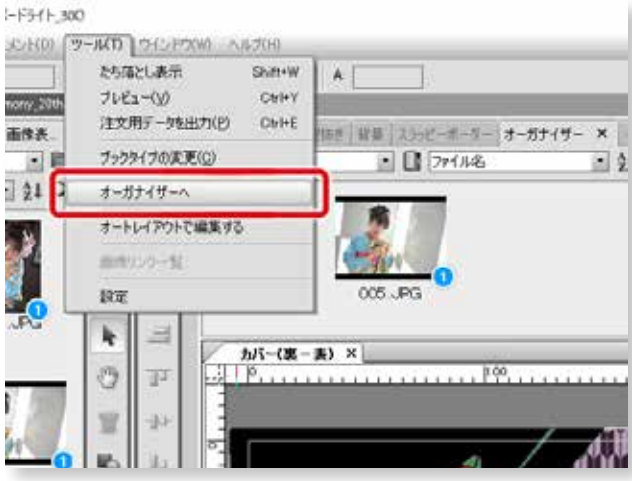
画像を全て割り付けたら「編集画面へ」ボタンをクリックしてください。



※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点

※編集画面に移行する前の上記画面の状態で「ファイル」メニューから「ブックファイルを名前を付けて保存」すれば、その保存ファイルを開くと上記 手順6 の状態から作業を継続できます。

※一度、編集画面に移行しますと、メニューの「ツール / オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー機能のみとなり、テンプレートのボックスに自動配置する機能は利用できなくなりますのでご了承ください。



手順 7 編集画面

編集画面に移行しますので、テキストの修正や画像の位置調整等を行い、レイアウトを完成させます。

手順 8 注文用データの確認

注文用 PDF データを出力して、データに問題が無いか最終確認を行って入稿してください。

※画像のトリミングや配置、変更が必要なテキストなどは、特にご注意ください。

2-8-3　テンプレートの利用 (オートレイアウトへ進む)

テンプレートを読み込み、画像を一括でボックスに流し込み手早くレイアウトを仕上げます。

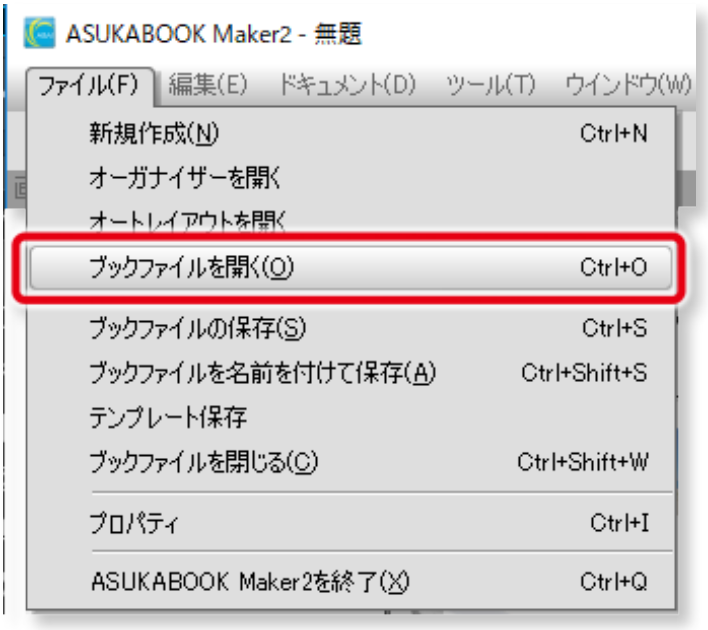
各ページへの写真の割り付けが一度ですみますので効率よくレイアウトが完了します。あらかじめ画像のセレクト、カット数、割り付ける順番等を決めておくと完成度が高くなります。

※テンプレートをオートレイアウトで利用する場合、一度、編集画面に移行しますと、再度オートレイアウト機能を利用すると全ての情報がクリアされ、テンプレートは利用できなくなりますのでご了承ください。

詳細は、2-39 ページの「※テンプレートをオートレイアウトで利用する際の注意点」をご一読ください。

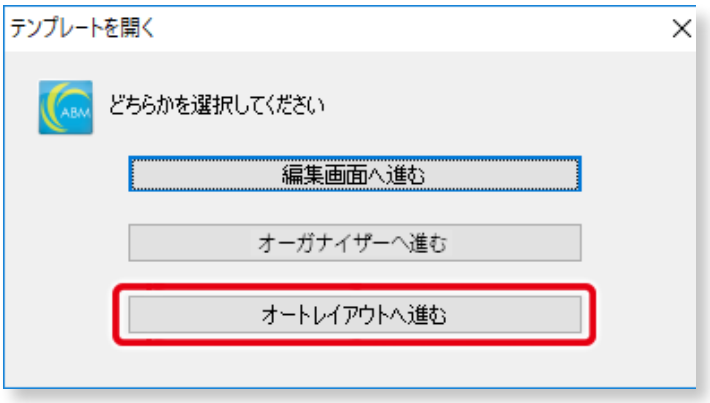
手順 1　テンプレートを開く

ファイルメニューより「ブックファイルを開く」を使って、拡張子が「.ab2template」となっているテンプレートファイルを開きます。

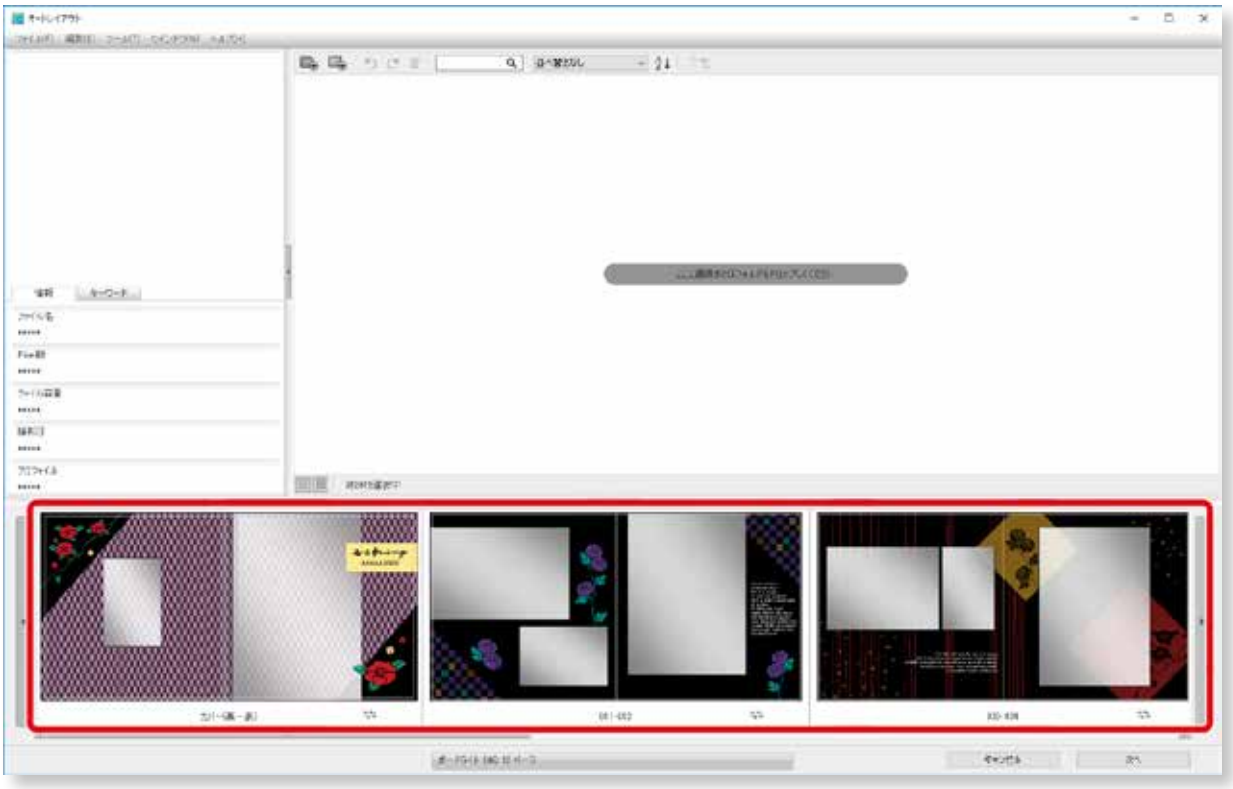


手順 2　「編集画面へ進む」をクリック

右のパネルが表示されますので「オートレイアウトへ進む」をクリックします。



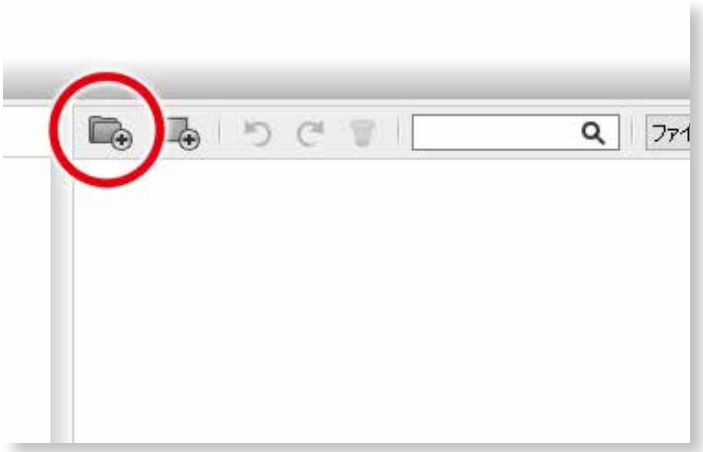
オートレイアウト画面が開きます。レイアウト領域にテンプレートのプレビューが表示されています。



手順3 画像表示領域に画像を読み込む

「フォルダを選択」ボタンをクリックして新しい画像を読み込みます。

※画像の入ったフォルダを画像領域に直接ドラッグしても読み込めます。

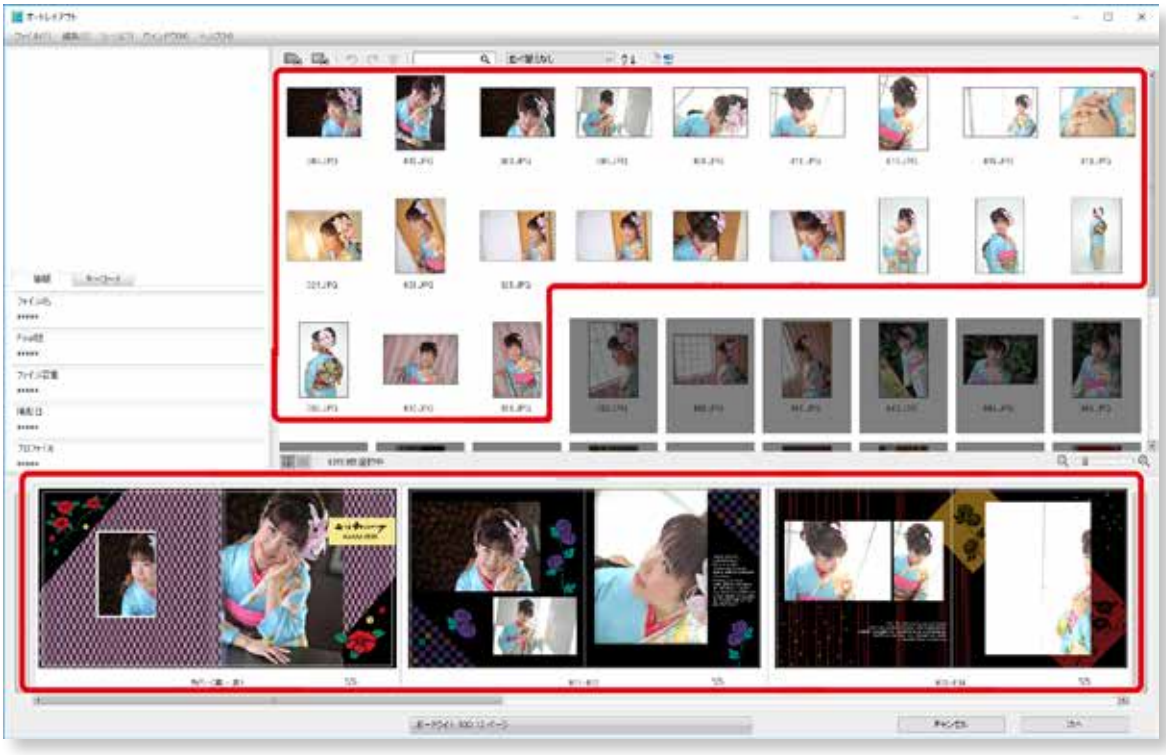


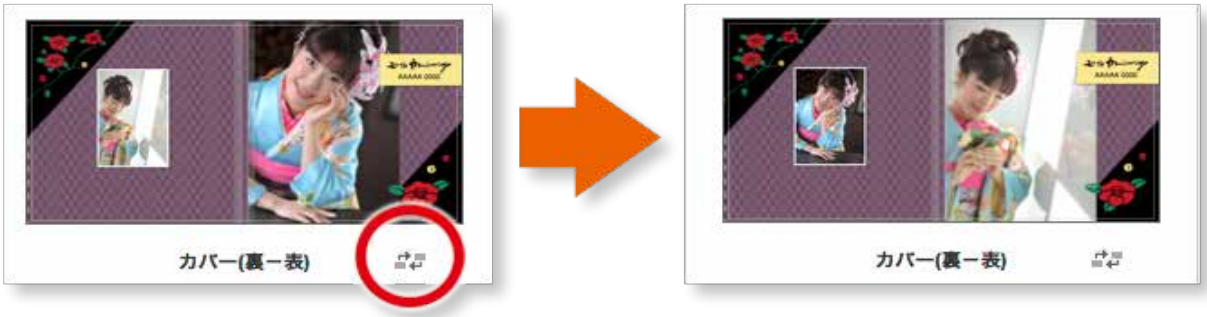
手順4 画像フォルダを開く

使用する画像の入ったフォルダを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。

手順5 オートレイアウト

画像が読み込まれ、画像のファイル名の順番に自動でレイアウトに反映されます。画像数がテンプレートのボックス数より多い場合は、未使用画像となりグレーアウトして表示されます。



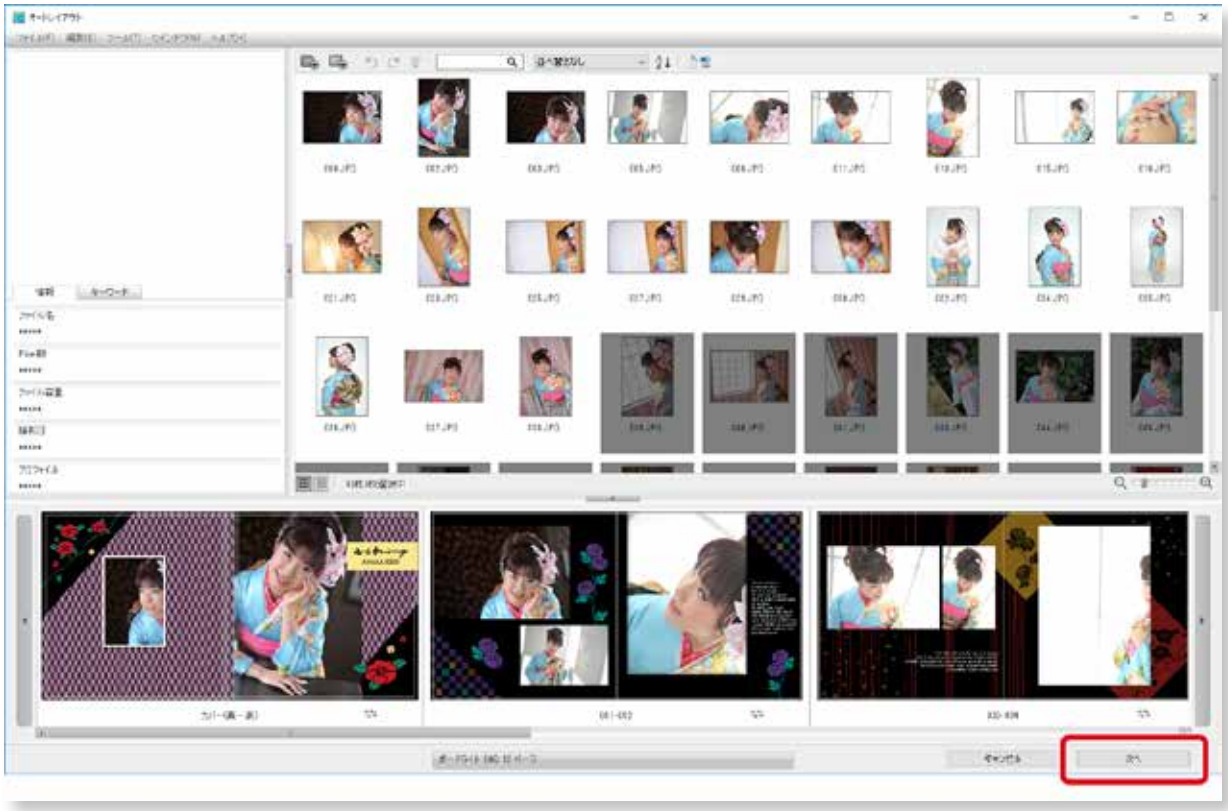


「並べ替え」ボタンをクリックするたびに画像が並び変わります。

※テンプレートのボックスの個数やレイアウトに見合った画像を流し込むには、あらかじめ写真のセレクトとファイル名を変更する必要があります。もしくは、次の編集画面で画像の差し替えや修正を行ってください。

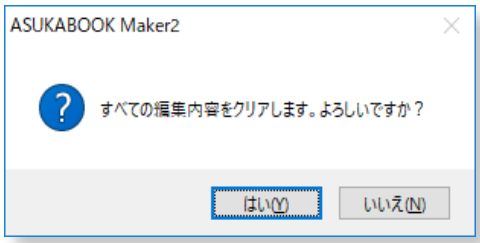
手順6 次へ

画像を全て割り付けたら「次へ」ボタンをクリックしてください。



※テンプレートをオートレイアウトで利用する際の注意点

「次へ」で編集画面に移行し、「ツール」メニューから「オートレイアウトで編集する」で**再度オートレイアウトを行う場合**、テンプレートの内容 (ボックス、イラスト、テキスト、背景など) はすべてクリアされ、テンプレートは利用できなくなりますのでご注意ください。



テンプレートの内容(ボックス、イラスト、テキスト、背景等)がクリアされます

手順 7 編集画面

編集画面に移行しますので、テキストの修正や画像の位置調整等を行い、レイアウトを完成させます。

手順 8 注文用データの確認

注文用 PDF データを出力して、データに問題が無いか最終確認を行って入稿してください。

※画像のトリミングや配置、変更が必要なテキストなどは、特にご注意ください。

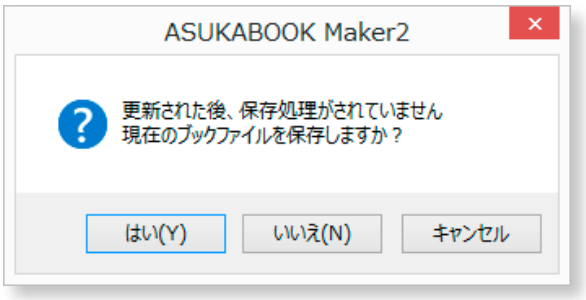
2-9.　ブックファイルを閉じる

ABM2 を終了しないで、ブックファイルを閉じる場合には、ABM2 のメインメニュー「ファイル」から「ブックファイルを閉じる」をクリックしてください。

ご注意

もし、ブックファイルが保存されていない状態で、ファイルを閉じる際には、保存を確認するダイアログが表示されますので、保存をするか、もしくは保存しないで閉じるかを選択してください。

なお、「.ab2template」には、上書き保存できません。



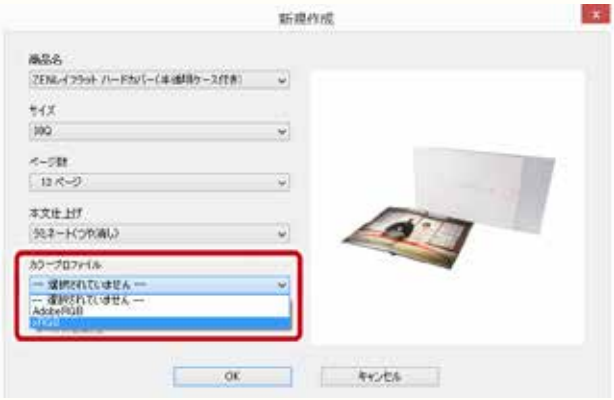
解　説

カラープロファイルについて

写真素材として使用する画像ファイルには、必ずカラープロファイルを埋め込んでください。カラープロファイルは「sRGB」、もしくは「AdobeRGB」をご利用ください。
なお、プロファイルが埋め込まれていない画像ファイルについては、お客様がご利用のコンピュータの環境により、色調が本来の状態より異なる場合がありますので、ご注意ください。

※現在の macOS、および Windows 上で扱われる画像については、カラープロファイルを埋め込めこむことが、色調を維持する上での基本となっています。よって、カラープロファイルが埋め込まれていない画像については、印刷においても色の保証ができませんのでご了承ください。

◆「新規作成」ダイアログにおいてカラープロファイルを選択する場合は、原則としてお使いのデジタルカメラに設定されているカラープロファイルと同じプロファイルを選んでください。



アドバイス！

デジタルカメラで JPEG 撮影の場合は、工場出荷状態では「sRGB」に設定されています。なお、デジタルカメラを操作して撮影プロファイルを変更すれば「AdobeRGB」を利用することができます。詳しくはお使いのデジタルカメラの取扱説明書をご覧だくさい。

JPEG 撮影の場合	デジタルカメラをお使いの場合、工場出荷状態では JPEG 撮影の画像は「sRGB」になります。また、デジタルカメラを操作して撮影プロファイルを変更すれば「AdobeRGB」を利用することができます。
RAW 撮影の場合	RAW データ現像の時点で「sRGB」もしくは「AdobeRGB」を選択することができます。
フィルムスキャニングの場合	フィルムスキャナーのドライバーソフトの設定によります。機種によってはカラープロファイルを埋め込んでいないものもありますので、運用の際にはご注意ください。

◆画像ファイルのカラープロファイルはデジタルカメラの設定によって決まります。

ABM2 では「sRGB」画像と「AdobeRGB」画像を混在して使うことができます。

ABM2 では、「sRGB」と「AdobeRGB」を混在して使用することができます。デジタルカメラで設定されているプロファイルでの ASUKABOOOK の制作を推奨いたしますが、2 台のデジタルカメラで異「sRGB」と「AdobeRGB」の設定が異なって撮影された場合は、「AdobeRGB」を設定してだくさい。

解　説

保存ファイル形式について

① 4 種の保存ファイル形式に対応

ABM では、お客様の作業環境に応じて ABM ファイルの保存形式が選択可能です。これにより、レイアウト作業に使用するコンピュータの能力、他のアプリケーションソフトウェアとの親和性、ABM ファイル作成後の画像データ編集の容易性、ファイル管理・保存などの問題に柔軟に対応できるようになります。

●下記の解説を良くお読みになり、必要に応じてファイル形式を選択して頂くよう、お願いいたします。

●**どの形式が良いか判断できない場合は、初期設定である「1 ファイル形式」をご利用ください。**

● ABM2 の初期設定（インストールした時点）では、保存形式は「1 ファイル形式」になっています。

保存形式	特　徴	
1 ファイル形式 拡張子は　ab2 1ファイル形式.ab2	解説	写真、型抜きなどのすべての画像データを元ファイルからコピーして、レイアウトに必要な情報と共に 1 つのファイルに保存する形式です。コピーのタイミングは、画像を編集パレットにドロップした時に行われます。
	利点	すべての情報が 1 つの ABM ファイルに保存されるため、ファイルの管理・移動などの扱いが容易です。
	注意点	すべての情報が 1 つの ABM ファイルに保存されるため、ファイル容量が大きくなります。この結果、ファイルの読み込み、保存に時間が掛かります。ファイルの読み込み、保存の時間はご使用のコンピュータの能力に依存します。
ページ分割形式 拡張子は　ab2m ページ分割形式.ab2m ページファイル.abpage	解説	ページごとにファイルを保存し、それらを統括するブック管理ファイルが保存されます。つまり、ページファイルとブック管理ファイルの 2 種類が保存されます。編集する場合は、ブック管理ファイルを開くことにより、編集したいページファイルを開くことができます。
	利点	編集したいページのみを開くことにより、ファイルを開いたり保存する時間が短縮されます。また、何らかの理由でパソコンがクラッシュしたり、正常にデータを保存できなかった場合でも、最後に正常に保存を行ったまでのページファイルは影響を受けませんのでデータの保全性に優れています。
	注意点	直接ページファイルを開くことはできません。ページファイルの名称を変更したり他のフォルダに移動するとそのページは読み込めなくなります。
ページ分割形式は、2-8 ページの「2-4.　ページ分割形式の活用」をご参照ください。		
パッケージ形式 拡張子は　ab2p パッケージ形式 .ab2p	解説	レイアウトに必要な情報のみを ABM ファイルに保存し、写真、型抜きなどの画像データを元ファイルからコピーして、1 つのフォルダに納める分割保存の形式です。画像を画像フォルダにコピーするタイミングは、1 ファイル形式と同じです。
	利点	画像ファイルが ABM ファイルから分離しているため、ABM ファイルの読み込み、保存時間が 1 ファイル形式よりかなり短縮されます。 また、使用している写真が画像フォルダ内にあるため、Adobe Photoshop® など外部のアプリケーションを使って個別に編集することが可能です。
	注意点	ABM ファイルと画像フォルダが個別に保存されるため、常に一緒にして管理する必要があります。ファイルの管理・移動などの際には注意が必要です。
リンク形式 拡張子は　ab2l リンク形式.ab2l	解説	写真、型抜きなど、レイアウトに必要な画像データを元ファイルからのリンクとしてそのパス情報だけを保存します。元ファイルのコピーは行いません。
	利点	画像データを含まないため、ABM ファイルは非常に軽量となり、読み込み、保存が短時間で行えます。画像を修正すると修正内容が即座に ABM 上に反映されます。
	注意点	リンク先の画像ファイルを移動すると ABM で表示されなくなります。特にリンク先が複数のフォルダに跨がる場合には、ファイル管理が煩雑になります。ただし、リンクがはずれても再リンク機能により再リンクが可能です。編集が終了したら 1 ファイル形式、もしくはパッケージ形式に変換して保管することをお薦めします。
リンク形式は、2-14 ページの「2-5.　リンク形式の活用」をご参照ください。		

● Adobe® InDesign® などの DTP アプリケーション経験者の方へ。
ABM での「1 ファイル形式」は、Adobe® InDesign® での「埋め込み」に相当します。
ABM での「ページ分割形式」は、Adobe® InDesign® での「ブックファイル形式」に相当します。
ABM での「パッケージ形式」は、Adobe® InDesign® での「パッケージ」、もしくは「プリフライト」、
ABM での「リンク形式」は、Adobe® InDesign® での通常のリンクによる編集に相当します。

● レイアウト編集に不慣れな方、コンピュータの操作に不慣れな方、ファイルの保存・管理に不慣れな方は、「1 ファイル形式」での利用をお勧めします。

② 各保存形式の比較

3 種類の保存形式を比較すると、下表のような特徴があります。

① 1 ファイル形式は、画像のコピーを行いそれを保存ファイル内に保持しています。そのためコンピュータの処理能力が低い場合、および OS が不調でメモリー管理に問題がある場合は、ABM ファイルの読み込み・保存に時間がかかる場合があります。

② ページ分割形式は、編集したいページのみを開くことにより、ファイルを開いたり保存する時間が短縮されます。。また、何らかの理由でパソコンがクラッシュしたり、正常に保存できなかった場合でも、最後に正常にデータ保存を行ったまでのページファイルは影響を受けませんのでデータの保全性に優れています。

③ ABM でのレイアウト終了後に、利用した画像に修正・編集を加える必要がある場合は、パッケージ形式の利用をお勧めします。
パッケージ形式では、ABM ファイルとは別に利用した画像が別フォルダにまとめてコピーして保存されるため、画像のみを個別に、Adobe Photoshop® などで編集できます。
ただし、パッケージ形式では、ABM ファイルと利用した画像ファイルが個別に保存されるため、常に一緒にして保管する必要があります。ファイルを別のドライブやメディアにコピー、移動する場合は、ご注意ください。

④ リンク形式は、利用する画像ファイルの保存場所のパスを ABM ファイルに記録し、リンクします。画像のコピーを取らないためコンピュータへの負担が軽く、読み込み・保存速度が速く行えます。反面、利用する画像ファイルを複数のフォルダに分散させてしまうと、ファイル管理が非常に煩雑になります。例えば、リンク先の画像ファイルを移動すると ABM で表示されなくなります。ただし、再リンク機能により再リンクを行う事が可能です。
リンク形式で作業をされた場合は、すべてのレイアウトが終了後に、1 ファイル形式、もしくはパッケージ形式に変換して保存しておくことをお薦めします。

形式別比較	1 ファイル形式	ページ分割形式	パッケージ形式	リンク形式
拡張子	ab2	ab2m	ab2p	ab2l
ファイル読み込み・保存速度	△	◎	○	◎
編集作業時の動作速度	○	○	○	○
ファイル管理の容易さ	◎	△	△	△
画像の保全性	◎	◎	○	○注 1
注文用 PDF の出力速度	○	○	○	○
他のアプリケーションとの親和性	△	△	△	◎
メモリ使用量 (ファイル保存時)	やや多い	少ない	普通	普通
ワーキングエリアの使用量（ディスクキャッシュ等）	普通	少ない	普通	少ない
多ページ、多画像編集時の負担	普通	少ない	普通	普通

●左表は 4 つの形式を相対比較したものです。実際の処理速度はコンピュータの処理能力に依存します。

●注 1：リンク形式は、最初にリンク形式の設定が必要です。設定方法は、2-15 ページの「2-5-1.　リンク形式の設定と保存」をご参照ください。リンク形式で作業をされた場合は、リンク切れ等を防ぐため、すべてのレイアウトが　終了後に、1 ファイル形式、もしくはパッケージ形式に変換することをお薦めします。

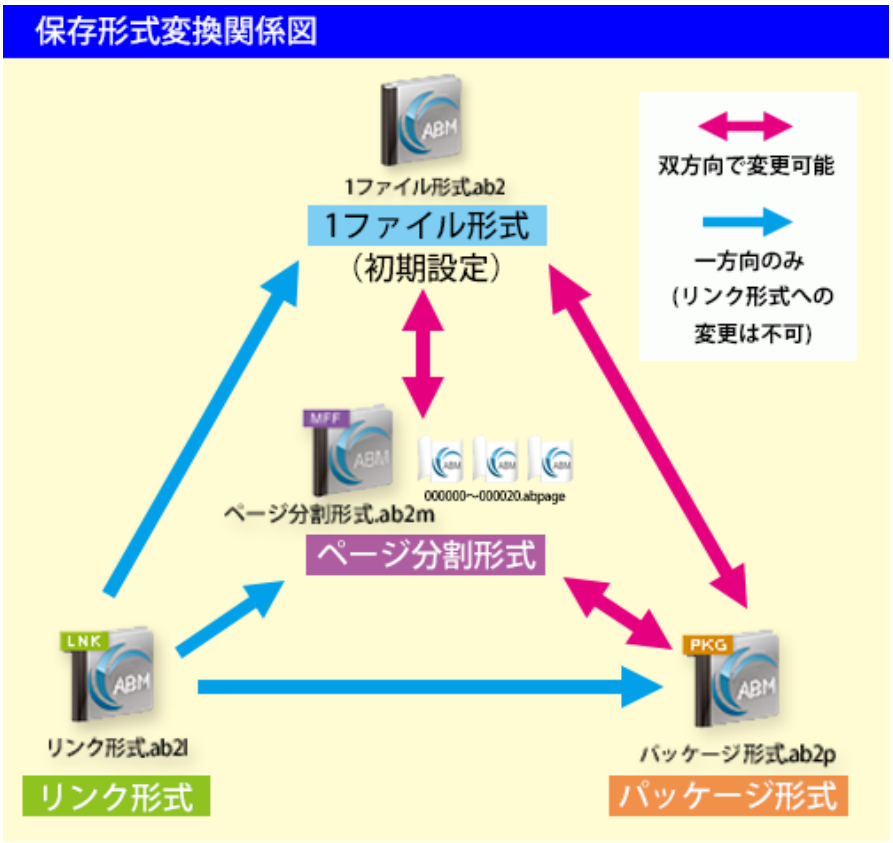
③ 保存ファイル形式の変換について

各保存ファイル形式の変換については、以下のような関係があります。

変換方向	変換方法
1 ファイル形式 ➡ パッケージ形式	1 ファイル形式で保存された「ab2」ファイルより、画像、マスク、オーガナイザー情報を取り出し、フォルダに入れて「ab2」ファイルの外に再保存します。 （元ファイルである「ab2」ファイルはそのまま残ります）
1 ファイル形式 ➡ ページ分割形式	1 ファイル形式をブックファイルとページごとに分割して保存します。
パッケージ形式 ➡ 1 ファイル形式	パッケージ形式「ab2p」で保存した際に外部フォルダに生成した画像、マスク、オーガナイザー情報を、「ab2」ファイルとして 1 ファイルに保存しなおします。 （元ファイルである「ab2p」ファイルと、外部フォルダはそのまま残ります）
パッケージ形式 ➡ ページ分割形式	パッケージ形式をブックファイルとページごとに分割して別のフォルダに保存します。picture フォルダ等は無くなり、写真等は、ページファイルに埋め込んで保存します。 （元ファイルである「ab2p」ファイルと、外部フォルダはそのまま残ります）
リンク形式 ➡ 1 ファイル形式	リンク形式で保存された「ab2l」ファイルに保存されている情報を参照し、リンク先の画像ファイル、およびマスクファイル、オーガナイザー情報などをコピーして、「ab2」ファイルとして 1 ファイルで再保存します。 （リンク形式ファイル「ab2l」と、リンク先の元ファイルはそのまま残ります）
リンク形式 ➡ ページ分割形式	リンク形式をブックファイルとページごとに分割して保存します。リンクは無くなり写真等は、ページファイルに保存されます。リンク形式のリンク情報は無くなり、写真等はページファイルに埋め込まれます。 （リンク形式ファイル「ab2l」と、リンク先の元ファイルはそのまま残ります）
リンク形式 ➡ パッケージ形式	リンク形式で保存された「ab2l」ファイルに保存されている情報を参照し、リンク先の画像ファイル、およびマスクファイル、オーガナイザー情報などをコピーして、外部フォルダに入れて保存します。なお、「ab2l」ファイルから「ab2p」ファイルを生成します。 （リンク形式ファイル「ab2l」と、リンク先の元ファイルはそのまま残ります）

※ 1 ファイル形式、ページ分割形式、パッケージ形式からリンク形式への変換はできません。リンク形式は、はじめに設定画面でリンク形式を設定するか新規作成時にリンク形式を設定する必要があります。

ファイル保存の変換



④ 保存ファイル形式の設定方法

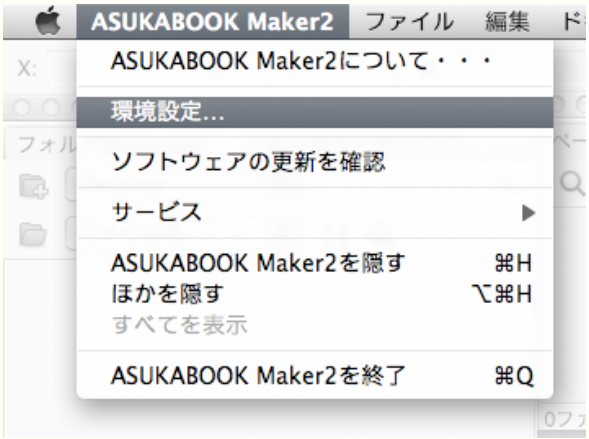
macOSの場合

ABM の保存形式は、環境設定から設定する方法と新規作成時に設定する方法の 2 つの方法があります。

保存形式を環境設定から設定する (macOS)

手順 1　「環境設定…」をクリック

メニューバーの「ASUKABOOK Maker2」より「環境設定…」をクリックします。

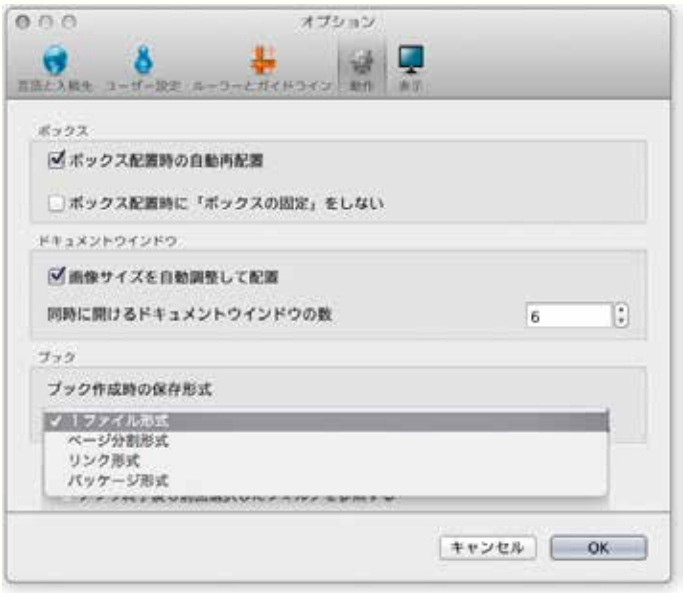


「オプション」ダイアログが表示されます。

手順 2　「ブック作成時の保存形式」から適切なものを選択

「動作」ボタンをクリックすると、表示が右図のような動作ダイアログに切り替わります。

「ブック作成時の保存形式」の欄をクリックすると、3 種類の保存形式を選択できます。
選択後は「OK」ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じます。



アドバイス！

初期設定は「1 ファイル形式」です。

保存形式を新規作成時に設定する (macOS)

手順 1　新規作成

メニューバーの「ファイル」メニューより「新規作成」をクリックします。

ABM を起動した際の新規作成 (macOS)

ABM2 を起動した場合は、下記の画面で「新規作成」を選択します。

手順 2　「ブック作成時の保存形式」から適切なものを選択

「ブック作成時の保存形式」のプルダウンメニューから保存形式を選択します。

※前ページの「環境設定」で設定されている保存形式が表示されます。

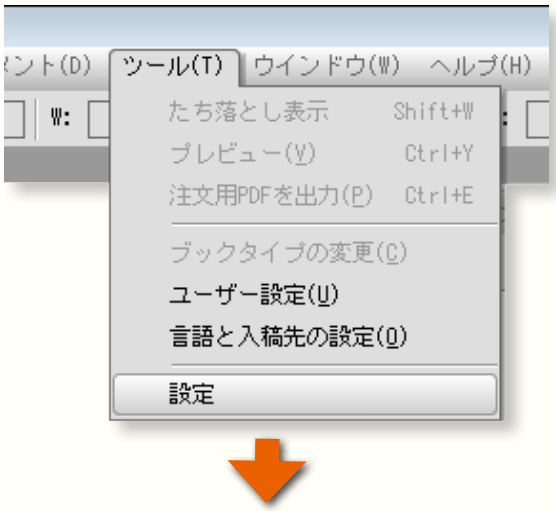
Windowsの場合

ABM の保存形式は、環境設定から設定する方法と新規作成時に設定する方法の 2 つの方法があります。

保存形式を環境設定から設定する (Windows)

手順 1　「設定」をクリック

メニューバーの「ツール」より「設定」をクリックします。



「オプション」ダイアログが表示されます。

手順 2　「ブック作成時の保存形式」から適切なものを選択

「動作」ボタンをクリックすると、表示が右図のように動作ダイアログに切り替わります。

「ブック作成時の保存形式」の欄をクリックすると、3 種類の保存形式を選択できます。
選択後は「OK」ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じます。

アドバイス！

初期設定は「1 ファイル形式」です。

保存形式を新規作成時に設定する (Windows)

手順 1　新規作成

メニューバーの「ファイル」メニューより「新規作成」をクリックします。

ABM を起動した際の新規作成 (Windows)

ABM2 を起動した場合は、下記の画面で「新規作成」を選択します。

手順 2　「ブック作成時の保存形式」から適切なものを選択

「ブック作成時の保存形式」のプルダウンメニューから保存形式を選択します。

※前ページの「環境設定」で設定されている保存形式が表示されます。

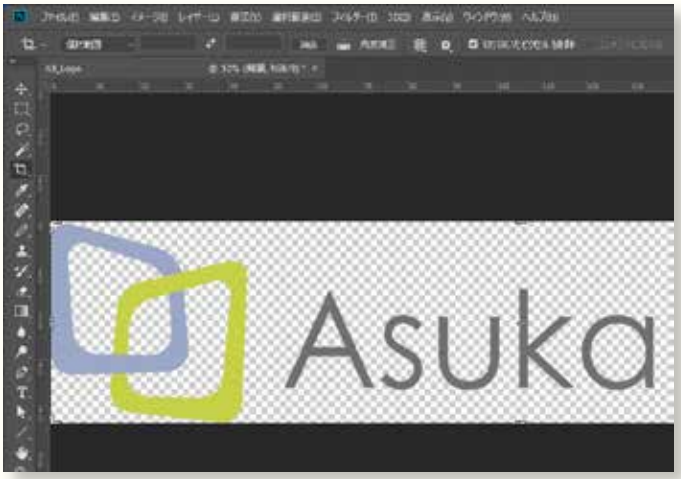
透明色を含む PNG ファイルの作り方

透明色を利用できる画像ファイル形式は、PNG 形式です。
ロゴ、マーク、トリムなどは PNG 形式で保存すると良いでしょう。
Adobe® Photoshop® などの PNG 形式をサポートしているグラフィック・アプリケーションを利用して制作できます。

手順 1 PNG 形式の画像を Adobe® Photoshop® を利用して制作する手順」

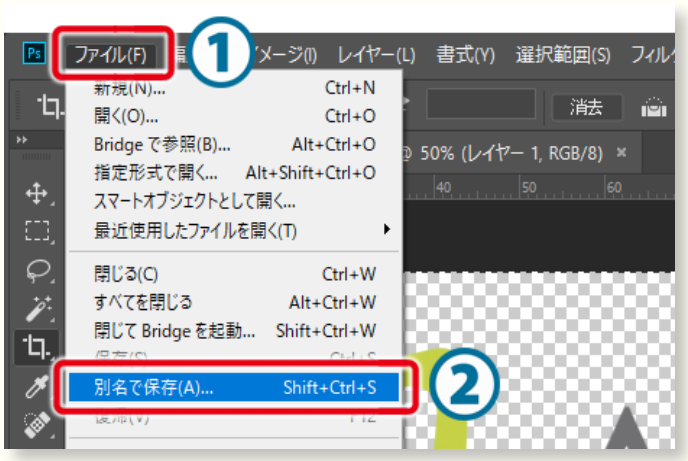
背景の上層にレイヤーを作り、このレイヤーにロゴ、マーク、トリムなどのデザインオブジェクトを配置します。

背景レイヤーを非表示にすると、右図のように背景が透明になります。



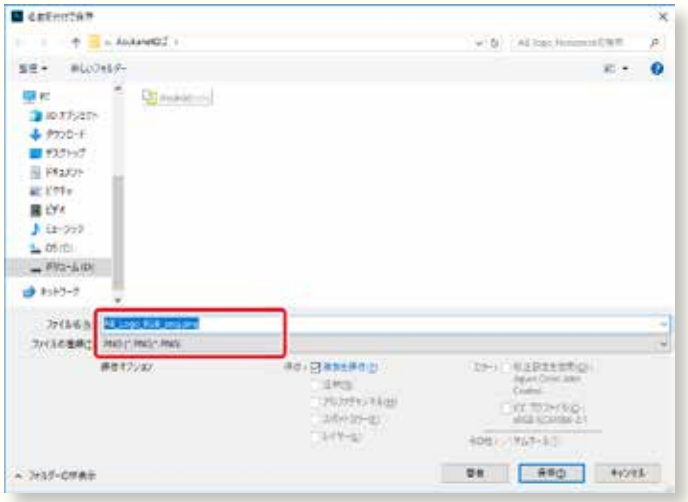
手順 2 PNG 形式で保存する

Phooshop の「ファイル」メニューから「別名で保存」をクリックします。



「ブック作成時の保存形式」から適切なものを選択

「PNG」を選択して、ファイル名を付けて保存します。



利用例

3.　メインメニューの解説

3-1.　ABM2 の画面構成

ABM2 の編集中は下記のような画面構成になります。

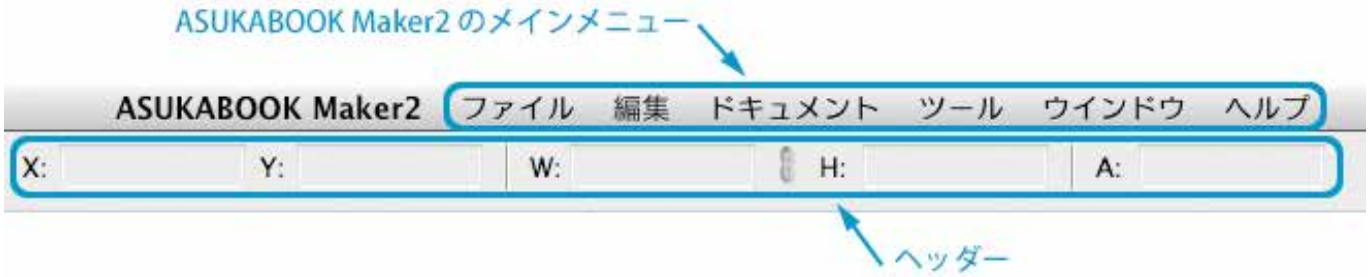
操作の基本となりますので、各部分の名称、働きを覚えておくとよいでしょう

メインメニュー	ABM2 を操作するための基本的なメニューです。
ヘッダー	編集パレットで選択した画像や図形の情報を表示します。位置情報「x」・「y」、縦・横の大きさ「H」・「W」、回転角度「A」、拡大率「M」で表示されます。画像の場合はボックスの情報と内部画像の情報を分けて表示します。表示欄の数字を入力し直すと画像や図形の位置や大きさを直接変更することができます。 ヘッダーの詳細については、「3-3.　ヘッダー」3-33 ページをご覧ください。
デザインパレット	レイアウトを補佐する 5 種類の機能がタブ方式でまとめられています。 ●ページタブ　各ページのサムネイルが表示され、写真集全体の構成が一望できます。 ページタブの詳細については、「6.　ページ」6-1 ページをご覧ください。 ●ボックスタブ　レイアウトを補佐する各種ボックスを選択できます。ボックスはすでに用意されているものの他、自分で作成したボックスを登録することができます。 ボックスタブの詳細については、「7.　ボックス」7-1 ページをご覧ください。 ●型抜きタブ　画像の外形に変化を付ける各種の型抜きを選択できます。型抜きはすでに用意されているものの他、自分で作成した型抜きを登録することができます。 型抜きタブの詳細については、「8.　型抜き」8-1 ページをご覧ください。 ●背景タブ　背景に敷くための画像です。自作した背景を登録することができます。 背景タブの詳細については、「9.　背景」9-1 ページをご覧ください。 ●イラストタブ　良く使うイラストやロゴなどを登録しておくことができます。 イラストタブについては、「10.　イラストタブ」10-1 ページをご覧ください。 ●スラッピーボーダータブ　スラッピーボーダーとはアーティスティックな画像フレームをつける機能です。 スラッピーボーダータブの詳細については、「11.　スラッピーボーダータブ」11-1 ページをご覧ください。 ●オーガナイザータブ　使用する画像を予めページごとに割り振りしておく機能です。 オーガナイザータブについては、「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。 ●ガイドラインタブ　保存したガイドラインはこの場所に登録されます。 ガイドラインタブについては、「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。 ●ページテンプレートタブ　保存したページテンプレートはこの場所に登録されます。 ページテンプレートタブについては、「14.　ページテンプレートタブ」14-1 ページをご覧ください。

画像表示ウインドウ	素材として使う画像が表示されます。表示されるサムネイルを、ドラッグ＆ドロップにて編集パレットに配置できます。 画像表示ウインドウの詳細については、「5.　画像表示ウインドウ」5-1 ページをご覧ください。
編集パレット	画像、図形、文字を実際にレイアウトする場所です。 表紙編集用と本文編集用（開始ページ、見開きページ、最終ページ）で構成され、タブ方式で各ページの表示切替えが行えます。
ツールバー	編集に使うツールをまとめたバーです。フローティングになっていますので、画面上の適当な箇所に置くことができます。
整列ツールバー	複数の写真の位置や大きさなどを揃えてレイアウトするための機能です。バージョン 2.1 から追加された機能です。

3-2.　メインメニューの解説

ここでは、環境設定と、メインメニューの概要についてご説明します。



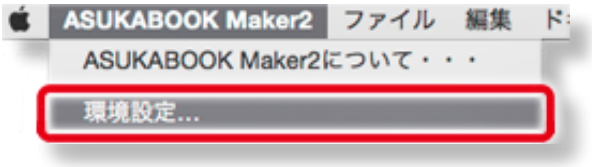
「ヘッダー」の解説については、本書の「3-3.　ヘッダー」3-33 ページをご覧ください。

3-2-1.　環境設定

ASUKABOOK Maker2 の動作環境を設定するメニューです。
macOS 版と Windows 版ではメニューの位置が異なります。

macOSの場合

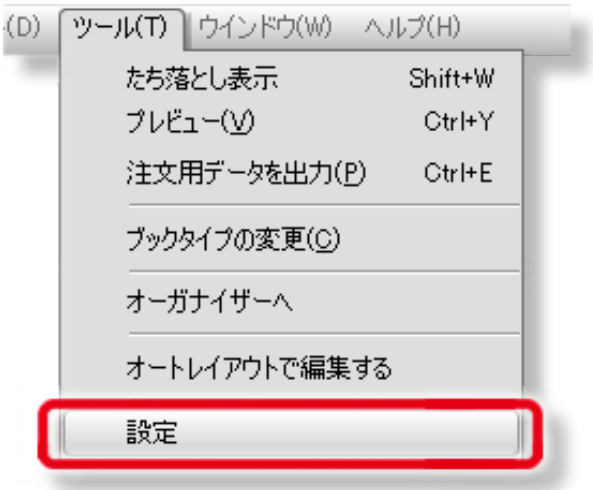
メインメニューの「ASUKABOOK Maker2」をクリックすると「環境設定」があります。



macOS 版では、ABM2 のバージョン情報の確認、「ソフトウェアの更新の確認」が行えます。

Windowsの場合

メインメニューの「ツール」をクリックすると「設定」という項目があります。　Windows 版ではこれが「環境設定」になります。



◆環境設定ダイアログには、以下の 5 項目のタブがあります。

言語と入稿先	この項目は、日本語版の ABM2 では使用されていません。
ユーザー設定	ユーザー ID、ご契約のお名前、ご契約の電話番号、はこのダイアログから入力します。
ルーラーとガイドライン	編集パレットの各ページで使用するルーラー（定規）とガイドラインの設定を行います。
動作	ボックス、ドキュメントウインドウ、ブックファイルの形式についての設定を行います。
表示	ファイル名の拡張子表示、画像のトリミング部分の表示について、通常の表示状態を設定します。

※ユーザー ID とは・・・ご契約後に弊社が発行する 6 桁の数字です。

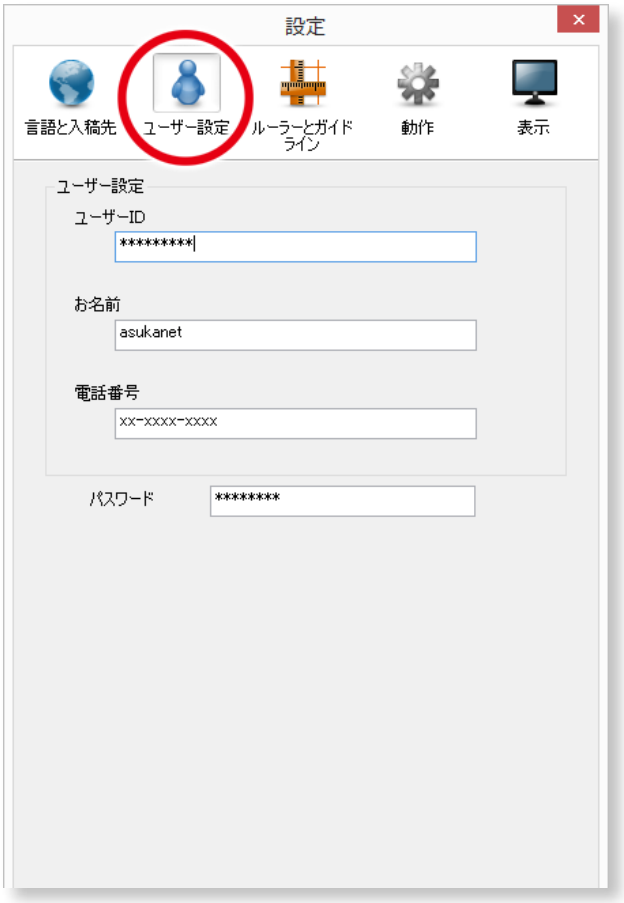
① 環境設定／言語と入稿先

この項目は、日本語版の ABM2 では使用されていない項目です。

② 環境設定／ユーザー設定

ユーザー設定には、ユーザー ID、ご契約のお名前、ご契約時の電話番号を入力します。

ユーザー ID	ご契約後に弊社が発行する 6 桁の数字です。
お名前	ご契約の際に契約書に記入された会社名、もしくは個人名です。
電話番号	ご契約の際に契約書に記入された電話番号です。
パスワード	パスワードは「レイアウト確認システム」を使用する場合のものです。 ASUKABOOK サイトの「マイページ」にアクセスするためのパスワードと同じものを入力してください、

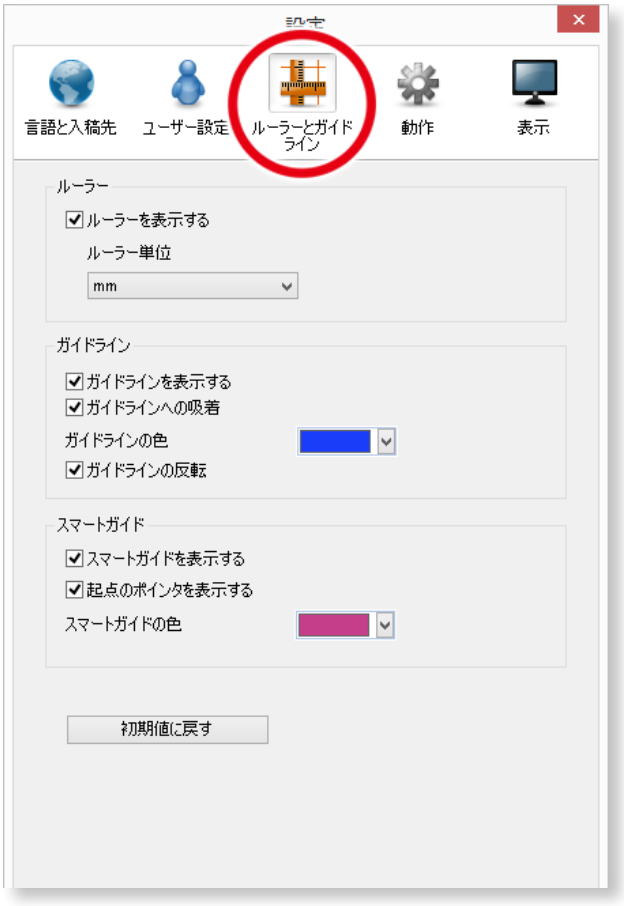


ご注意

- ユーザー ID は発注データに反映されますので、お間違えの無いように入力してください。
- 1 つの ABM2 アプリケーションに入力できるユーザー ID は 1 つのみです。

③ 環境設定／ルーラーとガイドライン

編集パレットの各ページで使用するルーラー(定規)、ガイドライン、スマートガイドの設定を行います。



③ -1.「ルーラーを表示する」

ここにチェックを入れておくと、ABM の起動時に各ページにルーラーが表示されます。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

③ -2.「ルーラー単位」

ABM2 で使用できる単位は以下の通りです。

ミリメートル　（mm）
インチ　（inch）
ピクセル　（pixel）
パーセント　（%）

●初期設定は　ミリメートルになっています 。

③ -3.「ガイドラインを表示する」

「ガイドラインを表示する」にチェックを入れると、ガイドラインが表示されます。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

③ -4.「ガイドラインへの吸着」

「ガイドラインへの吸着」にチェックを入れると、オブジェクトがガイドラインに吸着するようになります。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

③ -5.「ガイドラインの色」

ガイドラインの色を変更することができます。カラーパレットをクリックすると「色選択」ダイアログが表示されます。

●初期設定では青色になっています。

③ -6.「スマートガイドを表示する」

「スマートガイドを表示する」にチェックを入れると、スマートガイド機能がオンになります。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

③ -7.「起点のポインタを表示する」

「起点のポインタを表示する」にチェックを入れると、選択しているオブジェクトにスマートガイドが表示された時に、その起点（反応した箇所）が表示されるようになります。

●初期設定では「ON」（チェックが入）になっています。

③ -8.「スマートガイドの色」

スマートガイドの色を変更することができます。カラーパレットをクリックすると「色選択」ダイアログが表示されます。

●初期設定では赤色になっています。

アドバイス！

●ルーラーの表示・非表示の切り替えは、メインメニューの「ドキュメント」からも行えます。

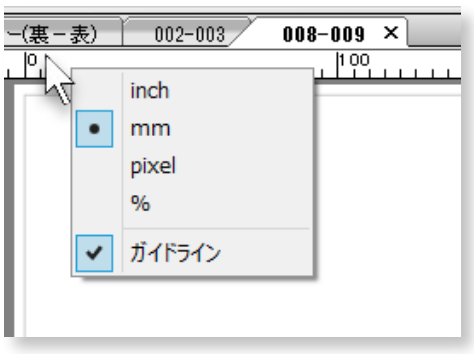
●ガイドラインの表示・非表示の切り替えも、メインメニューの「ドキュメント」から行えます。

●ルーラー単位の変更も、メインメニューの「ドキュメント」から行えます。

アドバイス！

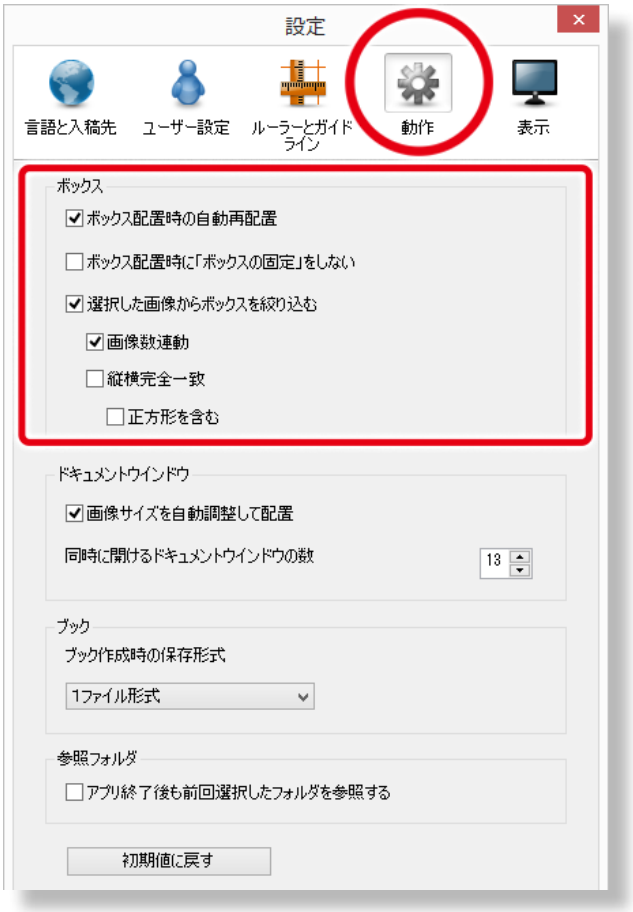
●ガイドラインの表示・非表示の切り替えは、編集パレット内からも行えます。
ルーラー内にマウスポインタを置き、右クリックすると右図のようにサブメニューが表示されます。「ガイドライン」にチェックを入れると表示されます。

●このサブメニューから、単位の変更も行えます。



④ 環境設定／動作

ボックス、ドキュメントウインドウ、ブックファイルの形式についての設定を行います。



④ -1.　ボックス配置時の自動再配置

「ボックス配置時の自動再配置」は、初期設定はチェックが入っています。

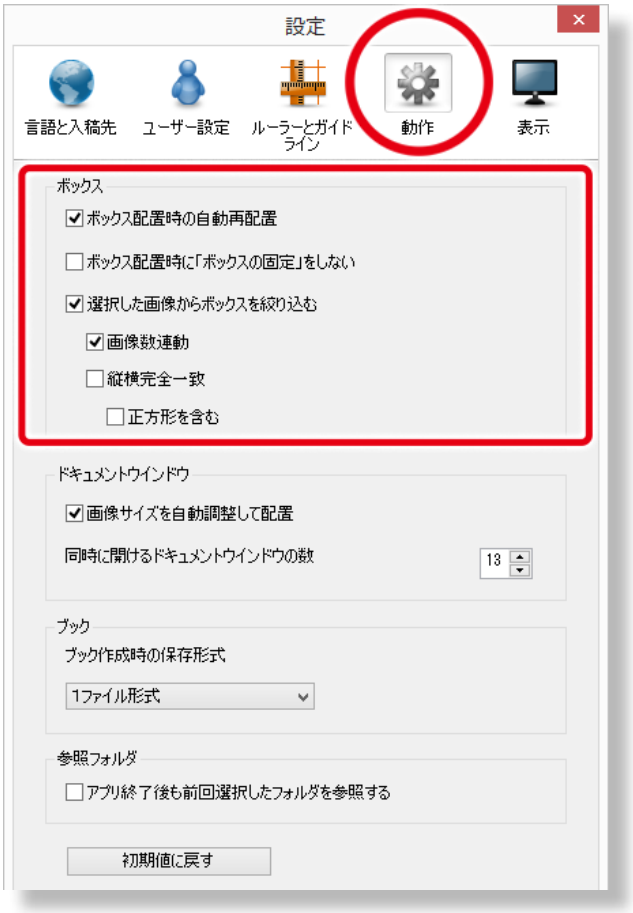
④ -2.　ボックス配置時にボックスの固定をしない

ボックスを配置した場合、そのボックスが不用意に移動しないように「ボックスを固定」した状態になります。ここにチェックを入れておくと、ボックスを配置した時点で「ボックス固定」を行わないように動作します。

●初期設定は「OFF」（チェックが入っていない）になっています。

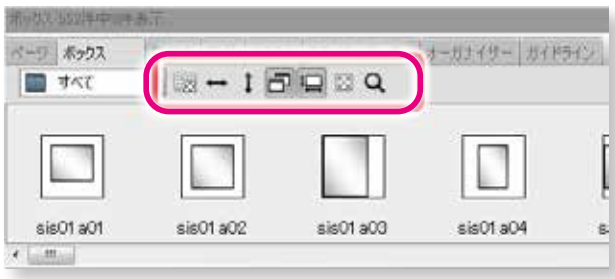
④ -3.　選択した画像からボックスを絞り込む

編集パレット上で選択している画像があった場合、ボックスタブに表示されるボックスが編集パレット上にて選択している画像の枚数に応じて自動的に絞り込まれる機能です。



●例えば、編集パレット上にレイアウトされている画像が 5 個であったとします。この内 3 個の画像を選択している場合は、ボックスフダに表示されるボックスは 3 個のもののみになります。

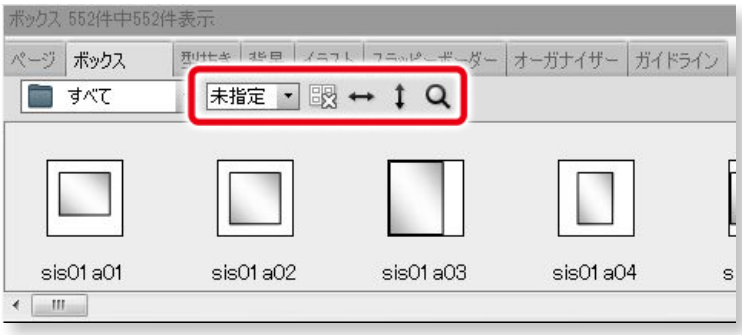
●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。
この状態ではボックスタブは下図のようになります。
（これは ABM2.7 までのボックス絞り込み機能と同様です。）



詳しい使い方については「7-3.　画像数連動」7-4 ページをご覧ください。

●チェックを外すとボックス絞り込み機能はボックスの個数を手動で指定する方式に切り替わります。
この状態ではボックスタブは次ページの図のようになります。

（これは ABM2.8、および 2.9 でのボックス絞り込み機能と同じです。）



使い方については「7-6.　「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を使用しない場合」7-9 ページをご覧ください。

④ -3-1.　画像数連動

オーガナイザーを使用している場合、各ページに割り振られた画像枚数とボックスタブに表示されるボックス枚数が連動する機能です。

●通常の編集状態では、オーガナイザーで割り振られた画像の枚数よりも、編集パレット上で選択している画像の枚数の方が優先されます。

●「画像数連動」はオーガナイザーに対して作用する機能です。従って、「画像数連動」がオフの（チェックを外した）場合でも、編集パレット上で画像を選択しているとボックスタブではその枚数に応じたボックスが表示されます。

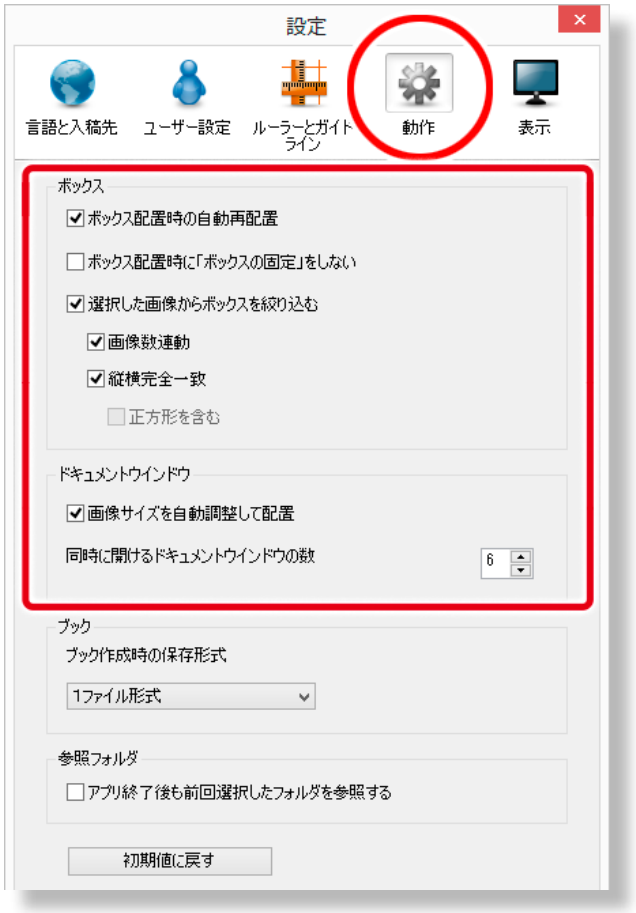
●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

④ -3-2.　縦横完全一致

この機能はボックス絞り込み機能が動作時に、編集パレットにて選択している画像の縦横比を考慮したボックスレイアウトを選択するものです。

●例えば、縦画像を 1 枚•横画像を 2 枚選択している場合は、ボックスタブに表示されるボックスセットも縦画像 1 枚＋横画像 2 枚のセットのみとなります。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。



④ -4.　画像サイズを自動調整して配置

ブックサイズよりはみ出るような画素数の大きな画像を扱う場合、ページ寸法内に収まるように自動的にサイズを調整します。

●初期設定は「ON」（チェックが入）になっています。

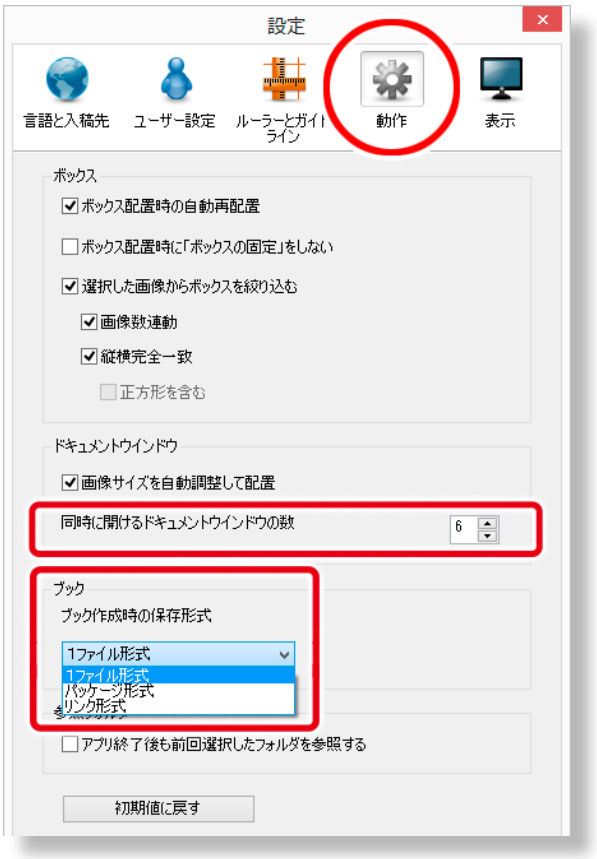
本書の「⑫ 画像サイズを自動調整して配置」3-23 ページも併せてご覧ください。

④ -5.　同時に開けるドキュメントウインドウの数

編集パレット内で開くことのできるページドキュメントの数を示します。指定した数以上を開いた場合は、最初に開いたドキュメントから自動的に閉じられます。

●初期設定は「6」になっています。

●同時に開けるウインドウ数を多くするとコンピュータのメモリ消費量が多くなり、コンピュータへの負荷が大きくなりますのでご注意ください。



④ -6.　ブック作成時の保存形式

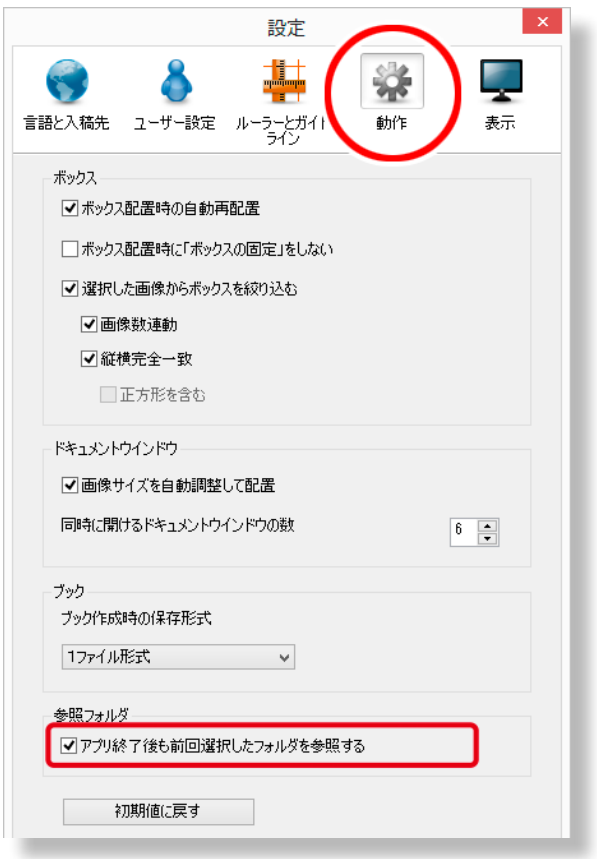
ABM2 では、作業環境に応じて ABM ファイルの保存形式を選択できるようになっています。

これにより、レイアウト作業に使用するコンピュータの能力、他のアプリケーションソフトウェアとの親和性、ABM ファイル作成後の画像データ編集の容易性、ファイル管理・保存などの問題に柔軟に対応できるようになります。

詳しくは、本書の「【解説】　保存ファイル形式について」2-43 ページをご覧ください。

④ -7.　保存先などのフォルダを前回と同様にする

「アプリ終了後も前回選択したフォルダを参照する」にチェックを入れますと、ブックファイルの保存先や注文用データの出力先等のフォルダに関し、前回指定したフォルダを参照します。



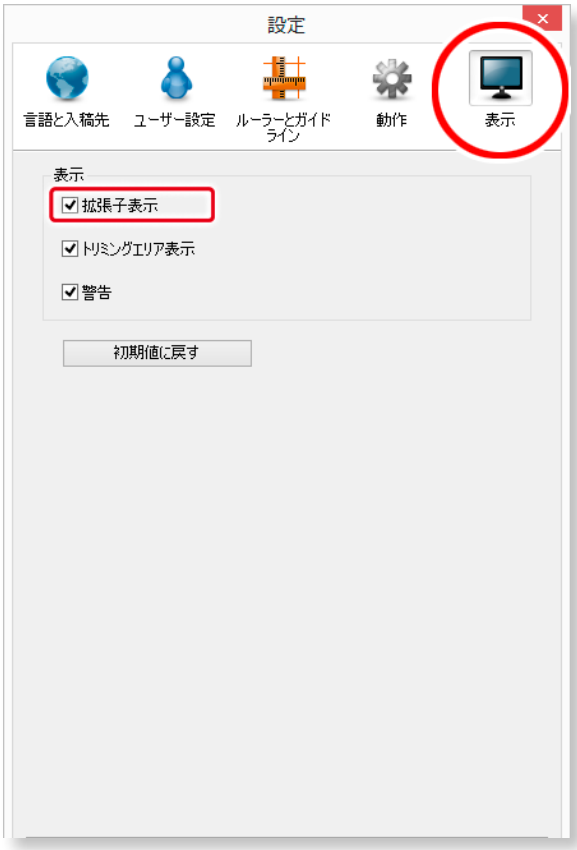
⑤ 環境設定／表示

⑤ -1.　拡張子表示

画像表示ウインドウのファイル名について、拡張子を表示するのか、しないかを選択できます。

チェックを入れると下図のように「画像表示ウインドウ」のファイル名に拡張子が表示されるようになります。

●初期設定ではチェックが入っています。

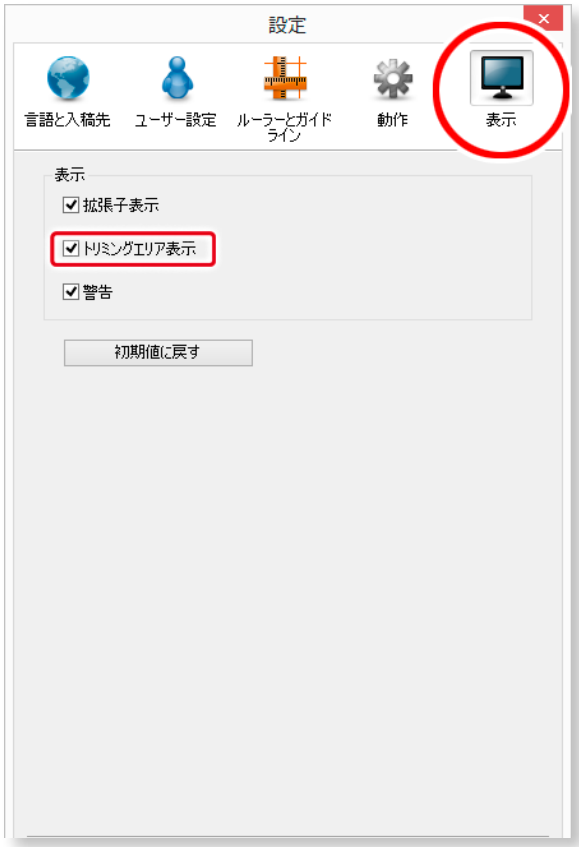


⑤ -2.　トリミングエリア表示

画像を選択した時に、トリミングされている部分（ボックスからはみ出している部分）を半透明に表示します。

これにより、画像全体に対してどのくらいのトリミングを行っているのかが、判りやすくなります。

● 初期設定では、チェックが入っています。



「トリミングエリア表示」をオンにした場合の動作

画像を選択していない状態

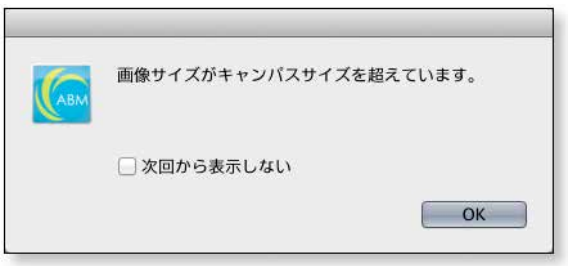
画像を選択した状態

⑤ -3. 警告

「警告」にチェックを入れると、編集パレットに配置した写真画像が、ページサイズの横幅、もしくは縦幅より大きい場合には、下図のような警告（メッセージ）を表示します。

● 初期設定では、チェックが入っています。

●この警告が煩わしいと思われる場合は「次から表示しない」にチェックを入れてください。



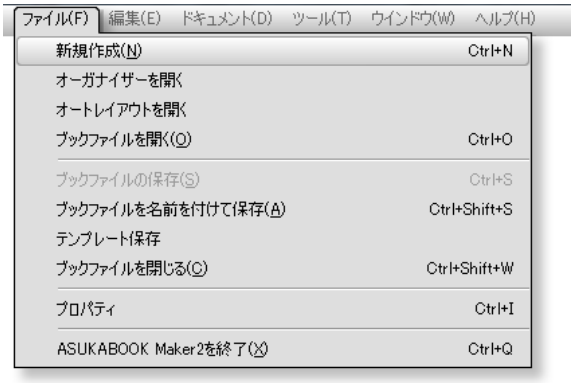
3-2-2.　ファイル

ブックファイルの「新規作成」、「開く」、「保存」、「閉じる」というファイル操作に関する機能があります。

① 新規作成

ブックを最初から作り始める場合は、メインメニューの「ファイル」から「新規作成」をクリックしてください。

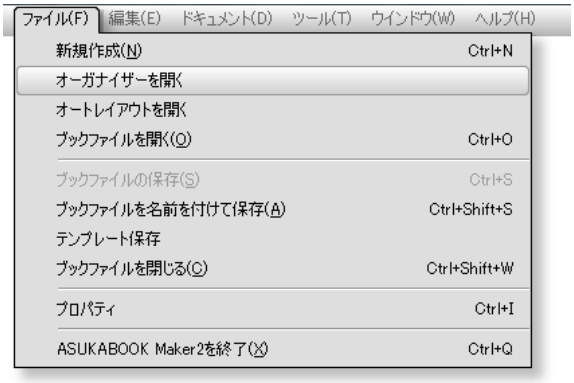
この後の操作については、「2-1.　ブックファイルの作り方」2-1 ページをご覧ください。



② オーガナイザーを開く

オーガナイザーとは、写真集制作にあたって事前にセレクトした写真を、あらかじめ各ページに割り振っておく機能です。

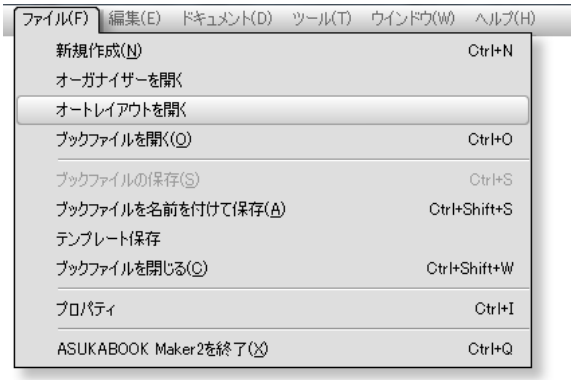
詳しい操作については、本書の「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。



③ オートレイアウトを開く

「オートレイアウト」機能を使いたい場合は、メインメニューの「ファイル」から「オートレイアウトを開く」をクリックしてください。
（「オートレイアウト」は ABM2.5 から追加された機能です。）

詳しい操作については、本書の「25.　レイアウト確認システム」25-1 ページをご覧ください。



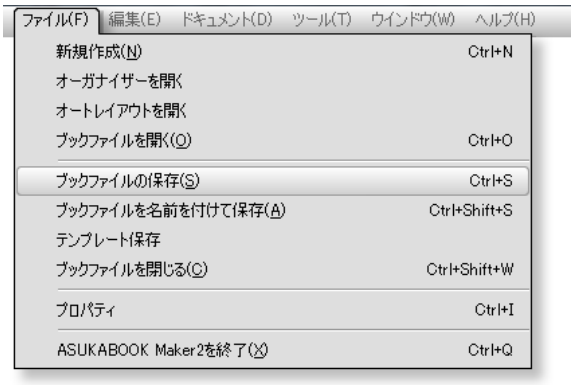
④ ブックファイルを開く

すでに保存済みのブックファイルを開く場合は、メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを開く」をクリックしてください。

この後の操作については、本書の「2-6.　ブックファイルの開き方」2-20 ページをご覧ください。

⑤ ブックファイルの保存

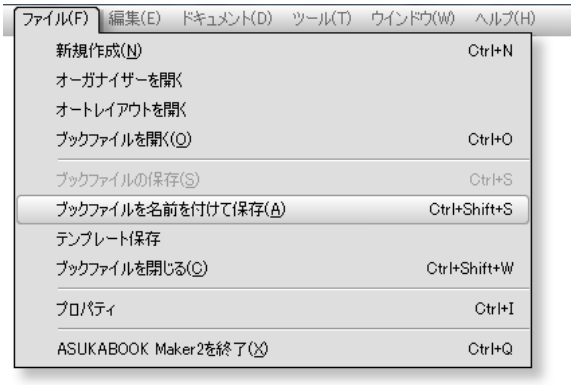
ブックファイルを保存するには、メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルの保存」をクリックしてください。



詳しい操作については、本書の「2-2.　ブックファイルの保存」2-6 ページをご覧ください。

⑥ ブックファイルを名前を付けて保存

一旦作成したブックファイルを別名で保存する場合は、メインメニューの「ファイル」から「ブックファイルを名前を付けて保存」をクリックしてください。



詳しい操作については、本書の「2-3.　一度作成したブックファイルを別名で保存する」2-7 ページをご覧ください。

⑦ テンプレート保存

ABM で作成したブックデータは、そのままでもテンプレートになるように作られています。ですから、写真を入れ替えれば、同じレイアウトでありながら別の写真集を作ることができます。

「テンプレート保存」という機能は、画像に特定の文字を入れる機能です。この文字を入れることにより、テンプレートブックファイルの中のどの写真を入れ替えたのか、もしくは入れ替えていない画像が一目瞭然になります。

詳しい操作については、本書の「2-7.　テンプレート保存の方法」2-21 ページをご覧ください。

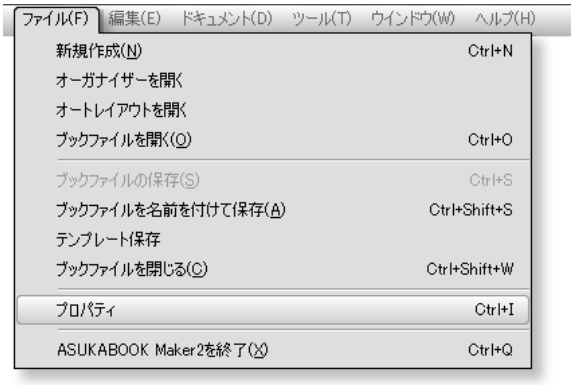
⑧ ブックファイルを閉じる

ASUKABOOK Maker2 を終了せずに、ブックファイルのみを閉じる場合は、ASUKABOOK Maker2 のメインメニュー「ファイル」から「ブックファイルを閉じる」をクリックしてください。

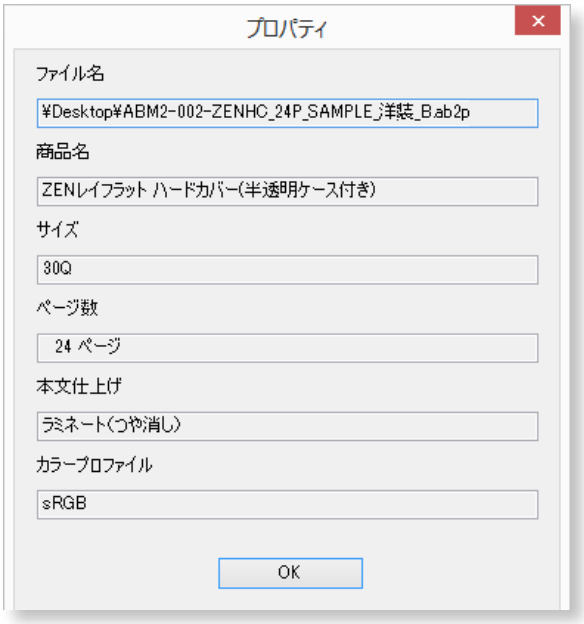
操作については、本書の「2-6.　ブックファイルの開き方」2-20 ページをご覧ください。

⑨ プロパティ

「プロパティ」は、ブックファイルの仕様を確認する項目です。



フォルダのパスを含むファイル名、ブックの商品名、サイズなどの情報が表示されます。



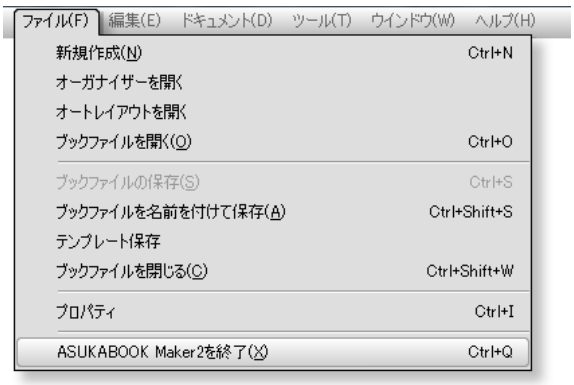
⑩ ASUKABOOK Maker 2 を終了する

ABM2 を終了する場合は、メインメニューの「ファイル」から「ASUKABOOK Maker 2 を終了」をクリックしてください。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「Q」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「Q」



3-2-3.　編集

「元に戻す」、「やり直し」、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「削除」など、編集に関する項目がまとめられています。

① 元に戻す

編集作業を直前の状態に戻します。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「Z」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「Z」

●作業内容により「元に戻す」が効かないものもあります。

●編集パレットでの作業内容を元に戻す場合は、編集パレットを選択した状態で「元に戻す」を実行してください。他のパレットやウインドウが選択されている状態では、「元に戻す」は動作しません。

② やり直し

元に戻した作業を、もう一度やり直します。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「Shift」＋「Z」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「Shift」＋「Z」

●作業内容により「やり直し」が効かないものもあります。

●編集パレットでの作業内容をやり直す場合は、編集パレットを選択した状態で「やり直し」を実行してください。他のパレットやウインドウが選択されている状態では、「やり直し」は動作しません。

③ カット

選択したオブジェクト（画像、図形、文字）を取り除きます。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「X」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「X」

●「カット」をクリックすると、ABM2 は選択したオブジェクトを編集パレットから取り除き、一時的に記憶します。記憶した内容は「ペースト」で他のページなどに張り込むことができます。

●「カット」で記憶した内容は、次に新たな「カット」および「コピー」を行うまで有効です。

④ コピー

選択したオブジェクト（画像、図形、文字）をコンピュータに記憶させます。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「C」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「C」

●「コピー」をクリックすると、ABM2 は選択したオブジェクトを一時的に記憶するだけで、外見上は何の動作も起こりません。記憶した内容は「ペースト」で他のページなどに張り込むことができます。

●「コピー」で記憶した内容は、次に新たな「カット」および「コピー」を行うまで有効です。

⑤ ペースト

「カット」、および
「コピー」で記憶したオブジェクトを張り込みます。

●ショートカットキーは

macOSの場合　「command」＋「V」

Windowsの場合　「Ctrl」＋「V」

⑥ 画像加工のペースト

画像に施した「画像加工」の効果のみを、他の画像にコピーする時に使用します。

画像加工の詳しい操作については、本書の「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。

手順 1　記憶させたい画像加工が施されている画像を選択

記憶させたい画像加工が施されている画像をクリックして選択します。

手順2　「コピー」をクリック

メインメニューの「編集」から「コピー」をクリックします。

手順3　画像加工の内容をコピーしたい画像をクリック

画像加工の内容をコピーしたい画像をクリックして選択します。

手順4　「画像加工のペースト」をクリック

メインメニューの「編集」から「画像加工のペースト」をクリックします。

「手順 2」で記憶させた画像加工の内容（ドロップシャドウ）だけがコピーされました。

⑦ 削除

選択したオブジェクトを削除します。

⑧ すべてを選択

編集パレットにレイアウトされている全てのオブジェクトを選択します。

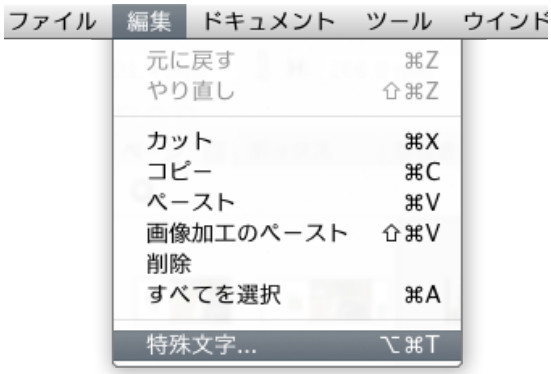
⑨ 特殊文字

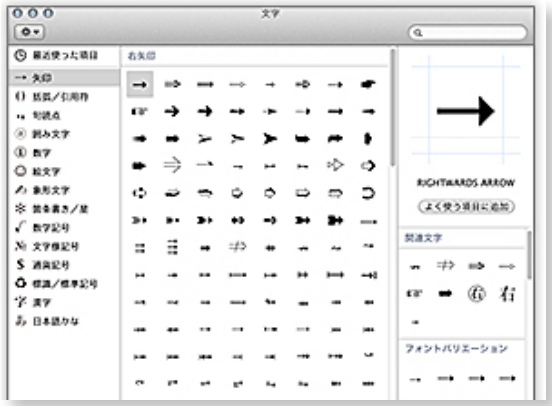
macOSの場合

各種の矢印、学術記号などの特殊文字を入力する時に使用します。

●この機能は macOS 版のみの機能です。Windows 版にはこの機能はありません。

●特殊文字ダイアログで選択した文字が実際に表示できるかどうかは、選択したフォントに依存します。表示できない文字、記号もありますので、使用の際にはご注意ください。





3-2-4.　ドキュメント

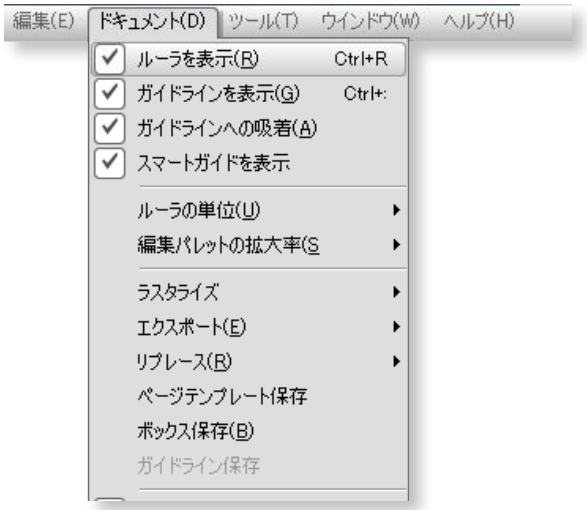
ルーラーやガイドライン、または編集画面の拡大率など、ページの編集に関する項目がまとめられています。

① ルーラーを表示

「ルーラー を表示」にチェックを入れると、編集パレットにルーラー（定規）が表示されます。

●初期設定は、「ルーラーを表示」にチェックが入っています。

ルーラーについては、本書の「4-12-1.　ルーラー（定規）の使用」4-29 ページをご覧ください。



② ガイドラインを表示

ガイドラインを表示させます。

ガイドラインを利用すると、画像、文字、図形を正確な位置に配置したり、揃えて配置することができます。

●初期設定は、「ガイドラインを表示」にチェックが入っています。

●ガイドラインは、ブックファイル（「ab2」ファイル）と共に保存されます。

ガイドラインの使用方法については、本書の「4-12-4.　ガイドラインの利用」4-31 ページをご覧ください。

③ ガイドラインへの吸着

ガイドラインには吸着の機能があり、オブジェクト（画像、図形、文字）や、ページの端部、中心部に対して吸着します。

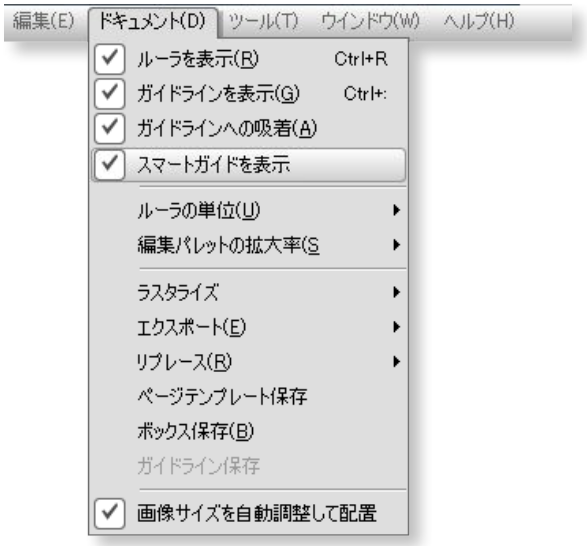
●初期設定は、「ガイドラインへの吸着」にチェックが入っています。

ガイドラインの吸着については、本書「4-12-4.　ガイドラインの利用」の「③ ガイドラインの吸着について」4-33 ページをご覧ください。

④ スマートガイドを表示

スマートガイドを表示します。

チェックを外すとスマートガイドの機能はオフになります。

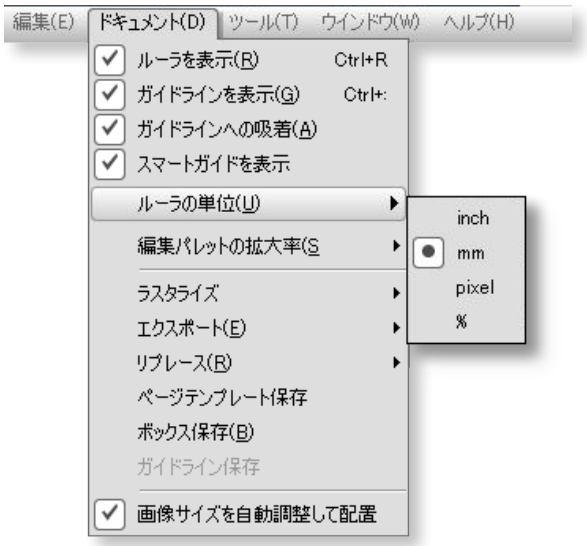


●初期設定は、「スマートガイドを表示」にチェックが入っています。

スマートガイドの使い方については、本書の「27.　スマートガイド」27-1 ページをご覧ください。

⑤ ルーラーの単位

ルーラーの単位は、「inch」、「mm」、「pixel」、「%」、のいずれかを選択してください。



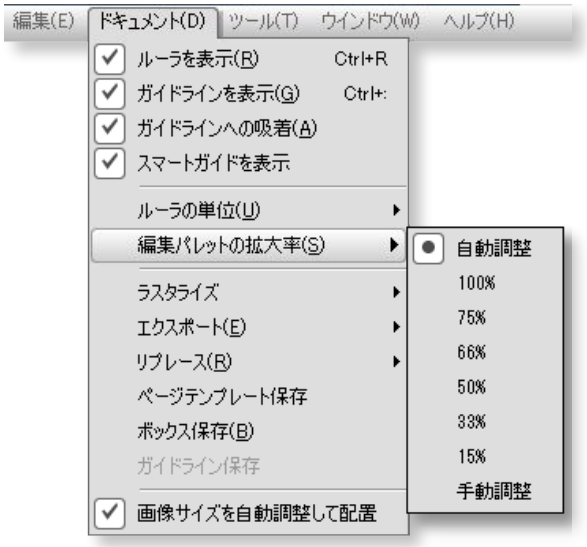
●初期設定は、「mm」になっています。

●単位の設定はブックファイルの全ページに反映されます。

ルーラーの単位については、本書の「4-12-2.　ルーラーの単位」4-29 ページも併せてご覧ください。

⑥ 編集パレットの拡大率

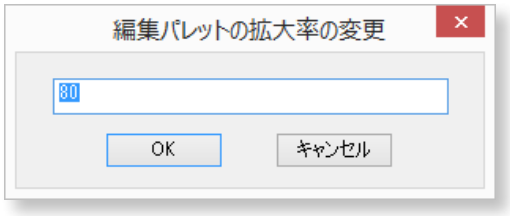
編集パレットに表示されているページの表示拡大率を変更できます。



●初期設定は、「自動調整」になっています。自動調整は、ブックのサイズ、ページの種類に応じてページ全面が編集パレットに対してジャストフィットするように動作します。

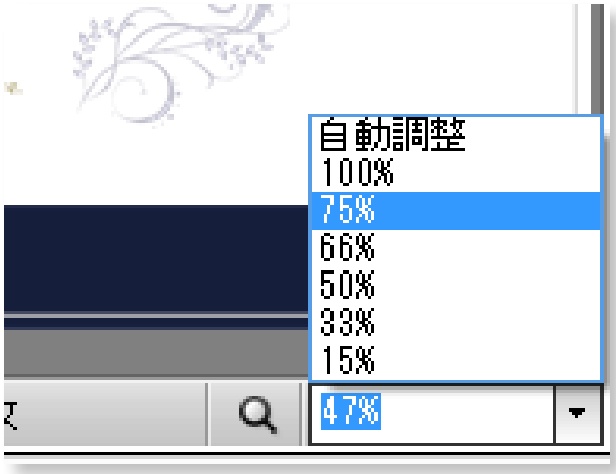
●拡大率「100%」は、お使いのモニタに対して設定している解像度（横×縦のピクセル数）から計算して、ブックサイズが実際の大きさに近似するようになります。

●サブメニューの「手動調整」を選択すると、右図のようなダイアログが表示されます。この時に表示されている数値が現在の拡大率です。（右図の場合は 36% になっています）
目的の拡大率を入力して、「OK」をクリックしてください。



●最大 400% まで入力できます。

●編集パレットの右下には表示拡大率が常時表示されています。この欄をクリックしても同様のサブメニューが表示されます。
また、数値入力による拡大率の調整も行えます。



⑦ ラスタライズ

文字ツールで入力した文字をラスタライズする時に使用します。

●「このページのテキストをラスタライズ」

現在表示しているページのテキストのみをラスタライズする時に使います。

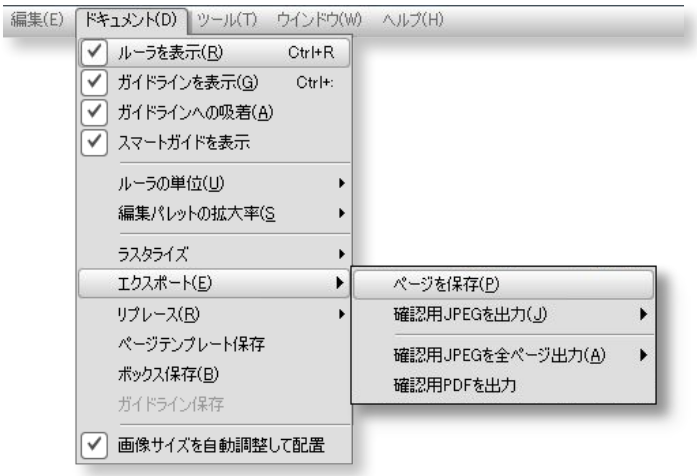
●「全ページのテキストをラスタライズ」

すべてのページに入力されているテキストを一括してラスタライズする時に使います。

文字のライタライズについての詳細は、
「17.　文字の入力」17-1 ページをご覧ください。

⑧ エクスポート

現在表示しているページの情報を書き出すことができます。



●「ページを保存」

写真に施したエフェクト（画像加工の情報）や、背景色も含めて保存したい場合には「ページを保存」をご利用ください。

詳しくは、本書の「6-7.　エクスポート／ページを保存」
6-7 ページをご覧ください。

●「確認用 JPEG を出力」

●「確認用 JPEG を全ページ出力」

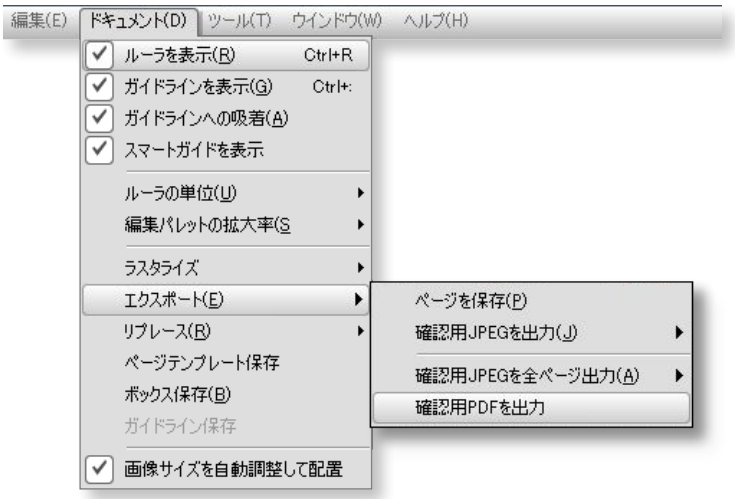
レイアウト編集結果を視覚的に確認するために、「確認用 JPEG 画像」を出力できます。
ページを個別に出力する方法と、全ページをまとめて出力する方法があります。

- 「JPEG 出力（サイズ大）」を選択した場合は拡大率 80% として出力されます。
- 「JPEG 出力（サイズ小）」を選択した場合は拡大率 30% として出力されます。

詳しくは、本書の「6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力」6-9 ページをご覧ください。

●「確認用 PDF を出力」

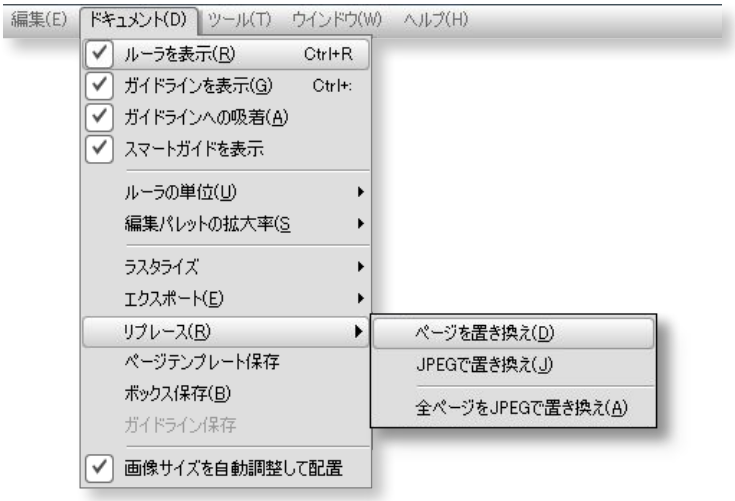
「注文用 PDF」の解像度を低くすることでファイル容量を大幅に削減した PDF ファイルを出力します。
E メールを使ってクライアントとのデザイン確認を行いたい場合などにご利用ください。



- ファイル容量は　注文用 PDF の約 1/10 になり、解像度は 25%（67.8dpi）になります。

⑨ リプレース

現在表示しているページを他のファイルで置き換えることができます。



●「ページを置き換え」

ページ保存したファイルを呼び出すことを「ページを置き換え」といいます。
「6-7.　エクスポート／ページを保存」で保存したページ情報ファイルを呼び出す時に使用します。

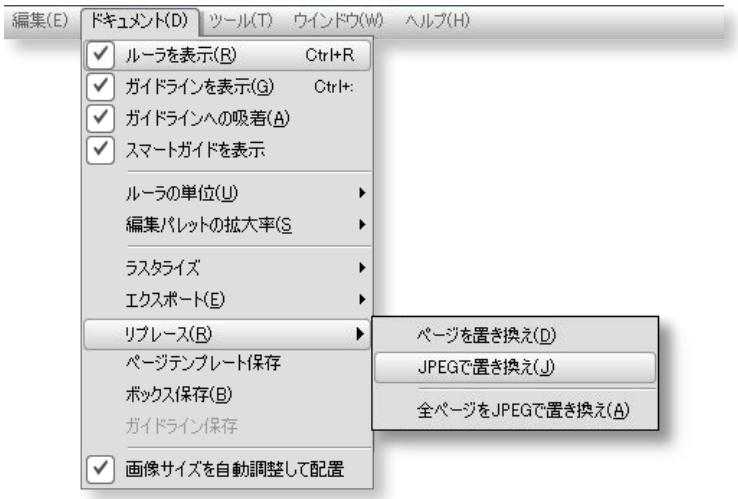
- 置き換えができるのは、ブックの縦横比が同じもののみです。

詳しくは、本書の「6-9.　リプレース／ページを置き換え」6-13 ページをご覧ください。

●「JPEG で置き換え」

ページ単位で画像をレイアウトする時に便利な機能です。

詳しくは、本書の「6-10.　リプレース／JPEG で置き換え」6-15 ページをご覧ください。

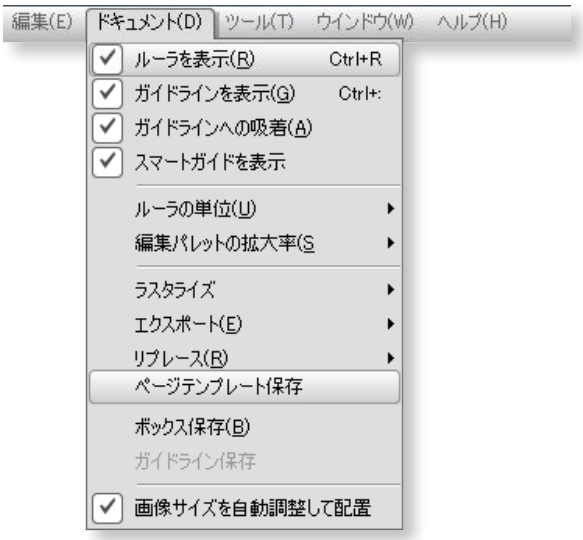


●「全ページを JPEG で置き換え」

全ページを一度に JPEG 画像で置き換える時に使います。

⑩ ページテンプレート保存

ご自分で作成したページレイアウトをテンプレートとして保存しておくことができます。

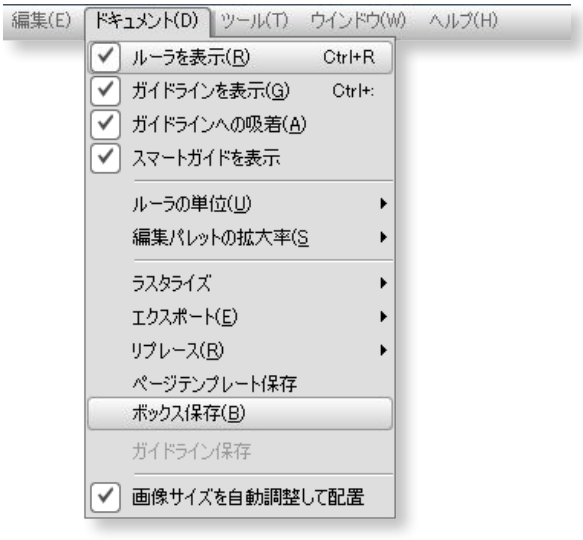


「ページテンプレート」については、本書の「14.　ページテンプレートタブ」14-1 ページをご覧ください。

⑪ ボックス保存

ご自分で作成したレイアウトのボックスのみを保存しておくことができます。

●レイアウトに便利なボックス機能は、ABM2 で最も利用されている機能の一つです。



「ボックス保存」については、本書の「6-11.　ボックス保存」6-17 ページをご覧ください。

⑫ 画像サイズを自動調整して配置

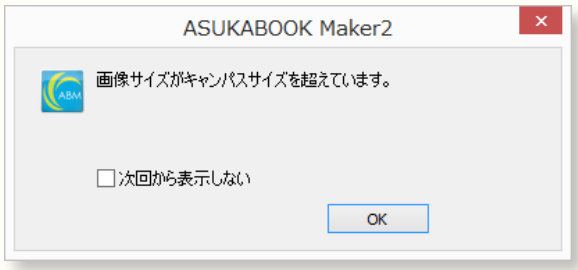
ブックサイズよりはみ出るような画素数の大きな画像を扱う場合、ページ寸法内に収まるように自動サイズ調整機能が働きます。

●初期設定は、自動サイズ調整機能がオン（チェックが入った状態）になっています。

自動サイズ調整機能の基本的な設定については、本書「3-2-1.　環境設定」「④ 環境設定／動作」の「④ -4.　画像サイズを自動調整して配置」3-7 ページも併せてご覧ください。

解　説　画像拡大サイズを自動調整して配置」の動作について

もし、レイアウトに使う画像の寸法がドキュメントサイズ（今お使いのホワイトベースの寸法）より大きい場合、ABM は右図のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックしてください。

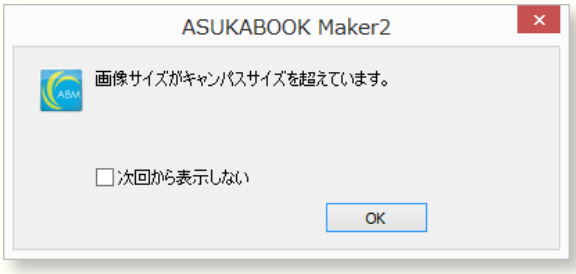


この場合、画像はホワイトベースにジャストフィットするように縮小されます。

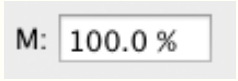
右図の例では、画像がホワイトベースの縦寸法にフィットにします。またその時の拡大率は「93.1%」となりました。

「ドキュメント」の「画像サイズを自動調整して配置」のチェックをはずします。

ホワイトベースより寸法の大きな画像を配置すると、まず右図のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックしてください。

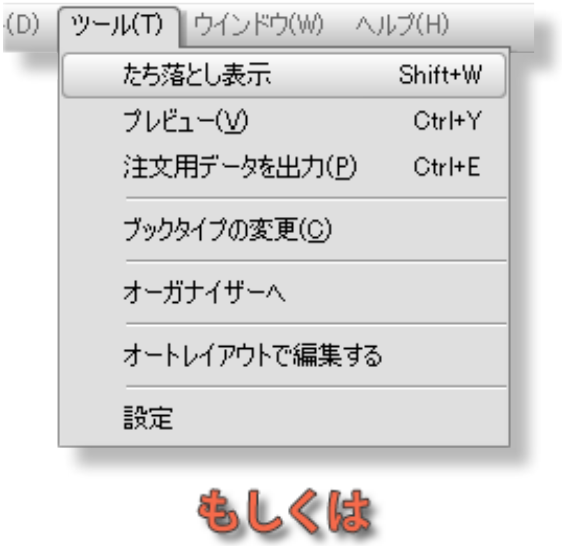


この場合、画像はホワイトベースにジャストフィットされずに配置されます。
右図の例では、画像がホワイトベースの縦寸法よりはみ出しています。この時の拡大率は調整されないため「100%」となります。



3-2-5.　ツール

ブックの「プレビュー」、「PDF 出力」、「ブックタイプの変更」など、製本に関する項目がまとめられています。



① たち落とし表示

ABM2.2 より「たち落とし表示」機能が追加されました。

●初期設定は、たち落とし表示がオフになっています。

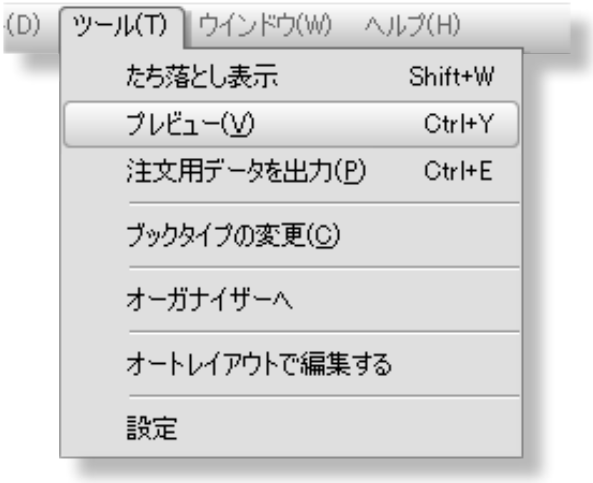
「たち落とし表示」の詳細については、本書の「4-1-3.　仕上がりサイズ と たち落とし」4-3 ページをご覧ください。

もしくは

② プレビュー

「プレビュー」とは、レイアウトをモニタ上に全画面表示して各ページを確認できる機能です。

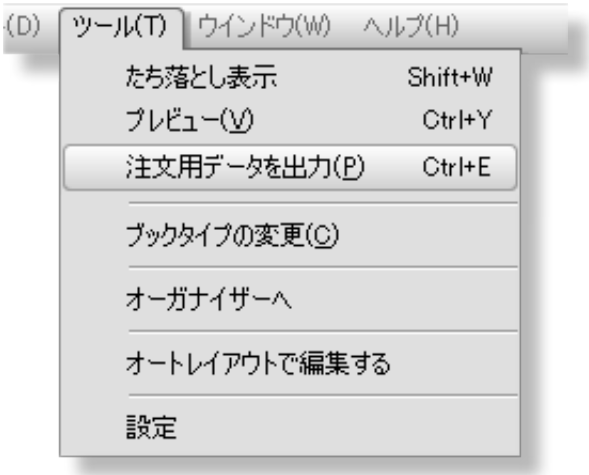
製本された状態に近いプレビューがご覧いただけますので、注文用 PDF を作成する前に、プレビューにて仕上がりのイメージをご確認いただくことができます。



「プレビュー」の詳細については、
本書の「18-4.　バーコードの印刷廃止について」18-2 ページをご覧ください。

③ 注文用データを出力

レイアウトが終わったブックファイルから、注文用 PDF ファイルを出力します。



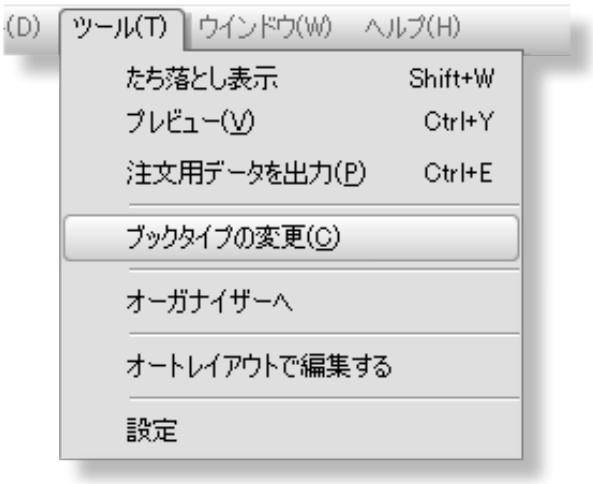
もしくは

もしくは、ツールバーの「注文用データを出力」ボタンをクリックしても同様です。

「注文用データを出力」の詳細については、本書「20-2.　注文用データを出力」20-4 ページをご覧ください。

④ ブックタイプの変更

「ブックタイプの変更」では、商品の種類、サイズ、ページ数の変更が行えます。
この際、変更元のファイルはそのまま保存され、変更した結果をコピーとして別のフォルダに書き出します。

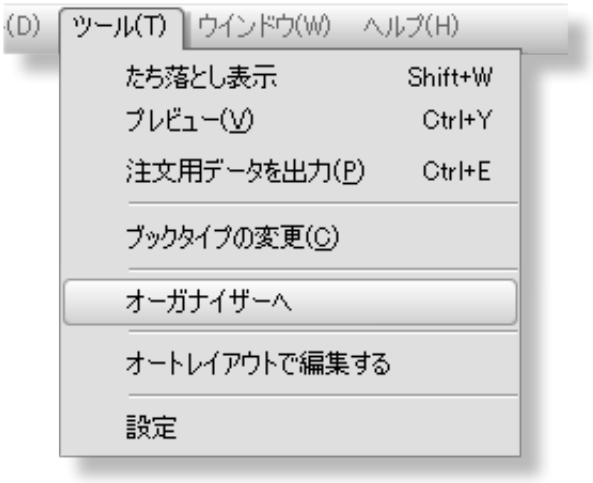


「ブックタイプの変更」の詳細については、本書の「24-1. 「ブックタイプの変更」の使い方」24-1 ページをご覧ください。

もしくは、ツールバーの「ブックタイプの変更」ボタンをクリックしても同様です。

⑤ オーガナイザーへ

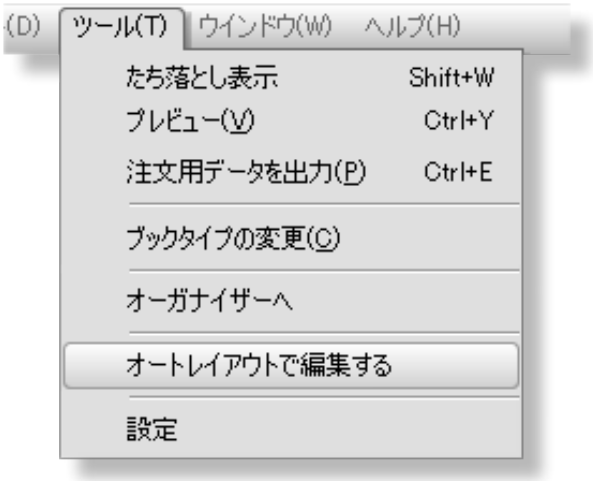
「オーガナイザー」の編集用画面に移動します。



「オーガナイザー」については「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。

⑥ オートレイアウトで編集する

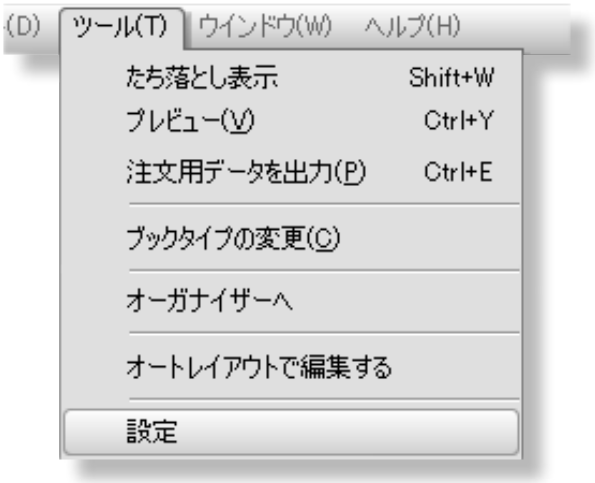
「オートレイアウト」編集用画面に移動します。



「オートレイアウト」については「25.　レイアウト確認システム」25-1 ページをご覧ください。

⑦ 設定

ABM2 の環境設定を行います。



「設定」の詳細については「3-2-1.　環境設定」3-2 ページをご覧ください。

3-2-6.　ウインドウ

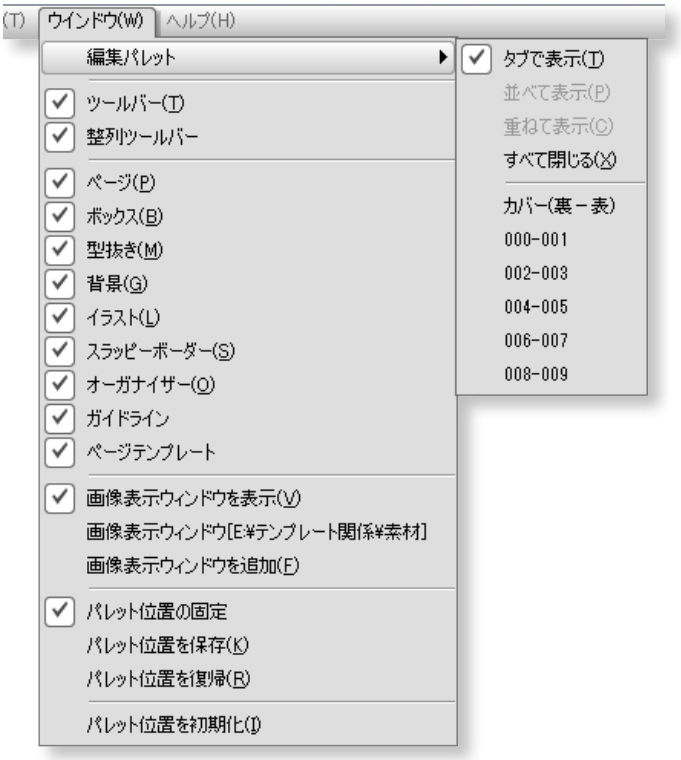
ASUKABOOK Maker2 のウインドウ、パレットの配置、表示の有無に関する項目がまとめられています。

① 編集パレット

「編集パレット」の表示方法、ページの表示切り替えなどが行えます。

●初期設定では、「タブで表示」がオンになっており、各ページのタブを使って表示切り替えを行うように設定されています。

●「タブで表示」のチェックを外すと、各ページを並べて表示できます。高解像度・大型のモニタをご使用の場合は各ページを見比べながら作業を行えます。



「タブで表示」がオン
初期設定の状態

「タブで表示」がオフ
「並べて表示」を実行した状態

「タブで表示」がオフ
各ページを無作為に作業している状態

② ツールバー

「ツールバー」の表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「ツールバー」の詳細については「15-1.　ツールバー」15-1 ページをご覧ください。

③ 整列ツールバー

「整列ツールバー」の表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「整列ツールバー」の詳細については「15-2.　整列ツールバー」15-6 ページをご覧ください。

④ ページ

デザインパレットの「ページ」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「ページ」タブの詳細については「6.　ページ」6-1 ページをご覧ください。

⑤ ボックス

デザインパレットの「ボックス」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「ボックス」タブの詳細については「7.　ボックス」7-1 ページをご覧ください。

⑥ 型抜き

デザインパレットの「型抜き」タブの表示･非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「型抜き」タブの詳細については「8.　型抜き」8-1 ページをご覧ください。

⑦ 背景

デザインパレットの「背景」タブの表示･非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「背景」タブの詳細については「9.　背景」9-1 ページをご覧ください。

⑧ イラスト

デザインパレットの「イラスト」タブの表示･非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「イラスト」タブの詳細については「10.　イラストタブ」10-1 ページをご覧ください。

⑨ スラッピーボーダー

デザインパレットの「スラッピーボーダー」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

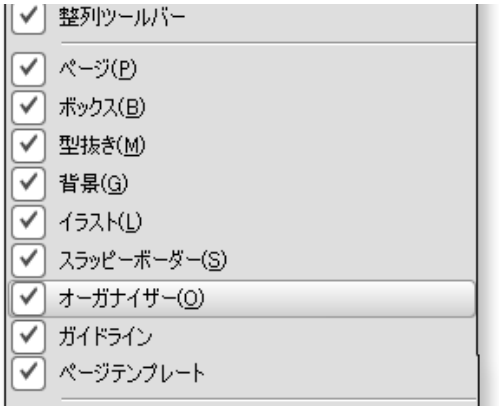
「スラッピーボーダー」タブの詳細については「11.　スラッピーボーダータブ」11-1 ページをご覧ください。

⑩ オーガナイザー

デザインパレットの「オーガナイザー」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「オーガナイザー」タブの詳細については「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。

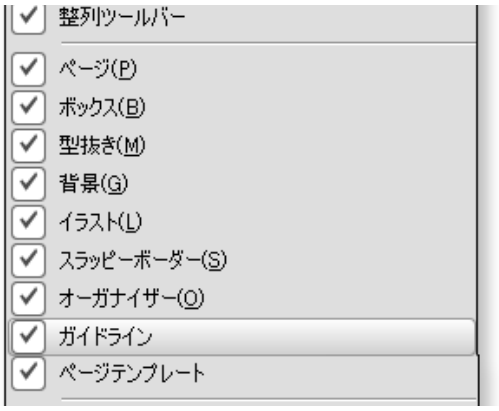


⑪ ガイドライン

デザインパレットの「ガイドライン」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「ガイドライン」タブの詳細については「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。

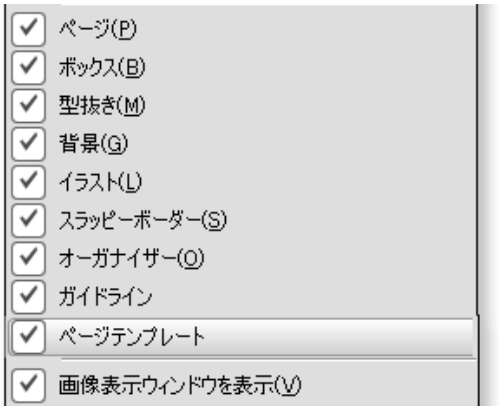


⑫ ページテンプレート

デザインパレットの「ページテンプレート」タブの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

「ページテンプレート」タブの詳細については「14.　ページテンプレートタブ」14-1 ページをご覧ください。

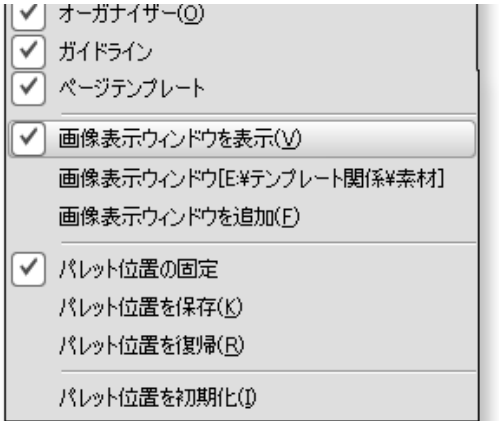


⑬ 画像表示ウインドウを表示

「画像表示ウインドウ」そのものの表示・非表示を切り替えます。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています

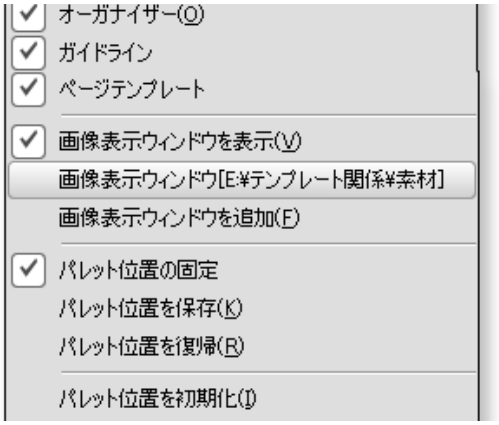
「画像表示ウインドウ」タブの詳細については「5.　画像表示ウインドウ」5-1 ページをご覧ください。



●「画像表示ウインドウ」に複数のフォルダが開かれている場合に、そのフォルダ表示を切り替えるためのメニューです。

●右図の例では、「E」ドライブの内部の「テンプレート関係」フォルダの中の［素材］というフォルダが選択されています。

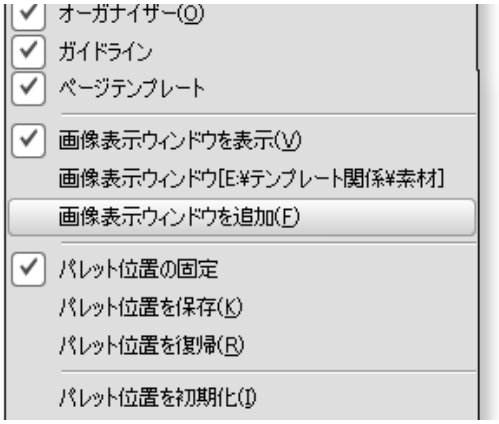
●「画像表示ウインドウ」は表示の幅が狭いため、3つ程度のフォルダを開くとフォルダ名が見にくくなってしまいます。
そのような場合は、この「ウインドウ」メニューを使うとフォルダ名が分かりやすく、切り替えに便利です。



⑭ 画像表示ウインドウを追加

「画像表示ウインドウ」はいくつでも追加することができます。セレクトした画像をフォルダ別に分けた場合など、そのフォルダごとに画像表示ウィンドウにタブとして読み込んでおき、タブを切り替えて使うことができます。

「画像表示ウインドウ」の追加についての詳細は、本書の「5-2.　画像表示ウインドウを追加」5-3 ページをご覧ください。

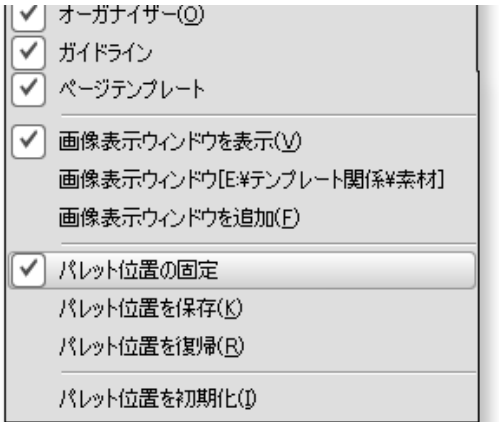


⑮ パレット位置の固定

「画像表示ウインドウ」と「デザインパレット」の位置を固定します。

●初期設定は、オン（表示状態）になっています。

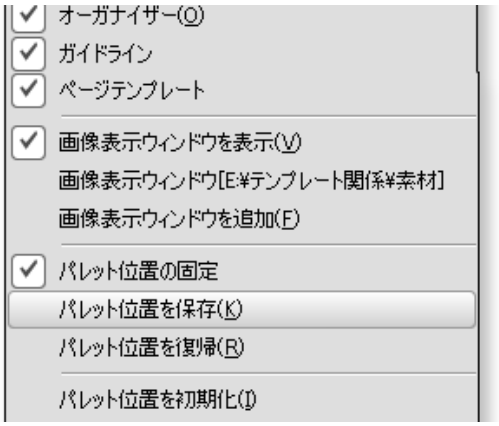
● Windows の場合はこの機能が有効ですが、macOS では無効となりますので、ご了承ください。（これは OS の仕様によるものです）。



⑯ パレット位置を保存

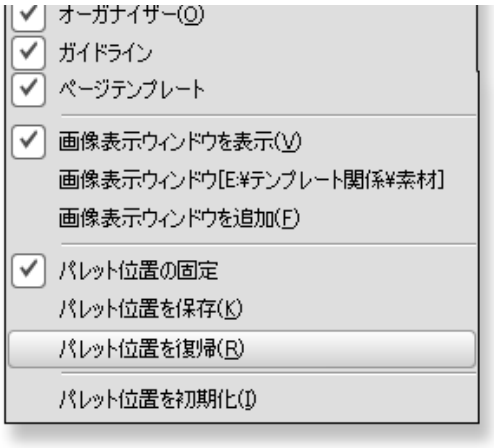
「画像表示ウインドウ」、「デザインパレット」、「ツールバー」、「整列ツールバー」の位置を保存します。

●保存されたパレット位置は「パレット位置を復帰」で呼び戻すことができます。



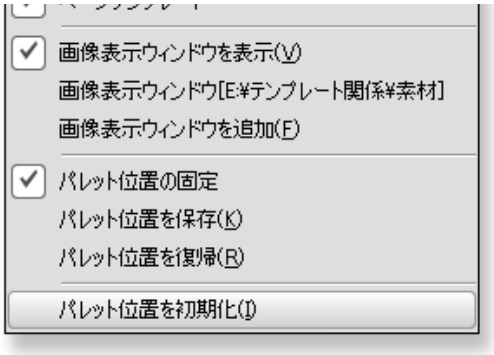
⑰ パレット位置を復帰

「パレット位置を保存」で保存した内容を呼び出します。



⑱ パレット位置を初期化

「画像表示ウインドウ」、「デザインパレット」、「ツールバー」、「整列ツールバー」の状態を、ABM2 の初期状態に戻します。



3-2-7.　ヘルプ

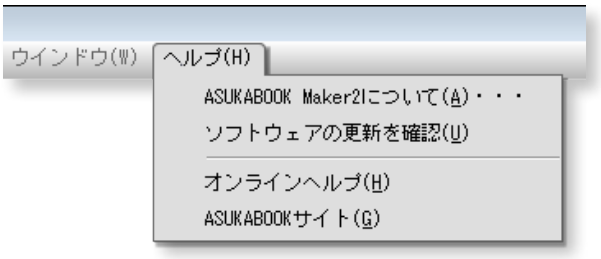
macOSの場合

ここから、「オンラインヘルプ」、「ASUKABOOK サイト」にインターネット経由で接続することができます。

Windowsの場合

ここから、「オンラインヘルプ」、「ASUKABOOK サイト」にインターネット経由で接続することができます。

● Windows 版では、ABM2 のバージョン情報の確認、「ソフトウェアの更新の確認」もこのメニューから行えます。



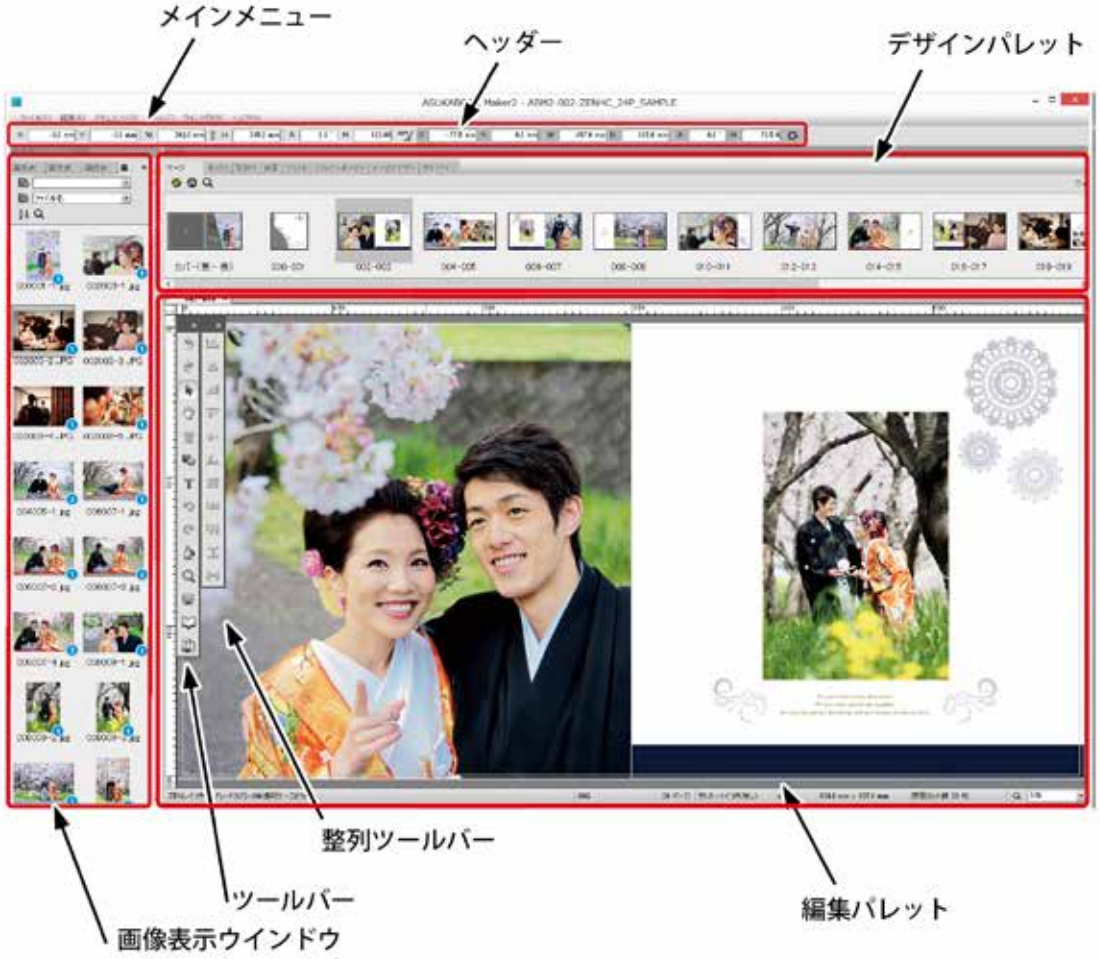
3-3.　ヘッダー

メインメニューのすぐ下にあるのが「ヘッダー」です。

ヘッダーには、オブジェクトの位置、大きさ、回転角度などの情報が表示されます。

●各表示欄は数値を入力し直すことで、オブジェクトの位置、大きさなどを変えることができます。

●ヘッダーは、選択したオブジェクトにより、表示される内容が変わります。



3-3-1.　写真を選択した場合のヘッダー

写真を選択した場合、ヘッダーは「ボックス情報」と「内部画像情報」の両方を表示します。（下図参照）

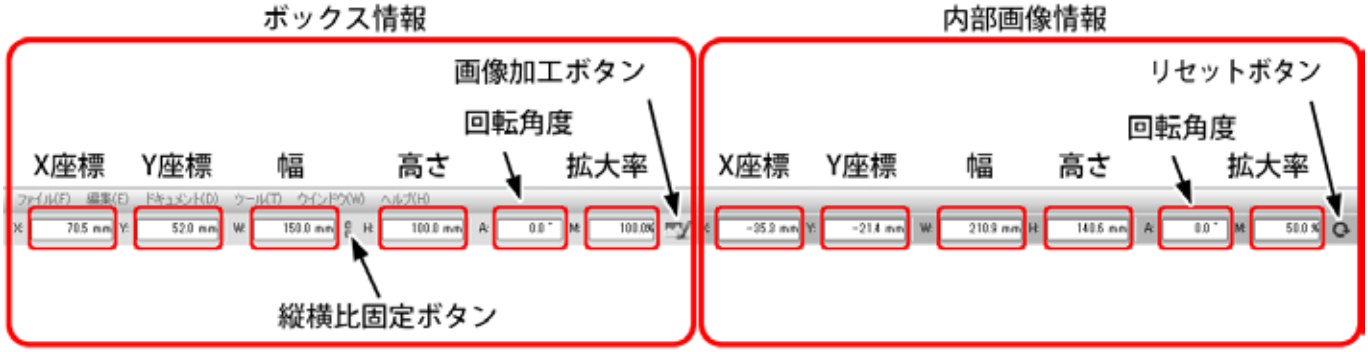
●赤枠の部分の表示欄は計算式入力ができる箇所です。

●「縦横比固定ボタン」を押すと、ボックスの縦横比を固定できます。

●「画像加工ボタン」を押すと、画像加工の機能が利用できます。

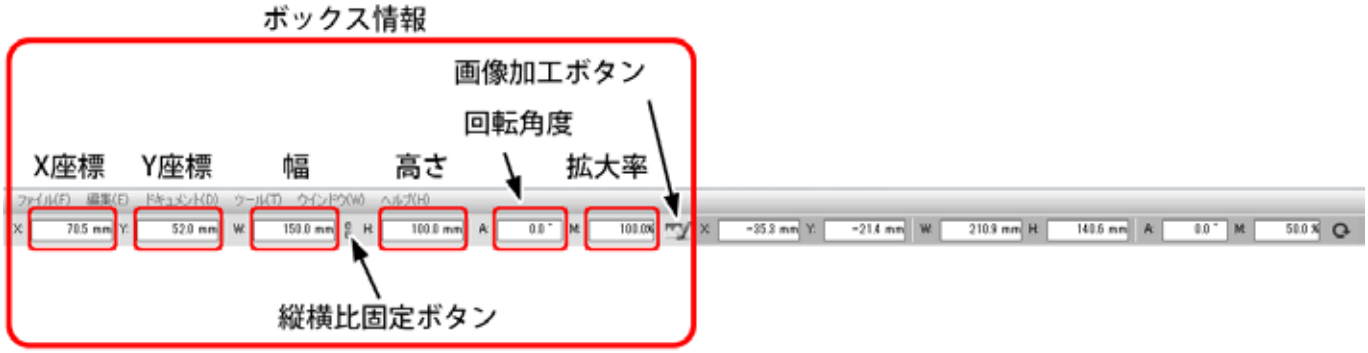
詳しくは、本書の「16.　画像加工」16-1 ページをご覧ください。

写真を選択した場合のヘッダー



①ボックス情報について

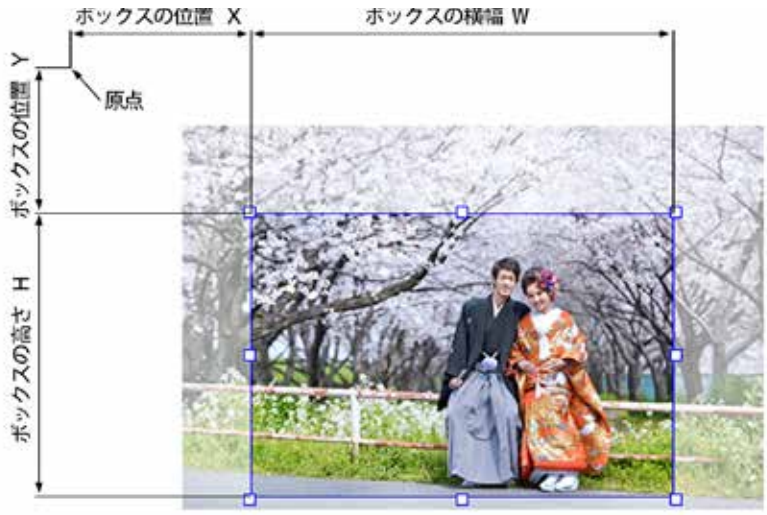
画像を選択した場合は、ヘッダーの左側（下図赤枠の部分）にボックスの情報が表示されます。



ボックス情報は右図のように構成されています。

●ボックスの位置「X」と「Y」は、編集パレットに表示されているページの原点から、ボックスの左上頂点までの距離を示します。

●ボックスの幅「W」と高さ「H」は、ボックスの外形寸法を示します。



下図はボックスを回転した状態です。

●ボックスの回転角度「A」は、1 回転を 360° で示します。
時計方向回転は「＋」、反時計方向回転は「－」記号を付けて入力することが出来ます。

●ボックスの回転中心は、ボックスの中心部となります。

●ボックスを回転した場合でも位置「X」と「Y」は、ページの原点から、ボックスの左上頂点までの距離を示します。

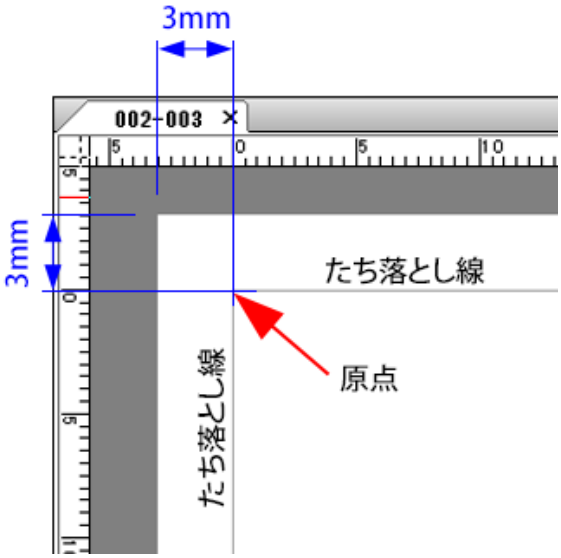
●ボックスを回転した場合でも、ボックスの幅「W」と高さ「H」は回転前と変わりません。

●原点について

X・Y 軸の原点、すなわちレイアウト領域の原点は、レイアウト領域の左上端の「たち落とし線の交点になります。

右図は「本文ページ」の場合です。

「表紙ページ」、および「ケースページ」の場合はたち落とし領域の幅が 3mm ではありません。シリーズによって異なります。



②内部画像情報について

画像を選択した場合は、ヘッダーの右側（下図赤枠の部分）に内部画像の情報が表示されます。

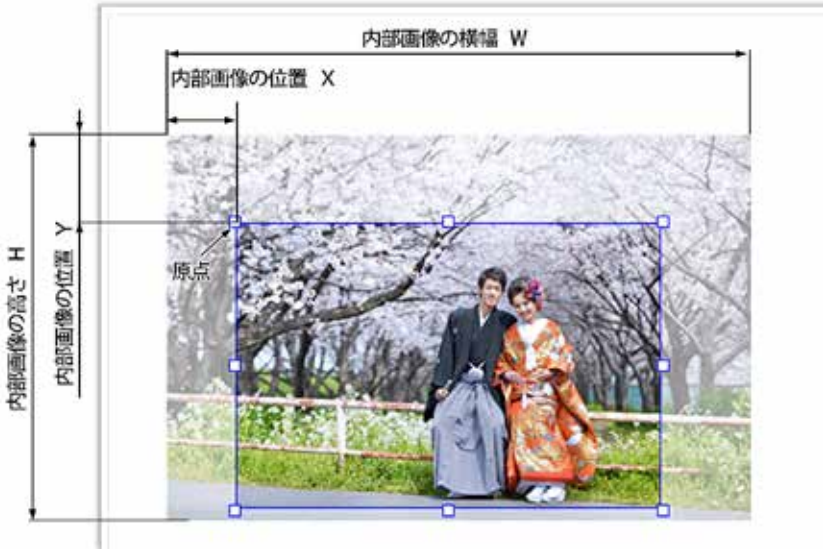
内部画像情報は右図のように構成されています。

●内部画像の位置「X」と「Y」は、ボックスの左上頂点から、画像の左上頂点までの距離を示します。

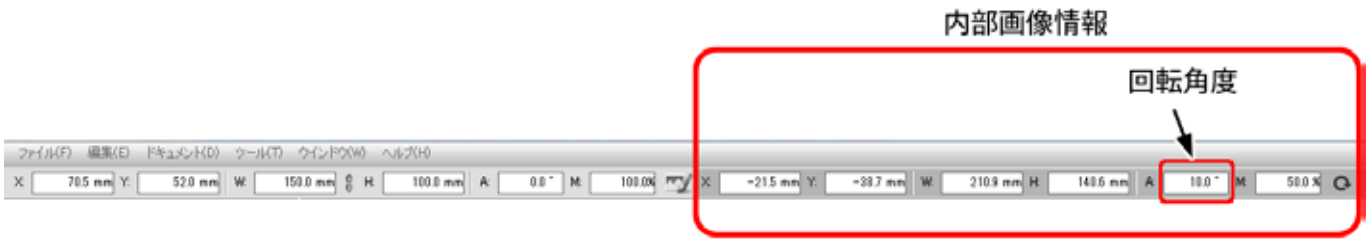
●内部画像の幅「W」と高さ「H」は、拡大もしくは縮小した状態の画像の大きさを示します。（ボックスからはみ出している部分を含みます）

●画像の拡大率は「M」欄に表示されます。

この例題では「50%」になります。



下図は内部画像を回転した状態です。

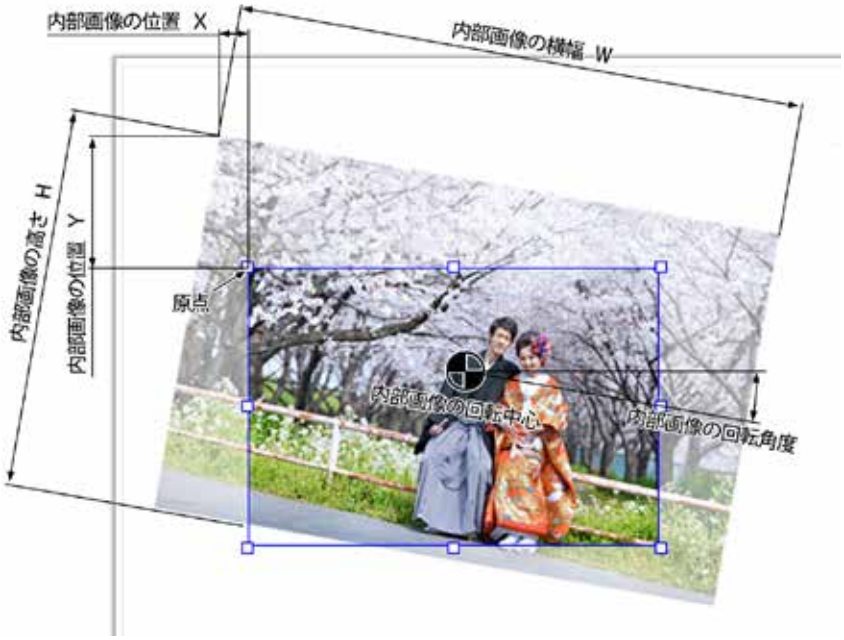


●内部画像の回転角度「A」は、1 回転を 360° で示します。
時計方向回転は「＋」、反時計方向回転は「－」記号を付けて入力することが出来ます。

●内部画像の回転中心は、内部画像の中心部となります。

●内部画像を回転した場合でも位置「X」と「Y」は、ボックスの原点から、内部画像の左上頂点までの距離を示します。

●内部画像を回転した場合でも、画像の幅「W」と高さ「H」は回転前と変わりません。



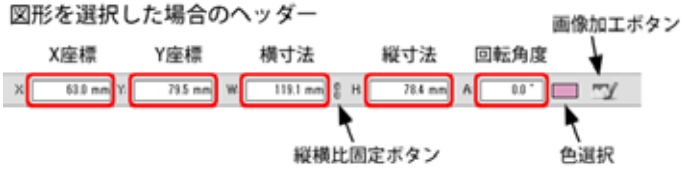
写真画像の位置、大きさ、回転、拡大率を変更する操作については、本書の「4.　基本操作」4-1 ページで詳しく解説しています。ご一読ください。

3-3-2.　図形を選択した場合のヘッダー

図形を選択した場合、ヘッダーは下記のようになります。

●赤枠の部分の表示欄は計算式入力ができる箇所です。

●「縦横比固定ボタン」を押すと、図形表示枠の部分の縦横比が固定できます。



「色選択」を押すと、図形の色を変更することができます。詳しくは、本書の「19.　色選択について」19-1 ページをご覧ください。

「画像加工ボタン」を押すと、画像加工の機能が利用できます。詳しくは、本書の「16.　画像加工」16-1 ページをご覧ください。

3-3-3.　文字を選択した場合のヘッダー

文字を選択した場合、ヘッダーは下記のようになります。

●赤枠の部分の表示欄は計算式入力ができる箇所です。

文字を選択した場合のヘッダー

文字の入力についての詳細は、本書の「17.　文字の入力」17-1 ページをご覧ください。

3-3-4.　ヘッダーでの計算式入力

オブジェクト（写真、図形、文字列）を選択するとそのオブジェクトの位置、大きさ、回転角度、拡大率などがヘッダーに表示されます。この数値を変更する時に計算式が使えます。

例えば、「7 ミリ右側に移動したい」場合は、「＝＋7」と入力することができます。

例　題　写真を左方向に 7 ミリ移動する

手順 1　移動したい写真を選択

移動したい画像を選択します。

手順 2　「X 座標」欄をクリック

ヘッダーの「X 座標」欄をクリックします。

X 座標欄の数値が全選択されます。

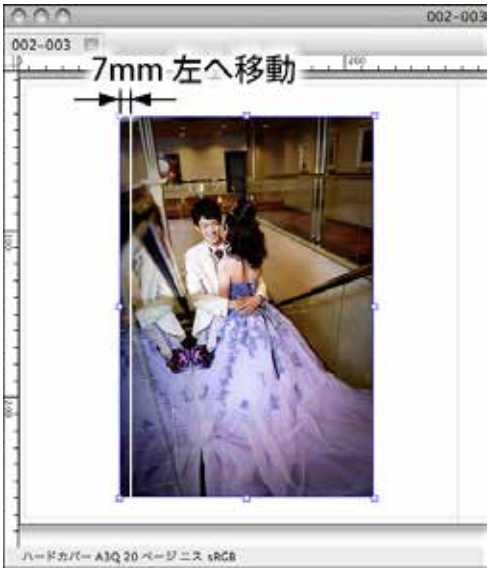
手順 3　移動量を入力

キーボードから　＝、－、7　と入力し、「Enter」キーを押します。

●入力は、必ず全選択状態から行ってください。

計算結果として X 座標欄には「63.9」と表示されます。

同時に選択した写真が左方向に 7 ミリ移動します。



アドバイス！

●左方向への移動は「－」、右方向への移動は「＋」、
上方向への移動は「－」、下方向への移動は「＋」になります。

寸法の単位は、ルーラーに設定している単位に従います。
詳しくは、本書の「4-12-2.　ルーラーの単位」4-29 ページをご覧ください。

3-3-5.　オブジェクトの縦横比の固定

オブジェクトの縦横比を固定してから、位置や大きさを変更することができます。

●この機能は数値入力時のみ有効です。マウス操作時はマウスポインタの動きが優先されます。

例　題

写真の縦横比を固定した状態で、写真の横幅を 5 ミリ広げる

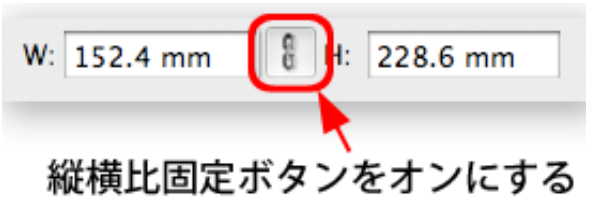
手順 1　移動したい写真を選択

移動したい画像を選択します。

手順2　「縦横比固定」ボタンをオンにする

右図は「縦横比固定」ボタンがオフの状態です。

「縦横比固定」ボタンをクリックしてオンの状態にします。



手順3　「横寸法」欄をクリック

次に、ヘッダーの「横寸法」欄をクリックします。

横寸法欄の数値が全選択されます。

手順4　移動量を入力

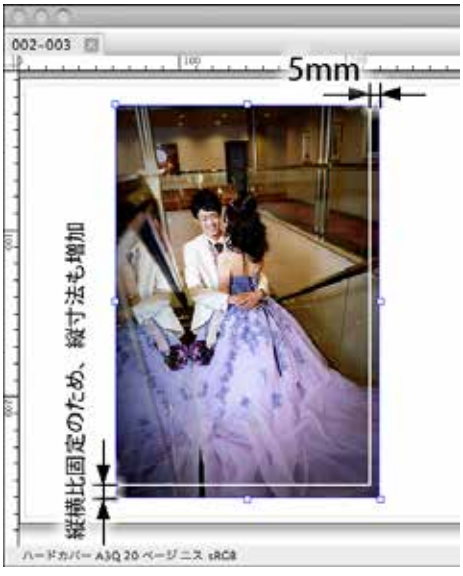
キーボードから　「=」、「+」、「5」と入力し、「Enter」キーを押します。

●入力は、必ず全選択状態から行ってください。

計算結果として横寸法欄には「157.4」と表示されます。

同時に選択した写真の横幅が 5 ミリ増加しました。

縦横比を固定していますので、縦寸法も比率に応じて増加します。



アドバイス！

●寸法を小さくする場合は「−」、大きくする場合は「+」になります。

寸法の単位は、ルーラーに設定している単位に従います。
詳しくは、本書の「4-12-2.　ルーラーの単位」4-29 ページをご覧ください。

3-4. 編集パレット

「編集パレット」は、写真画像や文字のレイアウトを行う部分です。

3-4-1. ページドキュメントタブ

編集パレット内に同時に開いているページドキュメントを示します。このタブをクリックすると、即座に該当するページを表示します。

●同時に開いておけるページドキュメントの数は、初期設定では「6」となっています。

同時に開けるページドキュメントの設定を変更する場合は、本書の「3-2.　メインメニューの解説」、「3-2-1.　環境設定」、「④ 環境設定／動作」、「④ -5.　同時に開けるドキュメントウインドウの数」3-8 ページをご覧ください。

3-4-2. ステータスバー

編集パレットの下部には「ステータスバー」があり、現在開いているブックのファイルの情報（商品名、サイズ、ページ数、本文仕上げ、カラープロファイルが表示されています。）

この他に、ホワイトベースの寸法（たち落としを含むレイアウト領域の寸法）、使用カット数（全ページで使用している画像の総数）、表示拡大率　が常時表示されています。

●「使用カット数」の表示について

「イラスト画像」指定を施した写真画像、および「イラスト」タブからドロップしてレイアウトした画像は使用カット数に含まれません。また、1 つの素材画像を 2 回使用している場合は、使用カット数は 2 カットと換算します。

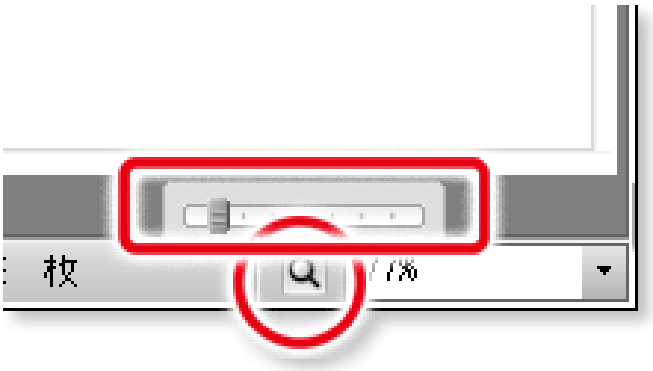
イラスト画像の指定については、本書の「21　画像選択時、余白での右クリック」21-1 ページをご覧ください。

3-4-3. 編集パレットの表示拡大率調整

編集パレットの右下には現在の「表示拡大率」を表示する領域が設けられています。

①表示拡大率調整スライダー

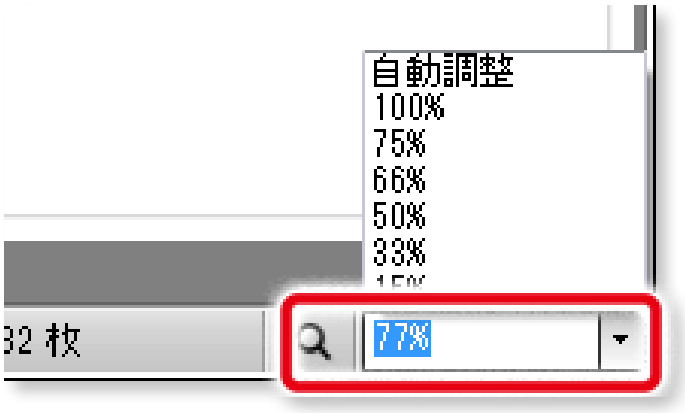
「虫眼鏡」ボタン（右図赤丸部分）をクリックするとスライダーが表示されます。マウスでドラッグすることにより、表示拡大率を調整できます。



●表示拡大率を調整できる範囲は　15% から 400%　までです。

②表示拡大率の表示欄

表示拡大率の表示欄右側の▲印をクリックし、数字を選択するとすると、その拡大率になります。



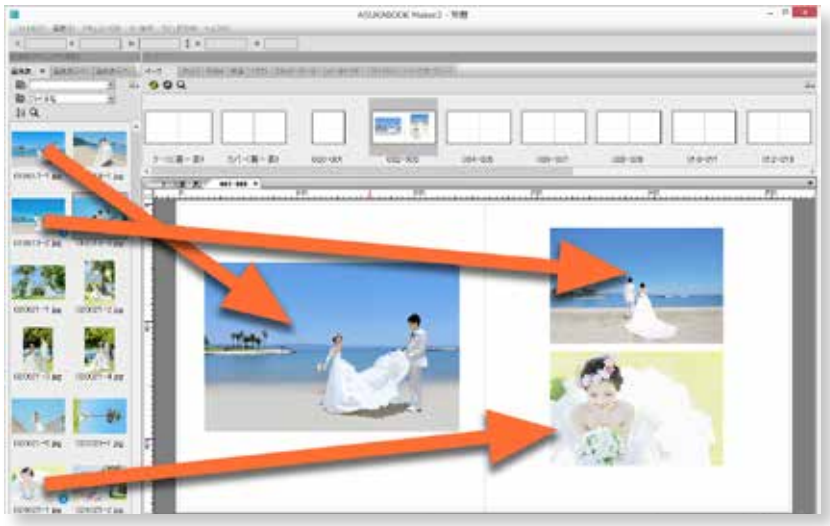
●拡大率の数値を直接入力すると、その拡大率の表示になります。入力できる数値の範囲は　15 ～ 400　です。

●「自動調整」を選択すると、ジャストフィットになります。

4.　基本操作

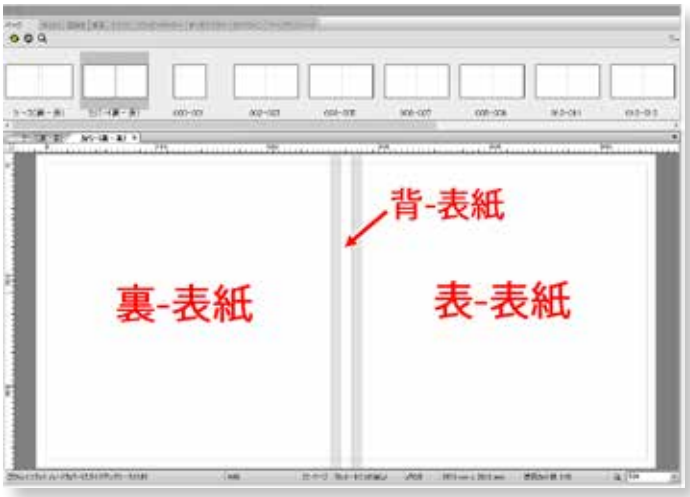
4-1.　ページ構成

ASUKABOOK Maker2 でのレイアウト作業は、編集パレット上に画像や文字を配置することによって行います。



4-1-1.　表紙ページ（カバー）

表紙ページは、デザインパレットのページタブ内では「カバー（裏 - 表）」と表記されています。

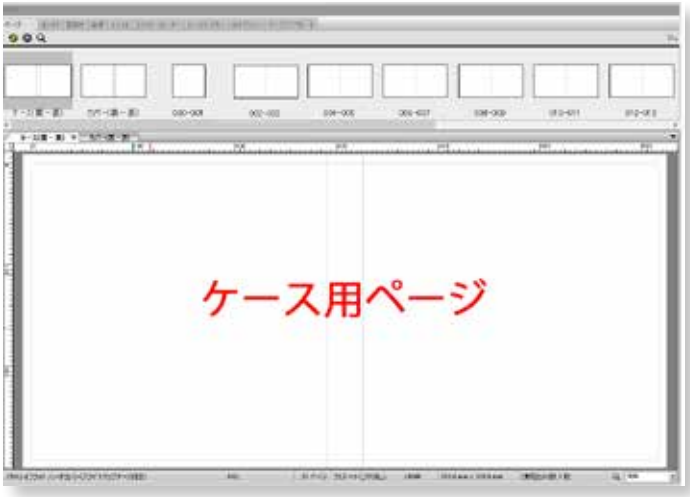


● 表紙ページは原則として、左側ページが「裏 - 表紙」、右側ページが「表（おもて） - 表紙」となります。
（「オンデマウント」など例外の商品もあります）

● 表紙ページには背（せ）の部分があり、ページ数により厚みが異なります。

● 「ART-LX（本革）」、および「ART-LX」では本の表紙は本革・合成皮革、もしくはデザイン用紙となるため、「カバー」ページはケース（箱）のデザインとなります。

● ケース（箱）にデザインができるタイプの商品では、「カバー」とは別に「ケース」というページが用意されます。



4-1-2.　本文ページ

本文ページは 3 種類から構成されます。

レイアウト時の注意事項については、本書の「18.　編集時のご注意」18-1 ページをご覧ください。

① 開始ページ

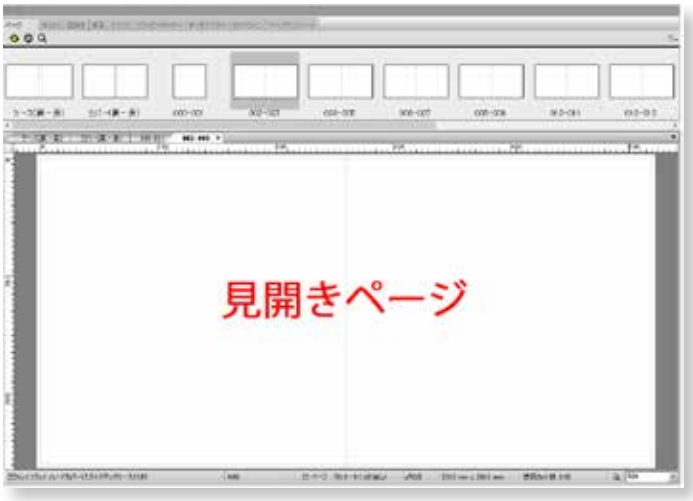
●開始ページは、デザインパレットのページタブ内では「000-001」と表記されています。

● ASUKABOOK は左開きですので、開始ページは必ず右ページになります。
（「えほん BOOK」、「ボードライト」、「SHIRONARI」など、例外の商品もあります）

② 見開きページ

●見開きページは、デザインパレットのページタブ内では「002-003」、「004-005」と表記されています。

● ASUKABOOK は左開きですので、左ページが偶数ページ、右ページが奇数ページになります。
（「えほん BOOK」、「ボードライト」、「SHIRONARI」など、例外の商品もあります）



③ 最終ページ

●最終ページは、デザインパレットのページタブ内では「060-000」（60 ページの場合）と表記されています。

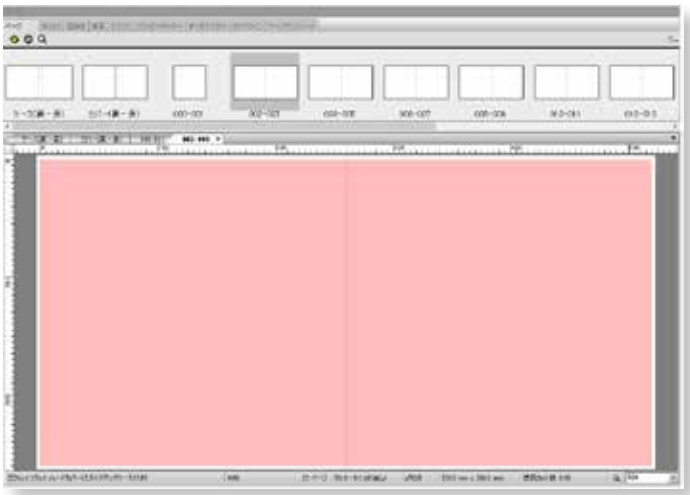
● ASUKABOOK は左開きですので、最終ページは必ず左ページになります。
（「えほん BOOK」、「ボードライト」、「SHIRONARI」など、例外の商品もあります）

4-1-3.　仕上がりサイズ と たち落とし

編集パレットでは、たち落とし部分を含めた状態で表示されます。たち落とし部分の幅は「本文ページ」の場合は上下左右共に 3mm あります。(「表紙ページ」では商品によってたち落とし領域の幅が異なります)

製本時には、仕上がりサイズの位置で断裁されます。

●右図の赤色部分が仕上がりサイズです。
（右図の赤色の表記は解説用のものであり、実際の画面には表示されていません）



●背景や写真などの画像を仕上がりサイズの端ギリギリまで配置したい場合 (たち落とし) は、仕上がりサイズを超え裁ち落とし部分 (白部分が無くなる) まで及ぶように配置してください。

ご注意

写真などを仕上がりサイズギリギリで配置すると、製本時に断裁機の誤差で紙の余白が出てしまうことがあります。

多少の断裁のずれが発生することがありますので、重要なイメージや文字は仕上がりサイズの端ギリギリへは配置しないようにしてください。 仕上がりサイズ内に写真や文字をバランス良く収めたい場合は、仕上がりサイズの端から 1 センチ近く余裕をもって配置することをお勧めします。

詳しくは本書の「18.　編集時のご注意」18-1 ページをご覧ください。

◆たち落とし表示　について

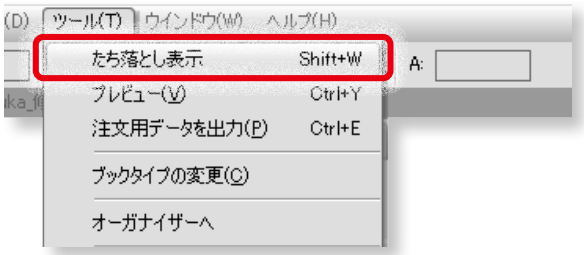
ABM2 には「たち落とし表示」機能が用意されています。

メニューの「ツール」より「たち落とし表示」をクリックすることによりたち落とし領域の表示をオン／オフできます。

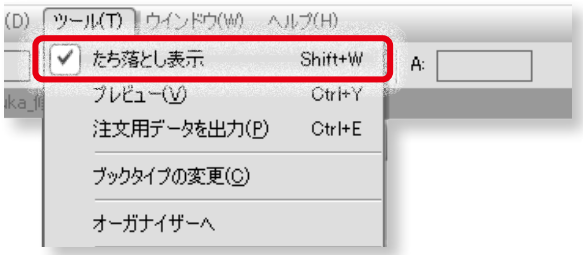
●初期設定は、「たち落とし表示」がオフになっており、たち落とし領域が表示されています。

●「たち落とし表示」をオンにするとたち落とし領域が非表示となり、「編集パレット」の表示が仕上がりに近似した状態になります。

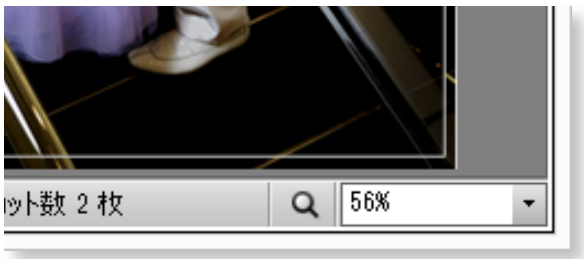
●たち落とし表示 OFF と ON の拡大図です。

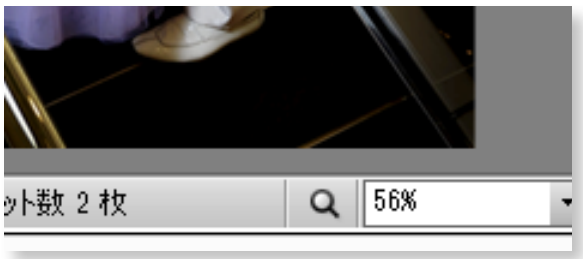


「たち落とし表示」がオフの状態



「たち落とし表示」がオンの状態



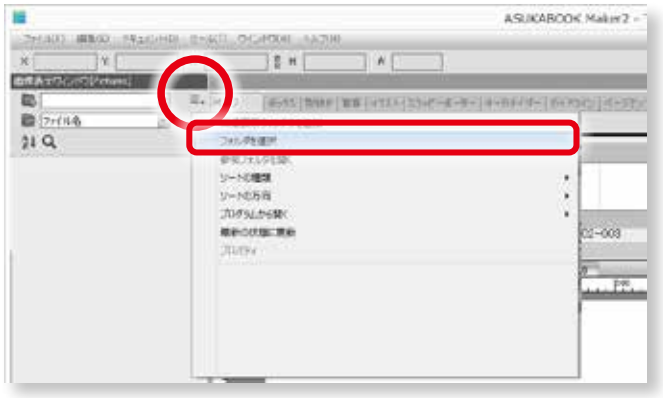


4-2.　画像の読み込み

まず、素材として使う画像ファイルを ABM2 の「画像表示ウィンドウ」に読み込みます。

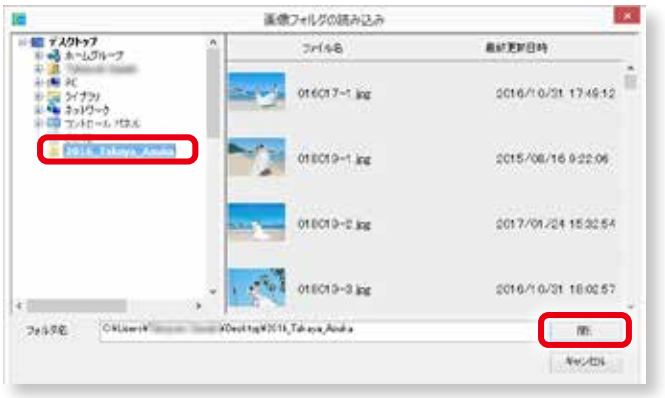
手順 1　「フォルダを選択」をクリック

「画像表示ウィンドウ」の右上のメニューボタン（右図赤丸印）をクリックするとサブメニューが表示されますので、「フォルダを選択」をクリックします。

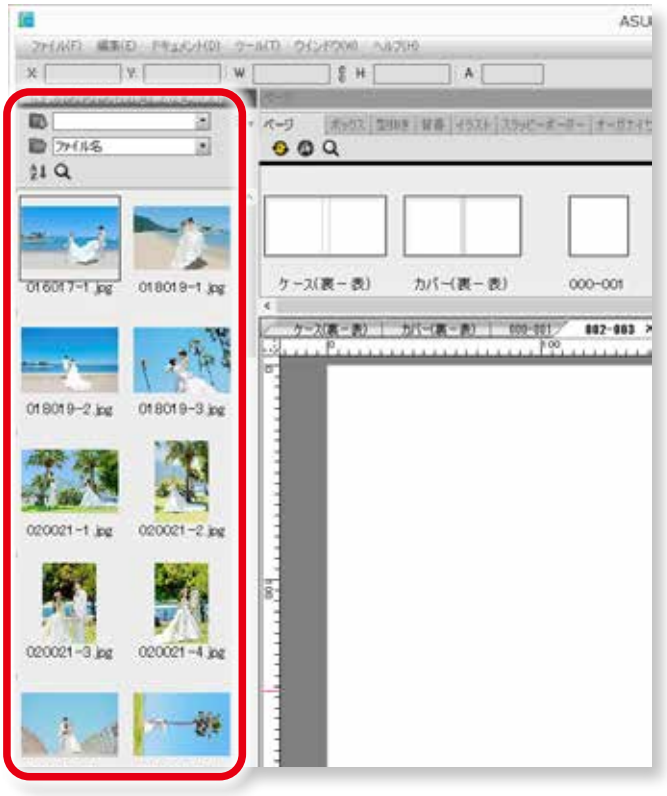


手順 2　フォルダを選択して「開く」をクリック

使用したい画像が入っているフォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

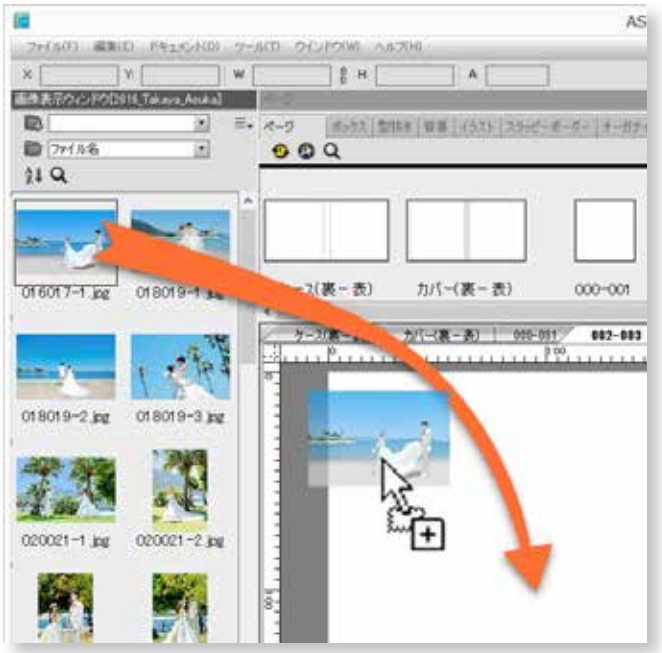


「画像表示ウィンドウ」に画像のサムネイルが表示されます。



手順 3 「編集パレット」にドラッグ＆ドロップ

「画像表示ウィンドウ」の中から使用したいサムネイルをマウスでつかみ、「編集パレット」にドラッグ&ドロップします。



画像の位置や大きさを整え、レイアウトを進めます。

4-3.　オブジェクトの選択方法

4-3-1.　クリックして選択する方法

各ページにレイアウトしたオブジェクト（画像、図形、文字）を選択する時は、マウスでそのオブジェクトを直接クリックしてください。

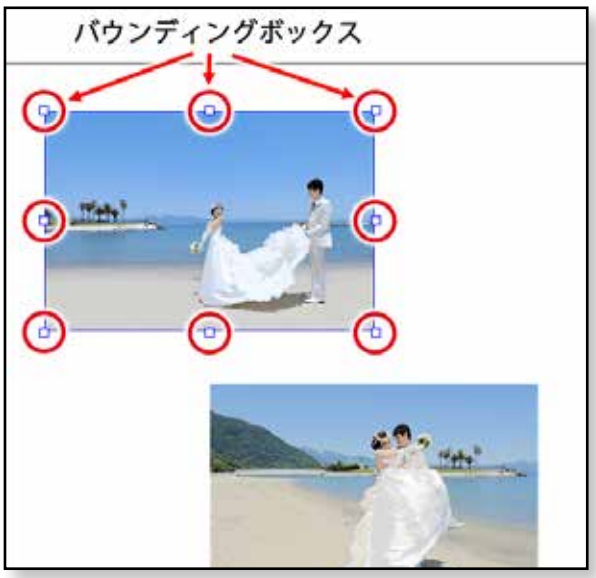
例　題

●右図 は、画像を何も選択していない状態です。

画像を選択していない状態

●右図 は、上の画像を選択した状態です。
画像の周囲に青色の囲み枠が表示され、周囲 9 カ所に□マーク（バウンディングボックス）が表示されます。

。



上の画像を選択している状態

●複数個のオブジェクトを選択する場合は、
macOS では、「Command」キーを押しながら、
Windows では、「Ctrl」キーを押しながら、オブジェクトを順にクリックしてください。

●「ボックスを固定」したオブジェクトを選択した場合は、周囲に青色の囲み枠のみが表示され、バウンディングボックスは表示されません。

「ボックスを固定」については、「21-7.　ボックスを固定」21-3 ページをご覧ください。

ボックス固定した画像を選択している状態
バウンディングボックスが表示されない。

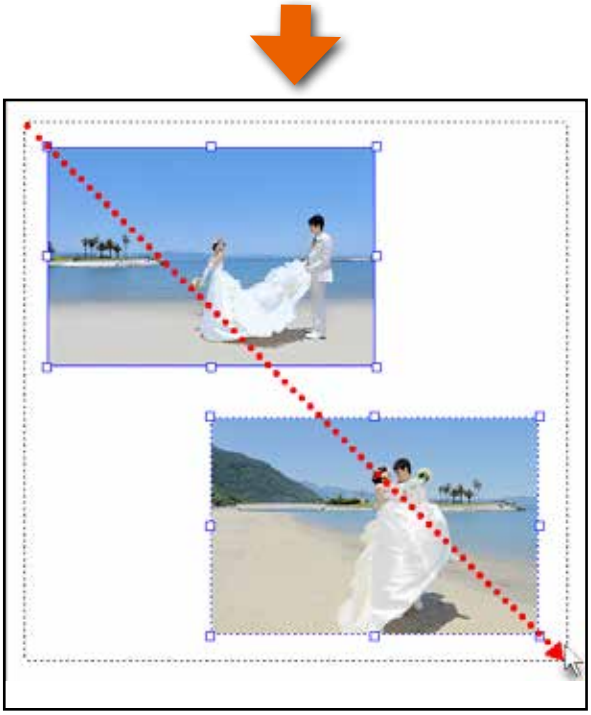
4-3-2.　マウスをドラッグして選択する方法

「ドラッグによるオブジェクトの選択方法」と「グループ化」機能です。

手順 1　オブジェクトの左上をポイント

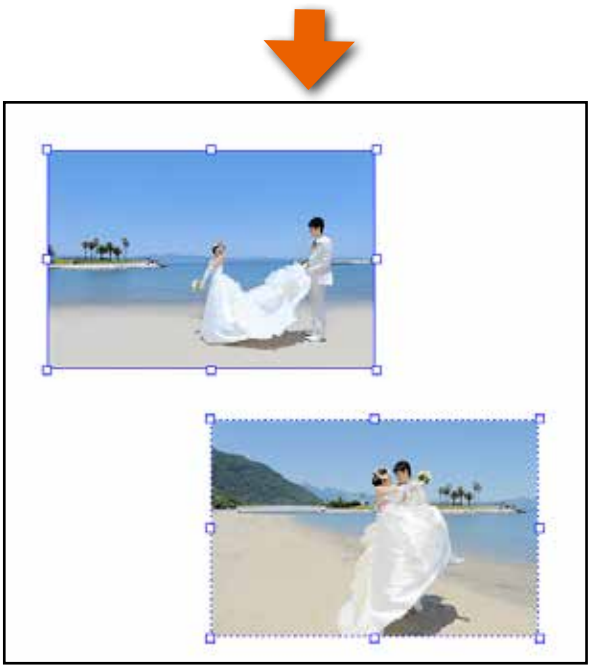
右図は、2 枚の画像を一度に選択する例です。

選択したいオブジェクトより少し離れた場所にマウスポインタを置きます（右図赤丸印）。



手順 2　オブジェクトの右下までドラッグ

「手順 1」の状態からマウスのドラッグを開始して、選択したいオブジェクト全体を囲うようにしてマウスボタンから指を離します。



マウスボタンから指を離すと、2 つのオブジェクトが選択された状態になります。

●マウスのドラッグによる選択では、複数個のオブジェクトをまとめて選択することができます。

4-4.　画像を移動する

編集パレット上の画像を移動する方法です。

4-4-1.　マウスでドラッグして画像を移動

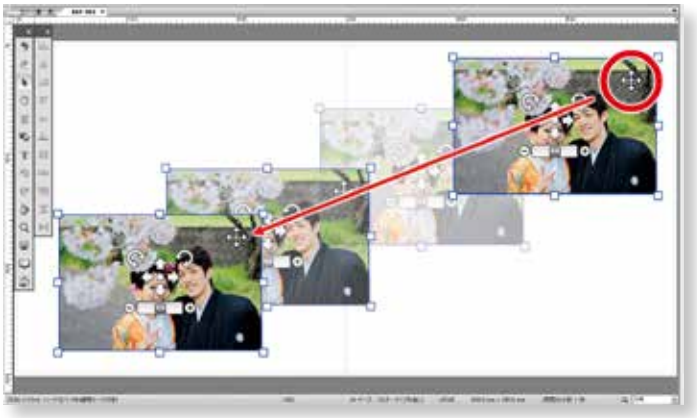
手順 1　画像を選択

移動したい画像を選択します。

このとき、画像の上にマウスを重ねると「移動カーソル」が表示されます。

手順 2　移動カーソルが表示された状態でドラッグする

移動カーソルが表示された状態で、マウスをクリックしてドラッグすると選択した画像を移動することができます。



4-4-2.　ショートカットキーによる画像の移動

①細かく移動する方法

移動したい画像をクリックして選択します。

この状態で**キーボードの矢印キーを 1 回押す**と、矢印の方向に **0.5mm 移動**します。

●右の例では写真を選択し、**「→」キーを 1 回押した**ものです。

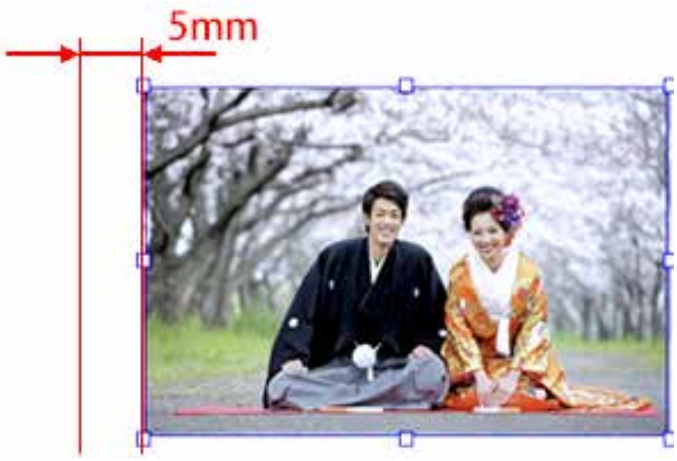
右方向の移動は　「→」キー
左方向の移動は　「←」キー
上方向の移動は　「↑」キー
下方向の移動は　「↓」キー

●オブジェクトの移動に関しては、ヘッダーのボックス情報「X」欄、および「Y」欄に正確な位置が表示されていますので、ご確認してください。

② 大きく移動する方法

移動したい画像をクリックして選択します。

この状態で**キーボードの「Shift」＋矢印キーを 1 回押すと、矢印の方向に 5mm 移動**します。



●オブジェクトの移動に関しては、ヘッダーのボックス情報「X」欄、および「Y」欄に正確な位置が表示されていますので、確認してください。

4-4-3.　数値入力による画像の移動

「ヘッダー」に表示されている位置情報（「X」、および「Y」）を直接書き換えると、ボックスの位置、およびボックス内部の画像の位置を個別に移動することが出来ます。

① ボックスの位置を移動する。

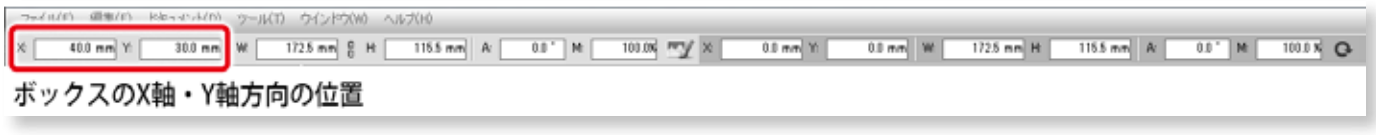
② ボックスの位置は変更せずに、内部画像のみを移動する。

① ボックスの位置を移動する

手順 1　画像を選択

移動したい画像を選択します。

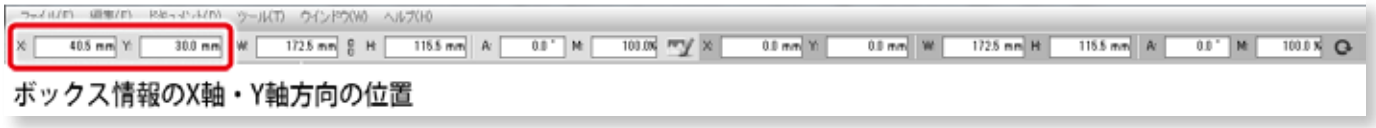
手順 2　ボックスの位置を確認



ヘッダーのボックス情報の「X」欄、および「Y」欄を確認してください。

●例題では、ボックス情報の「X」欄、および「Y」欄は　「40.0mm」、「30.0mm」になっています。

手順 3　ボックス情報の「X」・「Y」欄に数値を入力



ボックス情報の「X」欄に、キーボードから「40.5」と入力し、「Enter」キーを押します。

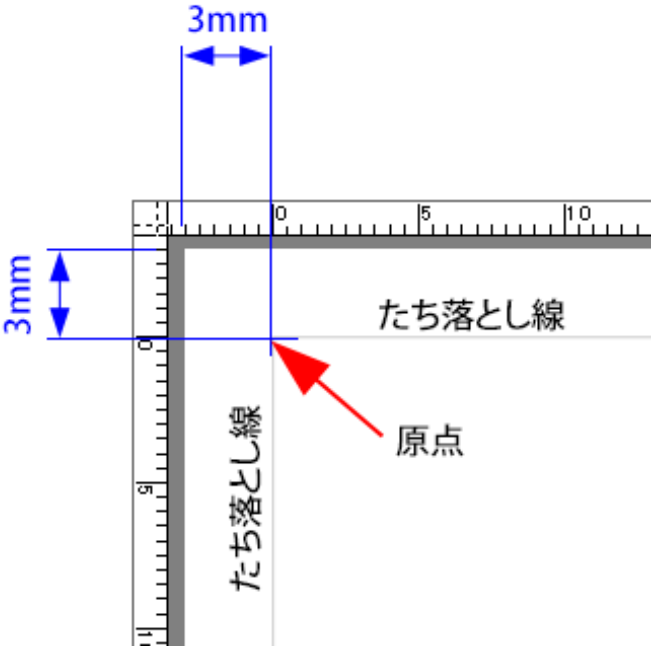
●「X」軸方向は横方向の移動、「Y」軸方向は縦方向の移動になります。

選択した画像はボックスが「X」軸方向に「0.5mm」移動しました。

●ボックス情報の「X」、および「Y」欄への数値入力は、オブジェクトの正確な位置決め・移動が行えます。

●ヘッダーにはボックスや内部画像の位置、大きさ、回転角度、拡大率の正確な情報が表示されています。

●X・Y 軸の原点、すなわちレイアウト領域の原点は、レイアウト領域の左上端の「たち落とし線の交点になります。
右図は「本文ページ」の場合です。
「表紙ページ」、および「ケースページ」の場合はたち落とし領域の幅が 3mm ではありません。シリーズによって異なります。



② ボックスの位置は変更せずに内部画像のみを移動する

数値入力により、ボックスの位置を変更せずに内部画像のみを移動する方法については、「4-7-3. 数値入力による内部画像の移動」4-22 ページをご覧ください。

4-5.　画像を拡大・縮小する

編集パレットの画像を拡大・縮小する方法です。

4-5-1.　マウスでドラッグして画像を拡大縮小

手順 1　画像を選択

拡大、もしくは縮小したい画像を選択します。

アドバイス！

●選択された画像には、青色の罫線で縁取られます。囲み罫線を「ボックス」と呼びます。また、ボックスの四隅と各辺の中心の 8 箇所に青い四角が表示されます。これを「バウンディングボックス」といいます。

●もし、バウンディングボックスが表示されない場合はボックスが固定されていますので、解除してください。

手順 2　「拡大縮小カーソル」が表示させる

四隅にあるバウンディングボックスの内の一カ所にマウスを重ねると「拡大縮小カーソル」が表示されます。

手順 3　ドラッグして大きさを調整

拡大縮小カーソルが表示された状態で、ドラッグすると、選択した画像を拡大、もしくは縮小することができます。

アドバイス！

ドラッグする時に、「Shift」キーを押していると画像の縦横比を固定して拡大縮小することができます。

解　説

画像の拡大縮小に伴う画質の劣化について

ABM2 では、画像の拡大率が「9%」以下になった場合、および「201%」以上になった場合に、「警告マーク」が表示されます。

最近のデジタルカメラは、特に一眼レフデジタルカメラは高画質であり、また、撮影された画像データの画素数が高いこともあり、拡大率が極端に大きくなければ、もしくは小さくなければ印刷品質に影響するようなことは少なくなってきました。
デジタル画像は、拡大すると輪郭がボケる傾向にあります。また、縮小すると詳細部分のピクセルが失われて不鮮明になる傾向にあります。拡大縮小は比率が大きくなければ印刷において問題となりませんが、許容される範囲が何%なのかは一概には言えません。なぜならば、元になる画像（拡大縮小前の状態）の画素数、表現されている絵柄、画像の中の各ピクセルのつながり状態、拡大縮小を行う作画エンジンの性能、などが影響するからです。

従いまして、もし、ABM において「警告マーク」が表示されるようなことがあった場合には、ご利用になっている画像素材の大きさ（画素数）と、レイアウトで利用したい画像の大きさ（実寸法から換算される画素数）を比較し直して頂きますようお願いいたします。比較の結果、利用したい画像の大きさが、画像素材に対して 201% を超える場合には、画質が多少ボケたようになる可能性があります。
また、9% 以下になる場合には、画質が不鮮明になり、画像の詳細部が表現できない可能性があります。

なお、最終的な仕上がりの画質を確認する場合は、ABM から出力された注文用 PDF をご確認ください。ABM の編集パレットは画像の全ピクセルを表示していませんので、画像のディテールを細部まで確認することはできません。特に写真画像の詳細部を確認する場合は、Adobe Reader® で開くだけではなく、Adobe Photoshop® で開いて確認してください。

詳しくは本書の「18.　編集時のご注意」「18-7-2.　PSD 形式ファイル利用における確認方法」「③ 注文用 PDF ファイルの確認方法　その 2　Adobe® Photoshop® で開く」18-7 ページをご覧ください。

ASUKABOOK のサイズごとの各ページ画素数をまとめました。
レイアウトに使用する画像の画素数が、ページの縦横のピクセル数に近ければ、拡大率は 100% に近くなりますので、参考にしてください。

4-5-2.　数値入力による画像の拡大縮小

「ヘッダー」に表示されている拡大率を直接書き換えると、ボックスの大きさと、ボックス内部の画像の大きさを個別に変更することが出来ます。

① ボックスサイズと共に、画像を拡大縮小する。

② ボックスサイズは変更せずに、内部画像のみ拡大縮小する。

① ボックスサイズと共に、画像を拡大縮小する

手順 1　画像を選択

拡大、もしくは縮小したい画像を選択します。

手順 2　拡大率を確認

ヘッダーの「M」欄（拡大率）を確認してください。

●例題では、ボックス情報の「M」欄は　「100%」、内部画像情報の「M」欄は　「49.8%」になっています。

手順 3　ボックス情報の拡大率を入力

ボックス情報の「M」欄に、キーボードから「120」と入力し、

「Enter」キーを押します。

選択した画像はボックスが 120% に拡大されました。

画像の情報は下図のようなりました。

●ボックスの大きさを 120% に拡大したことにより、ボックス情報の幅「W」・高さ「H」欄は「210mm」・「140mm」から「252mm」・「168mm」に拡大されました。

●ボックスの大きさを 120% に拡大したことにより、ボックス内部の画像も 120% 拡大されます。その結果、内部画像情報の「M」欄は「49.8%」から「59.7%」になりました。

●拡大縮小動作が終了すると、ボックス情報の「M」欄は「100%」に戻り、次の入力待ち状態となります。

② ボックスサイズは変更せずに、内部画像のみ拡大縮小する

手順 1 画像を選択

拡大、もしくは縮小したい画像を選択します。

手順 2 拡大率を確認

ヘッダーの「M」欄（拡大率）を確認してください。

●例題では、ボックス情報の「M」欄は　「100%」、内部画像情報の「M」欄は　「49.8%」になっています。

手順 3 内部画像情報の拡大率を入力

内部画像情報の「M」欄に、キーボードかにら「65」と入力し、

「Enter」キーを押します。

選択した画像はボックスの大きさは変わらずに、内部の画像のみが 65% に拡大されました。

画像の情報は下図のようなりました。

●内部画像情報の拡大率を「49.8%」から「65%」に拡大したことにより、内部画像情報の「M」欄は「65%」になりました。
●ボックス情報の幅「W」・高さ「H」欄は「210mm」・「140mm」のまま変わりません。
●拡大縮小動作が終了すると、ボックス情報の「M」欄は「100%」に戻り、次の入力待ち状態となります。

4-5-3.　画像拡大縮小時の「警告マーク」について

各ページにレイアウトした画像について拡大しすぎ、縮小しすぎの場合に「警告マーク」が表示されます。

●「警告マーク」が表示されるのは、内部画像情報の拡大率が「9%」以下になった場合、および「200%」以上になった場合です。

●「警告マーク」は、画像の左上に表示されます。

●「警告マーク」は、印刷されません。

4-6.　画像を回転する

編集パレット上の画像を回転する方法です。

4-6-1.　マウスでドラッグして画像を回転

手順 1 画像を選択

回転したい画像を選択します。

アドバイス！

●選択された画像には、青色の罫線で縁取られます。囲み罫線を「ボックス」と呼びます。また、ボックスの四隅と各辺の中心の 8 箇所に青い四角が表示されます。これを「バウンディングボックス」といいます。

●もし、バウンディングボックスが表示されない場合はボックスが固定されていますので、解除してください。

手順 2 「回転カーソル」を表示させる

四隅にあるバウンディングボックスの内の一カ所にマウスを重ねると「回転カーソル」が表示されます。

手順 3 回転カーソルをドラッグする

回転カーソルが表示された状態で、ドラッグすると、選択した画像を回転することができます。

4-6-2.　数値入力による画像の回転

「ヘッダー」に表示されている「回転」欄を直接書き換えると、ボックスの回転角度、およびボックス内部画像の回転角度を変更することができます。

① ボックスと共に画像を回転させる。

② ボックスの回転角度は変更せずに、内部画像のみ回転させる。

① ボックスと共に画像を回転させる

手順 1　画像を選択

回転したい画像を選択します。

手順 2　回転角度を確認

ヘッダーの「A」欄（回転角度）を確認してください。

●例題では、ボックス情報の「A」欄は　「0.0°」、内部画像情報の「A」欄も　「0.0°」になっています。

手順 3　ボックス情報の回転角度を入力

ボックス情報の「A」欄に、キーボードから「10」と入力し、「Enter」キーを押します。

選択した画像は、ボックスが内部画像と共に時計方向に 10 °回転しました。

アドバイス！

●回転中心は、画像の中心となります。

●反時計方向へ回転したい場合は、数値の先頭に「－」をつけてください。

② ボックスの回転角度は変更せずに、内部画像のみ回転させる

手順 1 画像を選択

回転したい画像を選択します。

手順 2 回転角度を確認

ヘッダーの「A」欄（回転角度）を確認してください。

●例題では、ボックス情報の「A」欄は　「0.0°」、内部画像情報の「A」欄も　「0.0°」になっています。

手順 3 内部画像情報の回転角度を入力

内部画像情報の「A」欄に、キーボードから「10」と入力し、「Enter」キーを押します。

選択した画像はボックスの回転角度は変わらずに、内部の画像のみが時計方向に 10° 回転しました。

アドバイス！

●回転中心は、画像の中心となります。

●反時計方向へ回転したい場合は、数値の先頭に「－」をつけてください。

4-7.　ボックス内部の画像の移動

ボックスは移動せずに、内部の画像のみを移動する方法です。

4-7-1.　画像コントローラによる内部画像の移動

編集パレットにレイアウトされた画像を選択すると、画像の中心部に「画像コントローラ」が表示されます。

この「画像コントローラ」を使うとボックスの中の画像の移動、拡大縮小、回転が行えます。

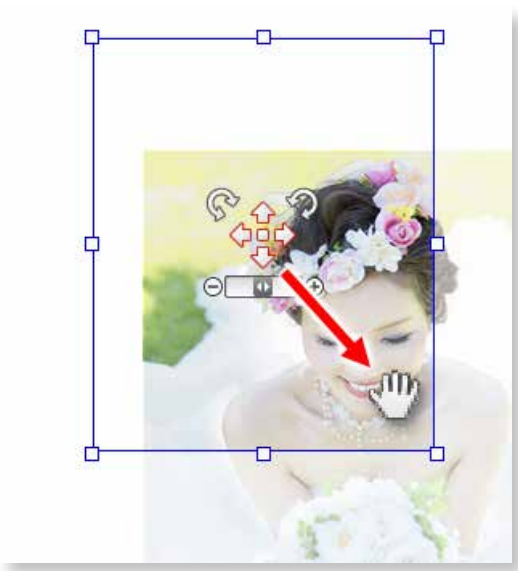
手順 1　画像を選択

ボックス内部の写真を移動したい画像をクリックして選択します。

画像コントローラの「移動」マークにマウスポインタを合わせると、ポインタが マークに変化します。

手順 2　ドラッグして移動する

この状態でドラッグするとボックスの中の画像のみを移動させることができます。



4-7-2.　ショートカットキーによる内部画像の移動

手順 1　画像を選択

ボックス内部の写真を移動したい画像を選択します。

手順 2　ショートカットキーを使う

MacOSの場合

「Command」＋矢印キー　で 0.5mm 動きます。

「Command」＋「Shift」矢印キー　で 5mm 動きます。

Windowsの場合

「Ctrl」＋矢印キー　で 0.5mm 動きます。

「Ctrl」＋「Shift」矢印キー　で 5mm 動きます。

右方向の移動は　「→」キー

左方向の移動は　「←」キー

上方向の移動は　「↑」キー

下方向の移動は　「↓」キー

例；ボックス内部の写真を下方向に 5mm 移動

4-7-3. 数値入力による内部画像の移動

手順 1 画像を選択

内部の画像を移動したいボックスを選択します。

手順 2 内部画像の位置を確認

ヘッダーの内部画像の位置情報　「X」、「Y」欄を確認してください。

●例題では、内部画像の「X」、「Y」欄は　「-7.1mm」、「-11.4mm」になっています。

手順 3 内部画像情報の「X」・「Y」欄に数値を入力

内部画像の位置情報「Y」欄に、キーボードから 10mm を引いた「-0.4」と入力し、

「Enter」キーを押します。

選択したボックスの内部画像が下方向に「10mm」移動しました。

●ボックスは移動していません。

例；ボックス内部の写真を下方向に 4.5mm 移動

4-8.　ボックス内部の画像の拡大・縮小

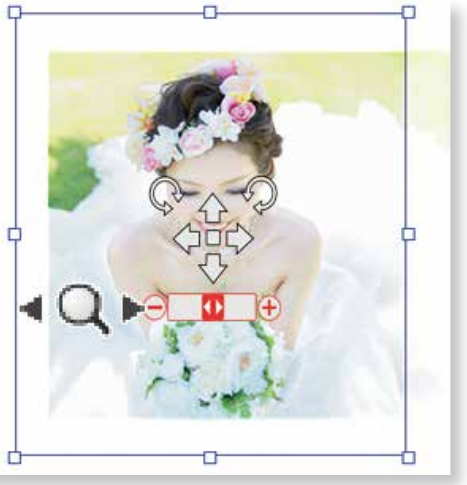
ボックスの大きさは変えずに、内部の画像のみを拡大縮小する方法です。

4-8-1.　画像コントローラによる内部画像の拡大縮小

画像コントローラの「拡大縮小」マークにマウスポインタを合わせると、ポインタが マークに変化します。

マークが表示されている状態で右にドラッグするとボックスの中の画像のみを拡大させることができます。

マークが表示されている状態で左にドラッグするとボックスの中の画像のみを縮小させることができます。



4-8-2.　ショートカットキーによる内部画像の拡大縮小

手順 1　画像をクリック

ボックス内部の写真を移動したい画像を選択します。

手順 2　ショートカットキーを使う

「shift」＋「＋」キー　で 1% 拡大。
「shift」＋「－」キー　で 1% 縮小。

● macOS、Windows 共にキー操作は同じです。

アドバイス！

お使いのコンピュータの状態によってはショートカットキーが効かない場合があります。もし、そのような場合には、日本語入力機能を一時的にオフ、もしくは半角英数字モードにしてください。

例；「shift」＋「＋」キーを 5 回押してボックス内部の写真を 5% 拡大

4-8-3.　数値入力による内部画像の拡大縮小

数値入力により内部画像のみを拡大縮小させる方法については、「② ボックスサイズは変更せずに、内部画像のみ拡大縮小する」4-14 ページをご覧ください。

4-9.　ボックス内部の画像の回転

4-9-1.　画像コントローラによる内部画像の回転

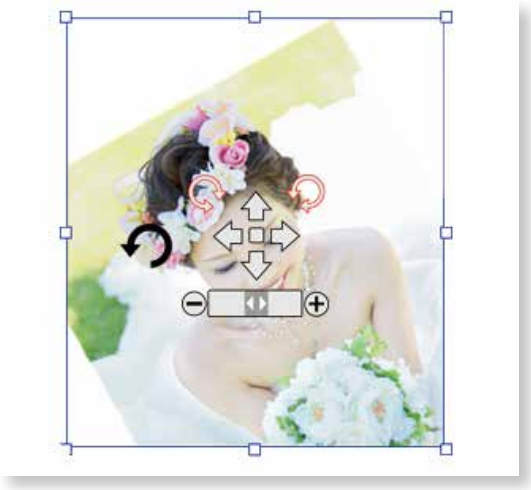
画像コントローラの「回転」マークにマウスポインタを合わせると、ポインタが マークに変化します。

この状態で時計方向にドラッグするとボックスの中の画像のみを時計方向に回転させることができます。

アドバイス！

回転させる時、マウスポインタを「画像コントローラー」より出来るだけ離して操作すると微細な角度調整が行えます。

また、この状態で反時計方向にドラッグするとボックスの中の画像のみを反時計方向に回転させることができます。



4-9-2.　数値入力による内部画像の回転

数値入力により内部画像のみを回転させる方法については、「② ボックスの回転角度は変更せずに、内部画像のみ回転させる」4-19 ページをご覧ください。

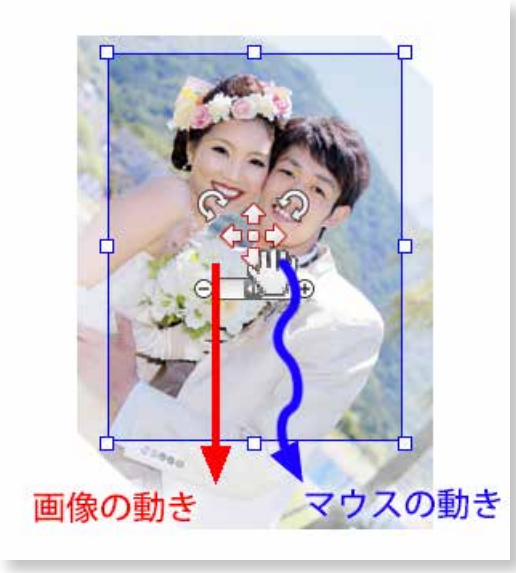
4-10.　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動

画像コントローラを使った画像の移動の際、「Shift」キーを併用することにより、画像の移動方向を水平、もしくは垂直方向に制限することができます。また、回転については、同じく「Shift」キーを併用することにより、15 度ごとに回転させることができます。

4-10-1.　水平・垂直方向の動き

オブジェクトを選択し、画像コントローラの「移動」マークの上にマウスを置くと、マウスポインタが に変わります。

このときに「Shift」キーを押しながらマウスをドラッグすると、マウスの動きが多少フラついても、画像は水平方向、もしくは垂直方向に真っ直ぐ動くようになります。



4-10-2.　回転方向の動き

オブジェクトを選択し、画像コントローラの「回転」マーク の上にマウスを置くと、マウスポインタが に変わります。

このときに「Shift」キーを押しながらマウスをドラッグすると、画像が 15 度ごとに回転するようになります。

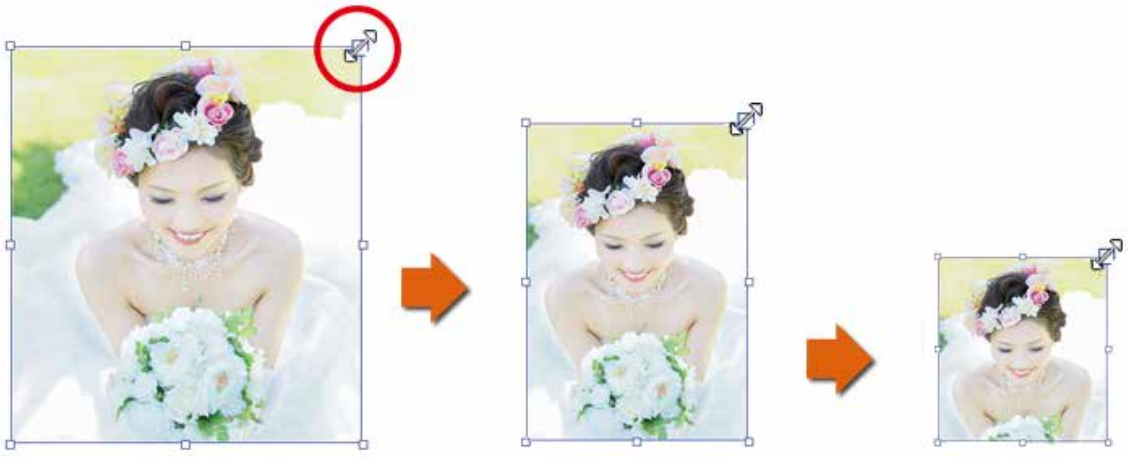
4-11.　画像のトリミング方法

画像のバウンディングボックスをマウスで摘んでドラッグすると、写真の大きさを変えることができます。このとき、画像の大きさに応じて拡大率が自動的に調整されます。　しかし、拡大率を変えずに写真の大きさだけを変更したい場合もあります（このような変更を「トリミング」といいます）。

この場合、バウンディングボックスをマウスでドラッグする際にショートカットキーを併用することにより、トリミングができます。

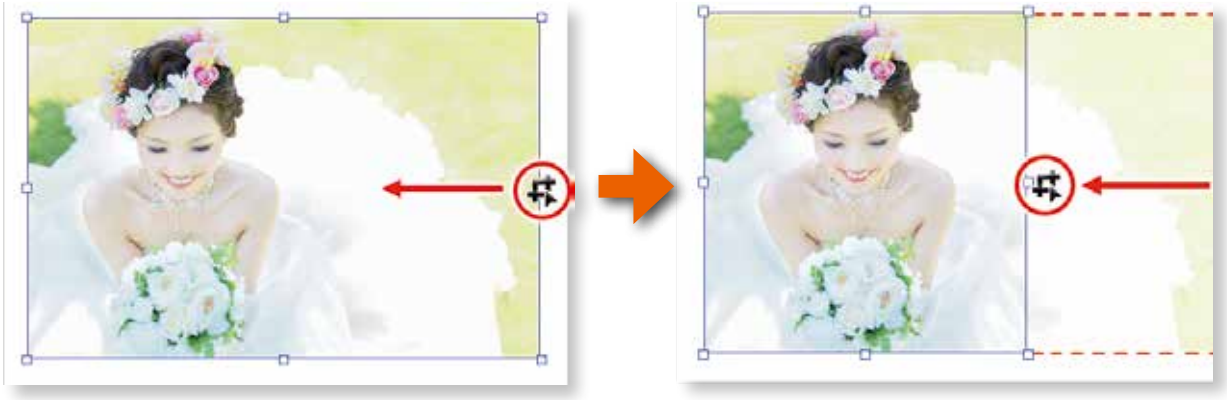
4-11-1.　通常のマウス操作による動き

バウンディングボックスをドラッグすると（下図赤丸部分）、画像の大きさに応じて拡大率が自動的に調整されます。



通常のマウスドラックでは、写真の大きさに応じて拡大率が自動調整される

また、画像の各辺の中心にあるバウンディングボックス（下図赤丸部分）をドラッグすると拡大率は変わらずに、ボックスの縦横の長さを調整できます。



4-11-2.　ショートカットキーによるトリミング操作

バウンディングボックスをドラッグする際に、ショートカットキーを併用することにより、写真画像の縦横比を変えずに写真の大きさだけを変更するトリミングが行えます。

macOSの場合

「Shift」＋マウスドラッグ

Windowsの場合

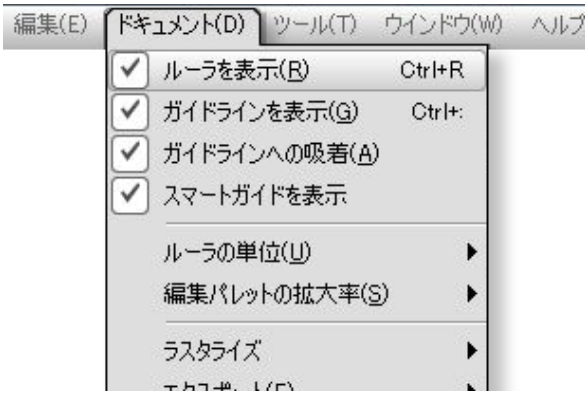
Shift」＋マウスドラッグ

ショートカットキーを使ってドラッグすると、写真の拡大率を変えずに写真の大きさだけを変更できる 。

4-12.　ガイド機能

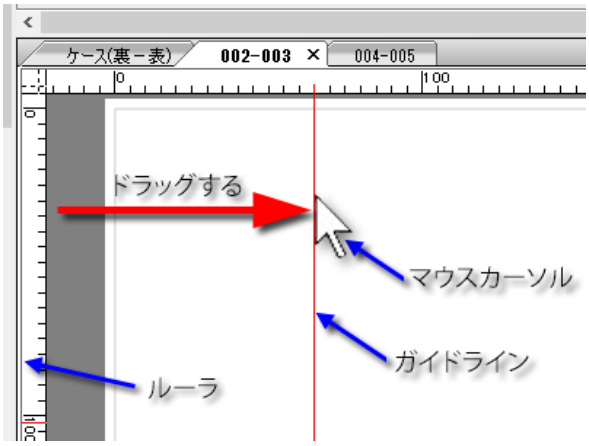
4-12-1.　ルーラー（定規）の使用

メインメニューの「ドキュメント」から「ルーラー を表示」にチェックを入れる（クリックをする）と、編集パレットにルーラー（定規）が表示されます。



●初期設定は、「ルーラーを表示」にチェックが入っています。

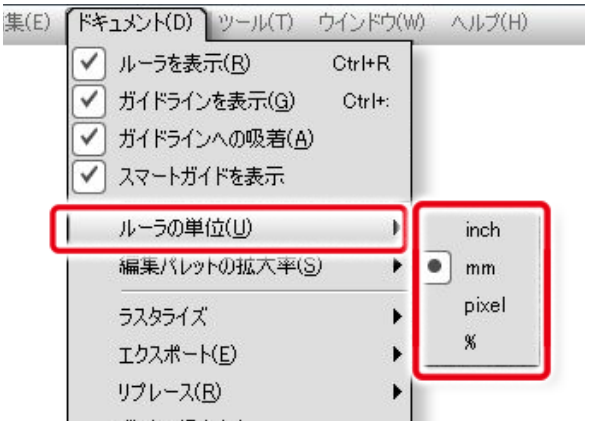
ガイドラインの使い方については、本書の「4-12-4.　ガイドラインの利用」4-31 ページをご覧ください。



4-12-2.　ルーラーの単位

ルーラーの単位は、メインメニューの「ドキュメント」から「ルーラーの単位」をクリックすると、さらにサブメニューが表示されます。

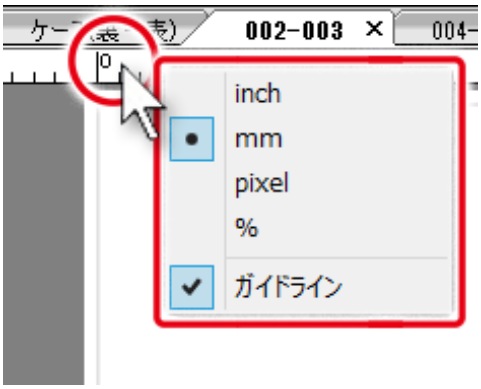
「inch」、「mm」、「pixel」、「%」、のいずれかを選択してください。



●初期設定は、「mm」になっています。

●単位の設定はブックファイルの全ページに反映されます。

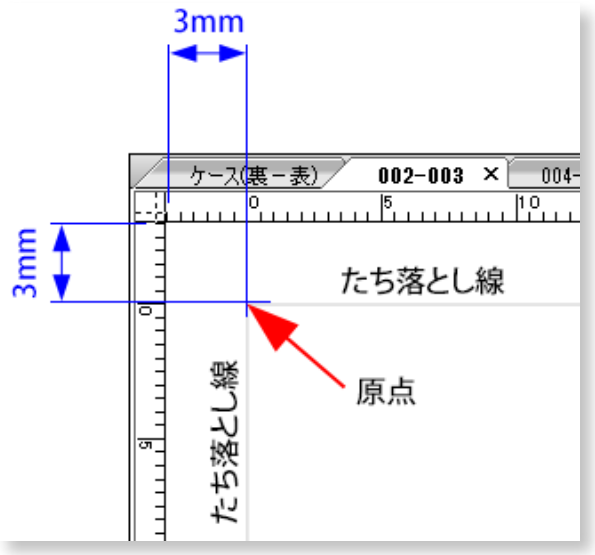
●ルーラーの中にマウスポインタを置き、右クリックするとルーラーの単位を変更することができます。



4-12-3.　ルーラーの原点位置と変更方法

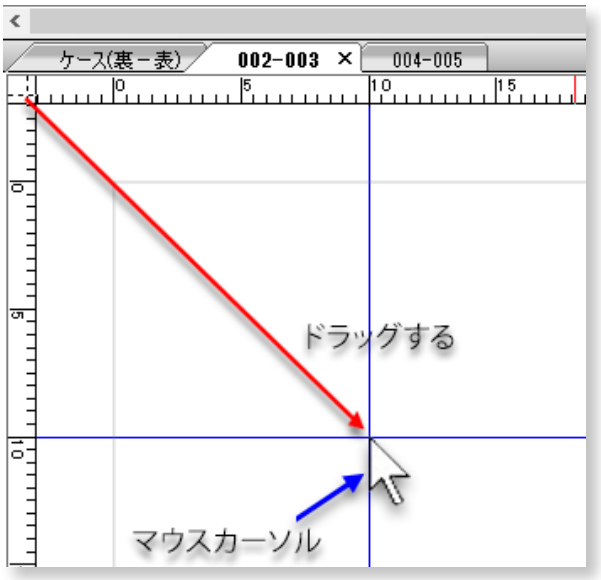
●ルーラーの原点、すなわちレイアウト領域の原点は、本文ページについてはレイアウト領域の左上端より、右方向へ 3mm、下方向へ 3mm の交点となります。
これは、ちょうど「たち落とし線」の交点に相当します。

● ABM バージョン 2.3 から、原点位置の初期設定を上記のように変更しました。



●ルーラーの原点は、位置を変更することができます。
原点を変更する場合は、次のように操作してください。

マウスカーソルをルーラーの左上に置き、原点にしたい位置までドラッグすると、その箇所が新しい原点となります。



アドバイス！

原点に設定したい位置に予めガイドラインを引いておくと、正確な位置決めを行うことができます。

4-12-4.　ガイドラインの利用

● ガイドラインを利用すると、画像、文字、図形を正確な位置に配置したり、揃えて配置することができます。

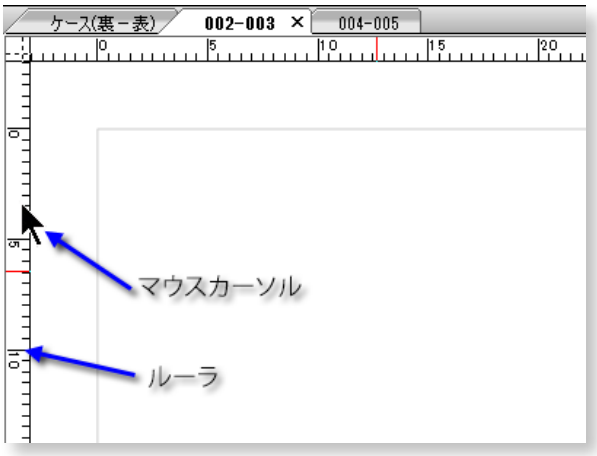
● ガイドラインには、オブジェクト（画像、図形、文字）を吸着する機能があります。
ガイドラインは、ブックファイル（「ab2」ファイル）と共に保存されます。

吸着に関しては「4-12-4.　ガイドラインの利用」「③ ガイドラインの吸着について」4-33 ページをご覧ください。

① ガイドラインをマウスで操作

手順 1　マウスカーソルをルーラーの上に置く

マウスカーソルをルーラーの上に置きます。

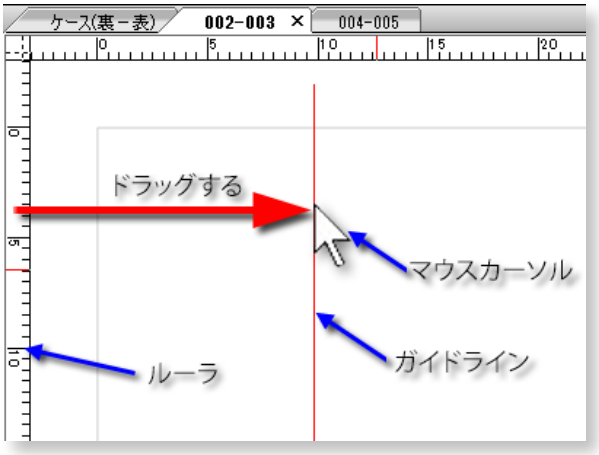


手順 2　ガイドラインを引き出す

マウスカーソルをドラッグするとルーラーからガイドラインを引き出すことができます。
右図の例は、垂直方向のガイドラインです。

●一旦引き出したガイドラインは、その後何回でも位置の変更を行うことができます。

●上のルーラーからドラッグすれば水平方向のガイドラインを引くことができます。

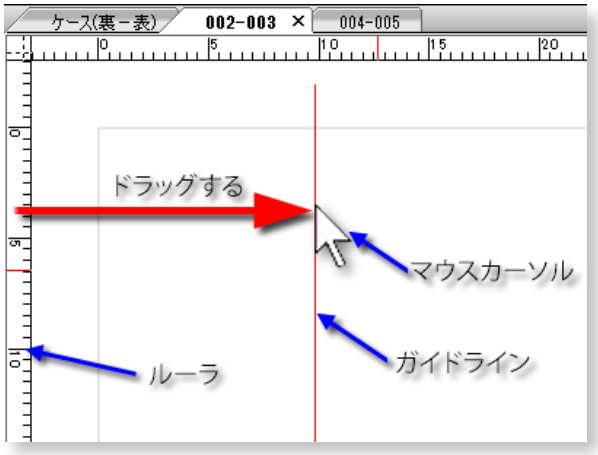


② ガイドラインを数値入力により操作

ガイドラインを特定の位置に引きたい場合は、数値入力を使うと便利です。

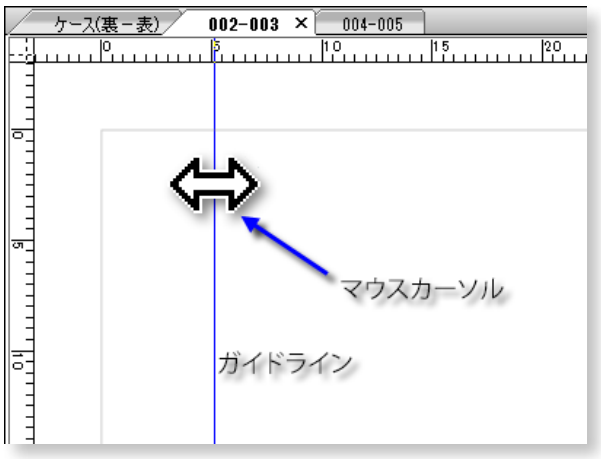
手順 1　ガイドラインを引き出す

まず、上記のようにガイドラインを引き出します。

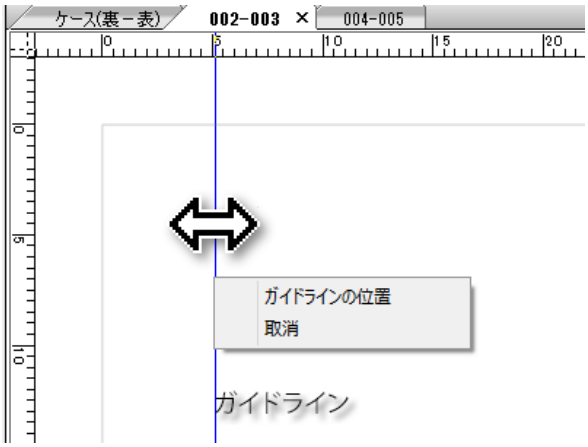


手順2 「ガイドラインの位置」をクリック

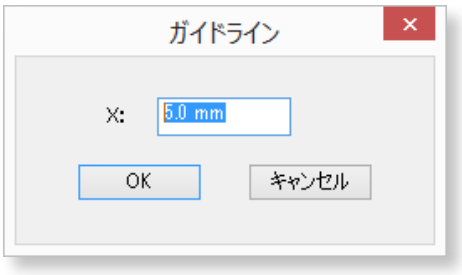
次にマウスカーソルをガイドラインの上に置くと、マウスカーソルが右図のように変化します。



この時に右クリックすると、プルダウンメニューが表れますので「ガイドラインの位置」をクリックしてください。

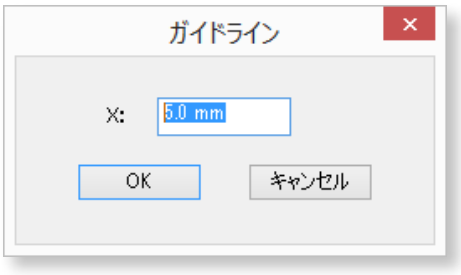


数値入力用のダイアログが表示されます。
ここにはガイドラインの現在位置が表示されています。

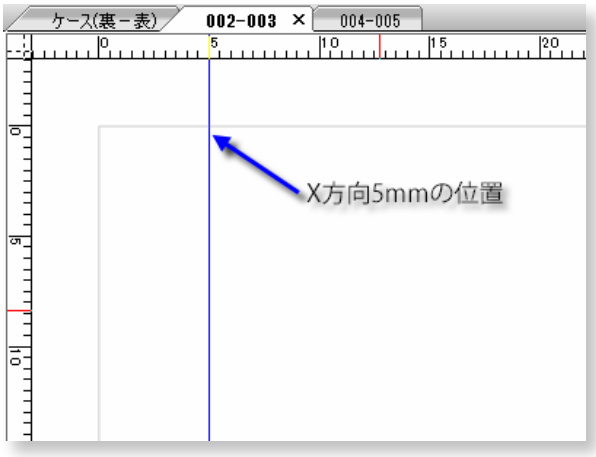


手順3 数値を入力

このダイアログの数値を書き替えます。
例えば、この数値を「5.0」と入力し、「OK」をクリックすると・・・



数値入力した位置（例では横方向 40mm の位置）にガイドラインが移動します。



③ ガイドラインの吸着について

ガイドラインはオブジェクト（画像、図形、文字）の次の箇所と吸着します。

●オブジェクト（画像、図形、文字）の四隅と中心

●片ページの中心
●見開きページの中心

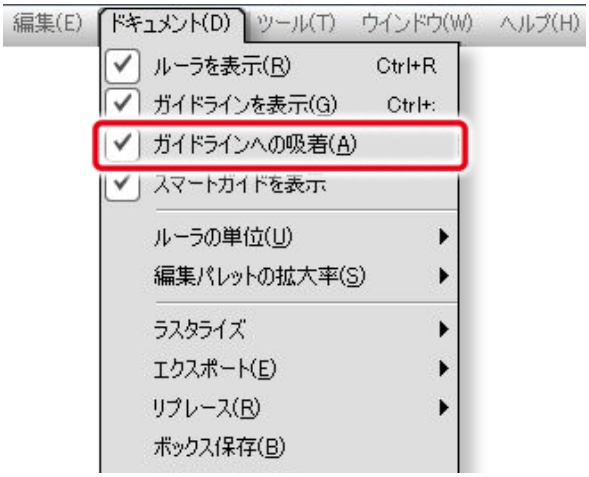
アドバイス！

◆各ページの中心にガイドラインを引いておくと、画像をページの中心に素早く、しかも正確に配置することができます。
「スマートガイド」機能により、ページの中心にあらかじめガイドラインを引いていなくても右図と同じ操作が行えます。

詳しくは「27.　スマートガイド」27-1 ページをご覧ください。

◆初期設定では「ガイドラインへの吸着」はオンになっています。
ガイドラインへの吸着をさせたくない場合には、「Alt」キーを押しながらドラッグを行うと一時的に吸着が無視されます。
もしくは、メニューの「ドキュメント」をクリックして、「ガイドラインへの吸着」のチェックを外してください。

◆同様に「ルーラーの表示」「ガイドラインを表示」も初期設定ではオンになっています。必要に応じてオン・オフを切り替えてご利用ください。



④ ガイドラインの吸着無視

オブジェクト（画像、図形、文字）のガイトラインへの吸着は、無視させることができます。

④ -1. 吸着を一時的に無視する方法

オブジェクトをマウスで掴んでドラッグする際、

macOSの場合　「option」キー

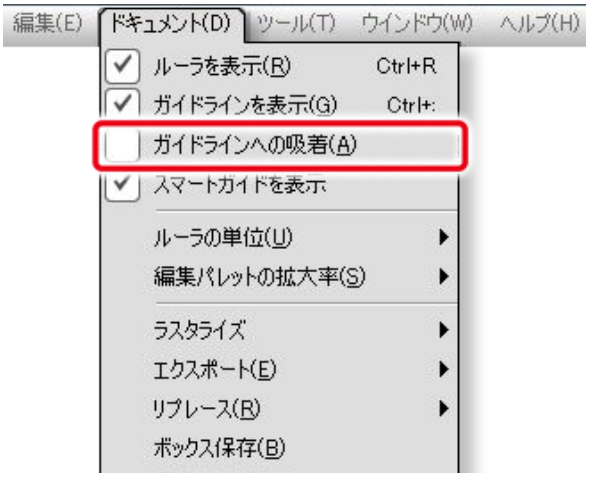
Windowsの場合　「Alt」キー

を押していると、スマードガイド機能が一時的に無効になり、吸着を無視することができます。
キーを離すと再び吸着されるようになります。

④ -2. 吸着しないようにする設定方法

ABM のメニューから「ドキュメント」をクリックするとサブメニューが表示されます。
「ガイドラインへの吸着」をクリックしたチェックを外すと吸着が解除されます。

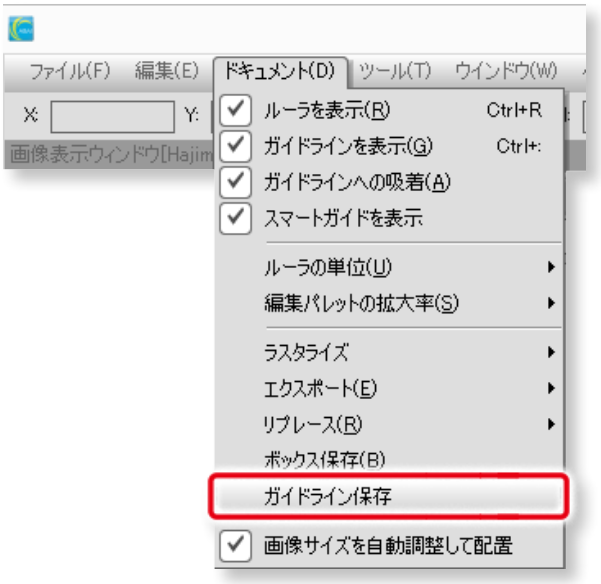
●初期設定では「ガイドラインへの吸着」にチェックが入っています。



4-12-5.　ガイドラインの保存

ガイドラインをページごとに保存することが出来ます。

詳しくは「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。



4-13.　複数のオブジェクトをグループ化する

オブジェクト（画像、図形、文字）をひとつの「グループ」としてまとめのことが出来ます。

●グループ化されたオブジェクトは、そのグループを一体として移動できるようになる他、画像加工による効果などもまとめて施すことができます。

4-13-1.　グループ化

手順 1　オブジェクトを複数選択する

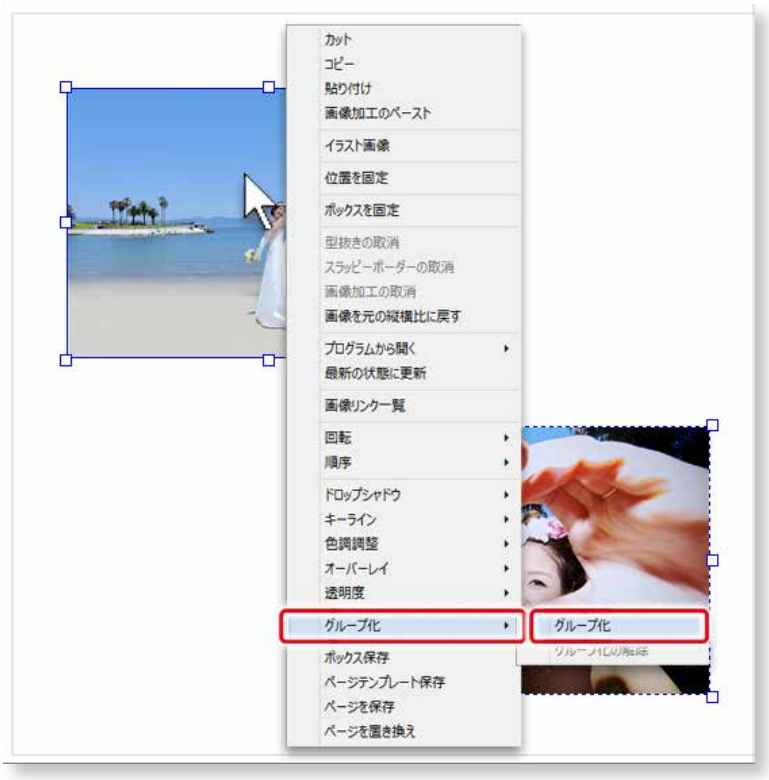
グループ化したいオブジェクトを複数個選択します。

（右図参照）

手順2　「グループ化」をクリック

選択されたオブジェクトのうち、どこかひとつのオブジェクトの上で右クリックするとサブメニューが表示されます。

「グループ化」の中から、さらに「グループ化」を選択します。



選択したオブジェクトがグループ化されます。

4-13-2.　グループ化の解除

グループ化を解除する場合の手順です。

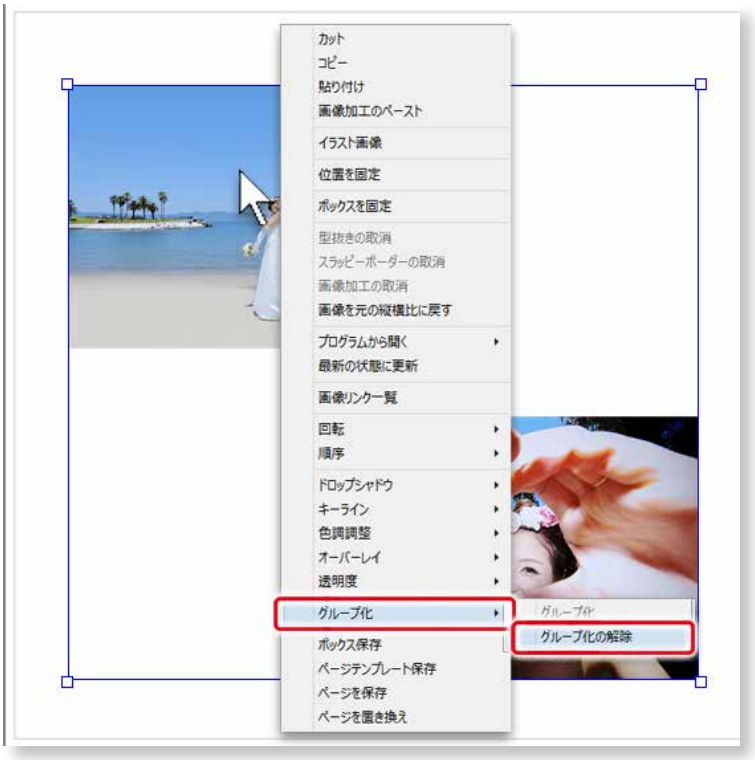
手順 1　オブジェクトをクリック

グループ化されているオブジェクトをクリックして選択してください。

手順 2　「グループ化の解除」をクリック

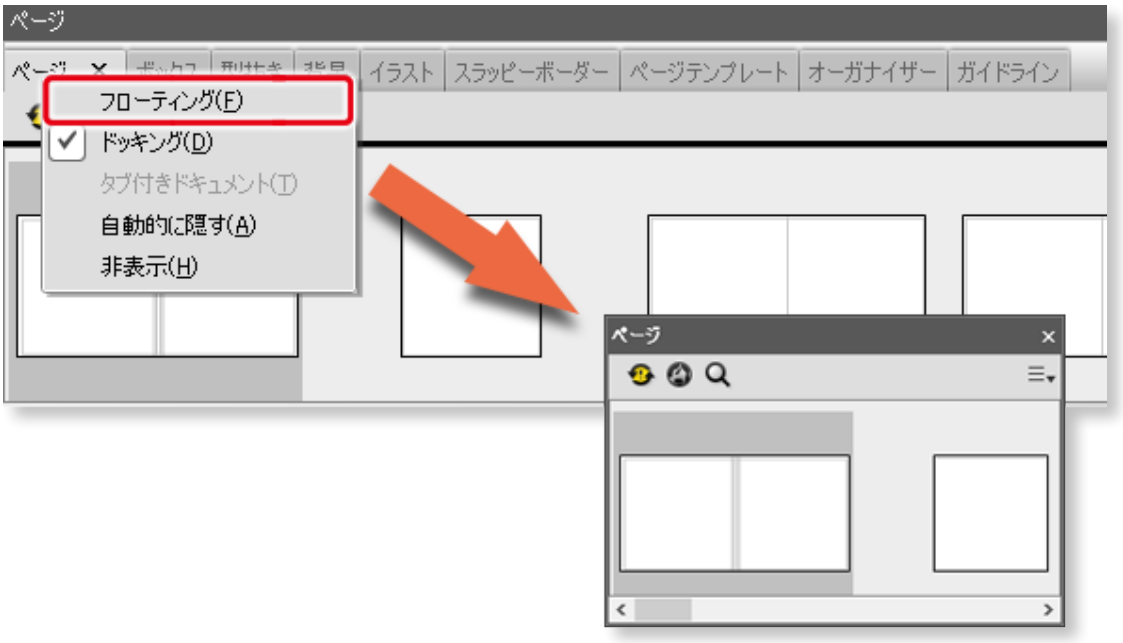
選択したオブジェクトのうち、どこかひとつのオブジェクトの上で右クリックするとサブメニューが表示されます。

「グループ化」の中から、さらに「グループ化の解除」を選択すると、グループ化が解除されます。



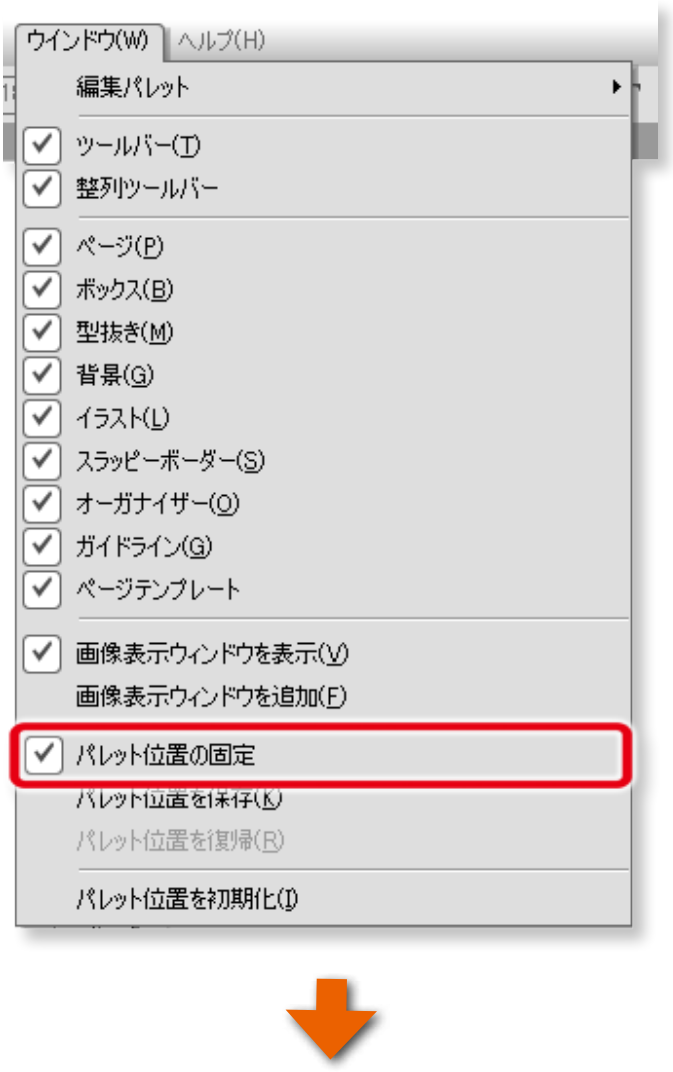
4-14.　タブをフローティングパレットで利用する

各タブをフローティングパレット化して利用可能です。



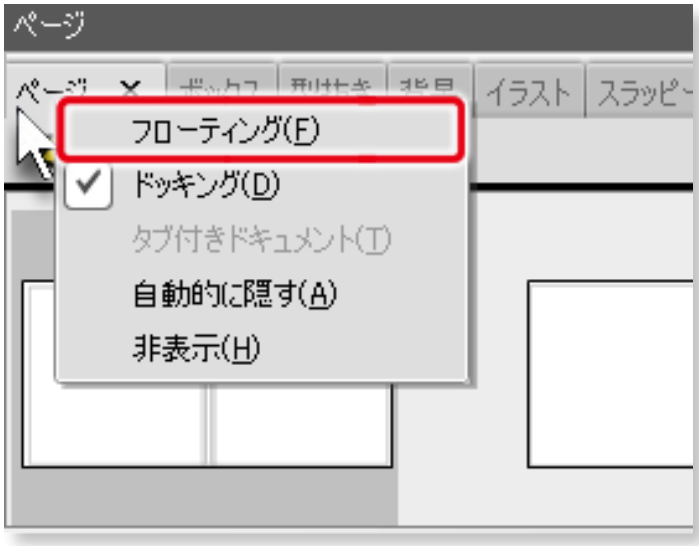
手順 1　パレット位置の固定を解除

ウインドウメニューより「パレット位置の固定」をクリックしてチェックを解除します。

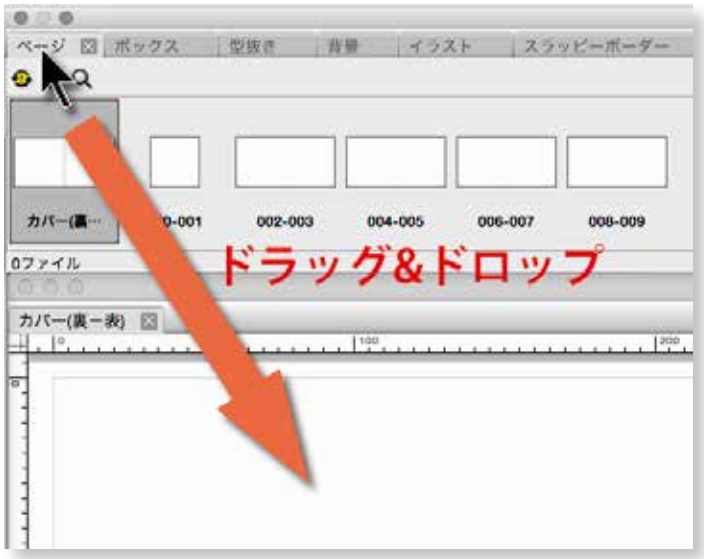


手順 2 任意のタブを選択

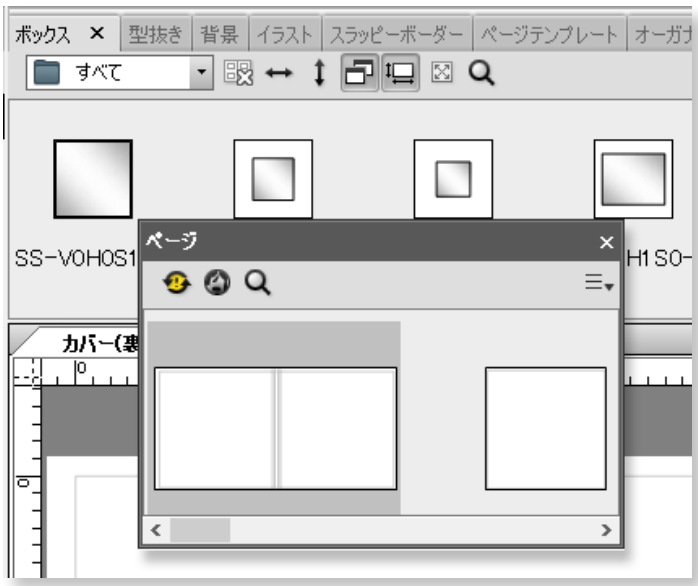
Windowsの場合 例えば、「ページタブ」を右クリックし、、「フローティング」をクリックします。



macOSの場合 例えば、「ページタブ」をクリックし、そのままドラッグ & ドロップすると、フローティングパレットになります。

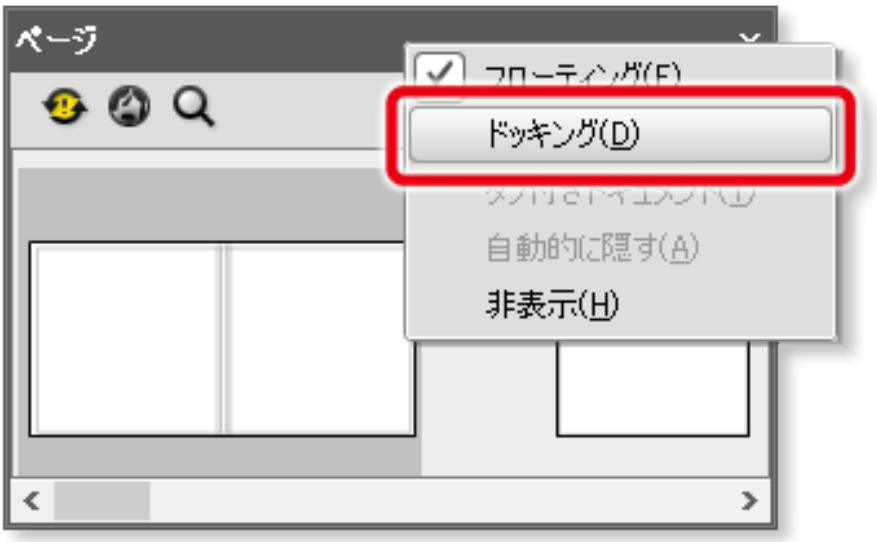


タブから独立してフローティングパレットとして利用できるようになります。



フローティングパレットをタブに戻す場合

Windowsの場合 フローティングパレット上で右クリックして「ドッキング」を選択します。



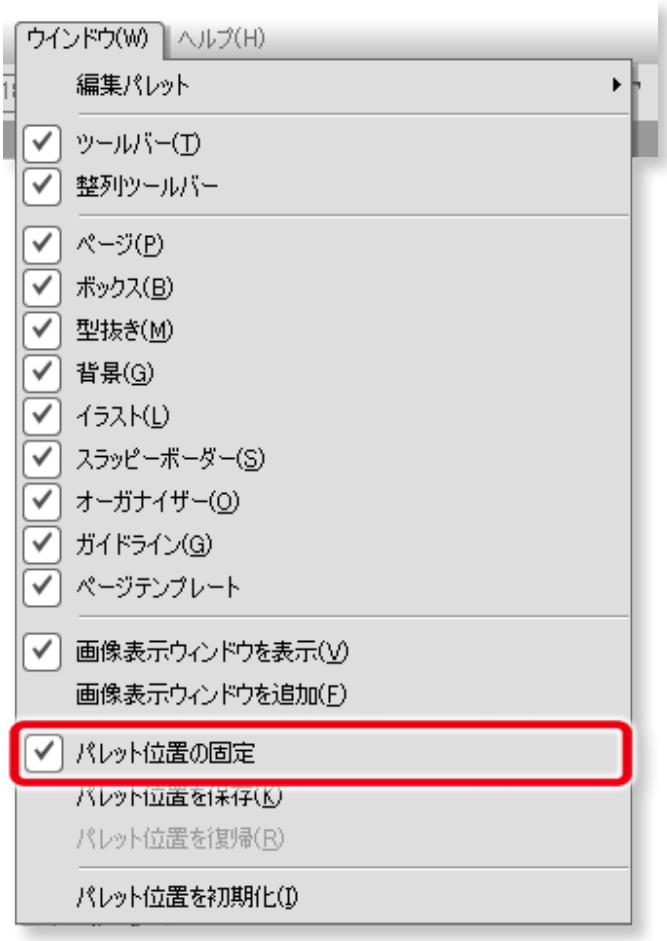
macOSの場合 フローティングパレットをタブ領域にドラッグすると ⬇ マークが表示されますので任意の位置でドロップします。

4-15.　タブを自動的に隠す (Windows 版のみ)

タブ領域を隠し小さなボタンに収納することにより、レイアウト領域を最大限に利用して表示できます。

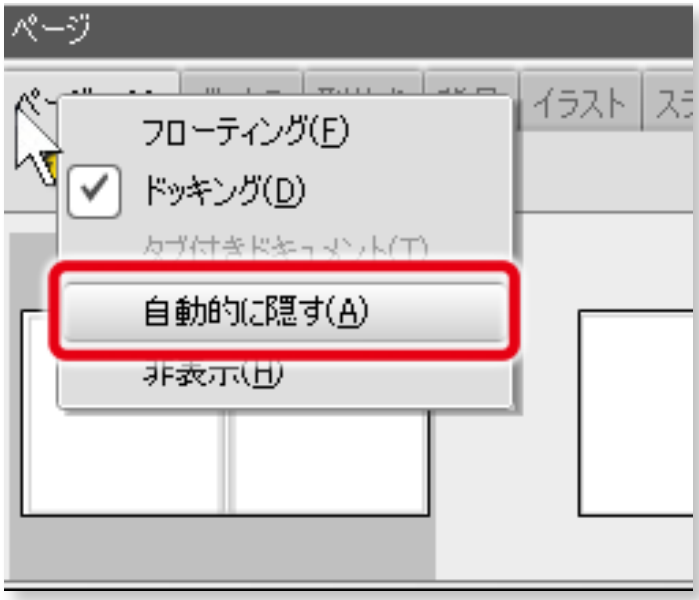
手順 1 パレット位置の固定を解除

ウインドウメニューより「パレット位置の固定」をクリックしてチェックを解除します。

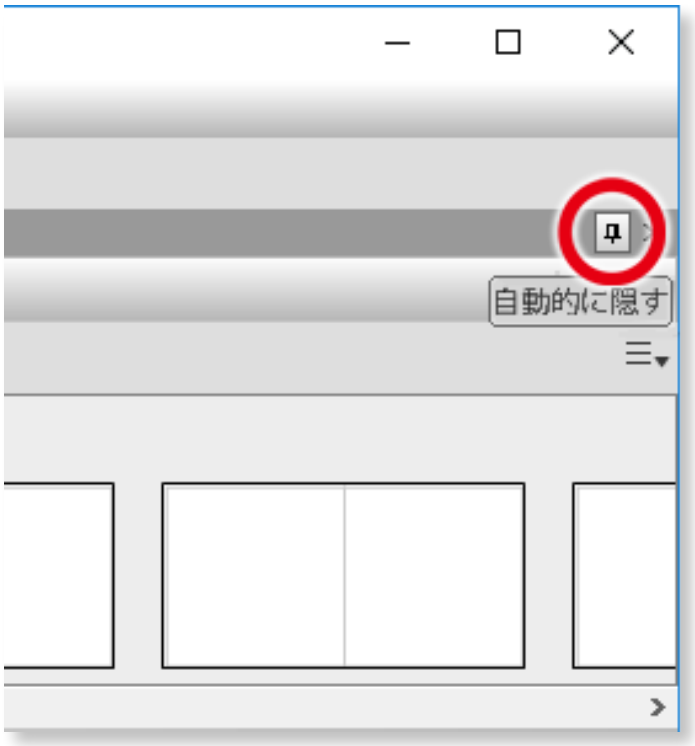


手順 2 自動的に隠す

ウインドウメニューより「自動的に隠す」をクリックします

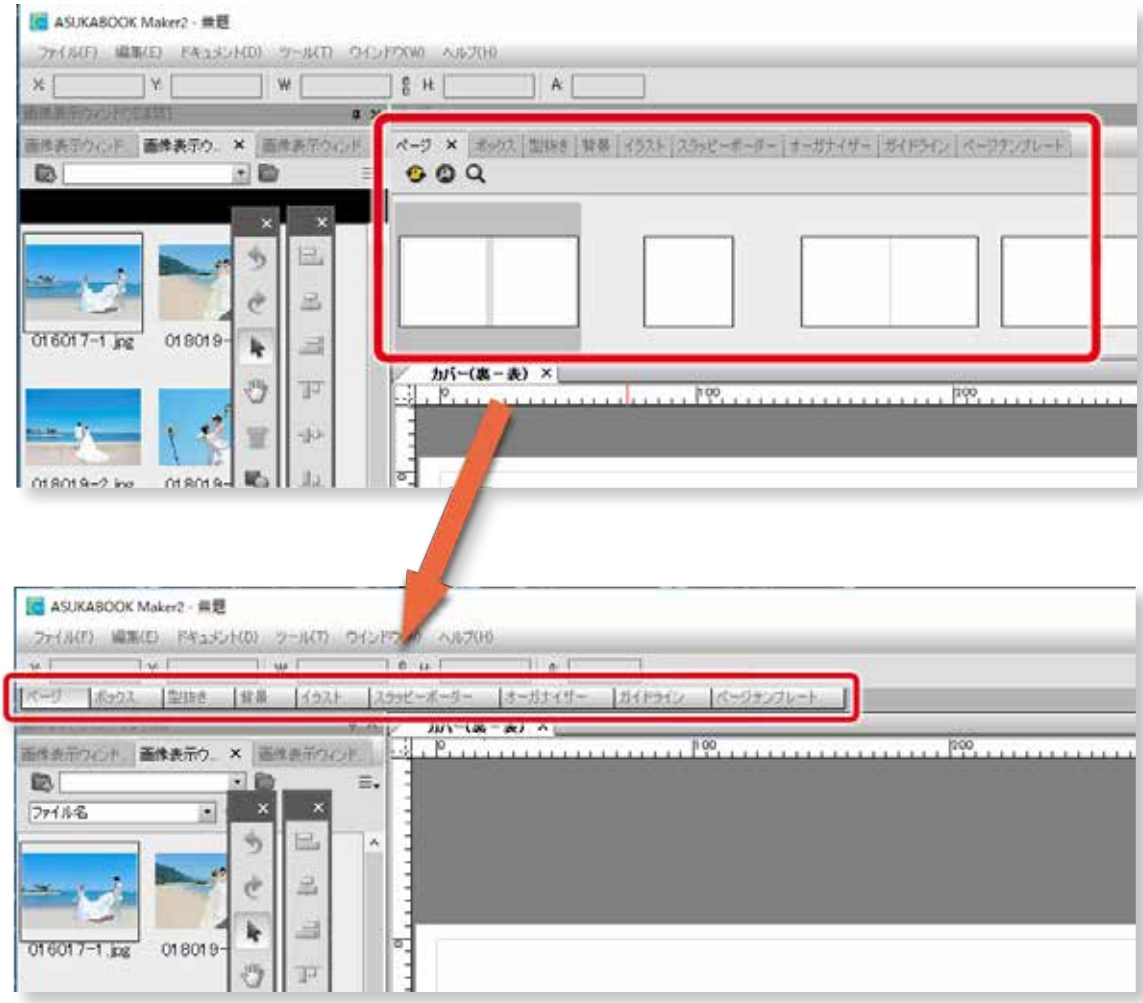


もしくは、タブ領域右側にある 📌 ピンアイコンをクリックしてください。



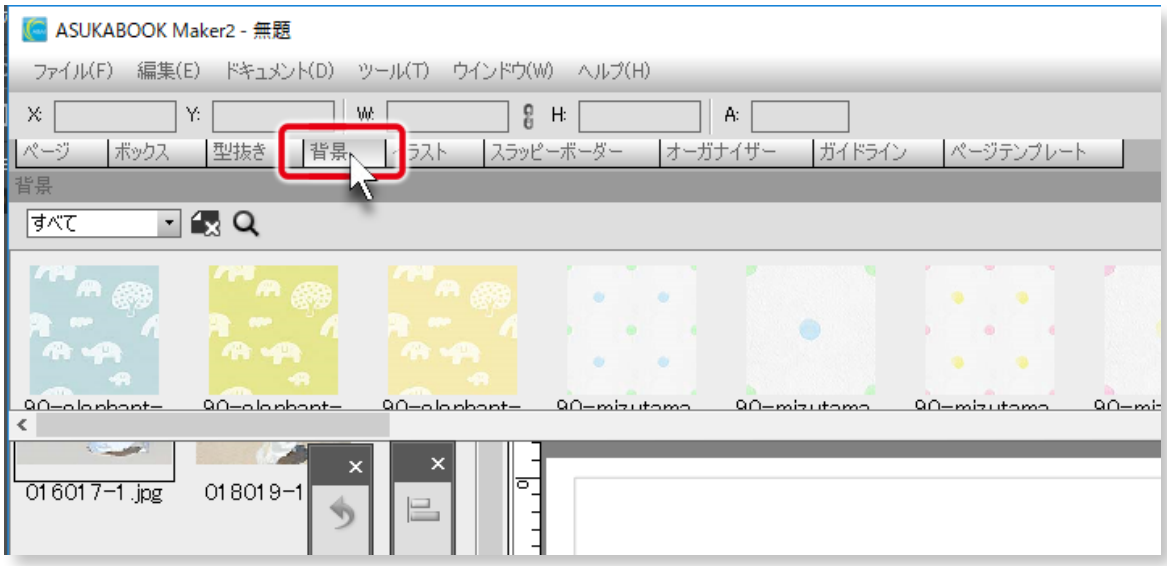
手順 3 タブが自動で隠れ、小さなボタンに格納されます

ウインドウメニューより「パレット位置の固定」をクリックしてチェックを解除します。



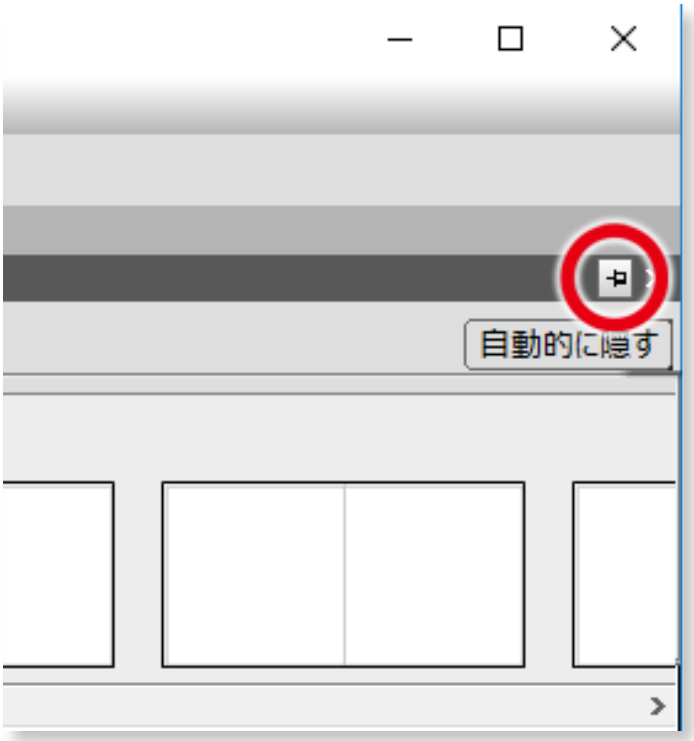
手順4 タブを隠している時の利用方法

タブを隠しているときは、小さいボタンが表示されています。各ボタンをクリックするとタブ領域が表示されます。



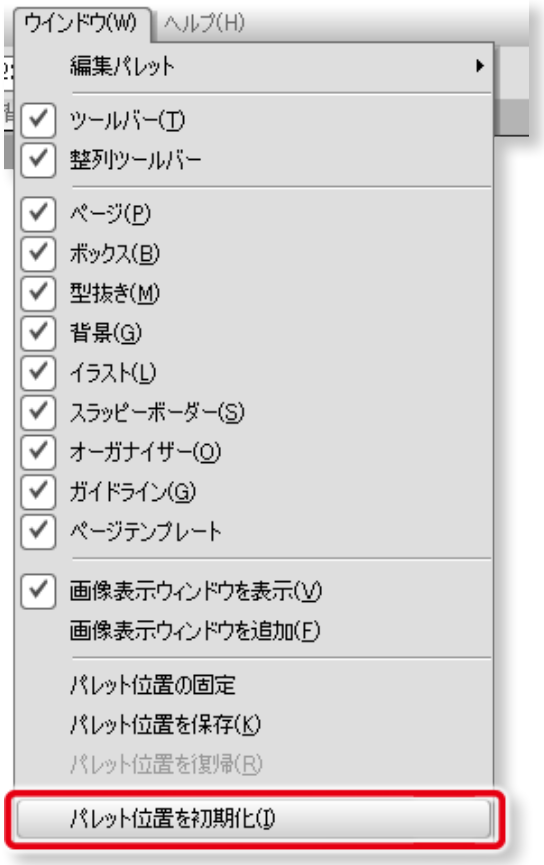
タブを自動的に隠すを解除する方法

タブ領域が表示されている状態で、横向きのピンアイコンをクリックします。



4-16.　タブやパレット位置を元に戻す

タブやパレット位置を元に戻す場合は、「ウインドウ」メニューから「パレット位置を初期化」をクリックしてください。初期状態に配置されます。



4-17.　背景色ツールの使い方

ツールメニューの「背景色」ツールを使用して、背景を塗りつぶすことができます。

4-17-1.　背景を塗りつぶす (ページごと)

手順 1 背景色ツール

「背景色」ツールをクリックします。

全ページに一括して背景を塗りつぶす場合は、4-47 ページの「4-17-2.　背景を塗りつぶす (全ページ一括)」をご参照ください。

手順 2 背景色を選択する

①カラーパレットが表示されますので、任意の色をクリックして選択してください。

②「OK」をクリックします。

色選択に関しましては、19-1 ページの「19.　色選択について」をご参照ください。

手順 3 背景を塗りつぶす

背景色を付けたい背景部分にマウスを移動すると アイコンが表示されますのでクリックします。

背景色が反映されます。

4-17-2.　背景を塗りつぶす (全ページ一括)

ツールメニューの「背景色」ツールを使用して全ページの背景を一括して塗りつぶすことができます。

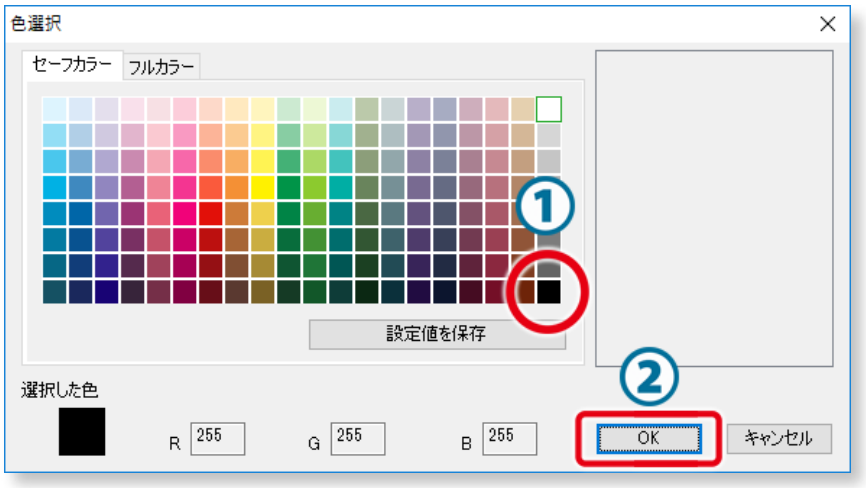
手順 1 背景色ツール

「背景色」ツールをクリックします。

手順 2 背景色を選択する

①カラーパレットが表示されますので、任意の色をクリックして選択してください。

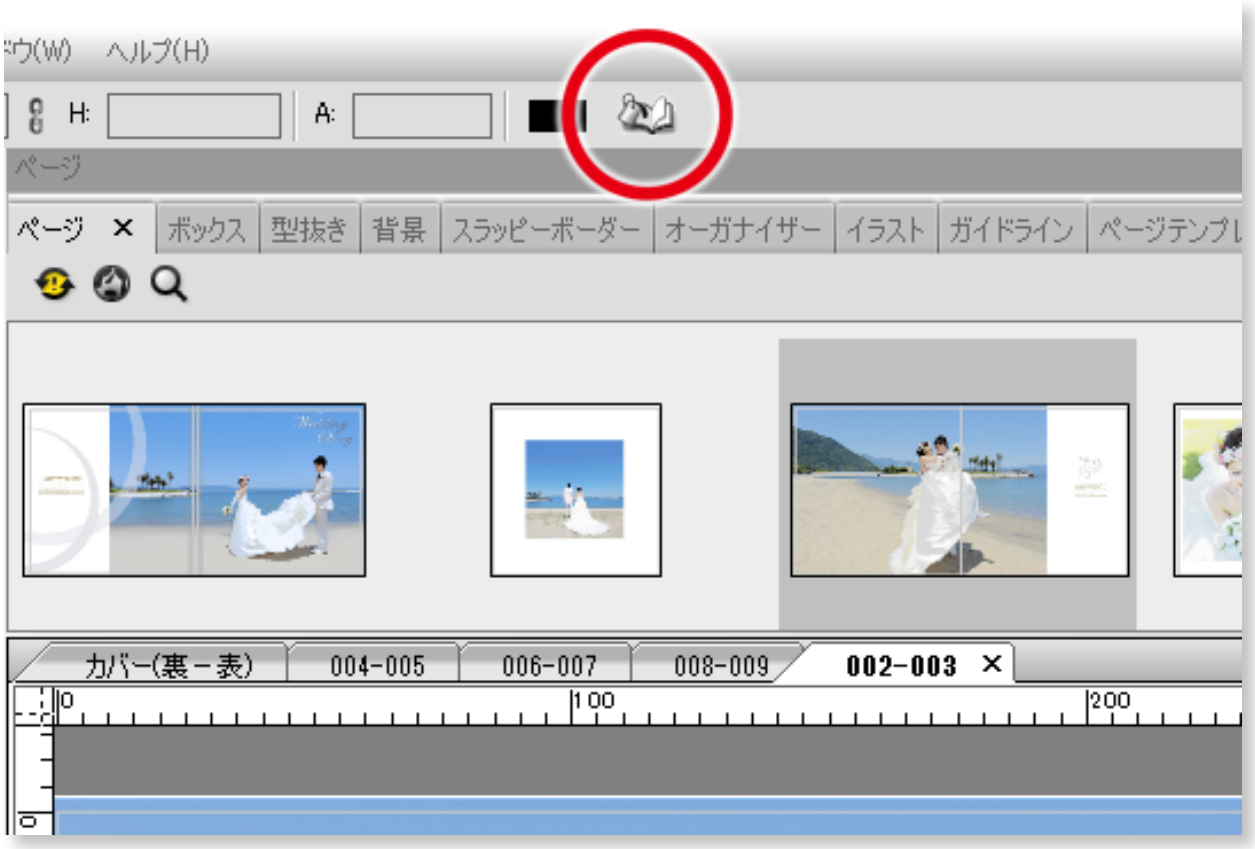
②「OK」をクリックします。



色選択に関しましては、19-1 ページの「19.　色選択について」をご参照ください。

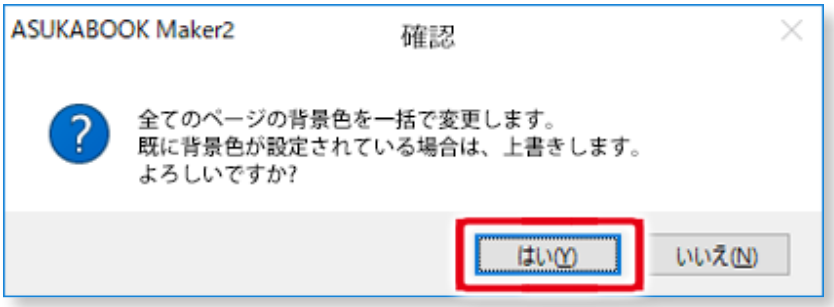
手順 3 全ページ一括変更する

タブ領域に 「全ページ一括変更」アイコンが表示されますのでクリックします。



手順 4 確認する

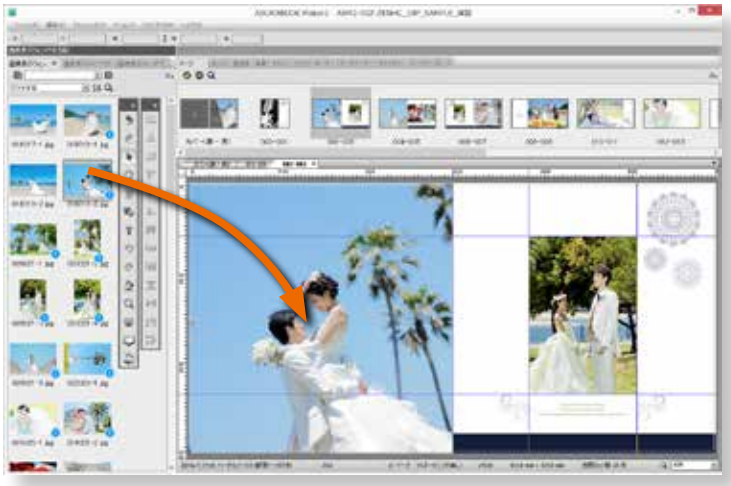
右図のように「すでに背景色が設定されている場合は上書きされます」というメッセージを確認し、上書きで問題なければ「OK」ボタンをクリックします。



手順 5 全ページに背景色が一括で反映されます

5.　画像表示ウインドウ

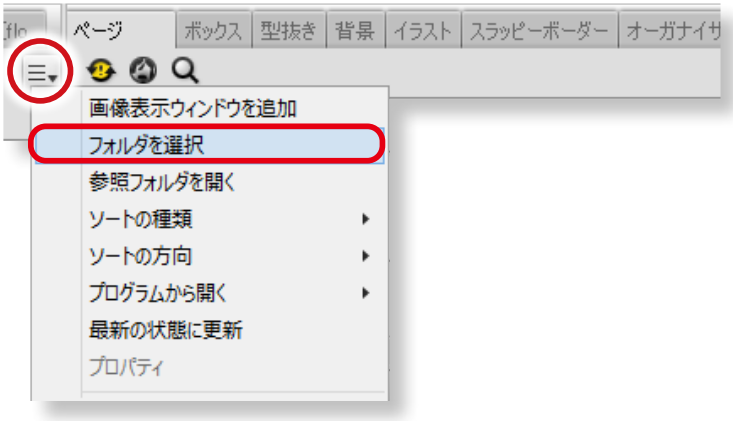
素材として使う画像は、画像表示ウインドウに読み込みます。
表示されるサムネイルを編集パレットにドラッグ＆ドロップしてレイアウトを行います。



5-1.　画像の読み込み

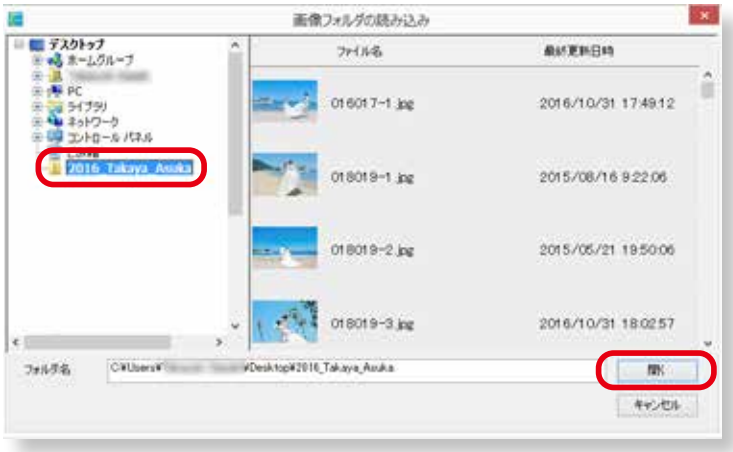
手順 1　「フォルダを選択」をクリック

「画像表示ウインドウ」の右上のメニューボタン（右図赤丸印）をクリックすると、サブメニューが表示されますので、「フォルダを選択」をクリックします。

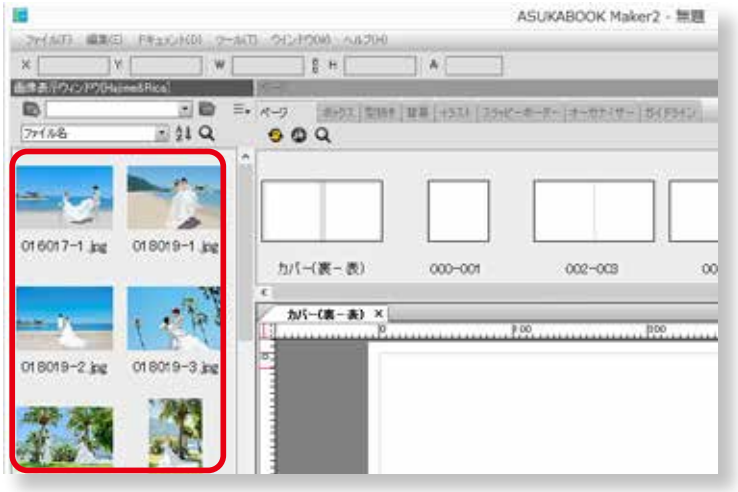


手順 2　「開く」をクリック

使用したい画像が入っているフォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

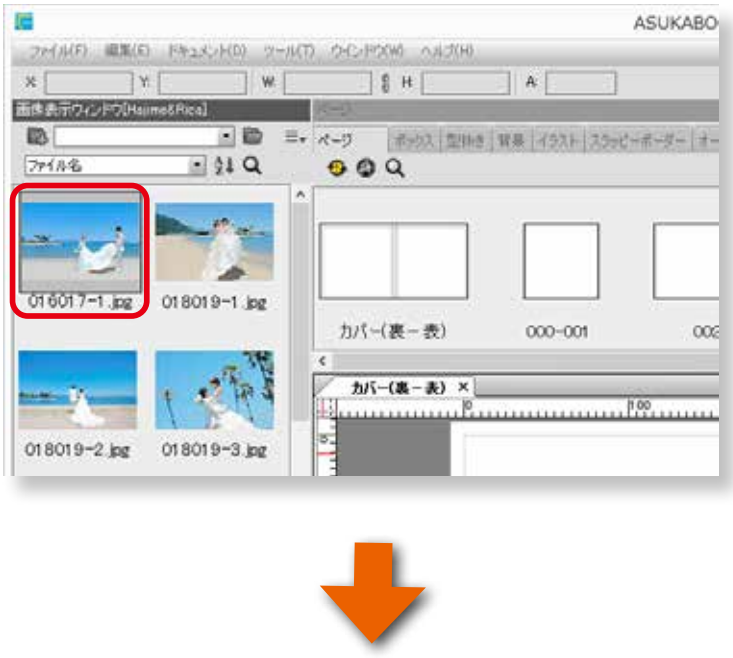


「画像表示ウインドウ」に画像のサムネイルが表示されます。



5-1-1.　全画面表示 (画像表示ウインドウ)

画像表示ウインドウに表示されている画像を選択し「スペース」キーを押すと全画面表示ができます。



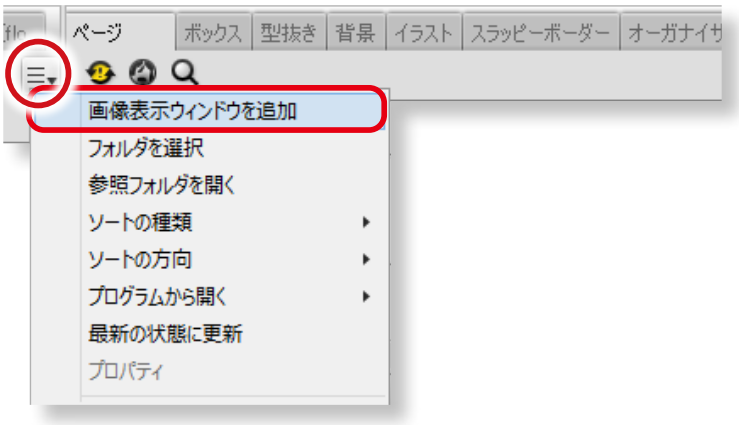
パソコンのモニタ上に全画面表示されます。
拡大して写真の詳細を確認することができます。

「esc」キーもしくは「スペース」キーで元に戻ります。

5-2.　画像表示ウインドウを追加

「画像表示ウインドウ」はいくつでも追加することができます。

セレクトした画像をフォルダ別に分けた場合など、そのフォルダごとに画像表示ウインドウにタブとして読み込んでおき、タブを切り替えて使うことができます。

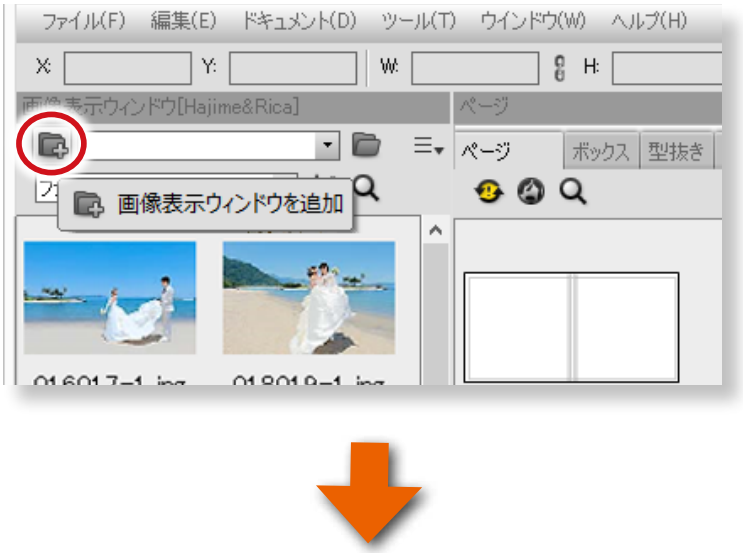


手順 1　「画像表示ウインドウを追加」をクリック

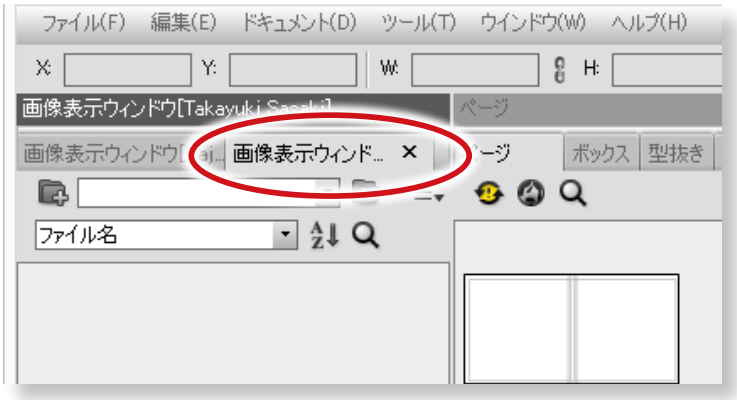
「画像表示ウインドウ」の右上のメニューボタンをクリックし、「画像表示ウインドウを追加」をクリックします。

もしくは

もしくは、画像表示ウインドウ内の「画像表示ウインドウを追加」ボタン（右図赤丸）をクリックしてください。



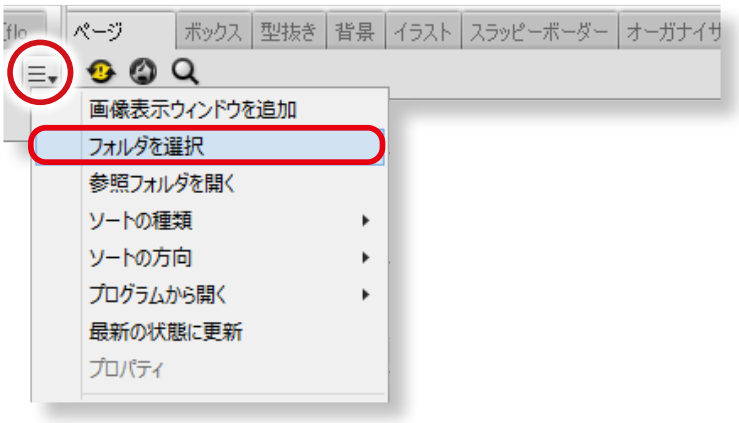
画像表示ウインドウ内に新しいタブが追加されます。



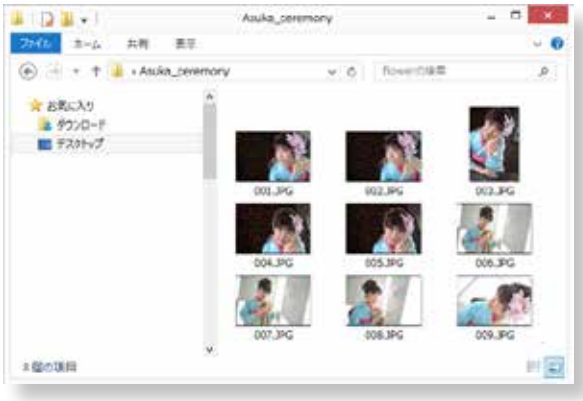
手順2 「フォルダを選択」をクリック

続いて、「4-1.　画像の読み込み」の手順に従って、画像を読み込みます。

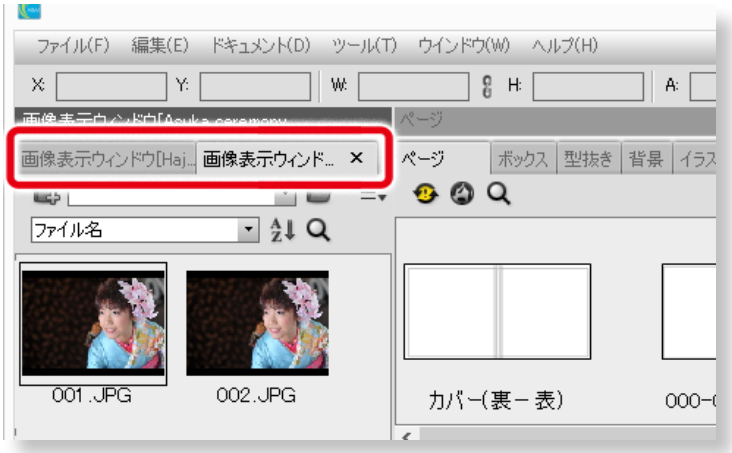
「画像表示ウインドウ」の右上のメニューボタンをクリックし、サブメニューの「フォルダを選択」をクリックします。



使用したい画像が入っているフォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックします。



「画像表示ウインドウ」の 2 つ目のタブ（ウインドウ）に新たに選んだ画像のサムネイルが表示されます。

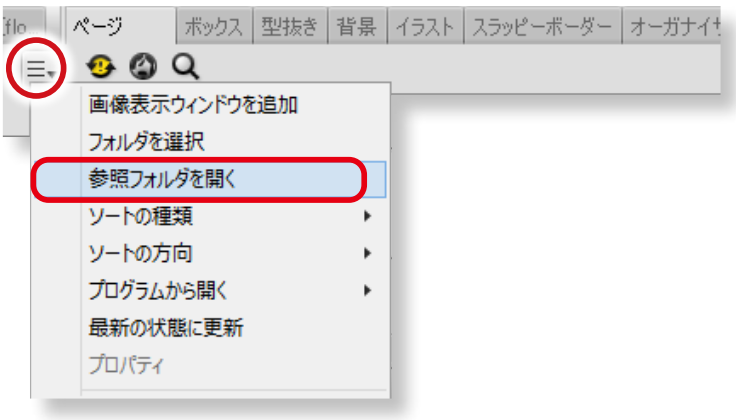


このように「画像表示ウインドウ」は複数のウインドウを用意し、タブを切り替えながら必要な画像ファイルを選択することができます。

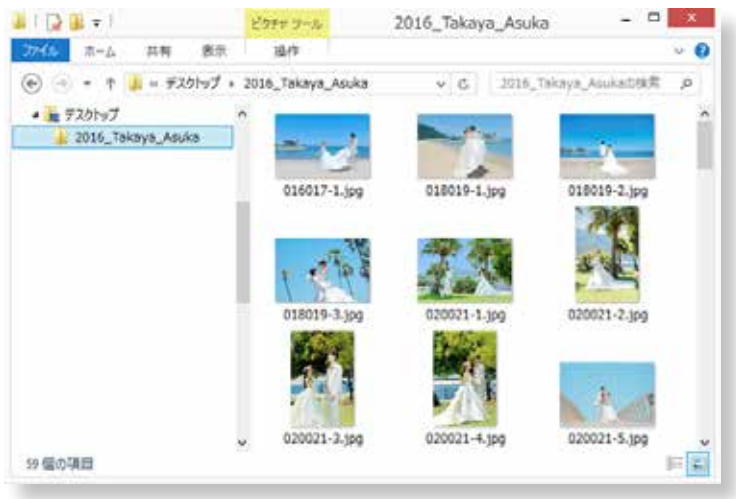
レイアウトを始める前に、素材として使用する画像ファイルをシーンごとに、もしくは目的ごとにフォルダに仕分けしておくと便利でしょう。

5-3.　参照先フォルダを開く

「画像表示ウインドウ」内で参照しているタブの元フォルダを開く時に使います。



「画像表示ウインドウ」に表示されているサムネイルの元フォルダが表示されます。

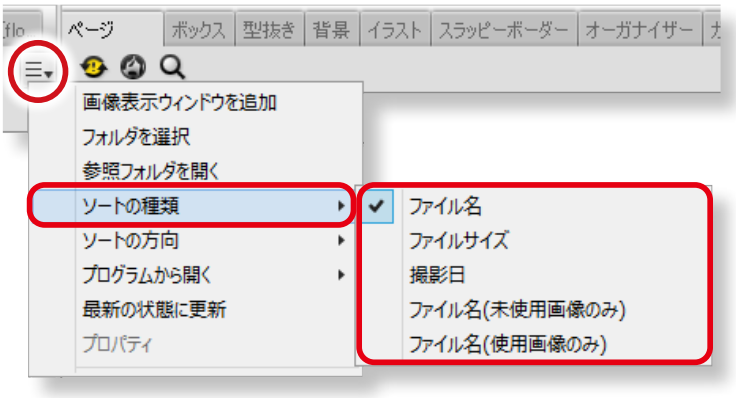


5-4.　ソートの種類

「画像表示ウインドウ」内のサムネイルの並び方を変更することができます。

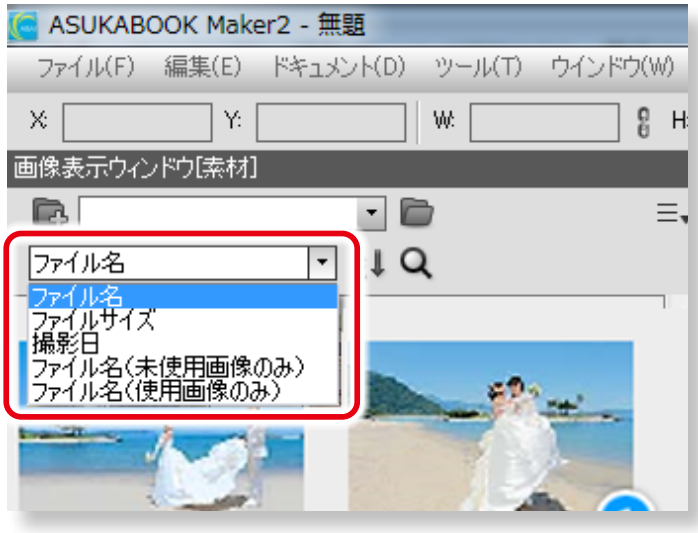
並び順は、

●ファイル名
●ファイルサイズ
●撮影日
●ファイル名 (未使用画像のみ)
●ファイル名 (使用中画像のみ)
　（初期設定は「ファイル名」になっています）



もしくは

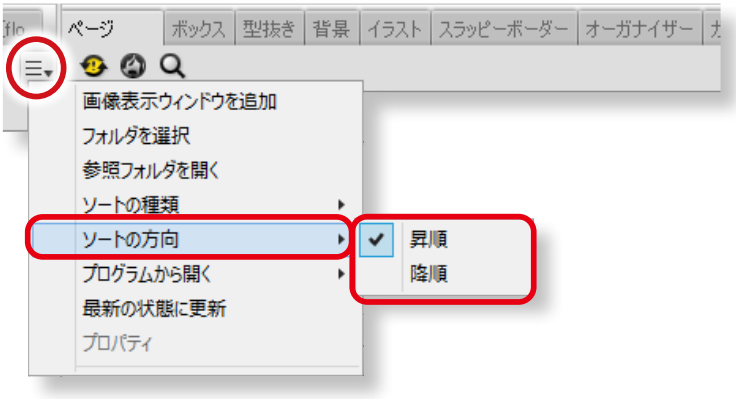
もしくは、「画像表示ウインドウ」のプルダウンメニューでも同じ項目が選択できます。（右図赤枠部分参照）



5-5.　ソートの方向

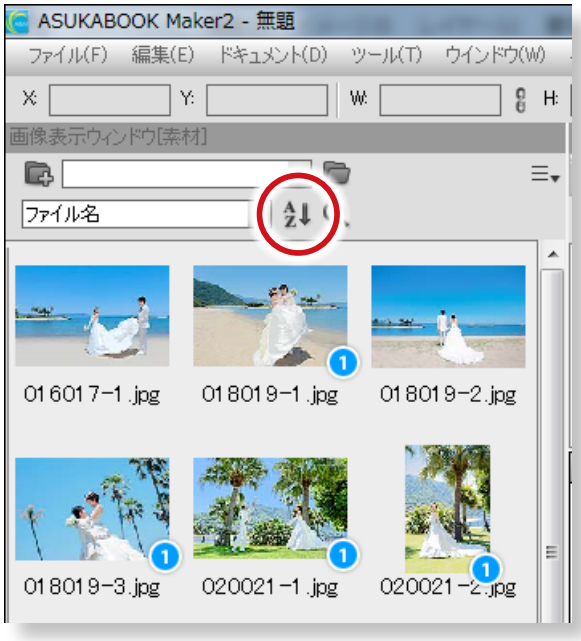
「画像表示ウインドウ」内のサムネイルの並び方の方向性を変更することができます。

（初期設定では、「昇順」になっています。）



もしくは

もしくは、「画像表示ウインドウ」内のアイコン（右図赤丸参照）をクリックしてください。
（初期設定では、「昇順」になっています。）



このアイコンはクリックするたびに、「昇順」「降順」が切り替わります。

5-6.　このアプリケーションで開く

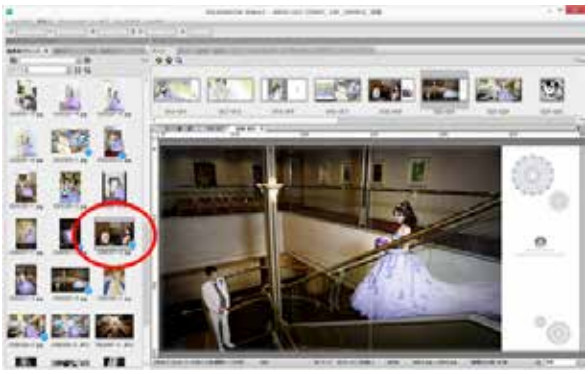
「画像表示ウインドウ」内のサムネイルの元ファイルを開く時に、アプリケーションを選ぶことができます。
この機能を使うことにより、元ファイルを Adobe Photoshop® で編集し直すことができます。

5-6-1.　Adobe Photoshop® を使って素材を開く方法

ABM2 の色調調整機能では、画像の部分的な調整を行うことができません。このような場合には、Adobe Photoshop® の助けを借りることができます。

手順 1　調整したい画像を選択

「画像表示ウインドウ」の中から調整したい画像を選択します。



手順 2　Adobe Photoshop® を起動

macOSの場合

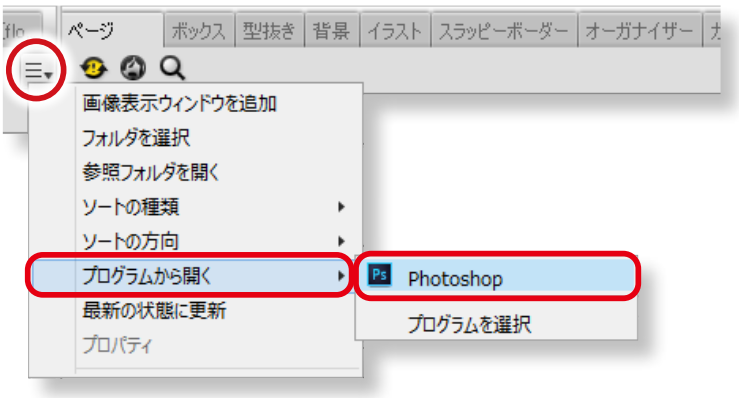
「画像表示ウインドウ」の右上のメニューボタンをクリックし、「このアプリケーションで開く」をクリックします。さらにサブメニューに画像処理に関係するアプリケーションが表示されます。
この中から「Adobe Photoshop®」をクリックしてください。

もしくは

もしくは、「画像表示ウインドウ」の中から調整したい画像を選択し、この状態で右クリックします。
サブメニューが表示されるので、「このアプリケーションで開く」「Adobe Photoshop®」をクリックしてください。

Windowsの場合

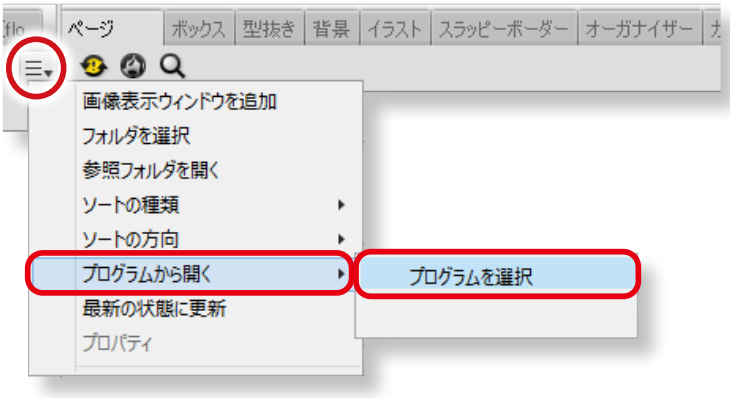
「画像表示ウインドウ」の中から調整したい画像を選択します。
この後、「画像表示ウインドウ」の右上のメニューボタンをクリックし、「プログラムから開く」をクリックします。



もしくは

●編集するプログラムの選択・追加

プログラムがまだ表示されていない、もしくは、新しいアプリケーションを追加したい場合は、メニューから「プログラムを開く / プログラムを選択」をクリックします。



写真の編集に必要なプログラムを探し出し、選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

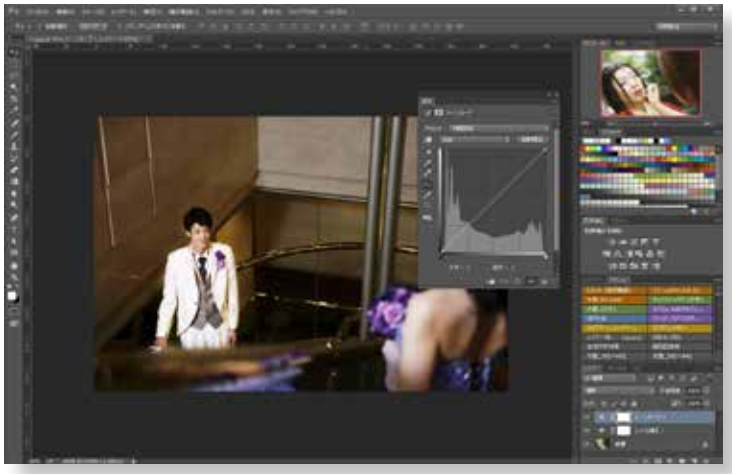
次回から登録したプログラムが表示されます。

Adobe Photoshop® が起動し、「手順1」で選択した画像が開きます。

手順3 画像の調整を行う

Adobe Photoshop® で画像の調整を行います。

◆ ここではマスクとトーンカーブを使って花嫁の顔の部分のコントラストを調整しています。



手順4　画像を保存する

Adobe Photoshop® にて調整した画像を保存します。

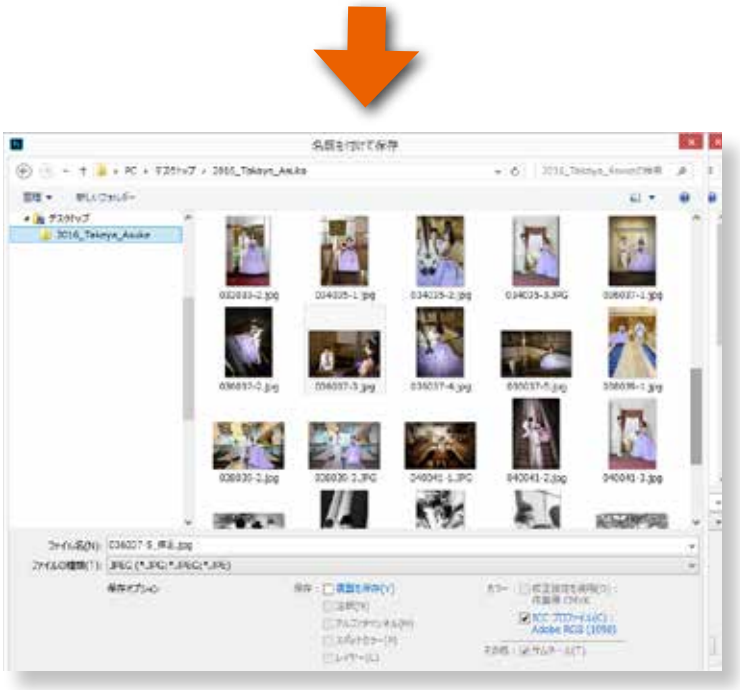
●保存は JPEG 形式をお薦めします。
ABM2 では PSD 形式（Photoshop 形式）のファイルをサポートしていますが、いくつかの注意を必要とします。

詳しくは、本書の「18-7.　PSD 形式ファイル（Adobe® Photoshop® 形式画像）の簡易読み込み機能」18-5 ページをご覧ください。

●保存する場所は現在調整している画像と同じフォルダに入れると便利です。

アドバイス！

オリジナルの画像に上書きしたくない場合は「別名で保存」を使ってファイル名の末尾を書き加えるなどの工夫するとよいでしょう。



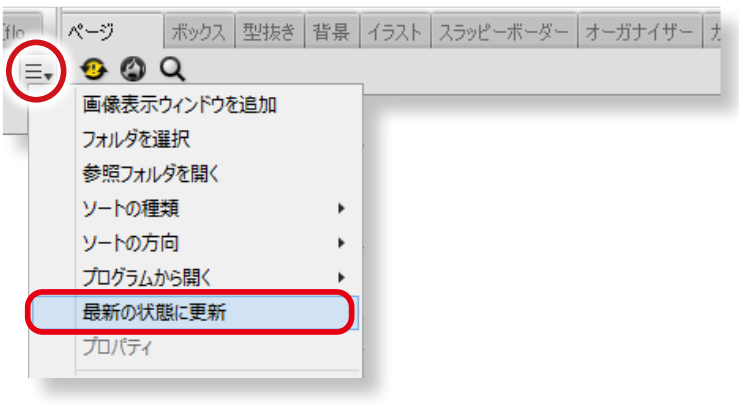
手順5　ABM2 に戻る

ABM2 に戻り、画像表示ウインドウを確認はてください。
「手順 4」で保存した画像が表示されています。

◆参考例
右図では「別名で保存」とし、ファイル名を「12」から「12b」に変更しています。

●もし、画像表示ウインドウに更新した画像が表示されない場合は、画像表示ウインドウのメニューボタン（右図赤丸印）をクリックし、表示されたサブメニューの「最新の状態に更新」をクリックしてください。

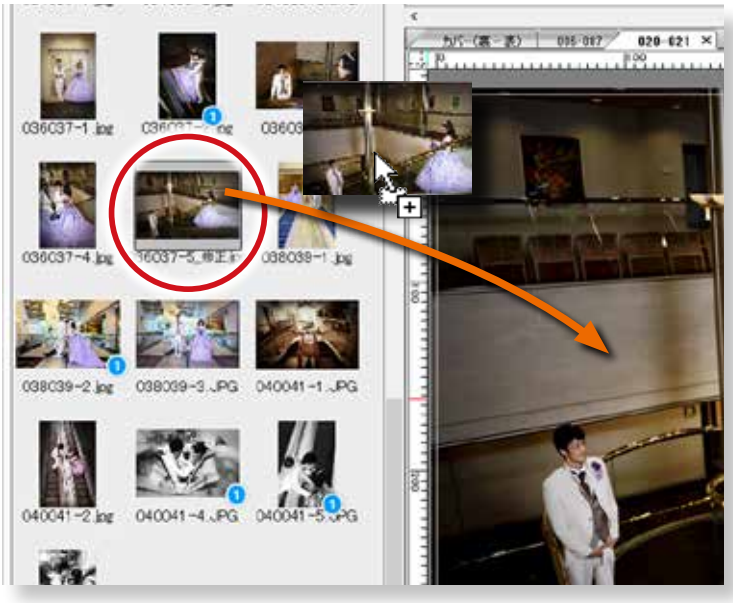
この操作により、フォルダの画像が再読み込みされ、「手順 4」で保存した画像が画像表示ウインドウに表示されるようになります。



手順 6　調整した画像を入れ替える

この調整した画像を編集パレットの画像と入れ替えます。

入れ替えたい画像の中心部分に「入れ替えはここにドロップ」という表示が表れますので、ここにドロップすると新しい画像に入れ替わります。

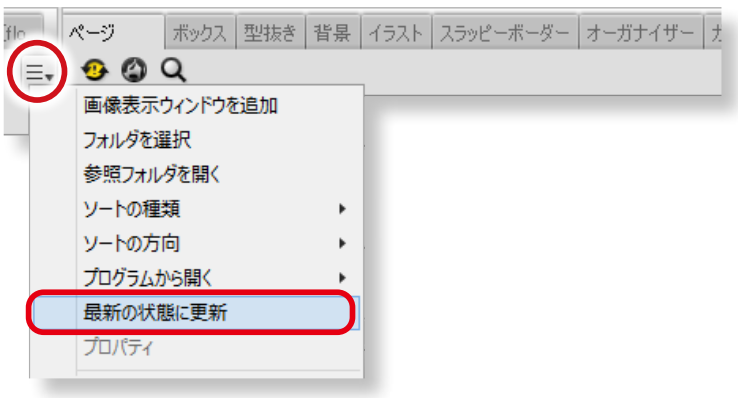


これで調整した画像に差し替えることができました。

5-7.　最新の状態に更新

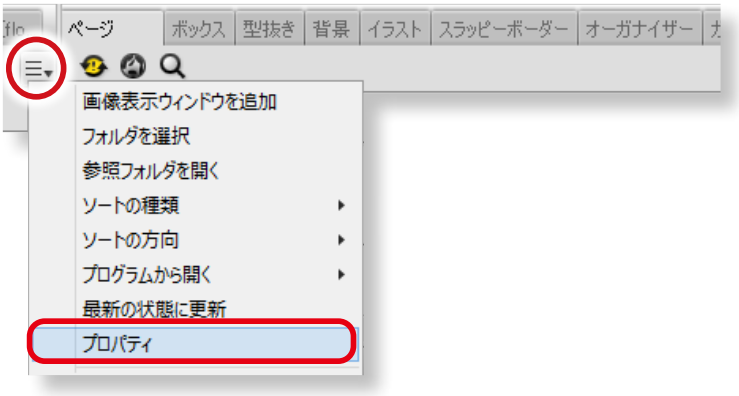
画像表示ウインドウに読み込まれている画像のフォルダをもう一度読み込み直し、サムネイルを更新します。

フォルダに画像を追加した場合、Adobe Photoshop で編集し直した場合などに、この操作を行ってください。

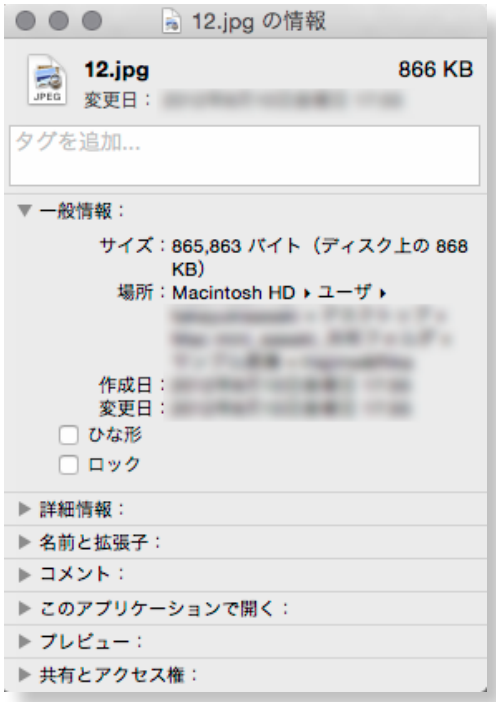


5-8.　プロパティ

画像表示ウインドウで選んだサムネイルのファイル情報を表示します。画像のファイル形式、保存場所、容量などを調べることができます。



macOSの場合



Windowsの場合

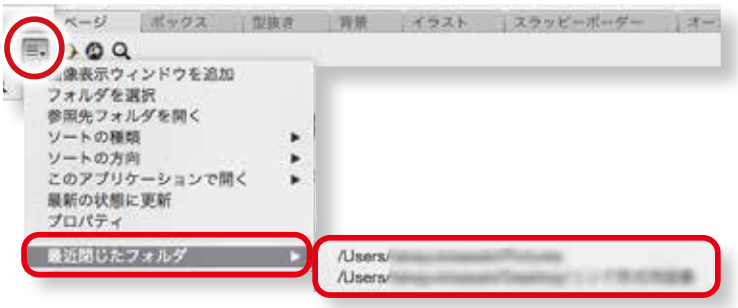
5-9.　最近閉じたフォルダ

macOSの場合

画像表示ウインドウを閉じてしまっても、このメニューから再表示させることができます。

●この機能は macOS 版のみの機能です。

●「最近閉じたフォルダ」をクリックすると、閉じたフォルダのパスが表示されますので、再表示させたいフォルダを選んでクリックしてください。



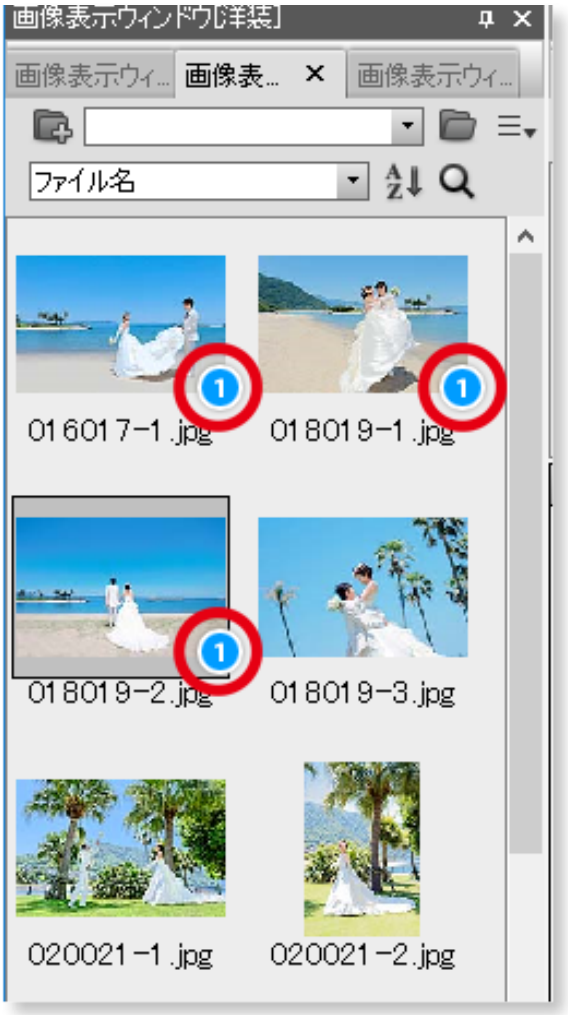
5-10.　サムネイルサイズの調整

画像表示ウインドウに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

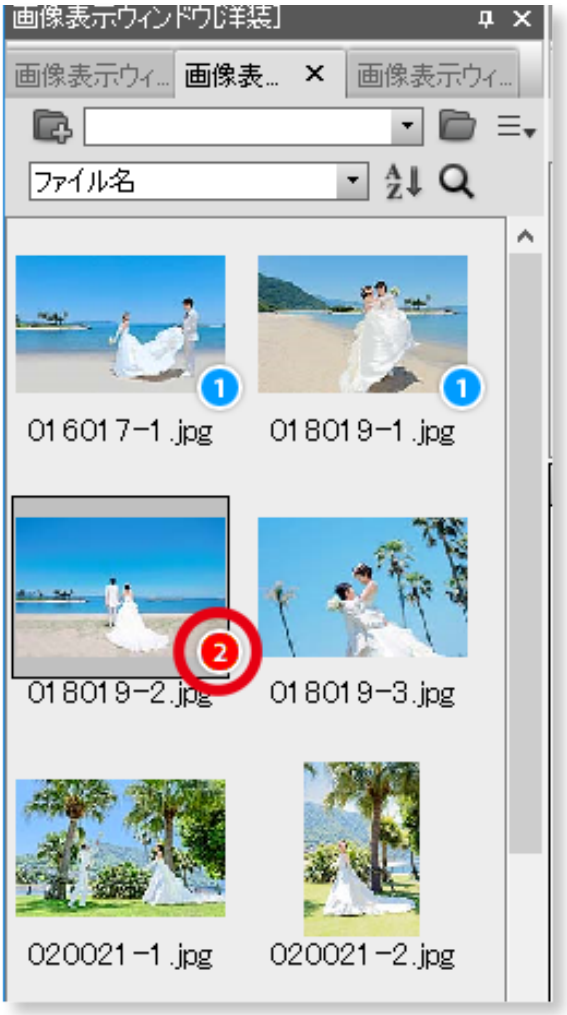
画像表示ウインドウ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

5-11.　使用画像数の表示と確認

画像表示ウインドウで使用されてる画像の表示と確認ができます。お味画像を二回以上使用している場合、赤色で表示します。



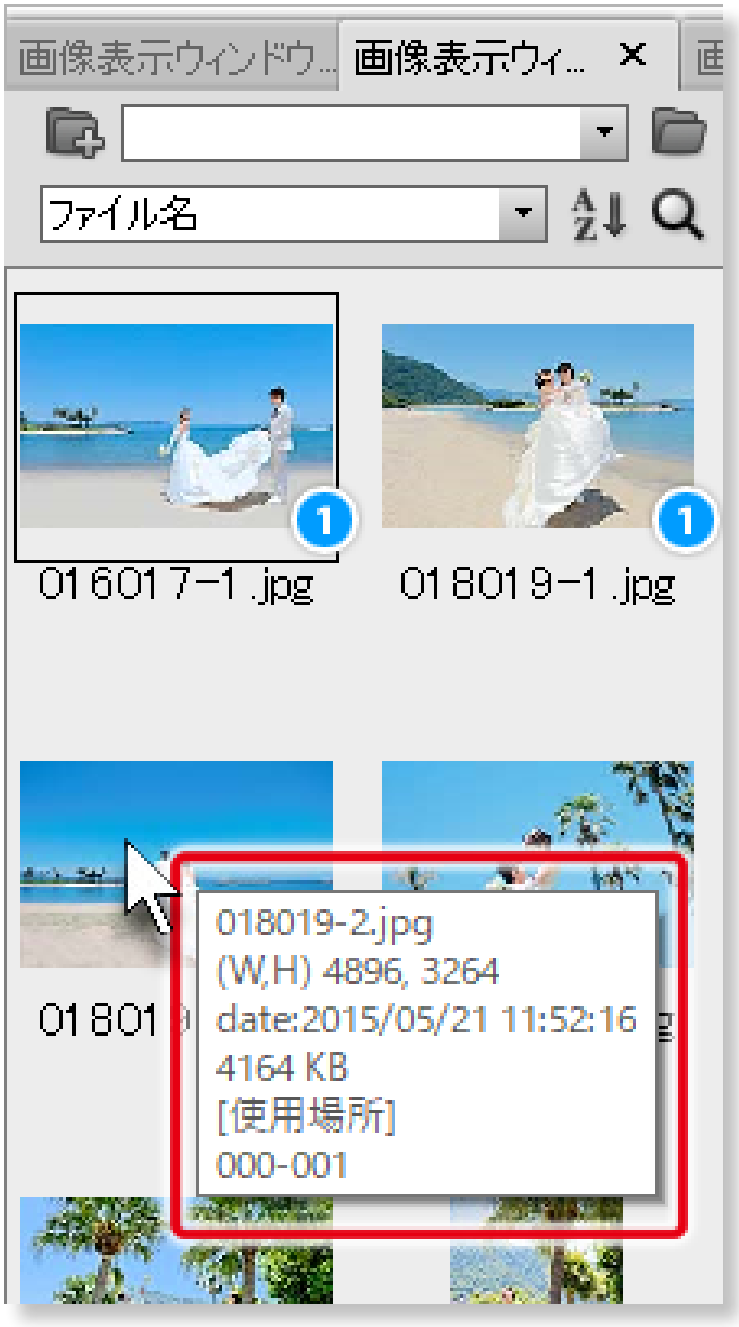
1回使用している画像は、水色で「1」と表示されます。



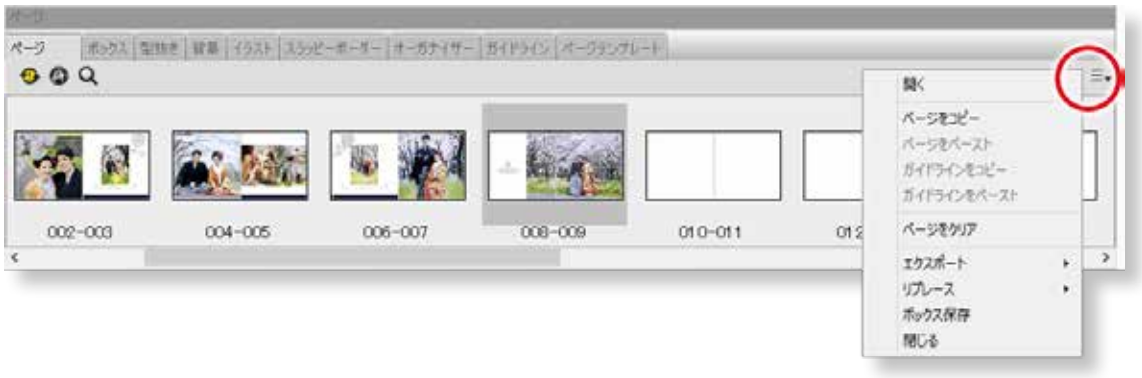
2回以上使用している画像は、赤色で表示されます。
重複等を確認できます。

5-12.　使用画像の状態を表示

マウスカーソルを画像の上に合わせると、どのページで使用されているか等の情報を表します。



6.　ページ



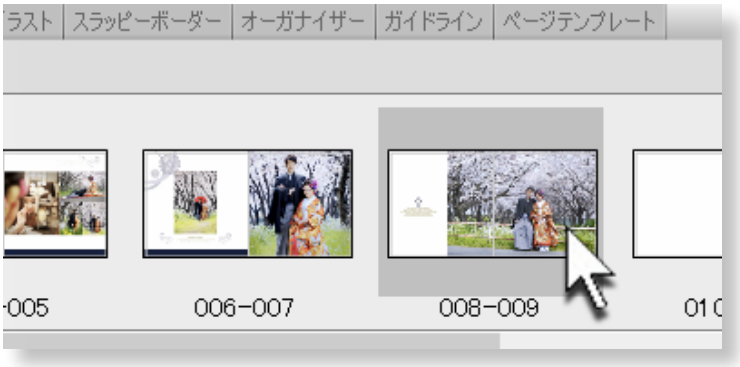
「ページ」タブには各ページのサムネイルが表示されます。
選択したサムネイルのページを開いたり、ページの入れ替えが行えます。
ページタブの右側上にあるメニューボタンをクリックするか、あるいはサムネイル上で右クリックするとメニューが表示され、下記の編集が行えます。

6-1.　開く

ページを開く時に使います。
ページタブ内のサムネイルをダブルクリックしても、開くことができます。

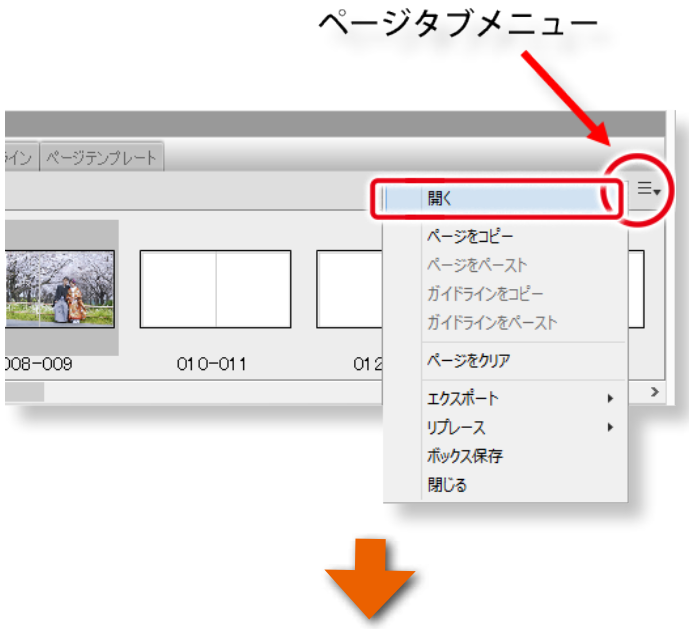
手順 1　開きたいページを選択

開きたいページ、もしくはレイアウトを行いたいページを「ページ」タブから選択します。



手順 2　「開く」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「開く」をクリックします。



アドバイス！

もしくは、ページタブ内のサムネイルをダブルクリックしてもページを開くことができます。

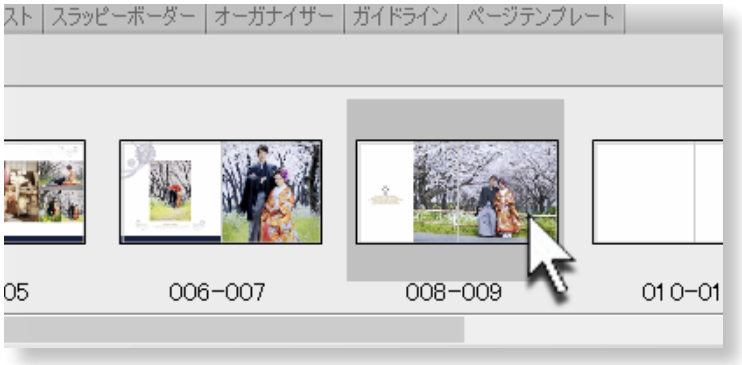
選択したページが編集パレットに表示されます。

6-2.　ページをコピー
6-3.　ページをペースト

レイアウトしたページを、ページ単位で他のページにコピーすることができます。

手順 1　コピー元のページを選択

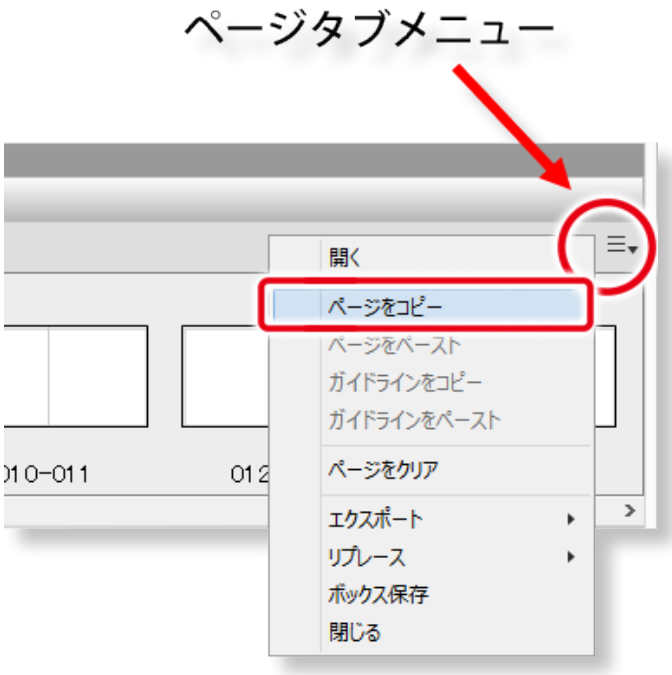
コピー元のページをページタブから選択します。



v

手順 2　「ページをコピー」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「ページをコピー」をクリックします。

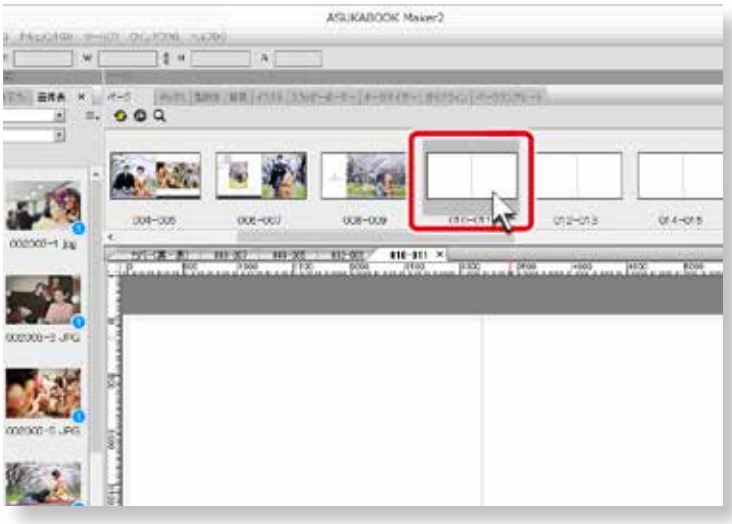


アドバイス！

- ページタブ上でページを選択後に右クリックすると、同様のメニューが表示されます。
- 「ページをコピー」をクリックすると、ABM2 は選択したページを一時的に記憶するだけで、外見上は何の動作も起こりません。
- この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。
- 「ページをコピー」で記憶した内容は、次に新たな「ページをコピー」を行うまで有効です。

手順 3　コピー先のページを選択

コピー先のページ（ページ内容を貼り付けたいページ）を選択します。

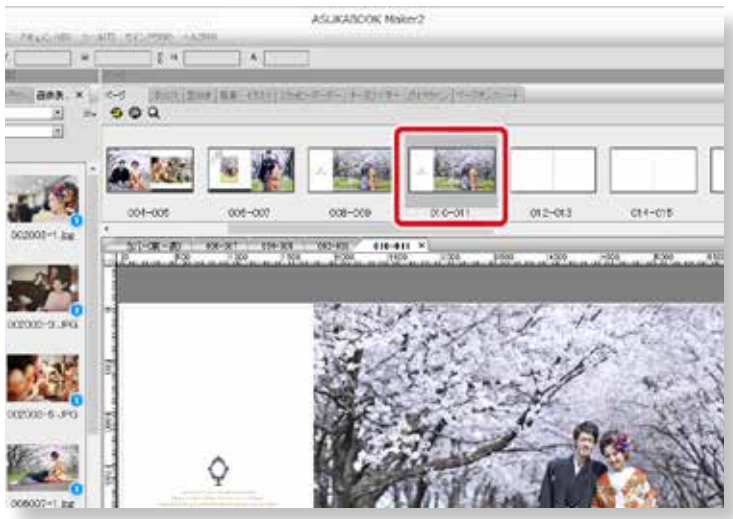


手順 4　「ページをペースト」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「ページをペースト」をクリックします。

●ページタブ上でページを選択後に右クリックすると、同様のメニューが表示されます。

「手順 3」で選択したページに、「手順 2」で一時的に記憶したページがペースト（貼り付け）されます。
この後、画像を他の画像に入れ替えれば、結果的にレイアウトのみを利用したことになります。



● この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。

6-4.　ガイドラインをコピー
6-5.　ガイドラインをペースト

あるページでレイアウトに利用したガイドラインだけを、他のページへコピーすることができます。

手順 1　ガイドラインのコピー元のページを選択

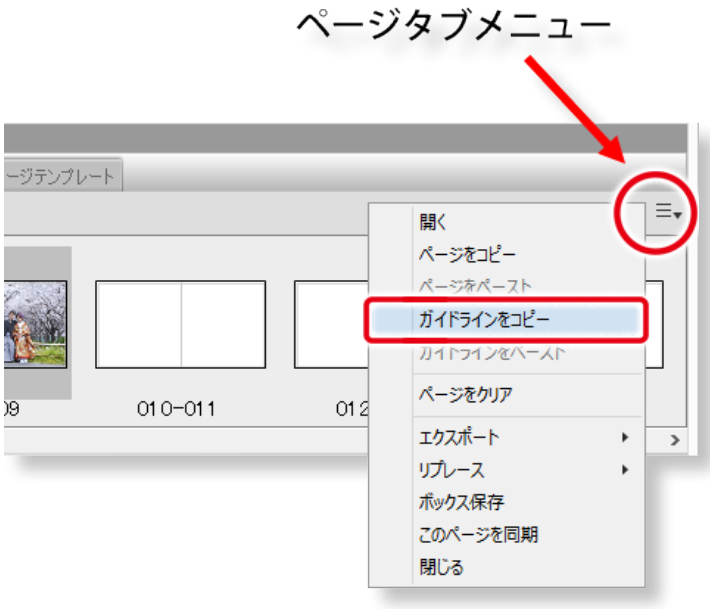
ガイドラインのコピー元のページをページタブから選択します。

基本的なガイドの使用方法に関しましては、4-29 ページの「4-12.　ガイド機能」をご参照ください。

ガイドラインの保存機能は、13-1 ページの「13.　ガイドラインタブ」をご参照ください。

手順 2　「ガイドラインをコピー」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「ガイドラインをコピー」をクリックします。



アドバイス！

- ページタブ上でページを選択後に右クリックすると、同様のメニューが表示されます。
- 「ガイドラインをコピー」をクリックすると、ABM2 は選択したページのガイドライン情報を一時的に記憶するだけで、外見上は何の動作も起こりません。
- この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。
- 「ガイドラインをコピー」で記憶した内容は、次に新たな「ガイドラインをコピー」を行うまで有効です。

手順 3　コピーしたいページを選択

ガイドラインをコピーしたいページを選択します。

手順4　「ガイドラインをペースト」をクリック

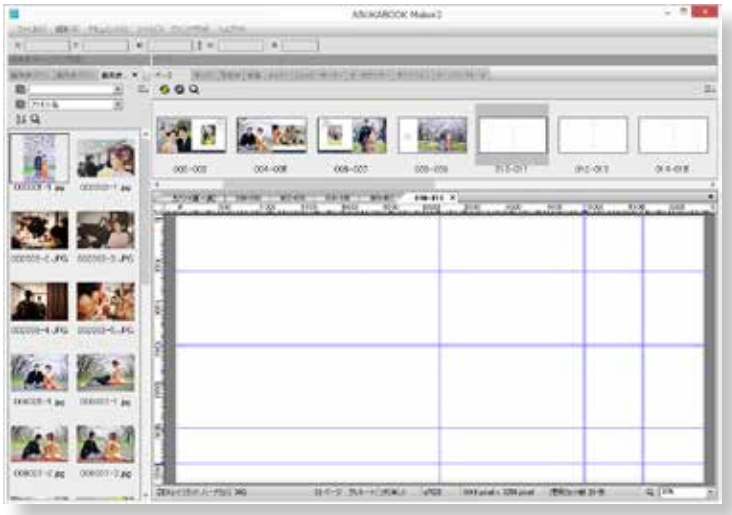
ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「ガイドラインをペースト」をクリックします。

「手順 3」で選択したページに、「手順 2」で一時的に記憶したガイドライン情報だけがペースト（貼り付け）されます。

画像はペーストされません。

アドバイス！

この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。

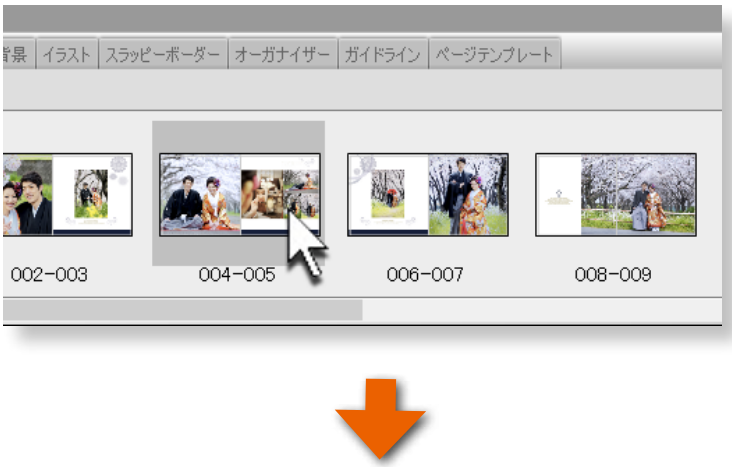


6-6.　ページをクリア

ページの内容を消去することができます。消去される内容は、画像、図形、文字、ガイドラインなどの全てに及びますが、ページ自身が削除される訳ではありません。

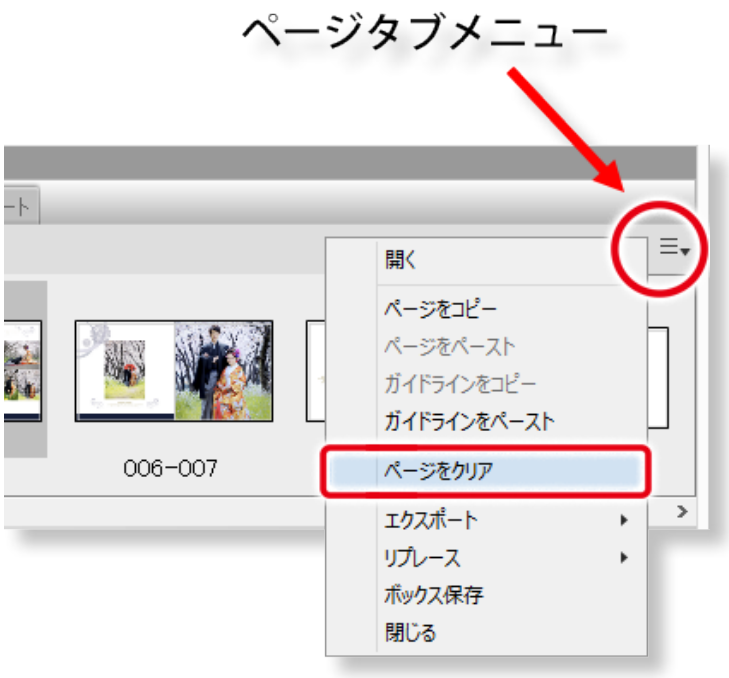
手順1　内容を消去したいページを選択

内容を消去したいページをページタブで選択します。



手順2 「ページをクリア」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「ページをクリア」をクリックします。

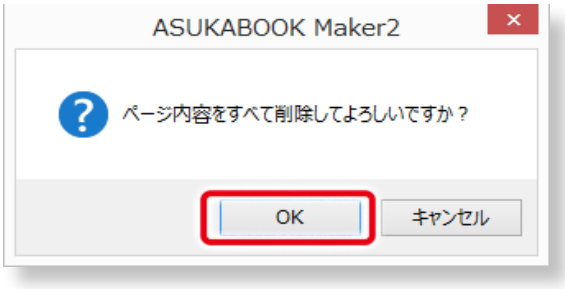


アドバイス！

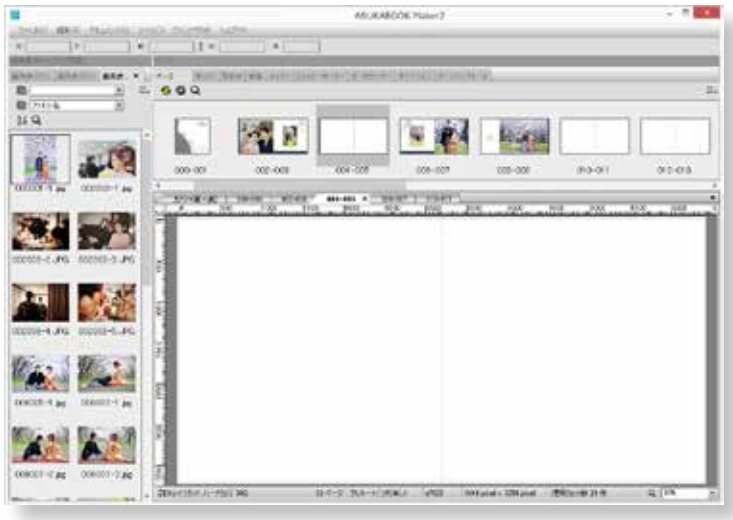
- ページタブ上でページを選択後に右クリックすると、同様のメニューが表示されます。
- この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。

手順3 「OK」ボタンをクリック

ページ内容を消去しても良いか、否かを尋ねるメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



ページの内容のすべてが消去されます。



6-7.　エクスポート／ページを保存

「ボックス保存」では保存される情報は写真の輪郭（ボックス）だけです。

写真に施したエフェクト（画像加工の情報）や、背景色も含めて保存したい場合には「ページを保存」をご利用ください。

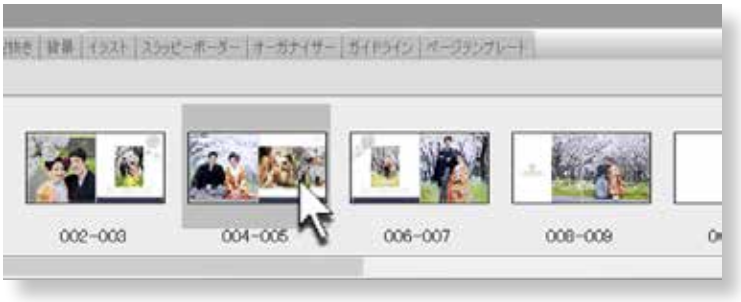
アドバイス！

保存したページ情報ファイルは、本書の「6-9.　リプレース／ページを置き換え」6-13 ページで呼び出すことができます。

6-7-1.　特定のページのみを「ページ保存」する場合

手順 1　保存したいページを選択

「ページ」タブの中から保存したいページをクリックして選択してください。（右図の丸印



ページを選択したら、そのまま右クリックしてサブメニューを表示させ、「エクスポート／確認用 JPEG を出力」をクリックします。

アドバイス！

macOS でマウスが右クリックに対応していない場合は、「control」＋クリック　と操作してください

手順 2　「保存」をクリック

「ページ保存」ダイアログが表示されるので、保存するページにファイル名をつけ、「保存」ボタンを押します。

初期設定として、現在編集中のページ名が表示されますが、他の名前を付けても結構です。

●かな漢字が使用できます。

ABM2 専用ページ保存データは、拡張子が「.abpage」となります。
アイコンは下記のようになります。

6-7-2.　複数のページを「ページ保存」する場合

macOSの場合

ページタブの中からどれか 1 つのページを選択してから、「command」キーを押しながら「ページ保存したい」ページを全て選択してください。

Windowsの場合

ページタブの中からどれか 1 つのページを選択してから、「Ctrl」キーを押しながら「ページ保存したい」ページを全て選択してください。

アドバイス！

全ページを保存したい場合は、ページタブの中からどれか 1 つのページを選択してから、「command」＋「A」（macOS の場合）、もしくは「Ctrl」＋「A」（Windows の場合）を押してください。
全てのページを一度に選択することができます。

6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力

レイアウト編集結果を視覚的に確認するために、「確認用 JPEG 画像」を出力できます。
ページを個別に出力する方法と、全ページをまとめて出力する方法があります。

「メニュー / ドキュメント」の「エクスポート」から確認用 JPEG を出力することが出来ます。

ABM2.10 からは、「JPEG 出力（高解像度・サイズ大）」と「JPEG 出力（低解像度・サイズ小）」が選択できるようになり、用途に応じて便利に利用できるようになりました。

6-8-1.「確認用 JPEG」とは？

確認用 JPEG とは、ブックサイズより縮小したサイズのページレイアウトを JPEG 画像として出力する機能です。ABM2.10 からは、ページサイズの 80%、もしくは 30% の 2 通りのサイズで出力できるようになりました。
80% 縮小のサイズでは文字や細かいディテール等も確認できます。また、30%縮小サイズの場合は JPEG ファイルの容量が小さくなりますので、E メールに添付して配布するなど、取引先やお客様との確認などにご利用いただけます。
（「確認用 JPEG」は、実際に印刷に使用する画素数のデータではありません）

6-8-2.　ページ別に確認用 JPEG を出力する方法

手順 1　JPEG 出力したいページを選択

デザインパレットのページタブから、JPEG 出力したいページを選択します。

右図の例では「004-005」ページを選択しています。

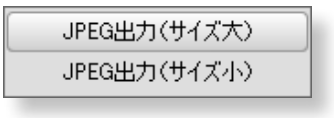
手順 2　「エクスポート／確認用 JPEG を出力」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「エクスポート／確認用 JPEG を出力」をクリックします。出力するページサイズを選択してください。

■出力ページサイズ

「JPEG 出力（サイズ大）」では 80%

「JPEG 出力（サイズ小）」では 30%



ご注意

ブックのページサイズ (寸法) の縮小を行います。解像度は変更ありません。

もしくは

もしくは、「004-003」ページを選択してから右クリックし、サブメニューの「確認用 JPEG を出力」をクリックします。

●メインメニューの「ドキュメント／エクスポート／確認用 JPEG を出力」でも同様です。（右図参照）

●画像以外の余白部分でマウスを右クリックすることにより表示されるメニューからも確認用 JPEG を出力することができます。

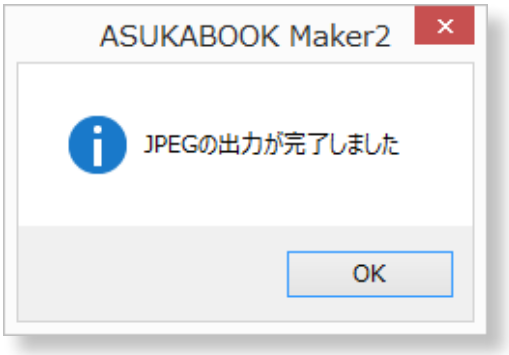
手順3 確認用 JPEG の保存

「確認用 JPEG」フォルダが自動生成されますので、そのフォルダを選択し、「保存」ボタンをクリックしてください。

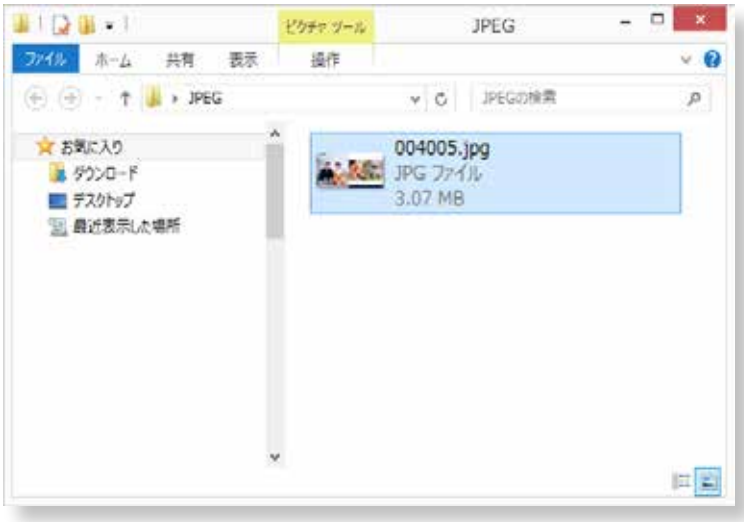
●ファイル名は自動的に付けられます。

手順4 「OK」をクリック

出力が終了したら「OK」をクリックします。
含まれる写真の枚数、出力するページ数によっては多少時間がかかることがあります。



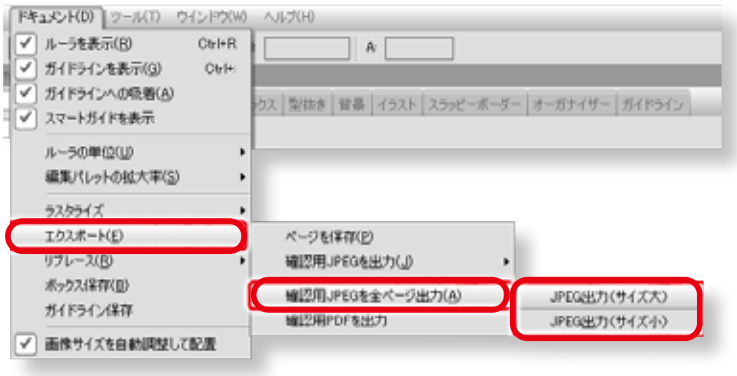
指定したフォルダに、「手順1」で選択したページのみが確認用 JPEG として出力されます。



6-8-3.　全ページをまとめて JPEG 出力する方法

手順 1　「確認用 JPEG を全ページ出力」をクリック

メニューから「ドキュメント／エクスポート」をクリックし、さらにサブメニューの「確認用 JPEG を全ページ出力」をクリックします。出力ページサイズを指定してください。



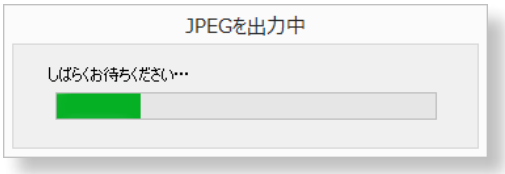
手順 2　保存先フォルダを選択

確認用 JPEG の保存先フォルダを選んでください。その後、「保存」ボタンをクリックしてください。

手順 3　「OK」をクリック

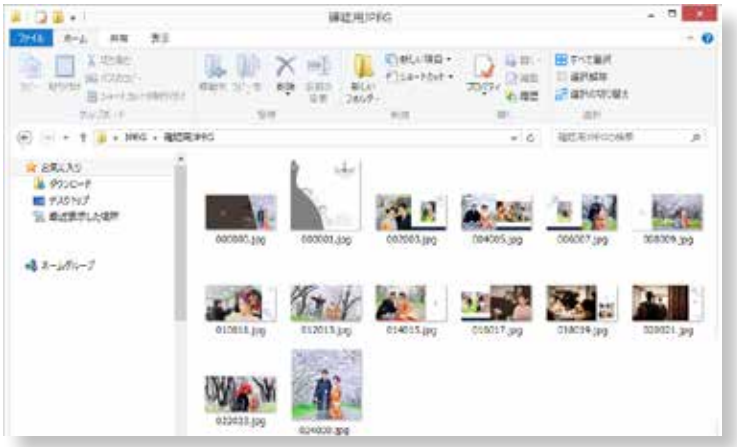
出力を開始します。

含まれる写真の枚数、出力するページ数によっては多少時間がかかることがあります。



手順 4　出力結果を確認

指定したフォルダに、全ページが確認用 JPEG として出力されます。



6-9.　リプレース／ページを置き換え

ページ保存したファイルを呼び出すことを「ページを置き換え」と呼んでいます。

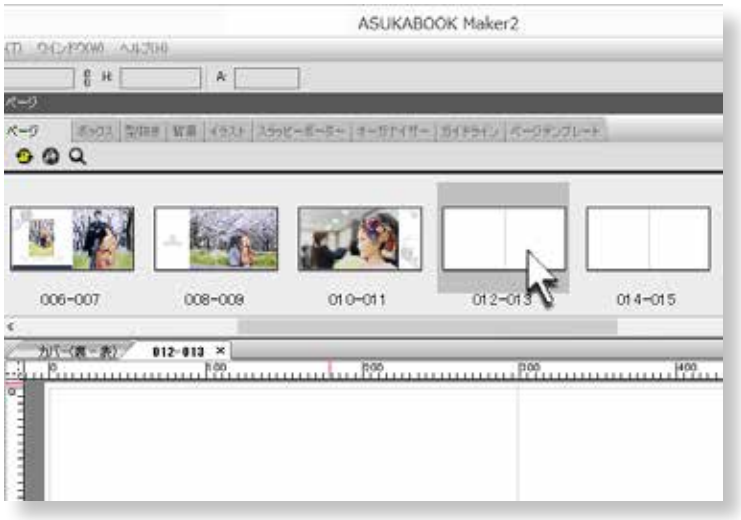
「6-7.　エクスポート／ページを保存」6-7 ページで保存したページ情報ファイルを呼び出す時に使用します。

●置き換えができるのは、ブックの縦横比が同じもののみです。

以下に手順をご説明します。

手順 1　編集したいページを選ぶ

「ページ」タブを使って編集したいページ（ページ置き換えを行いたいページ）を選択します。

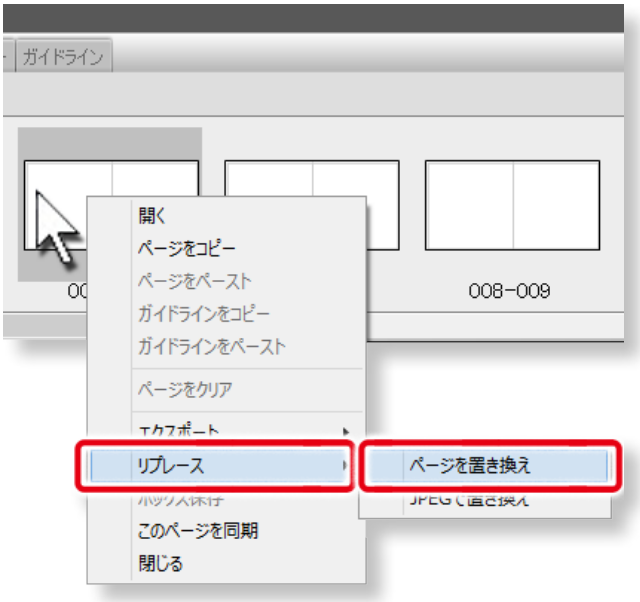


ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「リプレース／ページを置き換え」をクリックします。

もしくは

もしくは、ページを選択したら、そのまま右クリックしてサブメニューを表示させ、「リプレース／ページを置き換え」をクリックします。

●メインメニューから「ドキュメント／リプレース／ページを置き換え」をクリックしても同様です。



手順2　置き換えたいページファイルを選択

置き換えたいページファイル（「6-7.　エクスポート／ページを保存」6-7 ページ）で保存したページファイル）を捜し出して選択します。
拡張子が「.abpage」のページデータのみ、サムネールが表示されますので目安としてください。

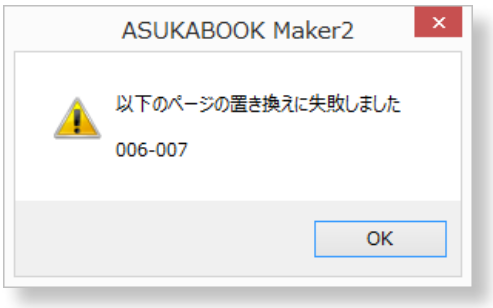
ファイルを選択したら、「開く」ボタンをクリックしてください。
●ページファイルの内容に応じてフォルダを分けておくと良いでしょう。

ページ保存ファイルが呼び出されます。
写真の内容はもとより、写真に施したエフェクト（画像加工ダイアログの情報）や、背景色が 全て再現されます。

ご注意

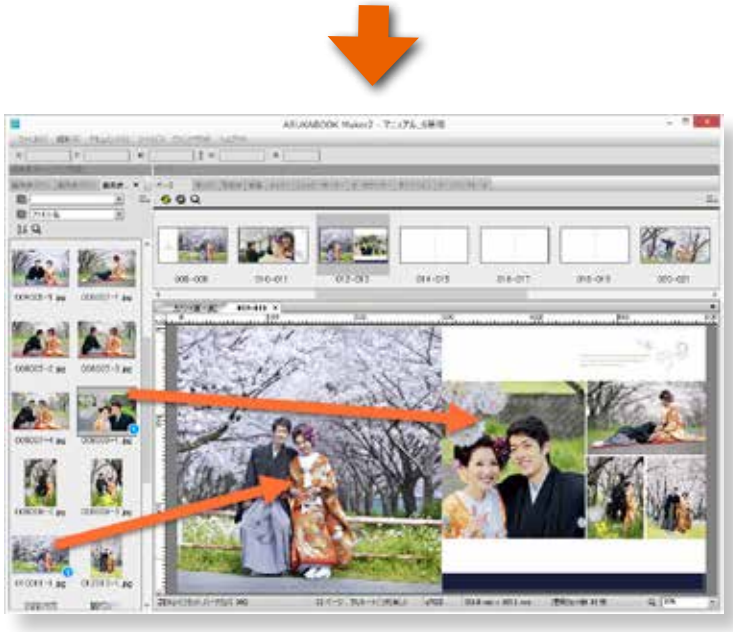
「ページ置き換え」ができるページ（ファイル）は、「ページの縦横比」と、「ページの種類」によって異なります。もし、この条件が合わない場合には右図のようなエラーメッセージが表示されます。

ページの種類とは、表紙ページ・開始ページ・見開きページ・最終ページの区別のことです。



手順3 写真を入れ替える

ページを置き換えた後は、写真を入れ替えれば、新しいレイアウトの完成です。



6-10.　リプレース／JPEG で置き換え

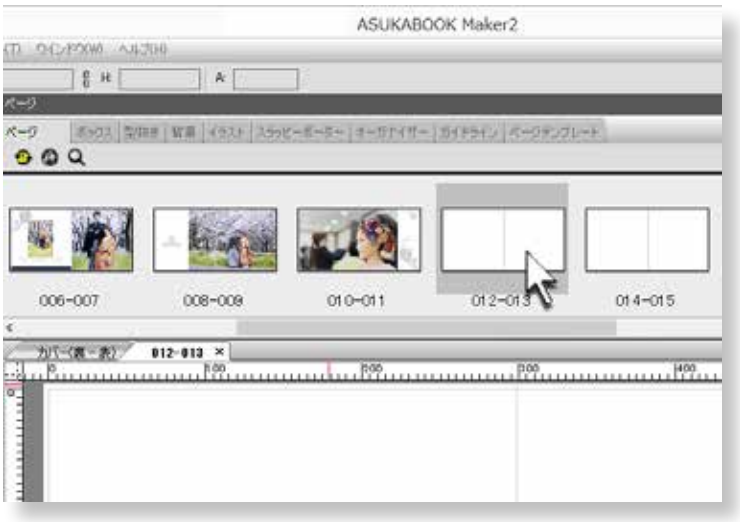
ページ全体に画像をレイアウトする時に便利な機能です。

ご注意

この操作は取り消しができませんのでご注意ください。

手順 1　リプレースしたいページを選択

リプレースしたい（ページ全体にレイアウトを施したい）ページをページタブで選択します。



アドバイス！

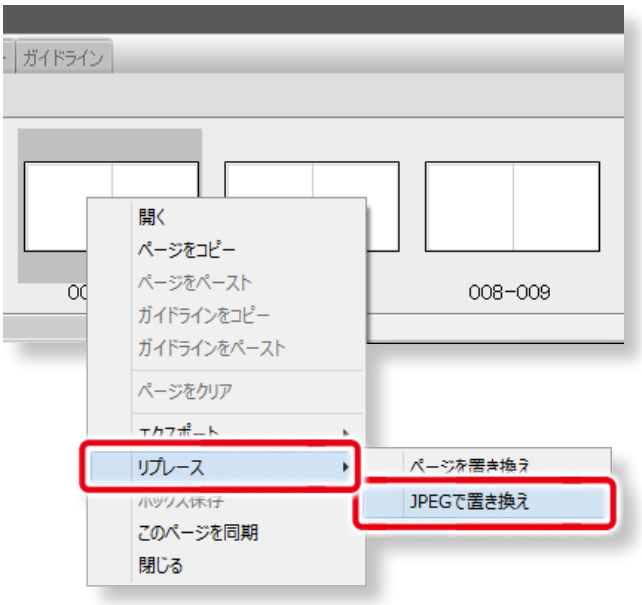
この例ではページを開いて編集パレット表示させていますが、この機能はページを開かなくても行えます。

手順 2　「リプレース／ JPEG で置き換え」をクリック

ページタブのメニューボタンをクリックし、さらに「リプレース／ JPEG で置き換え」をクリックします。

もしくは

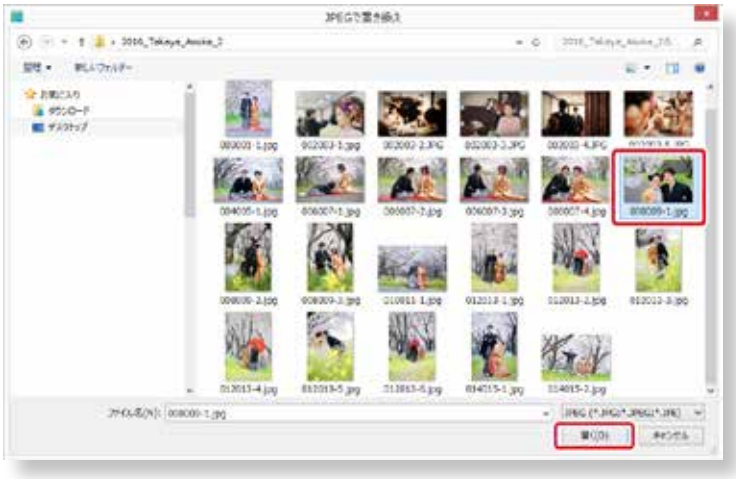
もしくは、ページタブでページを選択してから右クリックし、サブメニューの「リプレース／ JPEG で置き換え」をクリックします。



●メインメニューの「ドキュメント／リプレース／ JPEG で置き換え」でも同様です。

手順 3　レイアウトしたいファイルを選択

レイアウトしたい画像ファイルを選択し、「OK」をクリックしてください。



「手順 1」で選択したページに、「手順 3」で選択した画像ファイルがページ全面にレイアウトされます。

●トリミングについては、画像コントローラを用いてお好みに調整してください。

6-11.　ボックス保存

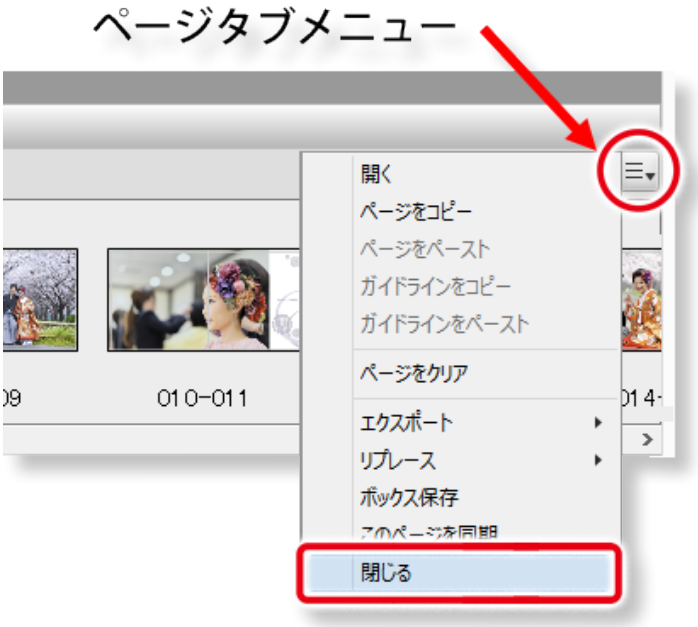
レイアウトに便利なボックス機能は、ABM2 で最も利用される機能だと思います。

ボックスを使ったレイアウトは自作し、保存しておくことができます。

ボックスの基本的な使い方については、本書の「7-1.　ボックスの使い方」7-1 ページをご覧ください。

6-12.　閉じる

選択したページが編集パレット上に開いている場合は閉じます。



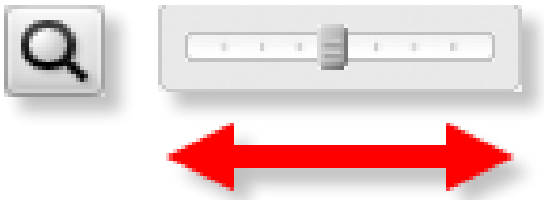
アドバイス！

閉じるのは選択したページのみです。ブックファイル全体が閉じる訳ではありません。

6-13.　サムネイルサイズの調整

ページタブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

ページタブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。



スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。

スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。

6-14.　ページの入れ替え

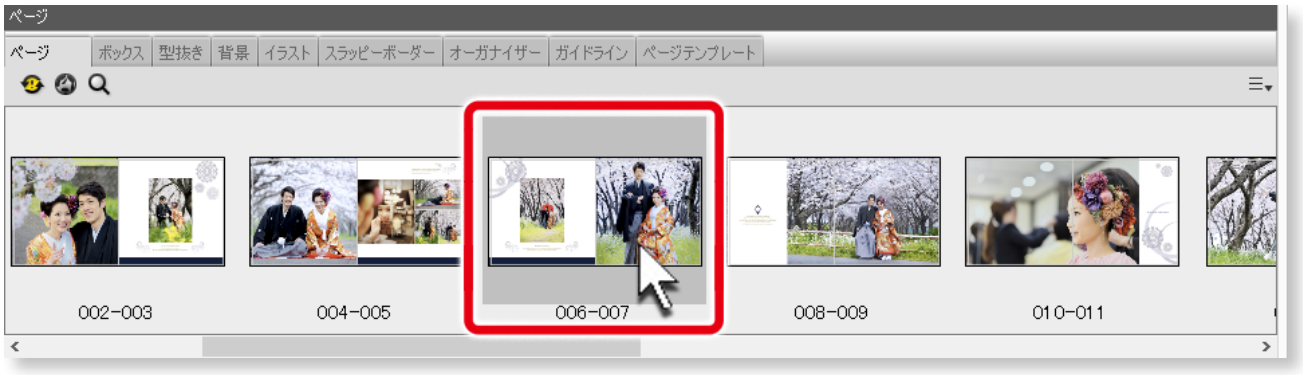
制作中の各ページは、ページタブ上でマウスを使って入れ替えることができます。

まず、「デザインパレット」の「ページ」タブを表示してください。

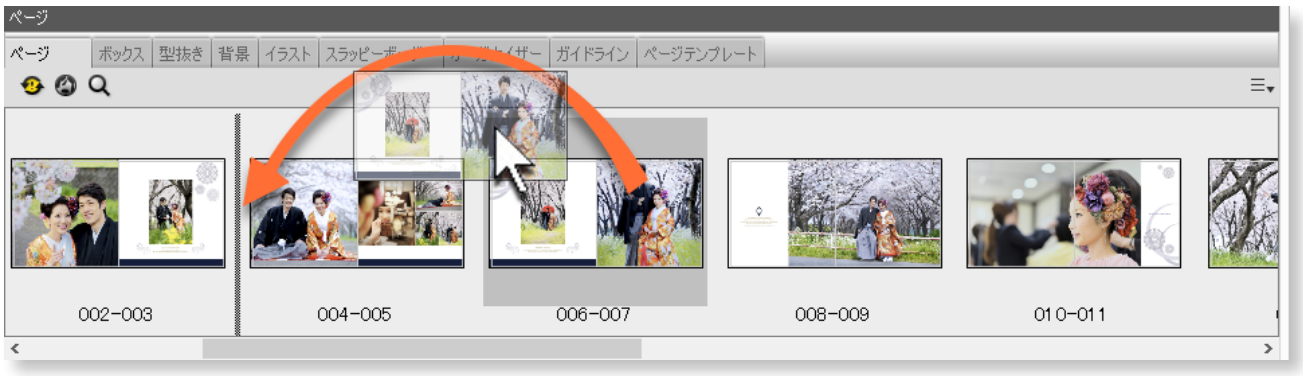
●この操作は macOS、Windows に共通します。

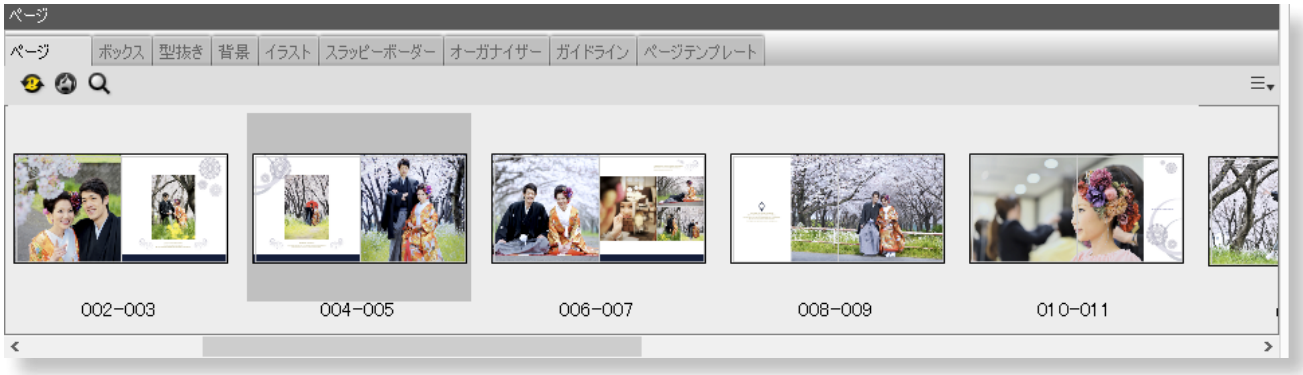
6-14-1.　選択したページを前方に移動する場合

入れ替えたいページをクリックします。（下図・赤丸印）



入れ替えたいページのさらに前方までドラッグするとページの境界線が表示されますので、そこでドラッグ & ドロップします。

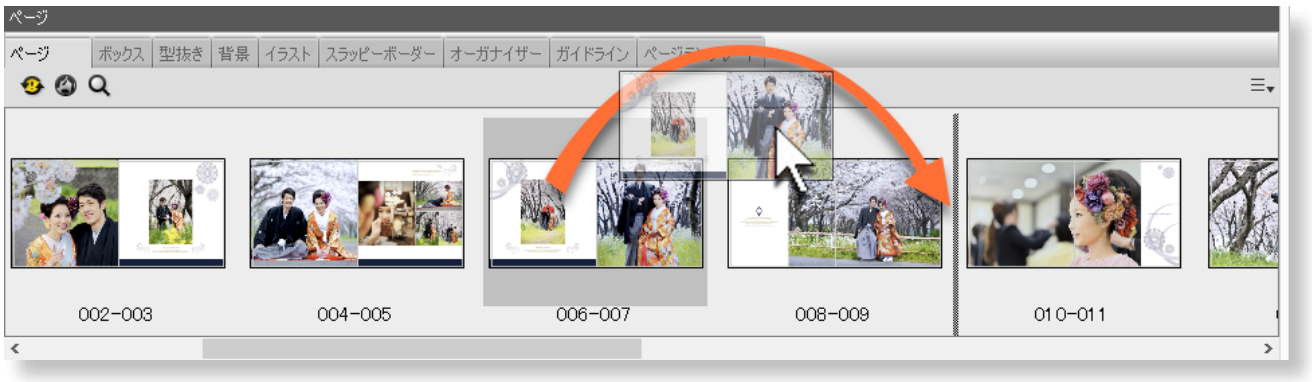


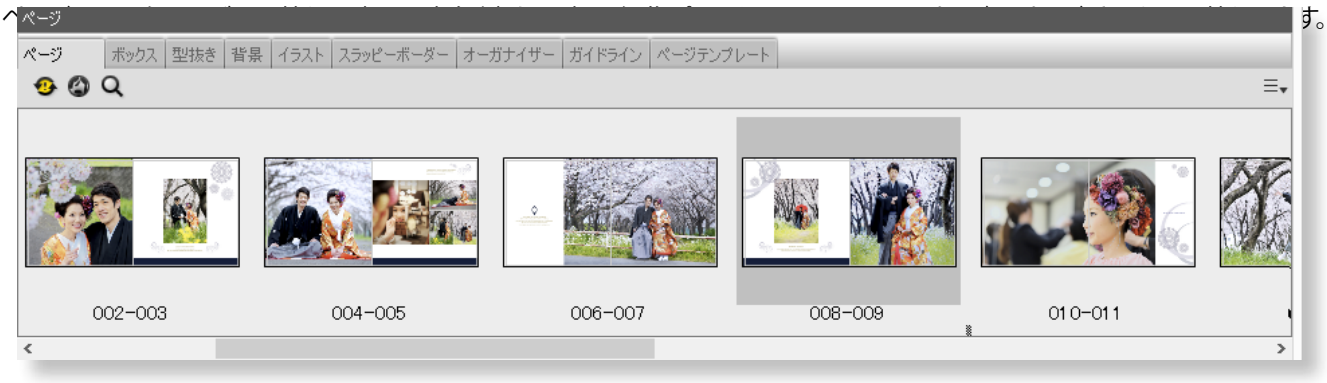


ページのサムネイルが入れ替わる（下図•赤丸印）と同時に、編集パレットに開かれているページのページ番号も入れ替わります。

6-14-2.　選択したページを後方に移動する場合

入れ替えたいページのさらに後方までドラッグするとページの境界線が表示されるますので、そこでドロップ & ドロップします。





ページ

ページ　ボックス　型抜き　背景　イラスト　スラッピーボーダー　オーガナイザー　ガイドライン　ページテンプレート

002-003　004-005　006-007　008-009　010-011

7.　ボックス

ABM2 では、レイアウトの型を「ボックス」で構成しています。ボックスに写真画像をドラッグ&ドロップすると、拡大率も自動調整されます。

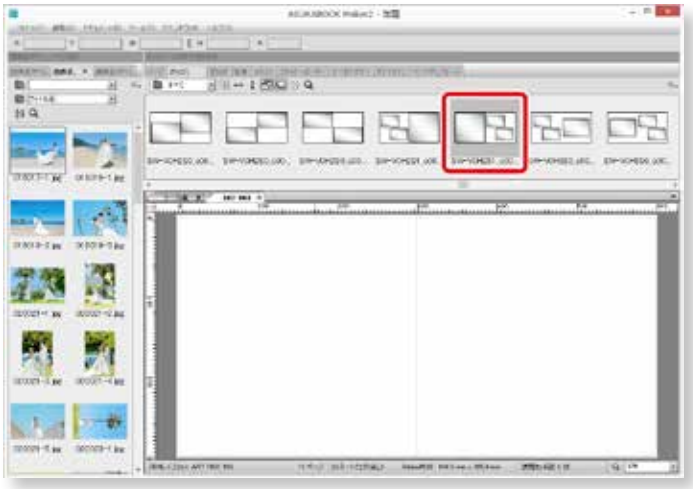
また、ボックスのレイアウトは自作し、保存しておくことができます。

◆「ボックス」とは、写真をレイアウトするためにあらかじめ用意した画像配置用ボックスです。このボックスに画像をドラッグ&ドロップすると、ボックスの大きさに対して画像の大きさが自動的に調整されます。
ボックスタブにはこのボックスの一覧が表示されています。表示されているボックスのサムネイルを選択して編集パレット上にドラッグ&ドロップするとボックスのレイアウトが適用されます。
ボックスはすでに用意されているものの他、ご自分で作成されたボックスを保存することができます。

7-1.　ボックスの使い方

手順 1　適切なボックスを選択

ボックスタブの中から、これから行うデザインに見合うボックス配列のものを選択します。

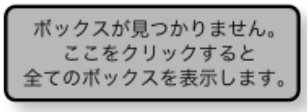


●ボックス配列には、表紙ページ（カバー）、単ページ（開始ページ、終了ページ用）と、見開きページ用のものがあります。

●見合うボックスが登録されていない場合は、それに近いボックス配列のものを選択してください。ボックスの位置、大きさ、個数を修正し新たに登録しておくことで利用できるようになります。

自作したボックスの登録については、本書の「7-17. ボックスの保存について」7-20 ページをご覧ください。

●もし、ボックスタブ内に下記のメッセージが表示される場合は、そのメッセージ部分をクリックしてください。ブックサイズに応じて登録されている全てのボックスが表示されます。



手順2 選択したボックスをドラッグ＆ドロップ

選択したボックスをマウスを使って編集パレットにドラッグ＆ドロップすると、編集パレットに空のボックスが表示されます。

手順3 素材をボックスにドロップ

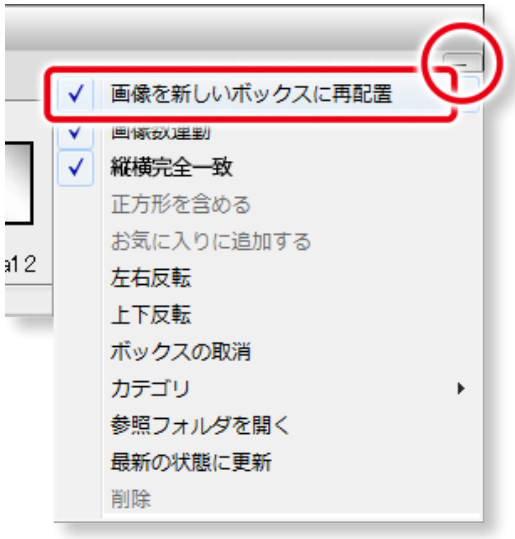
画像表示ウインドウか画像素材を選んで、それぞれのボックスにドロップします。

●画像素材は、素材の短辺がボックスの長辺に合うように自動的に拡大縮小されます。

7-2.　画像を新しいボックスに再配置

ボックスタブの右側上にあるメニューボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されます。

「画像を新しいボックスに再配置」にチェックを入れておくと、すでにボックス内に画像が配置されているページに対して新しいボックスをドラッグ&ドロップすると、画像が置換えられたボックス内に自動で再配置されます。



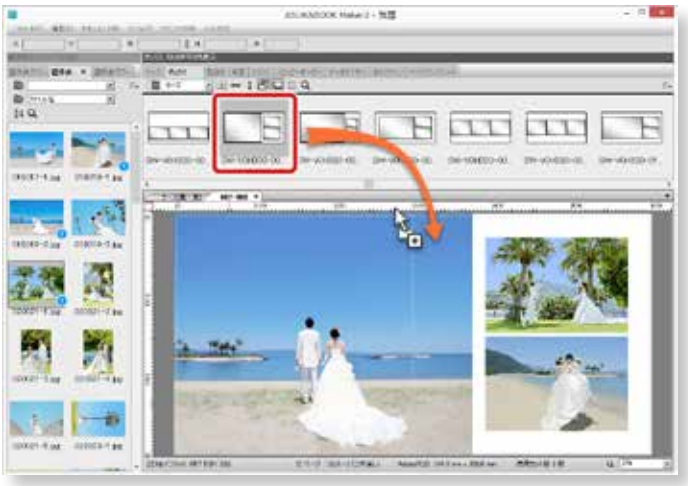
●初期設定ではチェックが入っています。
　必要に応じて切り替えてください。

例　題

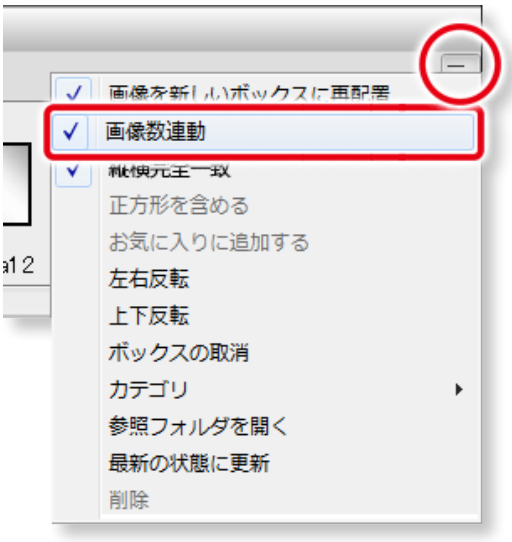
例えば、前ページの作成した「見開き、3ボックス」を、他のボックス配列のものに置き換えてみましょう。

他のボックス配列を選択し、先ほどレイアウトしたページドラッグ&にドロップします。

このように写真はそのままで、新しいボックス配列のみが再配置されます。



7-3.　画像数連動



ボックスタブの右側上にあるメニューボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されます。

「画像数連動」とは、あるページにおいてオーガナイザーで割り振られた画像枚数に対して、ボックスタブ内で表示されるボックス配置数が同じになるように同期させる機能です。

●「画像数連動」はオーガナイザーを利用していない場合でも、編集パレット中で選択している画像数とボックスタブ内に表示されるボックス配置数が同期するように動作します。

●この機能は「ABM2.7」までに搭載されていたボックス絞り込み機能と基本的には同じものです。

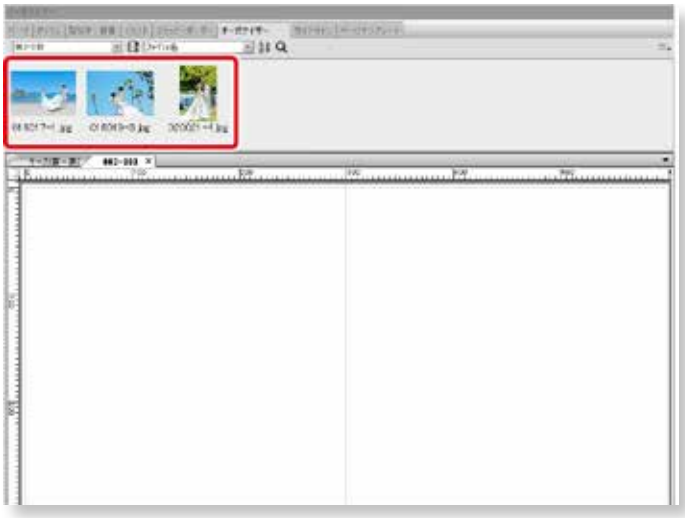
●初期設定では、「画像数連動」は「ON」になっています。

オーガナイザーの使い方については、本書の「12-2.　オーガナイザーの操作方法」12-3 ページをご覧ください。

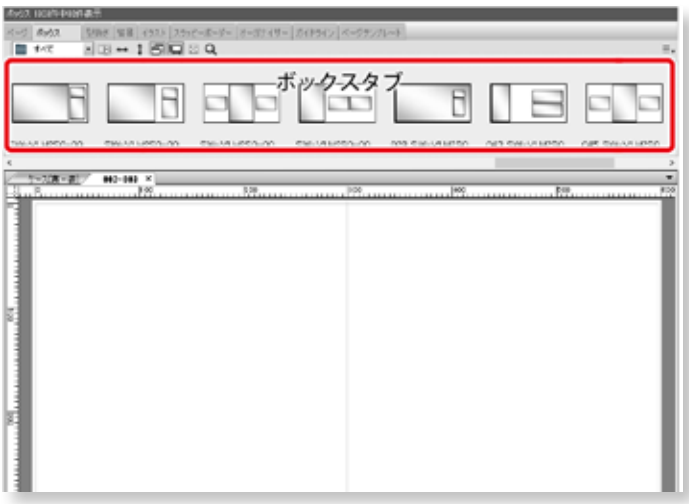
例　題

7-3-1.　オーガナイザーを使用した場合の「画像数連動」について

あるページにおいて、オーガナイザーで割り振られた画像が 3 枚であった場合（右図赤枠部分参照）・・・



ボックスタブ内での表示も、ボックスが 3 個配置されているレイアウトのみが表示されます（右図赤枠部分参照）。



7-3-2. オーガナイザーを使用していない場合の「画像数連動」について

①画像を選択していない場合

右図は編集パレットにレイアウトされた画像を選択していない状態です。この場合はボックスタブにはすべてのボックスが表示されます。

②画像を 2 つ選択している場合

編集パレットにレイアウトされた画像を 2 個選択している状態では、ボックスタブ内には 2 個配置されたボックスだけが表示されます。

③画像を 3 つ選択している場合

編集パレットにレイアウトされた画像を 3 個選択している状態では、ボックスタブ内には 3 個配置されたボックスだけが表示されます。

アドバイス！

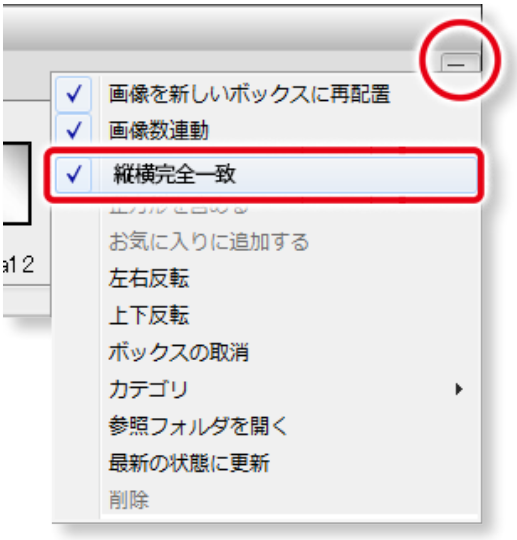
ボックスタブの右側上のメニューの他に、ボックスタブ内の「画像数連動」ボタンをクリックしても同様です。

●初期設定では、画像数連動は「ON」になっています。

7-4.　縦横完全一致

ABM2 には、編集パレット内の画像を選択している時に、候補となるボックスを自動的に絞り込む「ボックス絞り込み機能」があります。
「縦横完全一致」とは、この「ボックス絞り込み機能」に、選択している画像の縦横比を考慮したボックスレイアウトを捜し出す機能です。必要に応じてご利用ください。

●初期設定では、「縦横完全一致」は「ON」になっています。



解　説　ボックスの縦横比とは？

縦横比は、ボックスの縦寸法と横寸法の比率のことです。

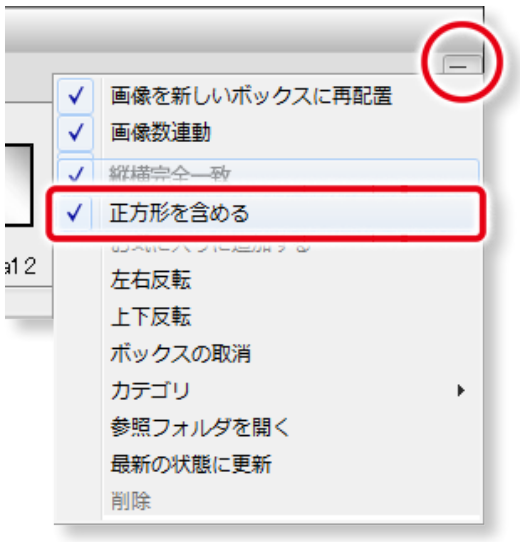
横寸法 ÷ 縦寸法 = A　の時

計算結果	判定
A ＜ 0.9	縦長
0.9 ≦ A ≧ 1.1	正方形
1.1 ＜ A	横長

ボックスの横寸法と縦寸法から A（アスペクト比）を計算します。このアスペクト比が「0.9 以上、1.1 以下」の場合は「正方形」と見なします。

7-5.　正方形を含める

「正方形を含める」は、「ボックス絞り込み機能」に対して正方形の縦横比も含めた条件で探し出す機能を追加するものです。必要に応じてご利用ください。



●初期設定では、「正方形を含める」は「OFF」になっています。

●「縦横完全一致」が「ON」の時は、「正方形を含める」はグレーアウトして「ON」にすることはできません。

例　題

ボックス絞り込み機能の動作について

ここでボックス絞り込み機能の動作について「画像数連動」、「縦横完全一致」、「正方形を含める」を「ON」／「OFF」した状態をご説明します。

①「画像数連動」＝「OFF」、「縦横完全一致」＝「OFF」の状態

この状態では、ボックスタブには総数「1298 件」のボックスが候補としてすべて表示されます。

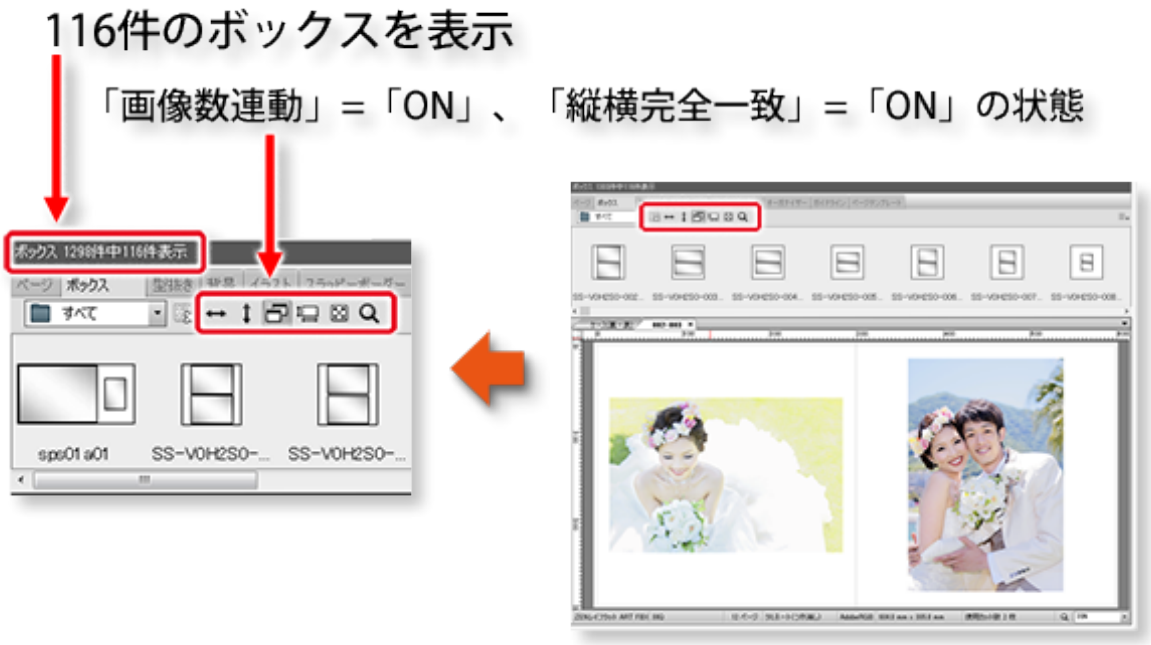
●この例ではボックスの総数が「1298 件」と表示されていますが、この件数は例です。また、ABM のバージョンによって異なります。なお、自作したボックスを登録している場合は、それを加算したものが総数となります。

②「画像数連動」＝「ON」、「縦横完全一致」＝「OFF」の状態

編集パレットにレイアウトされた画像 2 枚を選択します。この状態で、「画像数連動」を「ON」にしました。

●ボックスタブには総数「1298 件」のボックスの内、ボックス個数が 2 個のもの「116 件」が候補として表示されます。

●「縦横完全一致」は「OFF」のため、ボックスの縦長・横長は考慮されていません。



③「画像数連動」＝「ON」、「縦横完全一致」＝「ON」の状態

編集パレットにレイアウトされた画像 2 枚を選択します。この状態で、「画像数連動」を「ON」、更に「縦横完全一致」を「ON」にしました。

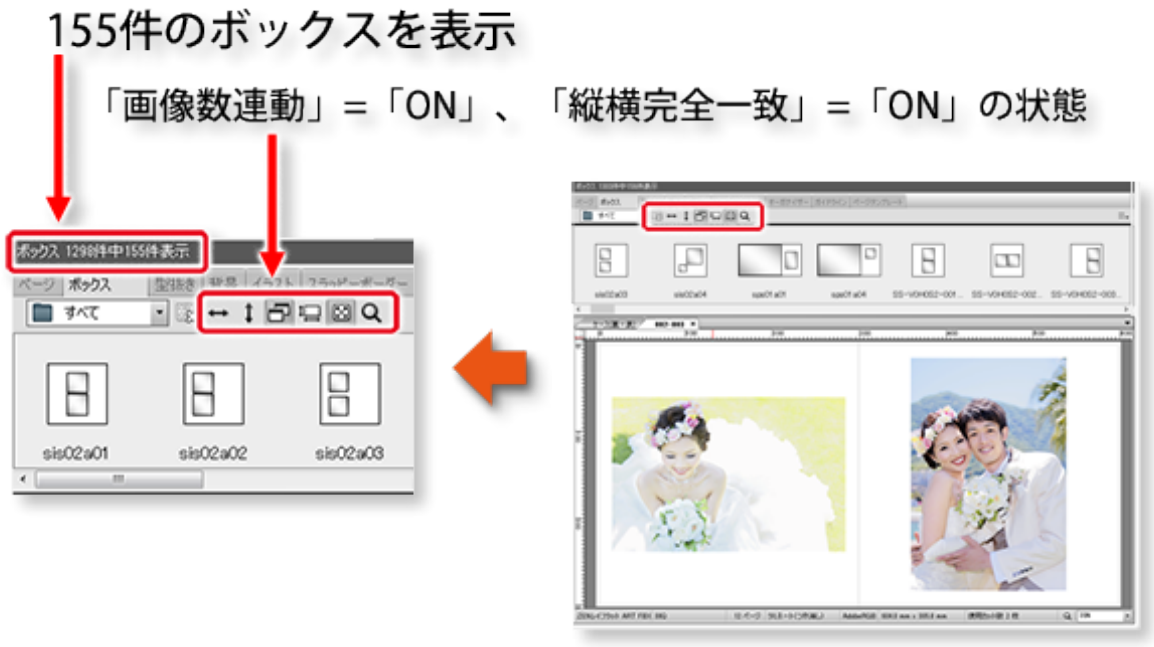
●ボックスタブには総数「1298 件」のボックスの内、ボックス個数が 2 個のもの、更に「縦横完全一致」が「ON」のため、縦長のボックス 1 個、横長のボックス 1 個の組み合わせのものだけ「41 件」が表示されています。

④「画像数連動」＝「ON」、「正方形を含める」＝「ON」の状態

編集パレットにレイアウトされた画像 2 枚を選択します。この状態で、「画像数連動」を「ON」、「正方形を含める」を「ON」にしました。（「縦横完全一致」を「OFF」にしてから、「正方形を含める」を「ON」にします）

●ボックスタブには総数「1298 件」のボックスの内、ボックス個数が 2 個のもの、更に「正方形を含める」が「ON」のため、「155 件」が候補として表示されます。

●「正方形を含める」が「ON」の場合は、ボックスの縦長・横長は考慮されず、更に正方形に近いボックスを含んだ候補も表示されるようになります。



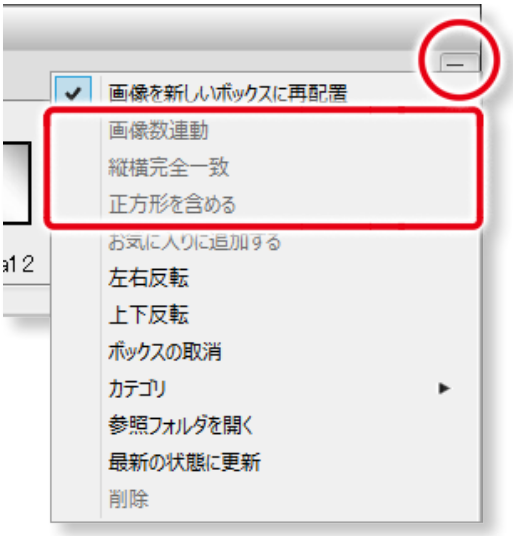
7-6.　「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を使用しない場合

メニューの「ツール」から「環境設定」、「動作」において、「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を「OFF」（チェックを外した状態）にした場合、ボックス絞り込み条件を手動で設定する方法に切り替わります。

●この動作は「ABM2.9」に搭載されていたボックスの手動絞り込み機能と同様です。

7-6-1. ボックスタブのプルダウンメニューの表示

「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を「OFF」にした場合、ボックスタブのプルダウンメニューは右図のように変化します。



●「画像数連動」、「縦横完全一致」、「正方形を含める」の 3 つの機能はいずれも「OFF」になり、動作しません。（右図の赤枠部分）

●「画像数連動」、「縦横完全一致」、「正方形を含める」の機能を利用したい場合は、「環境設定」の「動作」において、「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を「ON」（チェックを入れる）にしてください。

また、ボックスタブ内部のアイコンも右図のように変化します。

7-6-2. ボックス数選択

数多くのボックスファイルの中からボックスレイアウトを絞り込む場合は、「ボックス数選択」欄をクリックし、利用したいボックスの個数を選択します。

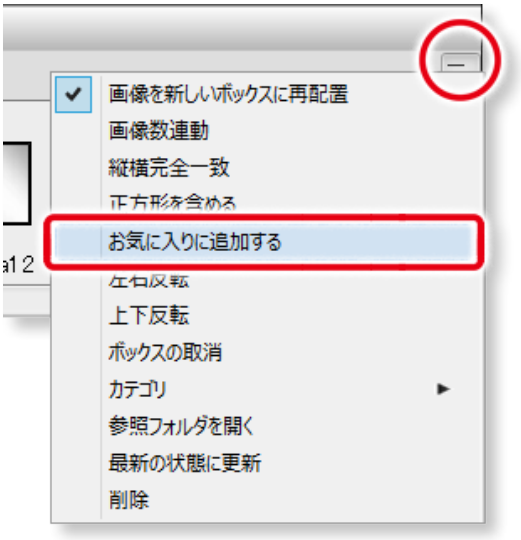
例　題

3を選んだ場合

9を選んだ場合

7-7.　お気に入りに追加する

多くのボックスの中から特定のボックスをすぐに選べるように、「お気に入り」のカテゴリに登録して利用します。



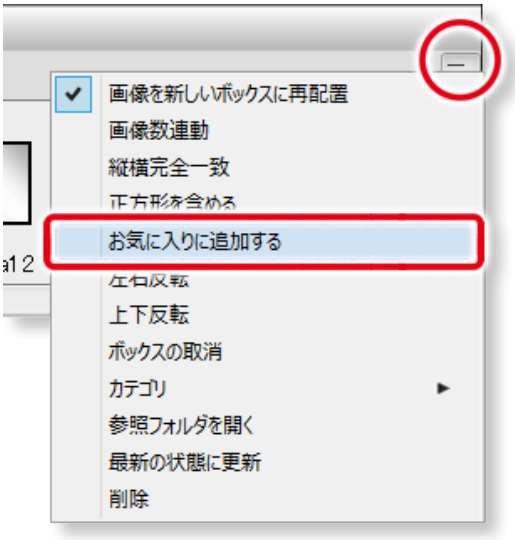
この機能は「7-3.　画像数連動」7-4 ページで紹介したものと同じです。操作手順についてはそちらをご覧ください。

手順 1　お気に入りに分類したいボックスを選択

お気に入りに分類したいボックスをボックスタブの中から選択します。

手順2 「お気に入りに追加する」をクリック

ボックスを選択した状態で、ボックスタブの右側上にあるメニューボタンをクリックするとメニューが表示されます。
「お気に入りに追加する」をクリックします。



もしくは

ボックスを選択した状態で右クリックするとサブメニューが表示されますので、「お気に入りに追加する」をクリックします。

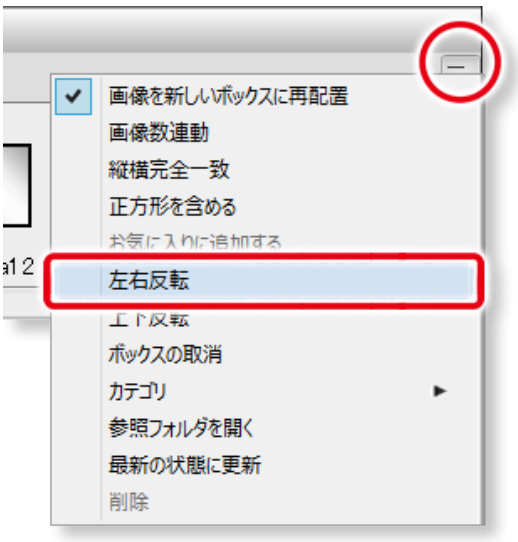
手順3 結果の確認

ボックスタブ内の「カテゴリ選択」欄をクリックして、「お気に入り」を選択してクリックします。

「お気に入り」のカテゴリに、「手順 1」で選択したボックスが保存されています。

7-8.　左右反転

ボックス配列の左右関係を反転します。



●編集パレットにすでに配置されているボックスには適用されません。

例　題

右図は、見開きページ用のボックスです。

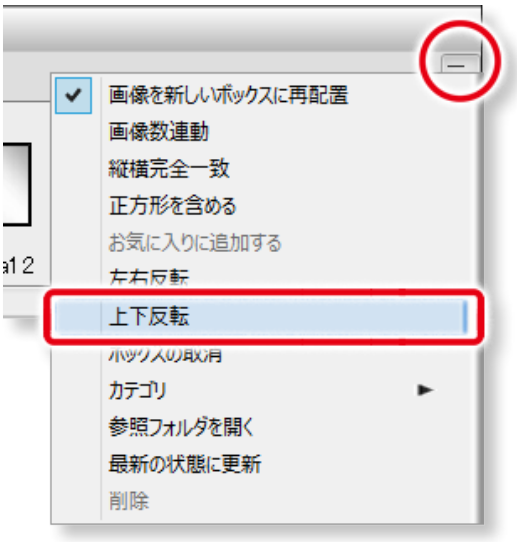
●ボックスタブ内のある「左右反転」ボタン（右図赤丸）をクリックしても同様の機能となります。

左右反転した状態です。

●「左右反転」ボタンをもう一度クリックすると、反転は元に戻ります。

7-9.　上下反転

ボックス配列の上下関係を反転します。

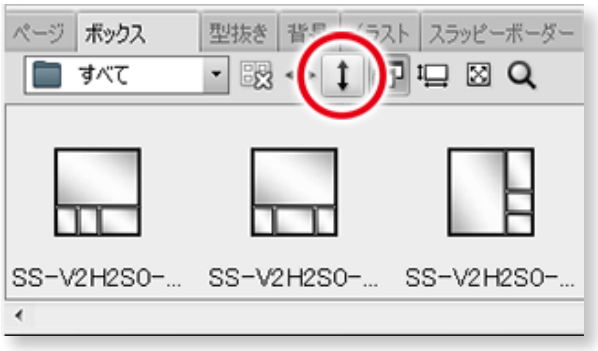


●編集パレットにすでに配置されているボックスには適用されません。

例　題

右図は、単ページ用のボックスです。

●ボックスタブ内にある「上下反転」ボタン（右図赤丸）をクリックしても同様の機能となります。



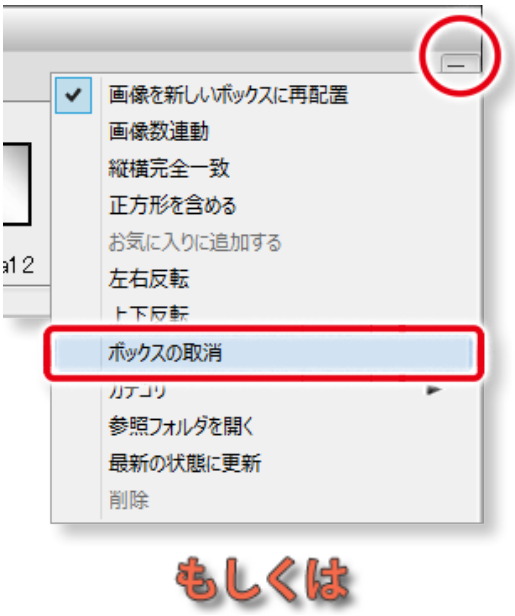
上下反転した状態です。

●「上下反転」ボタンをもう一度クリックすると、反転は元に戻ります。

7-10.　ボックスの取消

編集パレット上に適用されているボックスを取り消します。

●ただし、画像を配置してしまったボックスは取り消すことができません。この場合には先に画像を消去してください。画像を消去するとボックスの取消が有効になります。



もしくは

●ボックスタブ内にある「ボックスの取消」ボタン（右図赤丸）をクリックしても同様の機能となります。

7-11.　カテゴリ

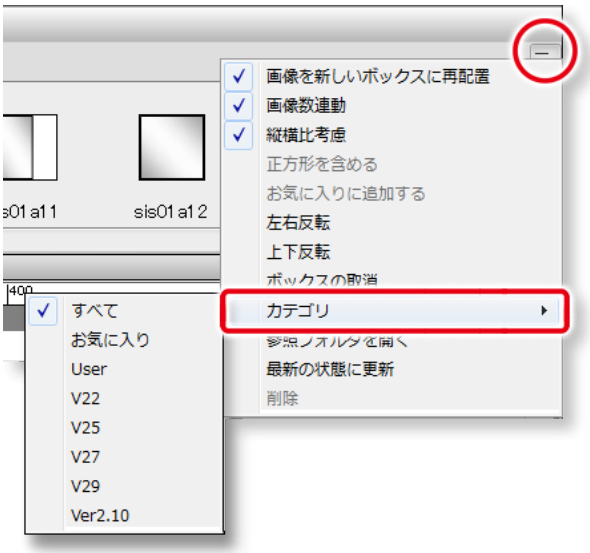
ボックスファイルが保存されているカテゴリを切り替えます。

●「すべて」にすると、すべてのカテゴリのボックスをファイル名順に表示します。

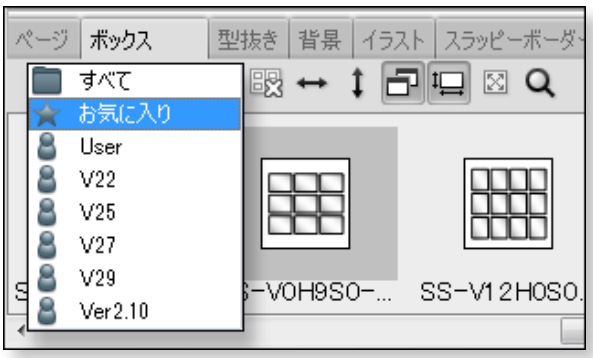
● 初期設定は、「すべて」になっています。

● 多くのボックスの中から特定のボックスをすぐに選べるように、「お気に入り」というカテゴリを用意しました。

●「User」は始めから用意されています。自作したボックスは、カテゴリを指定しなければ「User」に保存されます。



もしくは



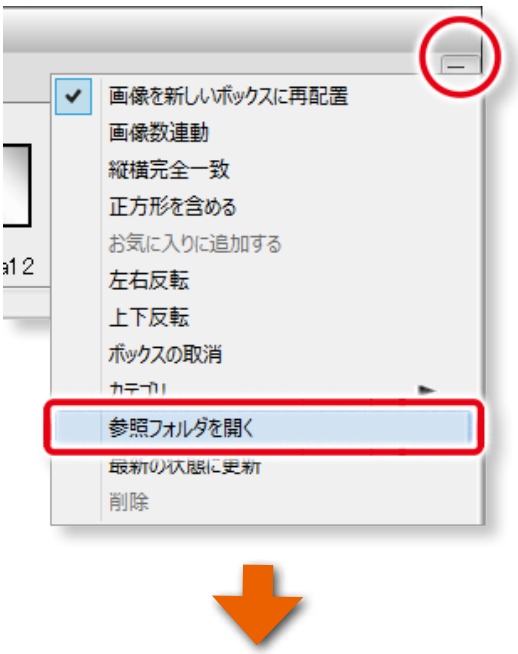
●「v22」は ABM バージョン 2.2 で追加されたボックス、という意味です。
「ver2.10」はバージョン 2.10 で追加されたボックスです。

● カテゴリを新たに作ってボックスを整理することができます。
本書の「7-20.　保存したボックスの整理」7-28 ページをご覧ください。

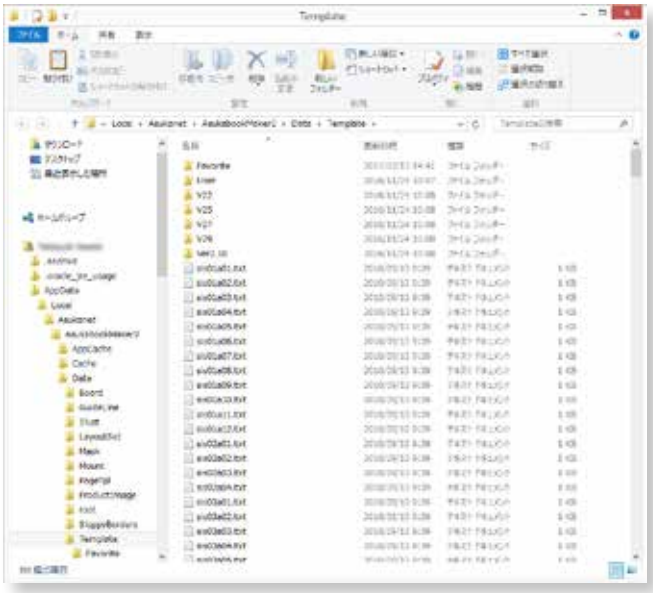
● ボックスを自作される場合は、
本書の 7-20 ページの「7-17.　ボックスの保存について」をご覧ください。

7-12.　参照先フォルダを開く

ボックスファイルが保存されているフォルダを開きます。



このフォルダは ABM2 のインストール時に自動的に作成されますが、階層が深いところにあるため、捜し出すのが大変です。新しいカテゴリを作る、あるいはボックスファイルを整理する時など、ボックスが保存されているフォルダを開く際には、この機能をご利用ください。

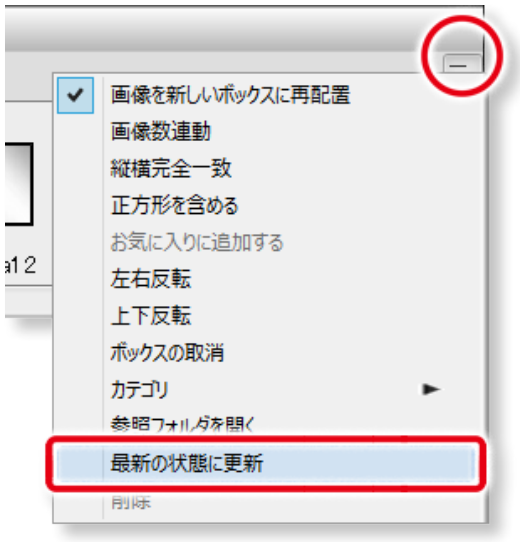


● カテゴリを新たに作ってボックスを整理することができます。
本書の「7-20.　保存したボックスの整理」7-28 ページをご覧ください。

7-13.　最新の状態に更新

ボックスファイルが保存されているフォルダを再読み込みし、最新の状態に更新します。

●カテゴリを整理した場合、あるいは新しいボックスを手動で追加・変更・削除した場合などは、すぐに表示されない場合がありますので、「最新の状態に更新」を行ってください。



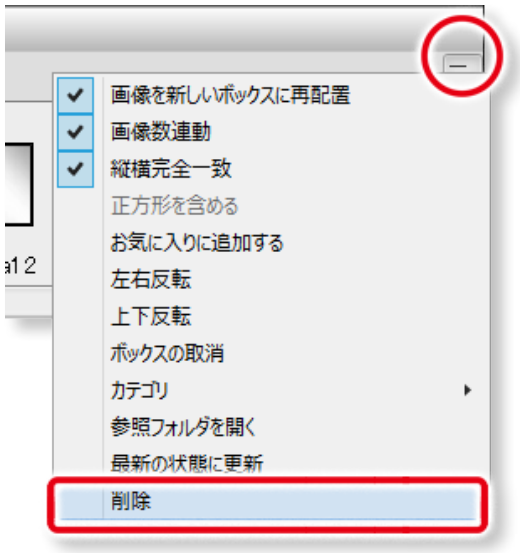
7-14.　削除

保存してあるボックスファイルを削除します。ボックスタブ内に表示されているサムネイルからボックスを選択し、メニューから「削除」をクリックすると、ボックスファイルが削除されます。

ご注意

● この操作を行うと、ボックスファイルが保存先のフォルダから完全削除されますのでご注意ください。

● この操作は取り消しが効きませんので、ご注意ください。

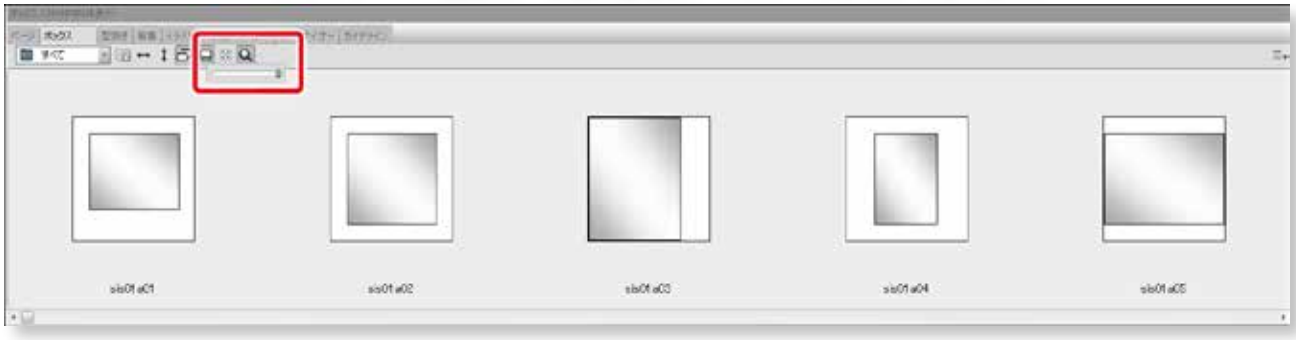


7-15.　サムネイルサイズの調整

ボックスタブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

ボックスタブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

スライダー（下図赤枠）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。



スライダー（下図赤枠）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。

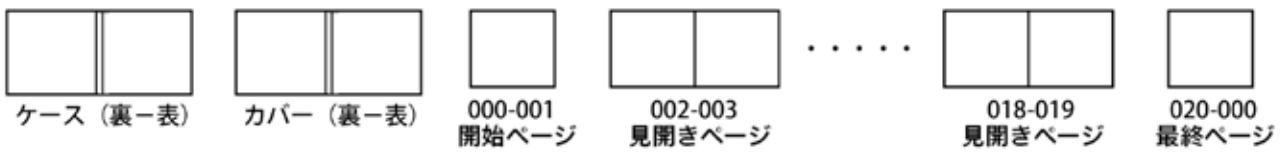
7-16.　ボックスの仕様

ボックスは、編集パレットに表示されているページの種類によって、ボックスタブに表示される内容が異なります。また、ASUKABOOK の縦横比によっても異なります。下記に解説いたします。

7-16-1.　ページの種類と構成

ASUKABOOK は、基本的に「カバーページ」、「ケースページ」、「開始ページ」、「見開きページ」、「最終ページ」で構成されています。

●「開始ページ」と「最終ページ」は同じ寸法で、単ページとも呼びます。



●商品には「ケースページ」が無いものもあります。

7-16-2.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるボックス

ASUKABOOK の縦横比と、ボックスタブ内に表示されるボックスの種類との関係は、下表のようになっています。

また、編集パレットに表示されているページの種類とも関係していますので、「7-16-3.　ページの種類と表示されるボックスの種類」と合わせてご確認ください。

ASUKABOOK の縦横比	ボックスを共通して使用できるサイズ
正方形	30Q、　A3Q、　A4Q、　B5Q、　CD
縦長	A3T（ART EX、ART EXD）、　A3V（ボード）、 A4、　A4S、　A5 A4 変形（KINARI ソフトカバー）、 A4Y・A5Y（KINARI プレミアム） A4QT（えほん BOOK） A5T（ハードカバー）
横長	A4W、　A4SW、　B4W 、　A5W A4YW・A5YW（KINARI プレミアム） B6W、A4QW（えほん BOOK）

7-16-3.　ページの種類と表示されるボックスとの関係

編集パレットに表示されているページの種類と、ボックスタブ内に表示されるボックスの種類との関係は、下記となります。

<table>
<tr><th>編集パレットに表示されているページの種類</th><th>ボックスタブの表示</th></tr>
<tr><td>
</td><td rowspan="3">

表示されるのは単ページ用ボックスのみ</td></tr>
<tr><td>
</td></tr>
<tr><td>
</td></tr>
<tr><td>
</td><td>

単ページ用、見開き用の両方のボックスが表示される</td></tr>
</table>

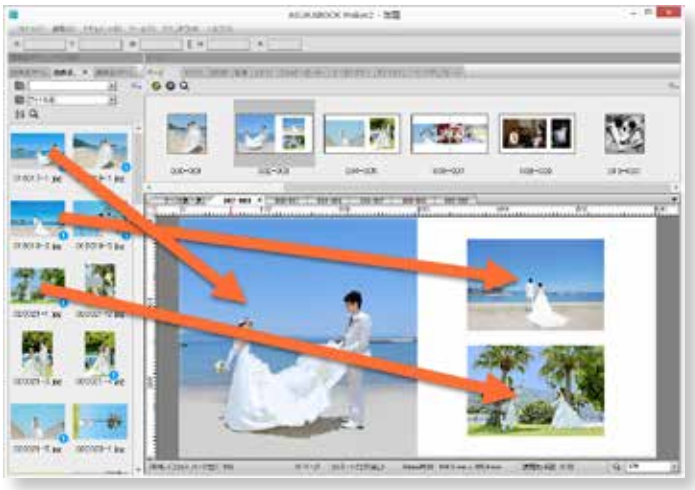
7-17.　ボックスの保存について

レイアウトに便利なボックス機能は、よく利用される機能の一つです。ボックスを使ったレイアウトは自作し、保存しておくことができます。ここではボックスレイアウトの自作方法についてご説明します。

f

手順 1　任意のレイアウトを作る

編集パレットに写真をいくつか配置し、任意にレイアウトを作ります。

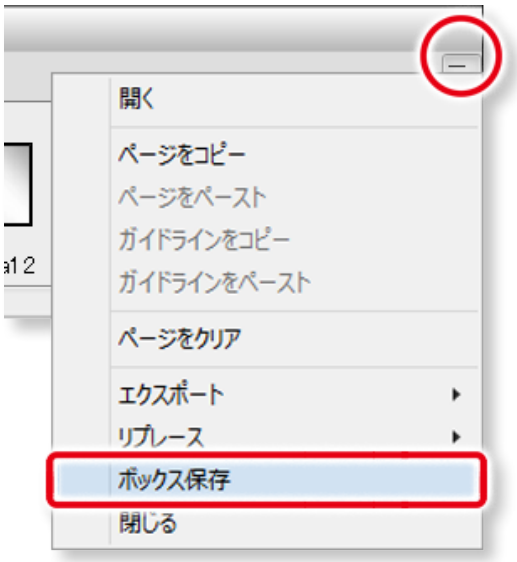


例　題

この例では、左ページに 1 枚、右ページに 2 枚の写真をレイアウトしています。

手順 2　ボックスを保存する

ページタブのプルダウンメニューボタンをクリックし、「ボックス保存」をクリックします。



もしくは

もしくは、編集パレット上で右クリックすると右図のようなサブメニューが表示されますので、「ボックス保存」をクリックします。

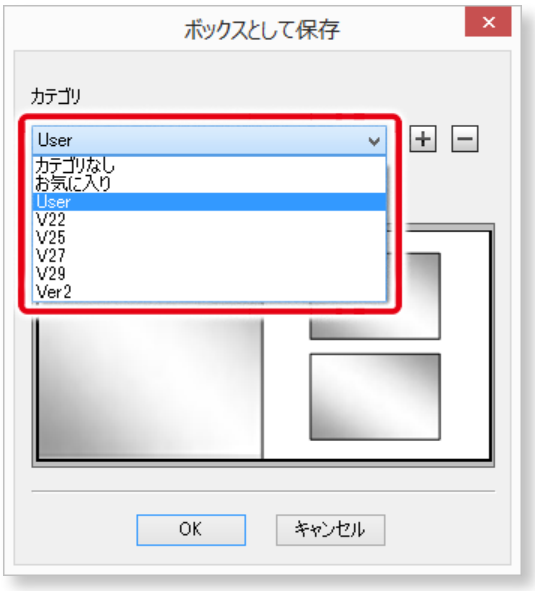
●メインメニューから「ドキュメント／ボックス保存」をクリックしても同様です。

「ボックスとして保存」ダイアログが表示されます。

手順 3 カテゴリを選択する

カテゴリ欄をクリックして、保存先のカテゴリを選んでください。

●自作のカテゴリを作成していない場合は、「User」のままで「手順 5」に進んでください。



アドバイス！

●初期設定で用意されているカテゴリは下記です。

カテゴリなし	各カテゴリを通してすべてのボックスが表示されます。
お気に入り	頻繁に使用するボックスは「お気に入り」に分類すると便利です。
User	カテゴリを特に選択しなければ「User」に分類されます。
V22、V25、V27、V29、V210	各バージョンアップ時に追加されたボックスが入っているカテゴリです。

カテゴリの作り方については、本書の「7-18.　カテゴリの作り方」7-24 ページをご覧ください。

手順4 ボックスパターンを選ぶ

「保存するボックスパターン」を選んでください。 ボックスパターンは下記のようになっています

左ページのレイアウトをボックス保存したい場合

「左ページ」を選択

右ページのレイアウトをボックス保存したい場合

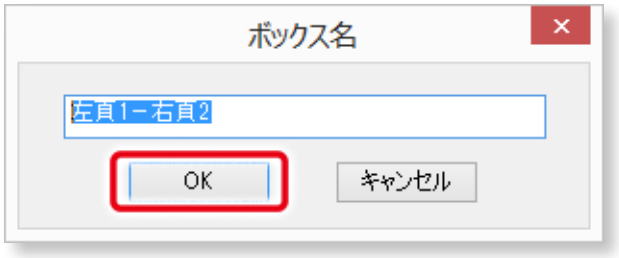
「右ページ」を選択

見開きページのレイアウトをボックス保存したい場合

「全面」を選択

手順5 保存するボックスに名前を付ける

ボックスパターンを選んでから「OK」ボタンをクリックすると、右図のようなダイアログが表示されますので、ボックス名を入力してください。



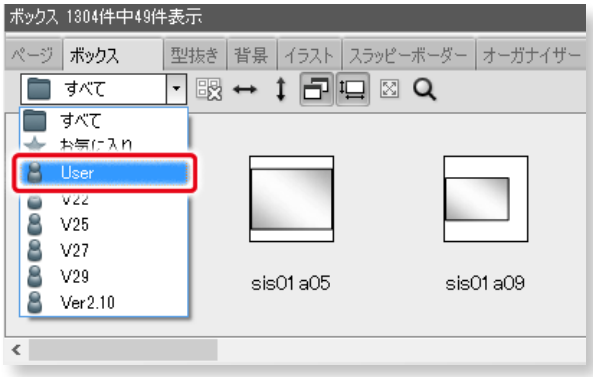
手順6 確認

保存したボックスパターンを確認してみましょう。

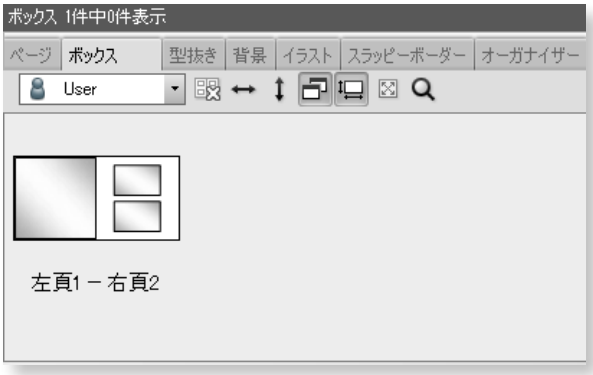
「デザインパレット」の「ボックスタブ」をクリックします。

次に、「カテゴリの選択」をクリックしてカテゴリ名を選んでください。

●この例では「お気に入り」を選択しています。



カテゴリの「User」に先ほど保存したボックスパターンが表示されます。



アドバイス！

ボックス名は、左からアルファベット順、アイウエオ順に並びます。

他のパソコン等で作成したボックスを登録する場合

他のパソコン等で作成したボックスを登録する方法です。

①「ボックス」タブをクリックします。

②用意したボックスファイルをタブ領域に直接ドラッグ＆ドロップします。

登録したボックスファイルのカテゴリを整理する場合は、7-28 ページの「7-20.　保存したボックスの整理」をご参照ください。

7-18. カテゴリの作り方

手順 1　「＋」ボタンをクリック

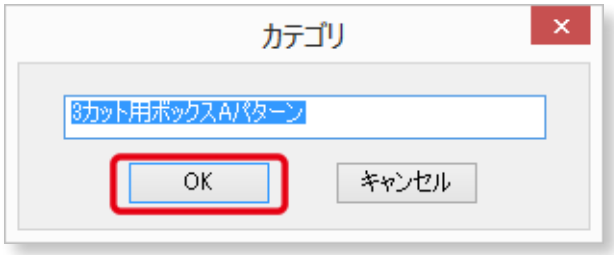
ボックスタブのカテゴリを新たに作る時は、前項の「手順 -4」ボックスパターンを選ぶ際に、右図赤丸部分のの「＋」ボタンをクリックしてください。

手順 2　カテゴリの名称を入力

右図のダイアログが表示されますので、新しいカテゴリの名称を入力してください。

●この例では「3 カット用ボックス A パターン」と入力しています。

●カテゴリの名称には、漢字が使えます。



●「OK」をクリックすると、カテゴリ欄に新しいカテゴリ名称が表示されます。

7-19.　ボックス保存のルールについて

ボックスの保存は下記のようなルールに基づきます。

①ボックスの中心位置がホワイトベースの中に入っていること。

ボックスの中心位置がホワイトベース（編集パレットに表示されている白紙の範囲）に入っている場合にのみ、保存されます。

②見開きページの場合は、ボックスの中心があるページに保存される。

見開きページの場合は「全面」の他に「左ページ」のみ、「右ページ」のみのボックス配置を保存することができます。この場合はボックスの中心位置が保存したいページの中に入っているか確認してください。

③保存される部分はボックスパターンの範囲のみである。

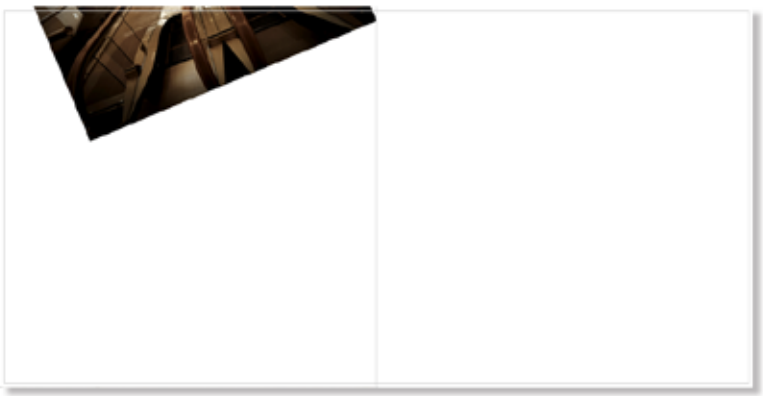
保存されるボックスは、「7-17.　ボックスの保存について」7-20 ページの「手順 -4」で指定したパターンの範囲のみとなります。範囲外にあるボックス領域は保存されません。

ボックスの中心がホワイトベースの中にある場合

ボックスが認識されている

例　題

ボックスの中心がホワイトベースの外にある場合



ボックスが認識されない

例　題

下の配置されたボックスは、中心が右ページに置かれた状態　「全面」を選択した場合

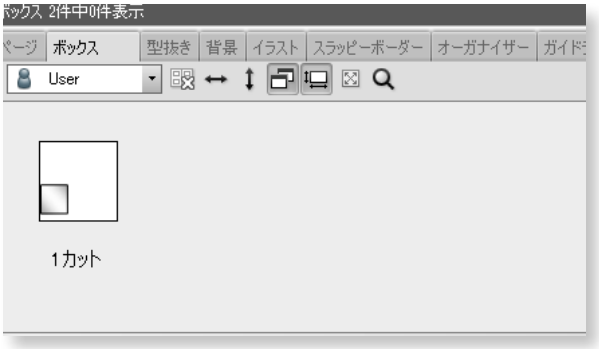
下の配置されたボックスは、中心が右ページに置かれた状態　「左ページ」を選択した場合

「左ページ」を選択した場合は上のボックスのみ認識されます。

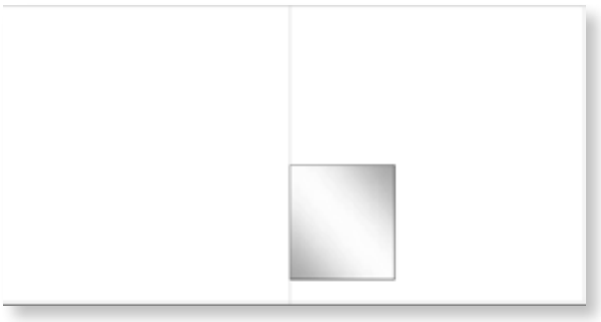
下の配置されたボックスは、中心が右ページに置かれた状態　「右ページ」を選択した場合

「右ページ」を選択した場合は下のボックスのみが認識されます。

「右ページ」を選択した状態でボックス保存を行うと右図のようにボックスは右ページに配置されていた部分だけが保存されます。



この保存されたボックスを編集パレットにドロップすると、右ページに配置されていた部分のみがホワイトベースに適用されます。

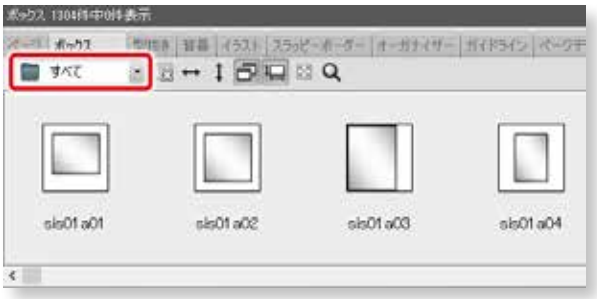


7-20.　保存したボックスの整理

自作したボックスレイアウトも多数作成すると整理が難しくなります。
カテゴリを作ってボックスを使用目的別に整理する方法をご紹介します。

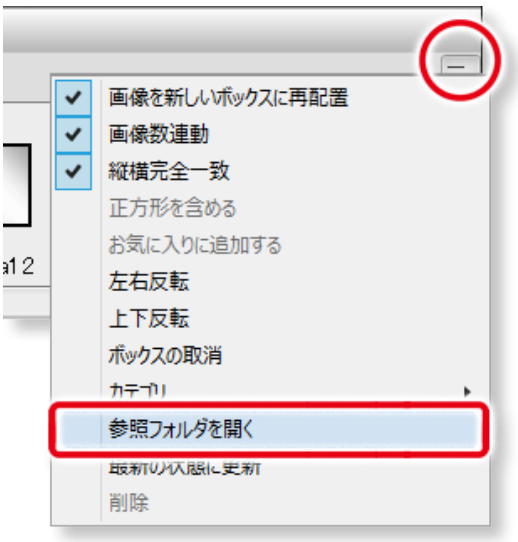
手順 1　カテゴリをすべてに設定する

デザインパレットのボックスタブにある「カテゴリの選択」をクリックして「すべて」を選んでくださ

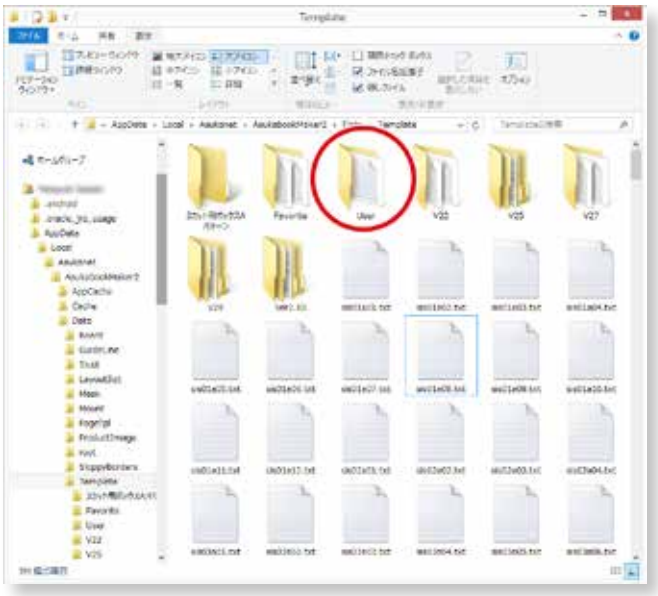


手順 2　「参照先フォルダを開く」をクリック

次にボックスタブの右側にあるメニューボタンをクリックし、「参照先フォルダを開く」をクリックしてください。



ボックスが保存されている「Template」というフォルダが開きます。



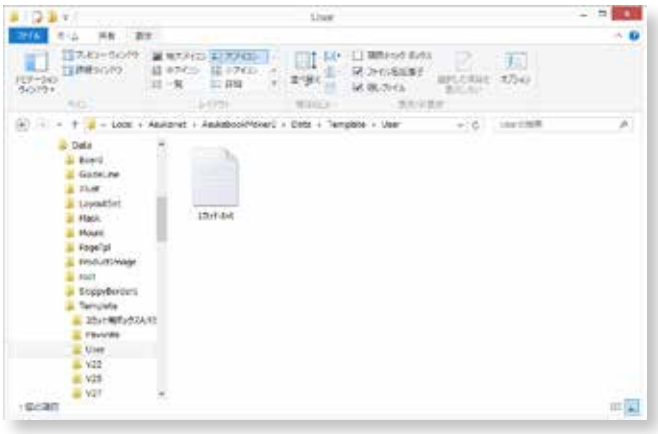
アドバイス！

●「Template」フォルダに全てのボックスファイルが入っています。

●自作したボックスは、保存の時点でカテゴリを指定しなかった場合は「User」フォルダに保存されます。

手順3　「User」フォルダを開く

Template フォルダの中に「User」というフォルダがありますので（前ページ参照）、ダブルクリックして開いてください。



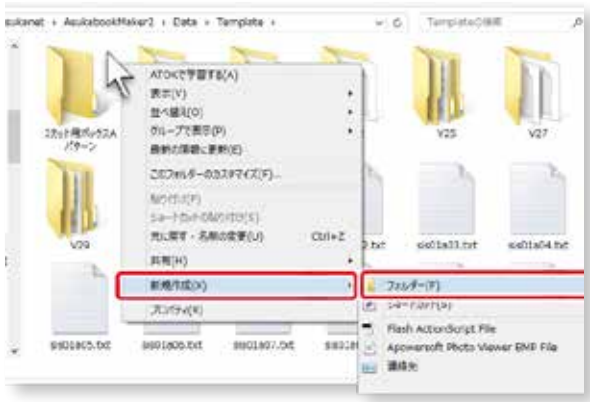
アドバイス！

今までに自作して保存したボックスファイルが入っています。

手順4　整理用のカテゴリを作る

Template フォルダの中にこれから整理する新しいカテゴリフォルダを作成します。右クリックで「新規作成」から「フォルダ」を選択し、新規フォルダを作成してください。

ここで作成するフォルダに付けた名称が、カテゴリ名になります。



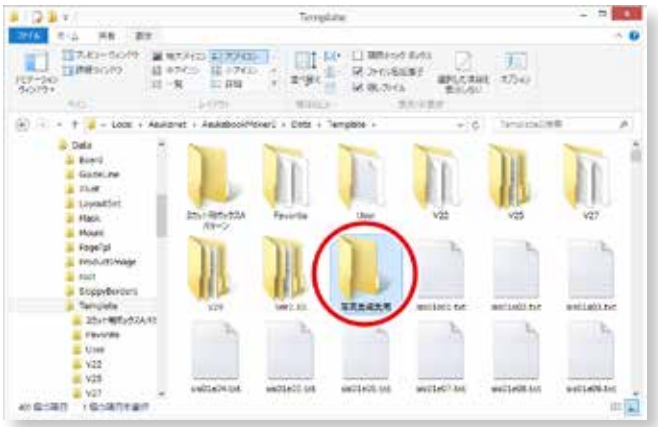
Mac OS の場合は、メニューの「ファイル」から「新規フォルダ」をクリックし、適切なフォルダ名を入力してください。

アドバイス！

●この例題では、「写真集編集用」というフォルダ名を使っていますが、整理しやすいフォルダ名を付けてください。

●フォルダ名に使用する文字の制限事項についてはそれぞれの OS の規則に従ってください。

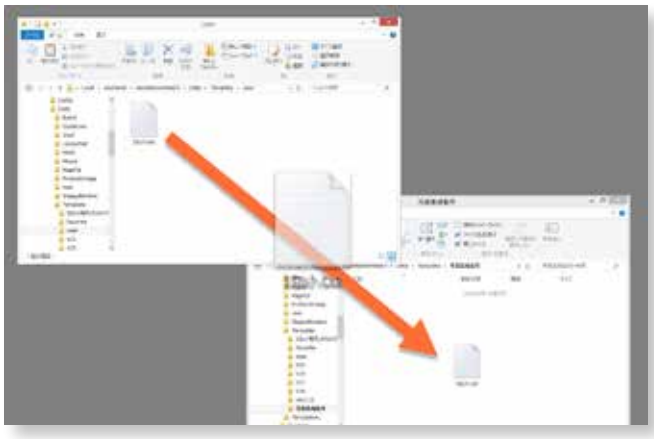
この例題では、「写真集編集用」というフォルダを作成しています。



手順 5　ボックスファイルを整理用フォルダに移す

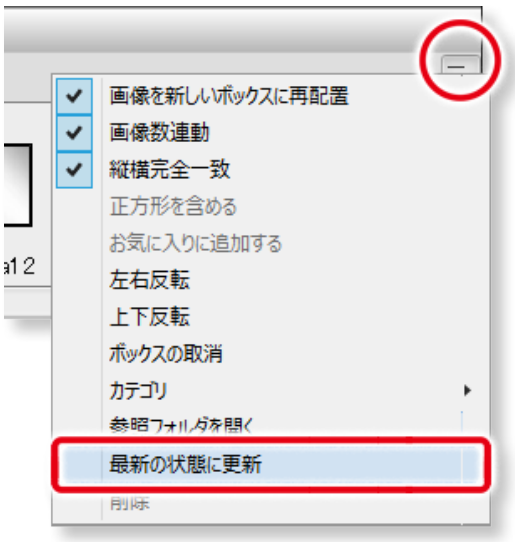
必要なボックスファイルを整理用に作成したフォルダに移します。

「User」フォルダの中から、必要なボックスファイルを「写真集編集用」フォルダの中に移動します。

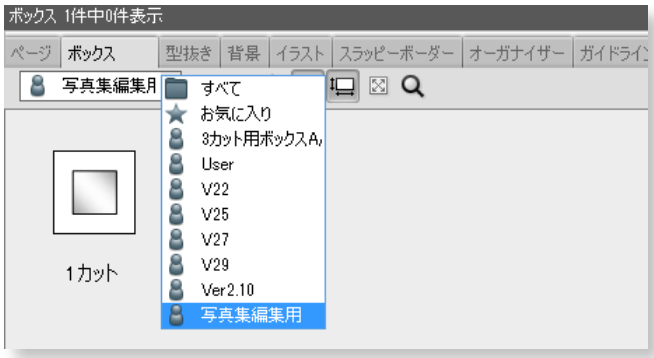


手順 6　「最新の状態に更新」をクリック

ABM2 に戻り、ボックスタブのメニューボタンをクリックし、「最新の状態に更新」をクリックしてください。

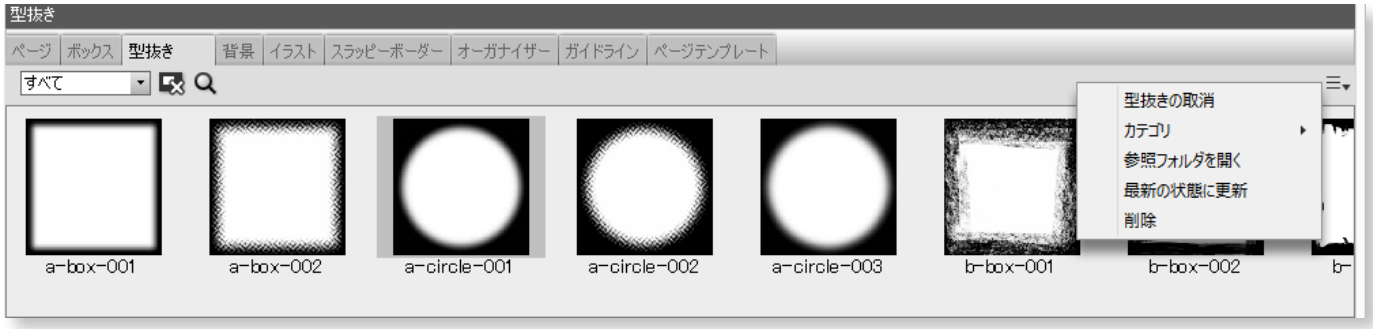


ボックスタブの「カテゴリの選択」をクリックすると、「手順 4」で作成した「写真編集用」というカテゴリが表示され、移動したボックスが使用できるようになります。



8.　型抜き

写真の周辺をボカシたり、特定の型に抜く効果を「型抜き」と呼びます。



型抜きタブには型抜きの一覧が表示されます。使用したい型抜きのサムネイルを選択して、編集パレット上の画像にドラッグ＆ドロップまたは、ダブルクリックすると型抜きが反映されます。

● 型抜きが適用されるのは、画像のみです。図形、文字、背景には適用されません。

8-1.　型抜き（マスク）の使い方

デザインパレットから「型抜きタブ」を選んでください。

使用したい型抜きを、編集パレットの適用したい写真にドロップします。

型抜きが写真に適用されます。

●型抜きファイルの縦横比は、写真の縦横比にフィットするように自動調整されます。

解　説

型抜きの縦横比

型抜きは、写真の縦横比に応じて自動的に変形されます。
例えば下記の例のように、型抜きを適用したまま写真の縦横比を変更しても、型抜きマスクはそれに応じて変形します。

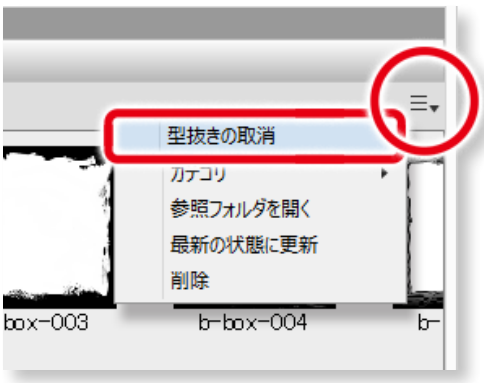
8-2.　型抜きの取消

型抜きの効果を取り消したい時に使います。

型抜き効果の掛かった画像を選択してから、「カテゴリ」欄の右にある「取消」ボタンをクリックしてください。型抜きの効果が取り消されます。

もしくは

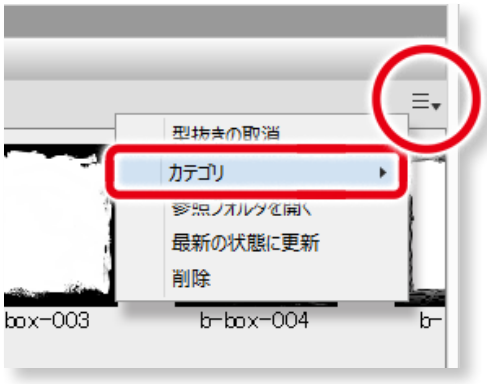
もしくは、型抜きタブ内のメニューボタンをクリックし、表示されるメニューから「型抜きの取消」をクリックしてください。



8-3.　カテゴリ

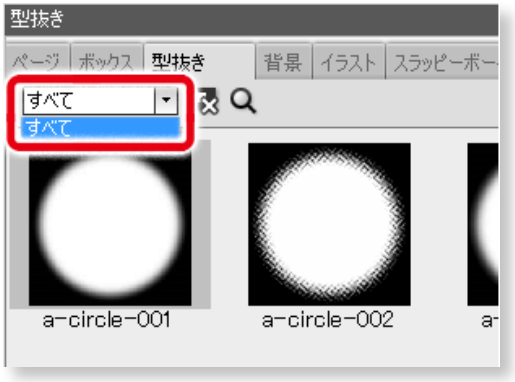
型抜きファイルが保存されているカテゴリを切り替えます。

「カテゴリ」をクリックし、さらに表示されるカテゴリ名をクリックすると、型抜きを絞り込むことができます。



もしくは

もしくは、型抜きタブ内のカテゴリ欄をクリックするとサブメニューが表示されます



● 右図にある「自作マスク」というカテゴリは、この解説のために制作したものです。インストールされる ABM2 には存在しません。

●「型抜き」、およびカテゴリは自作することができます。

詳しくは、ABM サイト内の「よくある質問オリジナルマスク（型抜き）の作り方」
http://abm.asukabook.com/jp/expert/4-14.html
をご覧ください。

8-4.　参照先フォルダを開く

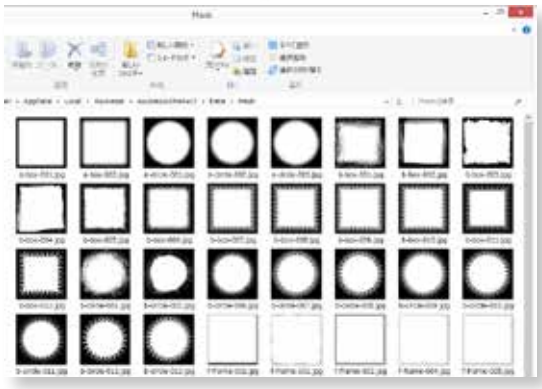
型抜きのデータが保存されているフォルダを開きます。

ご自分で作った型抜きファイルがあれば、このフォルダに入れてください。

「最新の状態に更新」することにより、利用できるようになります。

● 型抜きが入っているフォルダ に新しいフォルダを作成して、自作のマスクを入れて整理して利用することができます。

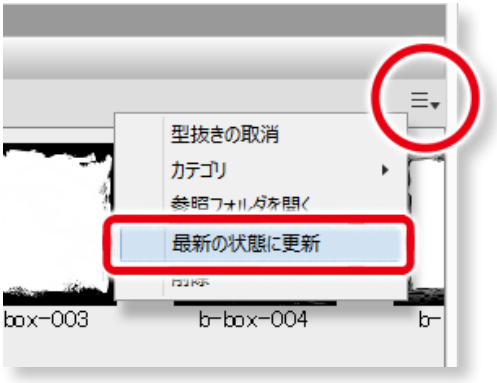
●「型抜き」、およびカテゴリは自作することができます。



型抜き用マスクファイルの作り方は、8-5 ページの「8-8.　オリジナルの型抜き、マスクの作り方」をご参照ください。

8-5.　最新の状態に更新

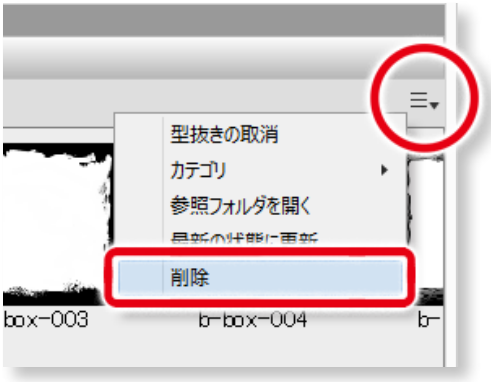
型抜きファイルが保存されているフォルダをもう一度読み込み、最新の状態に更新します。



8-6.　削除

保存してある、型抜きファイルを削除する時に使います。

ボックスタブ内に表示されているサムネイルを選択し、メニューから「削除」をクリックすると、型抜きファイルが削除されます。



ご注意

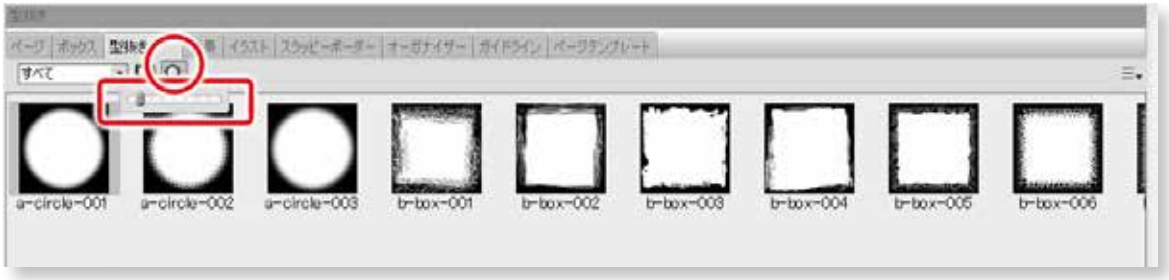
- この操作を行うと、型抜きファイルが保存先のフォルダから削除されますのでご注意ください。
- この操作は取り消しが効きませんので、ご注意ください。

8-7.　サムネイルサイズの調整

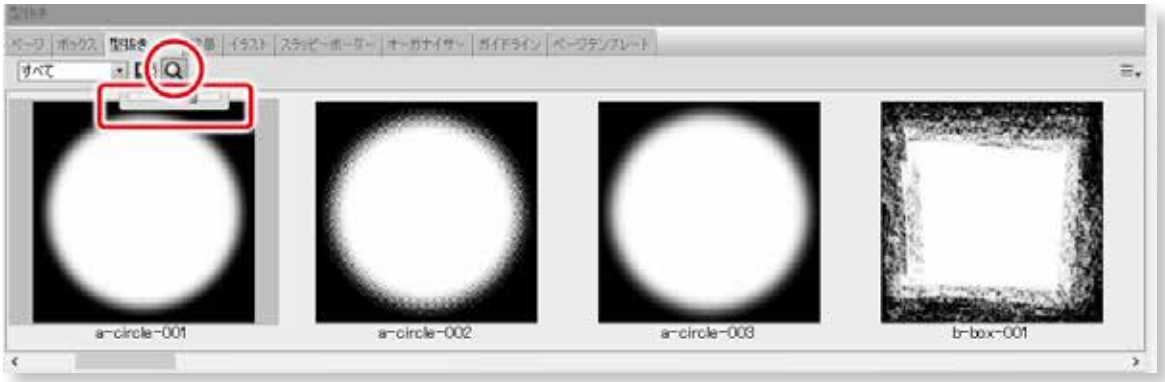
型抜きタブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

型抜きタブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。



スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。



8-8.　オリジナルの型抜き、マスクの作り方

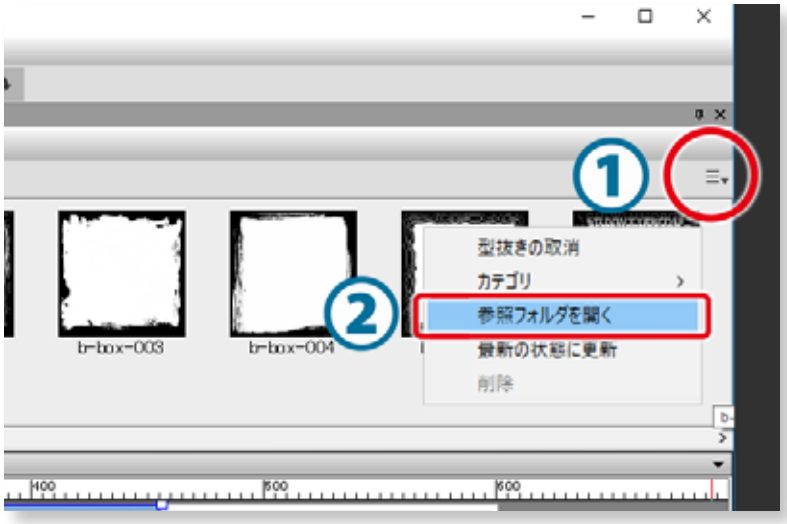
オリジナルの「型抜き」を作成したい場合は、Adobe Photoshop を使用してマスクを作成しJPEG 画像として保存します。

例題として、下図のようなハートのマスクを作ってみましょう。

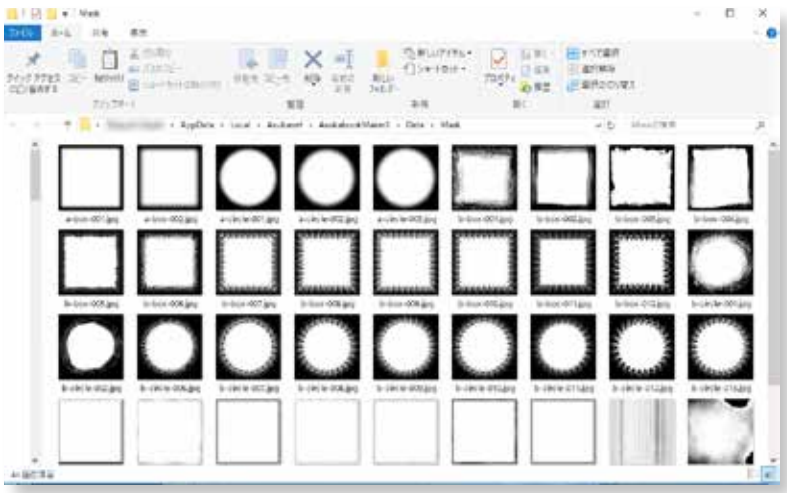
手順 1　型抜き用のマスク保存フォルダを開く

ABM2 の「型抜きタブ」をクリックして型抜きを表示します。
次に、
①型抜きタブの右側にあるメニューボタンをクリックします。

②「参照フォルダを開く」をクリックします。



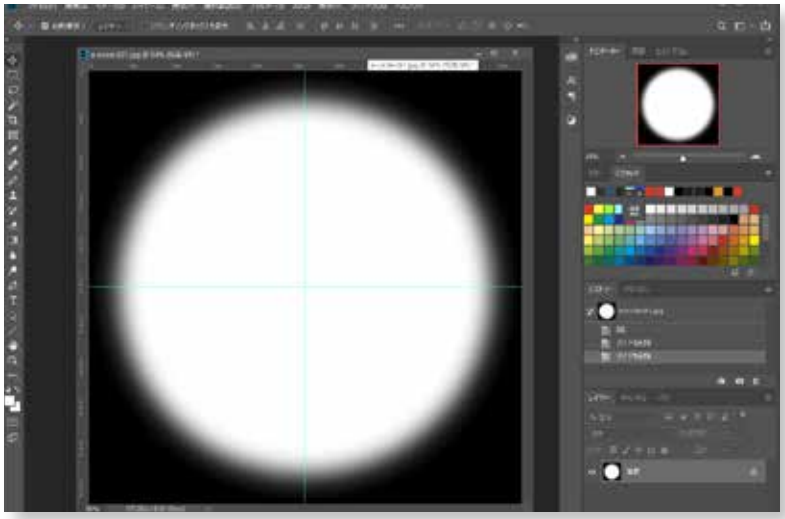
「Mask」というフォルダが前面に表示されます。
ABM2 をインストールすると右図のように 10 種類以上のマスクファイルが用意されます。



手順2 型抜き用のマスクファイルの仕様を確認する

マスクファイルがどのようになっているのか、試しに開いてみましょう。

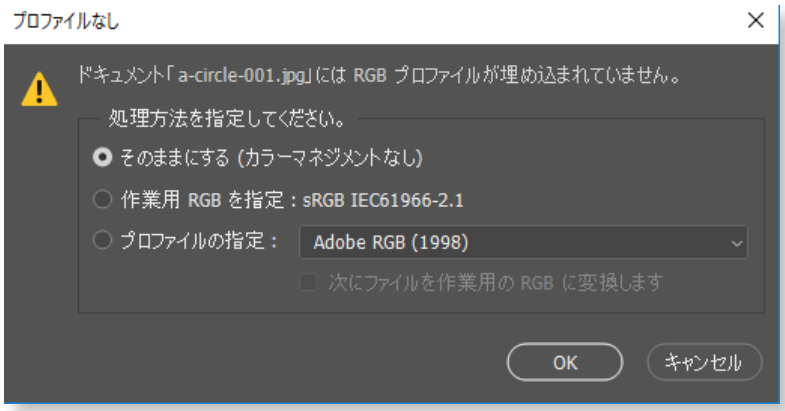
右 図 は「a-circle-001.jpg」 を Adobe Photoshop で開いたところです。



●「a-circle-001.jpg」は正円・ボカシ縁のものです。
黒色は透過率 100%、白色は 0% 透過になります。

●中間調の部分はその濃度に応じて写真が透過します。
※マスクファイルは必ず RGB モードで作成してください。

※ Adobe Photoshop で開く場合、右図のようなメッセージが表示されることがあります。この場合は「そのままにする（カラーマネージメントなし）」を選択してください。
マスクファイルにはカラープロファイルを必要としません。



マスクファイルは右図の仕様で作成されています。
弊社で用意したファイルサイズは、幅×高さ = 1500pixel の正方形です。

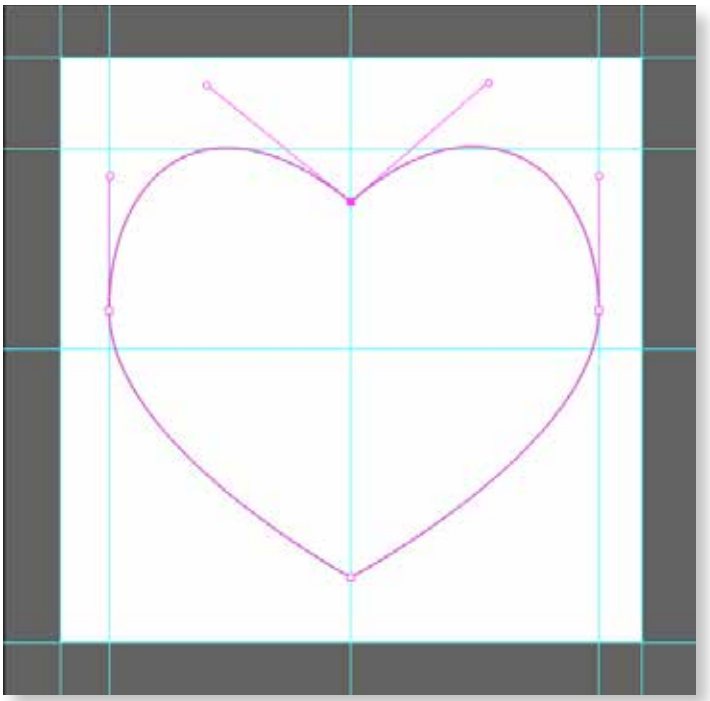
●ファイルサイズ、解像度はこの使用の限りではありません。マスクはいろいろなサイズの写真に適用されるため、弊社で用意したものは正方形としています。
また、解像度も 72dpi と低めにしています。これは使用用途から解像度を高くする必要がないからです。

●もし、特定のテンプレートに使用するなどで、使用するサイズが決まっているのなら、その大きさでマスクを作るのことが理想的です。

手順3 新しい型抜き用のマスクファイルを作る

Photoshop でハート型マスクを作ります。
ファイルサイズは、幅×高さ = 1500pixel
解像度は、72dpi

作成方法は、どのような方法でも構いません。
ここではハートの輪郭をパスを使って描きました。

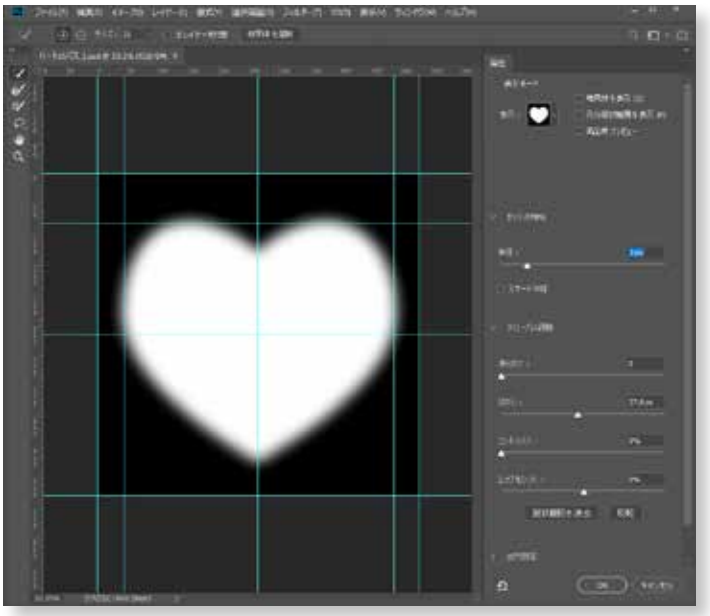


手順4 マスクを作る

パスを選択範囲に変換し、「選択範囲」メニューから「選択とマスク」をクリックします。
ダイアログの「半径」と「ぼかし」を使って輪郭部分のグラデーションを調整します。
※Photoshopのバージョンにより操作が異なります。

「出力」を「新規ドキュメント(レイヤーマスクあり)」で書き出します。

背景を黒色に塗りつぶしてください。黒色の部分が型抜きされます。



※マスクの作成方法は、様々な方法がありますので作成しやすい方法で作成してください。

※マスクの詳細な作成方法は、PhotoShop のマニュアルや参考サイトをご参照ください。

手順5 マスクを JPEG で保存する

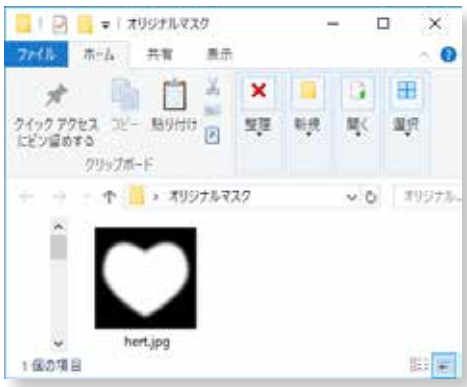
Photoshop の

①「ファイル」メニューから②「別名で保存」をクリックします。

ファイルの種類を JPEG にして、ICC プロファイルは、必要ありませんのでチェック無しにで保存します。

手順6 保存した JPEG ファイル

今回は、「オリジナルマスク」というフォルダを作成し、そのなかに「hert」という JPEG を保存しました。



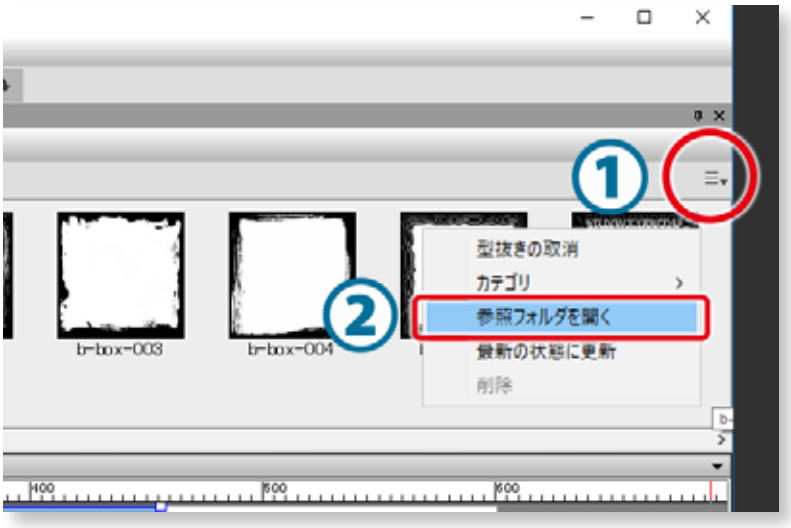
手順 7 作成したマスクの登録

ABM2 の「型抜きタブ」をクリックして型抜きを表示します。

次に、

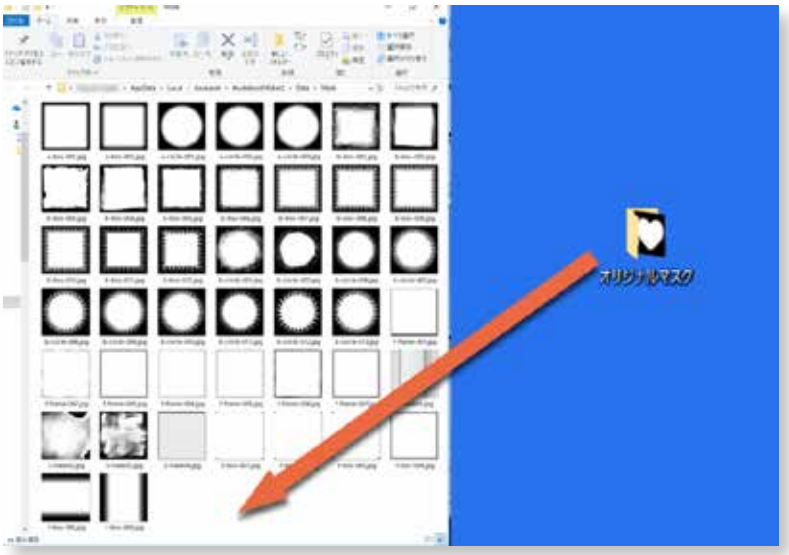
①型抜きタブの右側にあるメニューボタンをクリックします。

②「参照フォルダを開く」をクリックします。



手順 8 型抜き用のマスクを保存フォルダにコピーする

「型抜き」が保存されているフォルダが開くので、「オリジナルマスク」フォルダをドラッグ & コピーします。



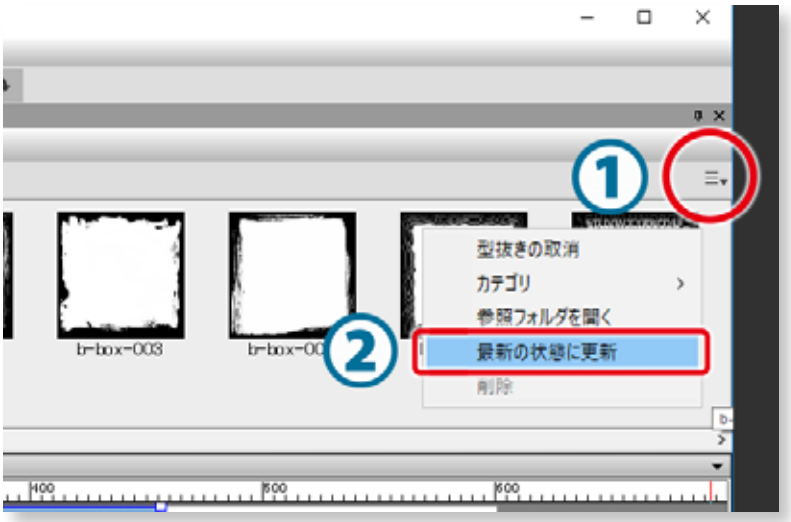
手順9 タブを更新する

ABM2 の「型抜きタブ」をクリックして選択します。

次に、

①型抜きタブの右側にあるメニューボタンをクリックします。

②「最新の状態に更新」をクリックします。



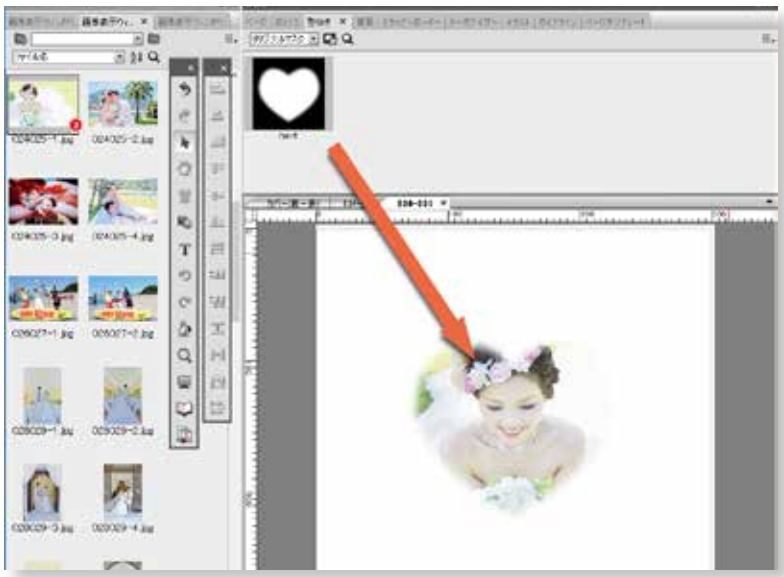
手順10 カテゴリを選択する

フォルダで登録すると、そのフォルダ名がカテゴリーとして選択できるようになります。

「オリジナルマスク」のカテゴリーを選択すると「hert」の型抜きマスクが表示されます。

手順11 型抜きマスクの適用

「hert」の型抜きマスクを写真にドラッグ & ドロップして適用します。



9.　背景

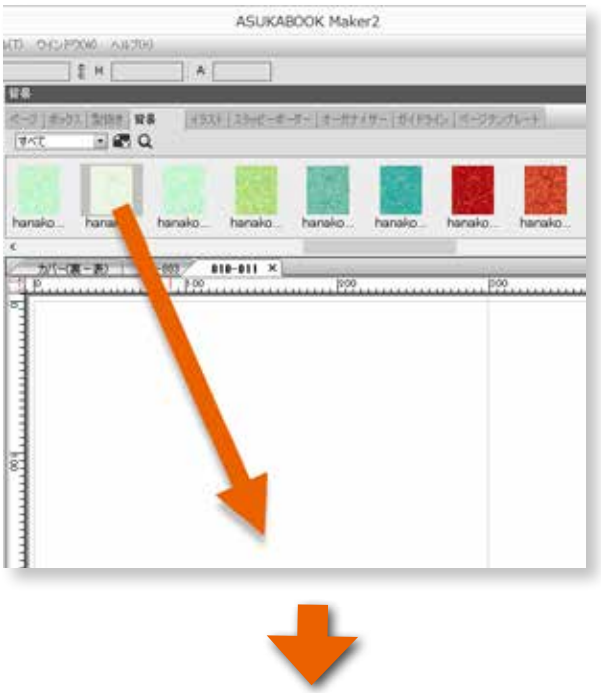
背景に敷くための画像を用意する場合、1 ページ分の大きさの画像として用意すると画像容量が大きくなりがちです。ABM2 の「背景タブ」機能は、背景のパターンを小さな画像として登録し、この 1 つのパターンを自動的に繰り返して配置することでブック全体のファイル容量を軽減することができます。

●背景パターンはホワイトベースの背景として適用されます。背景色と同時に使用した場合は、背景パターンが優先されます。
●背景画像は自作したものを登録することができます。「9-5.　カテゴリの登録方法」9-4 ページをご覧ください。
●背景機能の構造については、「【解説】「背景機能」の構造」9-9 ページもご参照ください。

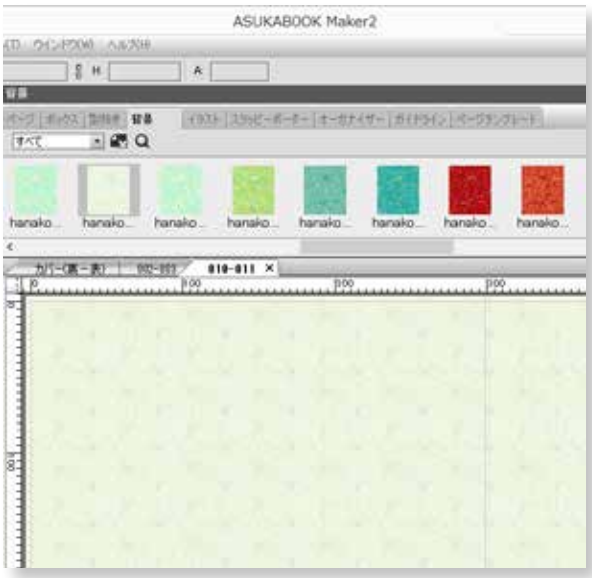
9-1.　背景の使い方

デザインパレットから「背景」を選んでください。
使用したい背景のサムネイルを、編集パレットの適用したいページにドロップします。

もしくは、ダブルクリックしてください。



背景パターンがホワイトベースの背景に適用されます。

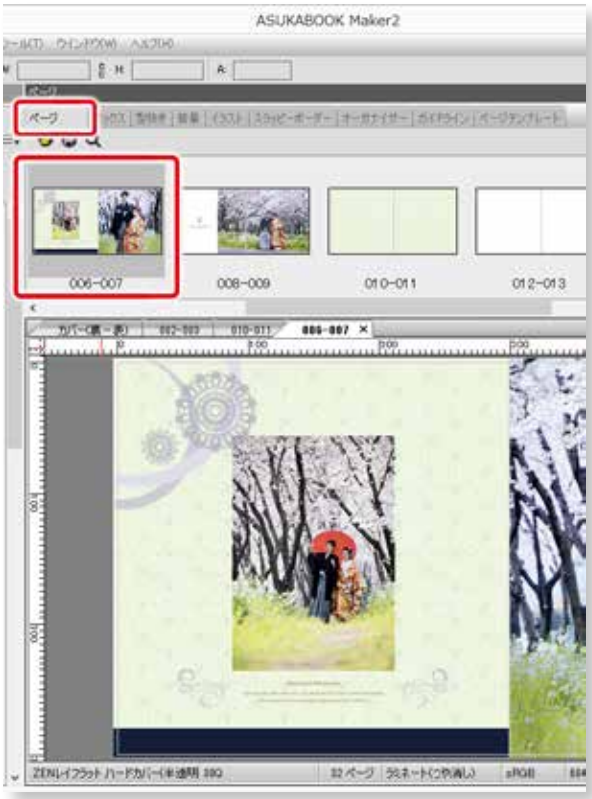


9-2.　背景の取消

手順 1　取り消したい背景が敷いてあるページを選択

ページタブを使って取り消したい背景が敷いてあるページのサムネイルをダブルクリックします。

編集パレットに選択されたページが表示されます。



手順 2　背景タブに切替える

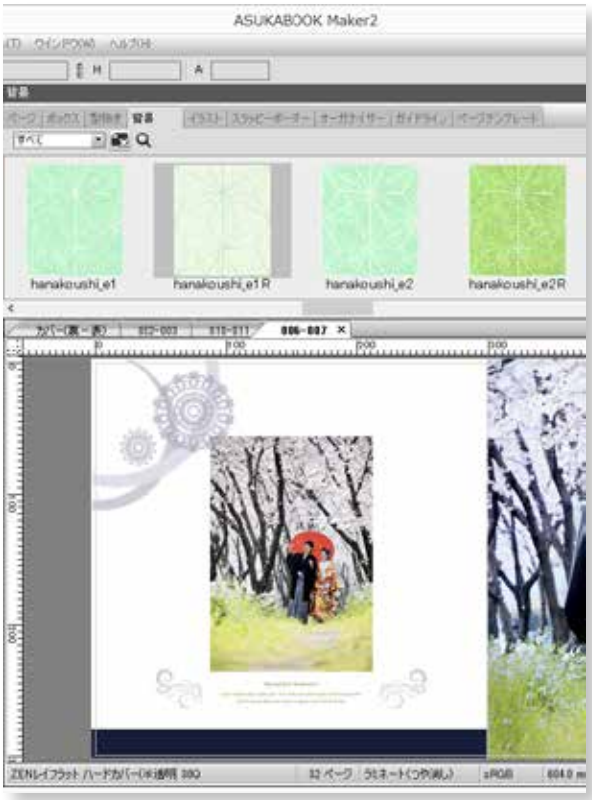
手順 3　「背景の取消」ボタンをクリック

背景タブの中にある「背景の取消」ボタンをクリックしてください。

もしくは

背景タブの右側にあるメニューボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されますので、「背景の取消」をクリックします。

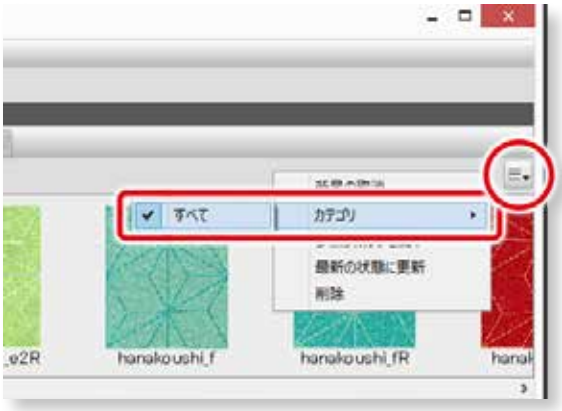
該当するページに適用されている背景パターンが消去されます



9-3.　カテゴリの選択

背景画像は自作したものを登録することができます。
この時に分けたカテゴリーを選択するためのメニューです。

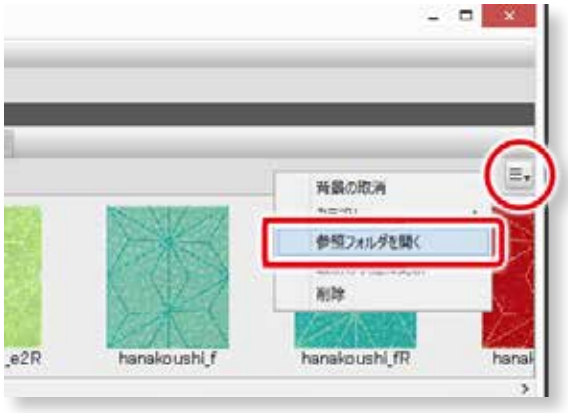
●初期設定では、まだカテゴリーが登録されていないため、「すべて」とのみ表示されます。



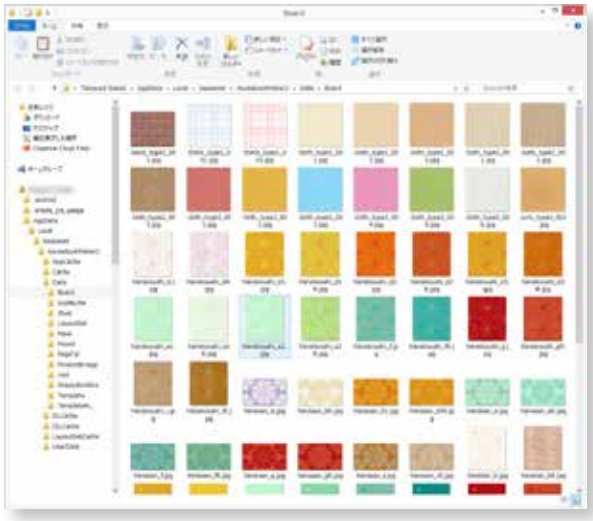
9-4.　参照先フォルダを開く

背景画像データが保存されているフォルダを開きます。

背景タブの右側にあるメニューボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されますので、「参照フォルダを開く」をクリックします。



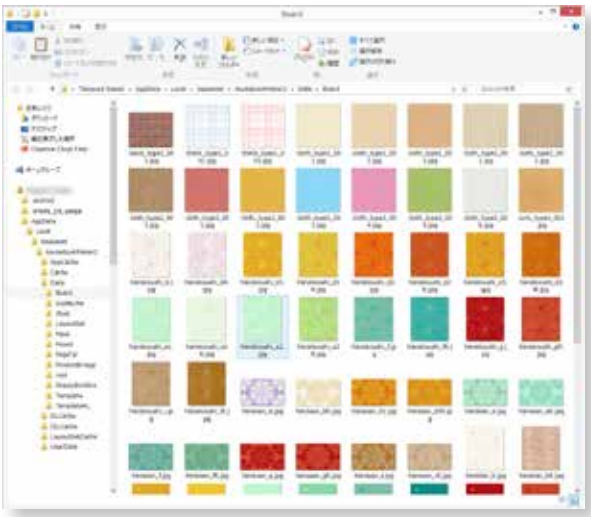
背景画像ファイルが保存されているフォルダが開きます。



9-5.　カテゴリの登録方法

背景画像はカテゴリー別に登録する方法です。
また、ご自分で作られた背景パターンがあれば、この方法にて登録してください。

●背景画像を自作する場合は、「【解説】「背景機能」の構造」9-9 ページもご覧ください。

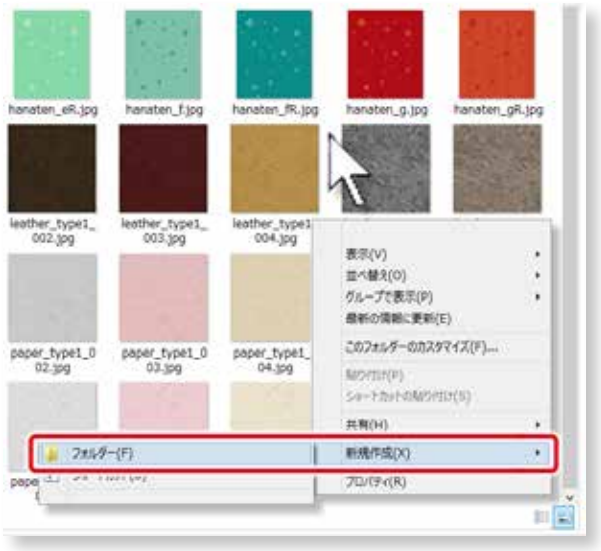


手順 1　「参照先のフォルダを開く」をクリック

プルダウンメニューから「参照先のフォルダを開く」をクリックし、背景パターンが登録されているフォルダを表示させます。

手順2 新規フォルダとして作る

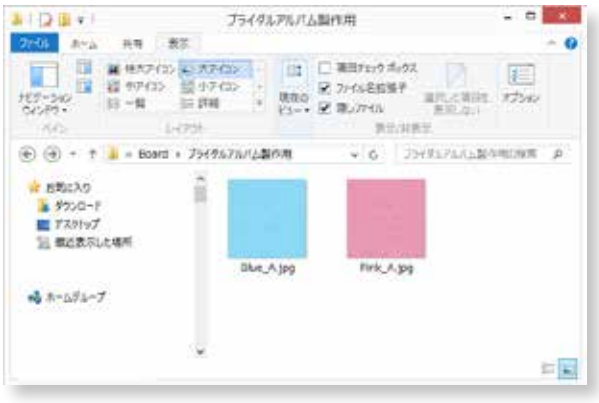
背景画像が登録されているフォルダの中に、カテゴリとして登録したい名称を、新規フォルダとして作ります。



この例では「ブライダルアルバム制作用」というカテゴリを作ります。

手順3 フォルダの中に登録したい背景画像を入れる

新しく作成したフォルダの中に、このカテゴリに登録したい背景パターンを入れます。

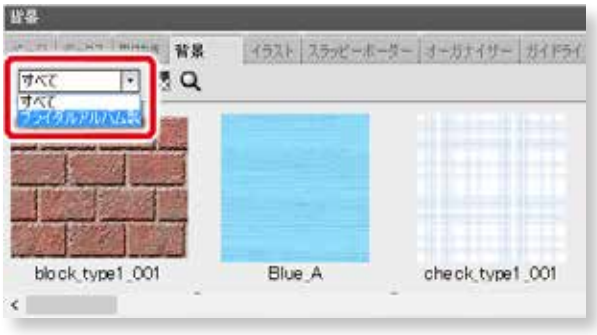


手順4 「最新の状態に更新」をクリック

新しく作成したフォルダを ABM に再認識させるため、プルダウンメニューの「最新の状態に更新」をクリックします。

手順5 カテゴリ欄をクリック

背景タブに戻り、カテゴリ欄をクリックすると、新しく作成したフォルダ名称がカテゴリとして表示されます。



手順6 登録した背景画像の確認

新しく作成したカテゴリの中に入れた背景画像がサムネイルとして表示されます。

9-6.　最新の状態に更新

背景画像ファイルが保存されているフォルダをもう一度読み込み、最新の状態に更新します。

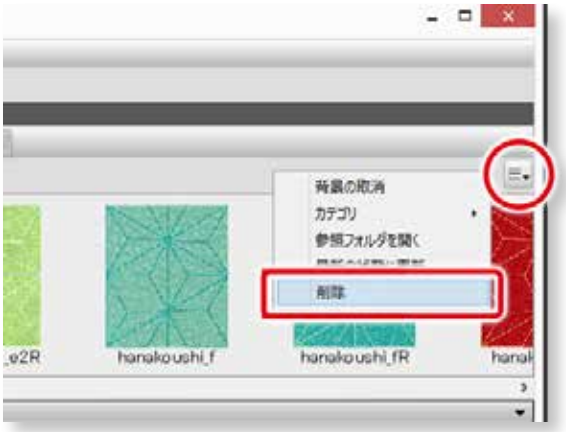
9-7.　背景画像の登録を削除する

登録してある背景画像ファイルを削除する時に使います。

背景タブの中から削除したいサムネイルを選択し、右クリックすると「削除」メニューが表示されます。
この「削除」メニューをクリックすると選択した背景画像ファイルが削除されます。

もしくは

もしくは、
背景タブ内に表示されているサムネイルを選択し、プルダウンメニューから「削除」をクリックすると、該当する背景画像ファイルが削除されます。



ご注意

- この操作を行うと、背景画像ファイルが保存先のフォルダから削除されますのでご注意ください。
- この操作は取り消しが効きませんので、ご注意ください。

9-8.　サムネイルサイズの調整

背景タブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

背景タブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

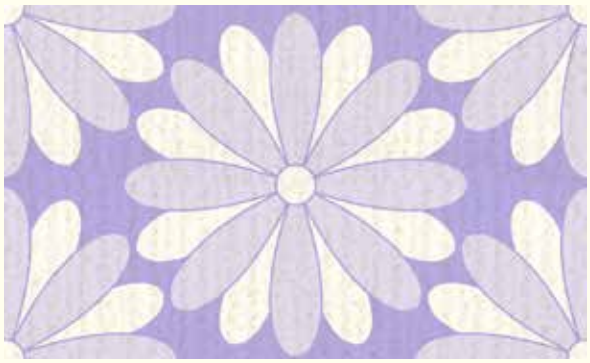
スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。

スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。

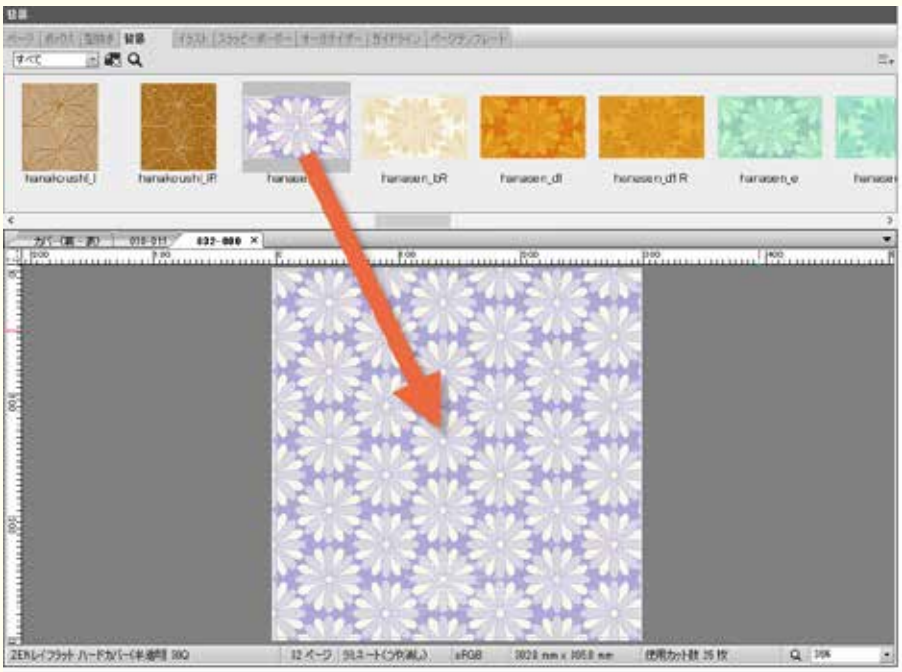
解　説　「背景機能」の構造

「背景機能」の構造について解説します。

●例えば、背景画像「hanasen_b」（右図参照）をホワイトベースにドラッグ＆ドロップすると・・・



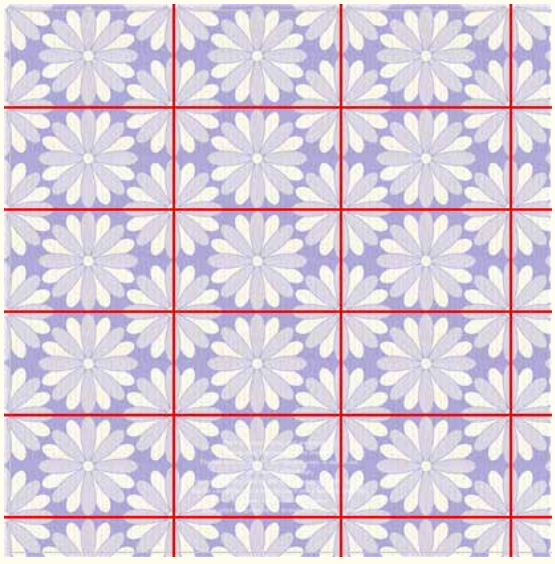
右図のように配置されます。



●「背景タブ」の中に表示されているサムネイル（登録されている背景画像）を編集パレット（ホワイトベース）にドラッグ＆ドロップすると、ホワイトベースの原点（左上）を起点として背景の画像が隙間無く、タイル状で連続的に配置されます。

●この配置は実際に画像がコピーされて配置されるのでは無く、情報のみをコピーしてタイル状に配置しています。これにより、ホワイトベース一面として背景画像を作成するよりも、ブックファイルのファイル容量を大幅に軽減する事ができます。

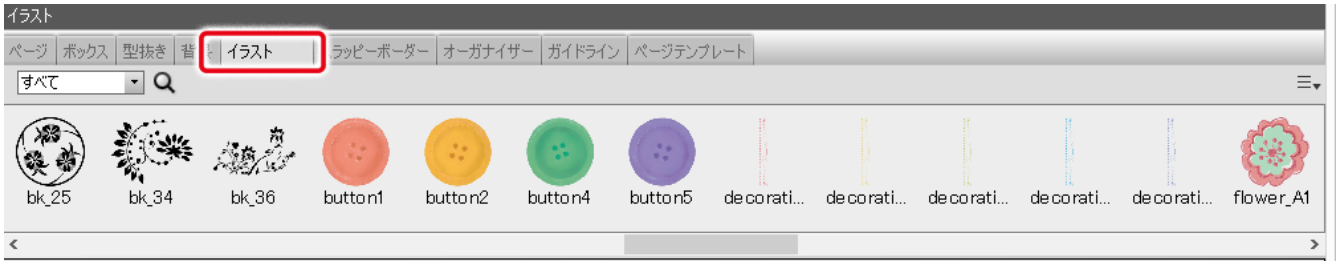
●右図中の赤色で示した線は解説用に表示したものであり、実際には表示されません。



10.　イラストタブ

ABM バージョン 2.7 より新機能として「イラスト」タブを設けました。

これは、写真画像とは異なり、頻繁に使用するイラスト画像を登録しておき、イラストタブからすぐに使用することができる機能です。



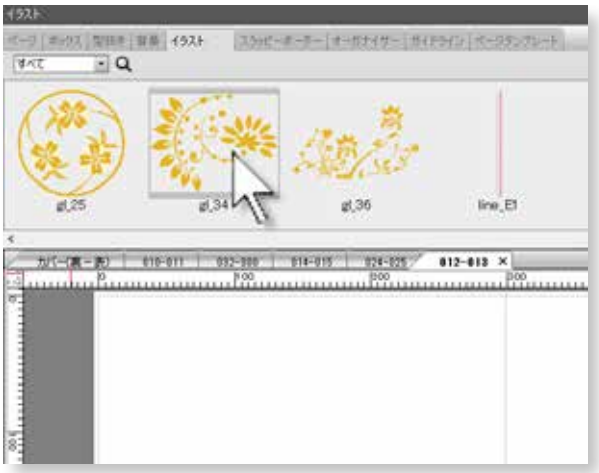
●イラストタブには、イラスト、写真などを登録できます。
　登録できるファイル形式は、PNG、および JPEG 形式のファイルです。
● イラスト画像は自由にを登録することができます。「10-2.　イラストタブへの登録方法」10-2 ページをご覧ください。
● ABM バージョン 2.7 では、ASUKABOOK Maker 素材集 1、および 2 より 54 種類 を選択して用意しました。

10-1.　イラストタブの使い方

手順 1　イラストを選択する

デザインパレットから「イラストタブ」を選んでください。

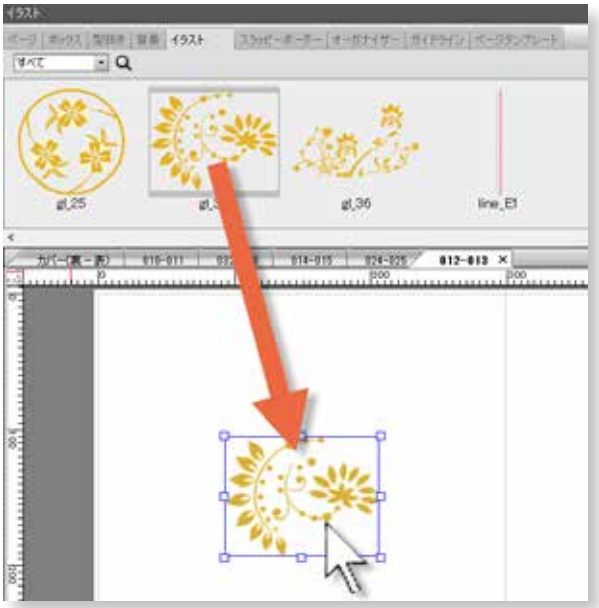
使用したいイラストのサムネイルを選択します。



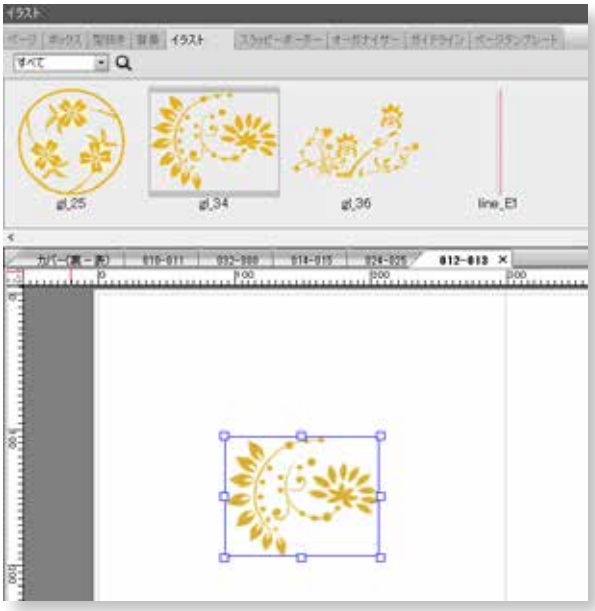
手順 2　イラストをドラッグ＆ドロップ

選択したイラストを編集パレットにドラッグ&ドロップします。

もしくは、ダブルクリックしてください。

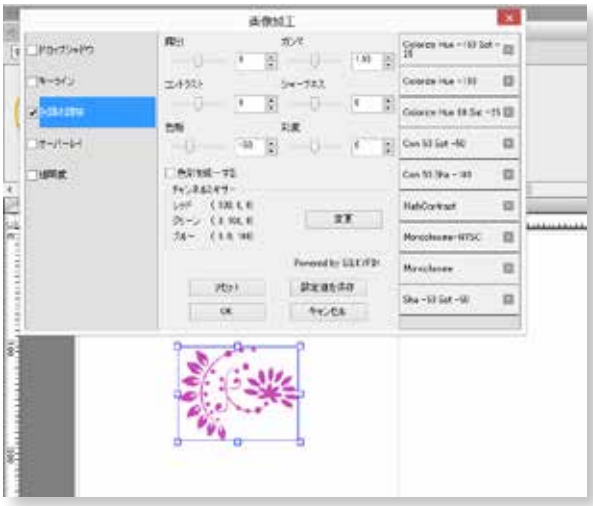


イラストがホワイトベースに配置されます。



イラストタブから配置したイラストは、画像加工の機能が使用できます。
右図の例は色相を調整して色合いを変更したものです。

イラストをダブルクリックすると、「画像加工」パネルが開きます。



10-2. イラストタブへの登録方法

イラストタブには、イラスト、画像などを登録できます。

イラストタブに直接ドラッグして登録する方法

①「イラスト」タブをクリックします。

②用意したイラストファイル、もしくは画像ファイルをタブ領域に直接ドラッグ & ドロップします。

イラストが格納されているフォルダを指定して登録する方法

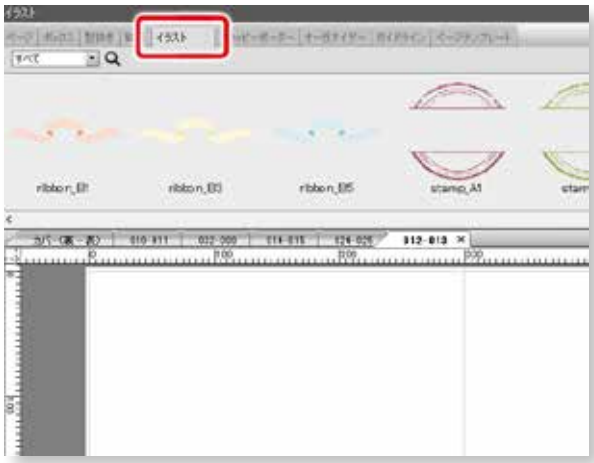
手順 1　登録したいイラストを用意する

登録したいイラストファイルや、写真画像ファイルを用意します。

●登録できるファイル形式は、PNG、および JPEG 形式です。

手順 2　イラストタブを選択する

ABM のデザインパレットから「イラストタブ」を選択します。



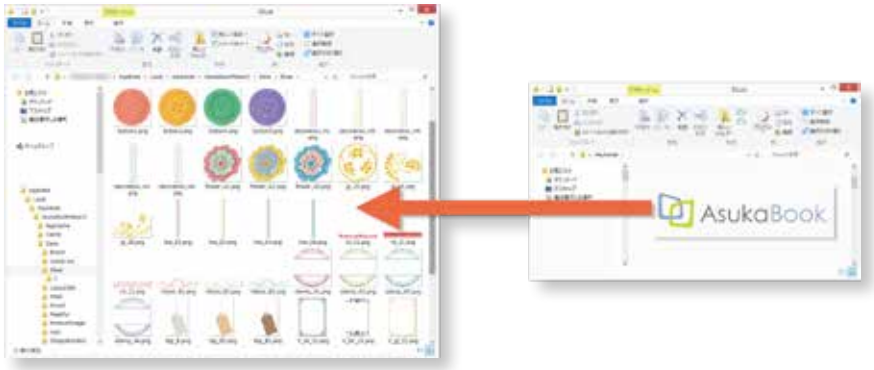
手順 3　「参照フォルダを開く」をクリック

イラストタブの右側にあるボタンをクリックするとサブメニューが表示されますので、「参照フォルダを開く」をクリックしてください。

イラストタブの内容が登録してある参照フォルダが表示されます。

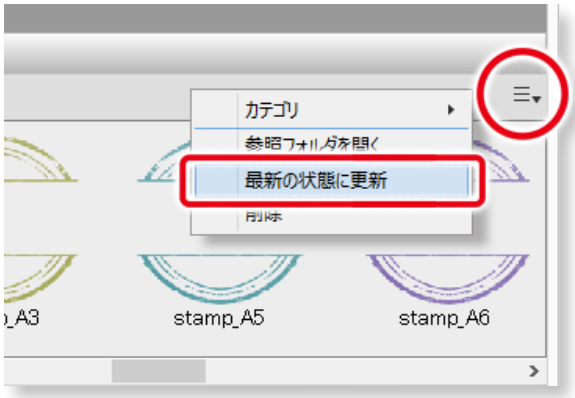
手順4 イラストをコピーする

「手順 1」で用意したイラストファイル、もしくは画像ファイルを参照フォルダにコピーします。



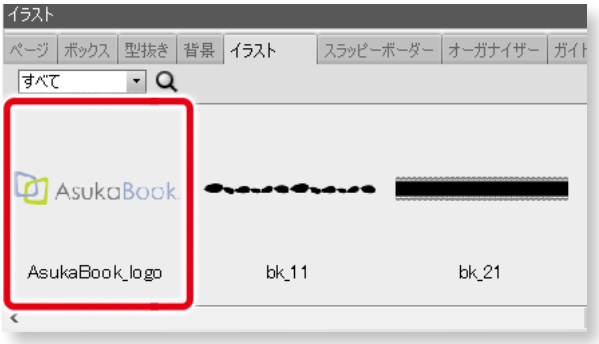
手順5 最新の状態に更新

イラストタブの右側にあるボタンをクリックするとサブメニューが表示されますので、「最新の状態に更新」をクリックしてください。
コピーしたイラストファイルが ABM に認識されます。



参照フォルダにコピーしたイラストファイルが、イラストタブの中に表示されます。

ファイルはアルファベット順、あいうえお順に並びます。

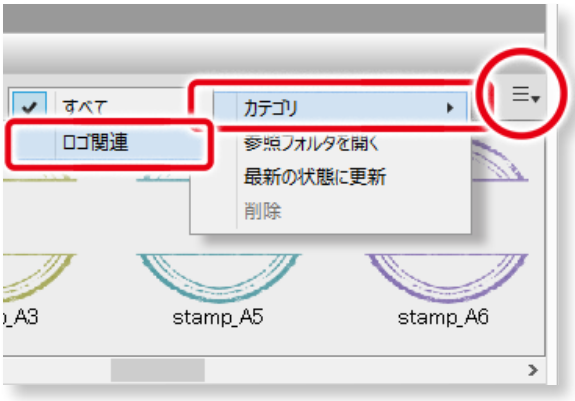


10-3.　カテゴリーの選択

登録されているイラストは、カテゴリー別に登録することができます。
この時に分けたカテゴリーを選択するためのメニューです。

●初期設定では、まだカテゴリーが登録されていないため、「すべて」とのみ表示されます。

●ここでは作例として「ロゴ関係」というカテゴリーを登録しています。



10-4.　カテゴリの登録方法

イラストをカテゴリー別に登録する方法です。
この方法にて登録し、整理しておくとよいでしょう

手順 1　「参照先のフォルダを開く」をクリック

イラストタブの右側にあるボタンをクリックするとサブメニューが表示されますので、「参照フォルダを開く」をクリックしてください

イラストタブの内容が登録してある参照フォルダが表示されます。

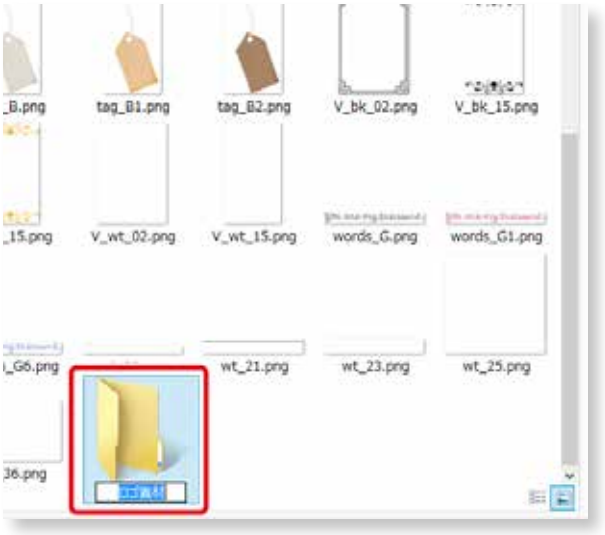
手順2 新規フォルダを作る

イラストファイルが登録されているフォルダの中に、新規のフォルダを作ります。

フォルダの名称は、カテゴリとして登録したい名称にします。

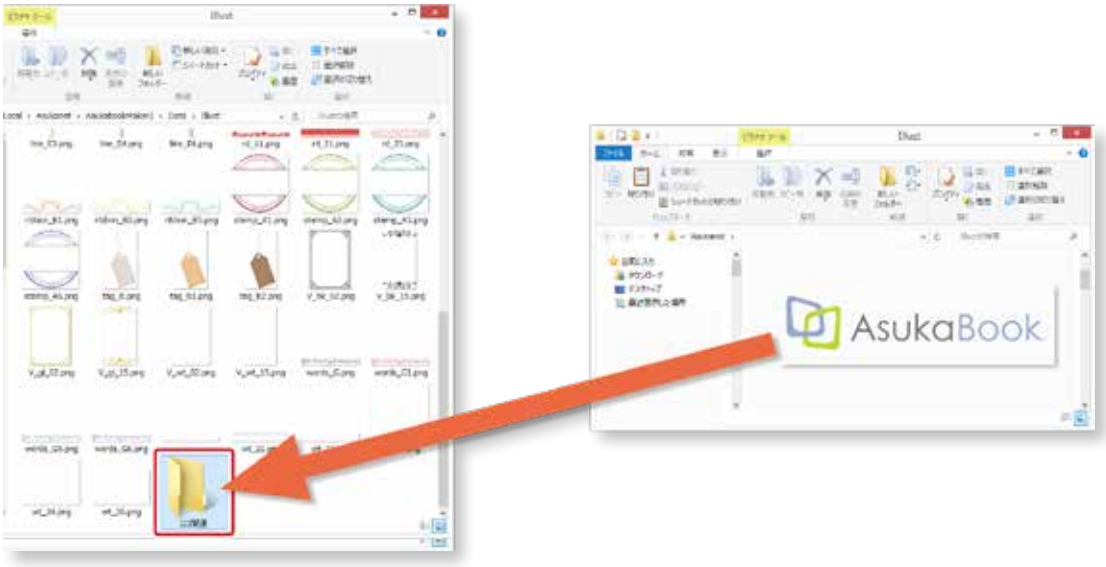
●フォルダの作り方は、macOS、もしくは Windows の操作方法に従ってください。
右図の作例は Windows です。

この例では、「ロゴ関連」というフォルダを作りました。



手順3　フォルダの中に登録したいイラストを入れる

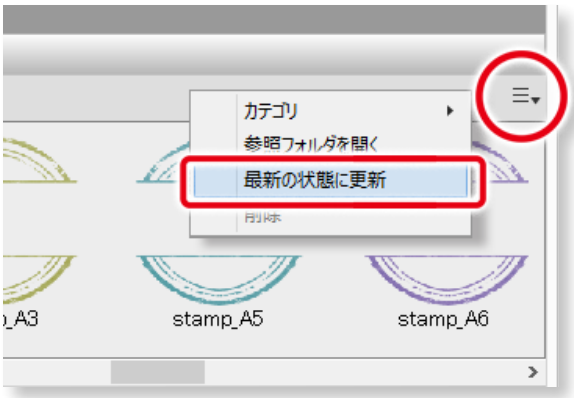
登録したいイラストファイルを、「手順2」で作った「ロゴ関連」フォルダの中にコピーします。



手順4　「最新の状態に更新」をクリック

イラストタブの右側にあるボタンをクリックするとサブメニューが表示されますので、「最新の状態に更新」をクリックしてください。

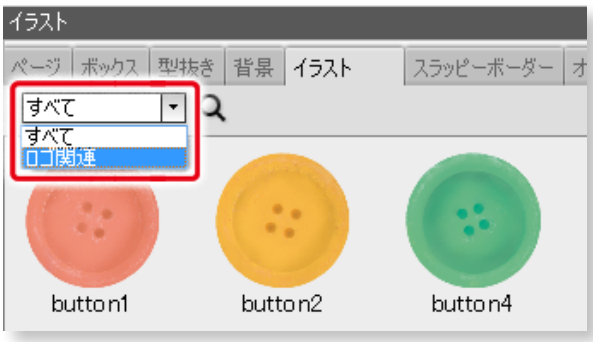
新しく作成したフォルダと登録したイラストが ABM に認識されます。



手順5　カテゴリ欄をクリック

イラストタブのカテゴリ欄をクリックすると、新しく作成したフォルダ名称がカテゴリとして表示されます。

●この例では「フレーム」、「ロゴ関係」の 2 つのカテゴクーが登録されています。

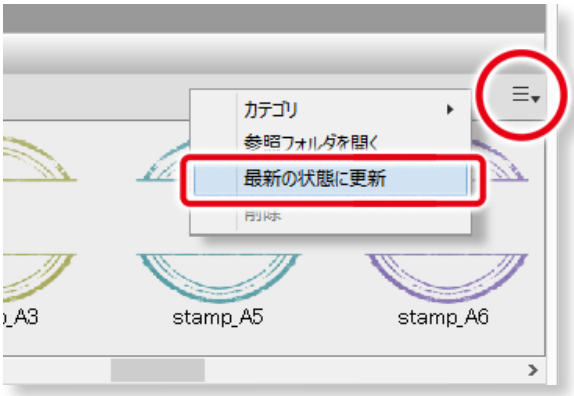


手順6 登録したイラストを確認

新しく作成したカテゴリの中に入れたイラストがサムネイルとして表示されます。

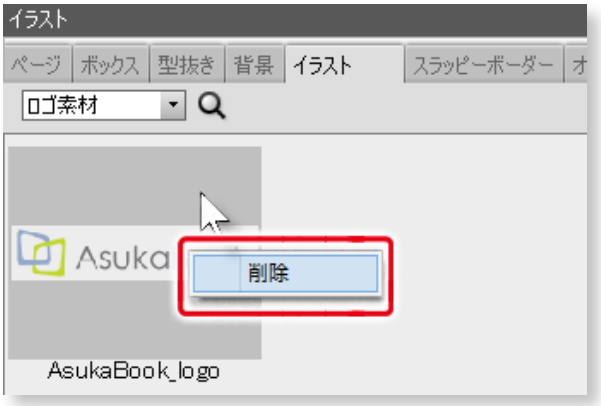
10-5.　最新の状態に更新

イラストファイルが保存されているフォルダをもう一度読み込み、最新の状態に更新します。



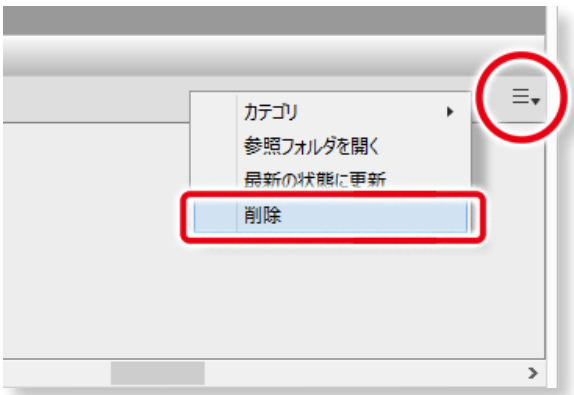
10-6.　イラストファイルの登録削除

イラストタブの中から削除したいサムネイルを選択肢、右クリックすると「削除」メニューが表示されます。
この「削除」メニューをクリックすると選択したイラストファイルが削除されます。

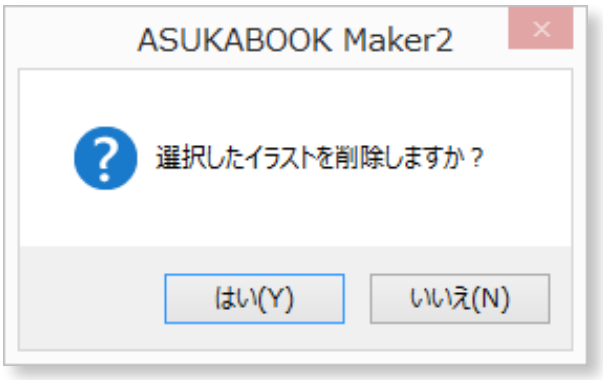


もしくは

もしくは、
イラストタブ内に表示されているサムネイルを選択し、プルダウンメニューから「削除」をクリックすると、該当するイラストファイルが削除されます。



「ファイル削除の確認」のメッセージが表示されるので「削除」をクリックしてください。



ご注意

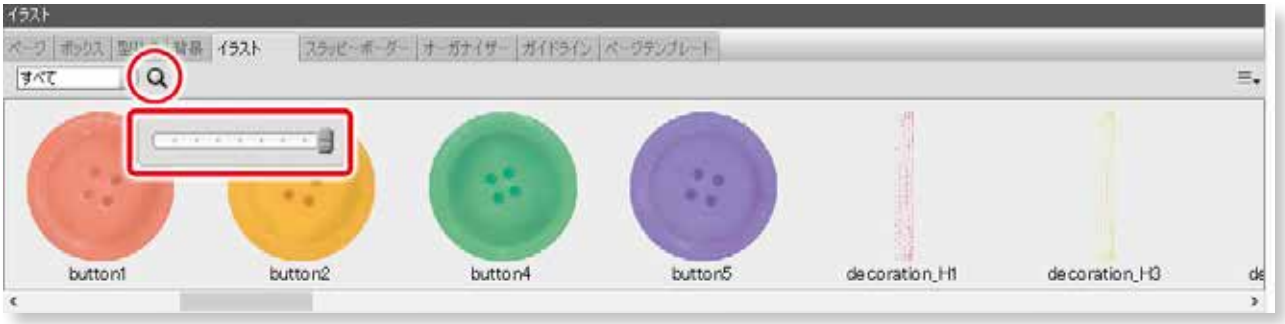
●この操作を行うと、イラストファイルが保存先の参照フォルダから削除されますのでご注意ください。
●この操作は取り消しが効きませんので、ご注意ください。

10-7.　サムネイルサイズの調整

イラストタブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。
イラストタブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。

スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。



11.　スラッピーボーダータブ

右図のような写真の装飾フレームを「スラッピーボーダー」と呼びます。

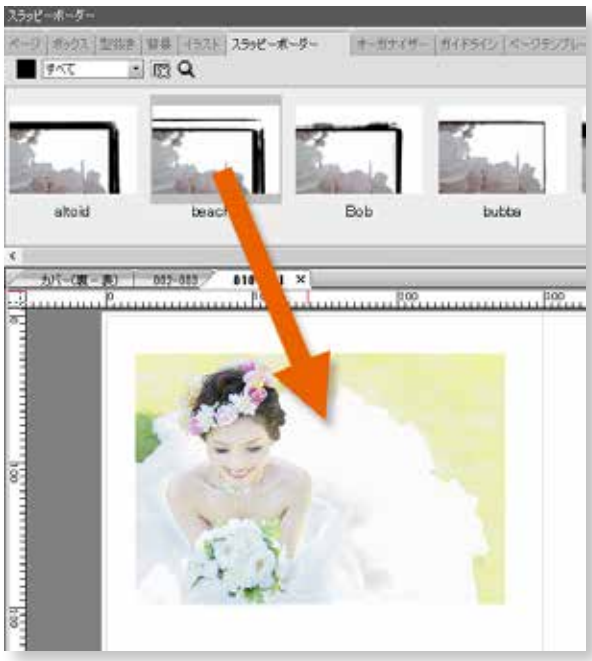
スラッピーボーダータブには、スラッピーボーダーの一覧が表示されます。使用したいスラッピーボーダーのサムネイルを選択して編集パレット上にドラッグ&ドロップまたは、ダブルクリックするとスラッピーボーダーが反映されます。

●スラッピーボーダーが適用されるのは、画像のみです。文字や背景には反映されませんのでご注意ください。

11-1.　スラッピーボーダーの使い方

デザインパレットから「スラッピーボーダータブ」を選んでください。

使用したいスラッピーボーダーを、編集パレットの適用したい写真にドロップします。



スラッピーボーダーが写真に適用されます。

●スラッピーボーダーファイルの縦横比は、写真の縦横比にフィットするように自動調整されます。

11-2.　色選択

スラッピーボーダーの色は変更することができます。

初期設定は、黒色です。

手順 1　メニューから「色選択」をクリック

スラッピーボーダータブ内のメニューボタンをクリックするとメニューが表示されます。

「色選択」をクリックすると､「色選択」ダイアログが表示されます。

手順 2　色を選ぶ

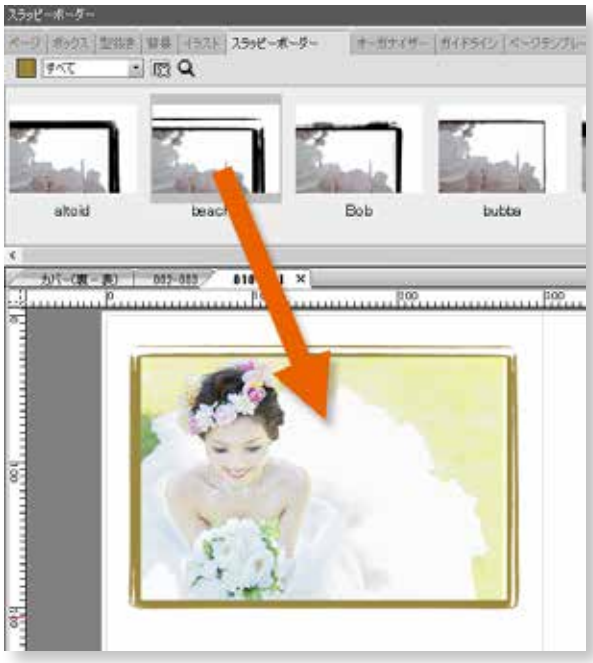
「色選択」ダイアログで色を選び、「OK」をクリックします。

詳しくは、本書の「19.　色選択について」19-1 ページをご覧ください。

¥

手順3 スラッピーボーダーをドラッグ＆ドロップ

スラッピーボーダータブ内のサムネイルを選び、編集パレットの画像にドラッグ&ドロップすると、画像に変更した色のスラッピーボーダー効果が掛かります。



11-3.　スラッピーボーダーの取消

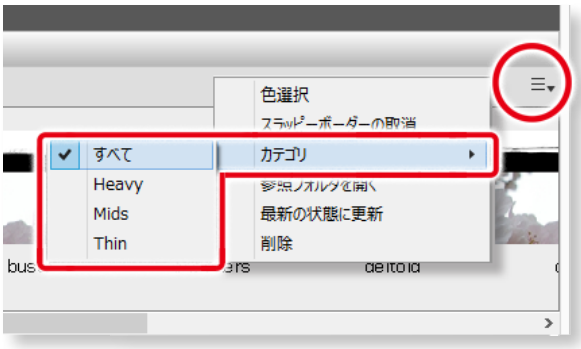
スラッピーボーダーの効果を取り消したい時に使います。

スラッピーボーダー効果の掛かった画像を選択し、この項目をクリックすると効果が取り消されます。

11-4.　カテゴリ

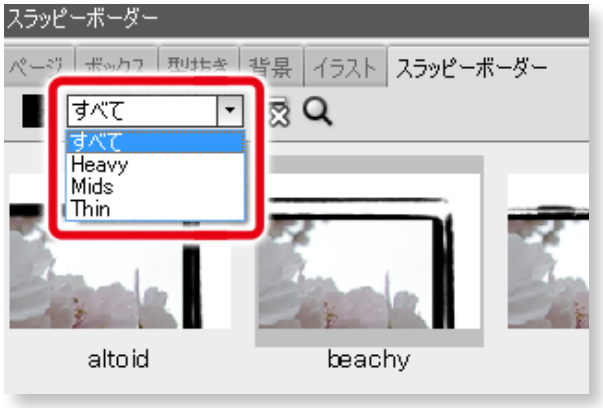
スラッピーボーダーの装飾の太さにより、「Heavy」、「Mids」、「Thin」、「すべて」の中から表示するスラッピーボーダーを選択することができます。

●初期設定では、「すべて」が表示されます。



もしくは

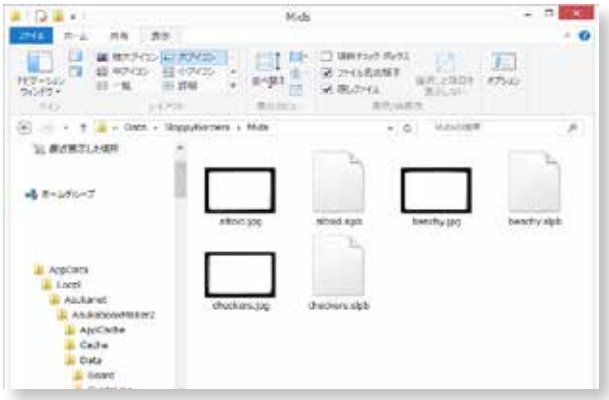
もしくは、スラッピーボーダータブ内のカテゴリ欄をクリックするとサブメニューが表示されます。



11-5.　参照先フォルダを開く

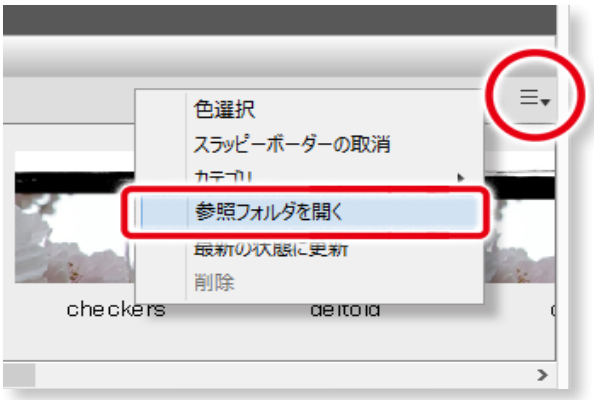
スラッピーボーダーのデータが保存されているフォルダを開きます。

新しいスラッピーボーダーがあれば、このフォルダに入れてください。
最新の状態に更新することにより、使用できるようになります。



11-6.　最新の状態に更新

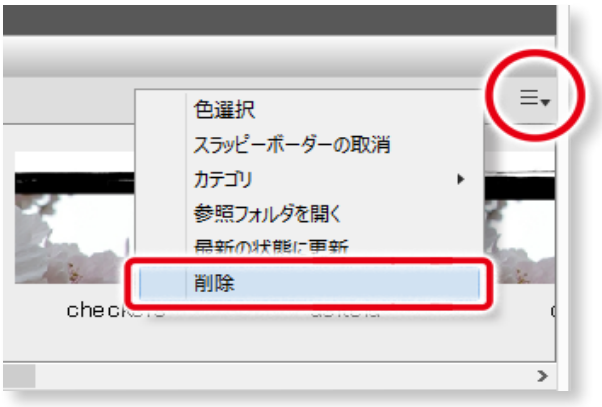
スラッピーボーダーファイルが保存されているフォルダをもう一度読み込み、最新の状態に更新します。



11-7.　削除

保存してあるスラッピーボーダーファイルを削除する時に使います。

スラッピーボーダータブ内に表示されているサムネイルを選択し、メニューから「削除」をクリックすると、スラッピーボーダーファイルが削除されます。



ご注意

●この操作を行うと、スラッピーボーダーファイルが保存先のフォルダから削除されますのでご注意ください。

●この操作は取り消しが効きませんので、ご注意ください。

11-8.　サムネイルサイズの調整

スラッピーボーダータブに表示されるサムネイルのサイズを変更します。

スラッピーボーダータブ内の「虫眼鏡」ボタンをクリックすると、スライダーが表示されますので、お好みの大きさに調整してください。

スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。

スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。

12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）

12-1.　概要

オーガナイザーとは、写真集制作にあたって事前にセレクトした写真画像を、あらかじめ各ページに割り振っておく機能です。レイアウト作業時に各ページに割り振られた写真画像のみが表示されるようになります。

これにより、画像表示ウインドウの数多い写真画像の中から、目的とする写真画像を選び出す手間が省けるようになります。ABM2.10 より、オーガナイザーとオートレイアウトの機能を連携したさらに便利な機能が追加されました。この機能により、写真画像を選択すると同時にブックに自動的にその写真画像がレイアウトされます。

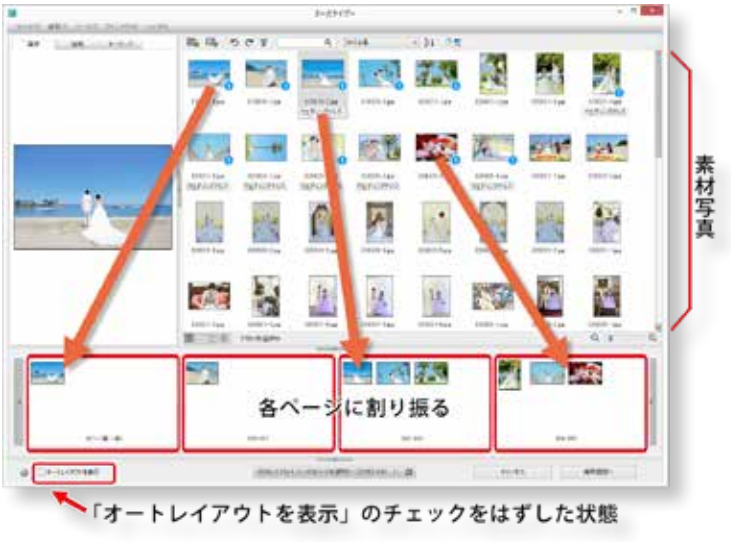
12-1-1.　オーガナイザー画面

●オーガナイザー機能を単体で使用する場合は、「オートレイアウトを表示」チェックボックスをはずしてください。

●素材となる写真画像を各ページに割り振ります。

●この情報は ab2 ファイルに一緒に保存されますので、編集作業を中断したり、後日に割り振りをやり直すことも可能です。

●写真画像の割り振り作業と、レイアウト作業をそれぞれの作業者が分業している場合などは、このオーガナイザー機能が威力を発揮します。



●画像割り振り作業の途中でも、レイアウト編集画面に切り替えることができます。

●この段階で割り振られなかった写真画像でも、レイアウト編集時に画像表示ウインドウから利用することができます。

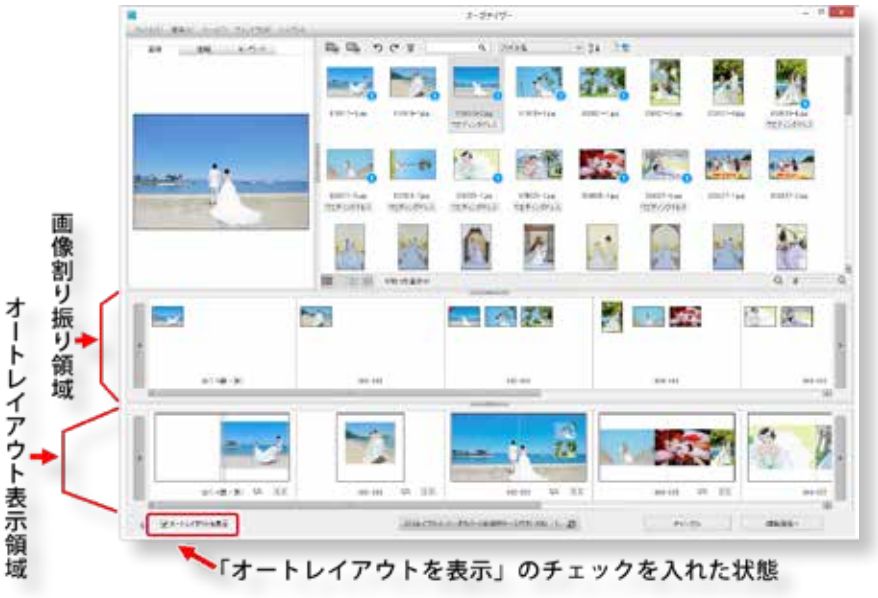
オーガナイザー機能の詳細は、12-3 ページの「12-2.　オーガナイザーの操作方法」をご参照ください。

12-1-2.　オーガナイザー&オートレイアウト画面

●オーガナイザー & オートレイアウト機能を利用する場合は、右図の「オートレイアウトを表示」チェックボックスをチェックしてください。
※初期設定は、オーガナイザー & オートレイアウト機能がチェックされています。

●中段がオーガナイザーの画像割り振り (セレクト) 領域です。

●下段がボックスに写真画像が自動配置されるオートレイアウト表示領域です。



オーガナイザー & オートレイアウトの詳細は、12-28 ページの「12-13.　オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法」をご参照ください。

ご注意

オーガナイザー & オートレイアウト機能の場合：
画像を割り振った情報は ab2 ファイルに一緒に保存されますが、オートレイアウト表示領域の情報は保存されません。
画像割り振り作業の途中でレイアウト編集画面に切り替えた場合、再度オーガナイザー画面に戻ることはできますが、その際にはオートレイアウト表示領域は表示されませんのでご注意ください。
(編集画面に移行後、メニューの「ツール / オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー & オートレイアウトの機能には戻れません。オーガナイザー機能のみとなり、オートレイアウト機能は利用できません)

12-1-3.　レイアウト編集画面

●レイアウト編集画面では、オーガナイザータブに各ページごとに割り振られた写真画像のみが表示されます。
●素材写真の数がどんなに多くても、各ページごとに使用する写真画像のみが表示されますので、多ページ編集時の作業が軽減されます。
●レイアウト方法は、いままでと同様です。ボックス機能、ページのリプレースなどの機能を利用してレイアウトを進めてください。
●レイアウト編集中でもオーガナイザー画面に切替えができますので、割り振りのやり直しなどがいつでも行えます。

オーガナイザータブの詳細は、「12-11-2.　デザインパレット／オーガナイザータブ　（レイアウト編集画面）」12-23 ページをご覧ください。

12-2.　オーガナイザーの操作方法

12-2-1.　通常の使い方

手順 1　オーガナイザーの起動

● ABM が起動直後の場合

ABM の起動時に右図のダイアログが表示されます。
この時点からオーガナイザーを使用する場合は、「オーガナイザー」ボタンをクリックしてください。

● ABM がすでに起動している場合

メニューの「ファイル／オーガナイザーを開く」をクリックしてください。

手順 2　ブック情報を設定する

「新規作成」のダイアログが表示されますので、商品名、サイズなど、これから作成するブックの情報を設定してください。

ブック情報を設定したら、「OK」をクリックします。

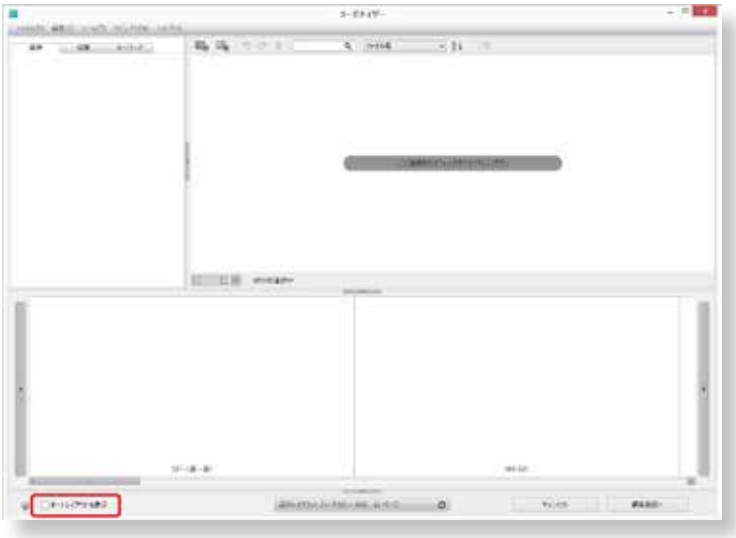
手順 3 オーガナイザー画面での設定

右図の「オートレイアウトを表示」チェックボックスのチェックをはずします。

ご注意

オーガナイザー & オートレイアウト機能を利用する場合は、チェックを入れてください。

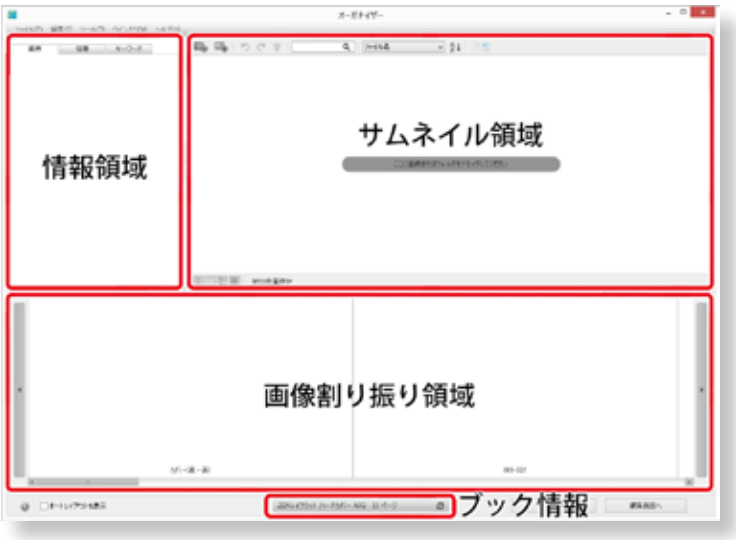
オーガナイザー & オートレイアウト機能の詳細は、「12-13.　オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法」12-28 ページをご参照ください。



手順 4 素材（写真画像）の読み込み

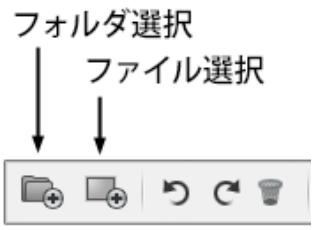
「オーガナイザー」画面が表示されます。

次に、素材となる写真画像を読み込みます。

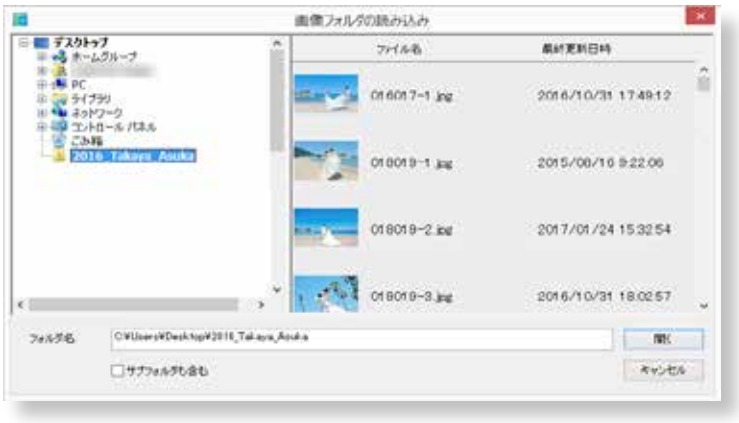


「オーガナイザー」画面の「サムネイル領域」にある「フォルダ選択」ボタンを押して、写真画像が入っているフォルダを選択します。

もしくは「ファイル選択」ボタンを押して、使用したい画像ファイルを直接選択します。



右図は、写真画像が入ってるフォルダを選択している例です。

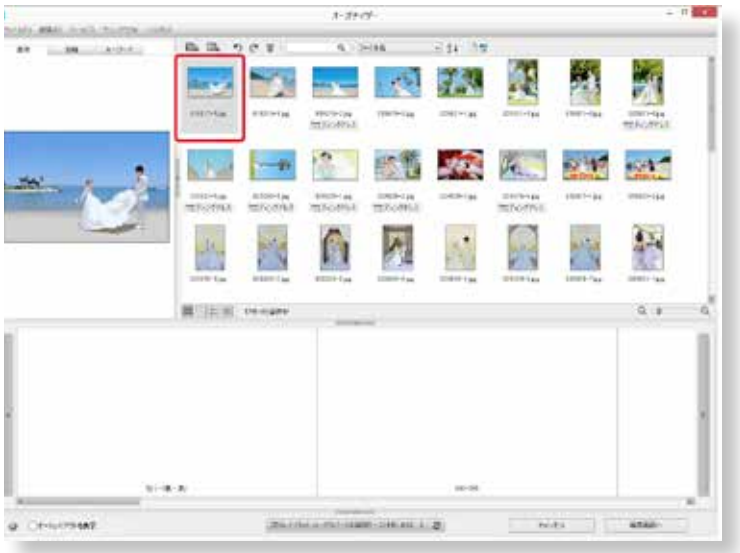


もしくは

もしくは、写真画像が入っているフォルダを、サムネイル領域にドラッグ＆ドロップしてください。

写真画像が読み込まれ、サムネイル領域に写真のサムネイルが表示されます。

サムネイルの写真をクリックして択選してください。



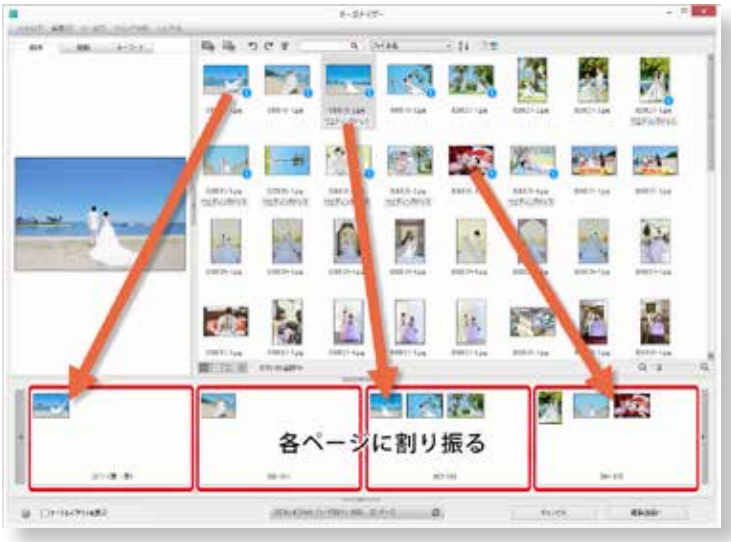
全画面表示 (オーガナイザーサムネイル領域)

サムネイル領域に表示されている画像を選択し「スペース」キーを押すと全画面表

「esc」キーもしくは「スペース」キーで元に戻ります。

手順5 各ページへの写真画像の割り振り

使用する写真画像をサムネイル領域から画像割り振り領域にドラッグ & ドロップし、割り振りを行います。



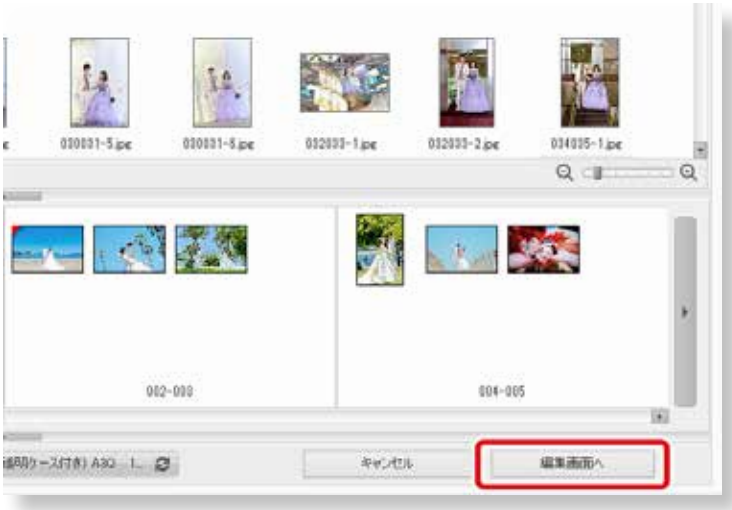
●候補となる写真画像はできるだけ割り振りしておきましょう。レイアウト編集画面で使わなくても構いません。

●すべてのページに割り振りを行わなくても、レイアウト編集画面に進むことができます。

●この割り振り情報は、ブックファイルと一緒に保存されますので、途中で割り振り作業を中断することができます。

●レイアウト編集画面とオーガナイザー画面は簡単に切替えができますので、レイアウト作業の途中で割り振りを変更したり、やり直すことがいつでも可能です。

●オーガナイザーで割り振られなかった写真画像でも、レイアウト編集時に画像表示ウインドウからドラッグ & ドロップすることで利用することができます。

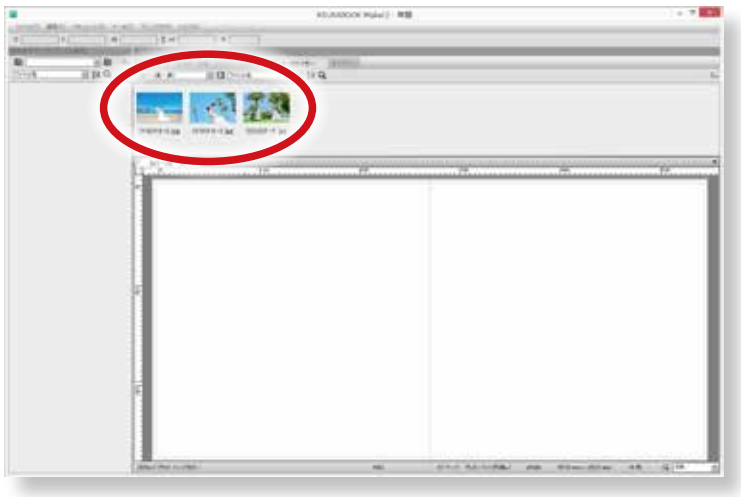


レイアウト編集画面に進む場合は、オーガナイザー画面の右下にある「編集画面へ」をクリックしてください

手順 6 レイアウト作業

オーガナイザー画面からレイアウト編集画面に進むと右図のようになります。

各ページとも、オーガナイザーで割り振った画像のみが、デザインパレットの中のオーガナイザータブの部分に表示されます。



例　題

右図の例は、表紙ページが選択されています。

表紙ページに割り振った写真画像は 3 枚でしたので、その 3 枚のみが表示されています（赤丸の部分）。

「ボックス」、「ページのリプレース」などの機能を使ってレイアウトを進めます。

右図の例では、オーガナイザーにより 3 枚の画像が割り振られていますが、実際に使用したのは 2 枚でした。

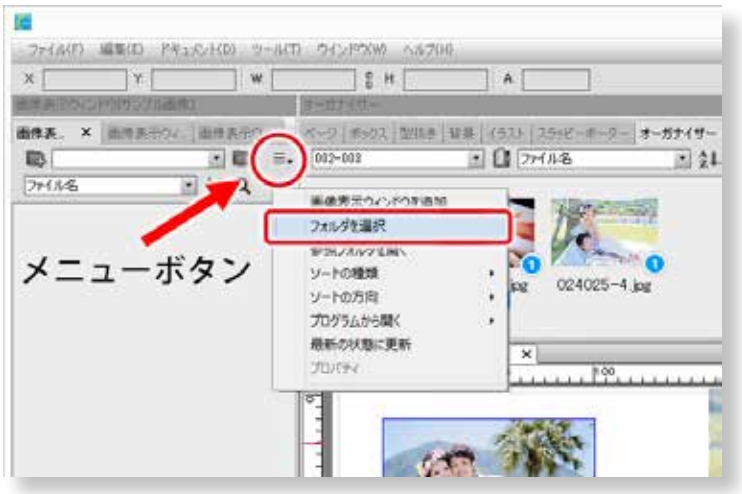
12-2-2.　オーガナイザーで割り振っていない画像を使う方法

編集の途中でオーガナイザーで割り振っていない画像を使いたくなった場合の例です。

この場合は、画像表示ウインドウに使用したい画像を読み込んでご利用ください。

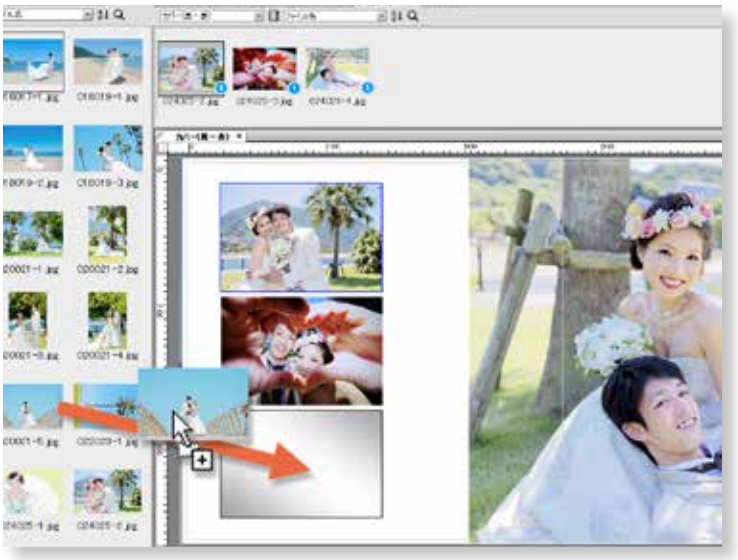
例　題

画像表示ウインドウの右上のメニューボタンをクリックしてください。
サブメニューが表示されますので、「フォルダを選択」をクリックします。



使用したい画像が入っているフォルダを選択してください。

画像表示ウインドウの中から使用したい画像を選んで編集パレットもしくは画像ボックスにドラッグ&ドロップしてください。



12-3.　オーガナイザーの画面構成

オーガナイザー画面の各機能について 解説します。

「オーガナイザー」の画面は 5 つの領域から成り立っています。全ての機能は、このオーガナイザー画面内に集約されています。

詳細は下表をご覧ください。

情報領域	サムネイル画像、画像情報、キーワードが表示されます
サムネイル領域	割り振りを行う画像ファイルをこの領域に入れると、画像のサムネイルが表示されます。並び替え、フィルタ（絞り込み）などの機能があります。
画像割り振り領域	各ページへ割り振る画像ファイルは、この領域にドロップします。 画像割り振り領域には、予め設定したブック情報に従い、表紙、ケース、開始・終了ページ、見開きページなどの必要なページが全て自動で用意されています。
「オプション」ボタン	「編集画面」でのキャプション (見出し) の表示方法や連番、フォント、枠色、背景色等の設定を行うことが出来ます。
「オートレイアウト」を表示	割り当てた画像を自動でページに配置する「オートレイアウト」機能を表示します。
ブック情報	制作する ASUKABOOK の商品名、サイズ、などが表示されています。 また、ブックタイプの変更を行うこともできます。
「キャンセル」ボタン	オーガナイザーをキャンセルして編集画面に戻ります。
「編集画面へ」ボタン	このボタンをクリックすると、レイアウト編集画面に進みます。

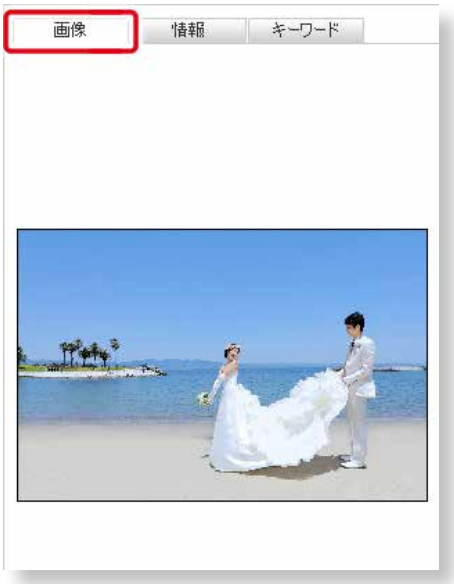
12-4.　オーガナイザー ／ 情報領域

◆情報領域

情報領域の「情報切換」タブは「画像」タブ、「情報」タブ、「キーワード」タブの 3 つを切り替えて表示することができます。各タブの説明は下記のとおりです。

12-4-1.　「画像」タブ

「画像」タブは、「サムネイル領域」に表示されている画像を選択すると、その画像ファイルのプレビュー画像を表示ます。



12-4-2.　「情報」タブ

情報タブには、ファイル名、Pixel 数、ファイル容量、撮影日、プロファイルが表示されます。

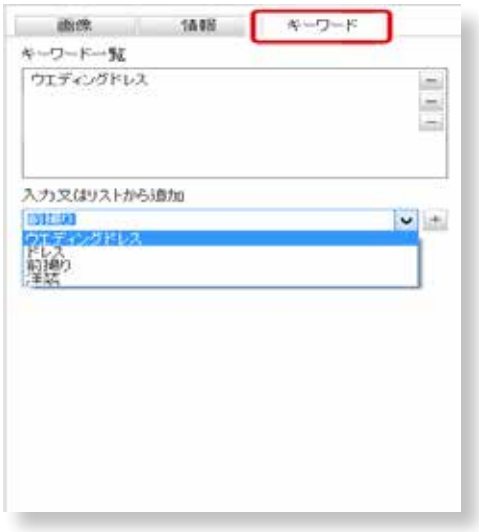
12-4-3.　「キーワード」タブ

キーワードの書き込み（埋め込み）や削除が行えます。
すでにキーワードが埋め込まれているファイルであれば、キーワードが表示されます。

キーワードの入力、編集につきましては、本書の 12-11 ページの「12-4-5.　キーワードの入力手順」をご覧ください。

12-4-4.　他のファイルのキーワードを利用する

右図の赤丸の部分をクリックすると、サムネイル領域内のファイルで使用されているキーワードが全て表示されます。
この中に利用できるキーワードがあれば、クリックするだけで上のキーワード一覧に入力、もしくは追加されます。



12-4-5.　キーワードの入力手順

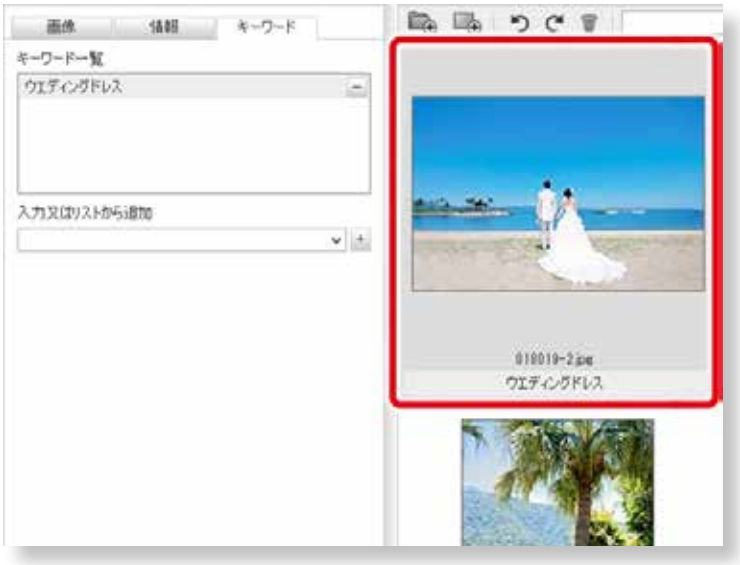
◆注意事項

① キーワードの埋め込み（保存）ができるファイル形式は、「Exif 情報」をサポートしているもののみです。
よって、ABM でキーワード埋め込みができるファイル形式は、JPEG 形式になります。
PNG 形式は「Exif 情報」をサポートしていませんので、キーワード埋め込みはできません。

② キーワードの埋め込み・削除などの編集は、ABM では一度に 1 ファイルのみにしか行えません。
多くのファイルに対してまとめてキーワード編集を行う場合は、Adobe® Bridge® をご利用ください。

手順 1　キーワードを埋め込みたいファイルのサムネイルをクリック

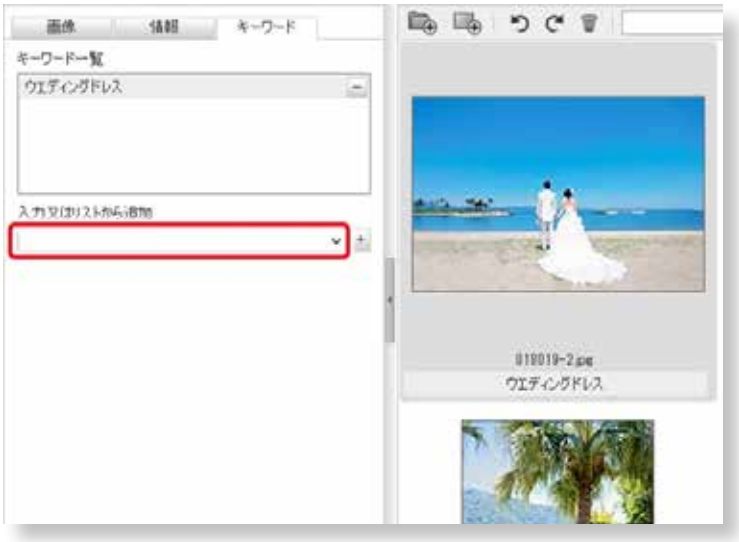
情報領域にそのファイルが表示されます。



手順 2　「入力又はリストから追加」のテキストボックスをクリックしてください

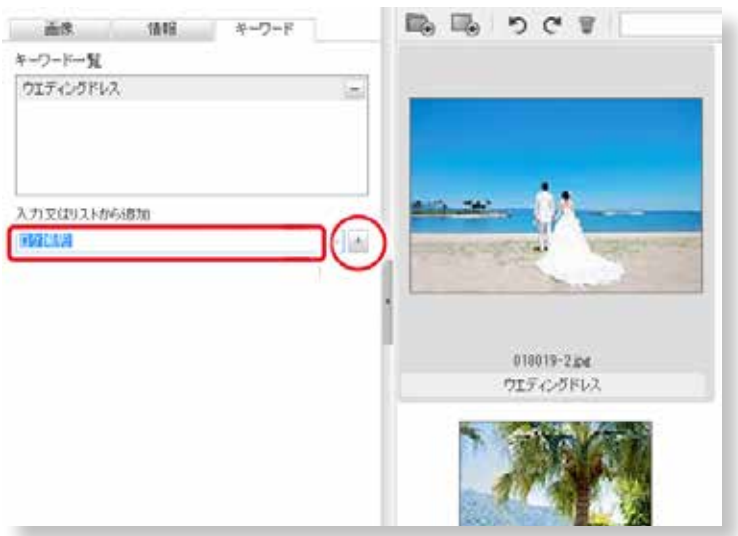
文字入力用のカーソルが入力欄の中に入ります。

（右図赤枠部分）

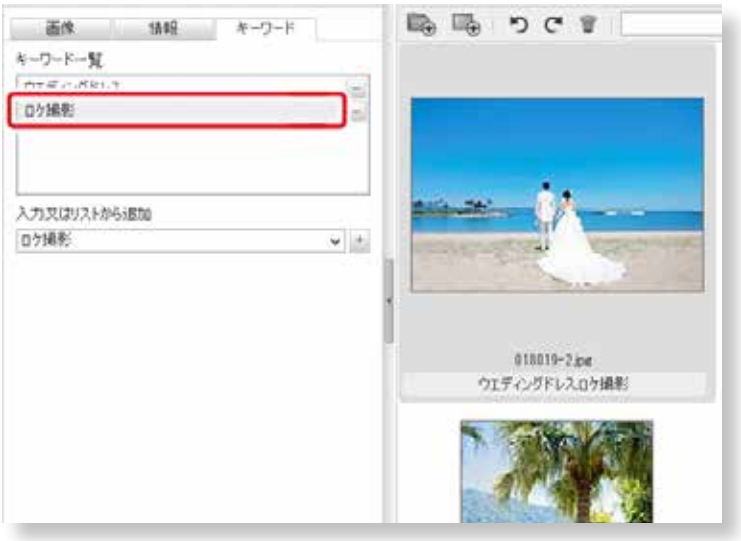


手順 3　「＋」ボタンをクリック

キーワードを入力し、「＋」ボタン（右図赤丸部分）をクリックします。



キーワードが、キーワード一覧とサムネイル領域に表示されるようになります。

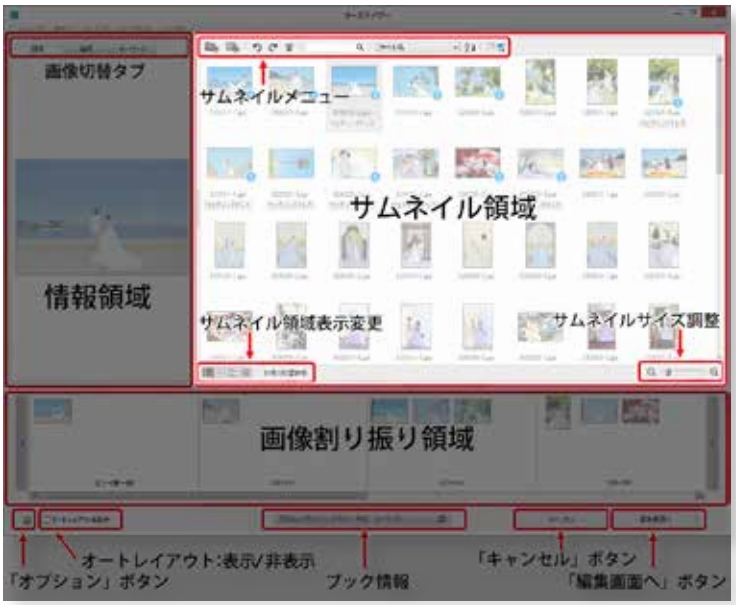


12-5.　オーガナイザー　／　サムネイル領域

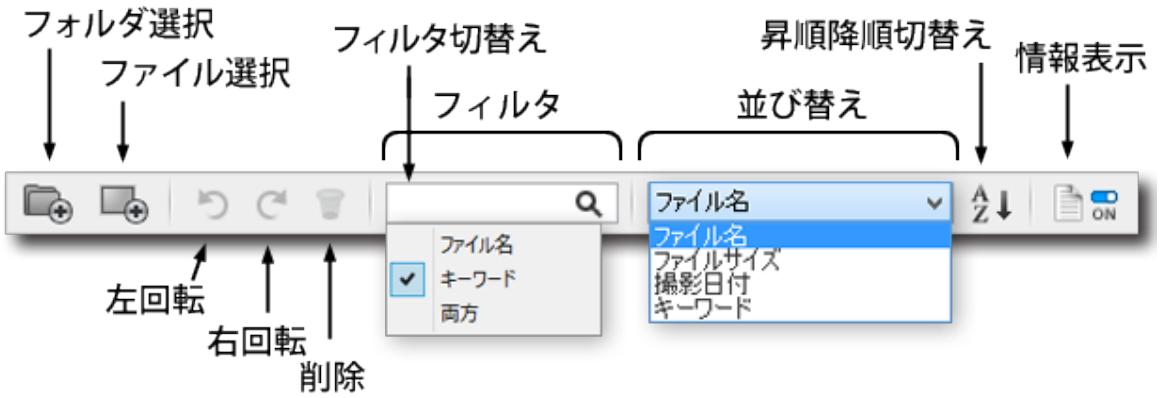
◆サムネイル領域

割り振りを行う画像ファイルをこの領域に入れると、画像のサムネイルが表示されます。

サムネイル領域は、並び替え、フォルダ別表示、キーワード別表示、サムネイルサイズ調整、などの機能があります。



12-5-1.　サムネイルメニュー



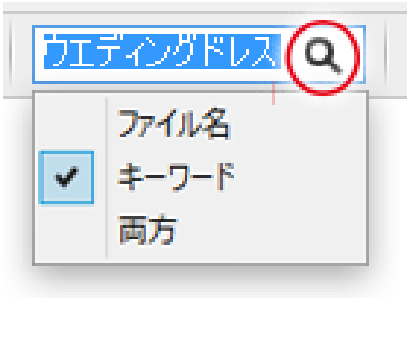
	フォルダ選択	素材（画像ファイル）が入ったフォルダを、サムネイル領域に読み込むためのボタンです。
	ファイル選択	素材（画像ファイル）を単体でサムネイル領域に読み込むためのボタンです。
	左回転	選んだサムネイルが 90 度左回転します
	右回転	選んだサムネイルが 90 度右回転します。
	削除	サムネイル領域に表示されている画像ファイルを削除します。 元ファイルは削除されません。

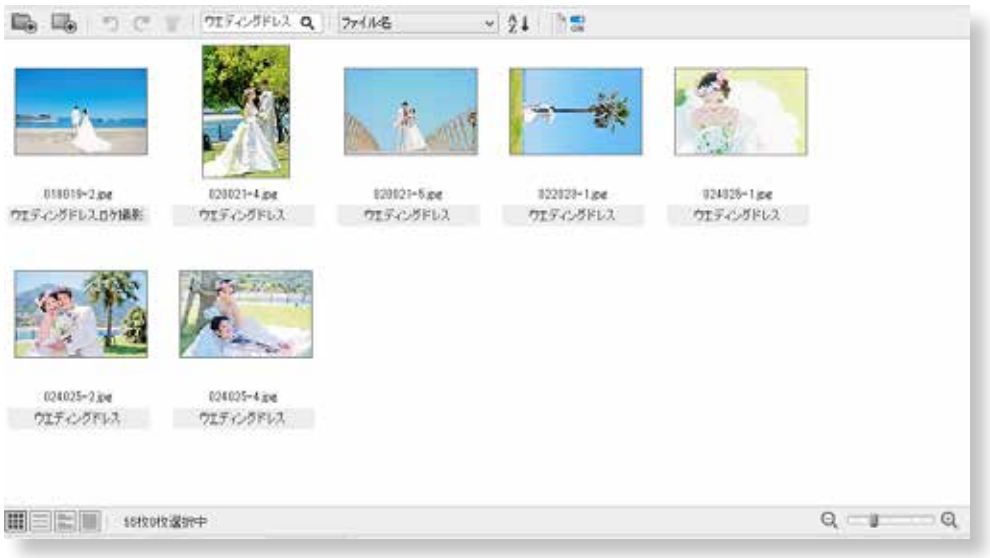
① フィルタ

サムネイル領域に表示されている数多くのファイルは、フィルタ欄にファイル名か、キーワードを入れることにより、表示を絞り込むことができます。

例　題

例えば、「フィルタ」欄の「虫眼鏡ボタン」を押して「キーワード」を選択します。「フィルタ」欄に「ウエディングドレス」と入力すると、「ウエディングドレス」という語句を含むキーワードのファイルのみが表示されます。



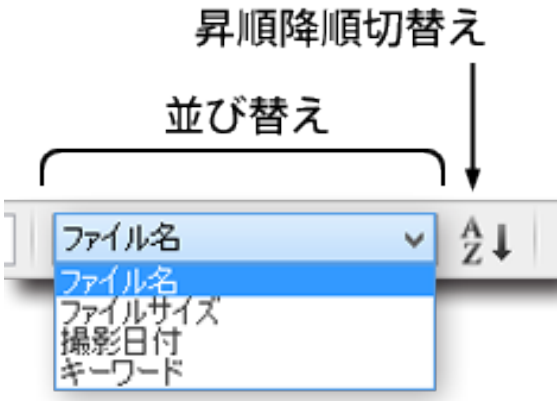


② 並び替え

サムネイル領域に表示されているファイルの並び順を変更します。

●並び順で指定できる条件は、ファイル名、ファイルサイズ、撮影日付、キーワード、の 4 種類です。

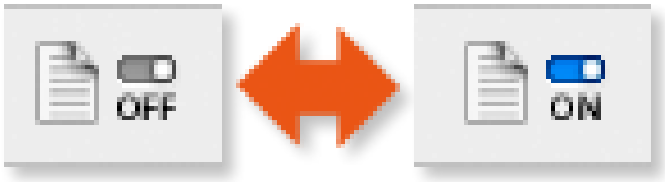
●それぞれに「昇順」「降順」の切り替えができます。



③ 情報表示

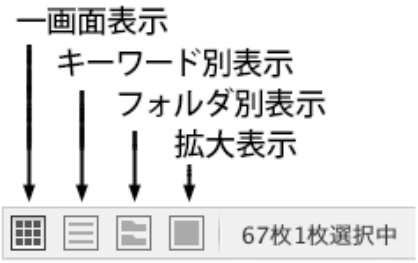
サムネイル領域に表示されているファイル名、キーワードなどの情報の「ON」（表示）・「OFF」（非表示）の切り替えを行います。

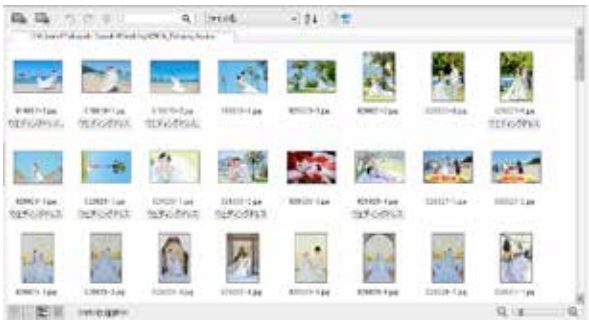
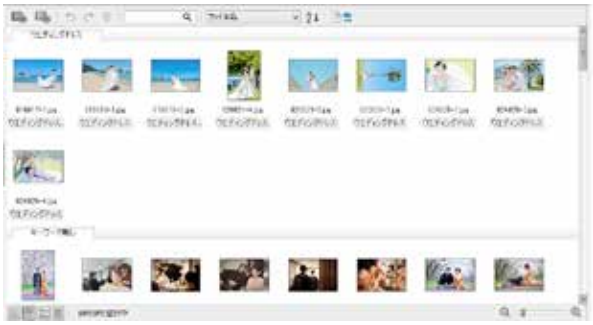
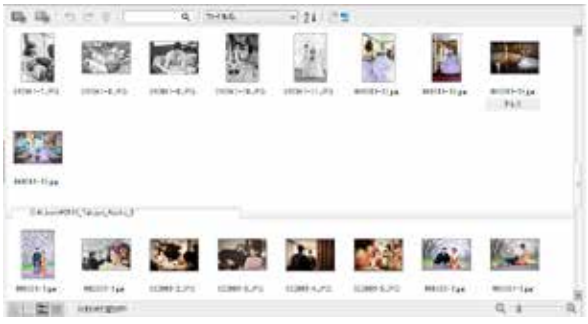
初期設定では、「ON」（表示）になっています。



12-5-2.　サムネイル領域表示変更

サムネイル領域に表示されているファイルの表示方式を変更します。

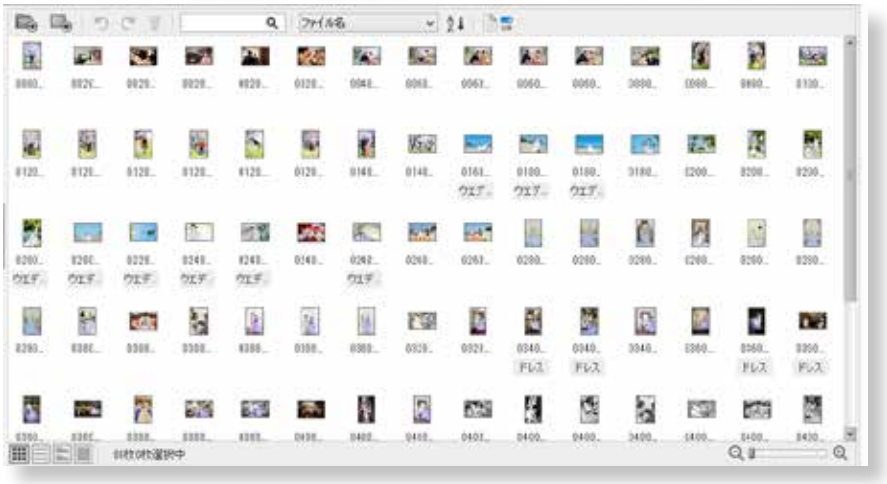


アイコン	表　示	内　容
	一画面表示	サムネイル領域にある全てのファイルを表示します。（初期設定） 
	キーワード別表示	サムネイル領域にある全てのファイルを、キーワードごとに分けて表示します。キーワードが無いファイルは、「キーワード無し」として分類されます。 
	フォルダ別表示	サムネイル領域にある全てのファイルを、元ファイルのフォルダごとに分けて表示します。 
	拡大表示	選んだサムネイルのみを拡大表示します。

12-5-3.　サムネイルサイズの調整

「サムネイル領域」の右下にあるスライダーを動かすことにより、サムネイルの大きさを調整することができます。

スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。



スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。

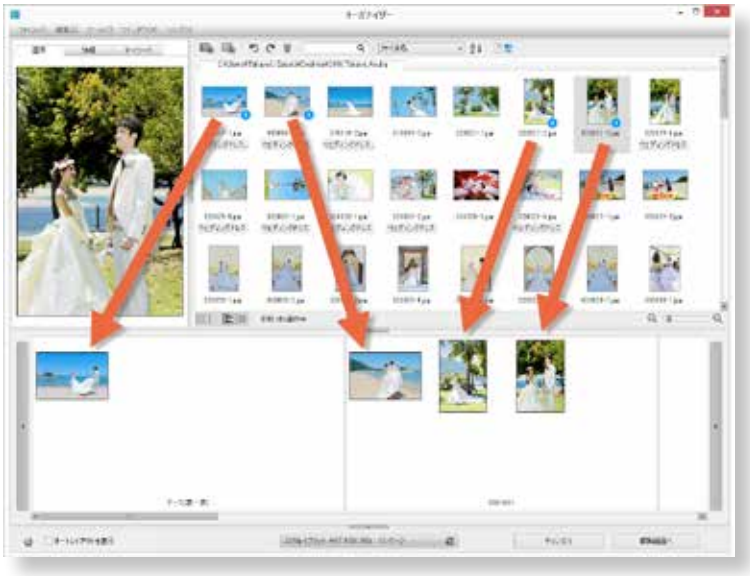
12-6.　オーガナイザー　／　画像割り振り領域

◆画像割り振り領域

各ページへ割り振る画像ファイルは、この領域にドロップします。
「画像割り振り領域」には、予め設定したブック情報に従い、表紙、ケース、開始・終了ページ、見開きページなどの必要なページが全て自動で用意されています。

12-6-1.　レイアウト候補をドラッグ&ドロップ

サムネイル領域から、レイアウトの候補となるファイルを画像割り振り領域の各ページにドラッグ&ドロップして割り振りを行います。



●この情報は ab2 ファイルに一緒に保存されますので、編集作業を中断したり、後日に割り振りをやり直すことも可能です。

●割り振り（セレクト）作業と、レイアウト作業をそれぞれの作業者が分業している場合などは、このオーガナイザー機能が威力を発揮します。

●割り振り作業の途中でも、レイアウト編集画面に切り替えることができます。

●この段階で割り振られなかった写真画像でも、レイアウト編集時に画像表示ウインドウから利用することができます。

ドロップされたファイルは、画像割り振り領域にレイアウト候補として表示されます。

12-6-2.　レイアウト確認ボタン

すでにレイアウト編集画面でレイアウトされている場合は、「レイアウト確認」ボタンが表示されます。マウスのカーソルを置くだけでレイアウトを確認することができます。

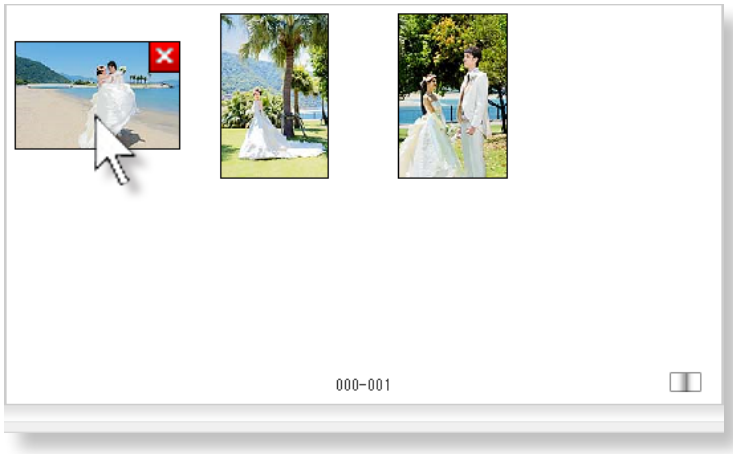
（クリックする必要はありません）

ご注意

レイアウト編集をしていない場合、もしくは、「オーガナイザー＆オートレイアウト」で「オートレイアウト」機能を使用している場合は「レイアウト確認」ボタンは表示されません。

12-6-3.　レイアウト候補の削除

マウスカーソルをレイアウト候補の画像の上に重ねると、候補画像に「×印」が表示されます。この時にクリックすると、レイアウト候補が削除されます。



ご注意

この機能は取り消しが効きません。

再び候補を復活させたい場合は、サムネイル領域から同じファイルをドロップしてください。

12-6-4.　レイアウト候補の移動

各ページに割り振られたレイアウト候補は、他のページに移動させることができます。

移動させたいレイアウト候補をマウスでドラッグし・・・

移動先のページでドロップします。

12-7.　オーガナイザー　／　「オプション」ボタン

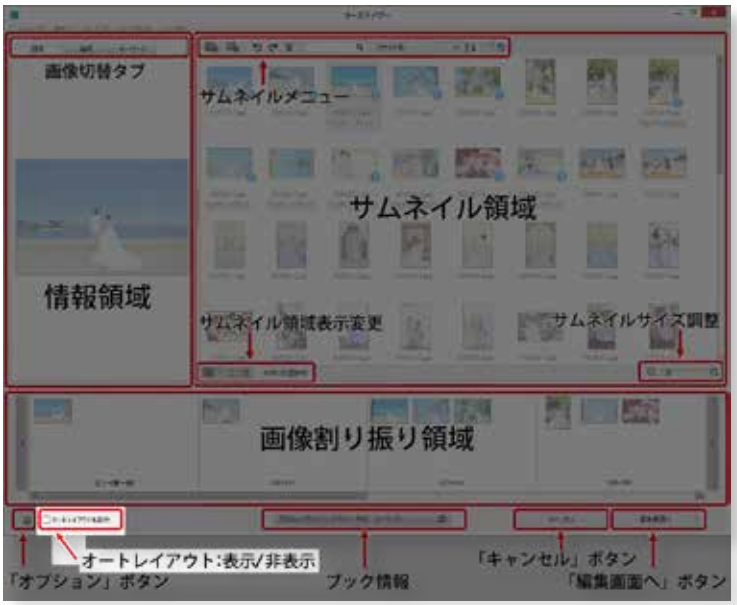
「オプション」ボタンをクリックするとオプションパネルが開き、「編集画面」でのキャプション (見出し) の表示方法や連番、フォント、枠色、背景色等の設定を行うことが出来ます。

詳しは、「26-8-3.　設定オプション」26-26 ページをご参照ください。

12-8.　オーガナイザー　／　オートレイアウト　表示 / 非表示

チェックボックスにチェックを入れるとオートレイアウト機能が利用できるようになります。

「オートレイアウト」機能に関しましては、12-28 ページの「12-13.　オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法」をご参照ください。



12-9.　オーガナイザー　／　ブック情報

制作する ASUKABOOK の商品名、サイズ、などが表示されています。

12-9-1.　ブック情報

オーガナイザー画面の下方には、ASUKABOOK の商品名、サイズ、ページ数が表示されます。

12-9-2.　ブックタイプの変更

ブック情報の右端のボタン（右図赤丸印）をクリックすると、ブックタイプの変更が行えます。
ブックタイプの変更については、メインメニューの「ツール」／「ブックタイプの変更」からでも可能です。

詳しくは、本書の「24.　ブックタイプの変更」24-1 ページをご覧ください。

12-10.　オーガナイザー　／　「キャンセル」ボタン

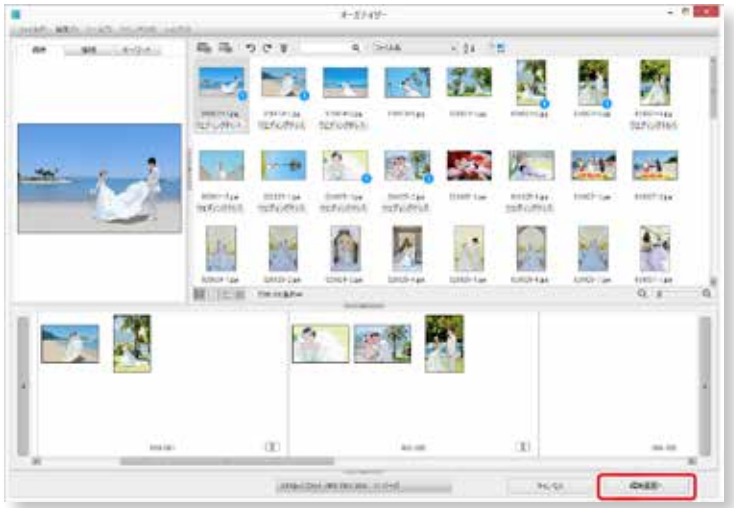
「キャンセル」ボタンをクリックするとオーガナイザーを中止して編集画面に移行します。

12-11.　オーガナイザー／「編集画面へ」ボタン（レイアウト編集画面へ進む）

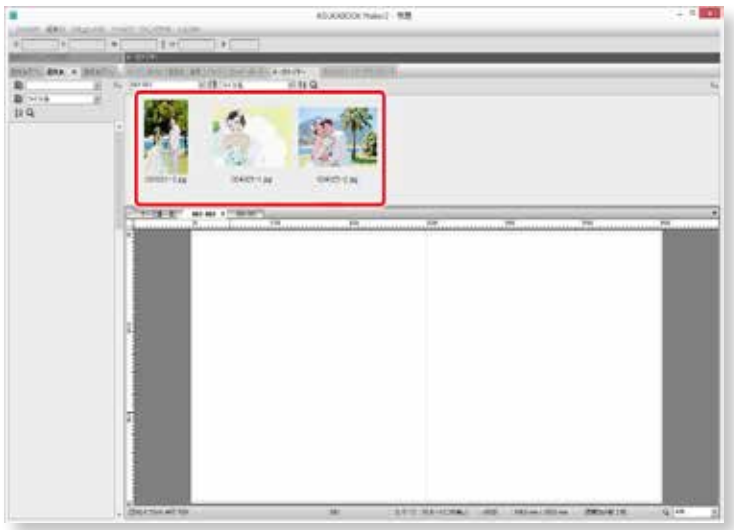
「編集画面へ」ボタンをクリックすると、レイアウト編集画面に進みます。

12-11-1.　「編集画面へ」ボタン

「編集画面へ」ボタン（右図・右下の赤丸印）をクリックすると、オーガナイザー画面から、レイアウト編集画面に進みます。



オーガナイザー画面から、レイアウト編集画面に進むと右図のように、デザインパレットの中のオーガナイザータブが前面に表示されます。



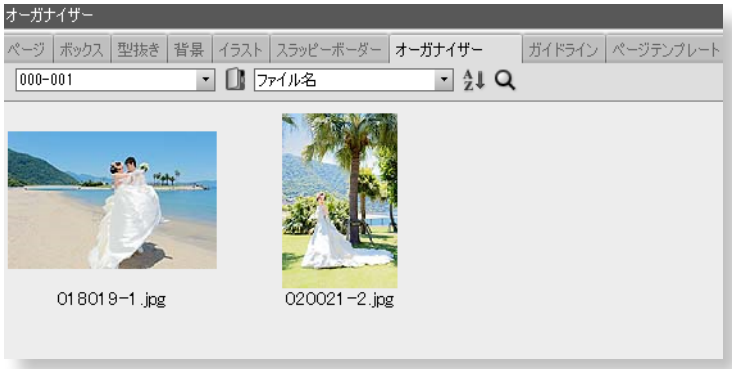
12-11-2.　デザインパレット／オーガナイザータブ　（レイアウト編集画面）

オーガナイザータブのメニュー

① ページ

オーガナイザータブの「ページ」欄をクリックすると、制作中のブックの各ページリストが表示されます。リストから編集を行いたいページを選択します。

選択したページが表示され、オーガナイザータブには、予め割り振りされた画像のみが表示されます。



② オーガナイザー画面へ

このボタンをクリックすると、レイアウト編集画面から、オーガナイザー画面に切り替えることができます。

③ 並び替え

オーガナイザータブ内での画像の並び順を変更することができます。

選択できる並び順は「ファイル名」、「ファイルサイズ」、「撮影日」です。

初期設定は「ファイル名」です。

「昇順降順切替え」ボタンにより、それぞれに「昇順」「降順」の切り替えができます。

④ サムネイルサイズの調整

オーガナイザータブ内のサムネイルの大きさを調整することができます。

虫眼鏡（下図赤丸）をクリックするとスライダーが表示されます。

スライダー（下図赤丸）を左に振ると小さくなり、右に振ると、サムネイルが大きくなります。

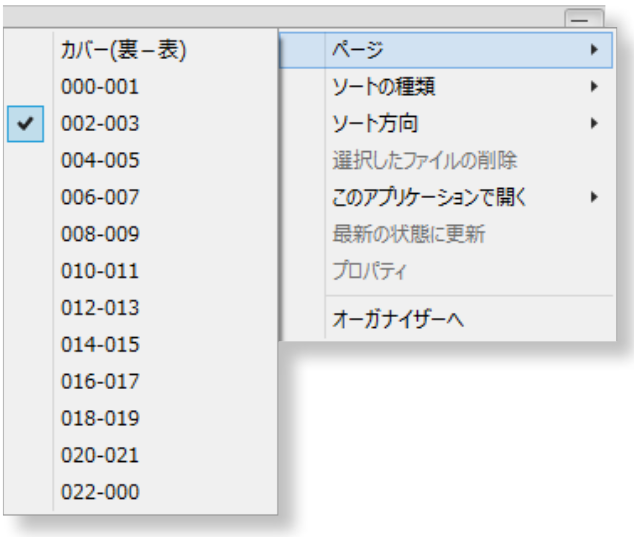
12-12.　オーガナイザータブ

デザインパレット内の「オーガナイザータブ」について、ご説明します。

12-12-1.　ページ

オーガナイザータブの右上にあるメニューボタンをクリックするとメニューが表示されます。さらに「ページ」をクリックすると、制作中のブックのページリストが表示されます。

リストから編集を行いたいページを選択し、クリックするとそのページが表示されます。

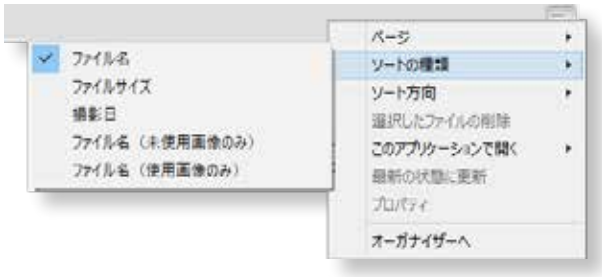


12-12-2.　ソートの種類

オーガナイザータブ内での画像のソート（並び替え）を変更することができます。

選択できる並び順は「ファイル名」、「ファイルサイズ」、「撮影日」、「ファイル名 (未使用画像のみ)」、「ファイル名 (使用画像のみ)」です。

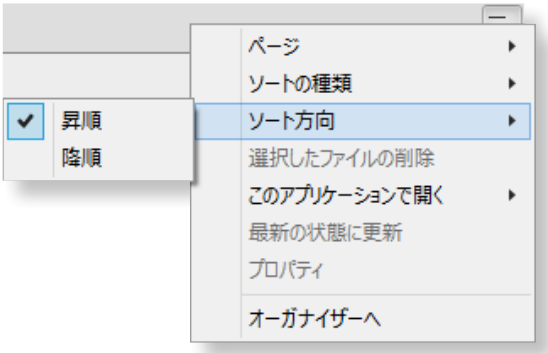
初期設定は「ファイル名」です。



12-12-3.　ソートの方向

ソートの方向（並び順）を、「昇順」、「降順」のどちらかに切り替えます。

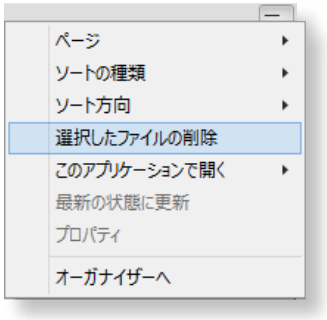
初期設定は「昇順」です。



12-12-4.　選択したファイルの削除

オーガナイザータブ内のサムネイルで選択した画像を割り振りから外します。

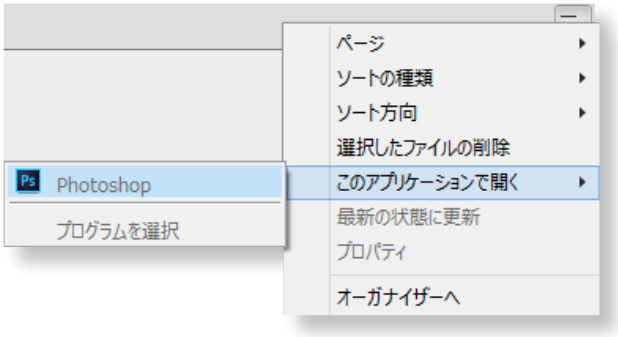
元画像ファイルは削除されません。



12-12-5.　このアプリケーションで開く

オーガナイザータブ内のサムネイルで画像を選択します。「このアプリケーションで開く」→「プログラムを選択」で画像を編集するソフトウェアを選択します。

以降画像を編集する際に選択したソフトウェアをこのメニューから起動できるようになります。



ご注意

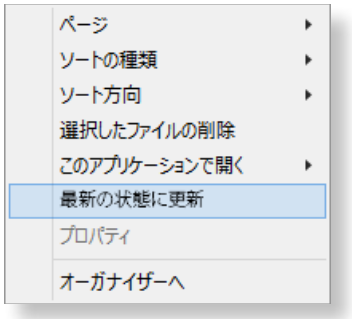
保存形式が「リンク形式」の場合のみ機能します。

12-12-6.　最新の状態に更新

オーガナイザーで設定した情報をもう一度読み込み、最新の状態に更新します。

ご注意

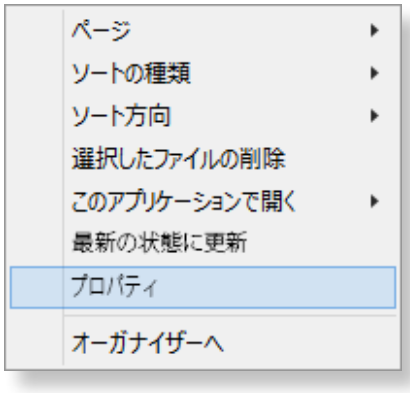
保存形式が「リンク形式」の場合のみ機能します。



12-12-7.　プロパティ

オーガナイザータブで選んだサムネイルのファイル情報を表示します。

画像のファイル形式、保存場所、容量などを調べることができます。

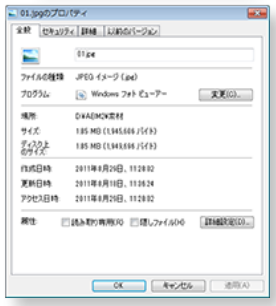


ご注意

保存形式が「リンク形式」の場合のみ機能します。

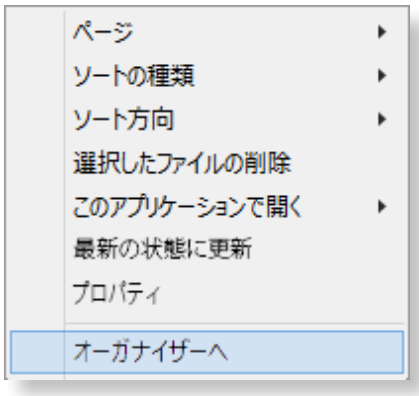
MacOSの場合

Windowsの場合



12-12-8.　オーガナイザーへ

オーガナイザータブから、オーガナイザー編集画面に戻ります。　各ページへの画像の割り振りを変更したい場合などに使います。



アドバイス！

オーガナイザータブのボタン（右図赤丸）をクリックしても、レイアウト編集画面からオーガナイザー画面に切り替えることができます。

ご注意

メニューの「オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー＆オートレイアウトの機能には戻れません。オーガナイザー機能のみとなります。

12-13.　オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法

ここでは、オーガナイザー & オートレイアウト機能におけるオートレイアウト画面についてご説明いたします。オーガナイザー画面につきましては、12-3 ページの「12-2.　オーガナイザーの操作方法」をご参照ください。また、26-1 ページの「26.　オートレイアウト」の機能とは一部異なりますのでご注意ください。

※オーガナイザー & オートレイアウト機能から一度、編集画面に移行しますと、オーガナイザー機能のみとなり、オートレイアウト機能は利用でき巻くなりますのでご了承ください。オーガナイザー & オートレイアウト機能をご利用の場合は、

12-30 ページの「※オーガナイザー & オートレイアウト機能時の保存と注意点：」及び

12-34 ページの「オーガナイザー & オートレイアウト機能の注意点」をご参照ください。

手順 1　オーガナイザーの起動

● ABM が起動直後の場合

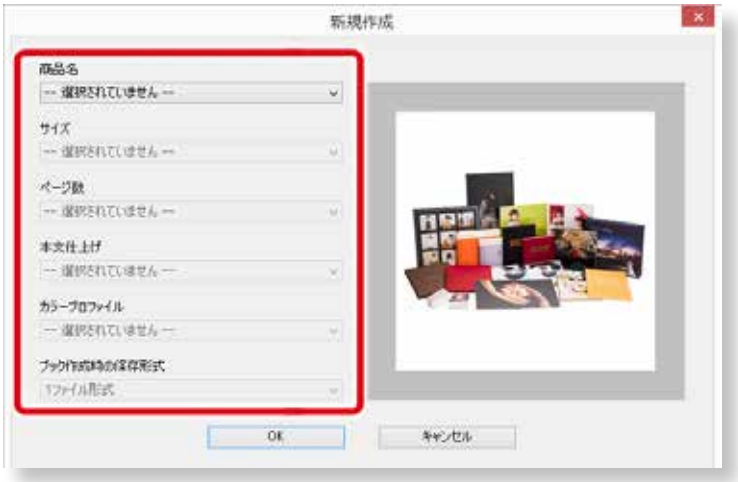
ABM の起動時に右図のダイアログが表示されます。
この時点からオーガナイザーを使用する場合は、「オーガナイザー」ボタンをクリックしてください。

● ABM がすでに起動している場合

メニューの「ファイル／オーガナイザーを開く」をクリックしてください。

手順 2　ブック情報を設定する

「新規作成」のダイアログが表示されますので、商品名、サイズなど、これから作成するブックの情報を設定してください。

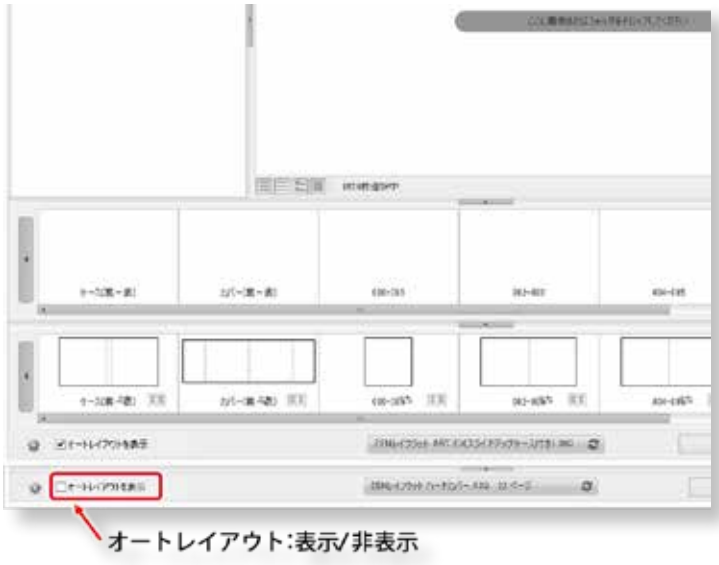


ブック情報を設定したら、「OK」をクリックします。

手順3　オーガナイザー & オートレイアウト画面表示

「オートレイアウトを表示」のチェックボックスにチェックを入れてください。

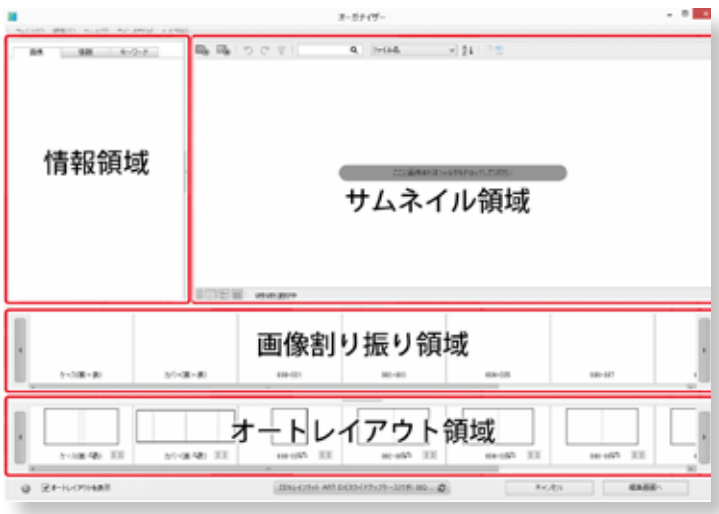
※初期設定は、チェックが入っています。



手順4　素材（写真画像）の読み込み

「サムネイル領域」に写真画像を読み込みます。

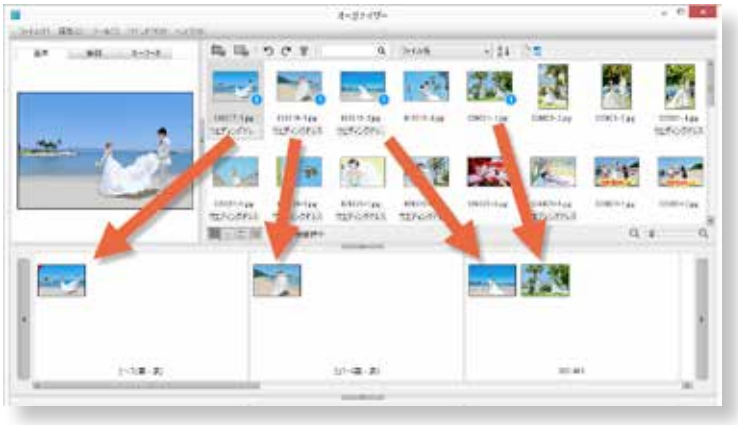
詳細は、12-4 ページの「素材（写真画像）の読み込み」をご参照ください。



手順 5　各ページへの写真画像の割り振り

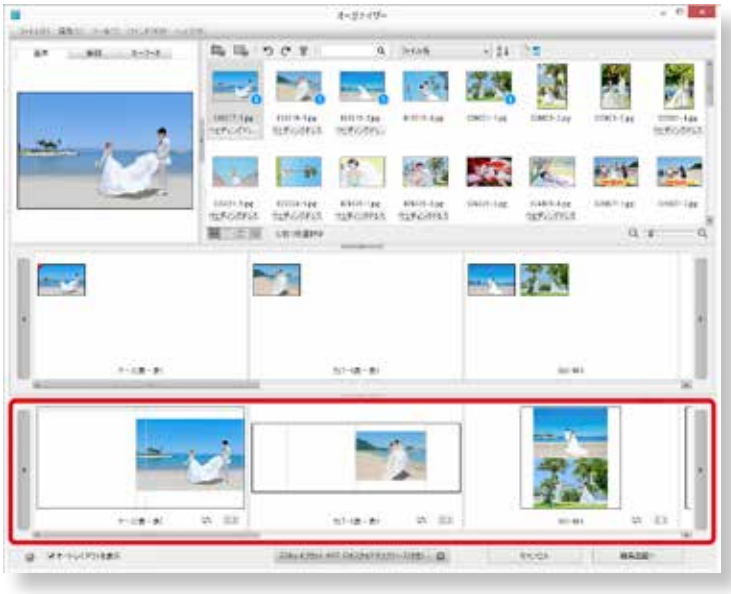
「画像割り振り領域」に使用したい写真画像をドラッグします。

詳細は、12-3 ページの「12-2.　オーガナイザーの操作方法」をご参照ください。



手順 6　オートレイアウト領域への自動配置

「画像割り振り領域」に写真画像をドラッグすると、自動で「オートレイアウト領域」に写真画像が配置されます。



※オーガナイザー & オートレイアウト機能時の保存と注意点：
編集画面に移行する前の右画面の状態で「ファイル」メニューから「ブックファイルを名前を付けて保存」すれば、その保存ファイルを開くと右画面の状態から作業を継続できます。

一度、編集画面に移行しますと、メニューの「ツール / オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー機能のみとなり、オートレイアウトの機能は利用できなくなりますのでご了承ください。

12-13-1.　オートレイアウト領域

12-13-2.　オプションボタン

「オプション」ボタンをクリックするとオプションパネルが開き、「編集画面」でのキャプション (見出し) の表示方法や連番、フォント、枠色、背景色等の設定を行うことが出来ます。

詳しくは、「26-8-3.　設定オプション」26-26 ページをご参照ください。

12-13-3.　見開きページの並び替え

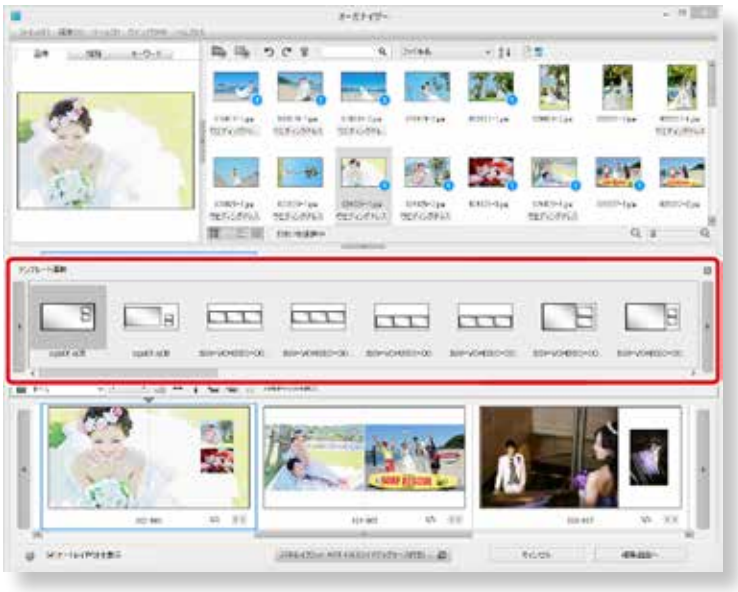
「並び替え」ボタンをクリックすると、見開きページ内での写真画像の並び替えを行うことができます。

12-13-4.　レイアウト変更ボタン

「レイアウト変更」ボタンをクリックします。

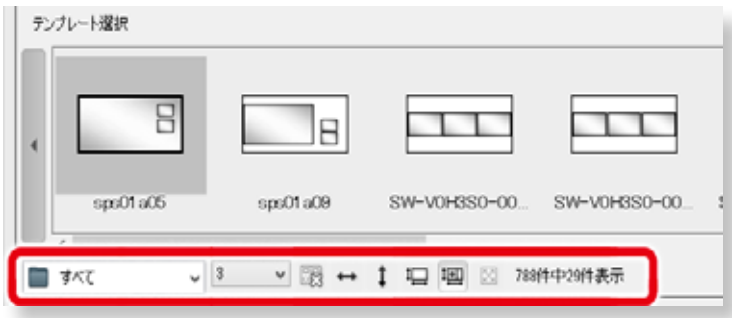
手順 1　ボックステンプレート画面

ボックステンプレート画面が表示され、任意のボックスを選択して利用することが出来ます。



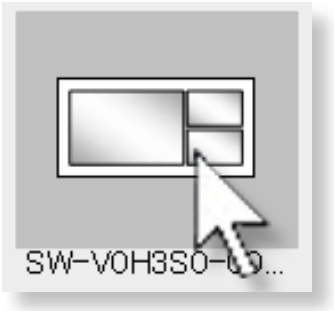
右のボックステンプレートメニューの各種機能により、ボックスの反転やボックスの絞り込みを行うことが出来ます。

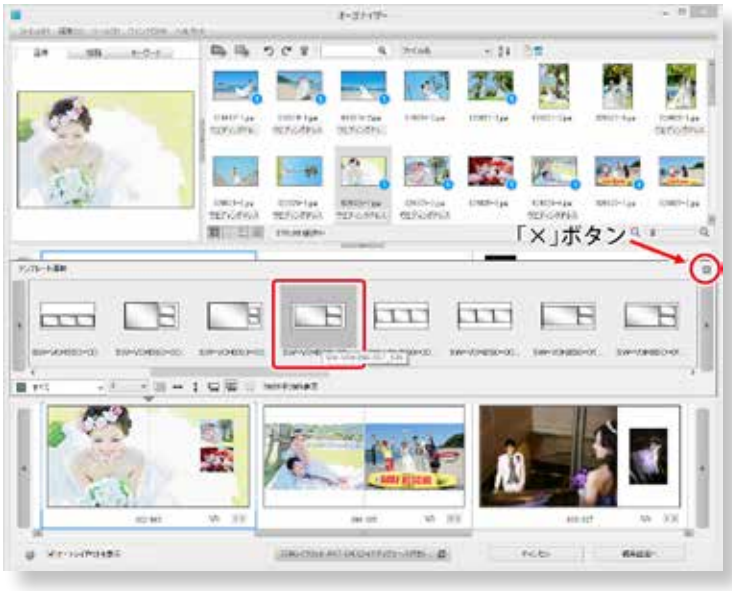
ボックステンプレートメニューの詳細は、12-35 ページの「12-13-5.　ボックステンプレートメニュー」をご参照ください。



手順2　ボックスの選択

利用したいボックステンプレート上にカーソルを置くだけでそのボックスがオートレイアウト領域に表示されます。元に戻したい場合は、「×」ボタンをクリックしてください。





手順3　ボックスの確定

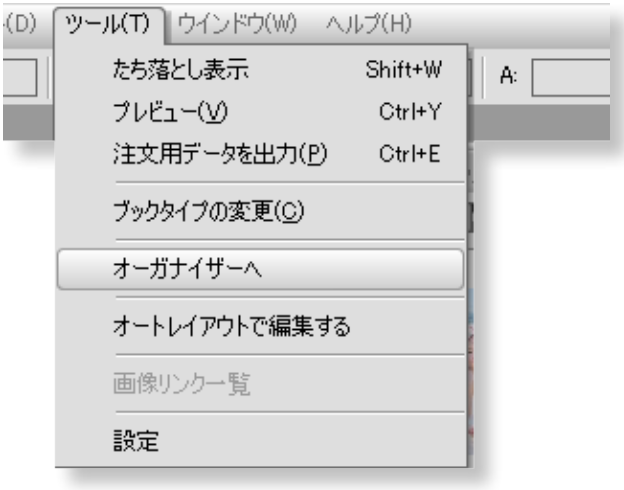
ボックステンプレートをクリックするとそのボックスが適用されます。

手順4　編集画面へ

レイアウトが終了したら「編集画面へ」ボタンをクリックして通常編集画面に移動します。

手順 5　オーガナイザー画面に戻る場合

編集画面からオーガナイザー画面に移動することも可能です。その場合は、下記のとおりメニューから「オーガナイザーへ」もしくは、オーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」アイコンをクリックしてください。



ご注意

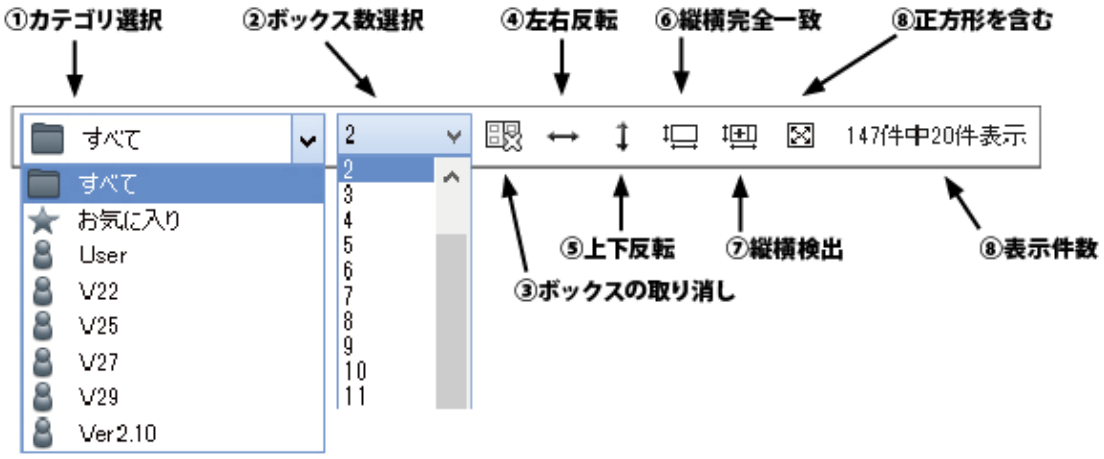
オーガナイザー & オートレイアウト機能の注意点

画像を割り振った情報は ab2 ファイルに一緒に保存されますが、オートレイアウト表示領域の情報は保存されません。

画像割り振り作業の途中でレイアウト編集画面に切り替えた場合、再度オーガナイザー画面に戻ることはできますが、その際にはオートレイアウト表示領域は表示されませんのでご注意ください。

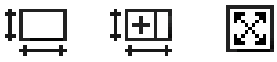
(編集画面に移行後、メニューの「ツール / オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー & オートレイアウトの機能には戻れません。オーガナイザー機能のみとなり、オートレイアウト機能は利用できません)

12-13-5.　ボックステンプレートメニュー



	①カテゴリ選択	カテゴリを選択するとカテゴリ別に登録されているボックスのみを表示します。
	②ボックス数選択	ボックスの数を指定してテンプレートボックスを表示します。
	③ボックスの取り消し	選択したボックスの取り消しを行います。元のボックスに戻すことは出来ません。
	④左右反転	ボックスが左右に反転します。
	⑤上下反転	ボックスが上下に反転します。
	⑥縦横完全一致	画像の縦横比を検出して一致するボックスを表示します。正方形の画像が選択されていると正方形のボックスも表示します。
	⑦縦横検出	画像の縦横比を検出し、「縦」と「横」のサイスに合致した正方形も含めたボックスを表示します。
	⑧正方形を含める	画像数に一致する正方形も含めたすべてのボックスを表示します。

ボックス縦横比連動の詳細は、7-4 ページの「7-3.　画像数連動」以降を一部ご参考ください。尚、一部機能が異なっておりますのでご了承ください。

	3 つのアイコンのチェックをはずすと「正方形」を除いた「縦」と「横」のサイズに合致したボックスのみので表示します。

12-13-6.　オーガナイザーでテンプレートを利用する

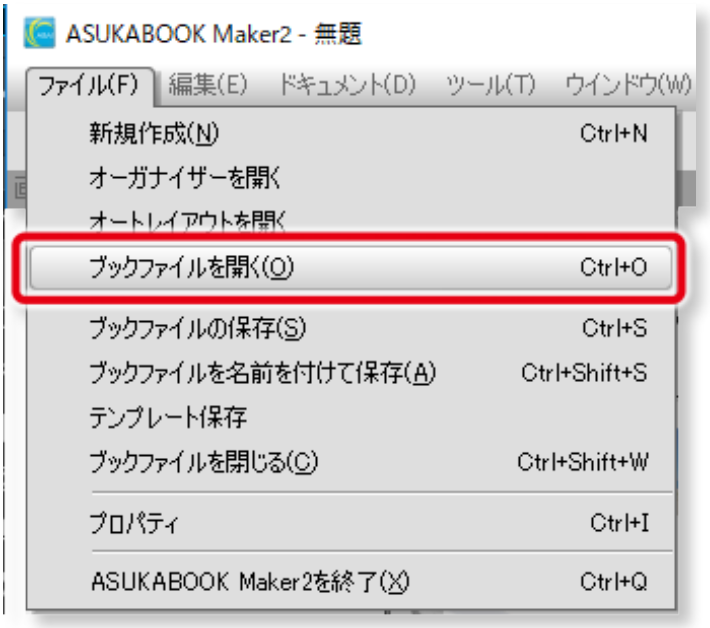
テンプレートを読み込み、画像をページごとに割り付けるオーガナイザー機能とボックスに画像を自動配置することにより、簡単に手早くレイアウトを仕上げる事ができます。各ページへの写真の割り付けが一度でできますので効率よくレイアウトが完了します。

※テンプレートをオーガナイザーで利用する場合、一度、編集画面に移行しますとオーガナイザーの機能は利用できますが、テンプレートに自動配置する機能は利用できなくなりますのでご了承ください。

詳細は、12-40 ページの「※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点」をご一読ください。

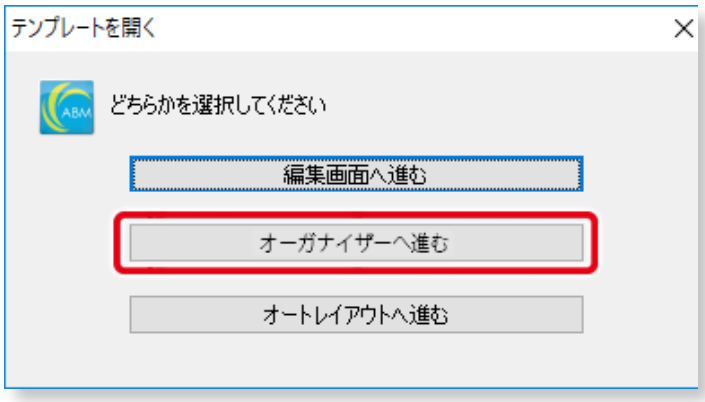
手順 1　テンプレートを開く

ファイルメニューより「ブックファイルを開く」を使って、拡張子が「.ab2template」となっているテンプレートファイルを開きます。

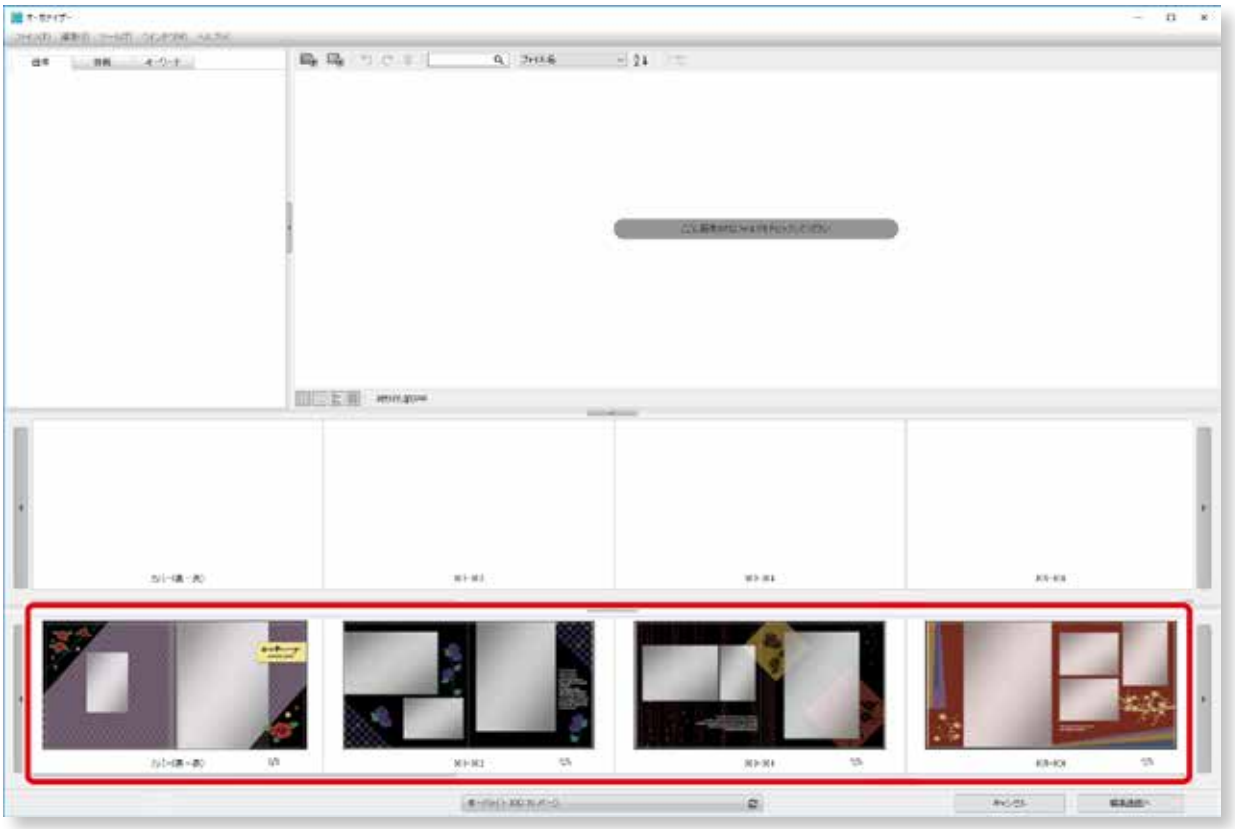


手順 2　「編集画面へ進む」をクリック

右のパネルが表示されますので「オーガナイザーへ進む」をクリックします。



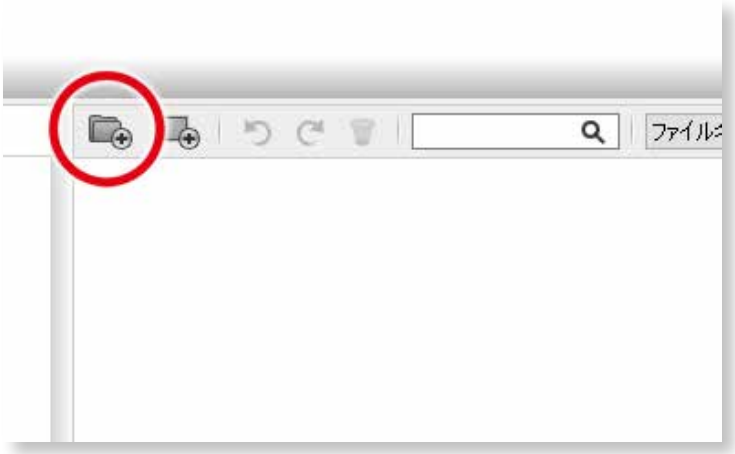
オーガナイザー画面が開きます。レイアウト領域にテンプレートのプレビューが表示されています。



手順3 画像表示領域に画像を読み込む

「フォルダを選択」ボタンをクリックして新しい画像を読み込みます。

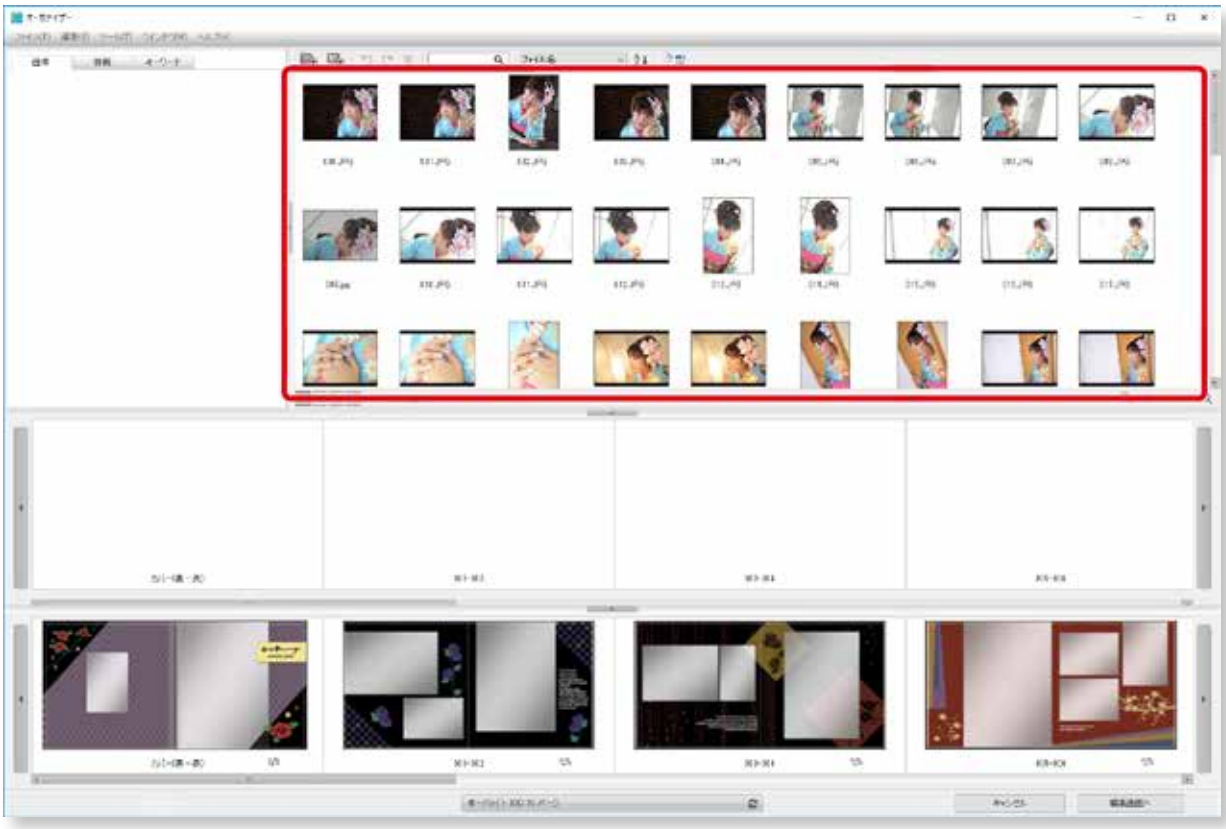
※画像の入ったフォルダを画像領域に直接ドラッグしても読み込めます。



手順4 画像フォルダを開く

使用する画像の入ったフォルダを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。

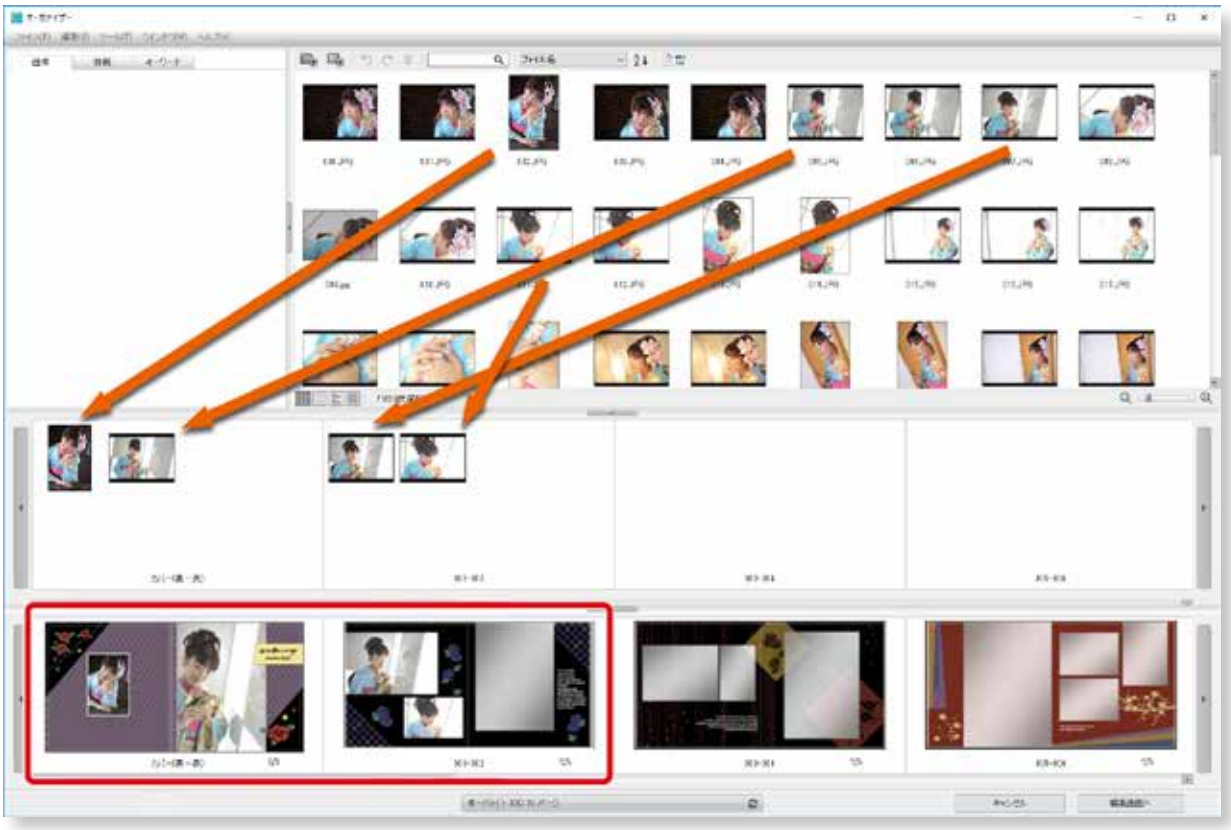
画像が読み込まれます。



手順 5　画像をページごとに割り付ける

画像をページ領域にドラッグしてページごとに割り付けます。

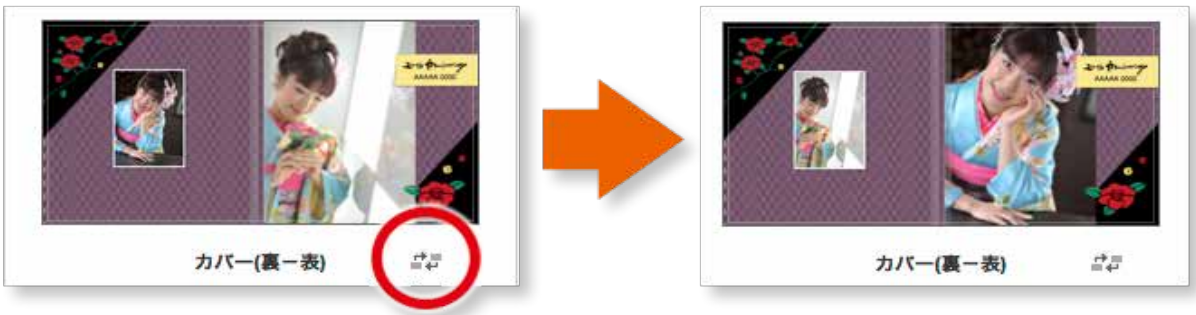
割り付けた画像は、テンプレート表示領域に即座に反映されます。全体のレイアウトやイメージを確認しながら画像を割り付けることにより、簡単且つスピーディーにレイアウトが完成します。



画像が流し込まれる順番は、ボックスを作成した順番 (最背面に配置されたボックスから）になります。

ボックスの作成順を変更したい場合は、テンプレートデータ作成時の編集画面でボックスを選択して右クリック、「順序」で順番を変更します。テンプレートでは、最背面に配置されたボックスから画像が流し込まれます。

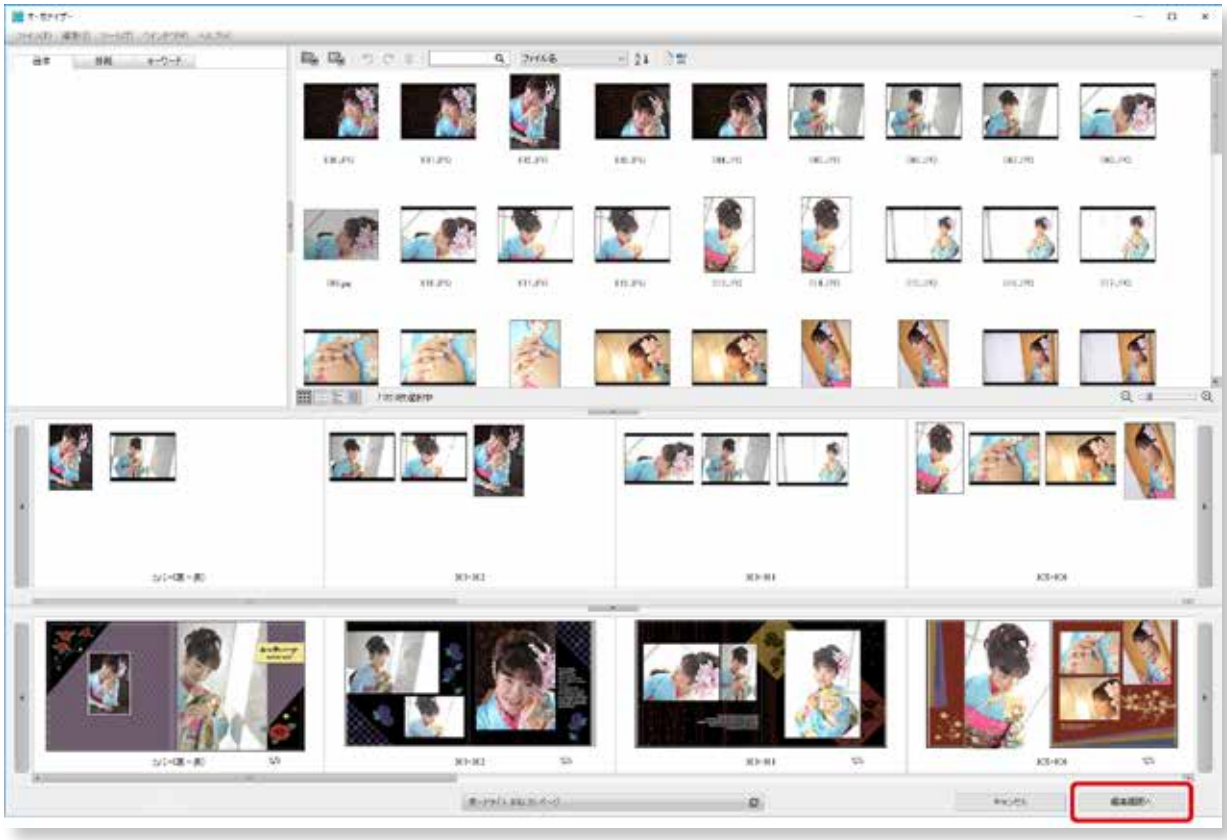
順序は、21-6 ページの「21-13.　順序」をご参照ください。



「並べ替え」ボタンをクリックするたびに画像が並び変わります。

手順6 編集画面へ

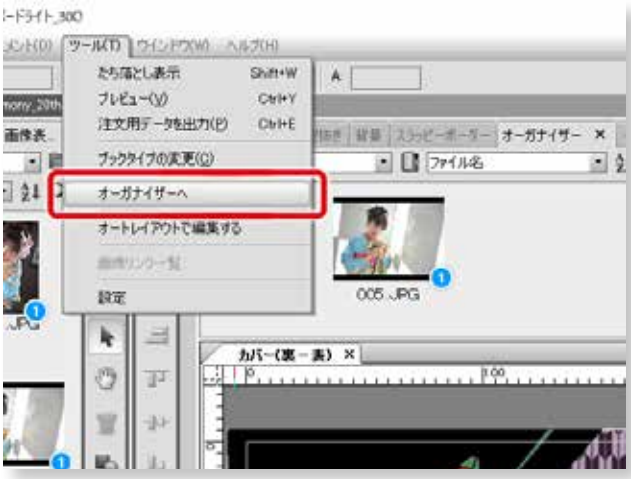
画像を全て割り付けたら「編集画面へ」ボタンをクリックしてください。



※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点

※編集画面に移行する前の上記画面の状態で「ファイル」メニューから「ブックファイルを名前を付けて保存」すれば、その保存ファイルを開くと上記 手順6 の状態から作業を継続できます。

※一度、編集画面に移行しますと、メニューの「ツール / オーガナイザー画面へ」及びオーガナイザータブの「オーガナイザー画面へ」ボタンをクリックした場合、オーガナイザー機能のみとなり、テンプレートのボックスに自動配置する機能は利用できなくなりますのでご了承ください。



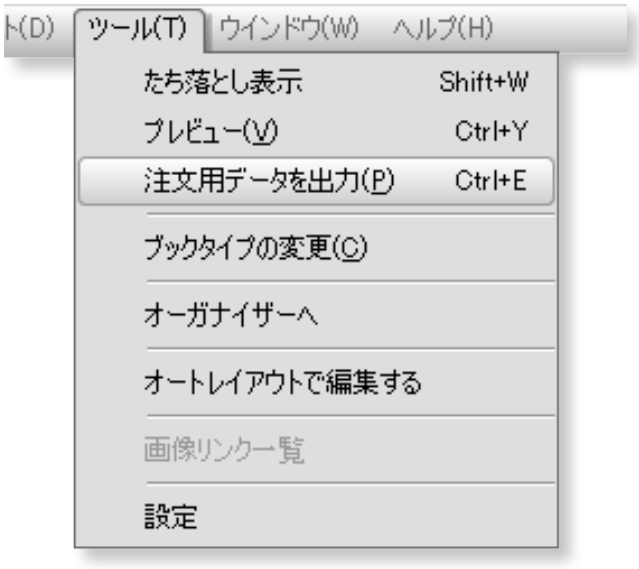
手順 7　編集画面

編集画面に移行しますので、テキストの修正や画像の位置調整等を行い、レイアウトを完成させます。

手順 8　注文用データの確認

注文用 PDF データを出力して、データに問題が無いか最終確認を行って入稿してください。

※画像のトリミングや配置、変更が必要なテキストなどは、特にご注意ください。



13.　ガイドラインタブ

作成したガイドラインを登録し、それを再利用することができます。登録したガイドを確認したり利用する際には、このガイドラインタブから行います。

ここでは、ガイドラインの保存と利用方法をご説明いたします。

13-1.　ガイドラインの保存

手順 1　ガイドラインを引く

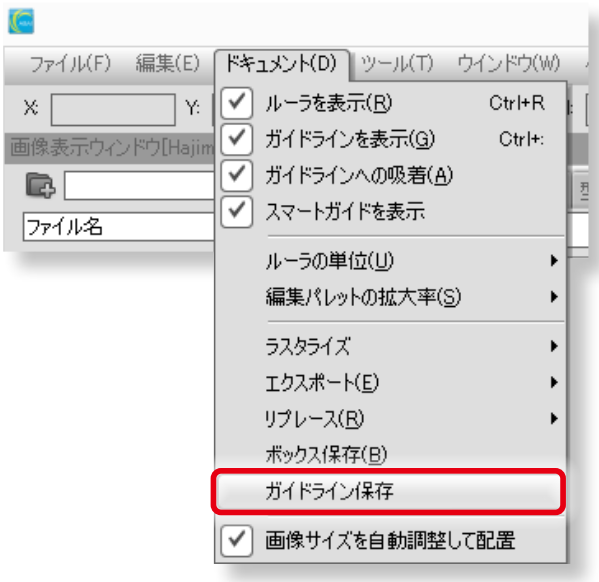
編集画面にてガイドを設定します。

基本的なガイドの使用方法に関しましては、4-29 ページの「4-12.　ガイド機能」をご参照ください。

ガイドラインのコピー機能は、6-4 ページの「6-4. ガイドラインをコピー」をご参照ください。

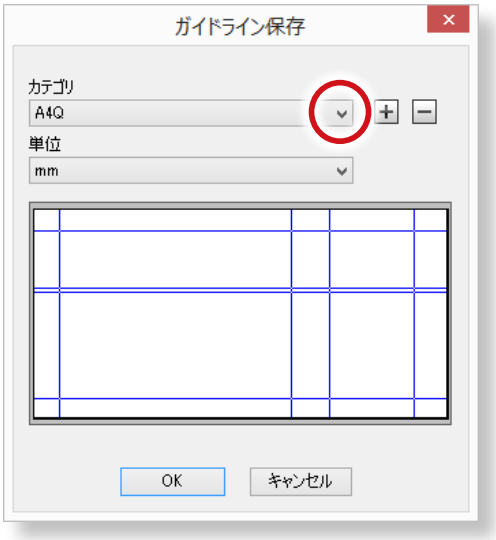
手順 2　ガイドラインを保存

メニューから「ドキュメント／ガイドライン保存」を選択します。



手順3　カテゴリの設定

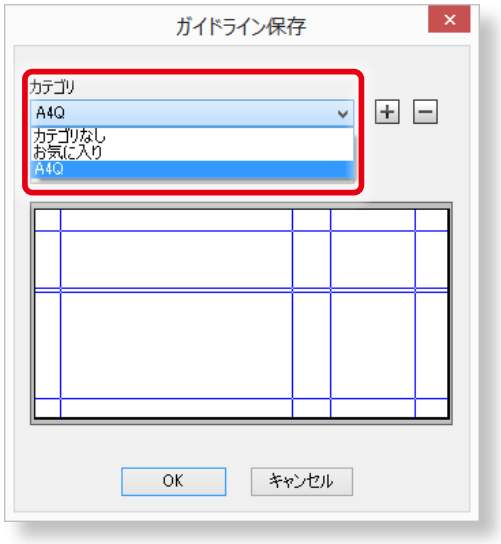
右の画面が開きますので、プルダウンメニューから登録したいカテゴリを選択します。



アドバイス！

保存したいガイドをカテゴリごとに登録しておくと、整理ができ、サイズの異なるガイドを設定してしまう等の間違いをなくすことが出来ます。

カテゴリを新規作成する場合は、13-4 ページの「13-2. カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。



手順4　「単位」の設定

「単位」の設定を行ってから「OK」をクリックしてください。

ご注意

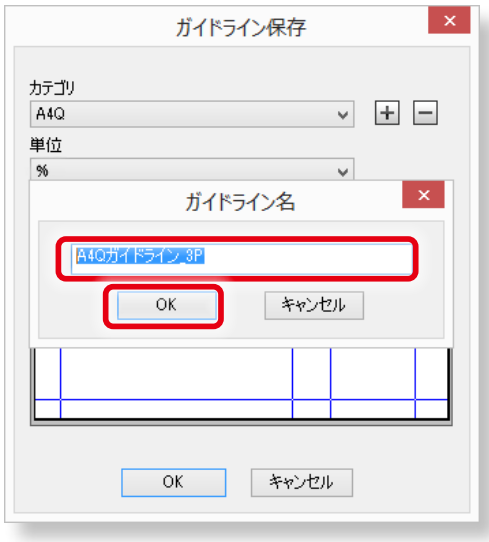
ここで保存したガイドラインを他のサイズのブック (写真集) でも使用する場合は (例：A3Q で保存したガイドラインを B5Q でも使用する等)「単位」を「%」に設定して保存してください。「単位」を「mm」、「inch」、「pixcel」で保存した場合は、基本的には同じサイズのブックのみでご利用可能となりますのでご注意ください。

●初期設定は、「mm」になっています。

詳しい解説は、13-14 ページの「13-6.　保存したガイドの便利な使い方と注意点」をご参照ください。

手順5 ガイドライン名の入力

わかりやすい名称をつけて「OK」ボタンをクリックしてください。



ご注意

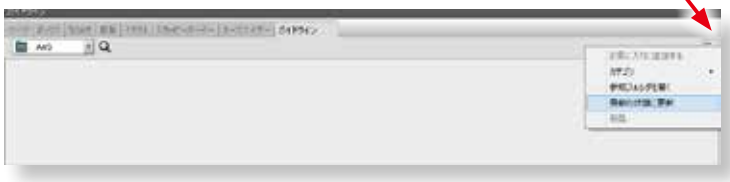
ガイドラインは、同サイズのブックにしか

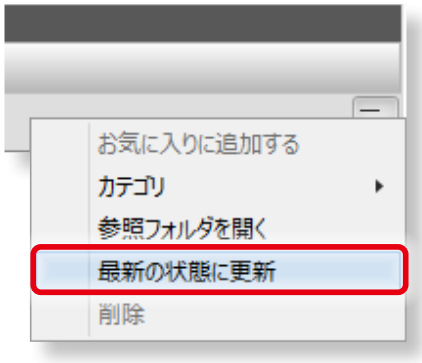
これでガイドラインがガイドラインタブに保存されました。

手順6 最新の状態に更新

ガイドラインタブの右上にあるメニューボタンをクリックしてください

メニューボタンをクリック





「最新の状態に更新」をクリックすると「ガイドラインタブ」に反映されます。

13-2.　カテゴリの新規作成と登録

手順 1　ガイドラインを引きます

編集画面にてガイドを設定します。今回は例として A3Q のガイドを作成し、そのカテゴリを作成いたします。

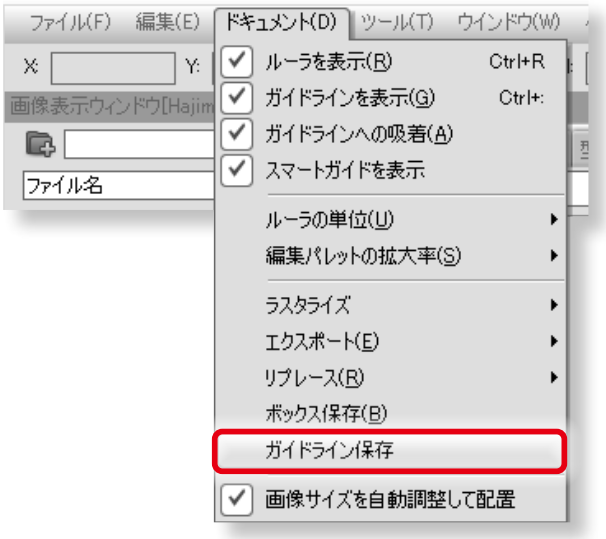
カテゴリを後から追加したり整理したい場合は、13-7 ページの「13-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合」をご参照ください。

基本的なガイドの使用方法に関しましては、4-29 ページの「4-12.　ガイド機能」をご参照ください。

ガイドラインのコピー機能は、「6-4.　ガイドラインをコピー」6-4 ページをご参照ください。

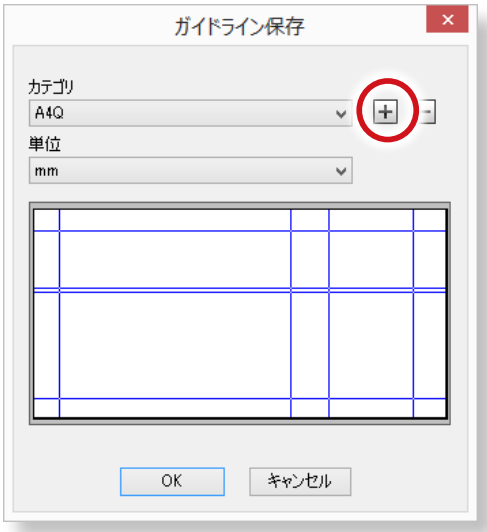
手順 2　ガイドラインの保存

メニューから「ドキュメント／ガイドライン保存」を選択します。

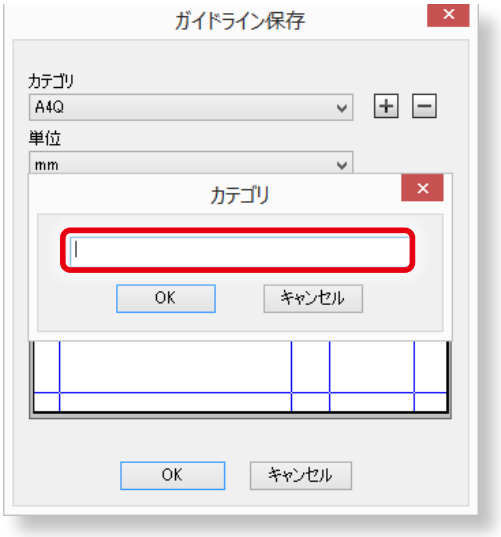


手順 3　新規追加ボタンをクリック

登録したいカテゴリがない場合は新規作成することが可能です。「+」ボタンをクリックしてください。

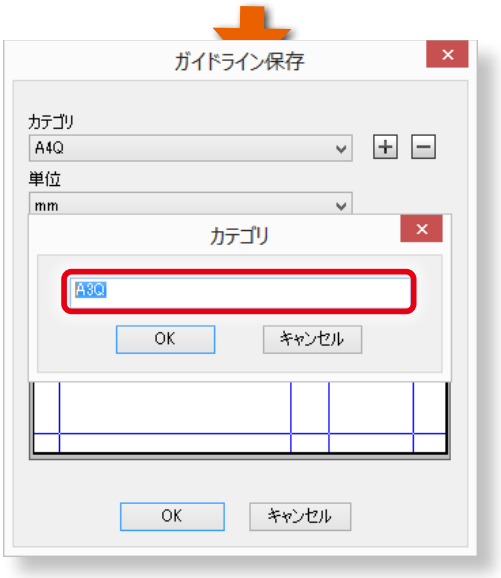


カテゴリテキスト入力画面が表示されます。



手順4　カテゴリ名の設定

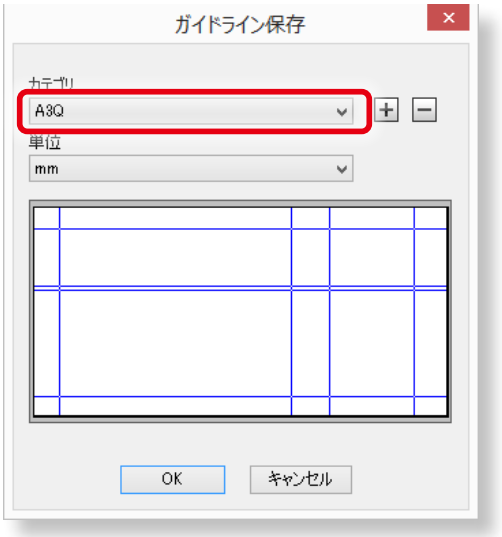
ここでは A3Q 用のガイドを作成しましたので「A3Q」用のカテゴリを作成します。「A3Q」とテキストボックスに打ち込み、「0K」をクリックします。



手順5　カテゴリ登録完了

新規に「A3Q」というカテゴリが追加されました。

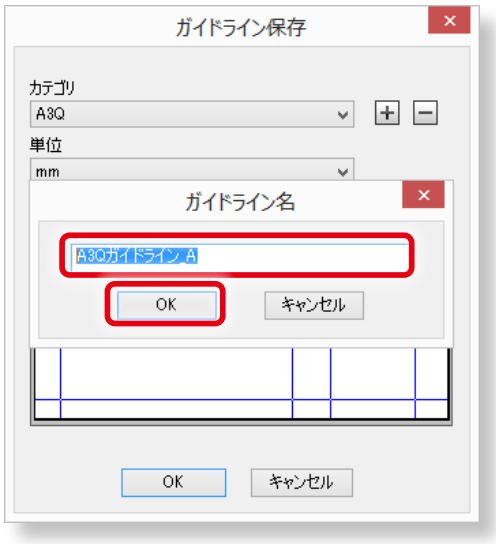
「0K」をクリックします。



手順6 ガイドライン名の設定

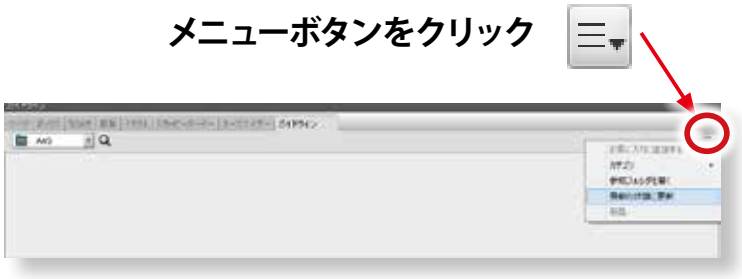
わかりやすい名称をつけて「OK」ボタンをクリックしてください。

これで完了です。

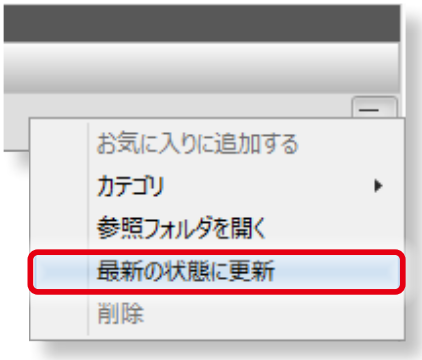


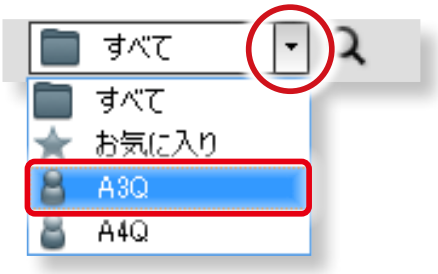
手順7 最新の状態に更新

ガイドラインタブの右上にあるメニューボタンをクリックしてください。



「最新の状態に更新」をクリックすると「カテゴリ選択メニュー」に「A3Q」が反映されます。



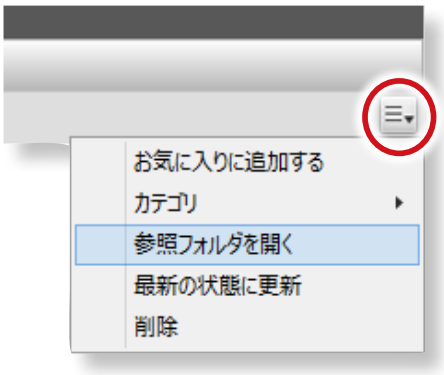


13-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合

ガイドを「お気に入り」やカテゴリ分けをせずに保存していた場合、あとからカテゴリ分けを行うことが出来ます。

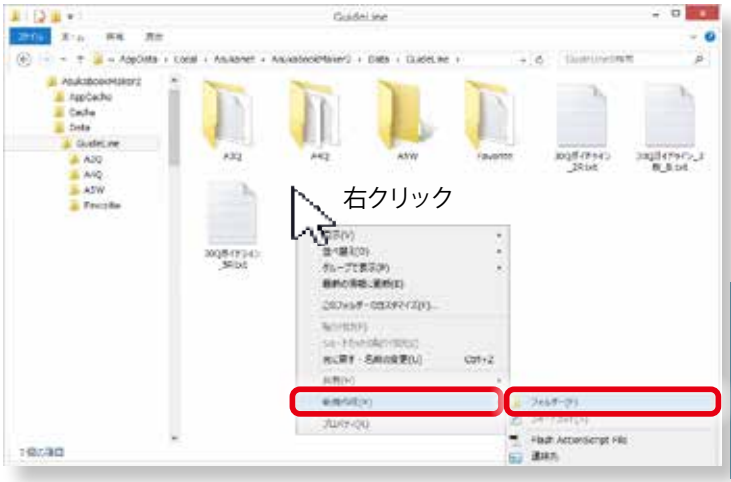
手順 1　カテゴリが保存されているフォルダを開く

「ガイドライン」タブの「メニュー」から「参照フォルダを開く」を選択します。



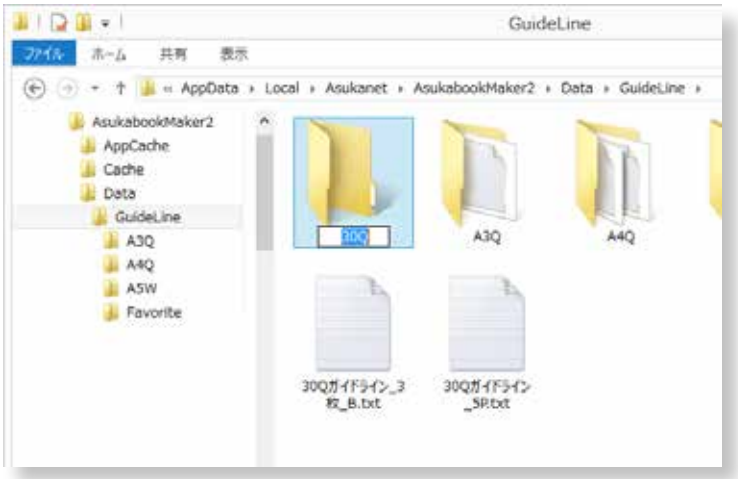
手順 2　新規フォルダの作成

ガイドラインが保存されているフォルダが開きます。
空白部分を右クリックして新規フォルダを作成してください。



手順 3　フォルダに名称を付ける

ここでは「30Q」サイズのガイドを整理したいので、新規作成したフォルダの名称を「30Q」としました。



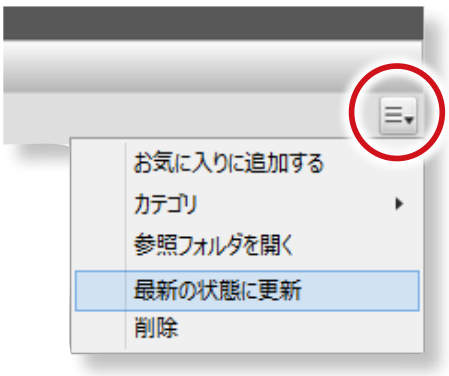
手順4 フォルダに整理

「30Q」サイズのガイドを「30Q」のフォルダのにドラッグ＆ドロップします。

手順5 最新の状態に更新

「ガイドライン」タブのメニューから「最新の状態に更新」をクリックします。

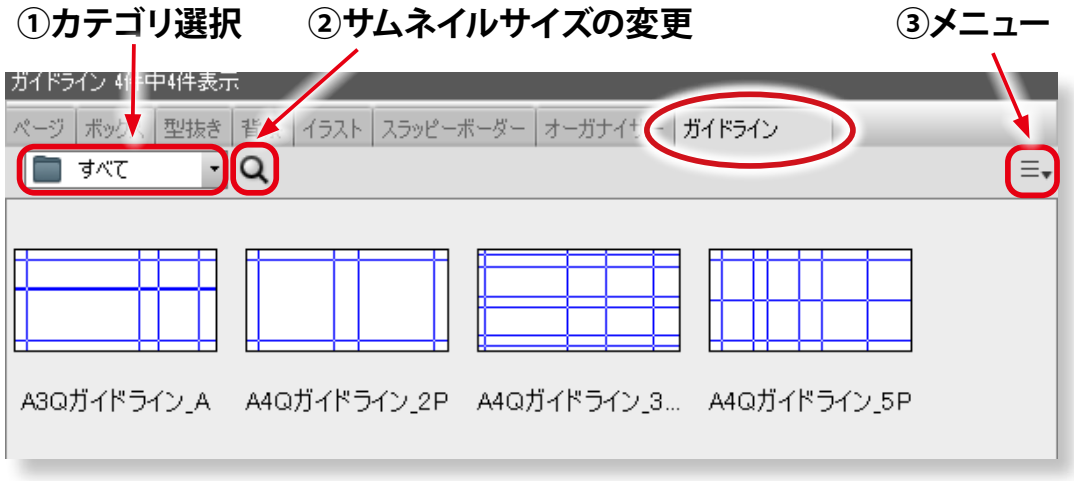
この作業によりカテゴリが反映されます。



カテゴリメニューに「30Q」が追加され、選択すると「30Q」のガイドが表示されます。

13-4.　ガイドラインタブと各種メニュー

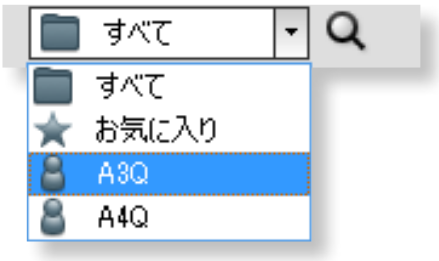
カテゴリの選択とサムネイルサイズの変更が出来ます。



13-4-1.　カテゴリ選択メニュー

そのカテゴリに登録されたガイドラインのみを表示します。

「A3Q」を選択すると

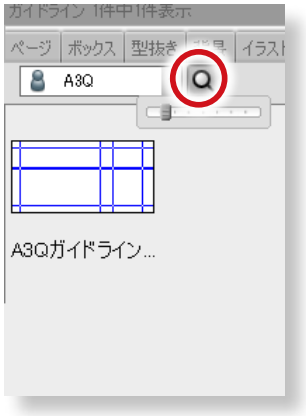


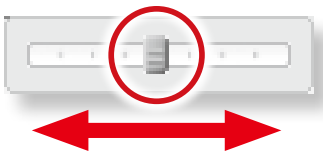
「A3Q」のみのガイドラインが表示されます。

新規にカテゴリを追加する場合は、13-4 ページの「13-2.　カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。

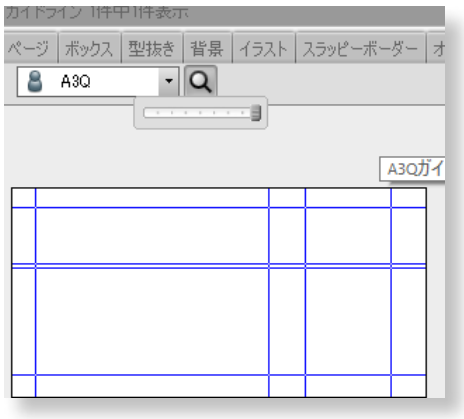
13-4-2. サムネイルサイズの変更

「虫眼鏡」アイコンをクリックすると「スライダー」が表示されます。



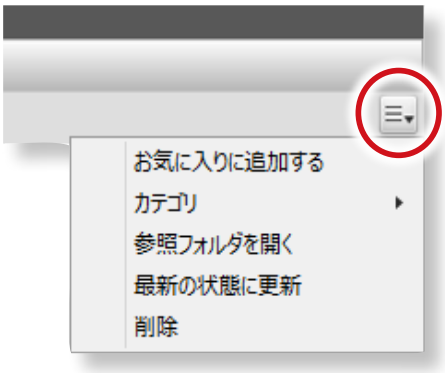


スライダーを左に移動するとサムネイルが小さくなり、右に移動すると大きくなります。



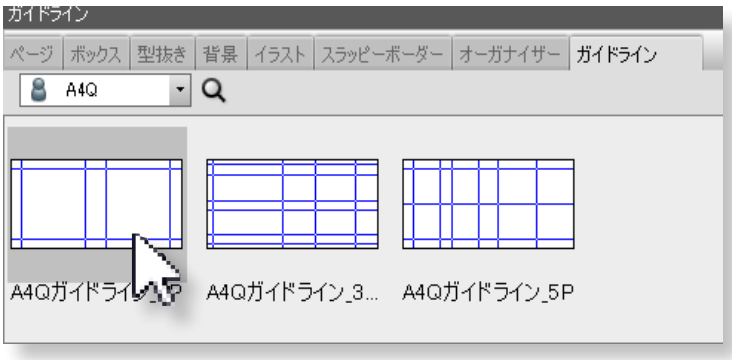
13-4-3. メニュー

「メニュー」ボタンをクリックすると各種「メニュー」が表示されます。



①「お気に入りに追加する」

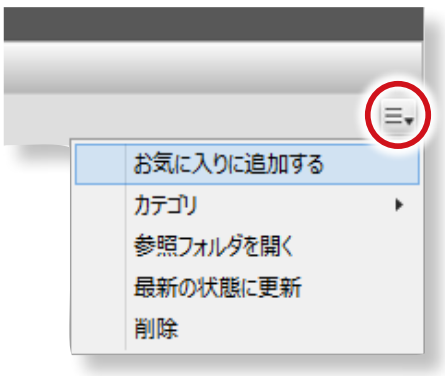
登録したガイドを選択し、「お気に入りに追加する」を選択すると「カテゴリ選択メニュー」の「お気に入りカテゴリに追加されます。」



アドバイス！

よく使うガイドを「お気に入りカテゴリ」に入れておくとすぐ利用することが出来て便利です。

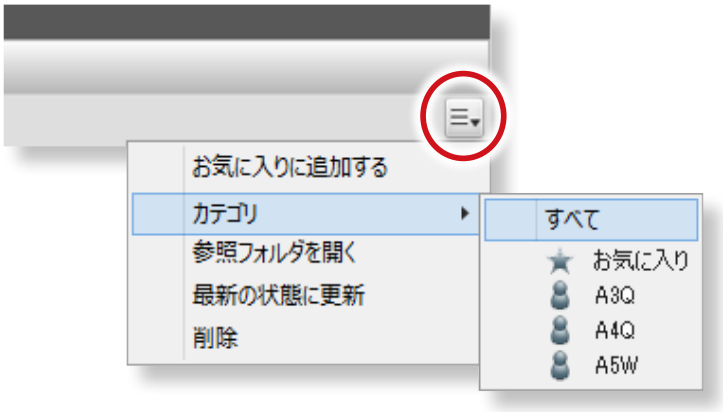
「メニュー」から「お気に入りを追加する」をクリックしてください。



「お気に入り」に追加されます。

②「カテゴリ」

「メニュー」から「カテゴリ」をクリックします。
登録した「カテゴリ」を選択できます。



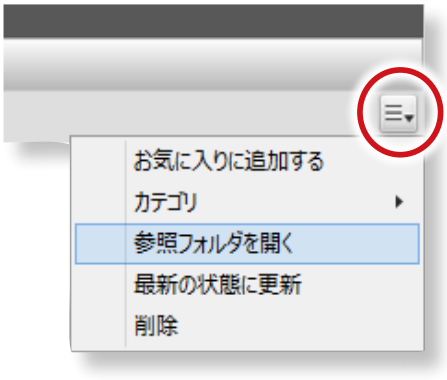
新規にカテゴリを追加する場合は、13-4 ページの「13-2.　カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。

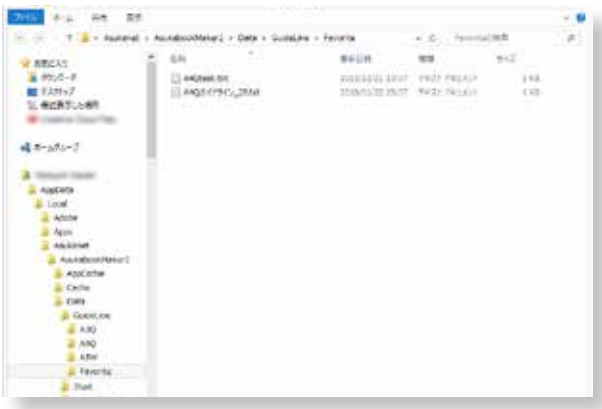
③「参照フォルダを開く」

「メニュー」から「参照フォルダを開く」をクリックします。

保存したガイドラインデータを保存しているフォルダが開きます。

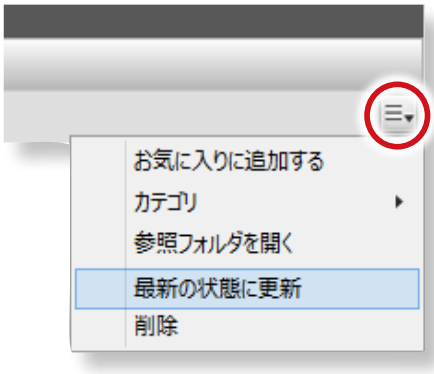
ご注意　「カテゴリ」選択メニューで選択されているカテゴリのフォルダが開きます。





④「最新の状態に更新」

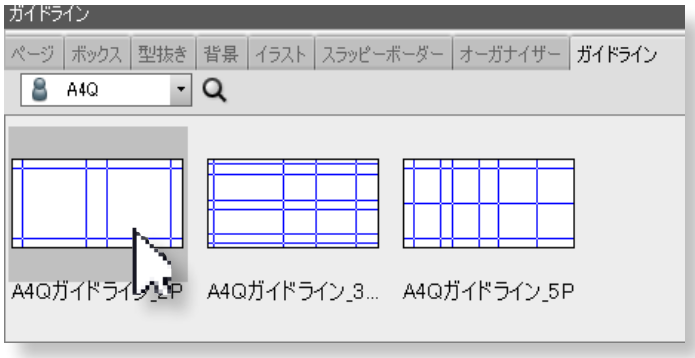
「メニュー」から「最新の状態に更新」をクリックします。
新しく登録したカテゴリやガイドのフォルダを再読み込みして ABM2 上に即座に反映させることが出来ます。



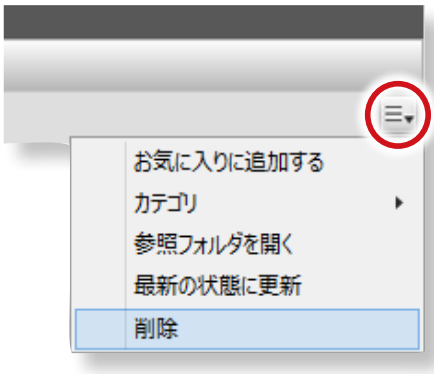
⑤「削除」

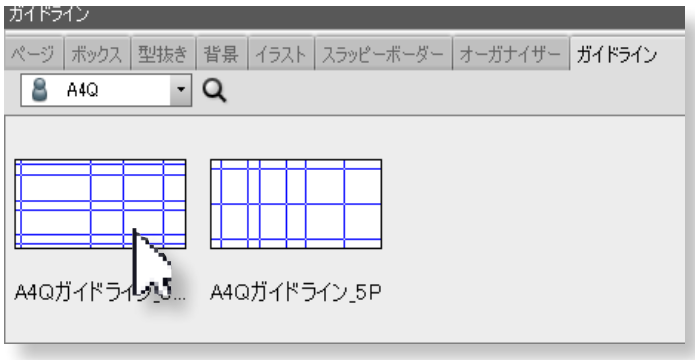
「カテゴリ」に登録してあるガイドを削除します。

同じガイドラインが、「お気に入り」と「A4Q」にある場合は、その選択したカテゴリのガイドラインのみ削除されます。



「メニュー」から「削除」をクリックします。

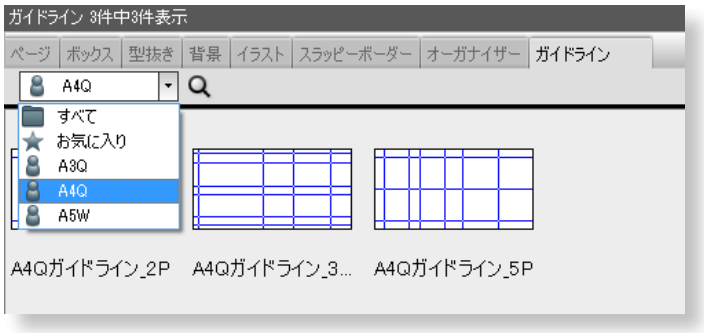




13-5.　保存したガイドの利用

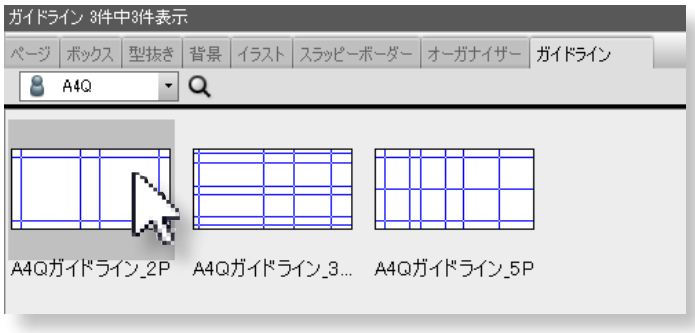
手順 1　カテゴリの選択

「カテゴリ」メニューから使用したいガイドが登録されているカテゴリを選択します。



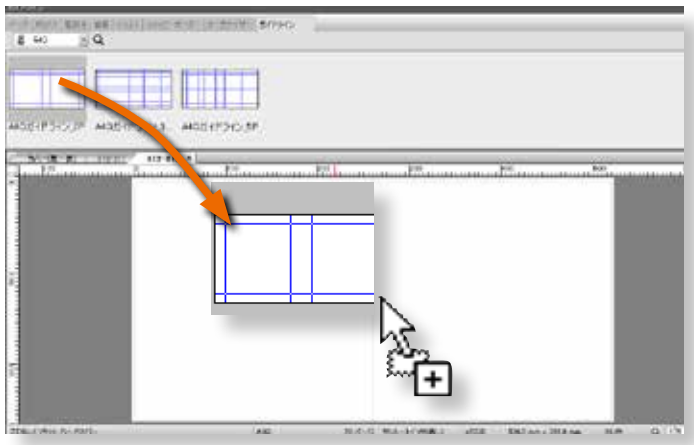
手順 2　ガイドの選択

「カテゴリ」メニューから使用したいガイドが登録されているカテゴリを選択します。

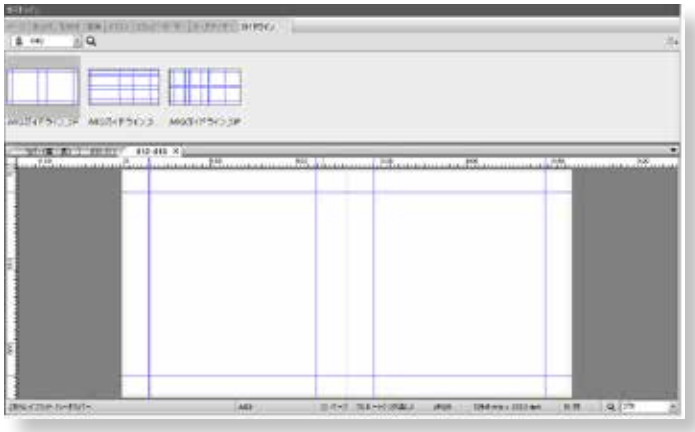


手順 3　ガイドの配置

選択したガイドをページ領域にドラッグ＆ドロップしてください。



ページにガイドが適用されます。



アドバイス！

他のガイドを適用したい場合は、他のガイドを再度ドラッグ＆ドロップすれば適用できます。

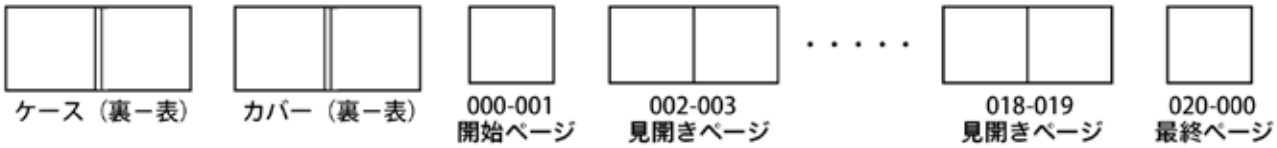
13-6.　保存したガイドの便利な使い方と注意点

ガイドラインを保存して便利に利用する方法と注意点をご説明いたします。

13-6-1.　ガイドラインのページ種類と分類

ASUKABOOK は、基本的に「カバーページ」、「ケースページ」、「開始ページ」、「見開きページ」、「最終ページ」で構成されています。ガイドラインは、このページの種類ごとに分類され保存されます。

●「開始ページ」と「最終ページ」は同じ寸法で、単ページとも呼びます。「ケースページ」が無いものもあります。



ご注意

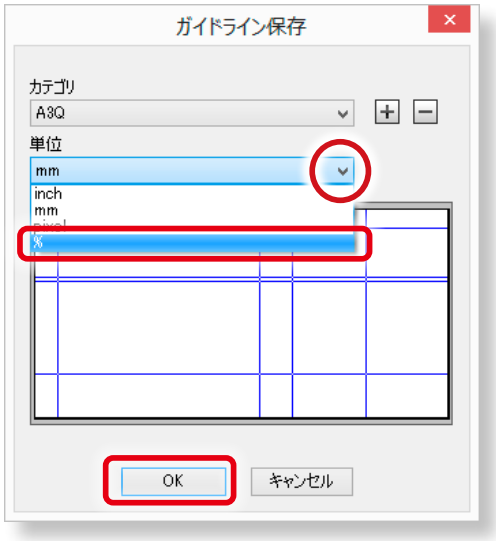
ガイドラインを保存すると、ガイドラインタブには同じページ種類のガイドラインのみ表示されます。例えば、「見開きページ」でガイドラインを作成し保存した場合は、その保存したガイドラインは同じ見開きページでしか表示されず使用できません。つまり、「ケース (裏 - 表)」のページでは、「見開きページ」で保存したガイドラインは表示されず使用できません。

13-6-2.　異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合

異なるサイズのブックファイルにて同じガイドラインを使用したい場合は、「ガイドライン保存」の際に「単位」メニューから「%」を設定してください。これにより、異なるブックサイズであってもブックに合った拡大率で自動的にガイドを設定して適用されます。

※初期設定は、「mm」になっていますのでご注意ください。

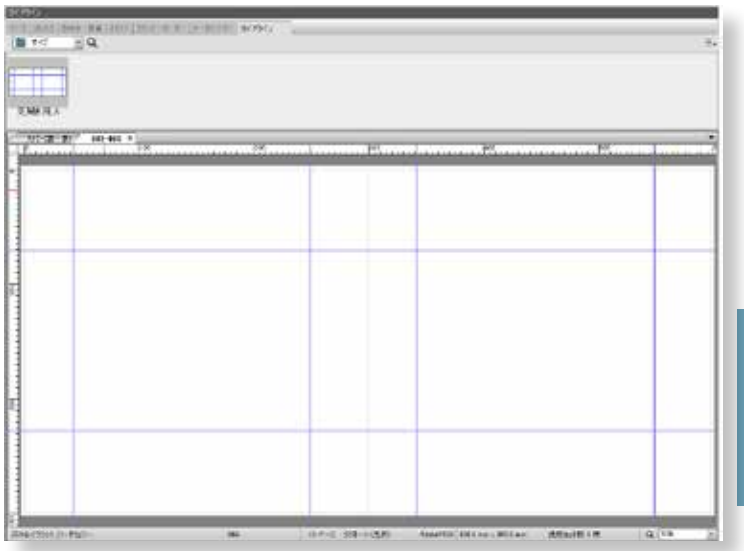
ガイドラインの保存は、13-1 ページの「13-1.　ガイドラインの保存」をご参照ください



例　題

「30Q」で作成したガイドラインを保存する際に「単位」を「%」で設定します。

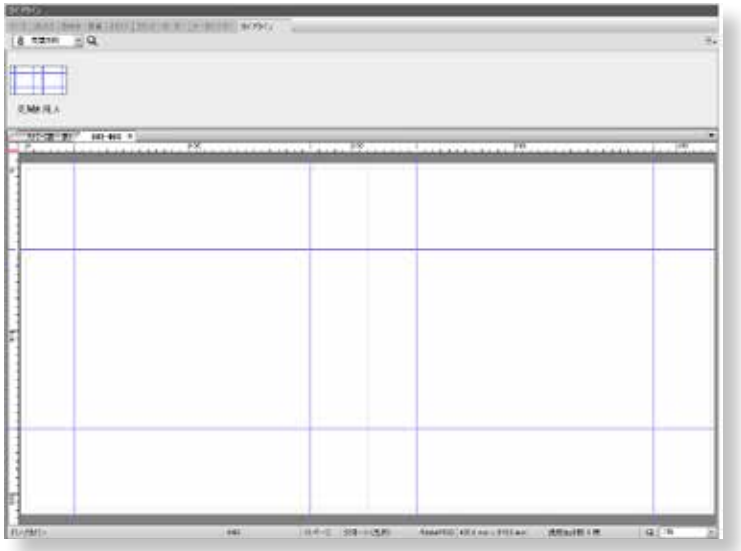
ブックサイズ：30Q



「30Q」でも「A4Q」でもページが同じ種類かつブックが同じ形状であれば、自動的に拡大率を調整して同じ比率で適用されます。

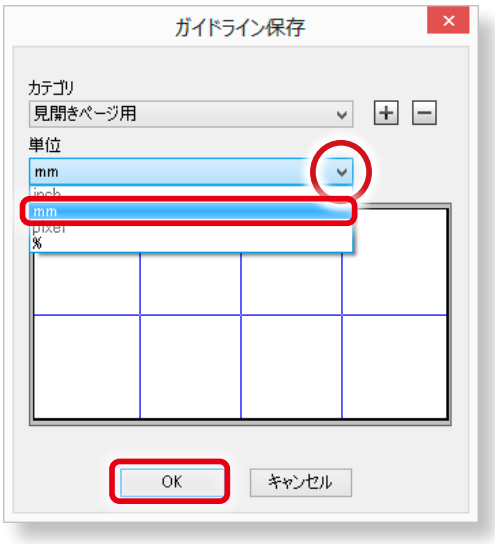
同じ形状のブックに関しては、13-17 ページの「13-6-4.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるガイド」をご参照ください。

ブックサイズ：A4Q



13-6-3. ガイドの保存を「単位」の「%」以外で保存した場合

ガイドラインの寸法を決めて利用したい場合はには「単位」メニューから「mm」、「inch」、「pixcel」のいずれかを選択してください。この際は、保存したブックサイズと異なるブックサイズで利用するとガイドラインはページ原点からの寸法にて適用されます。

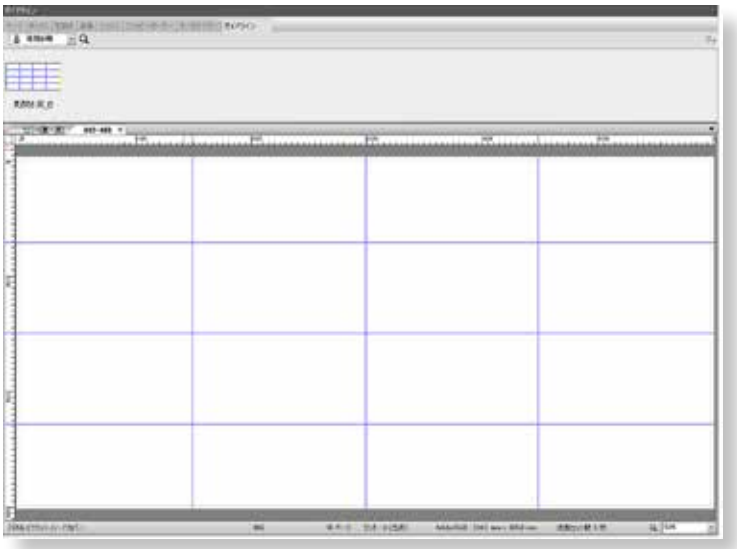


ガイドラインの保存は、13-1 ページの「13-1.　ガイドラインの保存」をご参照ください

例　題

「30Q」で作成したガイドラインを保存する際に「単位」を「mm」で設定した場合

ブックサイズ：30Q



「30Q」で作成したガイドラインを「A4Q」で設定するとページが同じ種類かつ同じ形状であっても、左上をページ原点として同じ数値のガイドラインが適用されます。

ガイドラインの原点に関しましては、13-17 ページの「13-6-5.　ガイドの原点位置」をご参照ください。

右図のように「30Q」より「A4Q」の方がサイズが小さいためガイドラインがはみ出てしまいます。

ブックサイズ：A4Q

ガイドを共通して使用したい場合は、13-15 ページの「13-6-2. 異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合」をご参照ください。

ASUKABOOK の縦横比	ガイドラインを共通して使用できるサイズ
正方形	30Q、 A3Q、 A4Q、 B5Q、 CD
縦長	A3T（ART EX、ART EXD）、 A3V（ボード）、 A4、 A4S、 A5 A4 変形（KINARI ソフトカバー）、 A4Y・A5Y（KINARI プレミアム） A4QT（えほん BOOK） A5T（ハードカバー）

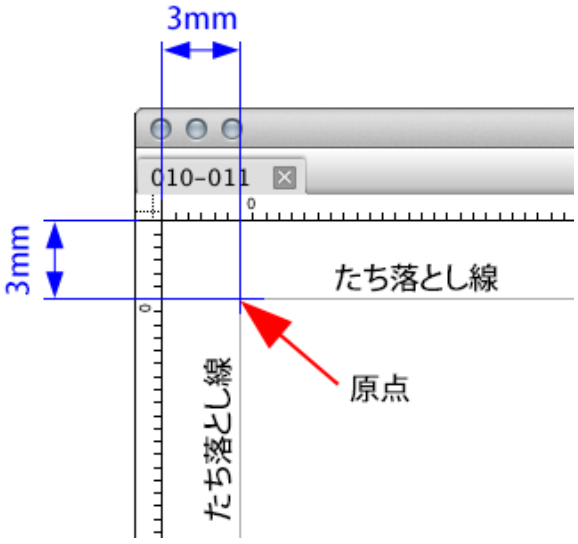
13-6-4.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるガイド

ASUKABOOK の縦横比と、ガイドラインタブ内に表示されるガイドラインの種類との関係は、下表のようになっています。
また、編集パレットに表示されているページの種類毎 (「カバーページ」、「ケースページ」、「開始ページ」と「終了ページ」といった「単ページ」、「見開きページ」) に分類されますのでご注意ください。

ガイドを共通して使用したい場合は、13-15 ページの「13-6-2.　異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合」をご参照ください。

13-6-5.　ガイドの原点位置

●ガイドの原点、すなわちレイアウト領域の原点は、本文ページについてはレイアウト領域の左上端より、右方向へ 3mm、下方向へ 3mm の交点となります。
これは、ちょうど「たち落とし線」の交点に相当します。



14.　ページテンプレートタブ

作成したページをテンプレートとして登録し、再利用することができます。登録したページテンプレートを確認したり利用する際には、このページテンプレートタブから行います。

ここでは、ページテンプレートの保存と利用方法をご説明いたします。

14-1.　ページテンプレートの保存

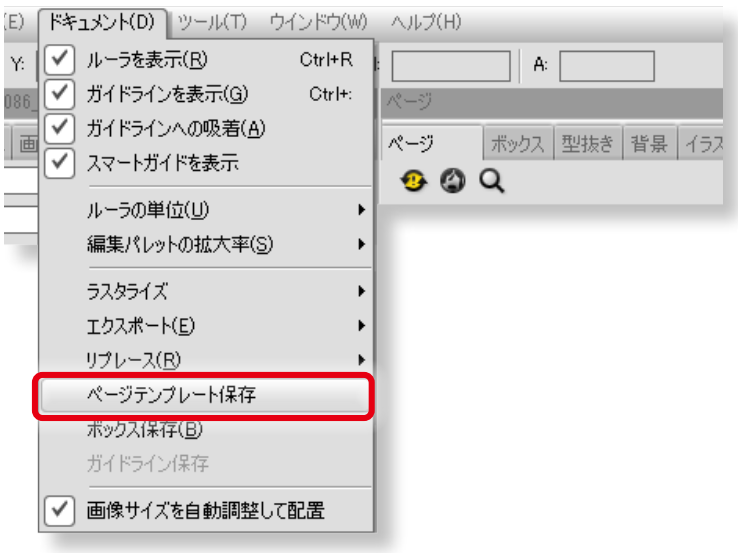
手順 1　ページをレイアウトする

編集画面にてページをレイアウトしてください。

手順 2　ページテンプレートを保存

メニューから「ドキュメント／ページテンプレート保存」を選択します。

※何も配置されていない部分を右クリックして「ページテンプレート保存」でも可能です。



手順3 カテゴリの設定

右の画面が開きますので、プルダウンメニューから登録したいカテゴリを選択します。

アドバイス！

保存したいページテンプレートをカテゴリごとに登録しておくと、整理ができて便利です。

カテゴリを新規作成する場合は、14-7 ページの「14-2. カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。

手順4　「位置を固定したオブジェクトを含む」の設定

「位置を固定したオブジェクトを含む」のチェックボックスをチェックすると「位置を固定」を設定している画像は、差替可能なサンプル画像になります。チェックをはずすと「位置を固定」に設定されている画像がそのまま配置されます。

※イラスト等を変更無くご利用頂く場合は、「ロックオブジェクトも含む」のチェックをはずします。

詳しい「位置を固定したオブジェクトを含む」の設定や注意点に関しましては、14-19 ページの「14-6.　保存したページテンプレートの利用 (位置を固定したオブジェクトを含むの設定結果)」をご参照ください。

ご注意

ここで保存したページテンプレートは他のサイズでもご利用可能ですが、「ロックオブジェクトも含む」のチェックボックスのチェックをはずして保存した場合、作成した大きさより大きいサイズのブックページに適用すると、イラスト等の画像があれる場合があります。

詳しい解説は、14-17 ページの「14-5-2.　異なるブックサイズで同じページテンプレートを使用したい場合の注意点」をご参照ください。

手順5　「テキスト」設定をして「OK」ボタンをクリックします

「テキスト」は、差し替え可能な画像上に表示されるテキストです。任意のテキストに変更することができます。
テンプレートオプションの設定が終わりましたら「OK」ボタンをクリックしてください。

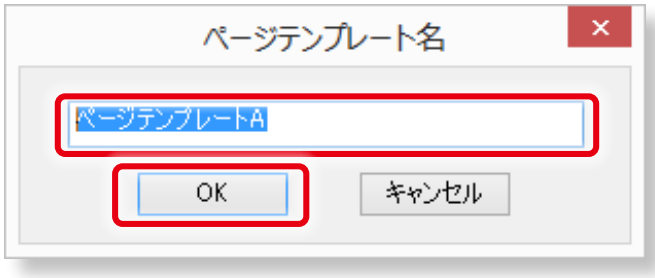
ページテンプレートの「テキスト」表示例

「テキスト」は、差替画像部分上に表示されるテキストになります。標準では、「サンプル」というテキストが挿入されますが、変更することが可能です。

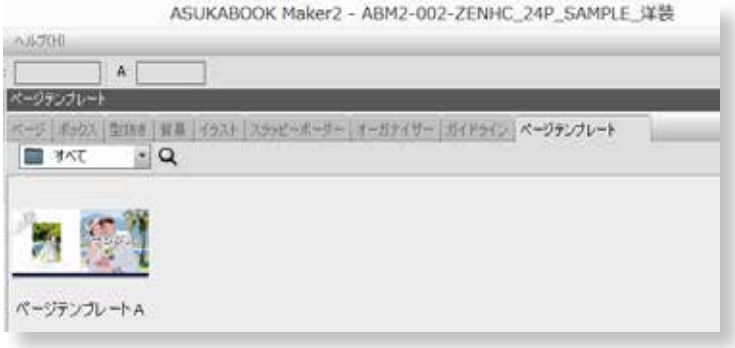
右図は、「テキスト」に標準の「サンプル」を設定してページテンプレート保存した例です。「サンプル」と入った画像が差し替えを行う画像になります。尚、「テキスト」を空白にすることはできません。

手順6　ページテンプレートの名称を設定する

ページテンプレートの名称を設定して「OK」ボタンをクリックしてください。



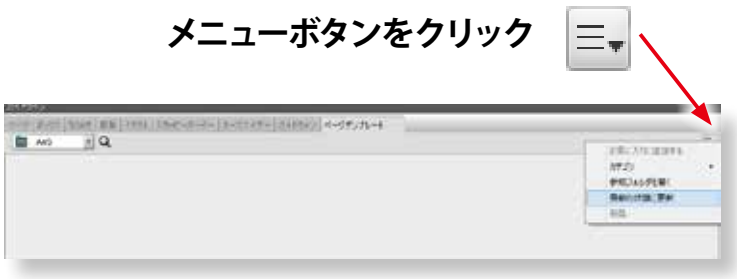
これでページテンプレートがページテンプレートタブに保存されました。

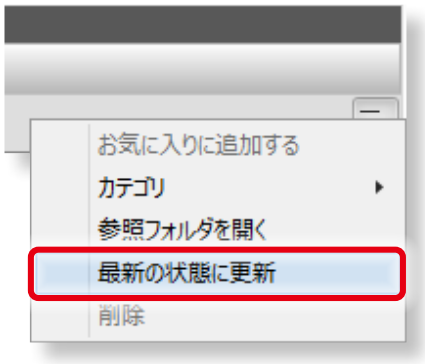


作成したページテンプレートのご利用方法は、14-16 ページの「14-5.　保存したページテンプレートの利用　便利な使い方と注意点」をご参照ください。

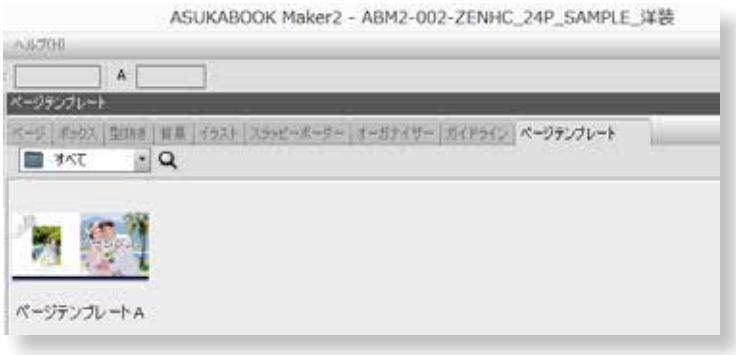
手順 7　最新の状態に更新

ページテンプレートタブに保存したテンプレートが表示されない場合は、右上にあるメニューボタンをクリックしてください。





「最新の状態に更新」をクリックすると「ページテンプレートタブ」に反映されます。



作成したページテンプレートのご利用方法は、14-16 ページの「14-5.　保存したページテンプレートの利用　便利な使い方と注意点」をご参照ください。

他のパソコン等で作成したページテンプレートをドラッグで登録する場合

他のパソコン等で作成したページテンプレートを登録する方法です。

①「ページテンプレート」タブをクリックします。

②用意したページテンプレートファイルをタブ領域に直接ドラッグ＆ドロップします。

登録したページテンプレートファイルのカテゴリを整理する場合は、14-10 ページの「14-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合」をご参照ください。

他のパソコン等で作成したページテンプレートをフォルダに登録する場合

他のパソコン等で作成したページテンプレートをページテンプレートが保存されているフォルダに登録する方法です。

手順 1 ページテンプレートタブとメニュー

①「ページテンプレート」タブをクリックします。

②メニューをクリックします。

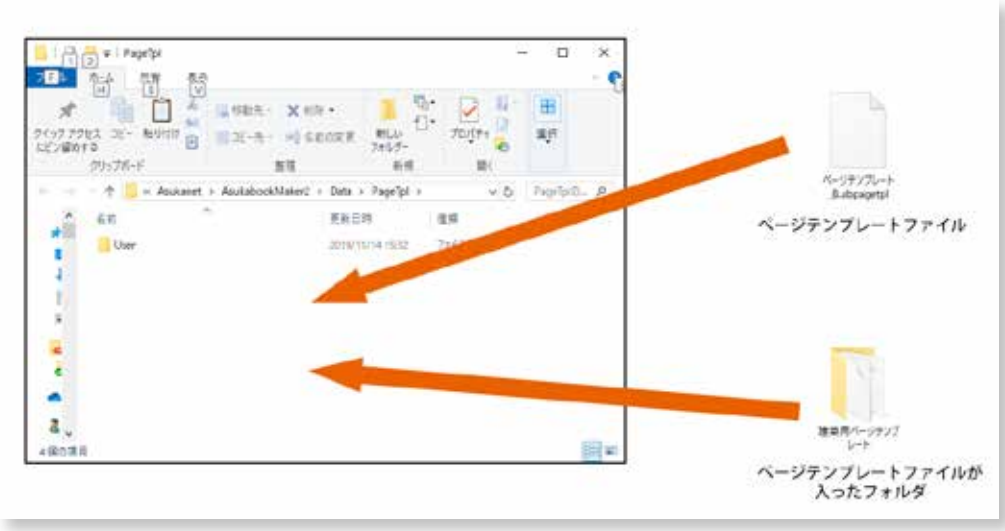
手順 2 参照フォルダを開く

「参照フォルダを開く」をクリックします。

手順 3 参照フォルダにドラッグしてコピーする

ページテンプレートが保存されているフォルダが開きますので、そこに新しいページテンプレートファイルもしくはページテンプレートが入ったフォルダをコピーします。

フォルダをコピーするとそのフォルダがカテゴリー分けされます。



手順4 コピーしたページファイルを読み込む

「最新の状態に更新」をクリックします。

14-2.　カテゴリの新規作成と登録

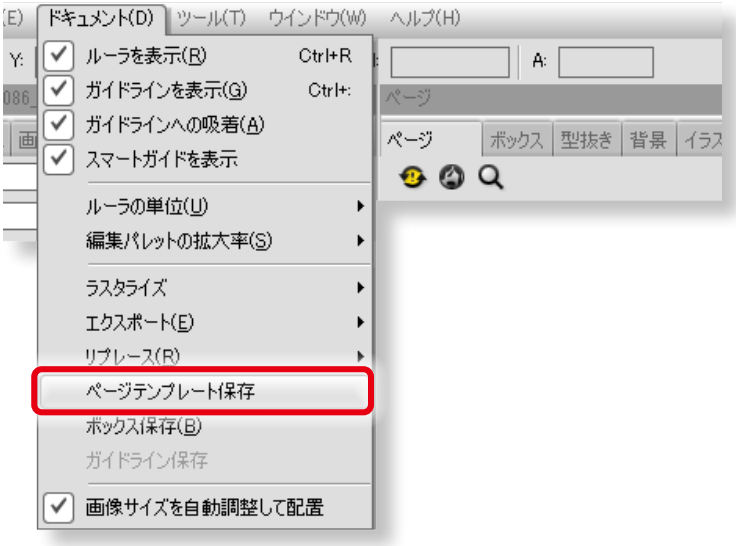
手順1 ページをレイアウトします

編集画面にてページレイアウトをします。

カテゴリを後から追加したり整理したい場合は、14-10 ページの「14-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合」をご参照ください。

手順2 ページテンプレートの保存

メニューから「ドキュメント／ページテンプレート保存」を選択します。



手順3 新規追加ボタンをクリック

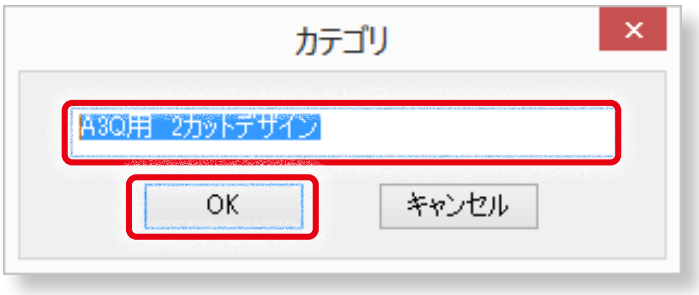
登録したいカテゴリがない場合は新規作成することが可能です。「+」ボタンをクリックしてください。

手順4 カテゴリ名の設定

カテゴリ名入力画面が出ますので、わかりやすいカテゴリ名を設定して「0K」をクリックします。

ここでは、「A3Q 用　2 カットデザイン」と入れてみます。

※ブックサイズごとにカテゴリ分けしておくと便利です。



手順5 カテゴリ登録完了

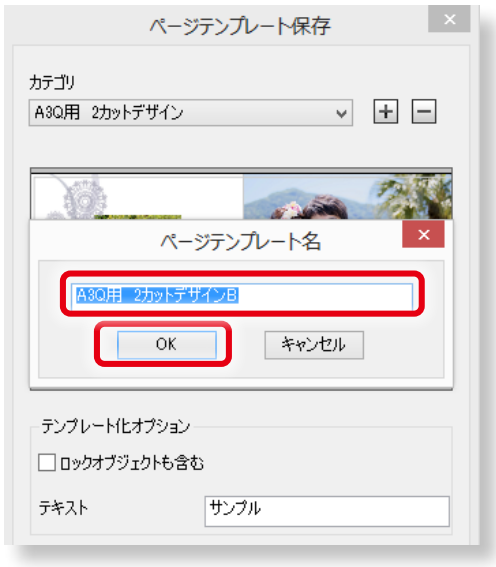
新規に「A3Q 用　2 カットデザイン」というカテゴリが追加されました。

「A3Q 用　2 カットデザイン」というカテゴリを選択して「0K」をクリックします。

手順6 ページテンプレート名の設定

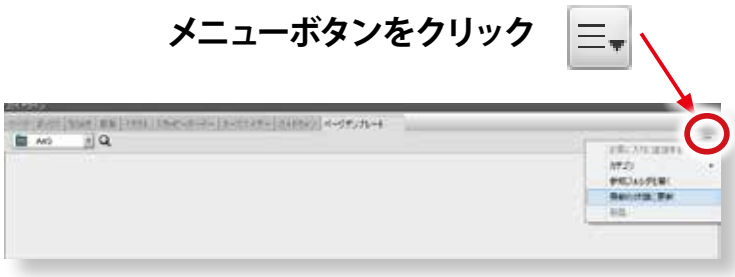
新規カテゴリが追加されましたら、ページテンプレートにわかりやすい名称をつけて「OK」ボタンをクリックしてください。

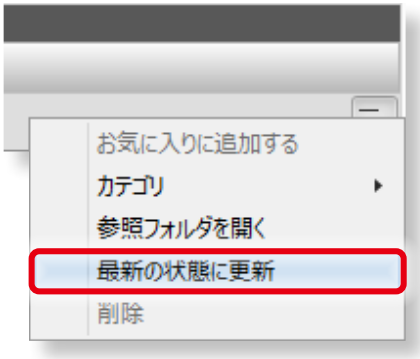
これで完了です。



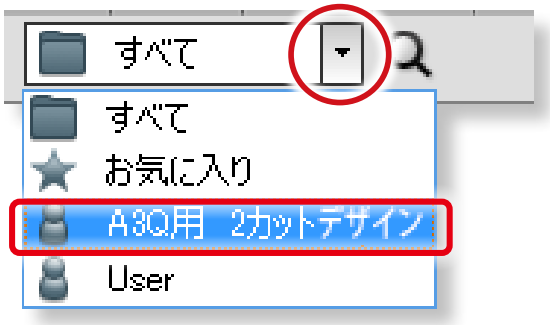
手順7 最新の状態に更新

ページテンプレートタブの右上にあるメニューボタンをクリックしてください。



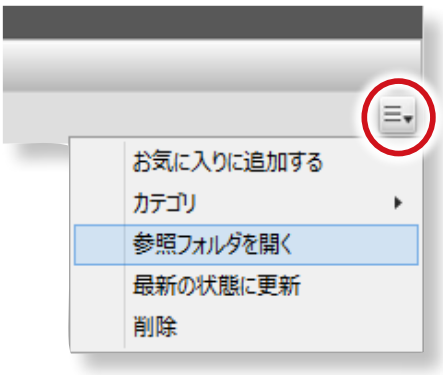


「最新の状態に更新」をクリックすると「カテゴリ選択メニュー」に「A3Q 用　2 カットデザイン」というカテゴリが反映されます。



14-3.　後からカテゴリ分けや整理をする場合

ページテンプレートを「お気に入り」やカテゴリ分けをせずに保存していた場合、あとからカテゴリの整理を行うことができます。



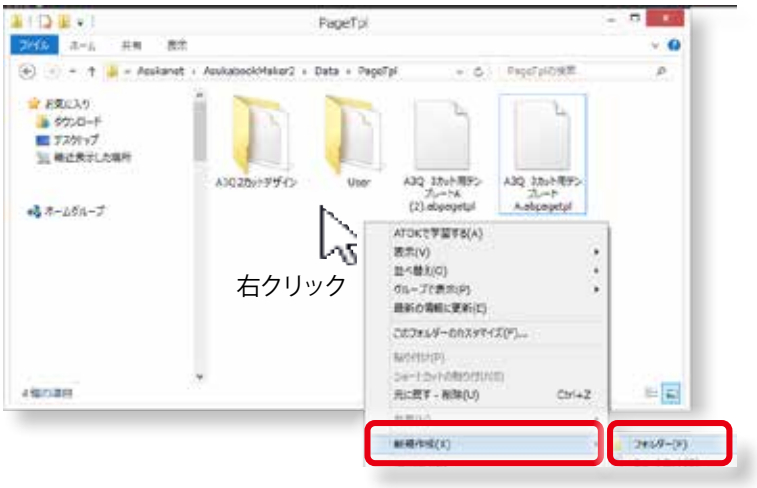
手順 1　カテゴリが保存されているフォルダを開く

「ページテンプレート」タブの「メニュー」から「参照フォルダを開く」を選択します。

手順 2　新規フォルダの作成

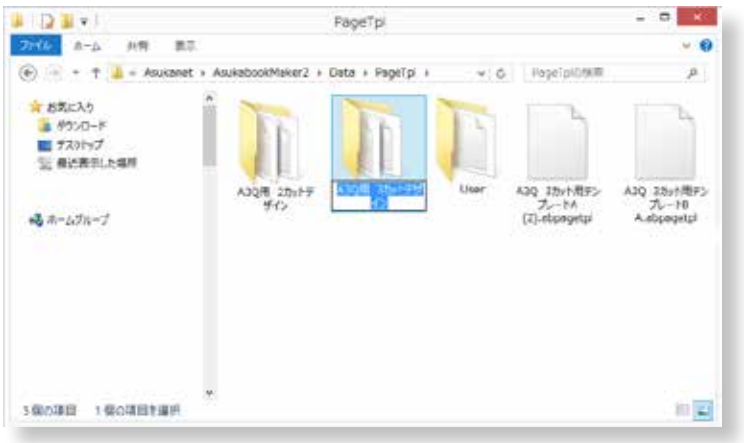
ページテンプレートが保存されているフォルダが開きます。

空白部分を右クリックして新規フォルダを作成してください。



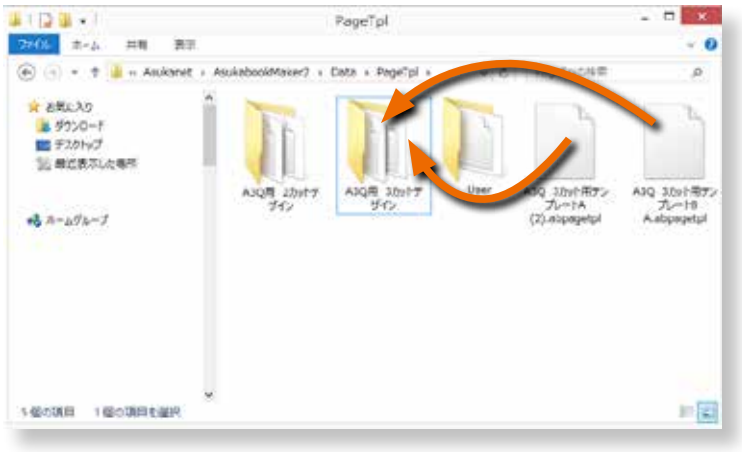
手順 3　フォルダに名称を付ける

ここでは、A3Q 用 3 カット用ページテンプレートのフォルダを新規作成したいので、フォルダの名称を「A3Q 用 3 カットデザイン」としました。

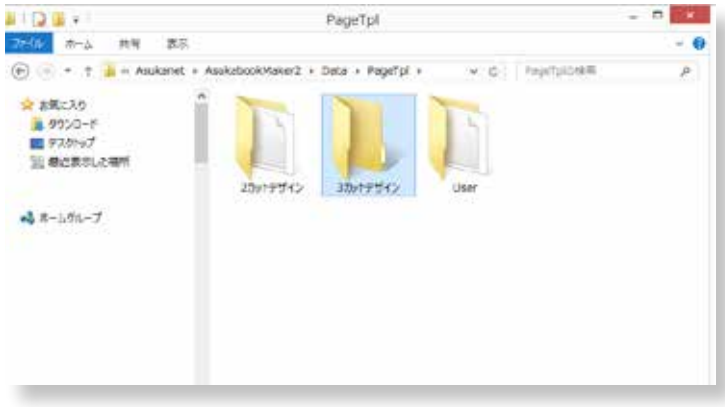


手順4 フォルダに整理

A3Q 用 3 カットデザイン用ページテンプレートを「A3Q 用 3 カットデザイン」のフォルダにドラッグ & ドロップします。



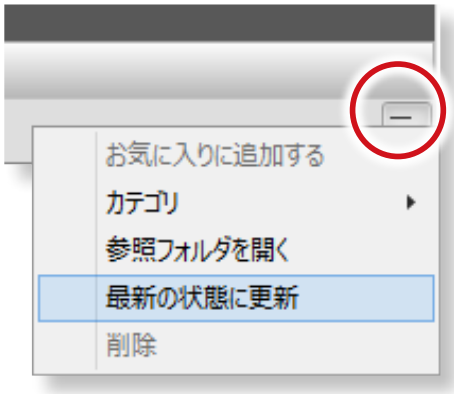
整理されました。



手順5 最新の状態に更新

「ページテンプレート」タブのメニューから「最新の状態に更新」をクリックします。

この作業によりカテゴリが反映されます。



カテゴリメニューに「A30Q 3 カットデザイン」が追加され、選択するとこのカテゴリに保存されたページテンプレートが表示されます。

14-4.　ページテンプレートタブと各種メニュー

カテゴリの選択とサムネイルサイズの変更ができます。

14-4-1.　カテゴリ選択メニュー

そのカテゴリに登録されたページテンプレートのみを表示します。

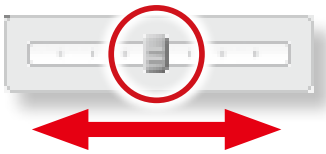
「3 カットデザイン」を選択すると

「3 カットデザイン」のみのページテンプレートが表示されます。

新規にカテゴリを追加する場合は、14-7 ページの「14-2.　カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。

14-4-2.　サムネイルサイズの変更

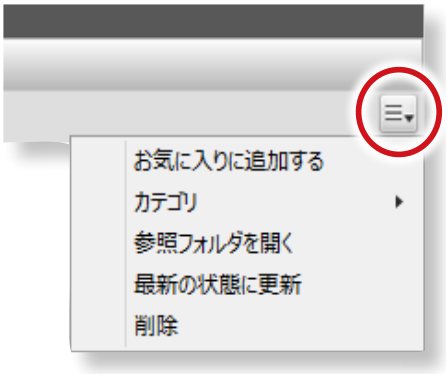
「虫眼鏡」アイコンをクリックすると「スライダー」が表示されます。



スライダーを左に移動するとサムネイルが小さくなり、右に移動すると大きくなります。

14-4-3.　メニュー

「メニュー」ボタンをクリックすると各種「メニュー」が表示されます。



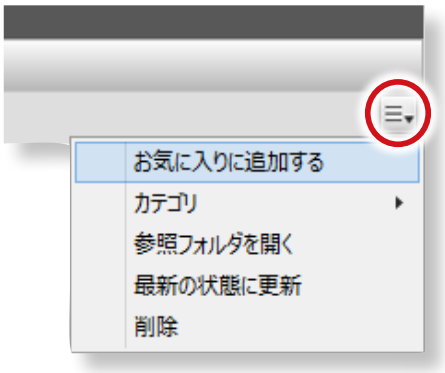
①「お気に入りに追加する」

登録したページテンプレートを選択し、「お気に入りに追加する」を選択すると「カテゴリ選択メニュー」の「お気に入りカテゴリ」に追加されます。

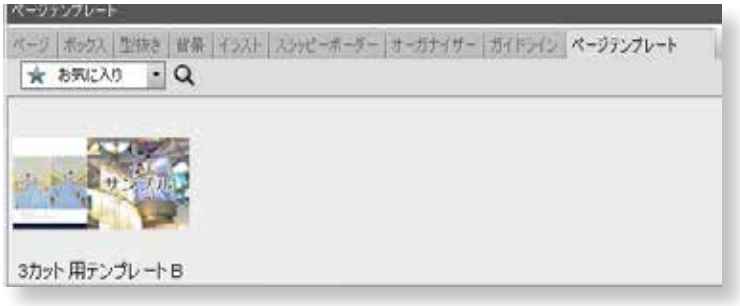
アドバイス！

よく使うページテンプレートを「お気に入り」カテゴリに入れておくとすぐに利用することができて便利です。

「メニュー」から「お気に入りを追加する」をクリックしてください。

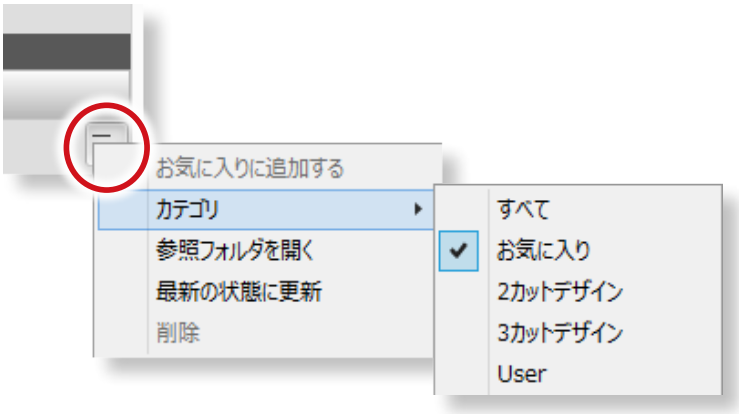


「お気に入り」に追加されます。



②「カテゴリ」

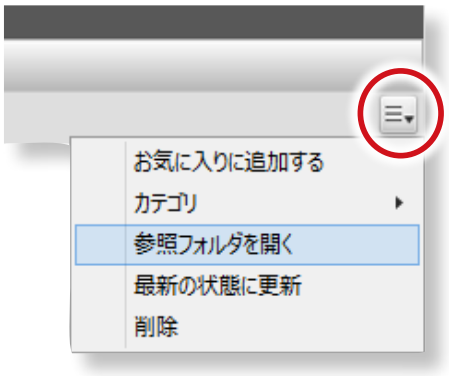
「メニュー」から「カテゴリ」をクリックします。
登録した「カテゴリ」を選択できます。



新規にカテゴリを追加する場合は、14-7 ページの「14-2.　カテゴリの新規作成と登録」をご参照ください。

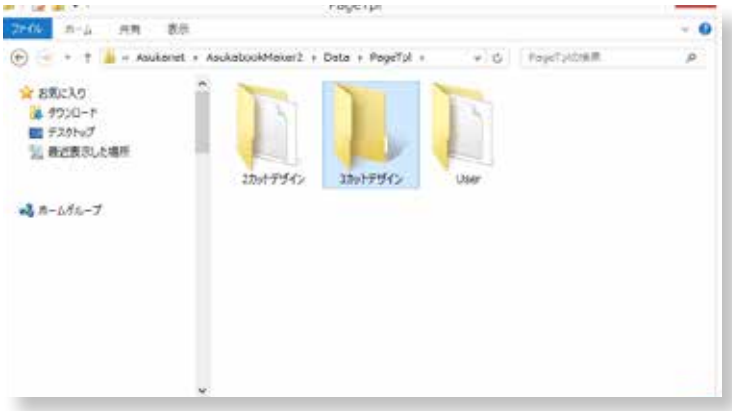
③「参照フォルダを開く」

「メニュー」から「参照フォルダを開く」をクリックします。



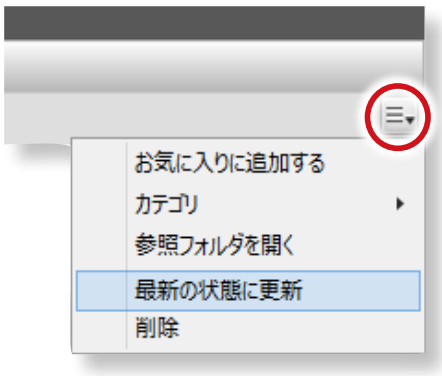
ページテンプレートデータを保存しているフォルダが開きます。

ご注意「カテゴリ」選択メニューで選択されているカテゴリのフォルダが開きます。



④「最新の状態に更新」

「メニュー」から「最新の状態に更新」をクリックします。
新しく登録したカテゴリやページテンプレートのフォルダを再読み込みして ABM2 上に即座に反映させることができます。

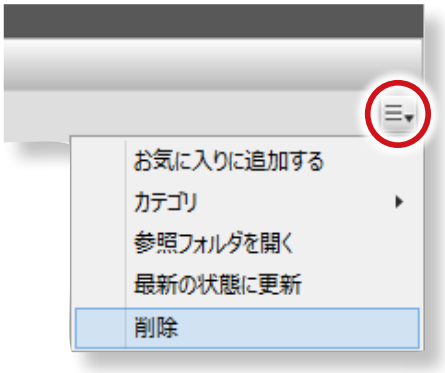


⑤「削除」

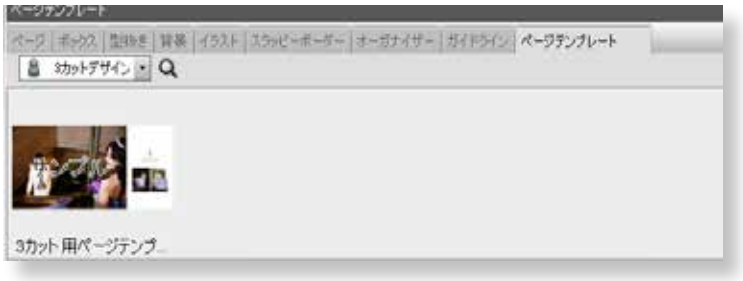
「カテゴリ」に登録してあるページテンプレートを削除します。
削除したいページテンプレートをクリックして選択します。

同じページテンプレートが、「お気に入り」と他のカテゴリにある場合は、その選択したカテゴリのページテンプレートのみ削除されます。

「メニュー」から「削除」をクリックします。
（削除したいページテンプレートを右クリックでも削除可能です。）



選択したページテンプレートが削除されました。



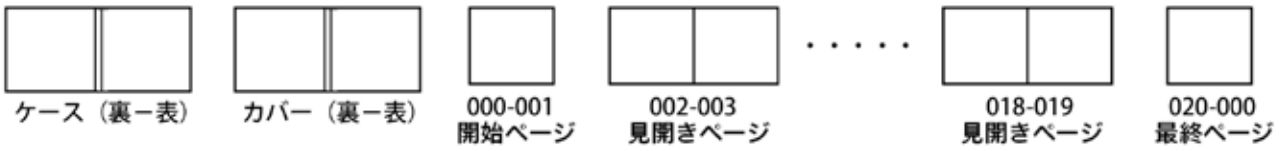
14-5.　保存したページテンプレートの利用　便利な使い方と注意点

ページテンプレートを保存して便利に利用する方法と注意点をご説明いたします。

14-5-1.　ページテンプレートのページ種類と分類

ASUKABOOK は、基本的に「カバーページ」、「ケースページ」、「開始ページ」、「見開きページ」、「最終ページ」で構成されています。ページテンプレートは、このページの種類ごとに分類され保存されます。

●「開始ページ」と「最終ページ」は同じ寸法で、単ページとも呼びます。「ケースページ」が無いものもあります。



上記から表紙ページには、本文用のページテンプレートは表示されません。同じく本文に表紙用のページテンプレートは表示されません。

ご注意

ページテンプレートを保存すると、ページテンプレートタブには同じページ種類のページテンプレートのみ表示されます。例えば、「見開きページ」でページテンプレートを作成し保存した場合は、その保存したページテンプレートは同じ見開きページでしか表示されず使用できません。つまり、「ケース (裏 - 表)」のページでは、「見開きページ」で保存したページテンプレートは表示されず使用できません。

14-5-2.　異なるブックサイズで同じページテンプレートを使用したい場合の注意点

異なるサイズのブックファイルで同じページテンプレートを使用できます。しかし、小さいサイズのブックで作成したページテンプレートをそれより大きいサイズのブックページに適用した場合、イラスト等の画像を同じ解像度のままサイズを拡大するため、あらくなる場合があります。

特にページテンプレートを保存する際に「ロックオブジェクトも含む」にチェックを入れなかった場合は、イラスト等の画像があれていないか確認が必要です。
※注文用データを必ずご確認してください。

ページテンプレートの保存は、14-1 ページの「14-1. ページテンプレートの保存」をご参照ください。

14-5-3.　ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるページテンプレート

ASUKABOOK の縦横比と、ページテンプレートタブ内に表示されるページテンプレートの種類との関係は、下表のようになっています。
また、編集パレットに表示されているページの種類毎 (「カバーページ」、「ケースページ」、「開始ページ」、「終了ページ」、「見開きページ」) に分類されますのでご注意ください。

ページテンプレートを共通して使用したい場合は、14-17 ページの「14-5-2.　異なるブックサイズで同じページテンプレートを使用したい場合の注意点」をご参照ください。

ASUKABOOK の縦横比	ページテンプレートを共通して使用できるサイズ
正方形	30Q、 A3Q、 A4Q、 B5Q、 CD
縦長	A3T（ART EX、ART EXD）、 A3V（ボード）、 A4、 A4S、 A5 A4 変形（KINARI ソフトカバー）、 A4Y・A5Y（KINARI プレミアム） A4QT（えほん BOOK） A5T（ハードカバー） A4C（SHIRONARI）
横長	A3W、A4W、 A4SW、 B4W 、 A5W A4YW・A5YW（KINARI プレミアム） A4QW（えほん BOOK）

14-5-4. 保存したページテンプレートの利用

手順 1 カテゴリの選択

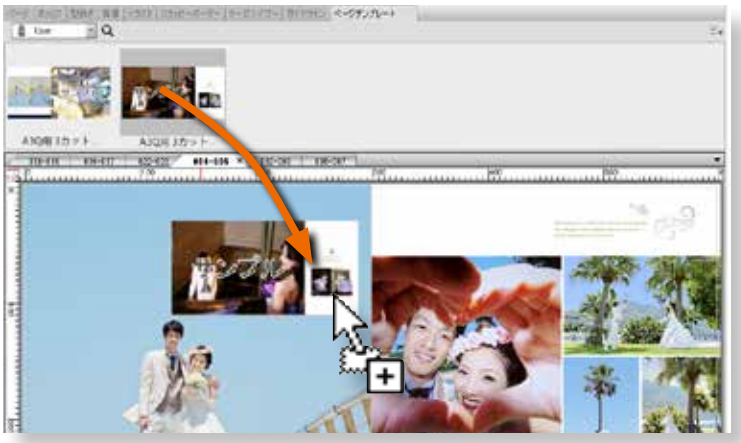
「カテゴリ」メニューから使用したいページテンプレートが登録されているカテゴリを選択します。

手順 2 ページテンプレートの選択

適用したいページテンプレートをクリックして選択します。

手順 3 ページテンプレートの適用

選択したページテンプレートを編集画面にドラッグ＆ドロップしてください。



編集画面にテンプレートが適用されます。

アドバイス！

他のページテンプレートを適用したい場合は、他のページテンプレートを再度ドラッグ & ドロップすれば、再度適用できます。

14-6.　保存したページテンプレートの利用 (位置を固定したオブジェクトを含むの設定結果)

ページテンプレートを保存する際に「位置を固定したオブジェクトを含む」のチェックボックスにチェックを入れた場合と入れない場合の結果をご紹介いたします。

14-6-1.「位置を固定したオブジェクトを含む」とは

「位置を固定したオブジェクトを含む」とは、位置が固定される画像です。画像の上で右クリックして、「位置を固定」のチェックボックスにチェックを入れることにより、ロックオブジェクトとなります。

※「位置を固定」の設定や確認は、画像の上で右クリックしてください。Mac OS でワンボタンマウスの場合は、「control」キーを押しながらクリックしてください。

14-6-2.「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れた場合

「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れた場合、位置を固定したオブジェクトを差し替え可能

なサンプル画像になります。

元のイラストを再貼り付けしたり、異なるイラストを利用することができます。

※上記 14-6-1 で「イラスト画像」の設定がされている場合は、この機能は働きません。

14-6-3.「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れない場合

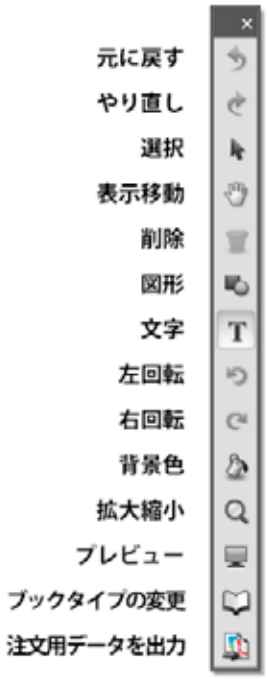
「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れいな場合、位置を固定したオブジェクトは、差し替えができません。

ただし、小さいサイズのブックで作成したページテンプレートを大きいサイズに適用した場合、画像があれる場合があります。

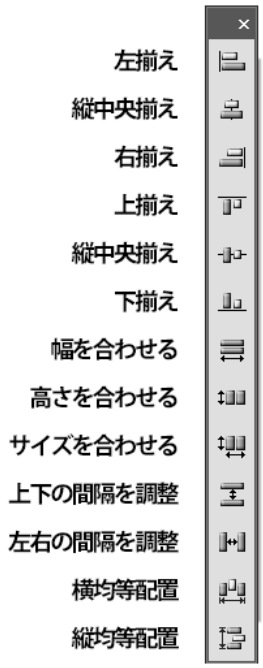
詳細は、14-17 ページの「14-5-2. 異なるブックサイズで同じページテンプレートを使用したい場合の注意点」をご参照ください。

15.　ツールバー

ツールバー



整列ツールバー



15-1.　ツールバー

「ツールバー 」にはレイアウトを補佐する機能がまとめられています。

15-1-1.　元に戻す

作業を元に戻す場合に使います。

15-1-2.　やり直し

元に戻した作業をやり直す場合に使います。

15-1-3.　選択

オブジェクト（画像、図形、文字）を選択し、移動・拡大縮小を行うことができます。
通常時では、常に「選択」が選択されています。

15-1-4.　表示移動

編集パレットで表示を拡大している時に、見えている範囲を移動させるためのツールです。
ショートカットキーは 「Shift」+「h」 になります。

15-1-5.　削除

編集パレットで選択した画像、図形、文字を削除します。 オブジェクトを複数選択して削除することもできます。元の画像ファイルは削除されません。

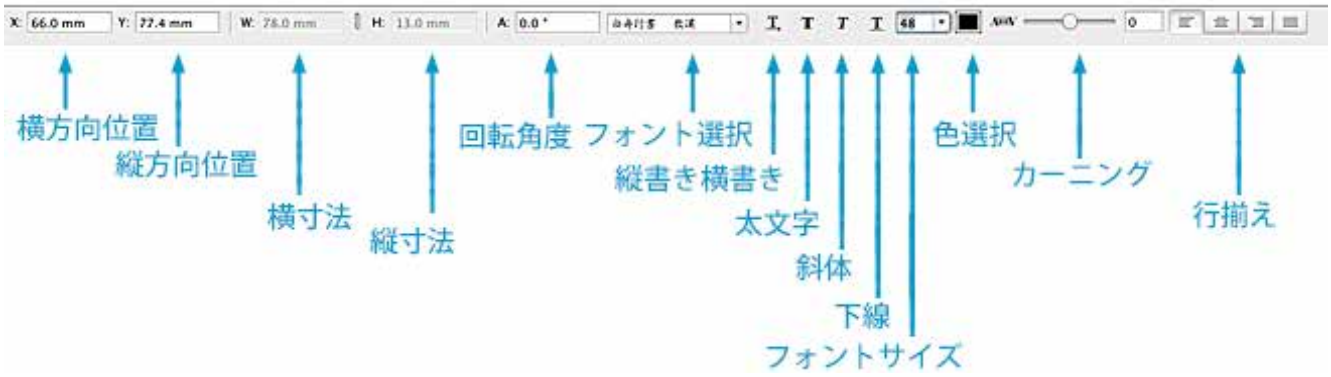
15-1-6.　図形

ツールバーの「図形」アイコンをクリック、または編集パレット上にすでに描かれた図形をクリックすると、ヘッダー領域の表示が図形用になります。

横方向位置 縦方向位置 横寸法 縦寸法 回転角度	編集パレットに描いた図形の横・縦方向の位置情報を「X と Y」、縦・横寸法を「H と W」、回転角度を「A」で表示します。　各表示欄に数値を直接入力して、図形の位置、寸法を変更することもできます。なお、数値入力時には計算式が使えます。 詳しくは本書の「3-3-4.　ヘッダーでの計算式入力」3-37 ページをご覧ください。 表示する単位の初期設定は「mm」です。単位の変更は、「ドキュメント／ルーラーの単位」から行えます。
縦横比固定ボタン	このボタンを押して ON にすると、図形の縦横比が固定できます。 （この機能は数値入力時のみ有効です。マウス操作時はマウスポインタの動きが優先されます。）
四角	「四角」を選択し、編集画面でドラッグすることにより四角を描くことができます。 なお、「Shift」キーを押しながらドラッグすると正方形が描けます。
円	「円」を選択し、編集画面でドラッグすることにより円を描くことができます。 なお、「Shift」キーを押しながらドラッグすると正円が描けます。
直線	「直線」を選択し、編集画面でドラッグすることにより直線を描くことができます。 なお、「Shift」キーを押しながらドラッグすると水平線・垂直線および 15 度ずつ傾いた直線が描けます。
色選択	図形の内側の色を選択します。クリックすると色選択ダイアログが表示されます。 色選択ダイアログにつきましては、本書の「19.　色選択について」19-1 ページをご覧ください。
画像加工	描画した図形に影を加える「ドロップシャドウ」、図形に縁取りを加える「キーライン」、図形に透過効果やグラデーション効果を加えることができる「透明度」を設定することができます。 なお、「直線」にはこれらの効果を付けることはできません。 画像加工の詳細は、本書の「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。

15-1-7.　文字入力

編集パレットに文字を入力するためのツールです。
「文字入力」アイコンをクリックすると、ヘッダー領域の表示が文字用になります。
また、編集パレット上の文字を入力したい位置をクリックすると、マウスカーソルが文字入力モードに変化します。



横方向位置 縦方向位置 横寸法 縦寸法 回転角度	編集パレットに書いた文字の横・縦方向位置の情報を「X と Y」、縦・横寸法を「H と W」、回転角度を「A」で表示します。　横・縦方向位置欄と回転角度欄では、数値を直接入力して、文字の位置を変更することもできます。 なお、数値入力時には計算式が使えます。詳しくは本書の「3-3-4.　ヘッダーでの計算式入力」3-37 ページをご覧ください。 表示する単位の初期設定は「mm」です。　（回転角度は「度」です） 単位の変更は、「ドキュメント／ルーラーの単位」から行えます。
フォントの選択	フォントはご利用中のコンピュータに入っているもの全てをご利用になれますが、欧文半角文字専用のもの、日本語全角文字専用のものなどが混在していますので、選択の際にはご注意ください。
横書き・縦書き	横書きと縦書きを切り替えます。　（この機能が効かないフォントもあります）
太字	選択した文字を太字にします。　（この機能が効かないフォントもあります）
斜体	選択した文字を斜体にします。　（この機能が効かないフォントもあります）
下線	選択した文字に下線をつけます。　（この機能が効かないフォントもあります）
フォントサイズ	フォントサイズを変更できます。プルダウンメニューに表示される「6 ～ 288」の用意されたサイズの中から選択するか、もしくはキーボードから任意の数値を入力してください。 単位は「pt」、 初期設定は「10」pt です。
色選択	文字色を選択します。クリックすると色選択ダイアログが表示されます。 色選択ダイアログについは、本書の「19.　色選択について」19-1 ページをご覧ください。
カーニング	文字間隔を調整できます。調整範囲は「－ 20 ～＋ 20」です。
行揃え	左揃え・中央揃え・右揃え・均等割り付け　から揃えを設定できます。

文字の入力の詳細については、本書の「15-1-11.　拡大縮小」15-4 ページをご覧ください。

15-1-8.　左回転

選択しているオブジェクトを左回転（反時計回り）させます。
クリックするごとに 90 度ずつ左回転します。

15-1-9.　右回転

選択しているオブジェクトを右回転（時計回り）させます。
クリックするごとに 90 度ずつ右回転します。

15-1-10.　背景色

背景色を指定できます。

ツールバーから「背景色」をクリックすると色選択ダイアログが立ち上がります。色を選択してから編集パレットをクリックするとページの背景に色を塗ることができます。
見開きページでは、左右のページに対して別の色を指定することもできます。

背景色に関しましては、4-45 ページの「4-17.　背景色ツールの使い方」をご参照ください。
色選択ダイアログについては、19-1 ページの「19.　色選択について」をご参照ください。

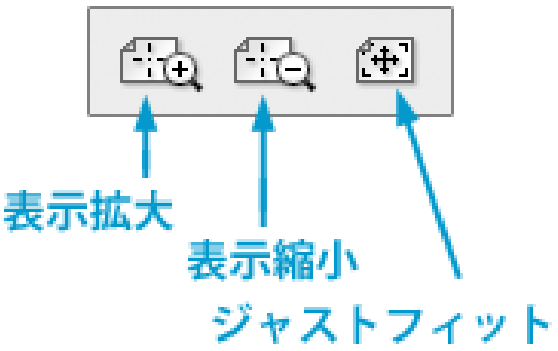
画面内の ASUKABOOK セーフカラー 160 色から背景色または、フルカラーから背景色を選択することができます。また「設定値を保存」ボタンを押すことで、使用頻度の多い色を保存することができます。

15-1-11.　拡大縮小

編集パレットの表示を拡大・縮小できます。

- ●拡大縮小ツール使用時は、編集パレット内でのマウスポインタは「虫眼鏡マーク」として表示され、クリックする度に表示拡大を繰り返します。
- ●この時、macOS の場合は「Option」キー、Windows の場合は「Alt」キーを押しながらクリックすると表示縮小となります。
- ●右クリックするか、もしくは他のツールをクリックすると拡大縮小機能が解除されます。
- ●拡大縮小ツールをクリックすると、ヘッダー部分に下図のようなアイコンが表示されます。

表示拡大	このボタンを 1 回クリックすると、編集パレットの中心を基点として拡大率が 20% 大きくなります。
表示縮小	このボタンを 1 回クリックすると、編集パレットの中心を基点として拡大率が 20% 小さくなります。
ジャストフィット	このボタンをクリックすると、ページ全体が編集パレット一杯に表示されるようになります。



●編集パレット右下のプルダウンメニューを使って拡大率を調整できます。
プルダウンメニューの拡大率は、15%、33%、50%、66%、75%、100%　です。
キーボードから任意の数値を入力しても、拡大率を換えることができます。（数値の入力範囲は、15 ～ 400 です。）

◆マウスドラッグによる部分拡大

右図のように拡大したい部分をドラッグしてください。

ドラッグした部分が編集パレット一杯に表示されるようになります。

●最大の拡大率は「400%」です。

15-1-12.　プレビュー

レイアウト作成後や、レイアウト作成途中の仕上がり状態を確認するなどの目的で、各ページを画面いっぱいに表示して、スライドショーを行うことができます。

15-1-13.　ブックタイプの変更

ブックタイプを変更します。「ブックタイプの変更」では、商品の種類、サイズ、ページ数、仕上げの変更が行えます。この際、変更元のファイルはそのまま保存され、変更した結果をコピーとして別のフォルダーに書き出します。

「ブックタイプの変更」の詳細については、本書の「24.　ブックタイプの変更」24-1 ページをご覧ください。

15-1-14.　注文用データを出力

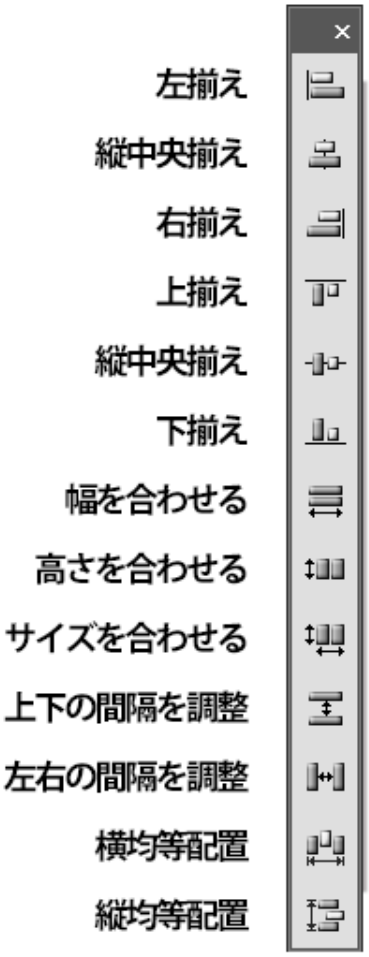
アスカネット注文用のデータを出力します。PDF ファイル、ギャラリー BOX の場合は JPEG データを作成します。出力時には、ユーザー ID・お名前・電話番号（新規作成時、未入力の場合）、仕上げ、部数など必要情報を入力してください。なお、表示されるファイル名は変更せずに出力を行ってください。

「注文用データの出力」の詳細については、本書の「20-2.　注文用データを出力」20-4 ページをご覧ください。

15-2.　整列ツールバー

「整列ツールバー」は、画像、図形、文字列のレイアウトを整えるための機能が集約されています。レイアウト作業では、写真の位置や大きさなどを揃えてレイアウトするのに大変便利です。
この機能は選択した複数のオブジェクト（写真、図形、文字）に対して機能します。

整列ツールバー



●横方向の整列について

整列をしたいオブジェクトを右図のように選択します。

◆選択の方法

macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

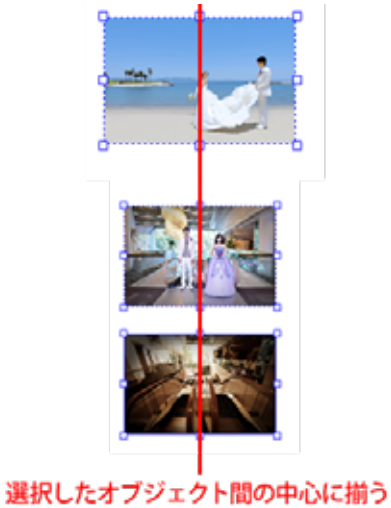
「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

15-2-1.　左揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の**最も左側にあるオブジェクトの左端に揃え**ます。

15-2-2.　横中央揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の**最も左側と右側にあるオブジェクトの横方向中心に揃え**ます。



15-2-3.　右揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の**最も右側にあるオブジェクトの右端に揃え**ます。

●縦方向の整列について

整列をしたいオブジェクトを右図のように選択します。

◆選択の方法

macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

15-2-4.　上揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の**最も上側にあるオブジェクトの上端に揃え**ます。

15-2-5.　縦中央揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の**最も上側と下側にあるオブジェクトの縦方向中心に揃え**ます。

15-2-6.　下揃え

選択したオブジェクトを、選択した内の最も下側にあるオブジェクトの下端に揃えます。

●サイズ合わせについて

サイズを合わせたいオブジェクトを番号順に選択します。一番最後に選択した画像が基準になります。

右図の例では、**3番の写真に対して、1番と2番の写真のサイズが合う**ようになります。

◆選択の方法

macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

15-2-7.　幅を合わせる

選択したオブジェクトを、**最後に選択したオブジェクト（この例では3番）の幅に合わせ**ます。

15-2-8.　高さを合わせる

選択したオブジェクトを、最後に選択したオブジェクト（この例では3番）の高さに合わせます。

15-2-9.　サイズを合わせる

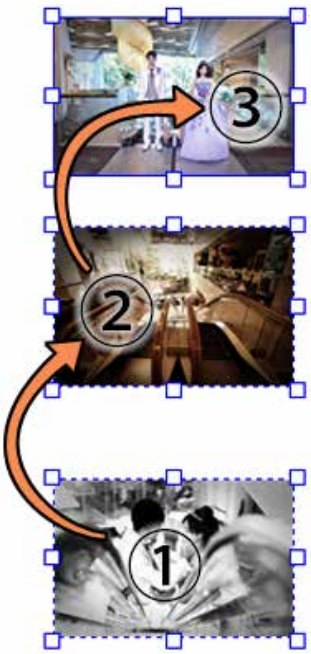
選択したオブジェクトを、最後に選択したオブジェクト（この例では3番）の幅と高さに合わせます。

15-2-10.　上下の間隔を調整

手順 1　間隔を調整したい写真を選択

間隔を調整したい写真を右図のように選択します。**位置の基準となる写真（動かしたくない写真）を最後に選択する**ようにしてください。

●右の例では、 1番、2 番、3 番の順にクリックして選択しています。



◆選択の方法

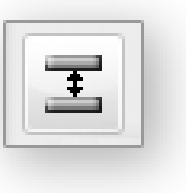
macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

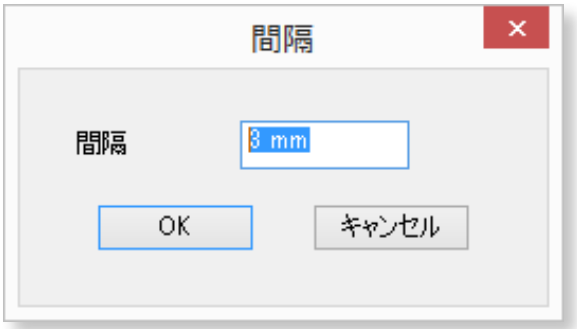
「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

手順 2 「上下の間隔を調整」ボタンをクリック



手順 3 間隔を数値で入力

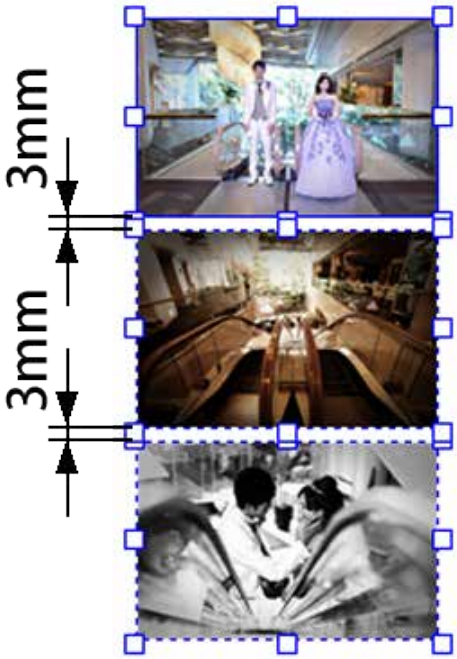
「間隔」ダイアログが表示されます。
この例では、「3」ミリとしています。



単位は、ルーラーに設定している単位に従います。
詳しくは、本書の「4-12-2.　ルーラーの単位」4-29 ページをご覧ください。

選択した写真の上下間隔が 3 ミリになります。

この例の場合は、位置の基準を最上位の写真にしていますので、他の 2 枚の写真が上方に移動するように間隔が調整されます。



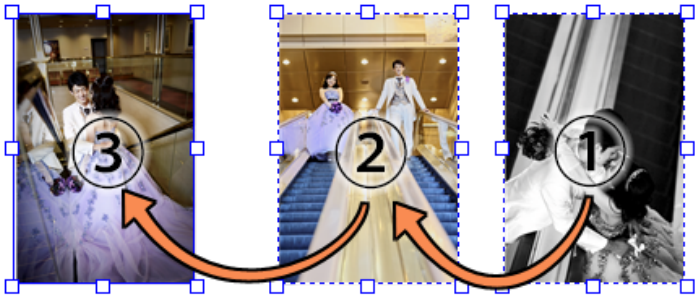
15-2-11.　左右の間隔を調整

手順 1　間隔を調整したい写真を選択

間隔を調整したい写真を右図のように選択します。

位置の基準となる写真（動かしたくない写真）を最後に選択するようにしてください。

右の例では、 1番、2 番、3 番の順にクリックして選択しています。



◆選択の方法

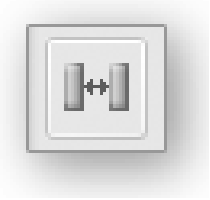
macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

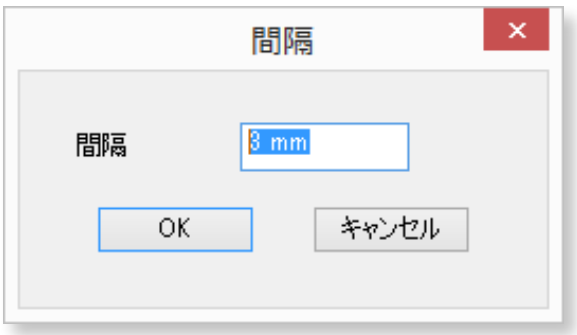
手順 2　「左右の間隔を調整」ボタンをクリック



手順 3　間隔を数値で入力

「間隔」ダイアログが表示されます。

この例では、「3」ミリとしています。

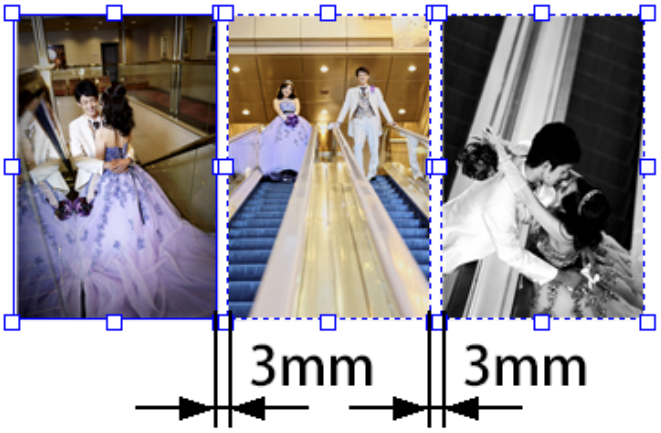


単位は、ルーラーに設定している単位に従います。

詳しくは、本書の「4-12-4.　ガイドラインの利用」4-31 ページをご覧ください。

選択した写真の左右間隔が 3 ミリになります。

この例の場合は、位置の基準を最も左側の写真にしていますので、他の 2 枚の写真が左に移動するように間隔が調整されます。

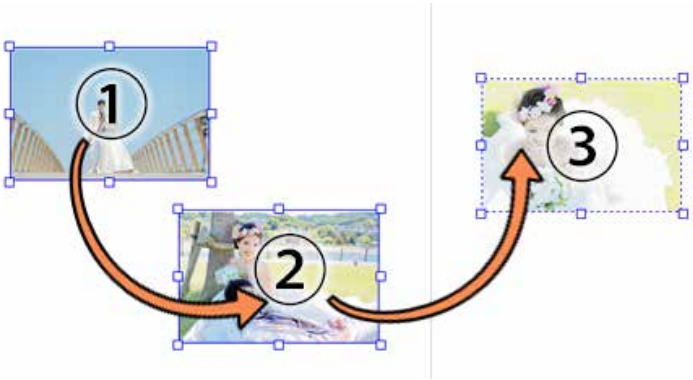


15-2-12.　横均等配置

手順 1　間隔を均等にしたい写真を選択

間隔を等間隔にしたい写真を右図のように選択します。。

右の例では、 1番、2 番、3 番の順にクリックして選択しています。



◆選択の方法

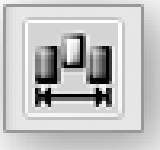
macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

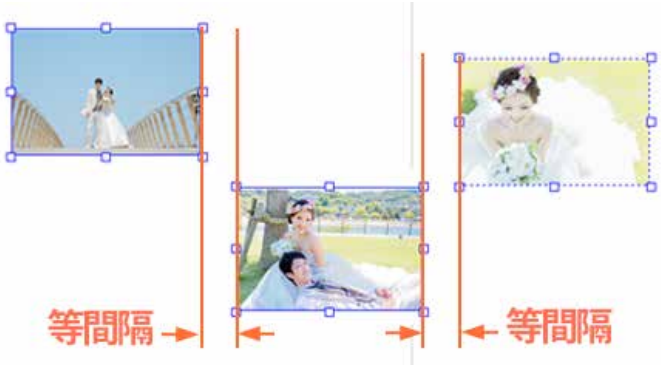
手順 2　「横均等配置」ボタンをクリック



手順 3 横方向に均等間隔で配置されます

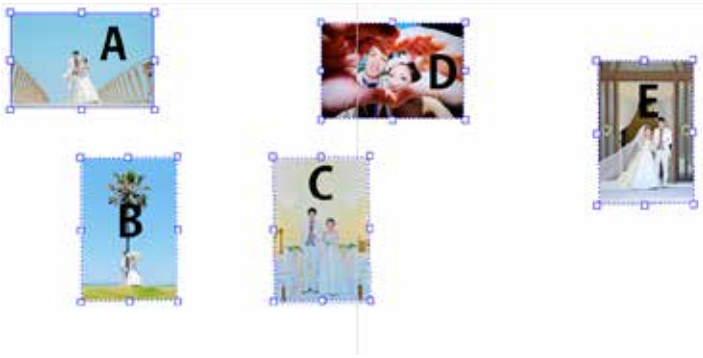
左の写真と右の写真に対して中央の写真が等間隔で配置されます。

※左の写真と右の写真の位置は、動きません。縦位置もかわりません



横均等配置の基準

右のように 5 枚の写真を横均等配置してみます。写真の左端が順番の基準となります。



写真の左端を基準として横に均等配置されます

写真の左端が基準になりますので、右左の写真 A と右の写真 E に対して中央の B･C･D、3 枚の写真が等間隔で配置されます。

※写真の左端が、いちばん左にある A の写真と写真の左端がいちばん右にある E の写真の位置は、動きません。縦位置もかわりません。

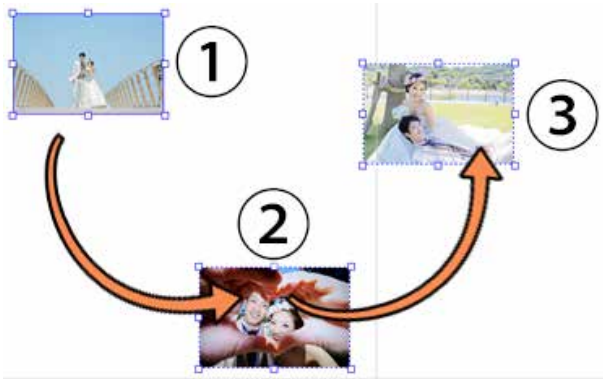
横均等配置　適用例

一度に複数の写真を横均等配置した例です。

15-2-13.　縦均等配置

手順 1　間隔を均等にしたい写真を選択

間隔を等間隔にしたい写真を右図のように選択します。



右の例では、 1番、2 番、3 番の順にクリックして選択しています。

◆選択の方法

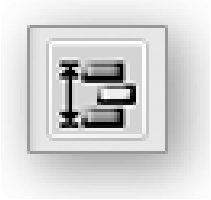
macOSの場合

「Command」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

Windowsの場合

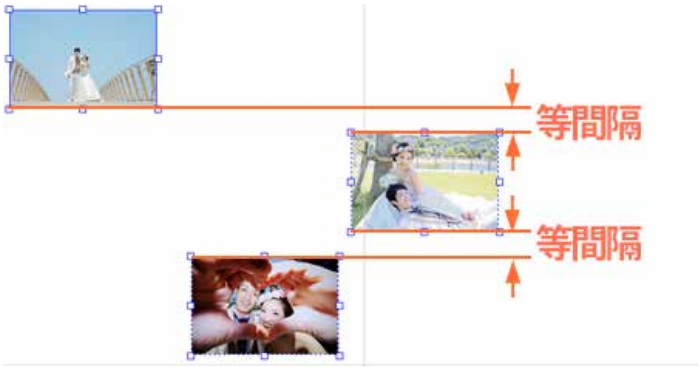
「Ctrl」キーを押しながら、選択したいオブジェクトをマウスポインタでクリックします。

手順 2　「縦均等配置」ボタンをクリック



手順 3　縦方向に均等間隔で配置されます

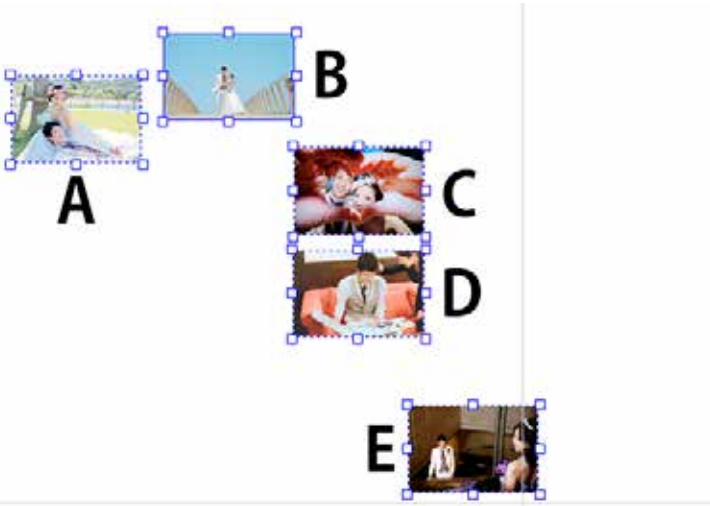
写真の上側が基準となります。上の写真と下の写真に対して中央の写真が等間隔で配置されます。



※写真の上端が、一番上にある写真と写真の上端が一番下にある写真の位置は、動きません。横位置もかわりません

縦均等配置の基準

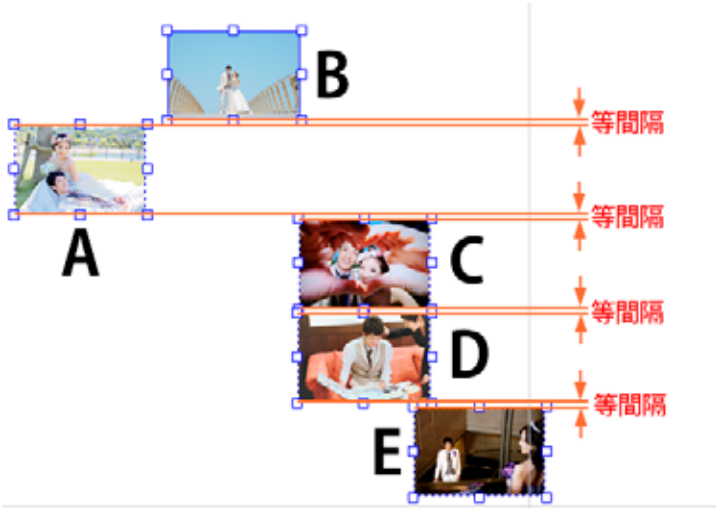
右のように 5 枚の写真を縦均等配置してみます。写真の上端 (ここでは B の写真) が順番の基準となります。



写真の上端を基準として縦方向に均等配置されます

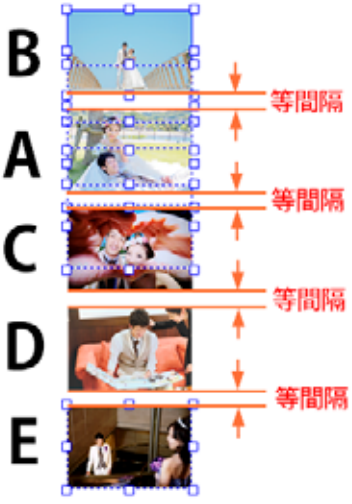
写真の上端が順番の基準になりますので、いちばん上の写真 B といちばん下の写真 E に対して中央の A・C・D、3 枚の写真が等間隔で配置されます。

※写真の上端が一番上にある B の写真と写真の上端が一番下にある E の写真の位置は、動きません。横位置もかわりません



縦均等配置　適用例

一度に複数の写真を縦均等配置した例です。



16.　画像加工

ABM2 では、レイアウトされた写真画像に「ドロップシャドウ」、「キーライン」などの加工を加えることができます。
また、写真画像の明るさや色合いの調整を行う機能も備えています。
これらの各効果は混合してかけることも、画像を複数選択して同じ効果を適用させることもできます。

16-1.　「画像加工」ダイアログの表示方法

●編集パレットにレイアウトされた画像を選択している時に、ヘッダー領域の「画像加工」ボタン（上図赤丸）をクリックすると、「画像加工」ダイアログが表示されます。

●「画像加工」ダイアログは、加工を施したい画像をダブルクリックしても表示されます。

●また、加工を施したい画像の上で右クリックすると、右図のようなサブメニューが表示されます。　このサブメニューから「ドロップシャドウ」、「キーライン」、「色調の調整」などのダイアログに直接アクセスすることができます。（右図赤枠）

16-2　ドロップシャドウ

選択した画像に影を加えることができます。

「サイズ」、「距離」、「透明度」、「拡散」、「方向」を調整し、影を加えます。

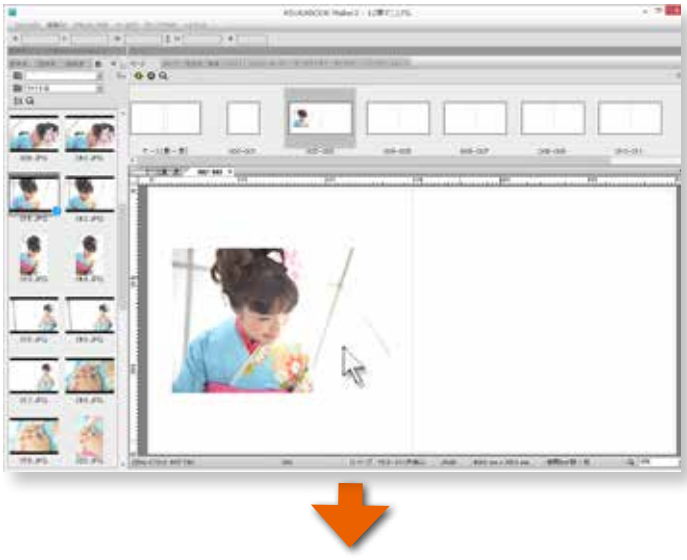
●ご自分で作った設定は、「設定値を保存」ボタンをクリックすることで保存することができます。

例　題

この例では、右図の写真を使ってご説明します。

手順 1　写真の選択してダブルクリック

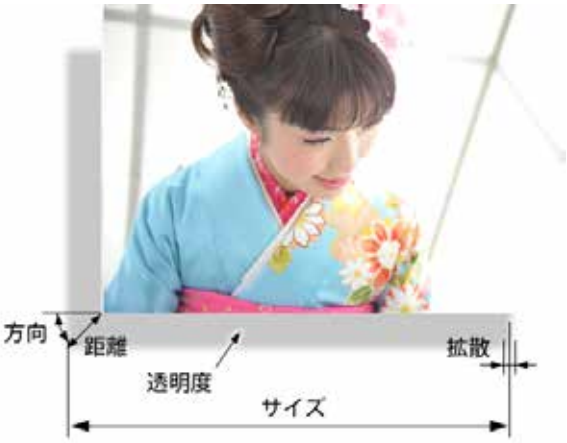
ドロップシャドウを付けたい写真を選んで、ダブルクリックしてください。



「画像加工」ダイアログが表示されますので、左メニューの「ドロップシャドウ」にチェックを入れてください。

解　説　ドロップシャドウのパラメータ（調整要素）

●「サイズ」スライダー
影の大きさを調整します。写真と同じサイズの影を「100」とします。
初期設定を 100 として、最小 50 から、最大 160 まで調整できます。



●「距離」スライダー
写真と影の距離を調整します。
初期設定を 10 として、最小 0 から、最大 1,000 まで調整できます。
写真が宙に浮いたように仕上げるには、この距離の調整が重要になります。

●「透明度」スライダー
影の濃さを調整します。初期設定は 50。
最小値 0 では影の効果は無くなり、最大値 100 では影は真っ黒（RGB 値 =0）になります。

●「拡散」スライダー
影の縁の部分のボケ具合を調整します。
初期設定を 5 として、最小 0（ボケ無し）から、最大 250 まで調整できます。

●「方向」ダイアル
写真に対する影の方向を調整します。
初期設定を -45 度として、360 度の範囲で調整できます。

手順 2　必要に応じてパラメータを調整

アドバイス！

強い日差しを表現する

強い日差しを表現する場合は、透明度を高く、拡散を少な目に調整します。

右図の例は、透明度 =75、拡散 =50

アドバイス！

淡い日差しを表現する

淡い日差しを表現する場合は、透明度を低く、拡散を大き目に調整します。

右図の例は、透明度 =25、拡散 =160

アドバイス！

PNG 画像に影を付ける

透明色を指定できる PNG 画像にドロップシャドウを付けることができます。

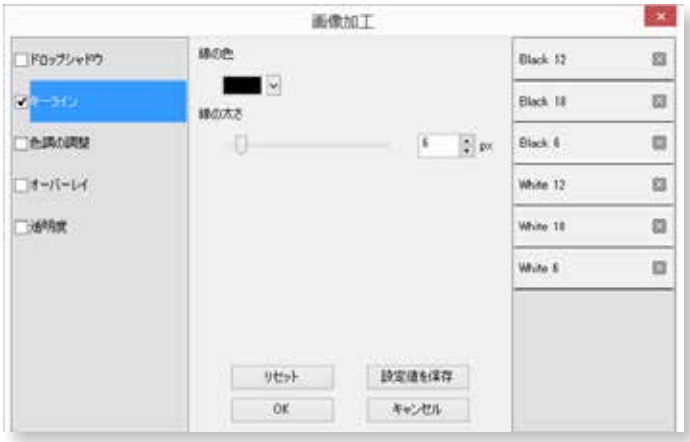
右図の例は、白でトリムを描き、周辺を透明色に指定した PNG 画像です（Adober Photoshop® では透明色はチェック柄として表示されます）。

この PNG 画像にドロップシャドウを指定すると、右図のようにトリムの周辺に影を付けることができます。
サイズ =100、距離 =35、透明度 =20、拡散 =5、
角度 =-45

16-3　キーライン

選択した画像の縁に色のついたラインを引くことができます。
「線の色」、「線の太さ」を設定できます。

●ご自分で作った設定は、「設定値を保存」ボタンをクリックすることで保存することができます。



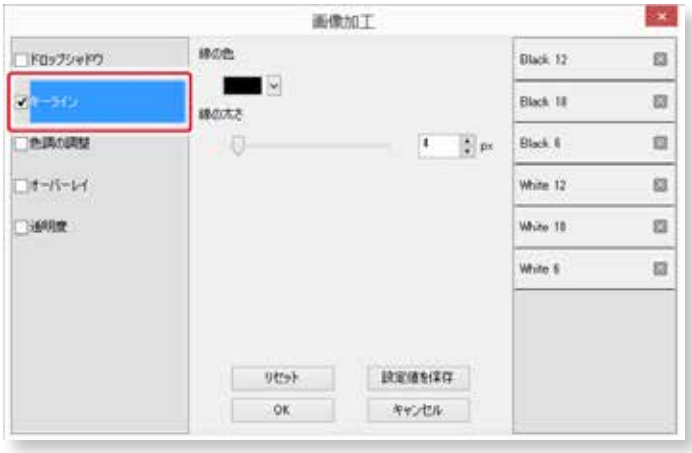
例　題

この例では、右図の写真を使ってご説明します。

手順 1 写真を選択してダブルクリック

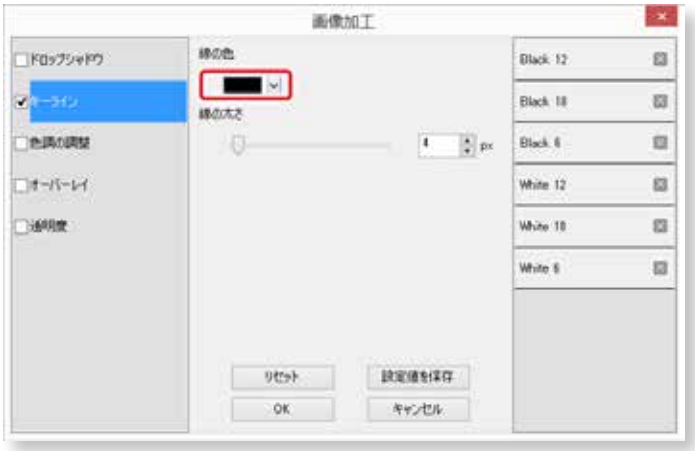
キーラインを付けたい写真を選んで、ダブルクリックしてください。

「画像加工」ダイアログが表示されますので、左メニューの「キーライン」にチェックを入れてください。



手順 2 キーラインの色を選択する

「線の色」をダブルクリックすると「色選択」ダイアログが開きます。



線の色を選び、「OK」ボタンを押します。

●初期設定は「黒」になっています。

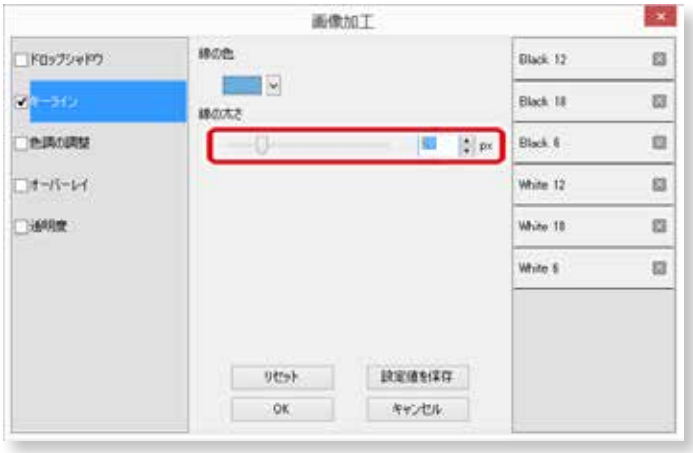
手順 3　線の太さを調整する

スライダーを動かしてキーラインの太さを調整します。調整範囲は 0 から 100pixel です。

アドバイス！

線の太さの初期設定は、「6 pixel」になっています。ASUKABOOK は画像解像度が 271dpi ですので、6 pixel の線幅は印刷すると約 0.5mm の線幅となります。

右は、20pixel にした例です。



設定したカラーと太さでキーラインがつきました。

解　説　罫線の太さについて

ページの背景が黒の場合、キーラインの色を「白」にすると写真が引き立ちます。ただし、キーラインを白にした場合には、線の太さを「3 pixel」以上としてください。

ASUKABOOK は網点方式で印刷されています。この方式は写真などのグラデーションは綺麗に仕上がりますが、幾何学模様などにはジャギーやロゼッタパターンなどが発生することがあります。

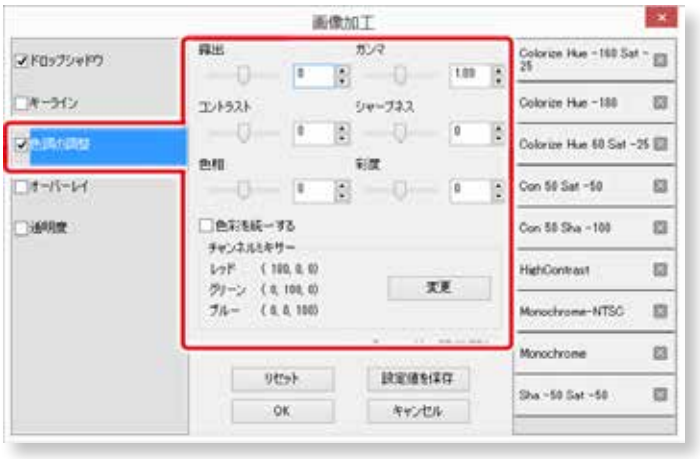
特に白抜きの細線は、3 pixel 以下にした場合、線にジャギーが入ったり、一部が潰れる場合がありますので、ご注意ください。

線の太さの換算	
ピクセル数	線の太さ
1 pixel	約 0.1 mm
2 pixel	約 0.2 mm
3 pixel	約 0.3 mm
4 pixel	約 0.35 mm
5 pixel	約 0.45 mm
6 pixel	約 0.5 mm

16-4　色調調整

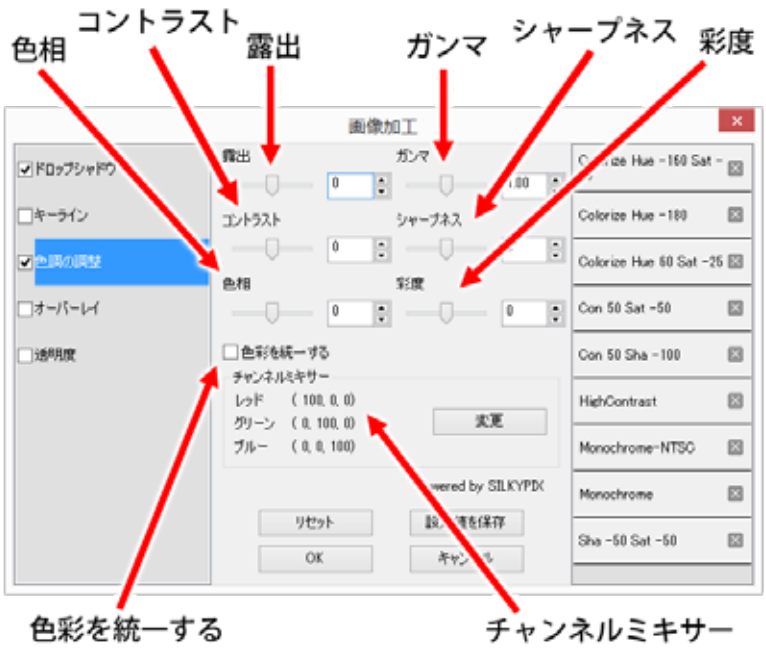
選択した画像の明るさやコントラストなどを調整できます。

●ご自分で作った設定は、「設定値を保存」ボタンをクリックすることで保存することができま



16-4-1.　色調調整のバラメータ（要素）

「画像の調整」機能では、選択した画像に対して以下の色調調整が行えます。

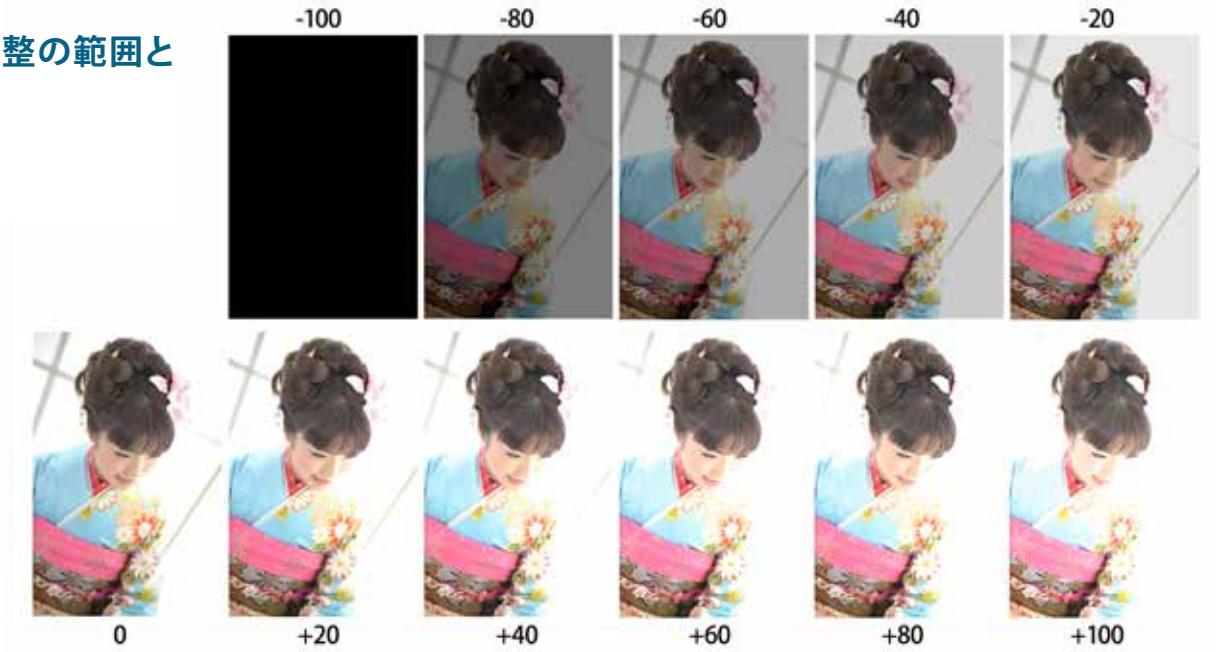


ABM2 は、株式会社 市川ソフトラボラトリーの画像調整エンジンを搭載しています。

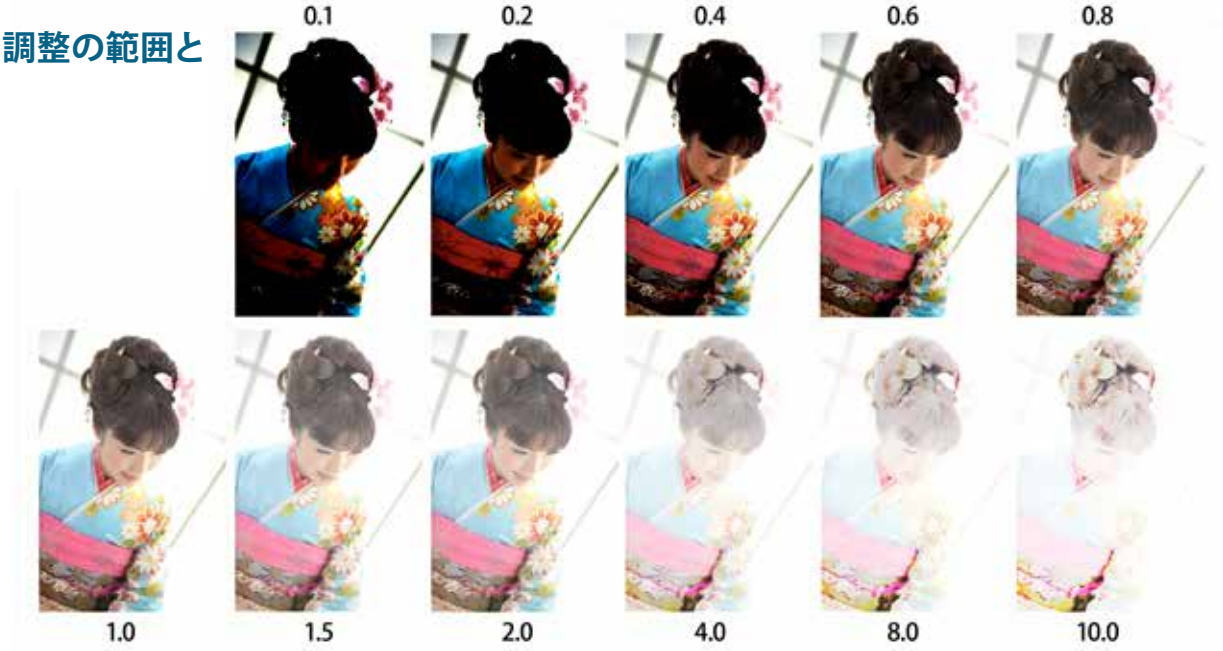
露出	ハイエストポイントの明るさを調整することで、画像全体の明るさを調整します。シャドウポイントの明るさは変化しません。 最大値にしても写真全体が「色飛び」しないようにしてあります。
ガンマ	中間調の明るさを調整する時に使います。 ハイエストポイントとシャドウポイントの明るさは変化しません。
コントラスト	画像のコントラストを調整します。ハイエストポイント、シャドウポイント、中間調の 3 点の明るさは変化しません。
色相	画像の色相を調整します。　詳しくは 12-9 ページの解説をご覧ください。
彩度	画像の彩度を調整します。　詳しくは 12-9 ページの解説をご覧ください。
シャープネス	「＋」方向は画像のシャープネスを調整し、「－」方向はボケ具合を調整します。いずれの方向も調整範囲は極わずかです。
色彩を統一する	セピアカラーを作る際に使用します。（画像のコントラストを維持しながら、色相を一系統に変調します）
チャンネルミキサー	R、G、B の各チャンネルを独立して調整することができます。モノクローム、セピアカラーを作るときにも威力を発揮します。

16-4-2.　色調の調整範囲

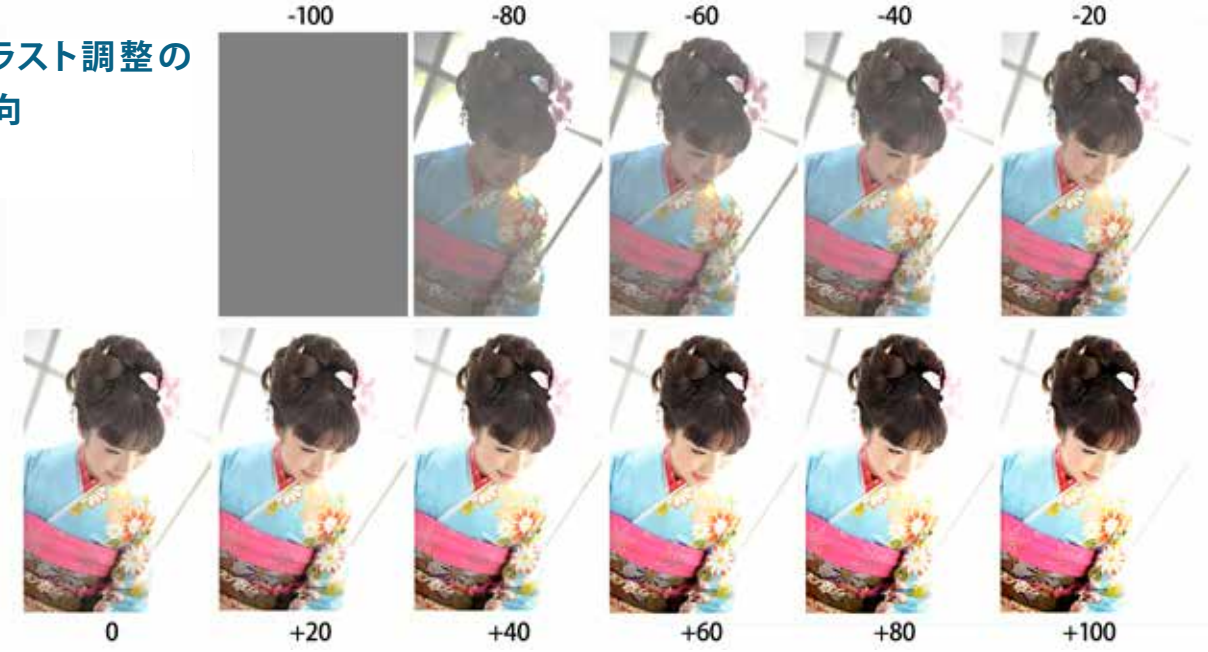
①露出調整の範囲と傾向



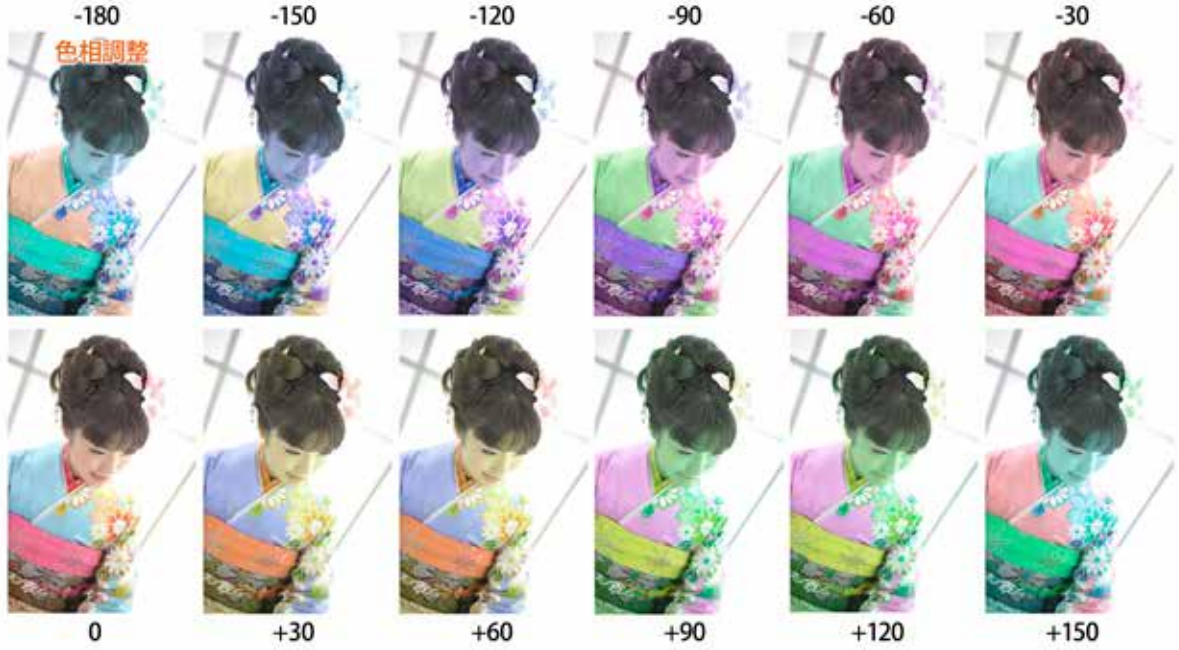
②ガンマ調整の範囲と傾向



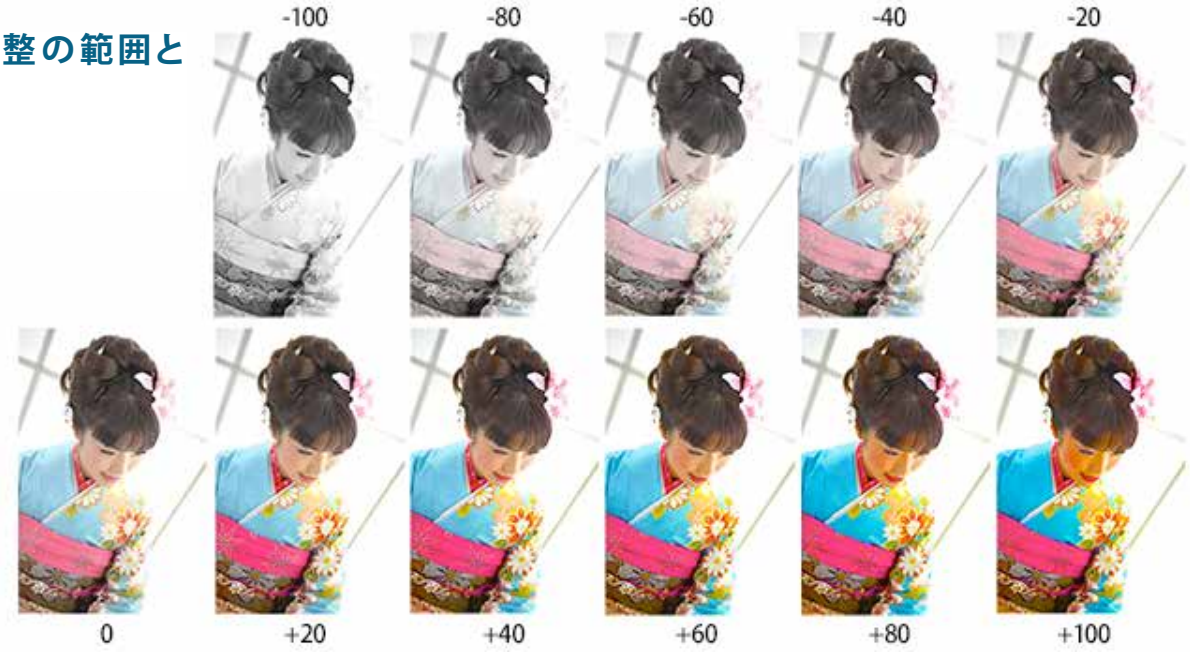
③コントラスト調整の範囲と傾向



④色相調整の範囲と傾向



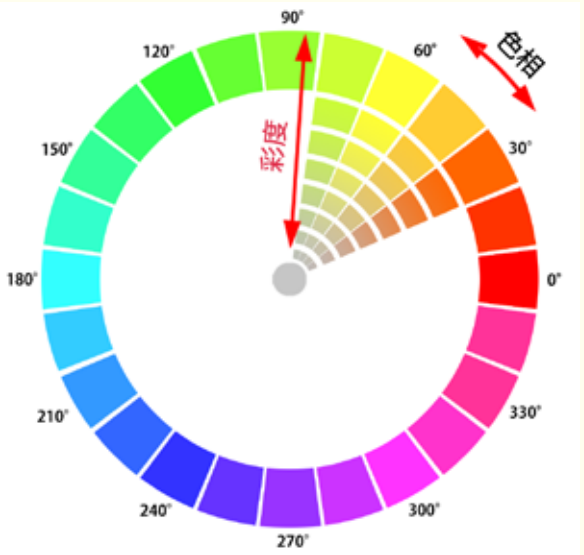
⑤彩度調整の範囲と傾向



解　説　色相と彩度について

●色相（しきそう）とは「色」のことで、角度をもって表します。
右図は色相環（しきそうかん）と言い、色の連続的な変化を円環に表したものです。
ABM2 の色相スライダーは、右方向に＋ 180 度、左方向にー 180 度動き、結果的に 360 度をカバーしています。

●彩度（さいど）とは色の鮮やかさのことです。
ABM2 の彩度スライダーは、右方向に動かすと色相環の外側に移動し、色が鮮やかになります。また、彩度スライダーを左方向動かすと、色相環の中心に移動し、色があせます。なお、最も左側に振るとー 100 となり、写真はモノクロになります。



16-4-3.　写真の補正　その１／明るさの調整

手順１　調整したい写真を選択してダブルクリック

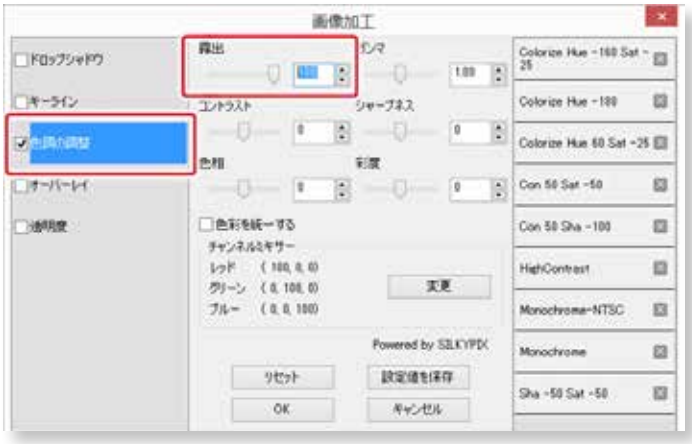
このレイアウトでは、右上の写真が少し暗いようです。（赤丸部分）この写真の明るさを調整してみましょう。

右上の写真を選択し、ダブルクリックすると画像加工ダイアログが表示されます。

もしくは右クリックするとサブメニューが表示されるので、「色調調整／設定」をクリックします。

手順２　「色調の調整」を行う

画像加工ダイアログが表示されますので、左メニューで「色調の調整」にチェックを入れてください。



「色調の調整」にチェックを入れると色調調整のダイアログが表示されます。
露出不足と思われる場合は、「露出」スライダーを動かすと、明るさが変化します。

「色調の調整」の詳細については、「16-4-2.　色調の調整範囲」16-9 ページをご覧ください。

露出が補正されました。

ご注意

写真を白飛びさせないようにご注意ください。

16-4-4.　写真の補正　その 2 ／色の調整

手順 1　調整したい写真を選択してダブルクリック

右の写真で肌色の赤みを少し足してみましょう。

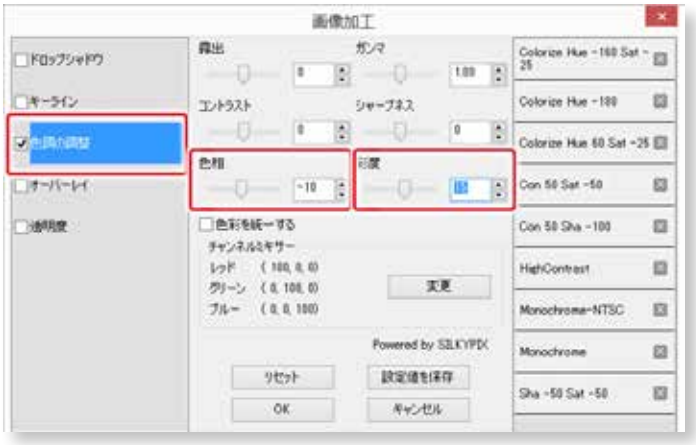
写真を選択し、ダブルクリックすると画像加工ダイアログが表示されます。

もしくは、右クリックするとサブメニューが表示されるので、「色調調整／設定」をクリックします。

手順 2　「色調の調整」を行う

画像加工ダイアログの左メニュー「色調の調整」にチェックを入れてください。

肌色に赤みを足すには、色相をマイナス方向（スライダーを左方向）へ動かします。
また、赤みを強調するには、彩度をプラス方向（スライダーを右方向）へ動かします。



ご注意

いづれも強調しすぎないようにご注意ください。

色相と彩度の関係については「16.　画像加工」・「【解説】　色相 と 彩度 について」16-10 ページをご覧ください。

16-4-5.　写真に効果をつける　その 3 ／効果的なモノクロ写真を作る

ABM2 は、画像加工ダイアログに「チャンネルミキサー」を備えています。 これを使ってカラー写真をモノクロに加工できます。彩度を下げて作成するモノクロ写真より、階調性の優れたモノクロ写真ができますので、是非お試しください。

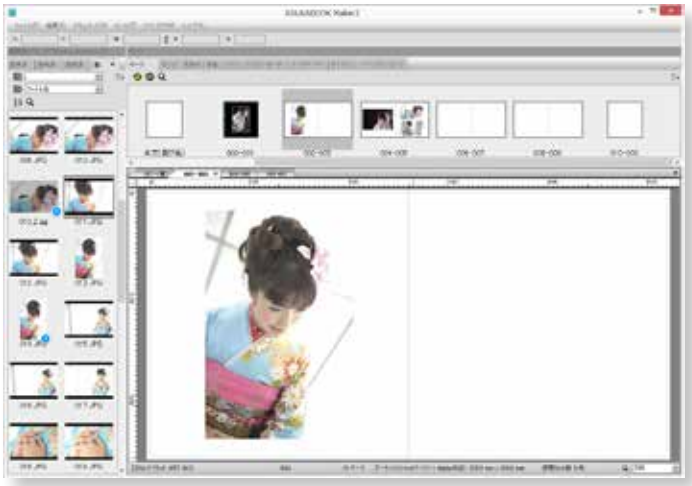
例　題

この例では、女性ポートレートを使ってご説明します。

手順 1　写真を選択してダブルクリック

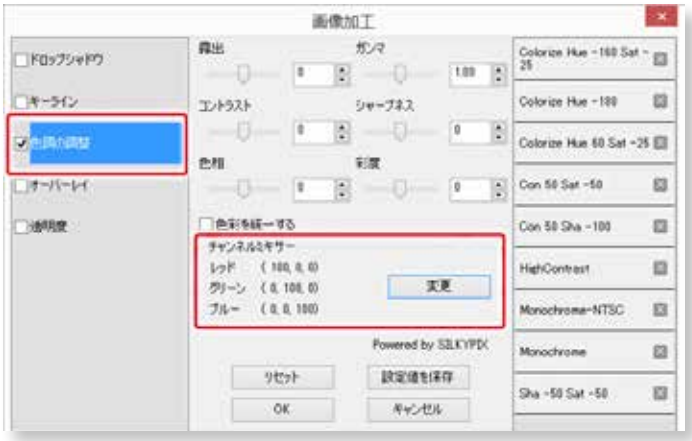
モノクロにしたいカラー写真を選んで、ダブルクリックしてください。

もしくは、右クリックするとサブメニューが表示されるので、「色調調整／設定」をクリックします。



「画像加工」ダイアログが表示されますので、左メニューの「色調の調整」にチェックを入れてください。

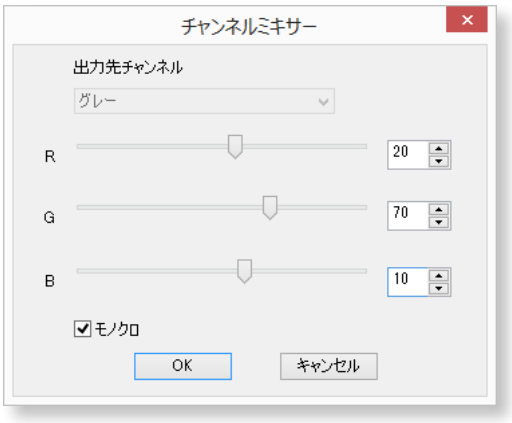
次に、チャンネルミキサー欄の「変更」ボタンをクリックしてください。



手順2　チャンネルミキサーの設定

「チャンネルミキサー」ダイアログが表示されます。
「モノクロ」にチェックをつけます。

R 欄に「20」
G 欄に「70」
B 欄に「10」　と入力します。



その後、「OK」をクリックすると「チャンネルミキサー」ダイアログが閉じます。
さらにもう一度「OK」をクリックして「画像加工」ダイアログを閉じてください。

カラー写真の階調を損なわずにモノクロ写真を作ることができます。

●チャンネルミキサーの R、G、B 値は必要に応じて調整してください。

解　説

チャンネルミキサーの効果

チャンネルミキサーを使い、R、G、B チャンネルを個別に調整することにより、カラー写真の各部の階調を調整しながらモノクロ写真を作ることができます。
特に、R=20、G=70、B=10 という設定は、カラーのコントラストと、モノクロのコントラストがほぼ同じように見える設定です。
彩度を下げてモノクロにする方法では微調整ができませんので、このチャンネルミキサーによる方法をお薦めします。

チャンネルミキサーでモノクロにしたもの
R、G、B を個別に調整することにより
コントラストの調整ができる

カラー

彩度を落としてモノクロにしたもの
カラーとはコントラストが異なり、
微妙な調整ができない

16-4-6.　写真に効果をつける　その 4 ／セピアカラー

ノスタルジックなセピアカラーの写真は多くのシーンで使われています。ABM2 は、画像加工ダイアログを使って簡単にセピアカラーを作ることができます。

手順 1　写真を選択してダブルクリック

セピアにしたいカラー写真を選んで、ダブルクリックしてください。

もしくは、右クリックするとサブメニューが表示されるので、「色調調整／設定」をクリックします。

「画像加工」ダイアログが表示されますので、左メニューの「色調の調整」にチェックを入れてください。

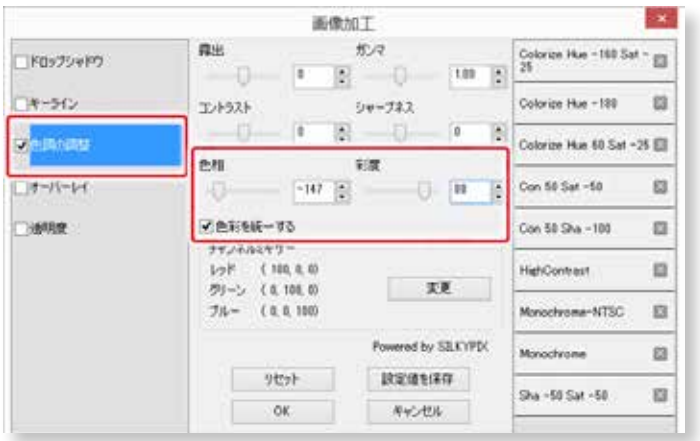
次に、「色彩を統一する」にチェックを入れてください。
自動的に 色相 = ー 160、彩度 =80　の状態になります。

色相 = ー 160、彩度 =80 のセピアカラーは右図の状態です。
ここから 色相と彩度スライダーを動かしてお好みのカラーに調整してください。

手順2 色相・彩度の調整

●色合いは、「色相」スライダーで調整
●色の濃さは、「彩度」スライダーで調整します。

この例では、色相 =-147、彩度 =88 に調整してみました。

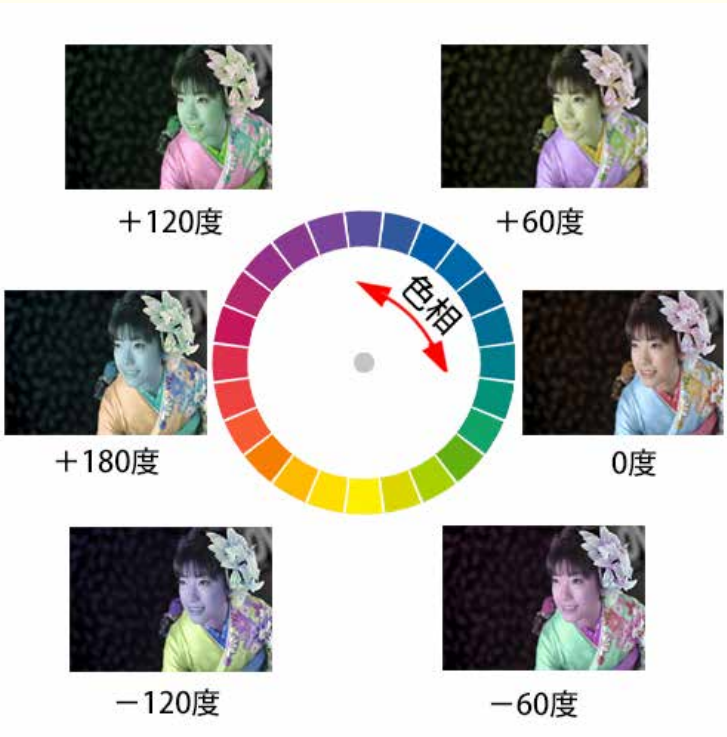


詳しくは下記解説をご覧ください。

解　説　セピアカラー／色相・彩度の調整

●色合いは、「色相」スライダーで調整
色相スライダーは－ 180 から＋ 180 まで可変できます。
初期設定は－ 160 になっています。
右図は色相環で見るセピアカラーです。

●色の濃さは、「彩度」スライダーで調整彩度スライダーは－ 100 から＋ 100 まで可変できます。
初期設定は 80 になっています。
－ 100 にすると色の無いモノクロ写真になります。



16-5.　オーバーレイ

写真にある特定の色を被せることを「オーバーレイ」と言います。

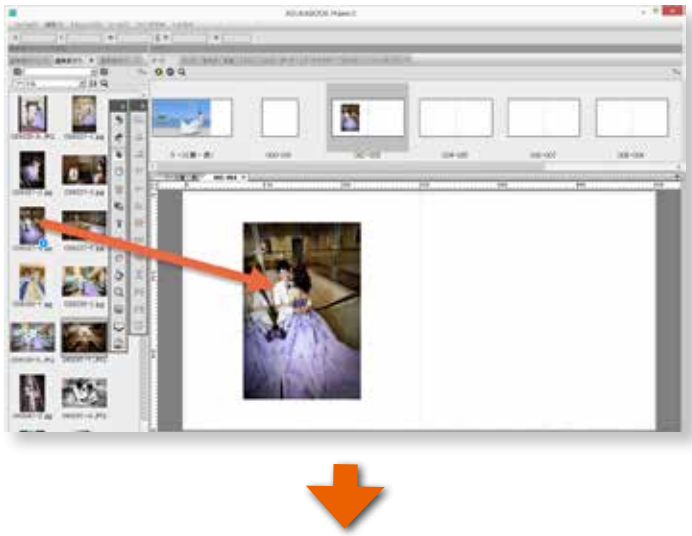
●ご自分で作った設定は、「設定値を保存」ボタンをクリックすることで保存することができます。

例　題

右の写真は、背景となる写真に半透明の黒色を被せることにより、左ページの写真を引き立てる効果を持たせています。

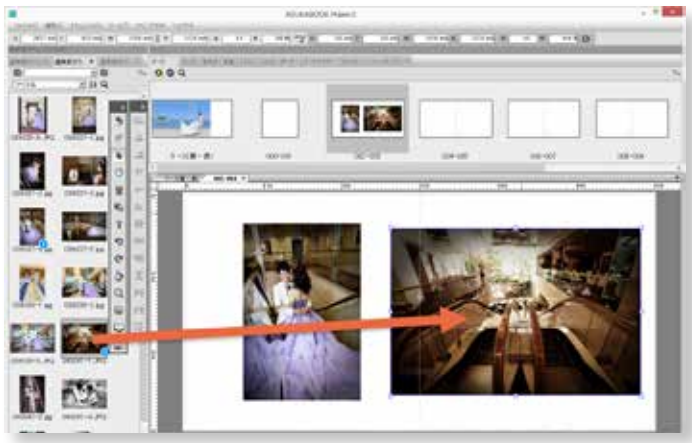
手順 1　主役の写真をレイアウトする

まず主役となる写真を選択し、左ページにレイアウトします。



手順 2　背景となる写真をレイアウトする

次に背景となる写真を選択し、適当な位置にレイアウトします。

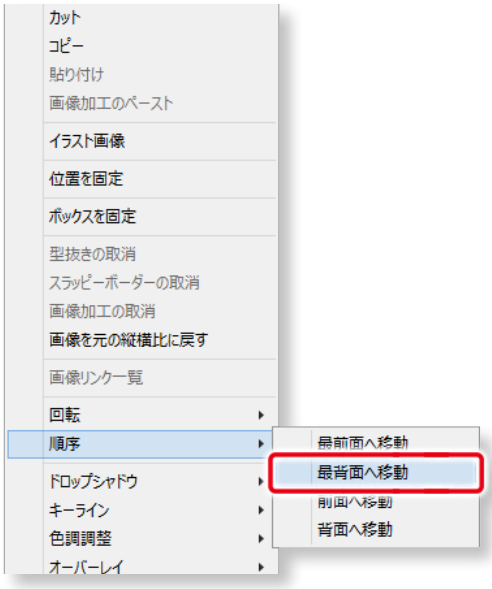


手順3 背景写真を拡大

背景となる写真を見開きページいっぱいに伸ばします。

手順4 写真の重なり順序を調整

左ページの主役となる写真が隠れてしまいましたので、背景となる写真を最背面へ移動します。

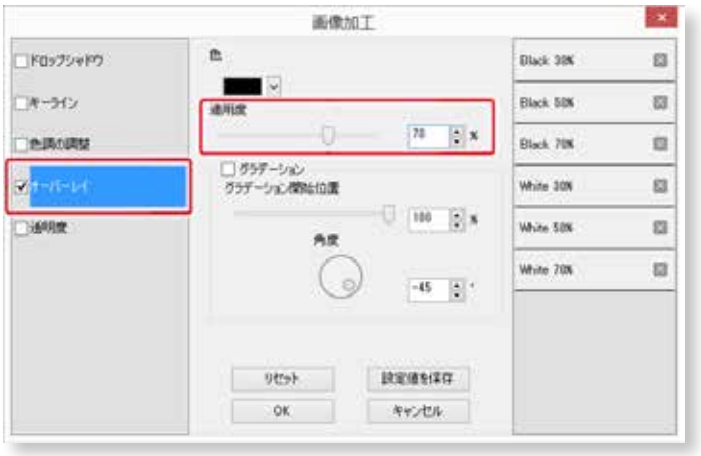


背景となる写真が最背面へ移動し、左ページの主役となる写真が前面に出てきました。

しかしこのままの状態では背面の写真の印象が強すぎ、主役となる写真が見づらくなっています。
そこで背景の写真に黒色のオーバーレイを施します。

手順5 背景写真の「オーバーレイ」を調整

背景の写真をダブルクリックしてください。右図のような「画像加工」ダイアログが表示されます。



①左メニューの「オーバーレイ」にチェックを入れてください。

②色は黒を選び、スライダーを動かして「適用度」を 70% 程度に調整します。

この作例では、「グラデーション」効果を使っていません。グラデーションの操作方法については、本書の「16. 画像加工」・「【解説】 グラデーション開始位置とは?」16-25 ページをご覧ください。

●オーバーレイの適用度は必要に応じて調整してください。

●右図の作例では、左側の写真の周囲に白色のキーライン（枠線）を入れています。

16-6.　透明度

画像の透明度を調整します。

ご自分で作った設定は、「設定値を保存」ボタンをクリックすることで保存することができます。

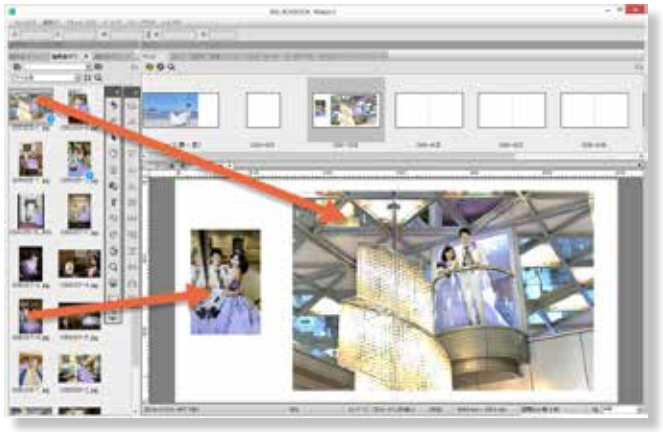
例　題

右の写真は、両ページにかかる大きな写真の左側を背景の黒に溶け込むように処理しています。

この効果は、写真の左側だけに透明度をグラデーションを付けて適用しているものです。

手順 1　画像の貼り付け

使用する画像をレイアウトします。



手順 2　背景を塗る

背景ツールをクリックします。

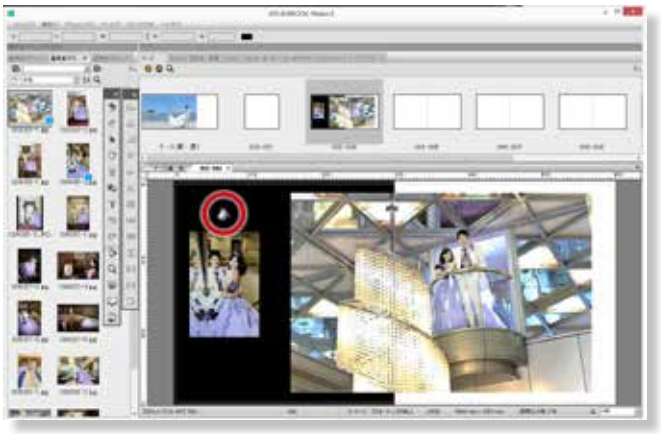
手順 3 背景色を選択

今回は、背景色に黒色を選択します。

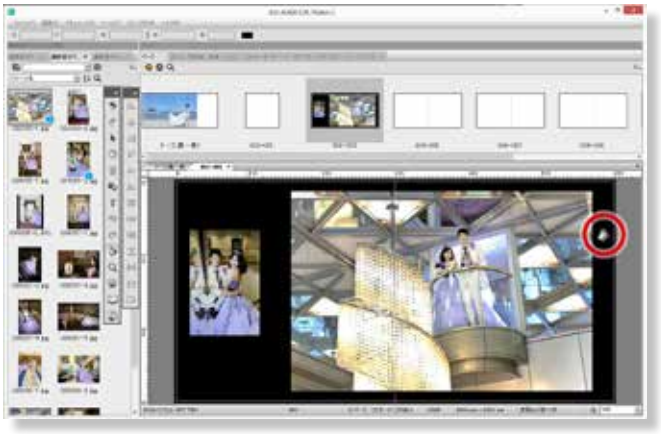
「色選択」ダイアログが表示されます。

初期設定では黒色が設定されていますので、ここではそのまま「OK」をクリックしてください。

左ページ上にマウスを動かすと背景ツールのアイコンが表示されますので、クリックします。左ページの背景が黒で塗られます。



同様に右ページもクリックして黒く塗ります。



手順4 不透明度とグラデーションの設定

①右側の写真をダブルクリックしてください。右図のような「画像加工」ダイアログが表示されます。

②左メニューの「透明度」にチェックを入れてください。

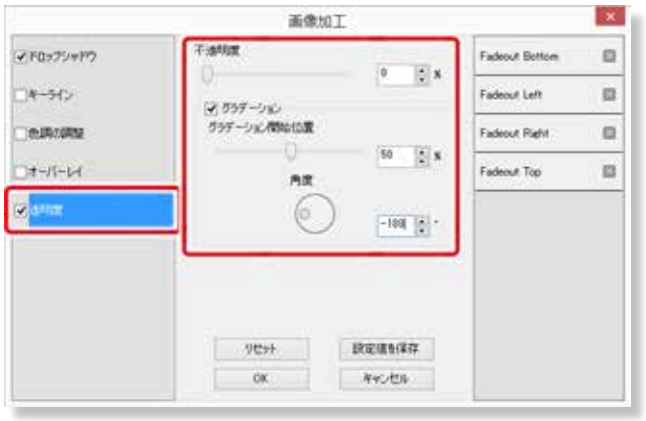
③不透明度スライダーを左に動かして 40% にします。

ここまでの状態で、写真は右図のようになります。

④不透明度を「0」にします。
⑤グラデーションにチェックを入れてください。

⑥グラデーションの位置を写真の左側からに設定したいので、角度を「-180」と入力します。

⑦グラデーション開始位置のスライダーを動かして、グラデーションの幅を調整します。この例では、「50%」に設定してみます。



右図のように透明度とグラデーションが適用されました。

解　説　グラデーション開始位置とは？

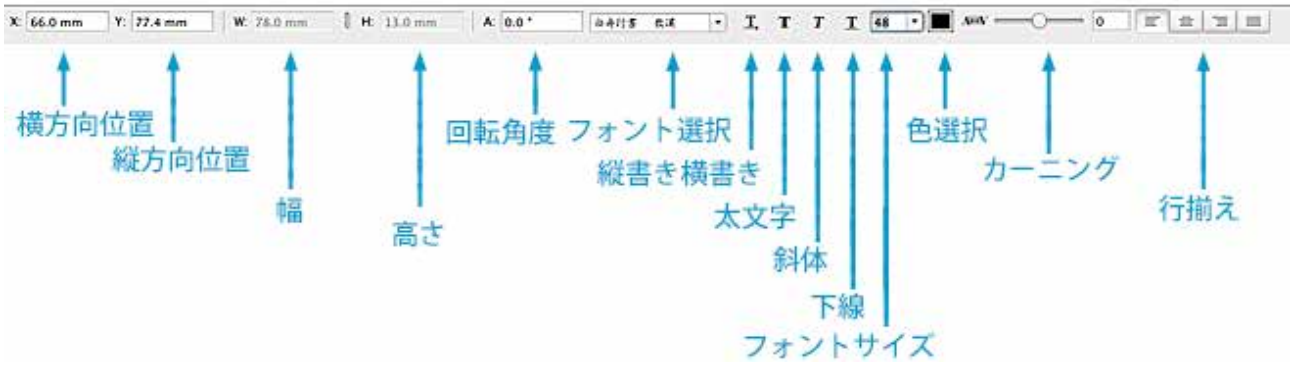
●この例の場合、グラデーションを指定する位置を写真の左側に設定しています。
この場合には、「100%」とするとグラデーション開始位置は写真の横幅と同じになり、開始位置は右端からとなります。

●右の例では 20% にしています。

17.　文字の入力

17-1.　文字ツールの概要

編集パレットに文字を入力するためのツールです。ツールバーの「文字」アイコンをクリックすると、ヘッダー領域の表示が文字用に変化します。また、編集パレット上の文字を入力したい位置をクリックすると、マウスカーソルが文字入力モードに変化します。



横方向位置 縦方向位置 幅 高さ 回転角度	編集パレットに書いた文字の横・縦方向位置の情報を「X と Y」、幅・高さを「W」と「H」、回転角度を「A」で表示します。 横・縦方向位置欄と回転角度欄では、数値を直接入力して、文字の位置を変更することもできます。 なお、数値入力時には計算式が使えます。詳しくは本書の「3-2-4.　ドキュメント」3-18 ページをご覧ください。 表示する単位の初期設定は「mm」です。　（回転角度は「度」です） 単位の変更は、「ドキュメント／ルーラーの単位」から行えます。
フォントの選択	フォントはご利用中のコンピュータに入っているもの全てをご利用になれますが、欧文半角文字専用のもの、日本語全角文字専用のものなどが混在していますので、選択の際にはご注意ください。
縦書き・横書き	横書きと縦書きを切り替えます。　（この機能が効かないフォントもあります）
太文字	選択した文字を太字にします。　（この機能が効かないフォントもあります）
斜体	選択した文字を斜体にします。　（この機能が効かないフォントもあります）
下線	選択した文字に下線をつけます。
フォントサイズ	フォントサイズを変更できます。プルダウンメニューに表示される「6 ～ 288」の用意されたサイズの中から選択するか、もしくはキーボードから任意の数値を入力してください。 単位は「pt」、 初期設定は Windows では「10」pt、macOS では「12」pt です。
色選択	文字色を選択します。クリックすると色選択ダイアログが表示されます。 色選択ダイアログにつきましては、本書の「14.　色選択について」をご参照ください。
カーニング	文字間隔を調整できます。調整範囲は「－ 20 ～＋ 20」です。
行揃え	左揃え・中央揃え・右揃えから揃えを設定できます。

ご注意

ABM2 の文字入力機能では、一つの文字列内において異なるフォントサイズ、異なる色などのオプションを指定することはできません。

17-2.　文字入力の方法

手順 1　文字アイコンの選択

「ツールバー」から「文字」アイコンをクリックします。

手順 2　フォントの選択

ヘッダーの「フォント選択」欄をクリックし、フォントを選択します。

日本語を入力する場合、選んだフォントによっては日本語表示できないもの（半角欧文専用フォント、記号専用フォントなど）もありますのでご注意ください。

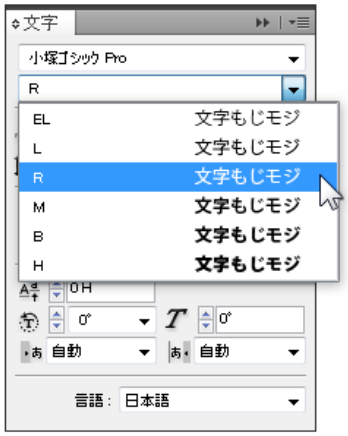
この例では、「DFP 行書体」を選択しています。

アドバイス！

この例では、文字の入力に先立ってフォントを選択していますが、フォント、文字サイズ、色などは、後から変更することができます。

解　説　フォントのウエイト

フォント製品の中には複数のウェイト（文字の太さ）を持つものがあります。
ABM2 では「フォント選択」欄に、フォント名称と同時にウェイトが表示されますので、ウェイトを変更したい場合は「フォント選択」欄を使ってフォントを選択し直してください。



他の DTP アプリケーション
DTP アプリケーションなどでは、フォント名称とウェイトは選択欄が別れていることが多い。

ABM2 では、ウェイトがフォント名称に表記されています。
細い書体から順に
EL=Extra Light
L=Light
R=Regular
M=Middle
B=Bold
H=Heavy　の意味

手順 3　文字の入力

編集パレットに移り、文字を入力したい箇所をクリックし、文字を入力します。

この図は拡大表示（200%）したものです。

◆文字入力を終了する時は、

macOSの場合

「Command」＋「return」キーを押します。

Windowsの場合

「Ctrl」＋「Enter」キーを押します。

ご注意

ABM2 では、フォントサイズの初期設定が Windows では 10pt（文字高さで約 3.3　mm）、macOS では 12pt（文字高さで約 3.4mm）になっています。このため、ブックサイズが大きいと、画面に表示される文字が相対的に小さくなって見にくくなります。必要に応じて拡大表示して作業してください。

17-3.　文字の変更、修正の方法

手順 1　「選択」アイコンをクリック

「ツールバー」から「選択」アイコンをクリックします。

ご注意

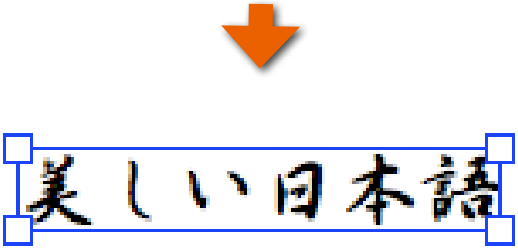
文字の変更、修正の時は「選択」アイコンを使います。

「文字」アイコンでは変更・修正はできません。

手順 2　文字列の選択

変更・修正したい文字列をクリックします。

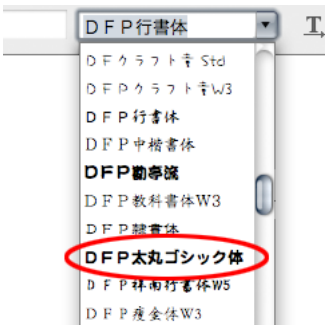
選択されると文字列にバウンディングボックスが（青い枠）表示されます。



手順 3　オプションの設定

変更、もしくは修正したいオプションをヘッダーから選んで変更を加えます。

例えば、フォントを変更したい場合は「フォント選択」欄をクリックして、フォントを選び直します。



文字列が、選び直したフォントに変更されます。

17-4.　文字ツールのオプション

① 縦書き横書き

美しい日本語

横書き

美
し
い
日
本
語

縦書き

縦書きができないフォントもあります。この機能はフォントの仕様に依存しますので、詳しくはフォントの仕様をご確認ください。

② 太文字

美しい日本語

標準

美しい日本語

太文字

太文字の効果が小さいフォント、太文字にならないフォントもあります。
この機能はフォントの仕様に依存しますので、詳しくはフォントの仕様をご確認ください。

③ 斜体

美しい日本語

標準

美しい日本語

斜体

斜体にならないフォントもあります。この機能はフォントの仕様に依存しますので、詳しくはフォントの仕様をご確認ください。

④ 下線

美しい日本語

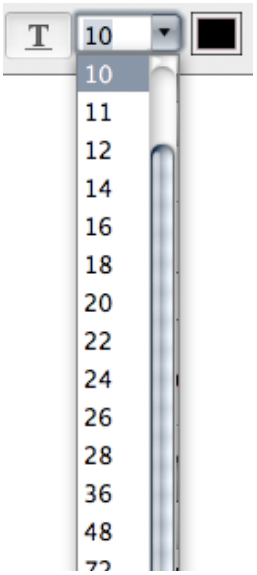
標準

美しい日本語

下線

⑤ フォントサイズ

ヘッダーの「フォントサイズ」欄をクリックすると、プルダウンメニューが表示されます。「6～288」の用意されたサイズの中から選択するか、もしくはキーボードから任意の数値を直接入力してください。単位は「pt」（ポイント）です。



	フォントサイズ		
	初期値	プルダウンメニューから選択できる最小値	フォントサイズ欄に直接入力できる最小値
macOS 版	12 pt	11 pt	6 pt
Windows 版	10 pt	9 pt	6 pt

●「フォントサイズ」欄をマウスポインタでクリックすると、フォントサイズ値をキーボードから直接入力することができます。この場合の最小フォントサイズは「6 pt」です。

※小さいフォントに関しては、17-5 ページの「ご注意」をご参照ください。

解　説　文字高さについて

日本語の書体（フォント）は、「仮想ボディー」と呼ばれる正方形の枠の中にデザインされています。
文字の大きさはこの「仮想ボディー」の高さで表し、これを「文字高さ」と言います。
右図の例の 2 つのフォントは同じ仮想ボディーですので文字高さは同じになります。しかし、「小塚ゴシック」は仮想ボディーに対していっぱいに描かれ、一方「HG 行書体」は少し小さめに描かれています。

このため、同じ文字高さであっても「HG 行書体」の方が小さく見えます。
この様に、実際の見え方はフォントのデザインによって異なってきますので、使用するフォントによって文字高さを調整することをお薦めします。
なお、前ページの文字高さの換算表は、仮想ボディーの高さではなく、実際の文字高さを測定したものです。

ご注意

フォントは同じポイント数を指定しても、種類や書体形状により実測値としての文字高さが異なります。小さいフォントサイズを指定した場合、網点印刷ではフォントの書体形状によっては文字の一部が擦れる場合があります。特に明朝体の横の線のように細い場合、かすれたり、印刷が不鮮明になる場合がありますのでご注意ください。詳細は、17-9 ページの「17-6.　文字　小さな文字、細い文字の注意点」をご参照ください。
下記の表は、文字高さの実測値の一例です。

		文字高さ実測値（mm）			
		表紙 および ケース 解像度 260dpi		本文 解像度 271dpi	
OS	ポイント数	Helvetica	小塚ゴシック	Helvetica	小塚ゴシック
macOS	6 pt	1.8 mm	1.6 mm	1.7 mm	1.5 mm
	7 pt	2.1 mm	1.8 mm	2.0 mm	1.7 mm
	8 pt	2.3 mm	2.0 mm	2.2 mm	2.0 mm
	9 pt	2.5 mm	2.3 mm	2.6 mm	2.2 mm
	10 pt	2.9 mm	2.5 mm	2.8 mm	2.5 mm
	11 pt	3.1 mm	2.8 mm	3.2 mm	2.8 mm
	12 pt	3.4 mm	3.0 mm	3.0 mm	3.1 mm
	13 pt	3.6 mm	3.2 mm	3.4 mm	4.3 mm
	14 pt	3.9 mm	3.5 mm	3.7 mm	5.0 mm

		文字高さ実測値（mm）			
		表紙 および ケース 解像度 260dpi		本文 解像度 271dpi	
OS	ポイント数	Helvetica	小塚ゴシック	Helvetica	小塚ゴシック
Windows	6 pt	2.0 mm	2.3 mm	1.9 mm	2.2 mm
	7 pt	2.4 mm	2.6 mm	2.2 mm	2.4 mm
	8 pt	2.6 mm	3.0 mm	2.5 mm	2.9 mm
	9 pt	3.0 mm	3.3 mm	2.8 mm	3.2 mm
	10 pt	3.3 mm	3.6 mm	3.2 mm	3.5 mm
	11 pt	3.7 mm	4.0 mm	3.5 mm	3.8 mm
	12 pt	4.0 mm	4.5 mm	3.7 mm	4.2 mm
	13 pt	4.2 mm	4.7 mm	3.9 mm	4.4 mm
	14 pt	4.4 mm	5.0 mm	4.2 mm	4.7 mm

アドバイス！

- 文字の大きさは、「文字高さ」で表します。「文字高さ」はフォントの仕様に依存しますので、フォントサイズの指定が同じであっても、フォントごとに見た目の大きさが異なります。
- 同じフォントサイズであっても「macOS」と「Windows」では文字高さは異なります。
- 同じフォントサイズであっても「表紙」と「本文」では文字高さが異なります。

これは表紙と本文で画像解像度が異なるためです。

- 同じフォントサイズであっても、使用するフォントが異なると文字高さは異なります。
- OS、ページ別、フォント、文字高さの実測値との関係は下表をご参照ください。

前ページの表は、文字の最上部と最下部を実測したものです。多少の測定誤差を含みますのでご了承ください

⑥ 色選択

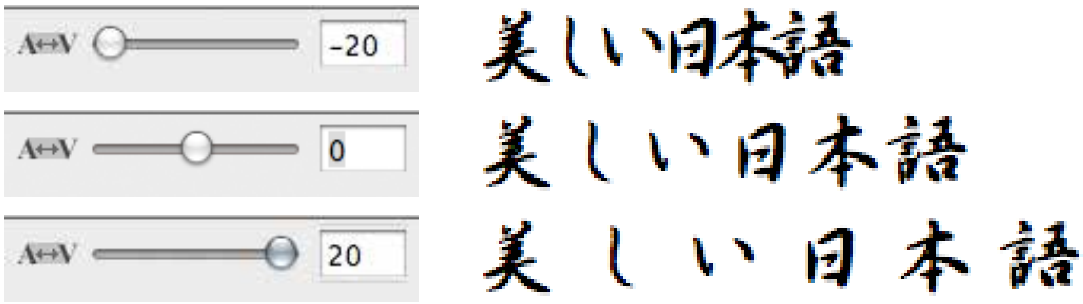
「色選択」欄をクリックすると、色選択ダイアログが表示されます。任意の色を選んでください。

●初期設定は「黒」になっています。

⑦ カーニング

カーニング（文字間隔）の調整が行えます。

最小「－20」から、最大「＋20」の範囲です。



アドバイス！

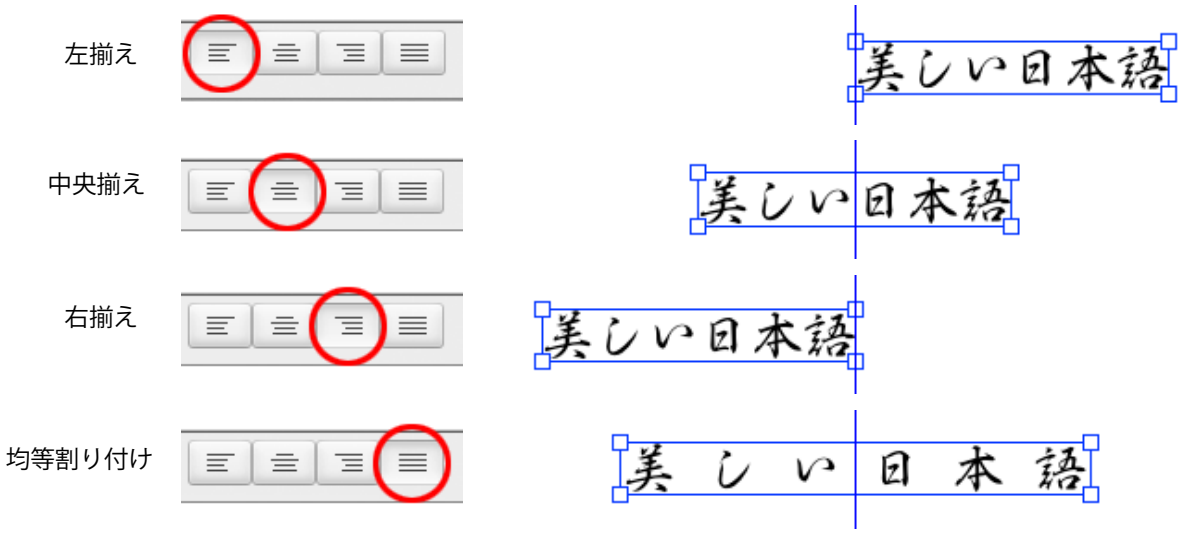
文字間隔はフォントの仕様に依存します。ABM2 でのカーニングが同じ数値であってもそれぞれのフォントにより、間隔が異なります。

⑧ 行揃え

行揃えは、「左揃え」、「中央そろえ」、「右揃え」、「均等割り付け」の 4 種類が選択できます。

初期設定は「左揃え」になっています。

●「均等割り付け」は ABM2.8 からの機能です。



均等割り付けの使い方

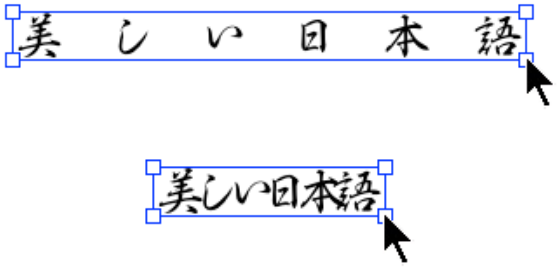
手順 1　均等割り付け文字を選択

均等割り付けしたい文字をマウスでクリックして選択してください。

手順 2　「均等割り付け」ボタンをクリック

手順 3　バウンディングボックスの調整

文字の四隅に表示されているバウンディングボックスをマウスでつかんで大きさを調整してください。



17-5.　文字のラスタライズ

ABM バージョン 2.6 より新機能として「文字のラスタライズ」機能を設けました。

ラスタライズとは、フォントデータから構成された文字を、ピクセルで構成された画像データに変換する機能です。

文字を入力した後にラスタライズを行うと、お使いのコンピュータに入っている文字に依存しないブックファイル（拡張子 ab2、ab2p）のやり取りが行えます。

解　説　どのような場合にフォントをラスタライズするのか？

文字は「フォント」と呼ばれる文字データを使って表示されます。このフォントはコンピュータごとにインストールされているため、例えば A さんが作成した ABM のブックファイルを、B さんのコンピュータに転送して開くと文字の形が異なってしまう、という現象が発生することがあります。これは B さんのコンピュータに、A さんが使用したフォントがインストールされていないために起こるものです。

また、Windows と macOS とではフォントデータの形式が異なるため、同じフォント名称であっても互換しないことがあります。

文字をラスタライズして画像データとして扱うと、上記のような機種間互換、OS 間互換の問題を回避することができます。

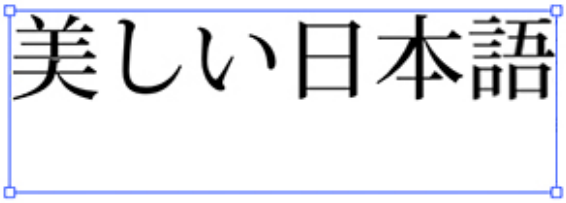
ご注意

1.　ラスタライズされた文字は、元に戻すことはできません。
もし、文字を訂正する場合は、もう一度文字ツールを使って入力し直してください。

2.　ABM では、文字モードのまま PDF 出力を行うと、文字の部分のみ 800dpi で出力されます。
しかし、文字をラスタライズした場合は 271dpi（写真画像と同じ解像度）として出力されます。
文字の輪郭をりよ鮮明に見せたい場合には、ラスタライズしないことをお薦めします。

手順 1　ラスタライズしたい文字を選択

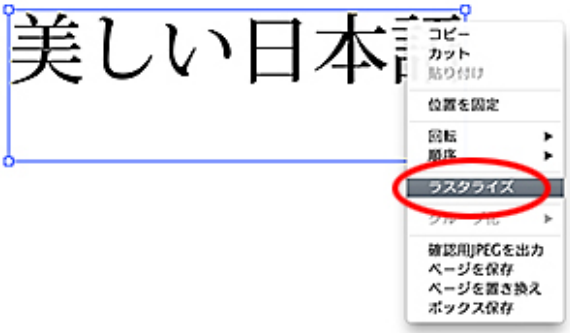
ラスタライズしたい文字をマウスでクリックして選択してください。



手順 2　ラスタライズ

文字を選択した状態で右クリックするとメニューが表示されます。

「ラスタライズ」を選択してください。



文字がラスタライズされます。

●外見上の変化はありません。

17-6.　文字　小さな文字、細い文字の注意点

ABM2 では、文字サイズをフォントによっても異なりますが、最小 9pt までを推奨しております。フォントサイズ欄に直接、数値を入力することにより 9pt 以下のサイズもご利用はできます。しかし、特に 8pt 以下の小さい文字や 9pt 以上でも細い線でデザインされた文字などは、かすれたりインクがのらない場合がありますので注意が必要です。

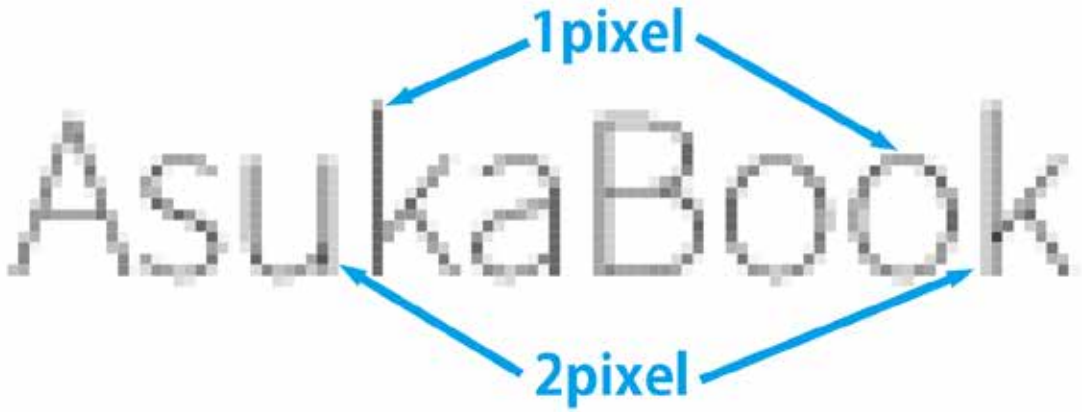
これは、印刷ではインクの粒を規則的に紙にのせていくため、インクの粒と粒の間に文字の細い部分が入ってしまうとインクがのらないことがあるためです。また、最終的に文字を滑らかに再現するようアンチエイリアスという画像処理がかかり、文字色が薄く再現されてしまうことも原因です。

最終的に注文用 PDF を書き出し、文字の線が最低でも 3pixel 以上あるかどうか確認してください。

下記は、黒色の 6pt で文字を入力し、注文用 PDF を書き出して 1200%拡大で文字を確認した例です。

黒色で文字を入力しても文字がギザギザにならないようアンチエイリアス処理がかかり、グレーになってしまいます。

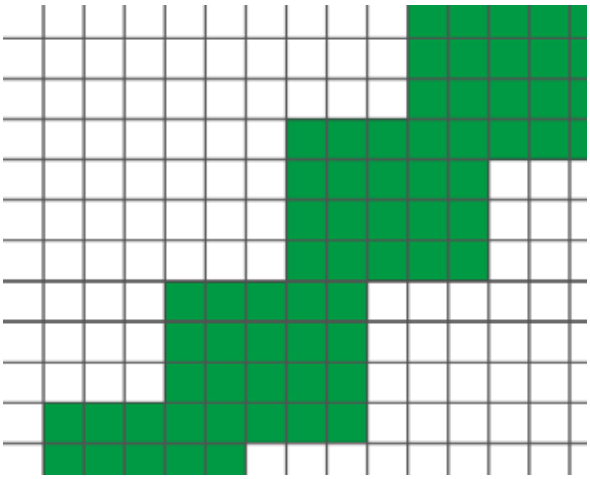
1～2pixel の文字は、インクがのらなかったり、アンチエイリアス部分がグレーで印刷されるためかすれて見えてしまう場合があります。

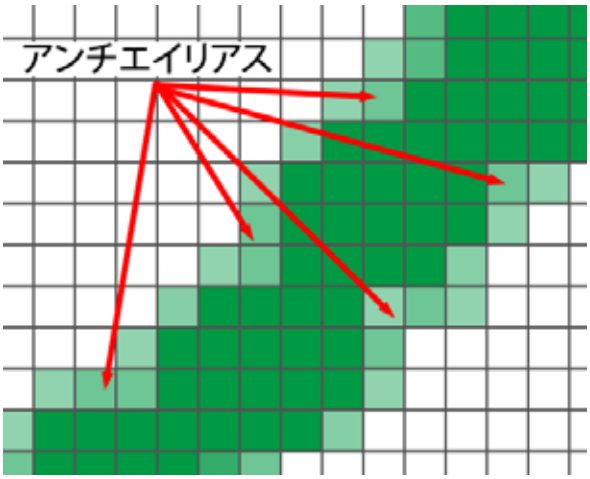


注文用PDF 1200%拡大例

■アンチエイリアス

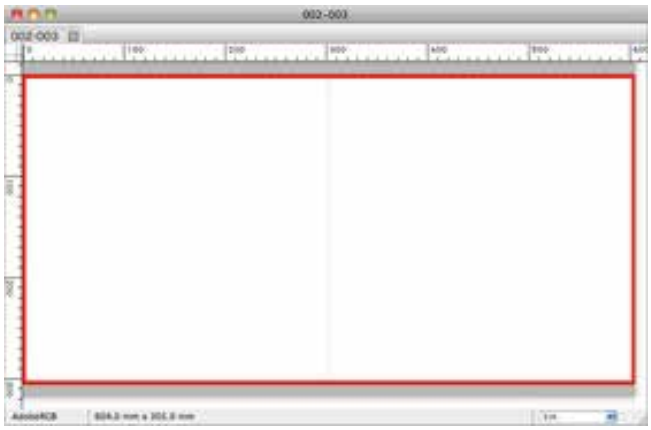
パソコン上の画像は、四角いマス目(pixel)で描画されます。しかし、このマス目だけで描画すると、下図のようにギザギザが目立ってしまいます。アンチエイリアスは、ギザギザを滑らかに表現するため、中間色などを使用してマス目(pixel)を補完する技術です。





18.　編集時のご注意

18-1.　たち落とし領域



「たち落とし領域」とは、本文ページの外側にある製本の際に断裁される部分のことです。

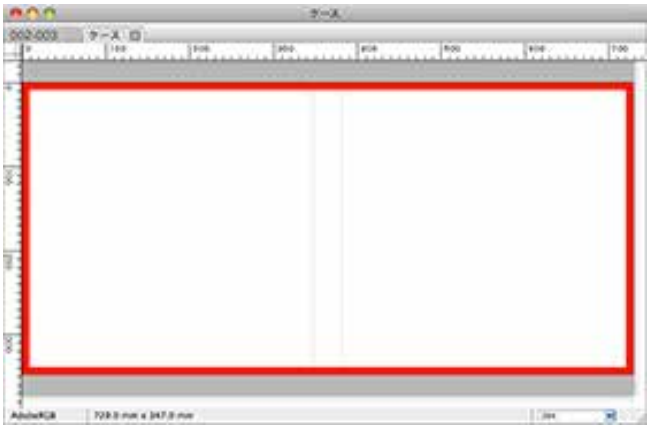
編集パレットでは、周囲にあるガイドラインの外側がたち落とし領域にあたります。（右図赤い部分）

●画像をページ一杯に表示させたいときは、たち落とし領域に入るようにレイアウトしないと、断裁時に背景色が後ろに残る可能性がありますので、ご注意ください。

●たち落とし領域は断裁されますので、重要なイメージや文字などは、ギリギリに配置すると断裁されてしまう可能性があります。

本書の「18.　編集時のご注意」・「【解説】　たち落とし領域について」18-3 ページも併せてご覧ください。

18-2.　巻き込み部分



「巻き込み部分」とは、表紙ページにある表紙製本の際に内側に織り込まれる部分のことです。

編集パレットでは、周囲にあるガイドラインの外側が巻き込み部分にあたります。（右図赤い部分）

●画像をページ一杯に表示させたいときは、塗り足し領域に入るようにレイアウトしないと、表紙作成時に背景が残る可能性があります。

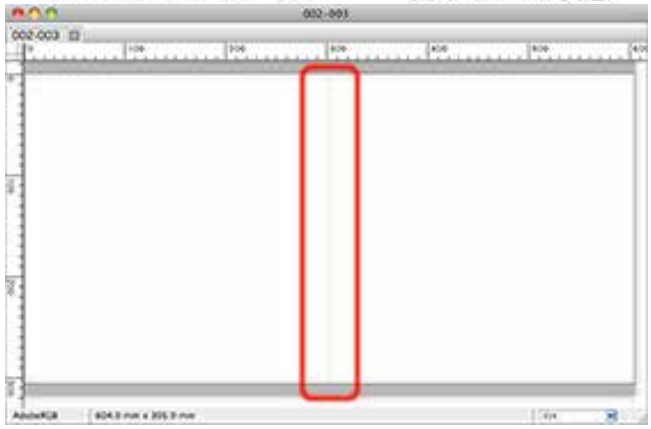
●巻き込み部分に重要なイメージや文字などをイレアウトすると、表紙の内側に巻き込まれますので、ご注意ください。

18-3.　のど部分

「のど部分」とは、見開きページの中央部分のことを指します。

ZEN レイフラットシリーズ、ボードタイプ以外のブックの中心部分は綴じ込まれます。顔の中心などをのど部分に配置すると見えにくい部分が発生しますので、ご注意ください。

背綴じ仕様のブックをレイアウトされる場合は、のど部分から離して配置する事をお奨めします。

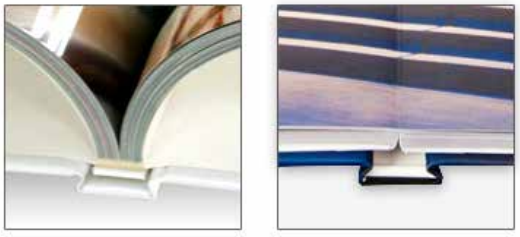


ご注意　対象となるのは、下記のシリーズです。

ART LX、ART EXD、ART EX、ハードカバー、アタッチカバー、ソフトカバー、ステッチ、プロモーションブック、KINARI、SHIRONARI 等　（2018 年 6 月現在）

ハードカバー　　ZEN
レイフラット仕様

のど部分の拡大

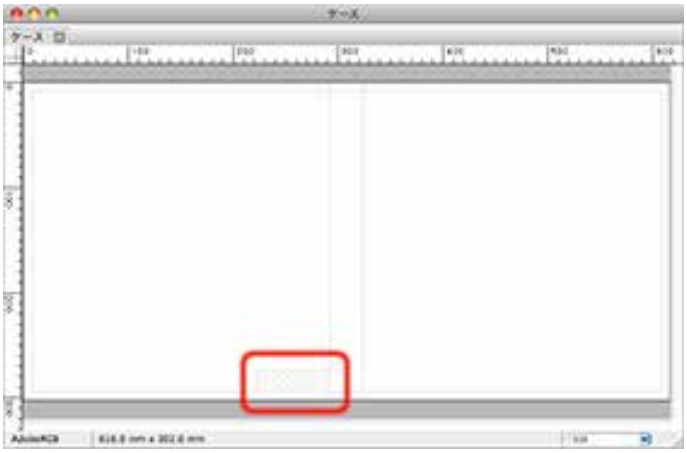


ハードカバー　　ZEN
レイフラット仕様

18-4.　バーコードの印刷廃止について

アスカネットでは生産の都合から、商品によって QR コード（マトリックス型 2 次元コード）と注文番号を印刷していましたが、2013 年 1 月 23 日の受注分よりこれを廃止いたしました。

廃止の対象となった商品は、ASUKABOOK の全ての商品です。



18-5.　レイアウト中のフォルダ、ファイルについて

ABM2 の動作中は、下記のことを行わないでください。これらの行為を行うと、編集中のレイアウトに影響し、編集データ（ab2 ファイル）が破損することがあります。

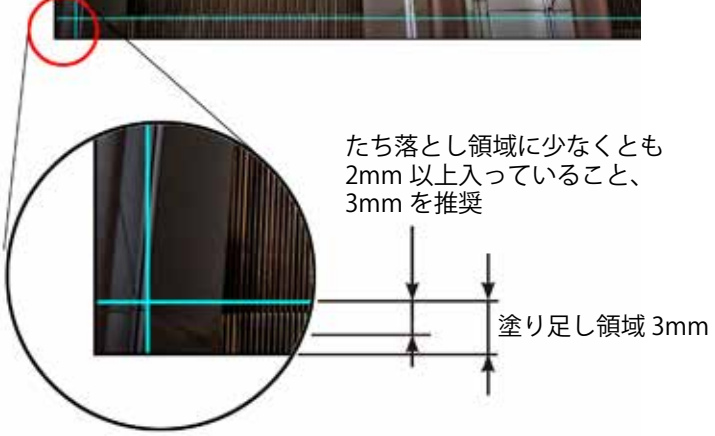
- ●使用している画像のファイル名の変更
- ●使用している画像を他のフォルダへ移動する
- ●使用している画像が入っているフォルダ名の変更
- ●使用している画像が入っているフォルダの移動

解　説　たち落とし領域 について

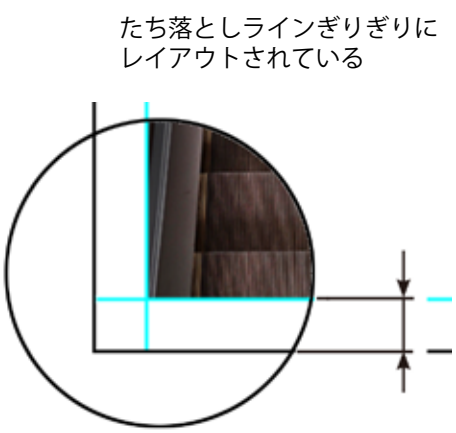
印刷や製本の関係上、本においてはたち落とし領域を設けてレイアウトを行います。ASUKABOOK でも、本文ページでは各ページにたち落とし領域を 3mm 設けています。また、表紙、ケースにはそれぞれの製本の構造から割り出したたち落とし領域寸法を設けています。

●写真集の仕上がり寸法はこのたち落とし領域を裁断した大きさになりますが、裁断の際の寸法精度は± 1mm 程度はあります。このため、写真をページ全体に敷くレイアウトを行う場合（このようなレイアウトを「裁ち落とし」と言います）は、たち落とし領域に少なくとも 2mm 以上写真が入るようにレイアウトを行ってください。

●写真を裁ち落としラインぎりぎりにレイアウトした場合、製本時に裁断が外側にずれた場合、、写真の小口側に紙白や背景色が見えてしまうことがあります。



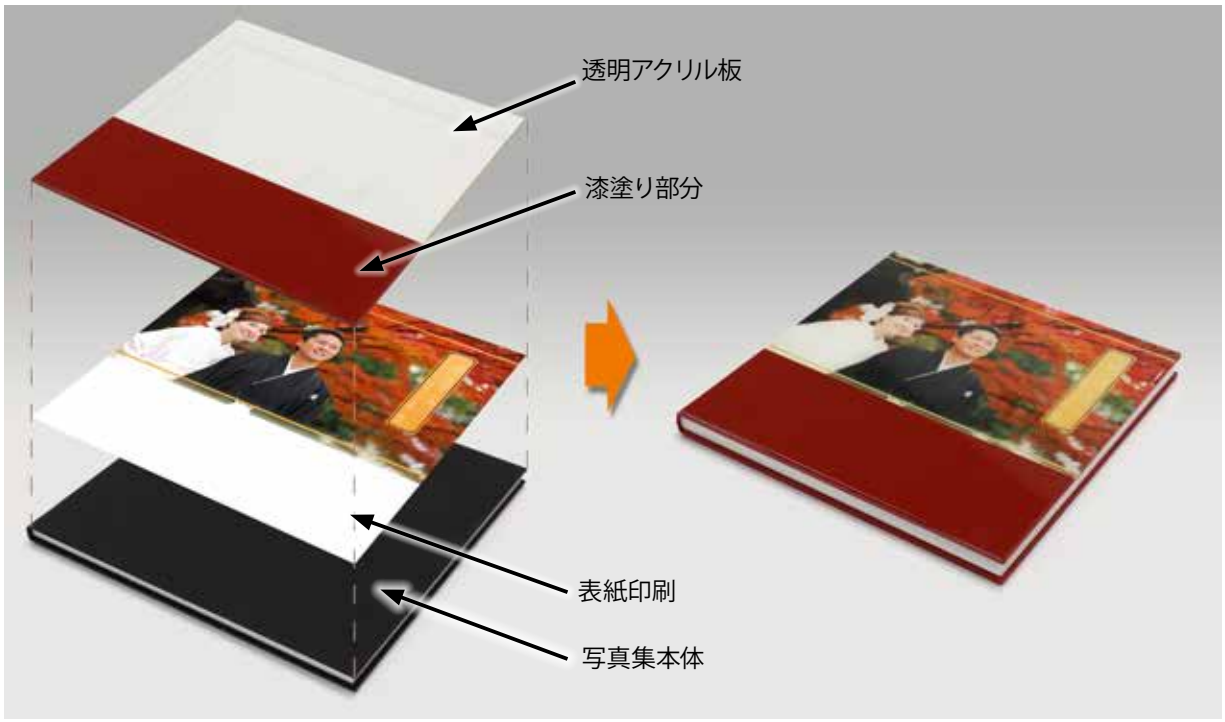
○良い例



×好ましくない例

18-6. 「URUSHI」（漆）の表紙レイアウトについて

商品名「URUSHI」（2013 年 6 月発売開始）の作成に関しては、下記の注意事項があります。



「URUSHI」の表紙は上図のような構造になっています。
ABM でレイアウトした表紙ページの印刷は、漆加工を施した透明アクリル板の裏に接着させた後、写真集本体に接着されます。

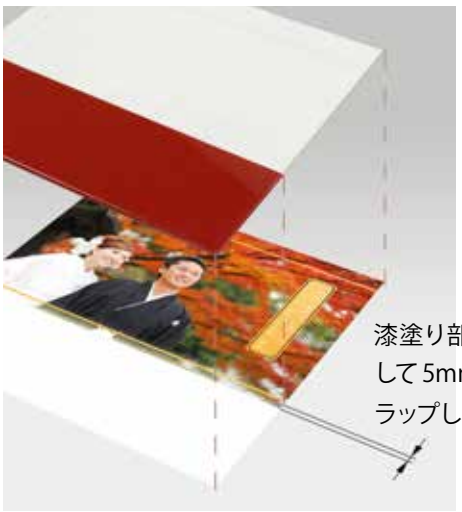
●右図は ABM で表紙ページをレイアウトした様子です。「漆塗り部分」はグレーに表示され、オブジェクト（写真、イラスト、文字）を配置しても表示されません。

ご注意

透明アクリル板の漆塗り部分は、表紙ページに印刷された写真に対して 5mm ほど覆い被さる（オーバーラップ）ようになります。従って写真の下方 5mm 部分に罫線などをレイアウトした場合には見えなくなってしまいますのでご注意ください。

●例は「表紙横画像」（漆塗り部分が下方に配置される）場合です。「表紙縦画像」（漆塗り部分が右方に配置される）もオーバーラップは同様になります。

・透明アクリル板・・・表面全面に透明な UV（ユーブイ）漆（うるし）加工を施してあります。裏面に朱色、もしくは黒色の漆を帯状に塗布しています。



18-7.　PSD 形式ファイル（Adobe® Photoshop® 形式画像）の簡易読み込み機能

ABM ではバージョン 2.2 より Adobe® Photoshop® の保存形式である PSD 形式ファイル　を利用できるようになりました。
ただし、PSD 形式は Adobe® Photoshop® のバージョンによっても仕様が異なり、数多くの機能が含まれているため、その全ての機能を利用できる訳ではありません。
ご利用になる前に、下記の注意事項をお読みになり、使用したい PSD 形式ファイルが正常に注文用 PDF ファイルに反映されることをご確認頂くよう、お願いいたします。

18-7-1.　PSD 形式ファイル利用上の注意事項

1．利用できる PSD 形式ファイルの階調数は、8bit（256 階調）のみです。

2．利用できる PSD 形式ファイルのカラーモードは、RGB モードのみです。
CMYK モードの画像は、PSD、JPEG、PNG、いずれも ABM の「画像表示ウインドウ」に表示されませんので、利用できません。

3．レイヤーを含む PSD 形式ファイルをご利用の場合、ABM 側においてはレイヤー機能は利用できません。
レイヤーごとの編集を行う場合は、Adobe® Photoshop® 側で行ってください。

ABM と Adobe® Photoshop® とのファイルのやり取りについては、本書の「5-6-1.　Adobe Photoshop® を使って素材を開く方法」5-8 ページをご覧ください。

4．PSD 形式ファイルに複数のレイヤー、調整レイヤー、マスクなどのアルファチャンネル、を含む場合は、その画像の見え方が ABM の編集パレット上で同じように見えていることを必ず事前に確認してください。
さらに、ABM から注文用 PDF 出力を行い、できあがった PDF を開いてその結果に問題がないことを必ず事前に確認してください。
Adobe® Photoshop® の一部の機能や、バージョンの違いにより利用できない（正常に表示されない）場合があります。

確認の方法については、本書の「18-7-2.　PSD 形式ファイル利用における確認方法」18-6 ページをご覧ください。

5．ABM での保存方式に「1 ファイル形式」を選択している場合には、PSD 形式ファイルを利用されると ABM ファイルの保存容量が非常に大きくなります。
お使いのコンピュータの処理能力が低い場合、および OS が不調の場合はコンピュータに過大な負荷が掛かり、編集不能に至る場合があります。充分にご注意ください。
もし、ABM ファイルの読み込み、および保存に時間がかかり過ぎる場合には PSD 形式ファイルの利用を止め、Adobe® Photoshop® にて該当する PSD 形式ファイルを別名保存にて JPEG 形式ファイルに変換して貼付し直してください。

6．ABM での保存方式に「パッケージ形式」を選択した場合、Picture フォルダにはレイアウトされた PSD データがそのままコピーされます。よって、後に Adobe® Photoshop® ので編集が可能になります。
なお、Picture フォルダ内の画像を編集し直した場合には、再度 ABM ファイルを開いて注文用 PDF ファイルを作り直してください。

18-7-2.　PSD 形式ファイル利用における確認方法

以下に、PSD 形式ファイルが ABM で利用できるか否かを確認する方法を解説します。

① ABM で表示できるか?

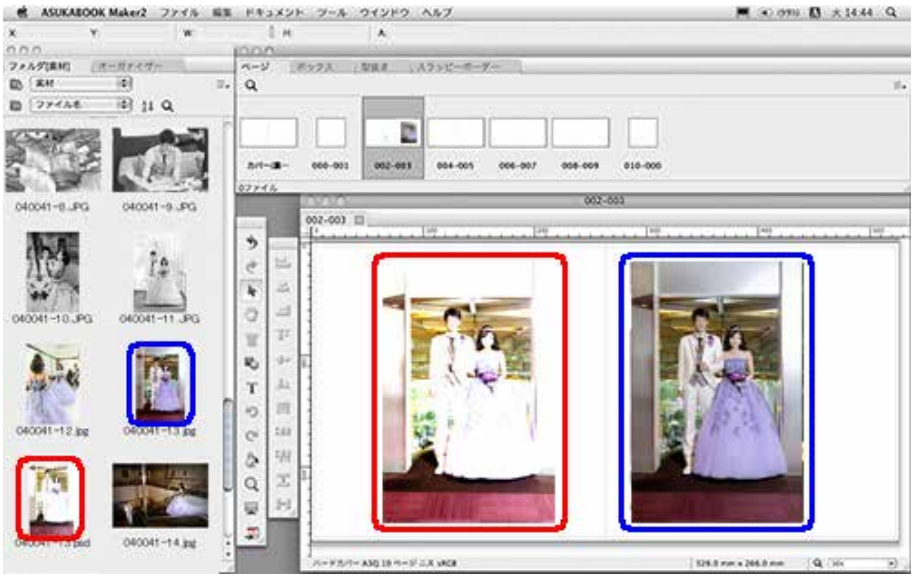
例　題

右図は Adobe® Photoshop® にて作成した画像です。
レイヤーパレットを見ると、合成用のレイヤーの他に、コントラスト、色相・彩度の調整を調整レイヤーを使って行っています。
また、チャンネルパレットには保存したマスクがあります。

前ページのような構成の PSD 形式ファイルを ABM で利用する場合の例。

◆右図の赤枠の部分は、表示が正確にできない PSD 形式ファイルです。

◆青枠の部分は、表示ができている PSD 形式ファイルです。



この 2 つのファイルはアルファチャンネルの持ち方が異なります。
このように、「画像表示ウインドウ」で表示できない時は、編集パレットにドロップしても表示されません。
PSD 形式ファイルの構成や、お使いの Adobe® Photoshop® のバージョンにより、ABM で利用できる場合と、できない場合がありますので、必ず事前に確認をお願いします。

② 注文用 PDF ファイルの確認方法　その 1　Adobe®® Reader® で開く

下図は ABM から出力した注文用 PDF ファイルを Adobe®® Reader® にて表示したものです。

左ページの写真は正常に表示できていませんが、右ページの写真は表示できています。

- ABM で表示できない画像ファイルは、注文用 PDF ファイルにも反映されません。
- ABM で表示されていても、注文用 PDF ファイルに反映されない場合があり得ます。
  PDF に反映されない場合は、印刷でも再現できません。

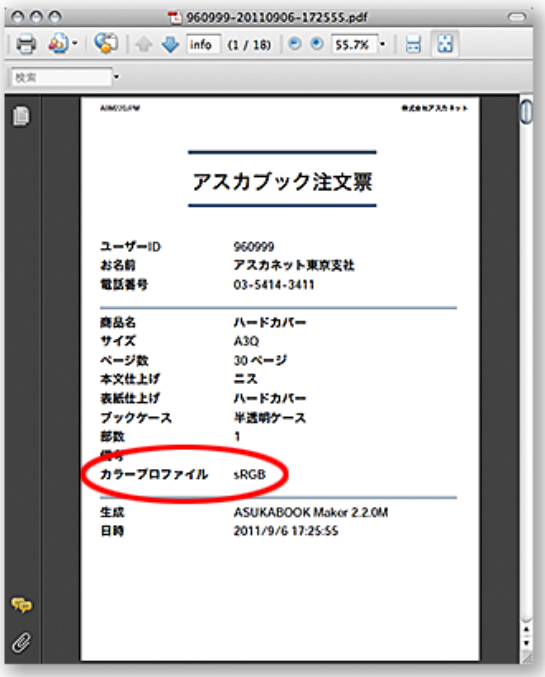
③ 注文用 PDF ファイルの確認方法　その 2　Adobe® Photoshop® で開く

PSD 形式ファイルの詳細部が、出力された注文用 PDF ファイルに正確に反映されていることを確認する場合は、Adobe® Photoshop® で開いてください。

（Adobe®® Reader® では詳細部が正確に表示されていない場合があります）

手順 1　プロファイルの確認

出力した注文用 PDF ファイルを開いてカラープロファイルを確認してください。



アドバイス！

●注文用 PDF ファイルを開くアプリケーションについては、この場合は何でも構いません。

● ABM2 で使用しているカラープロファイルは「sRGB」、もしくは「Adobe®GB」のどちらかです。

手順 2　Adobe® Photoshop® の起動

次に Adobe® Photoshop® を起動してください。

手順 3　「カラー設定」の設定

Adobe® Photoshop® のメニューから「編集／カラー設定」をクリックしてください。

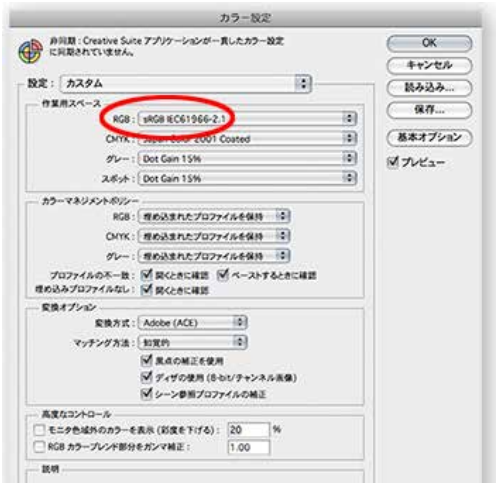
●「カラー設定」の場所は Adobe® Photoshop® のバージョンや使用している OS によって多少異なります。

「カラー設定」ダイアログが表示されますので、「作業用スペース」欄の「RGB」欄を、「手順 -1」で確認したカラープロファイルと同じものに設定してください。

設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログを閉じてください。

アドバイス！

注文用 PDF ファイルと同じカラープロファイルを設定してください。それ以外のプロファイルを設定した場合、開いた画像に色調の狂いが生じますのでご注意ください。



手順4　注文用 PDF ファイルを開く

Adobe® Photoshop® にて注文用 PDF ファイルを開きます。
開く方法はいくつかありますが、どれでも構いません。

● Adobe® Photoshop® のメニュー「ファイル／開く」から、該当する注文用 PDF ファイルを指定する。
（右図参照）

●注文用 PDF ファイルを Adobe® Photoshop® のアイコンにドラッグする。

●注文用 PDF ファイルをすでに開いている Adobe® Photoshop® の編集エリアにドラッグする。

などの方法があります。

確認をしたい注文用 PDF ファイルを選択して、「OK」をクリックします。

「PDF の読み込み」ダイアログが開き、各ページのサムネイルが表示されます。

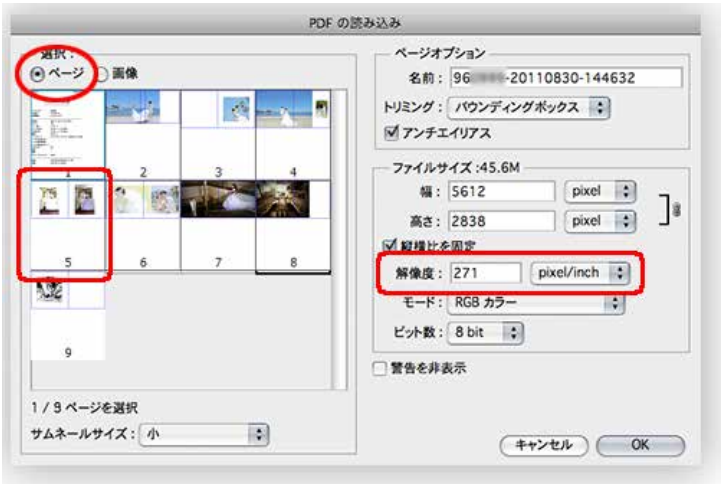
手順 5　「PDF の読み込み」ダイアログの設定

①「選択」欄の「ページ」を選択します。
（右図赤丸参照）

② 開きたいページを選択します。
（右図赤枠参照）

③ 開くページに応じて解像度欄を設定します。
● 解像度の設定（右図赤枠参照）
表紙ページの場合　解像度　260dpi
本文ページの場合　解像度　271dpi

④「OK」ボタンを押します。



アドバイス！

Adobe® Photoshop® にはページの概念がありません。このため、上図のようにどのページを開くのかを指定する必要があります。
PDF の読み込みは、1 ページずつ、「手順 -4」を繰り返すことをお勧めします。
Adobe® Photoshop® の操作上、Shift キーや Ctrl キー（mac は command）で複数ページの選択し、読込むことが可能ですが、この操作を行うとコンピュータに過大な負荷が掛かり、コンピュータやシステムの状態によっては動作が不安定になることがありますので、お薦めいたしません。

アドバイス！

もし、ページを開く際に右図のメッセージが表示された場合には、2行目の「作業用 RGB を指定」をチェツクして、「OK」ボタンをクリックしてください。

●右図のメッセージは開こうとしている画像にカラープロファイルが埋め込まれていない場合、および埋め込まれてはいるが Adobe® Photoshop® が認識できなかった場合に表示されます。
実はこのような場合に備えて「手順 -1」で注文用 PDF ファイルのプロファイルを確認しておいてください。

「手順 -5」で選択したページがラスタライズされて開きます。

●この例では、左ページにレイアウトされた写真が正確に反映されていないことがわかります。

手順6 Adobe® Photoshop® にて確認

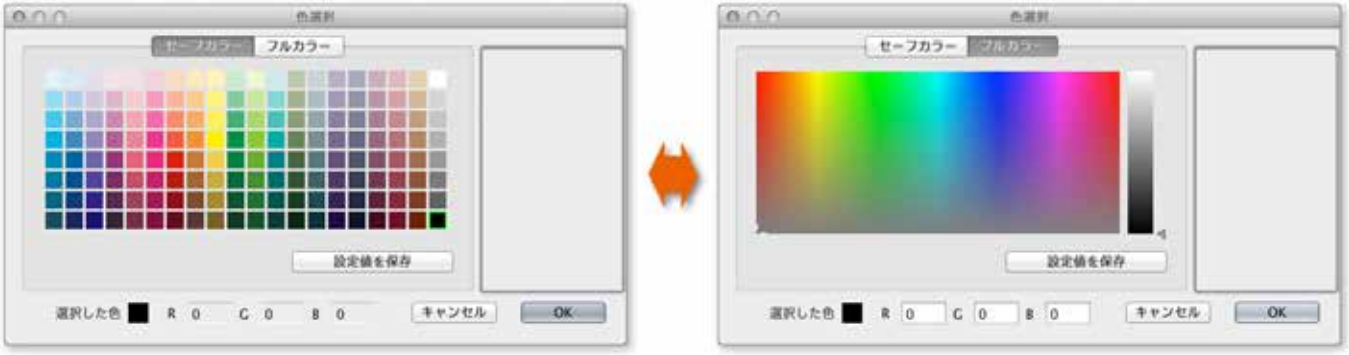
必要に応じて各部のディテールを表示拡大して、気になる箇所をご確認ください。

アドバイス！

● PDF ファイルは、Adobe® Reader® で開くより、Adobe® Photoshop® で開く方が色調もディテールも正確に反映されます。

●画像の詳細を確認する場合は、表示拡大率を 100% 以上に拡大してください。
表示拡大率が 100% 以下の場合は「ピクセル等倍」ではないため、各部のピクセルがモニタに正確に表示されません。

19.　色選択について



セーフカラーモード　　フルカラーモード

19-1.　色選択ダイアログ

色選択する際の共通ダイアログです。

●セーフカラー選択モード

アスカネットが推奨するセーフカラー（160 色）のパレットです。
セーフカラーとは、印刷で再現できる色域内で構成されたカラーのことです。

●フルカラー選択モード

フルカラーもタブで選択することができます。
このモードでは RGB 値を数値で入力することができます。この場合は印刷で再現できる色域以上の彩度になることがありますので、ご注意ください。

どちらのモードでもカラーマネージメントされていますので、「sRGB」でも、「AdobeRGB」でも、それぞれのプロファイルに対応した色合いを再現します。
（正確な色を表示するために、お使いのモニタをキャリブレーションしてお使いください。）

19-2.　設定値を保存

背景色やキーライン、オーバーレイなどの効果適用時に使用頻度が高い色を保存しておくことができます。

手順 1　希望する色を選択

色選択ダイアログから希望する色を選択します。

●色選択ダイアログは「セーフカラー」「フルカラー」どちらでも結構です。

●色は RGB 値で数値入力することもできます。

手順 2　「設定値を保存」ボタンをクリック

「設定値を保存」ボタンをクリックし、名前をつけて保存します。

20.　注文

各ページのレイアウトが全て終わったら、注文用データを PDF ファイルとして出力をします。
この注文用 PDF ファイルを、アスカネットにインターネット経由で送信してください。（もしくは、注文用 PDF ファイルを CD、または DVD に焼いて、宅配便などで送ってください。）

20-1.　プレビュー

「プレビュー」とは、モニタ画面いっぱいに各ページを表示する機能です。
製本された状態に近いプレビューが御覧いただけますので、注文用 PDF を作成する前に、プレビューにて仕上がりのイメージをご確認いただくことができます。

ご注意

画像データに含まれるすべてのピクセルを、モニタ上に表示することは不可能です。このため「プレビュー」機能では写真と写真の隙間などの細かい部分が実際の印刷結果と異なる場合があります。
印刷に反映されるデータをより正確に確認したい場合は、出力された「注文用 PDF」をご確認ください。

「注文用 PDF」の確認方法については、「16-4-3.　写真の補正　その 1 ／明るさの調整」、「16-4-4.　写真の補正　その 2 ／色の調整」16-13 ページをご覧ください。

● PDF 出力に関して、プレビューは必ずしも必要ではありません。

メインメニューの「ツール」から「プレビュー」をクリックします。

もしくは

もしくは、ツールバーの「プレビュー」アイコンをクリックします。

モニタ画面いっぱいにページが表示されます。

プレビュー機能は、一覧表示もできるようになっています。

20-2.　注文用データを出力

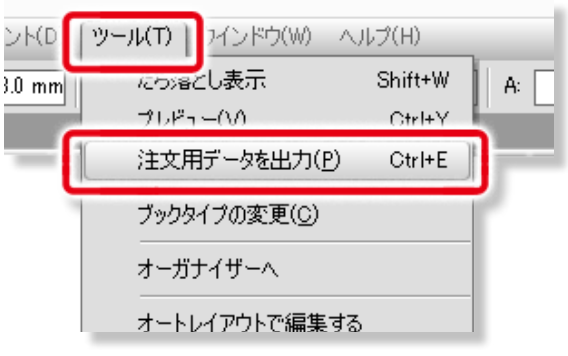
レイアウトが終わったブックファイルから、注文用ファイルを出力します。

手順 1　注文したいブックファイルを開く

注文したいブックファイルを開いてください。

手順 2　「注文用データを出力」をクリック

メインメニューの「ツール」から「注文用データを出力」をクリックします。



もしくは

もしくは、ツールバーの「注文用データを出力」ボタンをクリックしてください。

アドバイス！

ショートカットキーでは

macOSの場合　[Command] + [E]

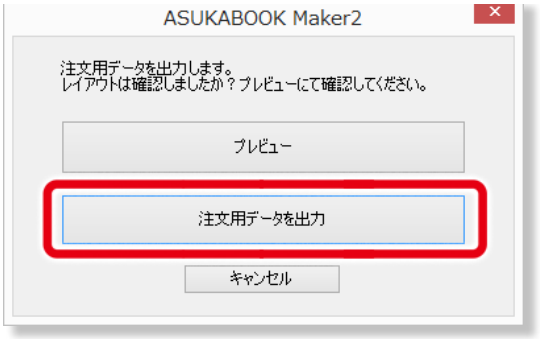
Windowsの場合　[Ctrl] + [E]

手順3 「注文用データを出力」をクリック

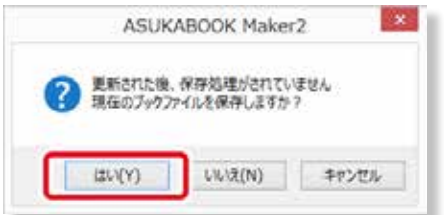
右図のダイアログが表示されます。

「注文用データを出力」をクリックしてください（図中赤枠）。

なお、レイアウトを確認したい場合には「プレビュー」をクリックしてください。



編集中のブックファイルが、もし保存されていない場合には右図のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



手順4 必要事項を入入力する

「注文用データを出力」ダイアログが表示されます。

必要事項を入力し、「OK」をクリックしてください。

①商品名、サイズ、ページ数などのブック情報が表示されますので、誤りがないかをご確認ください。
なお、商品によりオプションがありますので、「本文仕上げ」などの項目から必要なものを選択してください。

②「部数」の初期設定は「1」になっていますので、必要な部数を入力してください。

③ユーザー情報（ユーザー ID、お名前、電話番号）は ABM2 の環境設定で入力したものが表示されます。

ユーザー情報の入力については、本書の「3-2-1.　環境設定」「②環境設定／ユーザー設定」3-4 ページをご覧ください。

④「備考」欄はお客様自身のメモとしてお使いください。
入稿された PDF データは自動化ラインで生産が行われるため、弊社は備考欄をチェックいたしません。
弊社への連絡事項などをこの備考欄に記入しないでください。

弊社へのご連絡、ご要望は担当の営業員、もしくはサポートセンターへお寄せください。
フリーダイヤル　0120-520-410

手順5 注文用ファイルの保存

保存先のドライブ、フォルダを選択して「保存」をクリックしてください。
※ギャラリーボックスは、JPEG ファイルになります。

ご注意

この時、表示された注文用 PDF、JPEG のファイル名を書き替えないでください
PDF 及び JPEG の書き出しでは、ABM2 が自動的にファイル名を生成します。このファイル名は弊社の自動受注システムで認識するためのものですので、ファイル名を書き替えないようにお願い致します。

PDF の保存（書き出し）の場合、終了すると、右図のメッセージが表示されるので、「OK」をクリックしてください。

注文用 PDF が表示されます。
※ギャラリーボックスは、JPEG になりますので表示されません。

ご注意

●書き出された PDF ファイルはご発注の前に必ず「Adobe® Acrobat ® Reader」で開いて、全ページを確認してください。
※必要に応じて PDF を「Adobe® Photoshop®」で直接開くことも可能です。その際の解像度は、表紙が 260dpi、本文は 271dpi で開いてください。

● PDF ファイルを開く際は、「Adobe® Acrobat® Pro」や他社製の PDF ソフトウェアを使用しないでください。開いただけで PDF ファイルの中に含まれる情報部分が破損することがあり、注文ができない場合があります。

アドバイス！

macOS では付属の「プレビュー」で PDF ファイルを閲覧できますが、表示が不正確な場合があるようです。
「Adobe Acrobat Reader®」を使用することをお薦め致します。

20-3.　注文用ファイルの送信

出力した注文用ファイルは、弊社がご提供する「マイページ」からインターネット経由でご注文ください。

もしくは、CD、DVD などのメディアに保存後、宅配便にて発送してください。

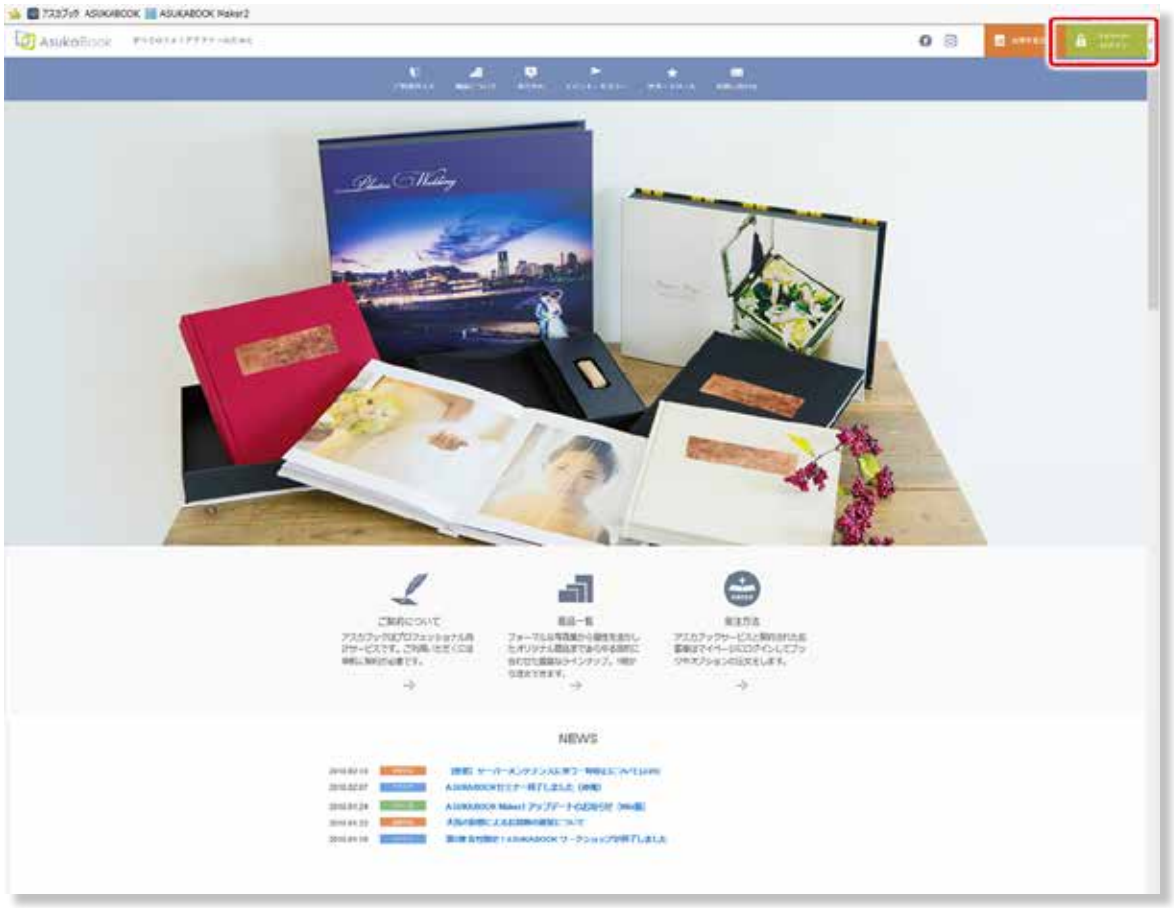
●「マイページ」は、「アスカブック」のホームページよりアクセスできます。

http://asukabook.jp/

「アスカブック」に接続したら、「マイページ」タブ（右図の赤丸印）をクリックするとマイページに入ります。

●マイページに入るには、「ユーザー ID」と「パスワード」が必要です。ユーザー ID とは、ご契約後に弊社が発行する 6 桁の数字です。

●「マイページ」の詳細については、「マイページ」内に解説がございますのでご覧ください。



21　画像選択時、余白での右クリック

編集パレット上でオブジェクト（画像、図形、文字）を選択した状態で、右クリックメニューを使用することができます。あわせて余白部分での右クリックメニューももご案内いたします。

※ Windows 版と macOS 版で順序及び配列、表示メニューが一部異なります。

21-1.　コピー

選択している画像、文字、図形をコピーします。
（コンピュータの一時記憶領域に記憶します）

●「コピー」をクリックすると、ABM2 は選択した画像を一時的に記憶するだけで、外見上は何の動作も起こりません。

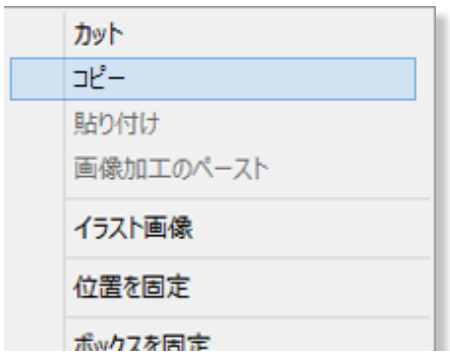
●「コピー」で記憶した内容は、次に新たな「コピー」、または「カット」を行うまで有効です。

21-2.　カット

選択している画像、図形、文字をページ上から消去します。
（切り取った画像、文字、図形は編集パレットから削除され、一時的に記憶されます）

● 画像を選択して「カット」をクリックすると、ABM2 は選択した画像をページ上から画像を消去しますが、一時的に記憶していますので、「貼り付け」を使うことができます。

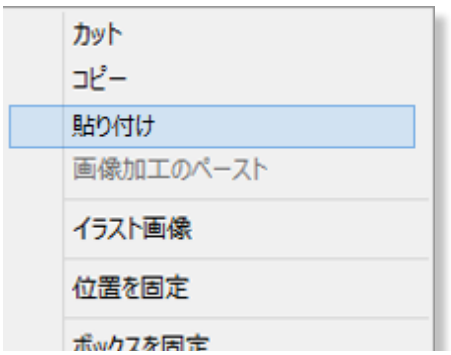
●「カット」で記憶した内容は、次に新たな「コピー」、または「カット」を行うまで有効です。



21-3.　貼り付け

「コピー」、もしくは「カット」で記憶している画像、図形、文字を貼り付けます。

（コンピュータの一時記憶領域に記憶されている内容を貼り付けます）



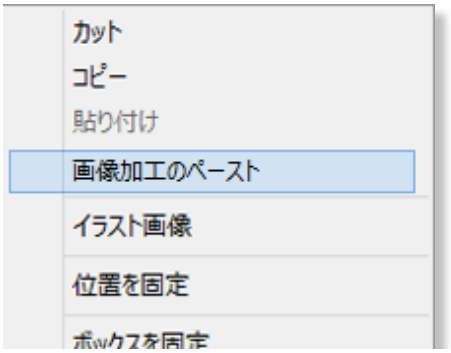
21-4.　画像加工のペースト

画像に施した画像加工の効果だけを、他の画像にコピーすることができます。

手順１　コピー元の画像を選択して「コピー」を行います。

手順２　次に、コピーしたい画像を選択します。

手順３　「画像加工のペースト」をクリックすると、効果だけを貼り付けることができます。

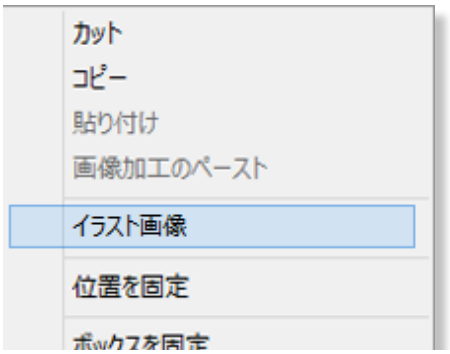


21-5.　イラスト画像

「イラストタブ」よりドラッグして配置したオブシェクト（イラスト画像、写真画像）には、この右クリックメニューの「イラスト画像」にチェックが入ります。

●「イラスト画像」にチェックが入っているイラスト、および写真画像は、テンプレート保存を行った際に「サンプル」文字が記入されません。

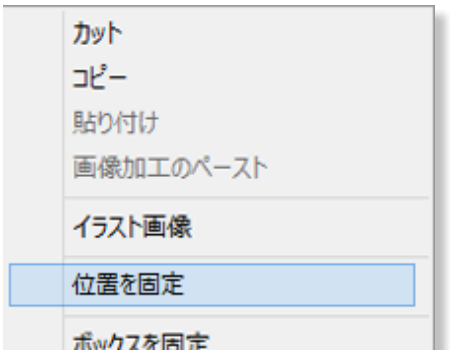
●右クリックメニューの「イラスト画像」をもう一度クリックすると、チェックが外れます。このチェックを外すと、テンプレート保存した際に、「サンプル」文字が記入されるようになります。



21-6.　位置を固定

選択したオブシェクト（写真画像、図形、文字）を固定（ロック）する機能です。

背景に写真を用いたり、画像を重ね合わせるなどの複雑な作り込みを行う際に、位置決めしたオブジェクトを動かしたくない場合があります。このようなときにはオブジェクトを位置固定（ロック）しておくと便利です。



●位置固定を解除する場合は、もう一度固定されたオブジェクトを選択し、「位置を固定」をクリックすると解除されます。

●位置固定されたオブジェクトは、画像の変更、位置の移動、順序の変更、削除などの操作が一切できなくなります。

●位置固定されているオブジェクトは、選択するとオブジェクトの中心部分にカギのマークが表示されます。

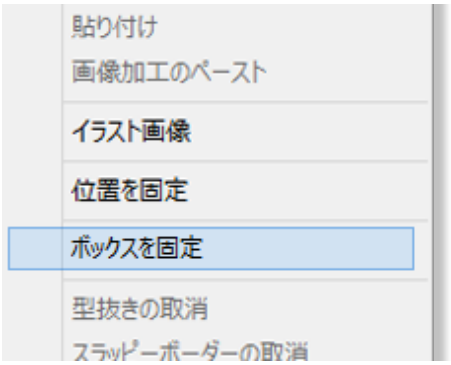
21-7.　ボックスを固定

配置した画像のボックス部分のみを（つまり位置を）固定します。

固定された画像は移動はできませんが、画像の差し替えは可能です。

● 固定を解除する場合は、もう一度固定された画像を選択し、「ボックスの固定」をクリックします。

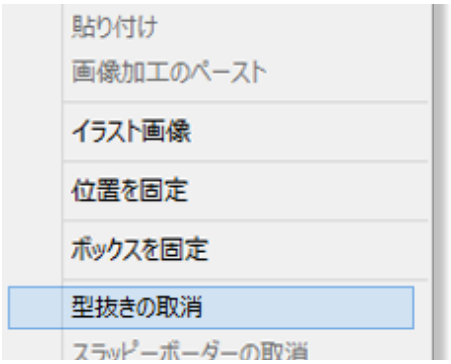
●「ボックスの固定」では、固定することができるのは画像のみです。図形、文字を固定する場合は「位置を固定」を使ってください。



21-8.　型抜きの取消

選択した画像に施した型抜きの効果を取り消します。

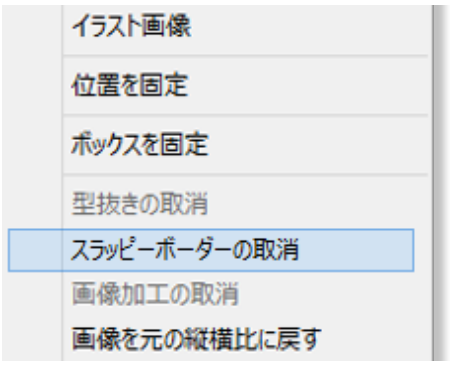
型抜きについては、本書の「8.　型抜き」8-1 ページをご覧ください。



21-9.　スラッピーボーダーの取消

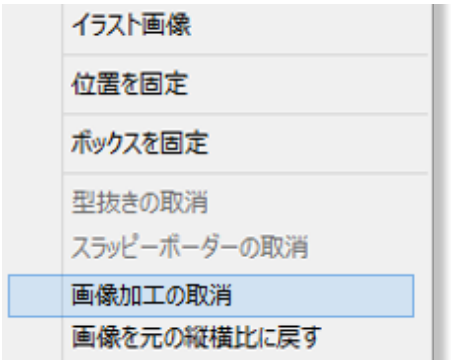
選択した画像に施したスラッピーボーダーの効果を取り消します。

スラッピーボーダーについては、本書の「11.　スラッピーボーダータブ」11-1 ページをご覧ください。



21-10.　画像加工の取消

選択した画像に施した画像加工の効果を取り消します。

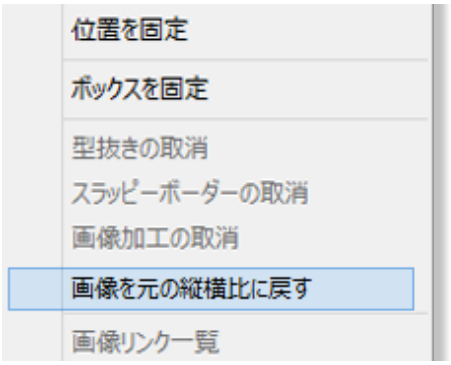


画像加工については、本書の「16.　画像加工」16-1 ページをご覧ください。

21-11.　画像を元の縦横比に戻す

トリミング作業を行っている途中で、画像を元に戻したい（トリミングをしていない状態）場合があります。 こんな時に便利なトリミング解除機能を用意しました。

選択した画像のボックスが固定されている場合と、固定されていない場合で動作が異なります。



●バージョン 2.3 から追加された機能です。

① ボックスが固定されている場合の動作

手順 1　画像を選択

縦横比を元に戻したい画像を選択します。

アドバイス！

ボックスが固定されていることは、選択した画像の周囲にバウンディングボックスが表示されないことから判ります。

手順 2　「画像を元の縦横比に戻す」をクリック

右クリックをし、表示されたサブメニューから「画像を元の縦横比に戻す」をクリックします。

アドバイス！

ボックスが固定されていることは、サブメニューの「ボックスを固定」にチェックが入っていることからも確認できます。

画像の縦横比が元に戻ります。

●ボックスが固定されている場合は、「ボックス固定」が優先されます。
このため、トリミングが解除された（縦横比が元に戻った）画像がボックスの内部いっぱいに表示されます。

●ボックスは固定されているため、ボックスの寸法は変化しません。
従って、画像の拡大率が変化します。

② ボックスが固定されていない場合の動作

手順 1　画像を選択

縦横比を元に戻したい画像を選択します。

アドバイス！

ボックスが固定されていないことは、選択した画像の周囲にバウンディングボックスが表示されることから判ります。

手順 2　「画像を元の縦横比に戻す」をクリック

右クリックをし、表示されたサブメニューから「画像を元の縦横比に戻す」をクリックします。

アドバイス！

ボックスが固定されていないことは、サブメニューの「ボックスを固定」にチェックが入っていないことからも確認できます。

画像の縦横比が元に戻ります。

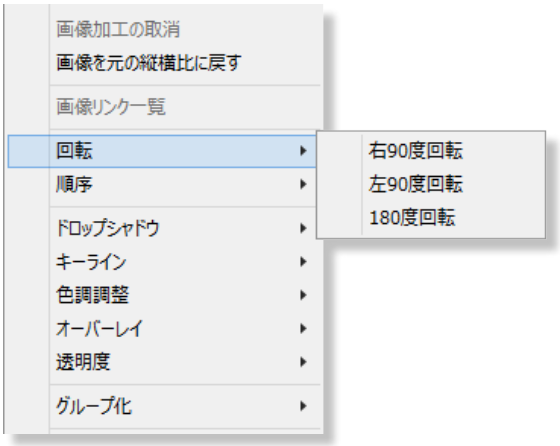
●ボックスが固定されていない場合は、現在表示されている拡大率が優先されます。
このため、画像のトリミングが解除されると（縦横比が元に戻ると）画像の外枠が拡張される方向に変化します。

21-12.　回転

選択したオブジェクト（写真画像、図形、文字）を 90 度ごとに回転させる機能です。

● 回転は 3 種類です。
右 90 度回転
左 90 度回転
180 度回転

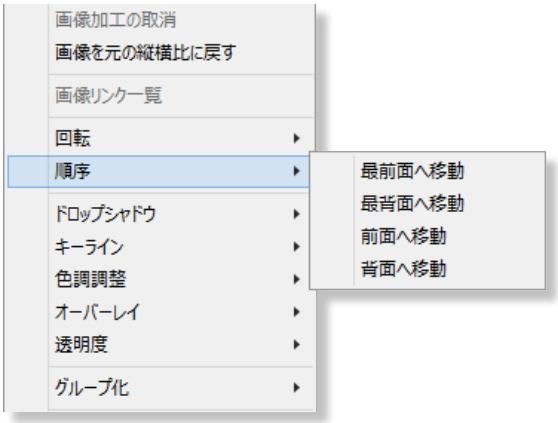
● 回転角度を細かく指定したい場合は、ヘッダーの「回転角度」欄を使用してください。



21-13.　順序

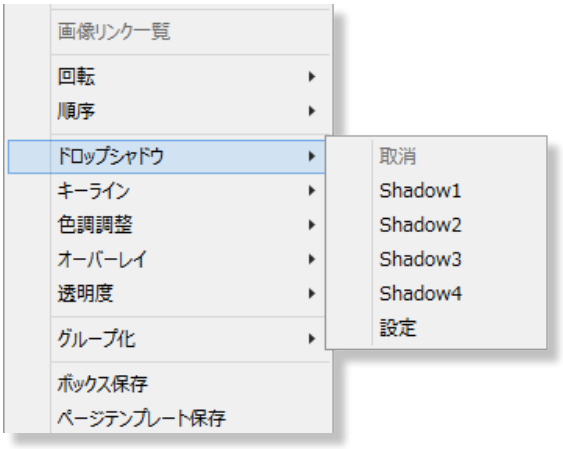
選択したオブジェクト（写真画像、図形、文字）の重なり状態 (順番) を調整する機能です。

● 重なり状態の調整の種類は 4 種類です。
最前面へ移動
前面へ移動
背面へ移動
最背面へ移動



21-14.　ドロップシャドウ

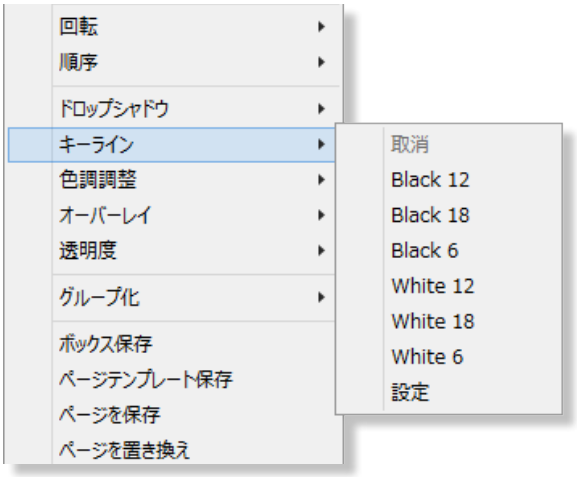
選択した写真画像、図形に影をつける機能です。
右クリックを使うと、ご自分で作ったドロップシャドウの設定がサブメニューに表示されますので、画像加工ダイアログを開かずに効果を掛けることができます。



ドロップシャドウの使い方については、本書の 16-2 ページの「16-2 ドロップシャドウ」をご覧ください。

21-15.　キーライン

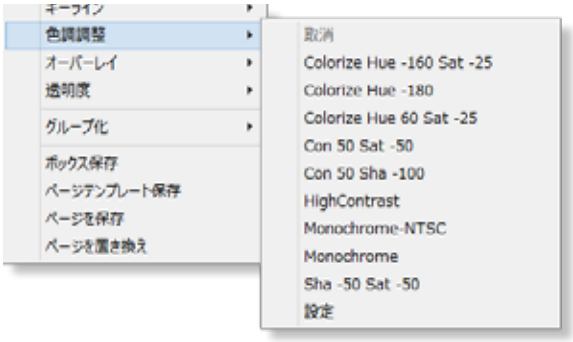
選択した写真画像、図形に縁取りをつける機能です。
右クリックを使うと、ご自分で作ったキーラインの設定がサブメニューに表示されますので、画像加工ダイアログを開かずに効果を掛けることができます。



キーラインの使い方については、本書の 16-4 ページの「16-3 キーライン」をご覧ください。

21-16.　色調調整

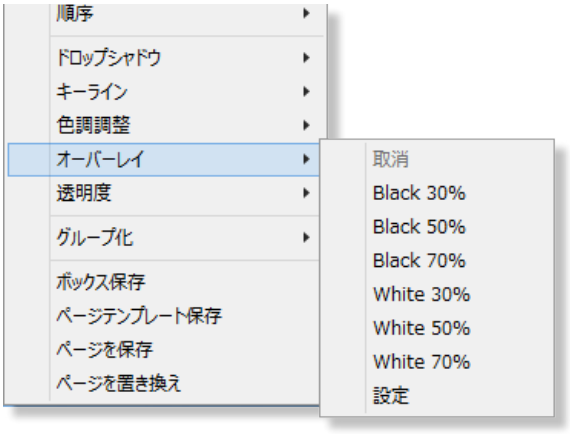
選択した写真画像に色調調整の効果を掛ける機能です。
右クリックを使うと、ご自分で作った色調調整の設定がサブメニューに表示されますので、画像加工ダイアログを開かずに効果を掛けることができます。



色調調整の詳細については、16-7 ページの「16-4　色調調整」本書のをご覧ください。

21-17.　オーバーレイ

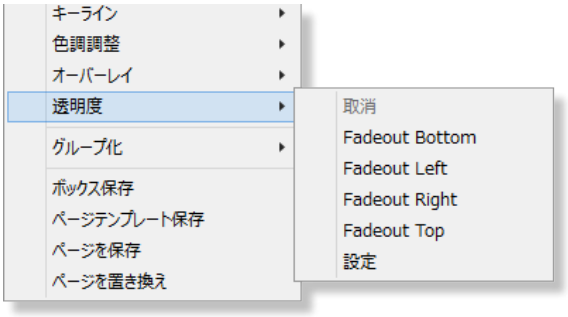
選択した写真画像に色を被せる（オーバーレイ）機能です。
右クリックを使うと、ご自分で作ったオーバーレイの設定がサブメニューに表示されますので、画像加工ダイアログを開かずに効果を掛けることができます。



オーバーレイの使い方については、本書の 16-19 ページの「16-5. オーバーレイ」をご覧ください。

21-18.　透明度

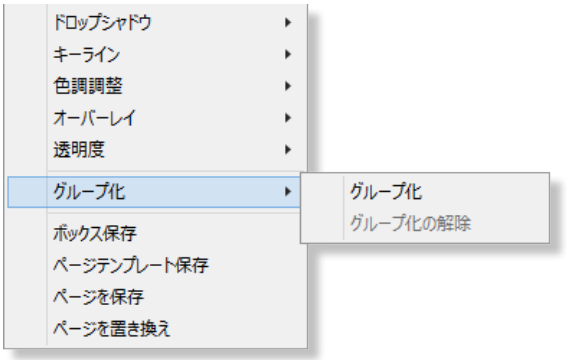
選択した写真画像に透明度の効果をつける機能です。
右クリックを使うと、ご自分で作った透明度の設定がサブメニューに表示されますので、画像加工ダイアログを開かずに効果を掛けることができます。



透明度の使い方については、本書の「16-6.　透明度」16-22 ページをご覧ください。

21-19.　グループ化

選択した複数のオブジェクト（画像、図形、文字）を一つのオブジェクトとして一体化させる機能です。
グループ化されたオブジェクトは、そのグループを一体として移動できるようになる他、画像加工による効果などもまとめて施すことができます。
なお、グループ化の解除もこのメニューから行えます。
●バージョン 2.3 から追加された機能です。

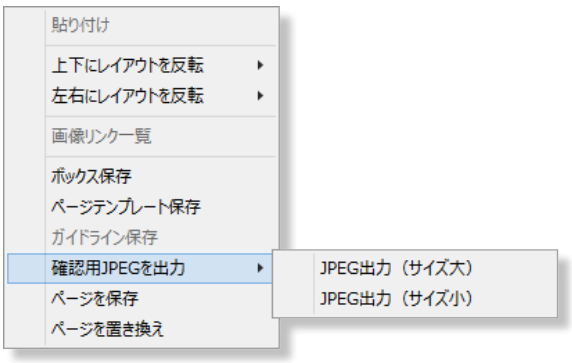


グループ化の使い方については、本書の「4-13.　複数のオブジェクトをグループ化する」4-35 ページをご覧ください。

21-20.　確認用 JPEG を出力

レイアウト編集結果を視覚的に確認するための「確認用 JPEG 画像」を出力できます。

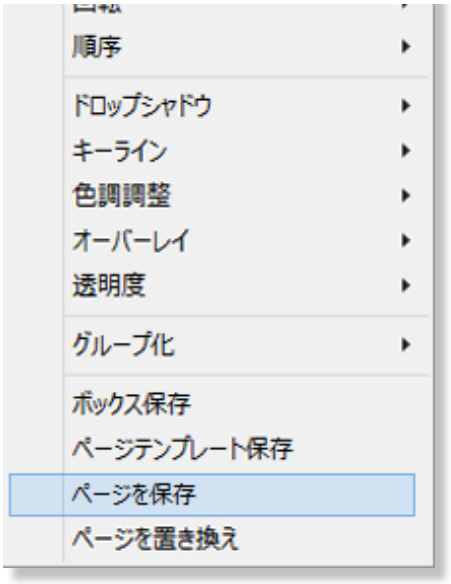
Windows 版では、余白で右クリックの機能ににになります。



確認用 JPEG 画像については、本書の「6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力」6-9 ページをご覧ください。

21-21.　ページを保存

写真に施した効果（画像加工ダイアログの情報）や、背景色も含めて保存したい場合には、「ページを保存」を使用してください。



ページ保存の詳細については、本書の 6-7 ページの「6-7.　エクスポート／ページを保存」をご覧ください。

21-22.　ページを置き換え

「ページを保存」で保存したページを呼び出す時に使います。

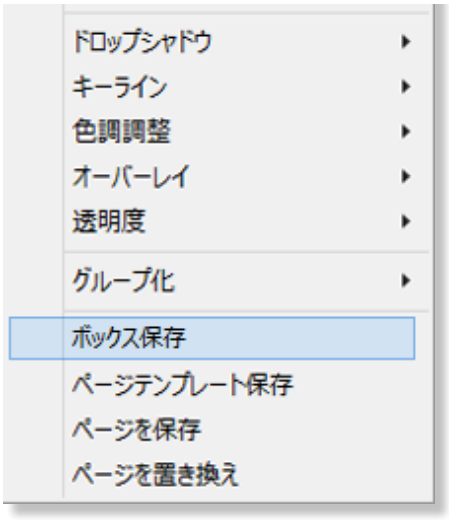
ページの置き換えの詳細については、本書の 6-13 ページの「6-9.　リプレース／ページを置き換え」をご覧ください。

●置き換えができるのは、ブックの縦横比が同じもののみです。

21-23.　ボックス保存

「ボックス」とは、写真画像をレイアウトするために、あらかじめ用意したパターンのことです。ボックスはすでに用意されているものの他、ご自分で作成されたボックスを保存することができます。

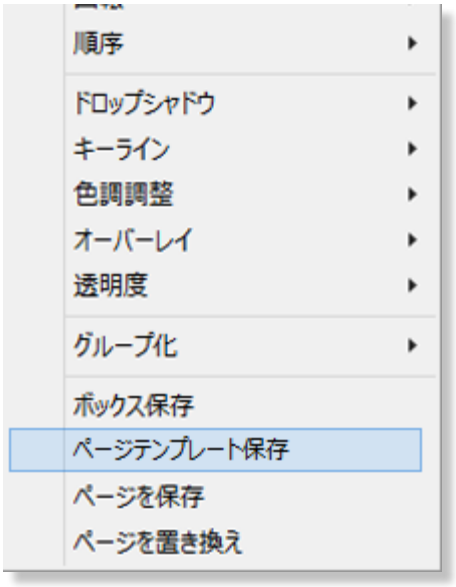
ボックスの詳細については、本書の「7-17.　ボックスの保存について」7-20 ページをご覧ください。



21-24.　ページテンプレート保存

作成したガイドラインを登録し、それを再利用することができます。

ページテンプレート保存の詳細については、本書の 14-1 ページの「14-1.　ページテンプレートの保存」をご覧ください。

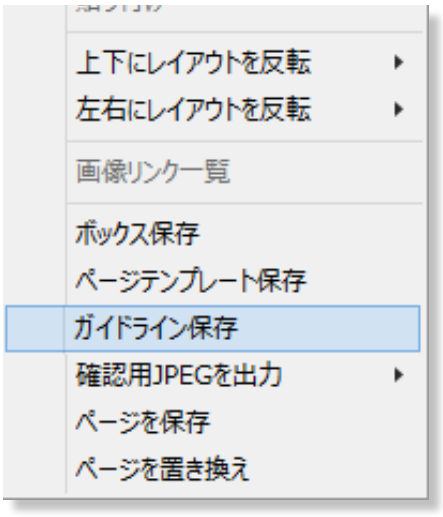


21-25.　ガイドライン保存

作成したガイドラインを登録し、それを再利用することができます。

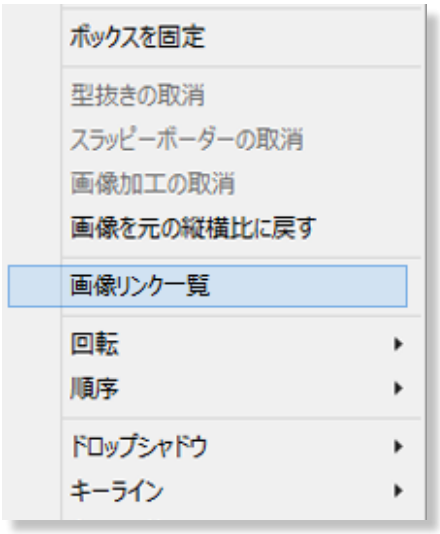
Windows 版では、余白で右クリックの機能ににになります。

ガイドライト保存の詳細については、本書の「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。



21-26.　画像リンク一覧

リンク形式保存の際に、リンクが切れ時に再リンクすることが可能です。



画像リンク一覧の詳細については、2-16 ページの「2-5-2.　画像リンク一覧」をご覧ください。

21-27.　上下にレイアウトを反転

すでに配置が済んだページのレイアウトを、上下方向に反転することができます。

この機能は、余白で右クリックした際の操作になります。

21-27-1.　見開きの左ページのみを上下反転させる

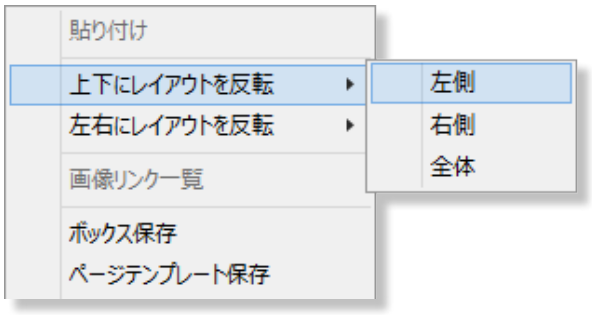
手順 1　見開きページを表示させる

反転させたい見開きページを編集パレットに表示させます。

手順 2　「上下にレイアウトを反転」、「左側」をクリック

編集パレット内部で、オブジェクトを何も選択しない状態で右クリックすると、サブメニューが表示されます。

右図のように「上下にレイアウトを反転」、さらに「左側」をクリックします。



見開きの左ページのレイアウトのみ（ボックスの配置の状態）が上下反転します。

アドバイス！

同様に、右ページのレイアウトのみを反転させる場合は「右側」を選択してください。

21-27-2.　見開き全体ページを上下反転させる

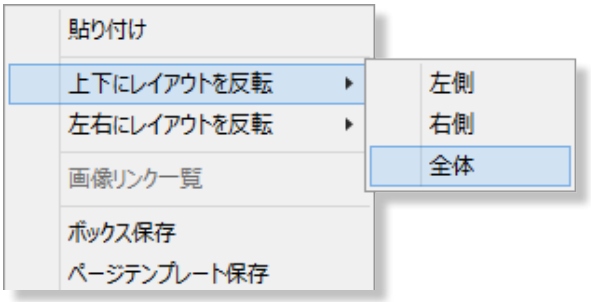
手順 1　見開きページを表示させる

反転させたい見開きページを編集パレットに表示させます。

手順 2　「上下にレイアウトを反転」、「全体」をクリック

編集パレット内部で、オブジェクトを何も選択しない状態で右クリックすると、サブメニューが表示されます。

「左右にレイアウトを反転」、さらに「全体」をクリックします。



見開きの全体のレイアウトが上下反転します。

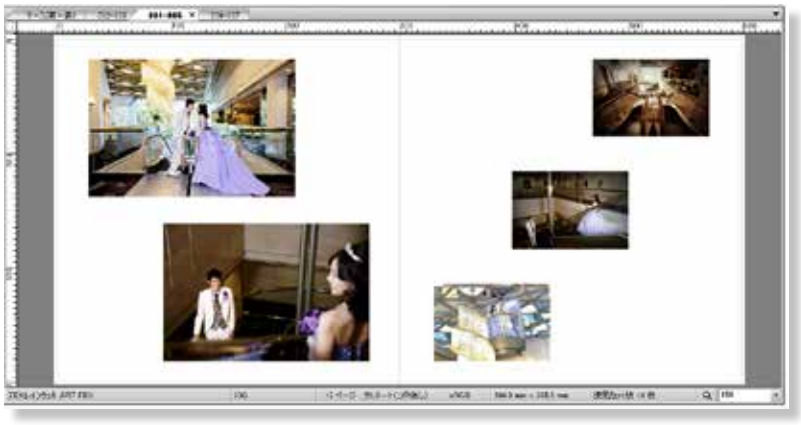
21-28.　左右にレイアウトを反転

この機能は、余白で右クリックした際の操作になります。

21-28-1.　見開きの左ページのみを左右反転させる

手順 1　見開きページを表示させる

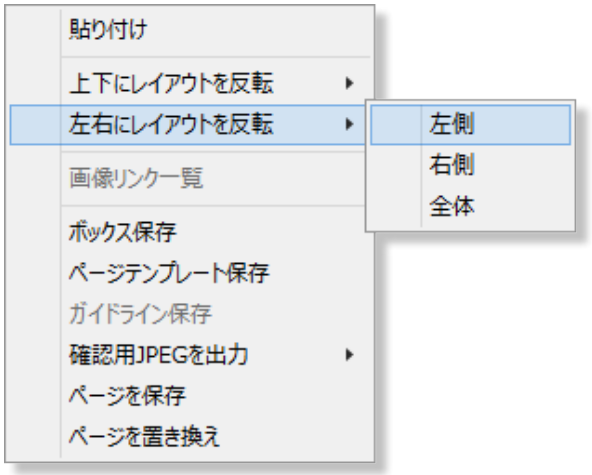
反転させたい見開きページを編集パレットに表示させます。



手順 2　「左右にレイアウトを反転」、「左側」をクリック

編集パレット内部で、オブジェクトを何も選択しない状態で右クリックすると、サブメニューが表示されます。

「左右にレイアウトを反転」、さらに「左側」をクリックします。



見開きの左ページのレイアウトのみが左右反転します。

アドバイス！

同様に、右ページのレイアウトのみを反転させる場合は「右側」を選択してください。

21-28-2.　見開きページ全体を左右反転させる

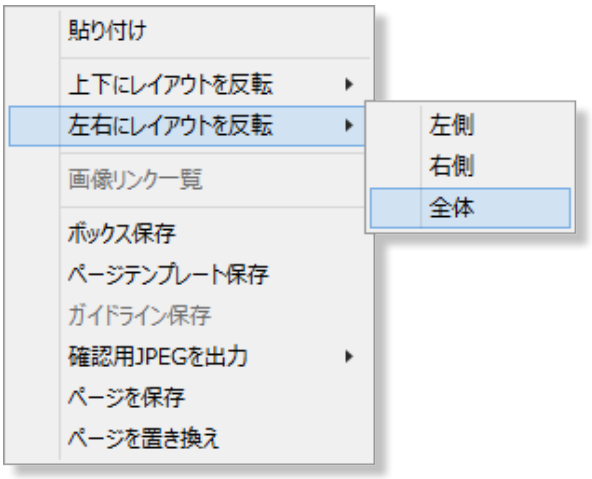
手順 1　見開きページを表示させる

反転させたい見開きページを編集パレットに表示させます。

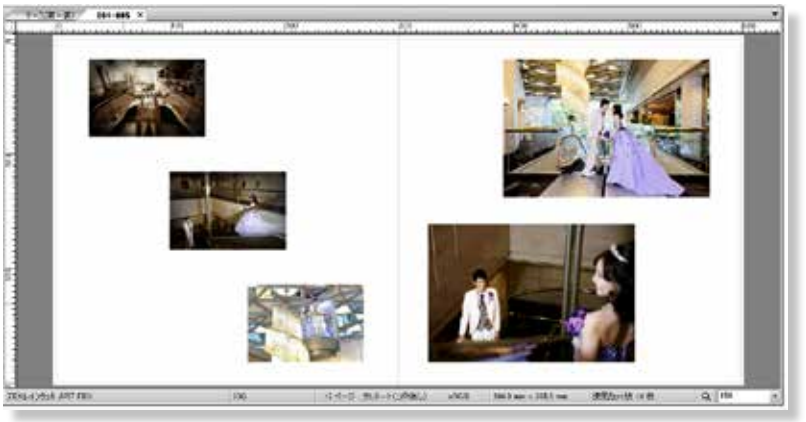
手順 2　「左右にレイアウトを反転」、「全体」をクリック

編集パレット内部で、オブジェクトを何も選択しない状態で右クリックすると、サブメニューが表示されます。

「左右にレイアウトを反転」、さらに「全体」をクリックします。



見開きの全体のレイアウトが左右反転します。



22.　eraview からの連携

写真セレクトシステム「eraview」(エラビュー) で写真をセレクトして ABM2 に連携する事ができます。あらかじめ写真をセレクトすることにより、写真のページ割り振りが簡単に行えます。

■「eraview」(エラビュー) について

https://asukabook.jp/support_tool/eraview.html

※「eraview」の操作方法及び ABM2 への連携は、別途「eraview」のマニュアルをご参照ください。

「eraview」マニュアル：http://abm.asukabook.com/jp/expert/eraview_manual_1e.pdf

22-1.　eraview からの連携　新規作成に連携する

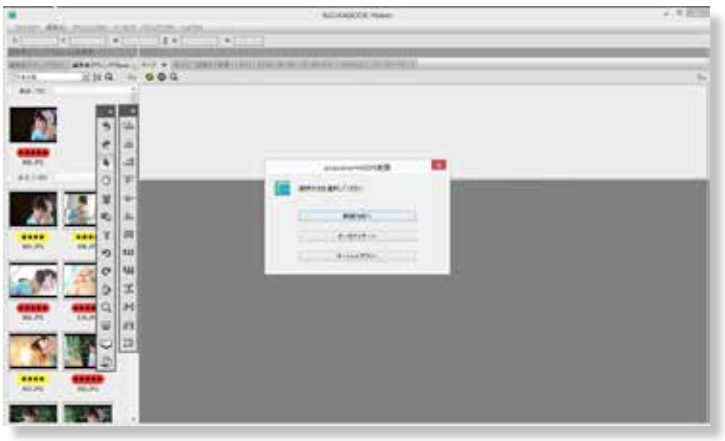
「eraview」から ABM2 に連携して ASUKABOOK を新規作成する場合をご説明いたします。

22-1-1.　通常のセレクトセットの場合 (商品セレクトセット以外)

「eraview」で「おまかせ」、「インデックスブック用」やオリジナルのセレクトセットを選択した場合です。商品を選択してセレクトセットを作成した場合は、22-3 ページの「22-1-2.　商品セレクトセットで連携した場合」をご参照ください。

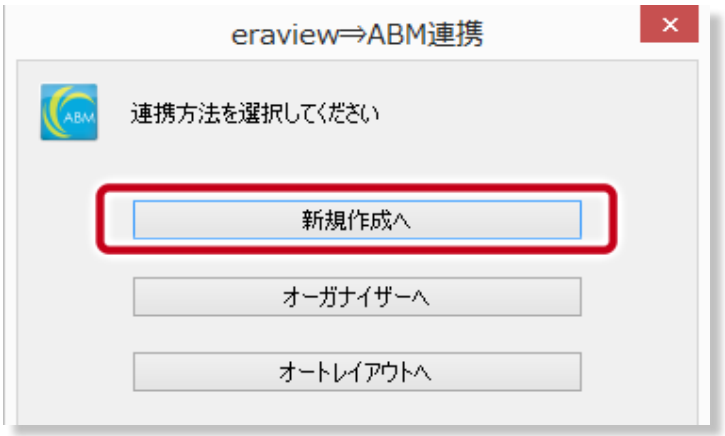
手順 1　ABM2 の起動

「eraview」から ABM2 への連携を行うと、ABM2 が起動します。



手順 2　連携方法を選択する

「eraview」から連携すると右図のパネルが開きますので、連携方法を選択します。ここでは、ブックを新規作成しますので「新規作成へ」を選択します。



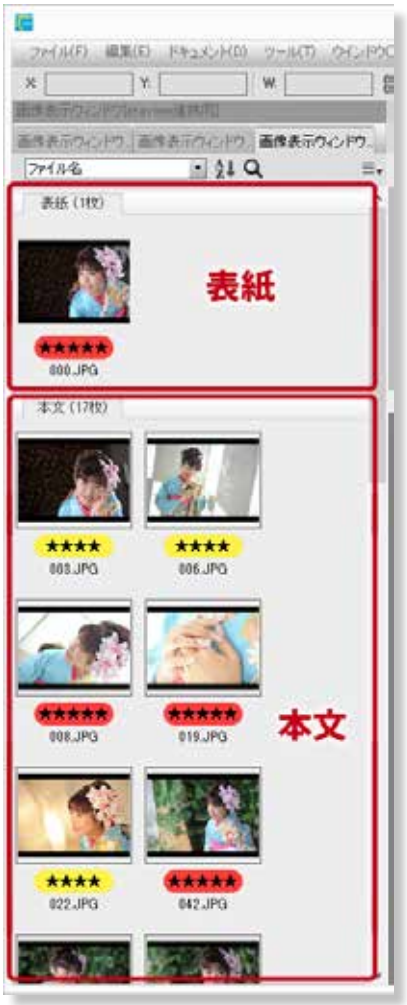
手順3 ブックを設定する

①で作成したいブックの設定を行います。

②設定が完了したら「OK」をクリックします。

手順4 写真を配置してレイアウトする

「画像表示ウインドウ」に「eraview」でセレクトした写真がフォルダごとに表示されます。



手順 5 写真を配置してレイアウトする

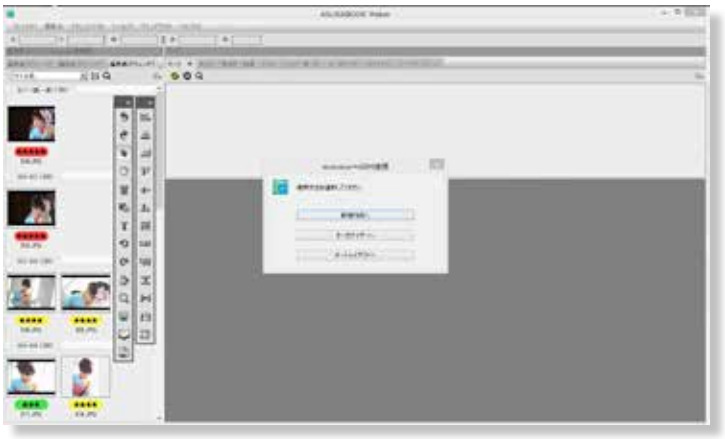
フォルダから通常通りセレクトされた写真を配置してデザイン、レイアウトを行いブックを完成させます。

22-1-2.　商品セレクトセットで連携した場合

手順 1 ABM2 の起動

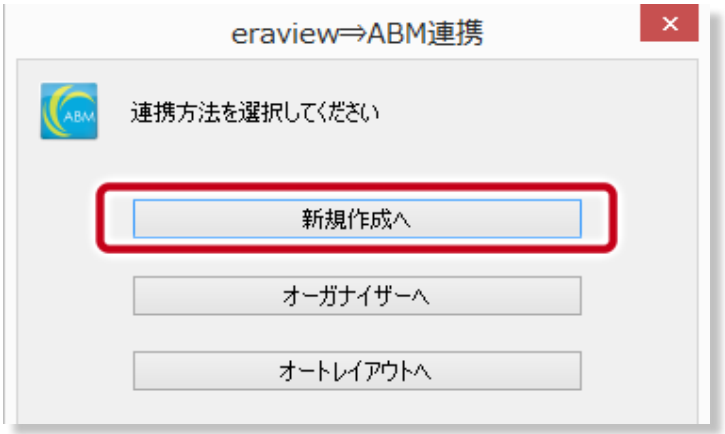
「eraview」から ABM2 への連携を行うと、ABM2 が起動します。

商品セレクトセット以外で作成した場合は、22-1 ページの「22-1-1.　通常のセレクトセットの場合 (商品セレクトセット以外)」をご参照ください。



手順 2 連携方法を選択する

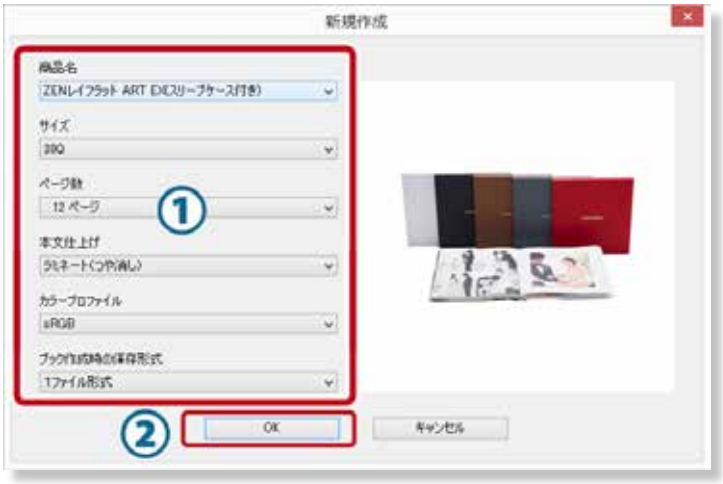
「eraview」から連携すると右図のパネルが開きますので、連携方法を選択します。ここでは、ブックを新規作成しますので「新規作成へ」を選択します。



手順3 ブックを設定する

①ブックの設定を行います。「eraview」で選択した商品セレクトセットの商品とページ数を選択してください。他の項目は任意で設定してください。

②設定が完了したら「OK」をクリックします。



手順4 画像表示ウインドウにページごとに写真が表示される

「画像表示ウインドウ」に「eraview」でセレクトした写真がカバーやページごとに表示されます。

手順5 写真を配置してレイアウトする

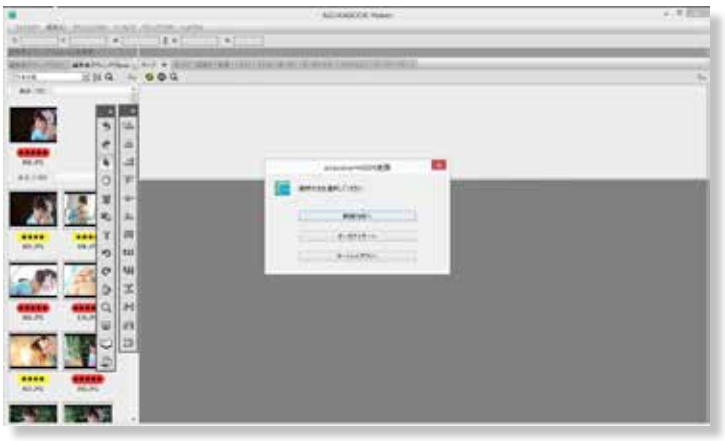
それぞれのページに写真を配置し、デザイン、レイアウトを行いブックを完成させます。

22-2　eraview からの連携　オーガナイザーに連携する

「eraview」から ABM2 に連携してオーガナイザー機能 (画像割り振り機能) を利用する場合をご説明いたします。

22-2-1　通常のセレクトセットの場合 (商品セレクトセット以外)

「eraview」で「おまかせ」、「インデックスブック用」やオリジナルのセレクトセットを選択した場合です。



商品を選択してセレクトセットを作成した場合は、

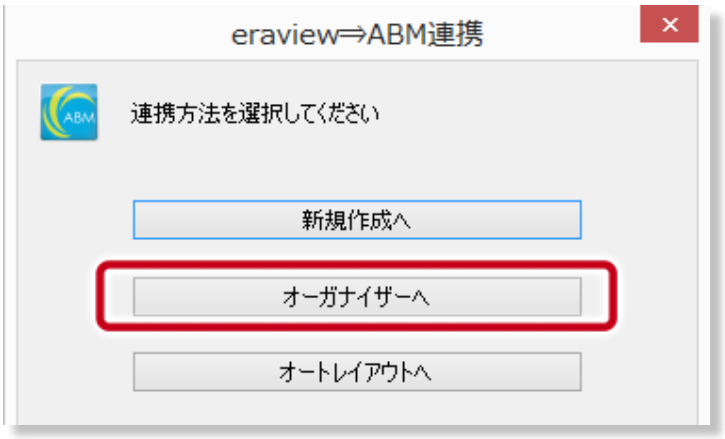
22-8 ページの「22-2-2　商品セレクトセットで連携した場合」をご参照ください。

手順 1　ABM2 の起動

「eraview」から ABM2 への連携を行うと、ABM2 が起動します。

手順 2　連携方法を選択する

「eraview」から連携すると右図のパネルが開きますので、連携方法を選択します。ここでは、ABM2 のオーガナイザー機能を利用しますので「オーガナイザーへ」を選択します。



手順 3　ブックを設定する

①ブックの設定を行います。「eraview」で選択した商品セレクトセットの商品とページ数を選択してください。他の項目は任意で設定してください。

②設定が完了したら「OK」をクリックします。

手順4 オーガナイザーが開きます

オーガナイザーが開き、「eraview」で選択もしくは作成したセレクトセットのフォルダごとに写真が表示されます。

手順5 画像割り振り領域に写真を割り振る

フォルダごとにセレクトされた写真を「画像割り振り領域」にページごとに割り振ります。
割り振ると「オートレイアウト領域」にオートレイアウトされます。

オートレイアウト領域でのレイアウト変更

オートレイアウト領域の「レイアウト変更」ボタンと「並び替え」ボタンを使えば、レイアウト (ボックスデザイン) の変更と写真の順序を変更できます。

詳細は、12-31 ページの「12-13-3.　見開きページの並び替え」以降をご参照ください。

オートレイアウト機能を使わない場合

①の「オートレイアウトを表示」のチェックを外すと、オートレイアウトは動作せず、オーガナイザー (画像割り振り機能) のみとなります。

手順 6　編集画面へ

各ページへの写真の割り振りが終わりましたら、「編集画面へ」ボタンをクリックします。

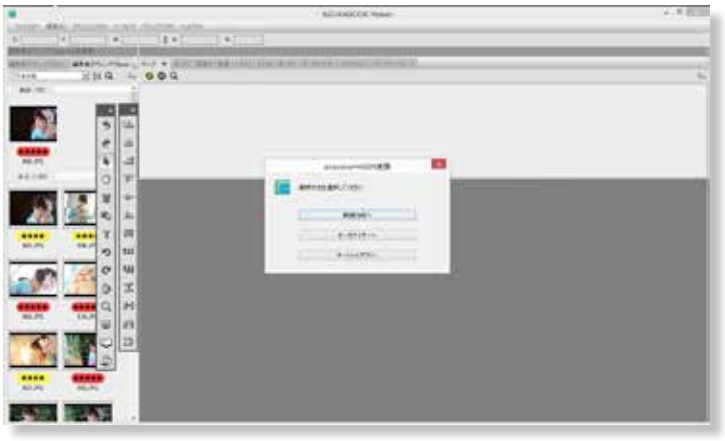
手順 7　編集画面

「編集画面」に移行したら、最終的にブックのデザイン、レイアウトを行い完成させます。

22-2-2　商品セレクトセットで連携した場合

手順 1　ABM2 の起動

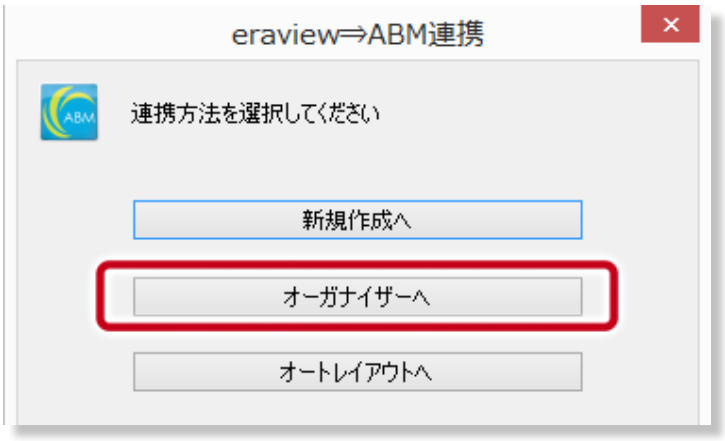
「eraview」から ABM2 への連携を行うと、ABM2 が起動します。



商品セレクトセット以外で作成した場合は、22-5 ページの「22-2-1　通常のセレクトセットの場合 (商品セレクトセット以外)」をご参照ください。

手順 2　連携方法を選択する

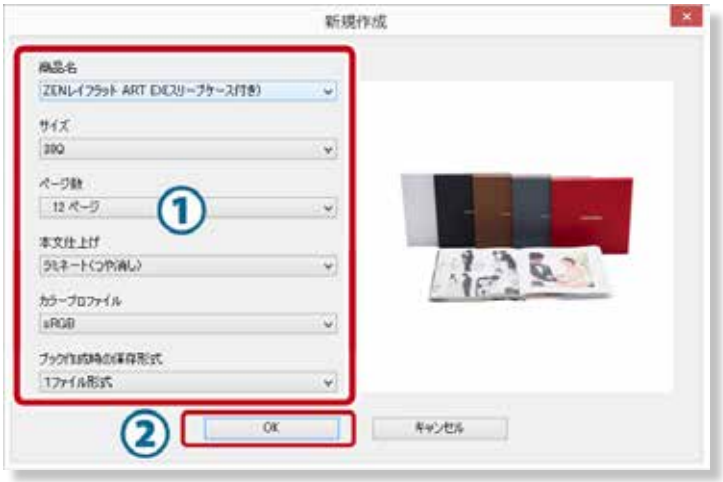
「eraview」から連携すると右図のパネルが開きますので、連携方法を選択します。ここでは、ABM2 のオーガナイザー機能を利用しますので「オーガナイザーへ」を選択します。



手順 3　ブックを設定する

①ブックの設定を行います。「eraview」で選択した商品セレクトセットの商品とページ数を選択してください。他の項目は任意で設定してください。

②設定が完了したら「OK」をクリックします。



手順4 オーガナイザーが開きます

オーガナイザーが開き、「eraview」で選択した商品セレクトセットのページごとに写真が表示されます。
スクロールすることにより各ページごとのフォルダが確認できます。

手順5 画像割り振り領域に写真が割り振られる

すでにページごとに割り振られているので、フォルダごとにセレクトされた写真が「画像割り振り領域」に自動でページごとに割り振られます。
割り振られると「オートレイアウト領域」にオートレイアウトされます。

オートレイアウト領域でのレイアウト変更

オートレイアウト領域の「レイアウト変更」ボタンと「並び替え」ボタンを使えば、レイアウト (ボックスデザイン) の変更と写真の順序を変更できます。

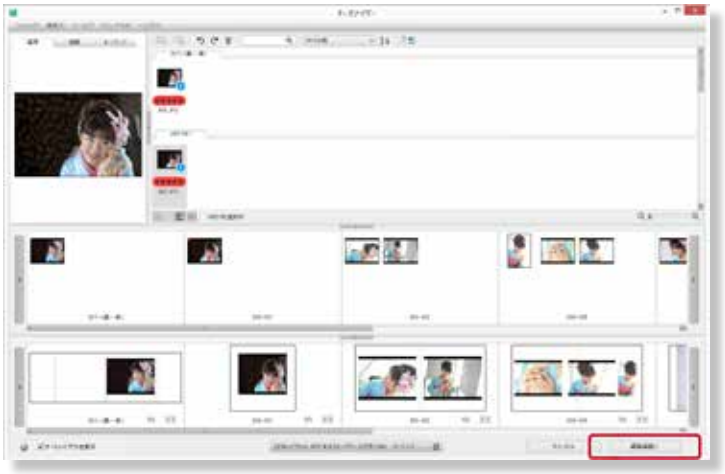
詳細は、12-31 ページの「12-13-3.　見開きページの並び替え」以降をご参照ください。

オートレイアウト機能を使わない場合

①の「オートレイアウトを表示」のチェックを外すと、オートレイアウトは動作せず、オーガナイザー (画像割り振り機能) のみとなります。

手順 6　編集画面へ

すでに、各ページへ自動で写真の割り振りがされていますので、「編集画面へ」ボタンをクリックします。



手順 7　編集画面

「編集画面」に移行したら、最終的にブックのデザイン、レイアウトを行い完成させます。

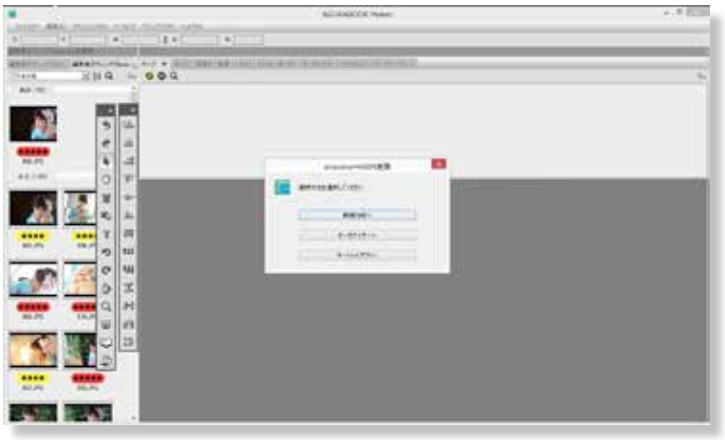
22-3　eraview からの連携　オートレイアウトに連携する

「eraview」から ABM2 に連携してオートレイアウト機能を利用する場合をご説明いたします。

22-3-1　通常のセレクトセット及び商品セレクトセット共通

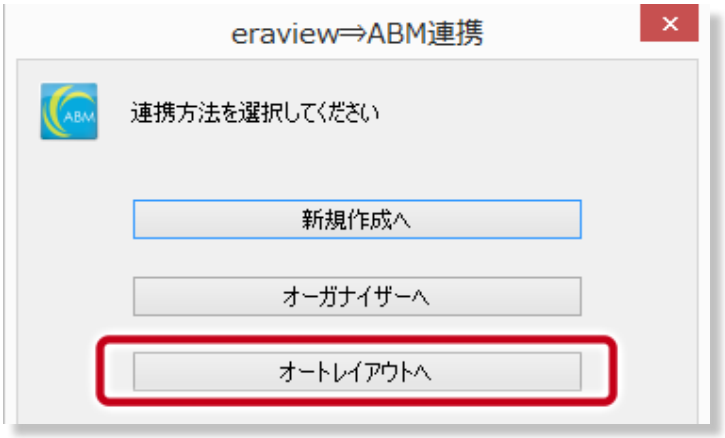
手順 1　ABM2 の起動

「eraview」から ABM2 への連携を行うと、ABM2 が起動します。



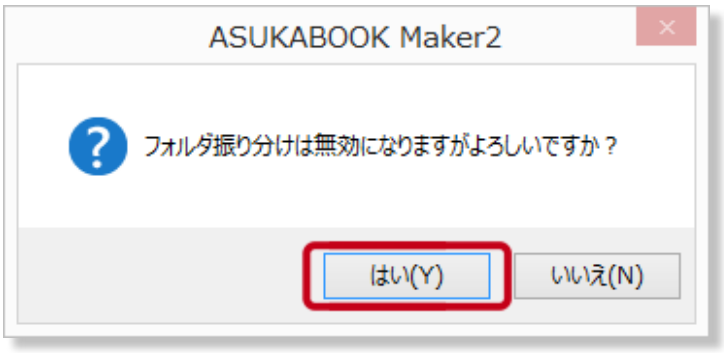
手順 2　連携方法を選択する

「eraview」から連携すると右図のパネルが開きますので、連携方法を選択します。ここでは、オートレイアウト機能を利用しますので「オートレイアウトへ」を選択します。



手順3 フォルダ振り分けが無効になります

右のようなメッセージが出ます。オートレイアウトに連携すると「eraview」上でフォルダ分けした内容は、無効になります。これは、オートレイアウトの場合はページ数とカット数に応じて写真がオートレイアウトされるためです。



手順4 ブックを設定する

①ブックの設定を行います。「eraview」で選択した商品セレクトセットの商品とページ数を選択してください。他の項目は任意で設定してください。

②設定が完了したら「OK」をクリックします。

手順5 オートレイアウトが開きます

オートレイアウトが始まり、自動でレイアウトされます。カバー、表紙はオートレイアウトされませんので、次の編集画面でレイアウトしてください。

オートレイアウト領域でのレイアウト変更

オートレイアウト領域の「レイアウト変更」ボタンと「並び替え」ボタンを使えば、レイアウト (ボックスデザイン) の変更と写真の順序を変更できます。

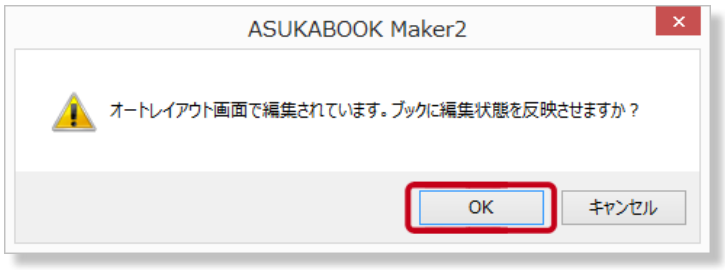
詳細は、12-31 ページの「12-13-3.　見開きページの並び替え」ご参照ください。

手順 6　「次へ」ボタンをクリックします

「次へ」ボタンをクリックして、編集画面に進みます。

手順 7　編集画面へ

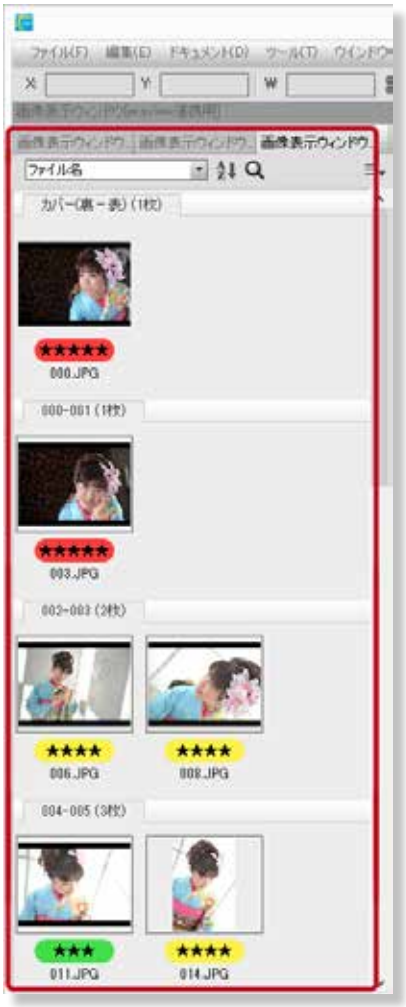
右のメッセージが出ますので「OK」ボタンをクリックして編集状態を反映してください。



手順8 編集画面

「編集画面」に移行したら、最終的にブックのデザイン及びレイアウトを行い完成させます。

画像表示ウインドウは、「eraview」で作成したセレクトセットのフォルダごとに表示されます。



22-4　eraview からの連携　レーティング・カラーラベルに関して

「eraview」から ABM2 に連携する際に、「eraview」で設定したレーティングやカラーラベルが引き継がれますので便利にご利用頂けます。

22-4-1　レーティングのキーワード検索 (オーガナイザー及びオートレイアウト)

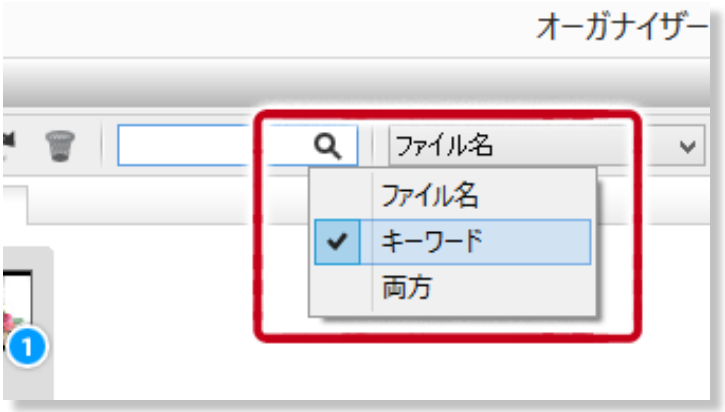
「eraview」から ABM2 に連携して、レーティングをキーワード検索して絞り込みを行う際の動作をご説明いたします。

虫眼鏡アイコンをクリックします。

右図は、オーガナイザーの画面です。オートレイアウトでも同様の操作になります。

手順 1　キーワード検索

検索項目のプルダウンから「キーワード」もしくは「両方」を選択します。

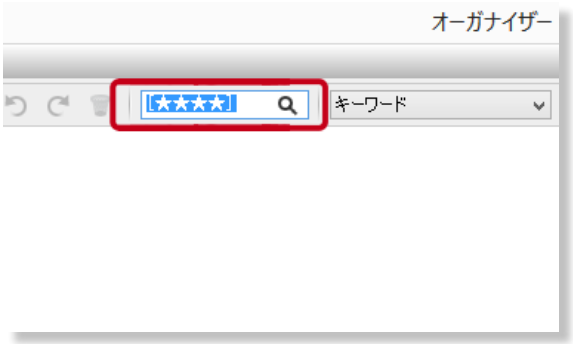


手順2 レーティングを検索する

「★★★★」のみの写真を検索して絞り込みたい場合は、[★★★★] と [] : 角括弧の中に★を 4 つ入力してください。

レーティング検索キーワード

- [★★★★★]
- [★★★★]
- [★★★]
- [★★]
- [★]



レーティングが「★★★★」の写真のみ検索されます。

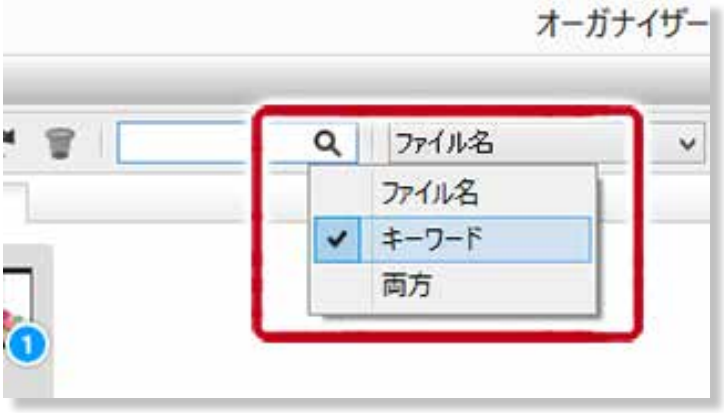
22-4-2　カラーラベルのキーワード検索 (オーガナイザー及びオートレイアウト)

「eraview」から ABM2 に連携して、カラーラベルをキーワード検索して絞り込みを行う際の動作をご説明いたします。

右図は、オーガナイザーの画面です。オートレイアウトでも同様の操作になります。

手順 1 キーワード検索

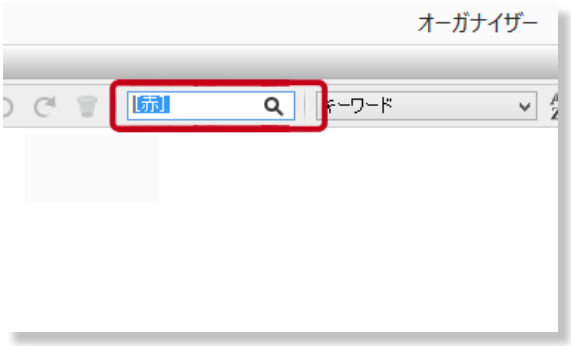
検索項目のプルダウンから「キーワード」もしくは「両方」を選択します。



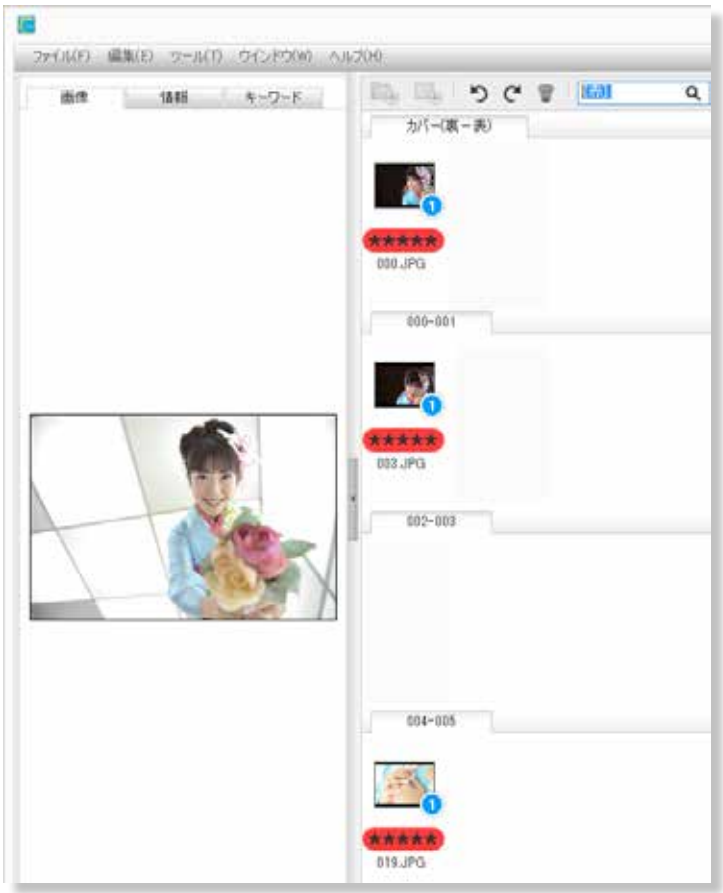
手順 2 カラーラベルを検索する

赤いカラーラベルのみの写真を検索して絞り込みたい場合は、[赤] と [] : 角括弧の中に赤と入力してください。

カラーラベル完全一致キーワード



・赤色 : [赤]
・黄色 : [黄]
・緑色 : [緑]
・青色 : [青]



赤のカラーラベルの写真のみ検索されます。

23.　ショートカットキー一覧

23-1.　編集時のショートカットキー

編集パレット上で、画像や文字を選択しているときには、以下のショートカットキーを利用することができます。

内容	Windows	macOS	備考
オブジェクト全選択	Ctrl + a	command + a	
コピー	Ctrl + c	command + c	
PDF の作成	Ctrl + e	command + e	
プロパティ	Ctrl + i	command + i	
ウインドウ最小化	Ctrl + m	command + m	
新規作成	Ctrl + n	command + n	
ブックファイルを開く	Ctrl + o	command + o	
ASUKABOOK Maker2 を終了	Ctrl + q	command + q	
ルーラー表示 / 非表示	Ctrl + r	command + r	
ブックファイルを保存	Ctrl + s	command + s	
ブックファイルを名前を付けて保存	Ctrl + Shift + s	shift + command + s	
ペースト	Ctrl + v	command + v	
画像効果のみ貼り付け	Ctrl + Shift + v	shift + command + v	
ウインドウを閉じる	Ctrl + w	command + w	ドキュメントウインドウのみが閉じる。ブックファイルは開いたまま。
ブックファイルを閉じる	Ctrl + Shift + w	shift + command + w	
カット	Ctrl + x	command + x	
プレビュー	Ctrl + y	command + y	
UNDO（取り消し）	Ctrl + z	command + z	
REDO（やり直し）	Ctrl + Shift + z	Shift + command + z	
ガイドライン表示／非表示	Ctrl + :	command + :	
編集パレットの表示拡大	Ctrl + +	command + ;	
編集パレットの表示縮小	Ctrl + -	command + -	
編集パレットの表示をウインドウサイズに合わせる	Ctrl + 0（ゼロ）	command + 0（ゼロ）	
編集ページの切り替え	Ctrl + TAB	command + tab	Shift で逆移動
編集パレットを表示拡大に切り替え	Ctrl + Space	なし	
編集パレットを表示縮小に切り替え	Ctrl + Alt + Space	なし	
ボックス内部の画像のみを右に 0.5mm 移動	Ctrl + →	command + →	1 回で 0.5mm 移動
ボックス内部の画像のみを左に 0.5mm 移動	Ctrl + ←	command + ←	
ボックス内部の画像のみを上に 0.5mm 移動	Ctrl + ↑	command + ↑	
ボックス内部の画像のみを下に 0.5mm 移動	Ctrl + ↓	command + ↓	
ボックス内部の画像のみを右に 5mm 移動	Ctrl + Shift + →	command + shift + →	1 回で 5mm 移動
ボックス内部の画像のみを左に 5mm 移動	Ctrl + Shift + ←	command + shift + ←	
ボックス内部の画像のみを上に 5mm 移動	Ctrl + Shift + ↑	command + shift + ↑	
ボックス内部の画像のみを下に 5mm 移動	Ctrl + Shift + ↓	command + shift + ↓	

内容	Windows	macOS	備考
オブジェクト削除	Delete	Delete	
図形入力モード	Shift + m	shift + m	
文字入力モード	Shift + t	shift + t	
ボックス内部の画像の拡大	Shift + ＋	shift + ＋	
ボックス内部の画像の縮小	Shift + －	shift + －	
背景色塗りつぶしモード	Alt + Delete	option + delete	
スクロール	Page Down	page down	選択しているパレットのみ
スクロール	page up	page up	
先頭に移動	Home	home	
最後に移動	End	end	
グループ化	Ctrl + G	Command + G	
グループ化の解除	Ctrl + Shift + G	Command + Shift + G	
オブジェクトを前面に	Ctrl　＋　]	Command　＋　]	
オブジェクトを背面に	Ctrl　＋　[	Command　＋　[	
オブジェクトを最前面に	Ctrl　＋　Shift　＋　]	Command　＋　Shift　＋　]	
オブジェクトを最背面に	Ctrl　＋　Shift　＋　[	Command　＋　Shift　＋　[	
ボックス化	Ctrl　＋　B	Command　＋　B	
ボックス化解除	Ctrl + Shift + B	Command + Shift + B	
画像の 100%表示	Ctrl + Alt + 0	Command + Option + 0	"0" は " ゼロ " です
手のひらツールへの切り替え	スペース	スペース	スペースを押している間は、手のひらツールになります
編集パレットの表示%を一つ前の%に戻す	Ctrl + Shift + 0	Command + Shift + 0	"0" は " ゼロ " です 2018 年 2 月 27 日 追加

24.　ブックタイプの変更

「ブックタイプの変更」では、商品の種類、サイズ、ページ数、仕上げの変更が行えます。

この際、変更元のファイルはそのまま保存され、変更した結果をコピーとして別のフォルダーに書き出します。

※ 24-11 ページの「24-3.　ブックタイプ変更時の注意点」もあわせてご参照ください。

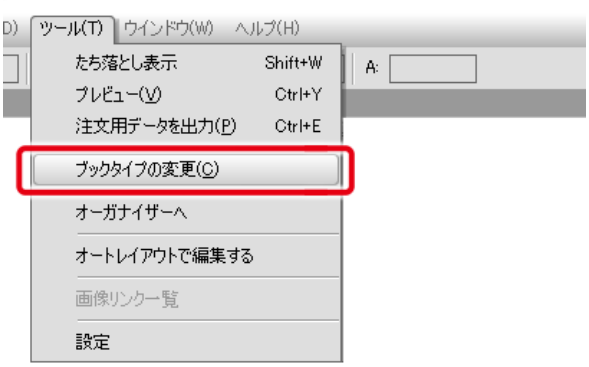
24-1.　「ブックタイプの変更」の使い方

手順 1　変更元のブックファイルを開く

変更元となるブックファイルを開いてください。

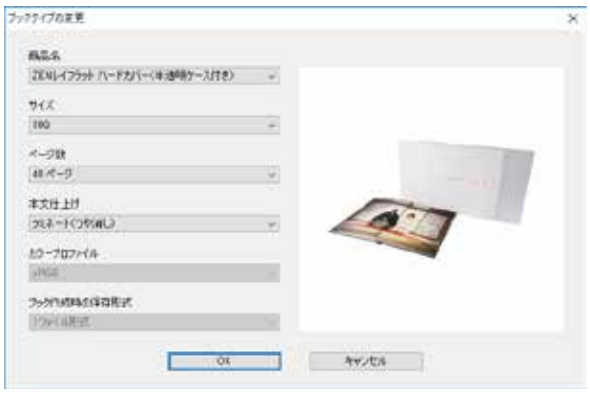
手順 2　「ブックタイプの変更」をクリック

メニューから「ツール」の「ブックタイプの変更」をクリックしてください。



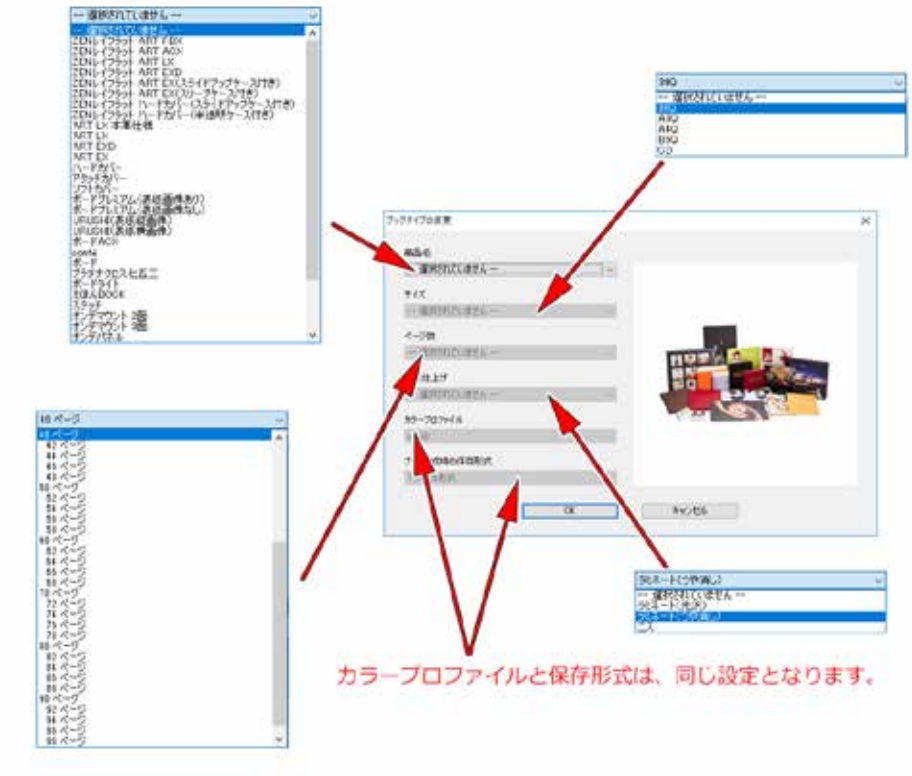
「ブックタイプの変更」ダイアログが表示されます。

始めに表示される内容は、現在制作中のものになります。



手順3 変更したい項目を選択

「ブックタイプの変更」ダイアログのそれぞれの項目をクリックして、変更したい内容を選択してください。
すべてを選択したら「OK」ボタンをクリックしてください。

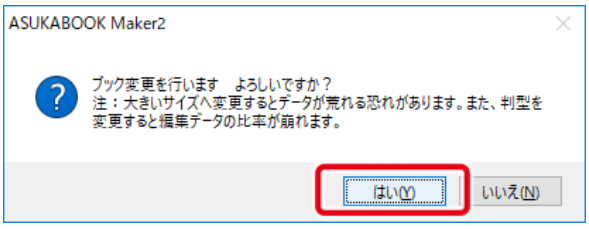


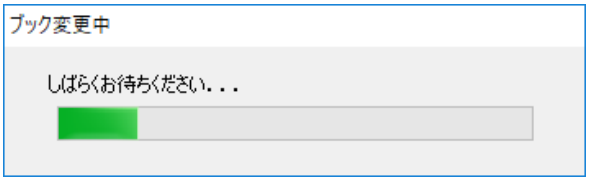
ブックタイプ変更の制限事項	
商品名	現在制作中のものから変更できる商品のみが表示されます。これ以外の商品への変更はできません。
サイズ	現行のサイズから、大きいサイズへも、小さいサイズへも変更できます。 ただし、変更後の画像の拡大率が 200% をより大きい場合は画像劣化（ボケの発生）が起こりますのでご注意ください。
ページ数	ページ数は増やすことも、減らすこともできます。
本文仕上げ	表示されているものに変更することができます。
カラープロファイル	プロファイル変更はできません。元データと同じ設定となります。
保存形式	保存形式は変更はできません。元データと同じ設定となります。

手順4 「はい」をクリック

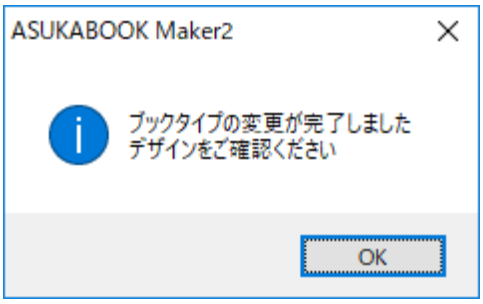
ブックタイプの変更の前に警告が表示されます。

※小さいブックサイズから大きいブックサイズにブック変換を行うと、画像があれる場合があります。ご入稿の際は、必ず入稿データの画像に問題が無いか確認してください。





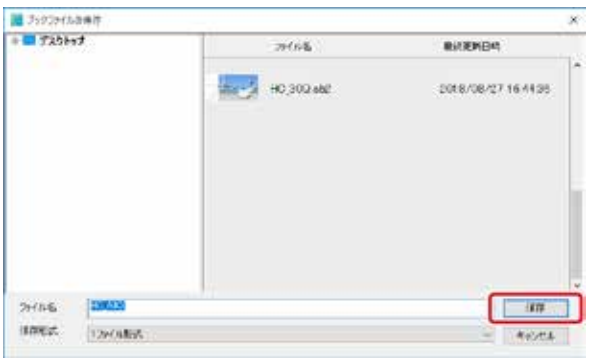
ブックタイプの変更が完了すると右の表示が出ますので
「OK」をクリックしてください。



変更後のファイルが表示されます。

手順5 ブックファイルを保存する

メニューの「ファイル」から「ブックファイルの保存」をクリックし、保存先のフォルダを選択し、ファイル名を付けて「保存」ボタンをクリックしてください。



アドバイス！

「手順4」までは変換されたファイルは保存されていないため、次の作業を行う前に保存しておきましょう。

手順6 レイアウトの確認

「手順4」までの作業で変更されたファイルが表示されていますので、レイアウトに乱れが無いかどうかを確認してください。

ハードカバー　30Q サイズの表紙レイアウトの例

ご注意

特に商品やサイズを変更した場合、表紙のレイアウトが乱れますので、写真の位置などを調整してください。

これは、商品の種類により表紙の作り（寸法や構造）が異なることと、サイズ変更を行っても本の背厚は変わらないことから起こるものであり、ABM2 のエラーではありませんのでご了承ください。

ART EX　A5Q サイズへ変更した場合の例
「ART EX」の表紙には「袖」と呼ばれる部分があり、「ハードカバー」とは表紙画像の寸法が異なるため、このようにレイアウトが乱れる

「ART EX」の表紙レイアウトを修正した例

24-2.　ページ数の増減について

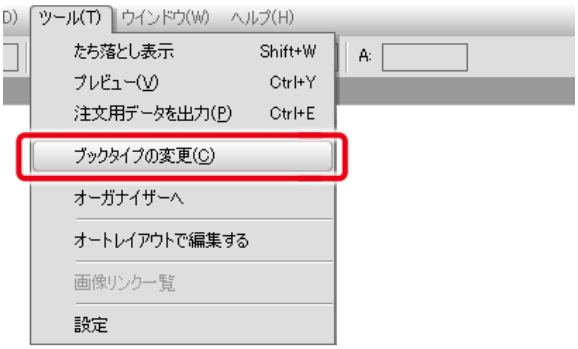
24-2-1.　ページを増やす場合

手順 1　変更したいファイルを開く

ここでは、40 ページを 46 ページに変更する例でご説明します。

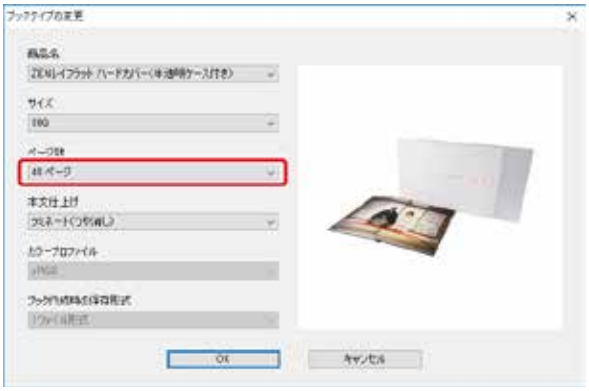
手順 2　「ブックタイプの変更」をクリック

メニューから「ツール」の「ブックタイプの変更」をクリックします。



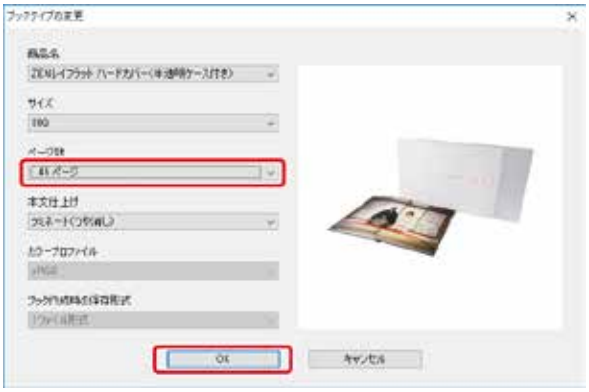
「ブックタイプの変更」ダイアログが表示されます。
始めに表示される内容は、現在開いているファイルのブック情報になります。

●この例ではページ数が 40 ページになっています。



手順 3　ページ数を変更する

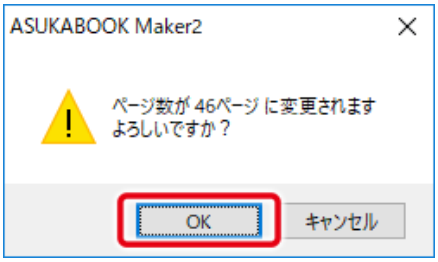
「ブックタイプの変更」ダイアログの「ページ数」欄をクリックして 30 ページを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



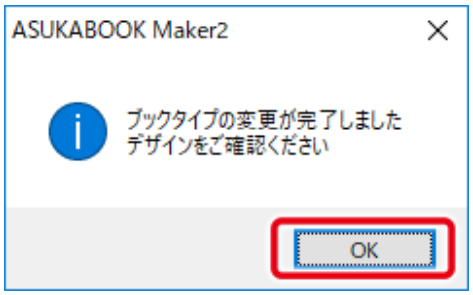
●この例ではページ数を 46 ページに変更しています。
　なお、サイズ、本文仕上げなどは変更していません。

手順 4　「OK」をクリック

「ページ数が増えます」というダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。



変更が終了すると右図のダイアログが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



変換後のファイルが開かれ、46 ページに増えた内容が表示されます。

手順5　ブックファイルを保存

メニューの「ファイル」から「ブックファイルの保存」をクリックし、保存先のフォルダを選択し、ファイル名を付けて保存してください。

アドバイス！

「手順4」までに変換されたファイルは保存されていないため、次の作業を行う前に保存することをお薦めします。

解　説

40 ページの状態

6 ページ増やして 46 ページになった状態

ページを増やす場合は、最終ページの前に白紙ページが挿入されます（上図赤枠部分）

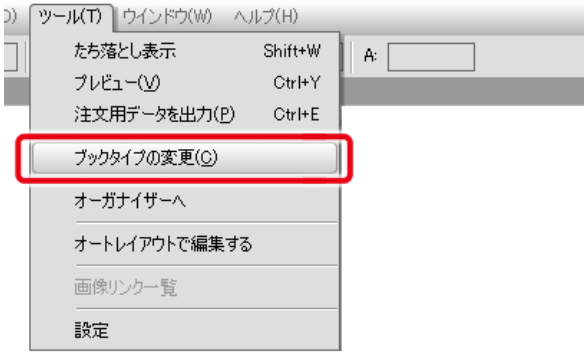
24-2-2.　ページを減らす場合

手順1　ファイルを開く

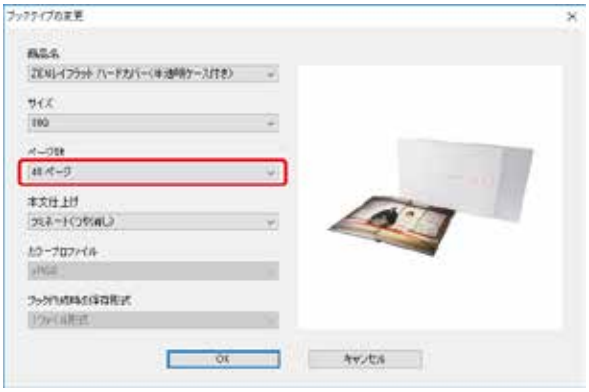
変更したいファイルを開いてください。

手順2　「ブックタイプの変更」をクリック

メニューから「ツール」の「ブックタイプの変更」をクリックしてください。



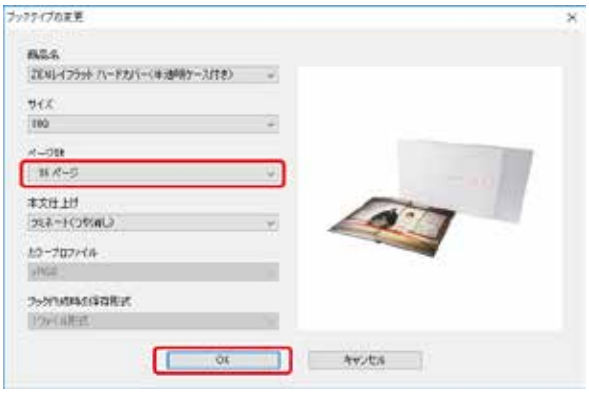
「ブックタイプの変更」ダイアログが表示されます。
始めに表示される内容は、現在開いたファイルのブック情報になります。



この例ではページ数が 40 ページになっています。

手順3　ページ数を変更する

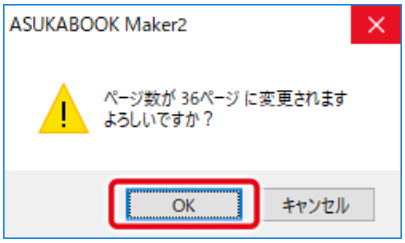
「ブックタイプの変更」ダイアログの「ページ数」欄をクリックして 36 ページを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



この例ではページ数を 36 ページに変更しています。
なお、サイズ、本文仕上げなどは変更していません。

手順4　「OK」をクリック

「ページ数が減ります」というダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。



「ページの削除」ダイアログが表示されます。

手順5 削除するページを選ぶ

40 ページを 36 ページに削減するために、削除する 4 ページ分（2 見開き分）を選択します。

●見やすくするためにダイアログをマウスでドラッグして下図のように表示範囲を広げるとよいでしょう。

解　説

40 ページの状態
赤枠部分が削除
するページ

4 ページ減らして
36 ページに変更
した状態

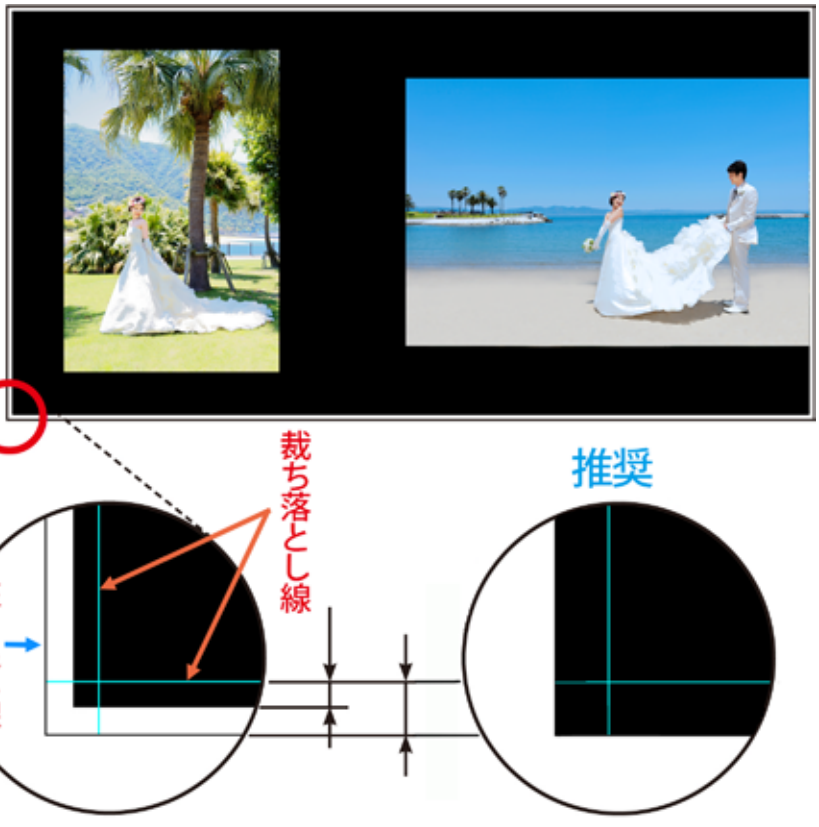
24-3.　ブックタイプ変更時の注意点

「ブックタイプ変更」機能によるブックサイズの変更は、変換元ファイルにおけるブックサイズとレイアウトの関係（画像の位置や比率など）を変換先においても損なわないように作られています。しかし、印刷や製本の関係上、どのブックサイズにおいてもホワイトベースには塗り足し領域を 3mm(ブックや表紙・ケース等により異なります) 確保しなければなりません。このため、変換元ファイルを縮小した後に、変換先のホワイトベースの大きさになるように塗り足し分も含めてカンバスサイズを調整するため、背景に白色以外の色を付けている場合、変換先の塗り足し領域に白い部分ができることがあります。特に表紙はページ数により背幅が異なるため、変換誤差が大きくなる場合がありますのでご注意ください。これらのことにより写真やイラストの位置もずれる場合があります。

変換先のファイルは、ご発注の前にこの白い部分が塗り足し領域より内側（本文内部）に入っていないこと、写真やイラストがずれていないことを必ず確認してください。位置がずれている場合は修正し、塗り足し部に白い部分がある場合は、写真を広げたり、背景と同色で塗りつぶしてください。

変換元のブックサイズ　例は A3Q

変換後のブックサイズ　例は CD



ご注意

塗り足し領域は、幅が通常 3mm(ブックや表紙・ケース等により異なります) です。写真集の仕上がりは、裁ち落とし線で裁断れさた大きさになりますが、断裁時に誤算精度が± 1mm 程度発生してしまいます。

このため、写真をページ全体に敷く場合や、背景に色を付ける場合は、塗り足し領域に写真や色が**少なくとも** 1.5mm 以上入るようにレイアウトを行ってください。

※塗り足し線いっぱいまで写真を配置、もしくは、背景を同色で塗ることを推奨いたします。写真やイラストの位置なども必ず確認してください。

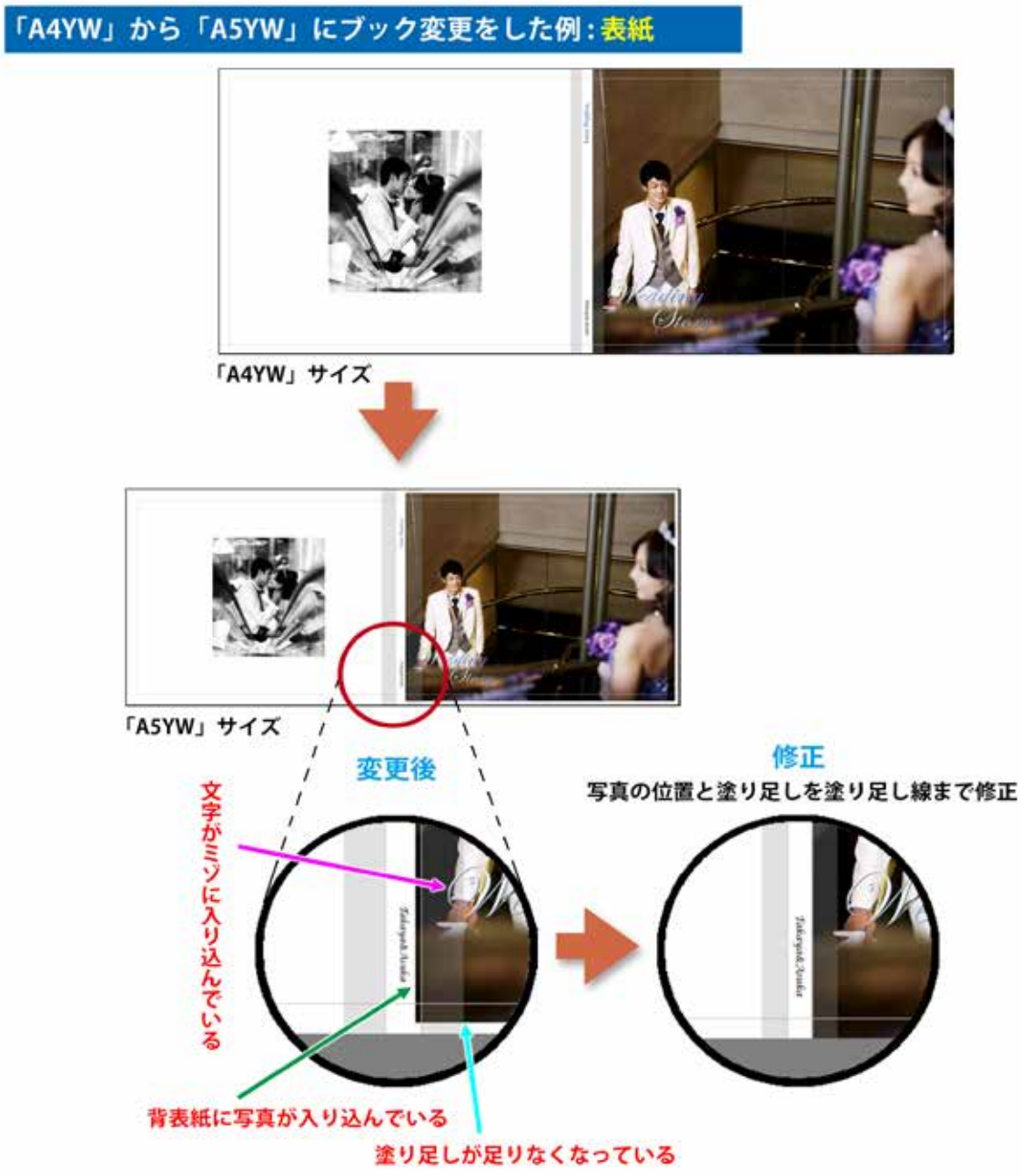
24-4.　ブックタイプ変更時の注意点：表紙の例

本はその構造上、ブックサイズが異なっても紙の厚みは同じですので、ページ数が同じなら背表紙は同じ厚みになります。表紙用のホワイトベースは表紙、裏表紙、背表紙が一体となっていますので、「ブック変換」機能によりサイズの縮小を行い、変換先のホワイトベースにコピーされると、表紙のデザインの背表紙の幅寸法までが縮小されてしまいます（背幅が狭くなってしまいます）。

縮小変換後は、必ず変換先の表紙ファイルを開いてレイアウトを確認し、背表紙のレイアウトを修正してください。

修正の基本的な要点は、

① 表紙のレイアウトを右側に移動する。
② 裏表紙のレイアウトは左側へ移動する。
③ 塗り足し領域に縮小されたことによる白い部分が発生した場合には、写真を拡大するか、白い部分を黒など で塗りつぶす。
④ 文字やイラストを移動する。



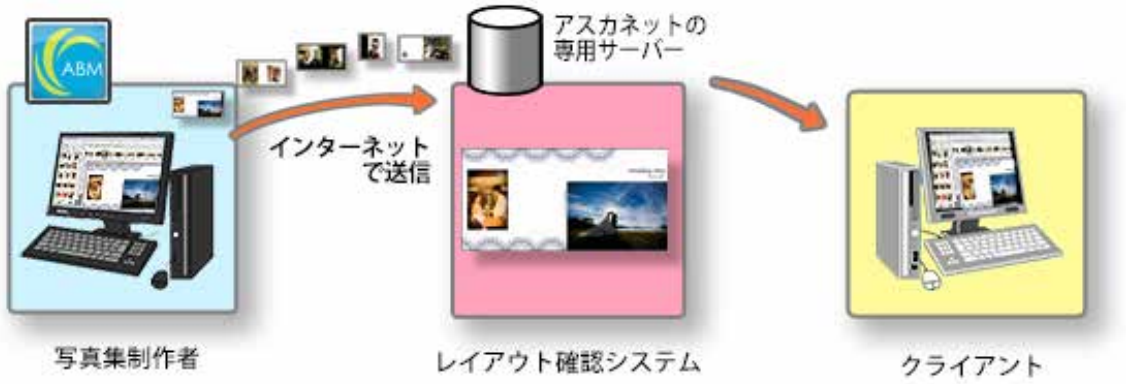
25.　レイアウト確認システム

25-1.　レイアウト確認システムの概要

ABM2 ではアスカネットのサーバーに接続して「レイアウト確認システム」を利用することができます。
このシステムは、ABM から校正用のページデータを生成し、インターネットを使って関係者だけに公開し、校正や確認を求めることができるものです。

例えば、次のような使い方ができます。

●写真集制作者が、写真集の依頼者に対して、レイアウトの校正や、承認を求める場合。
●写真集制作者が、社外のデザイナーとレイアウト確認や校正を行う場合。



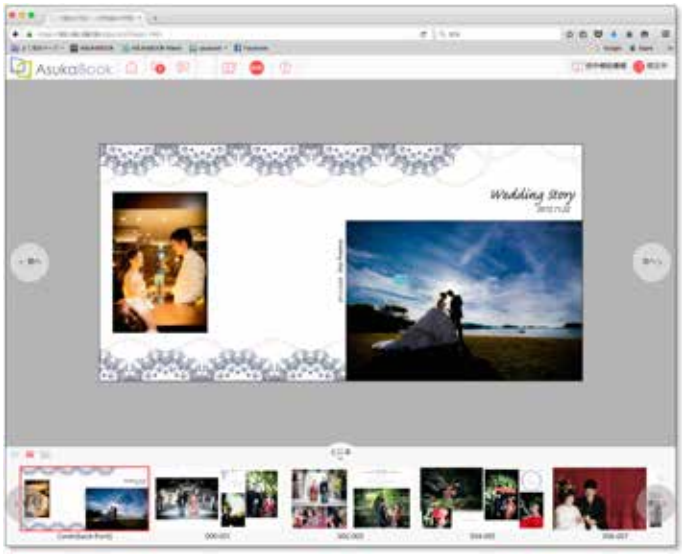
25-2.　レイアウト確認システムの特徴

●アップロードした写真集のレイアウトはパスワードで保護されています。
あらかじめ設定した関係者のみが閲覧できます。

●専用サーバーは、アスカネットがご契約者様に無償にてご提供いたします。

●アップロードしたデータの保存期間は、同期送信した日より 90 日間です。

●「レイアウト確認システム」は、ABM2 側から各ページのレイアウトデータを一方方向にアップロードするものです。確認システム側からデータや情報をダウンロードすることはできません。



「レイアウト確認システム」のトップページ

25-3.　サーバーの接続に必要なユーザー設定

レイアウト確認システムに接続するには、あらかじめユーザー設定が必要です。

ユーザー設定の詳細については、本書の「3.　メインメニューの解説」/「3-2-1.　環境設定」/「② 環境設定／ユーザー設定」3-4 ページをご覧ください。

なお、パスワードは「マイページ」のログインに使用したパスワードと同じものを設定してください。

25-4.　サーバーへの接続方法

ページタブの左側上方に 3 つのあるボタンがあります。この内、左側の 2 つが「レイアウト確認システム」に関係したものです。

連携ボタン	「連携」ボタンを押すと、レイアウト確認システムに接続し、同期状態になります。 ●同期状態・・・写真集の各ページの内容と、レイアウト確認システムにアップロードした内容が同じ状態であることを示します。 ●未同期状態・・・「同期」以外の状態を示します。
Web サイトボタン	レイアウト確認システムに接続します
虫眼鏡ボタン	ページタブのサムネールの大きさを調整します。 （バージョン 2.2 で追加されたボタンです） 使い方については、本書の「6-13.　サムネイルサイズの調整」6-18 ページをご覧ください。

手順 1　アップロードしたいブックファイルを開く

レイアウト確認システムにアップロードしたいブックファイルを開いてください。

手順2 「連携」ボタンをクリック

「ページタブ」の左上部にある「連携」ボタンをクリックします。

アドバイス！

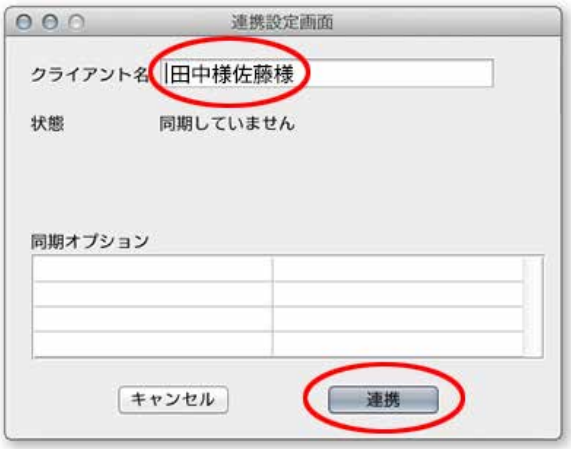
初期設定では、「連携」ボタンは「未同期状態」（レイアウト確認システムに接続していない状態）になっています。

「連携設定画面」ダイアログが表示されます。

手順3 クライアント名を入力する

ここで、クライアント名を入力してください（右図赤色枠）。

●ここでのクライアント名とは、ABM2 を使って写真集のレイアウトを行っている方から見て、その写真集の校正をして頂く方、または、デザインの承認をして頂く方、などを示します。



例えば、

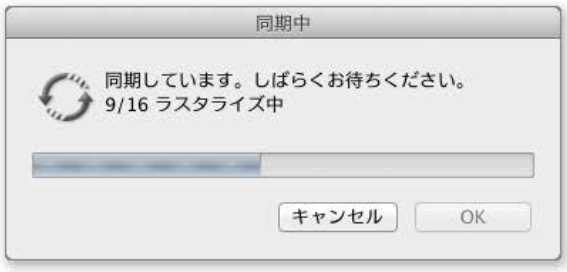
ABM のオペレーター側	クライアント側
写真集を制作している写真館	写真集を発注した新郎新婦
写真集のデザイナー	デザインを依頼した制作会社

その後、「連携」ボタンをクリックしてください。

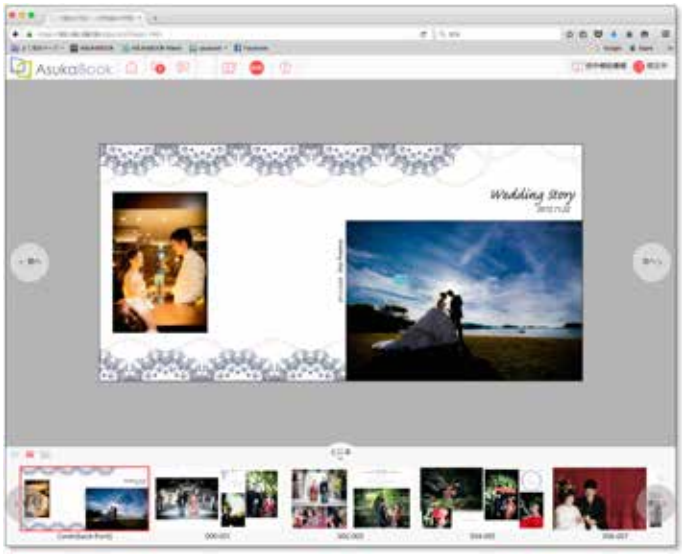
アドバイス！

連絡をしたいクライアントのメールアドレスは、「レイアウト確認システム」側で行います。ABM 側ではクライアントのメール設定などの操作はありません。

「連携」ボタンをクリックすると同期が始まり、制作中の写真集の各ページのサムネールが生成されて、「レイアウト確認システム」の専用サーバーにアップロードされます。



右図のような「レイアウト確認システム」の画面が表示されます。

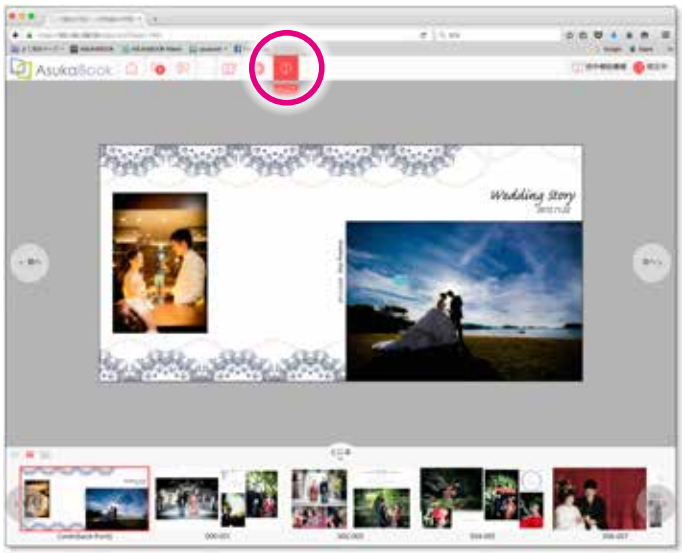


●「レイアウト確認システム」は、インターネットブラウザを使って表示されます。

●インターネットブラウザは、お使いのコンピュータ上で標準に設定しているものが起動します。

25-5.　レイアウト確認システムの操作方法

「レイアウト確認システム」の設定方法、詳しい使い方などは、「レイアウト確認システム」サイトに掲載されているヘルプをご覧ください。



◆ヘルプの表示方法

「レイアウト確認システム」画面上に表示されている「ヘルプ」アイコンをクリックします。
（右図赤丸部分）

右図のような「ヘルプ」が表示されます。

●「レイアウト確認システム」は、ABM とは独立した個別のシステムです。
「レイアウト確認システム」の使い方については、右図の「ヘルプ」を良くお読みになってご利用ください。

●「レイアウト確認システム」へのデータの転送速度は、ご利用されているインターネット回線の状態、インターネットプロバイダ側の利用条件などに影響を受けます。

●「レイアウト確認システム」は、ABM 側から各ページのレイアウトデータを一方方向にアップロードするものです。確認システム側からデータや情報をダウンロードすることは一切できません。

●「レイアウト確認システム」へのアップロードは「注文」行為ではありません。ご注文は、別途に「マイページ」から行ってください。

ご注文の方法については、本書の「20.　注文」20-3 ページをご覧ください。

26.　オートレイアウト

26-1.　オートレイアウト機能の概要

「オートレイアウト」とは、レイアウトに使用する写真素材を ASUKABOOK の各ページに自動的にレイアウトする機能です。

例えば、次のような使い方ができます。

●１ページに１枚の写真をページの中央部分に自動でレイアウトする。
●オートレイアウト機能に自分で作ったテンプレートを登録し、自動でレイアウトを行う。
●オートレイアウト機能を使いながらも、一部のページのレイアウトを変更する。

※オートレイアウトから一度、編集画面に移行しますと、再度オートレイアウト編集機能を利用すると全てのレイアウト情報がクリアされます。テンプレートも利用できなくなりますのでご了承ください。

テンプレートをオートレイアウト機能で利用する場合は、26-39 ページの「※オートレイアウトを利用する際の注意点」をご一読ください。

26-2.　オートレイアウトの基本的な操作手順

① 写真素材のセレクト

レイアウトに使用する写真素材を選び出し、ひとつのフォルダに（もしくは複数のフォルダに）まとめてください。

② 画像ファイル名の整理

選び出した写真素材の画像ファイル名をレイアウトしたい順に付け直してください。

●オートレイアウトモードでは、レイアウトは原則としてファイル名順に並びますが、マウスドラッグにより並び順を入れ替えることもできます。
●オートレイアウトモードでは、使用したい画像を「サムネイル領域」にひとつひとつドロップして並び順を作っていくこともできます。その場合には、ファイル名のつけ直し作業は必要ではありません。ファイル名を変更したくない場合は、この方法をご利用ください。（詳細は後記します）

③ オートレイアウトモード

オートレイアウトモードにて、１ページに何カットをレイアウトするのかを選択してください。また、結果を確認しながら、写真画像の並び順を調整することができます。

●ファイル名順に並んだ写真の入れ替え、レイアウトの変更などは、オートレイアウトモードにて行えます。ただし、写真のトリミングは行えません。トリミングについては④の編集モードで行ってください。
●オートレイアウトモードでは、ある特定のページのカット数を変更することもできます。

④ 編集モード

オートレイアウトが終わったら「次へ」ボタンをクリックしてください。通常の編集モードに移ります。

●各ページの写真レイアウトのトリミング、微調整など、変更を加えたい場合は、編集モードで行ってください。
●文字の記入については、編集モードで行ってください。
●オートレイアウトモードにあらかじめ設定してあるレイアウトセットでは、表紙ページ、ケースへのレイアウトを行いません。「レイアウト変更」ボタンを使用するとレイアウトを行えます。もしくは編集モードにて行ってください。
●編集モードに移るとオートレイアウトモードには戻れませんのでご注意ください。

⑤ 注文用データを出力

レイアウトが完成したら、注文用データの出力を行ってください。

26-3.　オートレイアウト画面の構成

オートレイアウト画面のおよその機能について 解説します。

「オートレイアウト」の画面は 5 つの領域から成り立っています。

各領域の詳細については、「26-5.　オートレイアウト／情報領域」26-12 ページ以降をご覧ください。

情報領域	サムネイル領域のサムネイルを選択すると、その画像ファイルのファイル名、横・縦のピクセル数、ファイル容量、撮影日、プロファイルを表示します。 また、タブを切り替えて、キーワードの入力、編集が行えます。
サムネイル領域	自動でレイアウトを行いたい画像ファイルをこの領域に入れると、画像のサムネイルが表示されます。並び替え、フィルタ（絞り込み）などの機能があります。
ページ領域	サムネイル領域に入れた画像が、すぐさまページ領域に反映されます。 ページ領域では、ページの入れ替えができる他、写真の並び順変更、レイアウト変更ボタンなどが用意されています。
ブック情報	制作する ASUKABOOK の商品名、サイズ、などが表示されています。
「次へ」ボタン （レイアウト編集画面に進む）	このボタンをクリックすると、レイアウト編集画面に進みます。 レイアウト編集画面に進むとオートレイアウト画面に戻ることはできませんのでご注意ください。
レイアウトセット	1 ページに何カットを入れるのかを選択することができます。 また、カスタマイズした（自分で作った）レイアウトを保存しておくこともできます。

26-4.　オートレイアウトの基本的な使い方

オートレイアウトの基本的な使い方について 解説します。

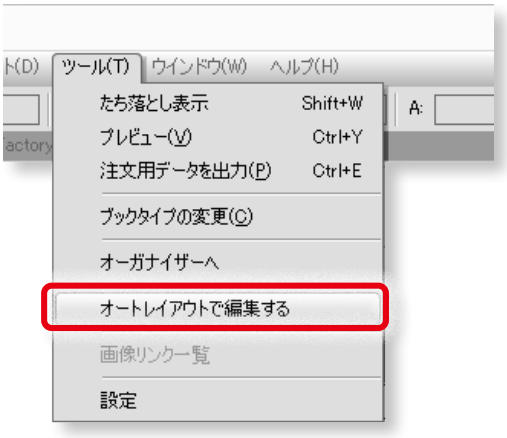
手順 1　オートレイアウトの起動

● ABM が起動直後の場合

ABM の起動時に右図のダイアログが表示されます。
この時点からオートレイアウトを使用する場合は、「オートレイアウト」ボタンをクリックしてください。

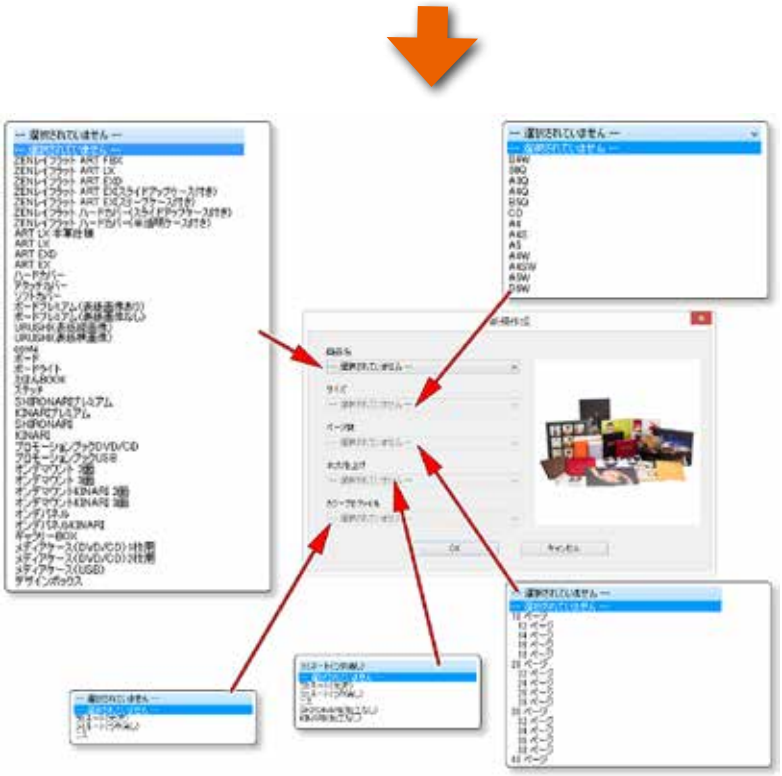
● ABM がすでに起動している場合

メニューの「ファイル／オートレイアウトを開く」をクリックしてください。



手順 2　ブックを設定する

「新規作成」ダイアログが表示されますので、これから作成する ASUKABOOK の商品名、サイズ、本文仕上げ、カラープロファイルを各欄から選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



●オートレイアウトでは、ページ数は利用する画像のカット数、選択したレイアウトセットにより自動的に決まりますので、ここでは選択項目として表示されません。

●ページ数はアスカネットの製品体系に従って自動的に決まります。

ASUKABOOK の種類に関しては、ホームページ「商品一覧」http://asukabook.jp/products/index.html をご覧ください。

アドバイス！

カラープロファイルの選択に迷われる場合は、本書の 2-42 ページの「【解説】　カラープロファイルについて」をご覧ください。

右図のようなオートレイアウト画面が表示されます。

手順 3　レイアウトセットの選択

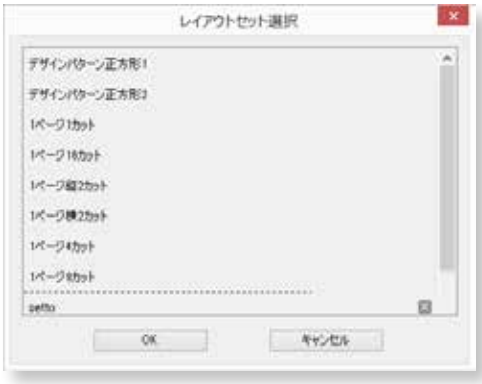
1 ページに何カットを配置するのかを選択します。

オートレイアウト画面の左下にある「レイアウトセット」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください。

「レイアウトセット選択」ダイアログが表示されます。

表示されているリストの中から使用したいものを選択し、「OK」をクリックします。

●ここでは例として「1 ページ 1 カット」を選択して解説します。



レイアウトセットの詳細については、26-23 ページの「26-8.　オートレイアウト／レイアウトセット」をご覧ください。

予め用意されたレイアウトセット

リストの名称	レイアウトの内容
デザインパターン正方形 1	フリーデザイン
デザインパターン正方形 2	フリーデザイン
1 ページ 1 カット	1 ページに 1 カットの配列
1 ページ 16 カット	1 ページに 16 カットの配列
1 ページ縦 2 カット	1 ページに縦 2 カットの配列
1 ページ横 2 カット	1 ページに横 2 カットの配列
1 ページ 4 カット	1 ページに 4 カットの配列
1 ページ 9 カット	1 ページに 9 カットの配列

「ページ領域」が1ページ1カットのボックスレイアウトになります（右図赤枠部分）。

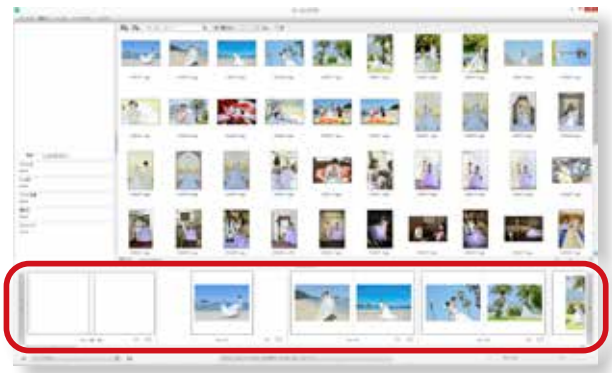
手順４　画像の読み込み　その１（フォルダ選択方式）

オートレイアウト画面の「サムネイルメニュー」にある「フォルダ選択」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください。

レイアウトに利用したい写真画像が入ったフォルダを選択して、「開く」ボタンをクリックしてください。

●画像枚数が多い場合、および画像１ファイル当たりの画素数が多い場合は、読み込み時間が長くなることがあります。なお、この時間はお使いのコンピュータの処理能力に依存します。

画像が「サムネイル領域」に読み込まれると同時に、「ページ領域」に画像がレイアウトされます（右図赤枠部分）。



●オートレイアウトモードにあらかじめ設定してあるレイアウトセットでは、表紙ページ、ケースへのレイアウトを行いません。「レイアウト変更」ボタンを使用するとレイアウトを行えます。もしくは編集モードにて行ってください。

●本文ページのカットについては並び順を変更することができます。

画像の読み込み　その 2（画像ドロップ方式）

使用したい写真画像が複数のフォルダに分かれて保存されいる場合や、ファイル名を変更したくない場合は、下記のような操作方法をご利用ください。

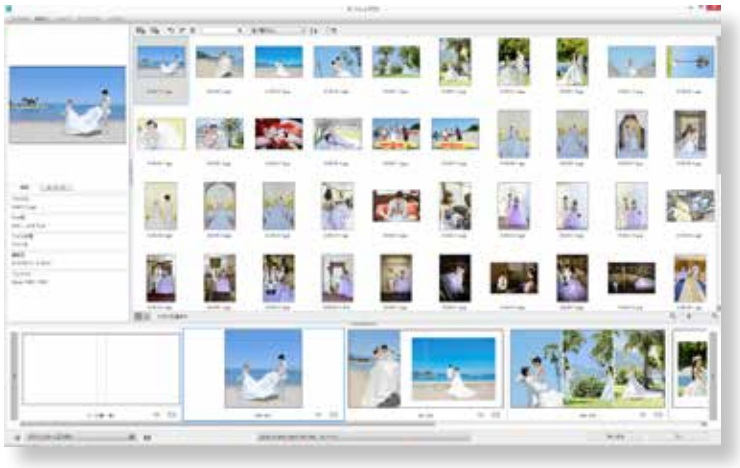
●オートレイアウト画面の「サムネイル領域」に、使用する画像をドラッグ&ドロップしてください。画像は「サムネイル領域」にはドロップした順に並びます。この並び順はすぐに「ページ領域」に反映されます。

ご注意

画像ドロップ方式（上記でご紹介した操作方法）は、画像が「サムネイル領域」へドロップされる度に画像の認識と自動レイアウト動作が行われます。よって、使用する画像枚数が増えてくると、ドロップの度にオートレイアウトに必要な演算処理が行われ、コンピュータに負荷が掛かります。演算時間はお使いのコンピュータの処理能力に依存するため、処理能力が高くないコンピュータでは結果的にレイアウト全体の作業時間が長くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

全画面表示 (オートレイアウトサムネイル領域)

サムネイル領域に表示されている画像を選択し
「スペース」キーを押すと全画面表示ができます。

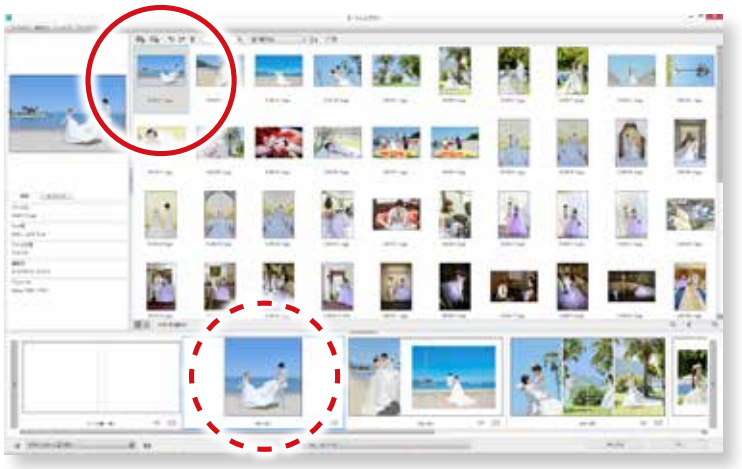


「esc」キーもしくは「スペース」キーで元に戻ります。

手順 5　画像の並び順の調整

① 必要のない画像を削除する方法

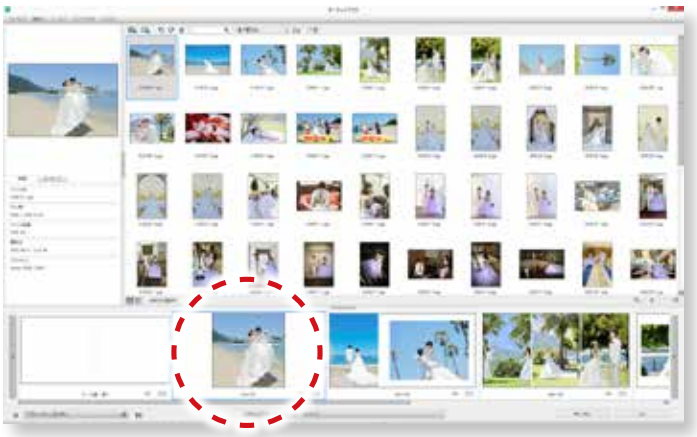
① -1.　右図のように、もし使わない画像を取り除きたい場合は、「サムネイル領域」にある画像（右図赤丸）をクリックして選択してください。



① -2.　次にサムネイルメニューの「削除」ボタンをクリックしてください。

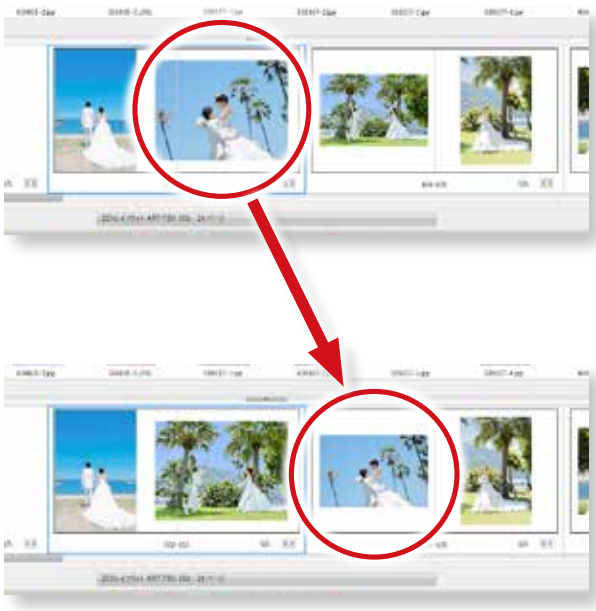
① -3.　「サムネイル領域」から画像が削除され、その結果がすぐに「ページ領域」（点線赤丸部分）にも反映されます。

●「削除」ボタンは「サムネイル領域」から画像の登録を取り除く機能です。実際の画像は削除されずに元のフォルダに残っています。

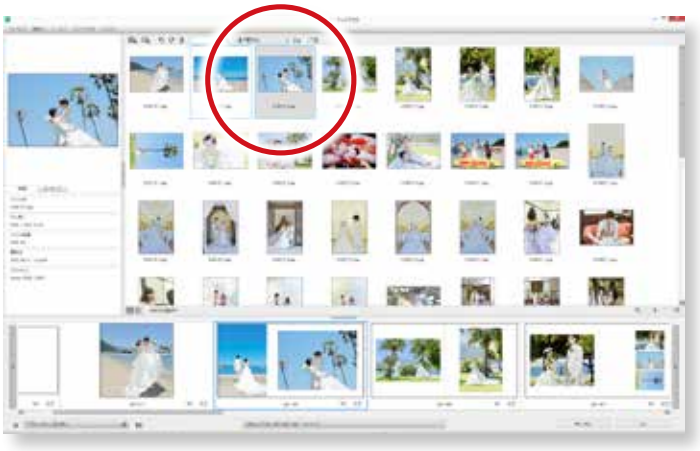


② 画像を入れ替える方法

右図のように、あるページの画像を、他のページの画像と入れ替えたい場合。



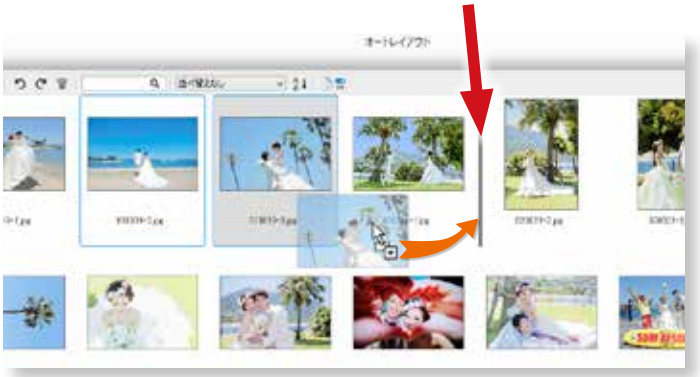
② -1. 入れ替えたい画像を「サムネイル領域」からクリックして選択してください。（右図赤丸）



② -2. 選択した画像をマウスでドラッグして、入れ替えたい位置まで移動します。

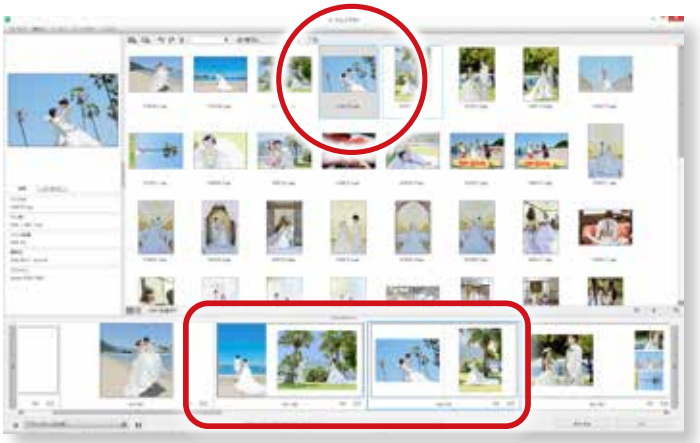
「割込み線」が表示されたらマウスを離してください。

②「割込み線」が表示されたらマウスを離す



①入れ替えたい画像をドラッグする

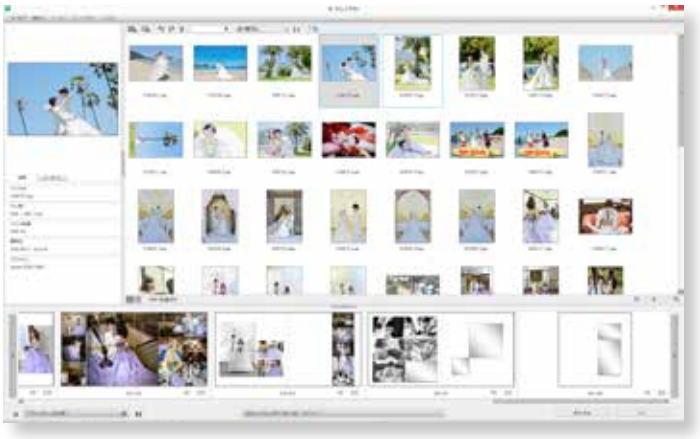
② -3.「サムネイル領域」の中で画像が入れ替わり、その結果がすぐに「ページ領域」（赤枠部分）にも反映されます。



手順 6　各ページの確認

「ページ領域」のスライダーを右方向へ動かして、最終ページまで画像がレイアウトされているかを確認してください。

●右図のように空白ページがある場合は、カット数を増やして空白ページを埋めるか、もしくは、カット数を減らしてページ数を詰めるなどの調整を行ってください。



解　説

①この例では最終的に 63 カットの画像を使用して、1 ページに 1 カットをレイアウトしているため、画像がレイアウトされるページ数は 63 ページ分になります。
ASUKABOOK の製品体系の中にはページ数が 10 ページ単位のものがあります。この場合には、オートレイアウトでは 70 ページ分が用意されます。このため、最終ページ付近の 7 ページ分が空白となってしまいます。

②上記①の例では、7 カット分を「サムネイル領域」に追加すると、70 ページまでの全てページを埋めることができます。
また、3 カット分を「サムネイル領域」から削除すると、60 ページになるように自動的に調整されます。

③全ページを写真で満たす方法としては、①、②の他に特定のページのカット数を変更する、という方法があります。

この方法については、26-21 ページの「26-7-2.　レイアウト変更ボタン」をご覧ください。

手順 7　「編集モード」へ移る

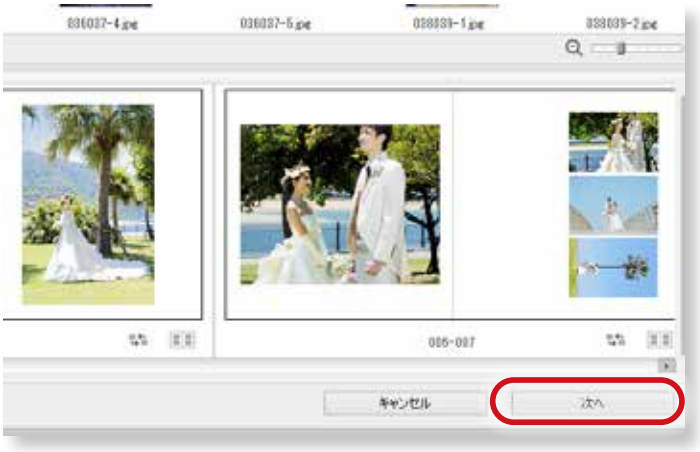
各ページのレイアウト調整が終わったら編集モードに移ります。
オートレイアウト画面の右下にある「次へ」ボタンをクリックしてください。（右図赤丸参照）

ご注意

「次へ」で「編集」モードに移行すると元の「オートレイアウト」モードに戻ることはできません。

※オートレイアウトから、一度、編集画面に移行しますと、再度オートレイアウト機能を利用すると全てのレイアウト情報がクリアされるますのでご了承ください。

オートレイアウトを利用する場合は、26-39 ページの「※オートレイアウトを利用する際の注意点」をご一読ください。



解　説

オートフィットボックス

「オートレイアウト」モードで使用されるボックスと、通常の「編集」モードで使用されるボックスでは、画像のフィット方法に違いがあります。

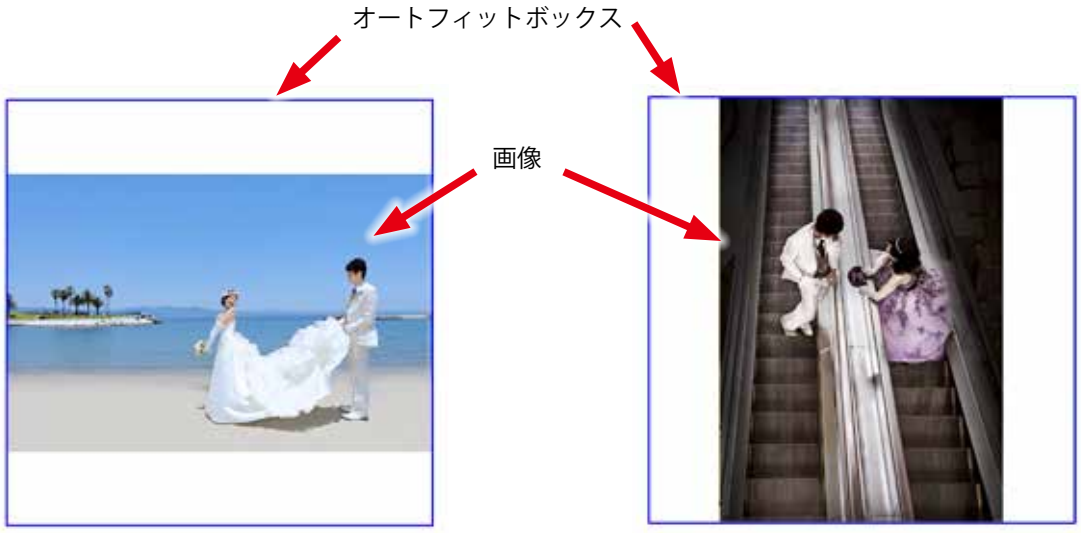
●オートフィットボックス (あらかじめ設定されているセレクトセットのみとなります。※ 1 ページ 1 カット～1 ページ 9 カットのレイアウトセットのみ)

ボックスの短辺方向に対して、画像の長辺方向をフィットさせるように画像の拡大率を自動調整します。
これは使用する画像をトリミングせずにレイアウトするためのもので、「オートレイアウト」モードのみに使用されるボックスです。
なお、「オートレイアウト」モードでは、「レイアウト変更」ボタンを使うことにより、通常のボックスを使用することもできます。

●通常のボックス

ボックスの長辺方向に対して、画像の短辺方向をフィットさせるように画像の拡大率を自動調整します。
これは使用する画像をトリミングすることを前提でレイアウトするためのもので、通常の「編集」モードで使用されるボックスです。
通常の「編集」モードでは、「オートフィットボックス」を使うことはできません。

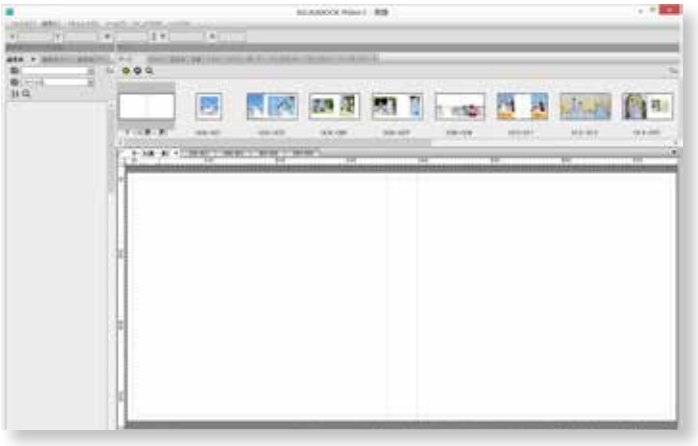
オートフィットボックスの例



通常のボックスの例

ABM の画面が編集モードに変わります。

●編集モードに移る際、ABM が各画像を取り込むために多少の時間が掛かります。この時間は画像の画素数、カット数、ページ数、お使いのコンピュータの処理能力に依存します。



●編集モードに移ると「表紙」ページ（あるいは「ケース」ページ）が表示されます。これらのページはオートレイアウトモードではレイアウトされませんので、編集モードにて手動でレイアウトを行ってください。

●各ページのレイアウト結果は「デザインパレット」の「ページ」タブに表示されます。

●「画像表示ウインドウ」には、オートレイアウトの内容とは関係なく、前回に使用したフォルダ内の画像が表示されます。
ABM を初めて使用する場合、もしくは前回に使用したフォルダが削除されているなどの場合は、何も表示されません。

手順 8　仕上げ

①「表紙」ページのレイアウトを仕上げてください。
ケースが付属する ASUKABOOK の場合は、「ケース」ページのレイアウトも仕上げてください。

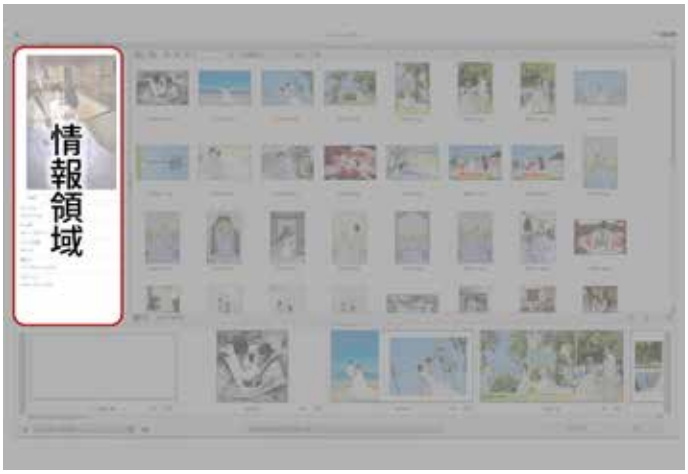
②各ページのレイアウトも確認し、画像のトリミングの調整、色・明るさの調整などを行ってください。

26-5.　オートレイアウト／情報領域

◆情報領域

「サムネイル領域」に表示されている画像のサムネイルを選択すると、その画像ファイルのファイル名、横・縦のピクセル数、ファイル容量、撮影日、プロファイルを表示します。また、タブを切り替えて、キーワードの入力、編集が行えます。

キーワードの入力、編集につきましては、本書の 26-14 ページの「26-5-4.　キーワードの入力手順」をご覧ください。



26-5-1.　情報タブ

情報タブには、ファイル名、Pixel 数、ファイル容量、撮影日、プロファイルが表示されます。

26-5-2.　キーワードタブ

キーワードの書き込み（埋め込み）や削除が行えます。 すでにキーワードが埋め込まれているファイルであれば、キーワードが表示されます。

26-5-3.　他のファイルのキーワードを利用する

右図の赤丸の部分をクリックすると、サムネイル領域内のファイルで使用されているキーワードが全て表示されます。

この中に利用できるキーワードがあれば、クリックするだけで上のキーワード一覧に入力、もしくは追加されます。

26-5-4.　キーワードの入力手順

◆注意事項

① キーワードの埋め込み（保存）ができるファイル形式は、「Exif 情報」をサポートしているもののみです。
よって、ABM　でキーワード埋め込みができるファイル形式は、JPEG 形式になります。
PNG 形式は「Exif 情報」をサポートしていませんので、キーワード埋め込みはできません。

② キーワードの埋め込み・削除などの編集は、ABM では一度に 1 ファイルのみです。
多くのファイルに対してまとめてキーワード編集を行う場合は、Adobe® Bridge® をご利用ください。

手順 1　キーワードを埋め込みたいファイルのサムネイルをクリック

情報領域にそのファイルが表示されます。

手順 2　キーワードの入力

Windowsの場合

「入力又はリストから追加」のボックスに入力

「入力又はリストから追加」ボックスをクリックすると文字入力用のカーソルが入力欄に入ります。（右図赤枠部分）

macOSの場合

「入力又は選択して下さい」のボックスに入力

「入力又は選択して下さい」の部分をクリックすると、文字入力用のカーソルが入力欄の中に入ります。

手順 3 キーワードを入力

キーワードを入力し、「+」ボタン（右図赤丸部分）をクリックします。

キーワードが、キーワード一覧とサムネイル領域に表示されるようになります。

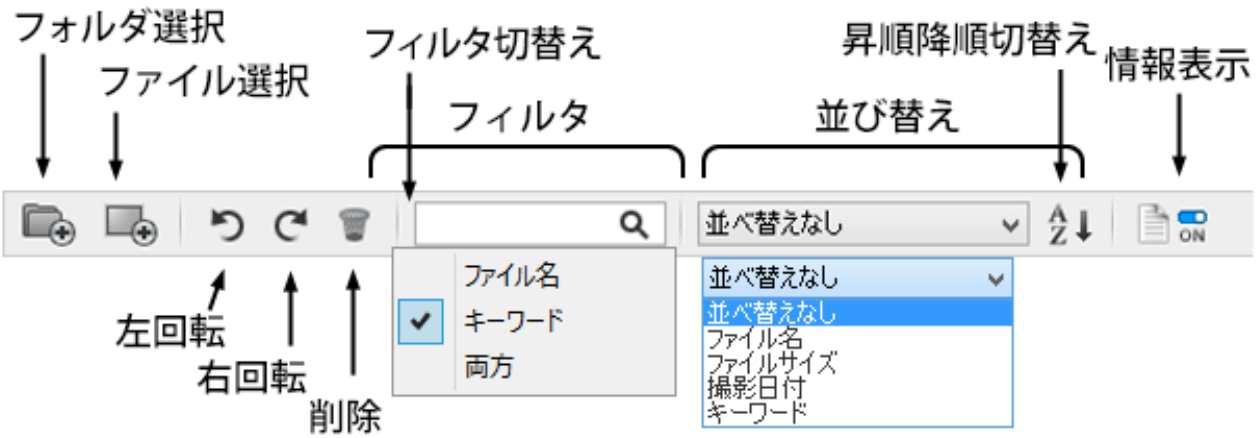
26-6.　オートレイアウト／サムネイル領域

◆サムネイル領域

オートレイアウトに使用したい画像ファイルをこの領域に入れると、画像のサムネイルが表示されます。

「サムネイル領域」には、並び替え、フォルダ別表示、キーワード別表示、サムネイルサイズ調整、などの機能があります。

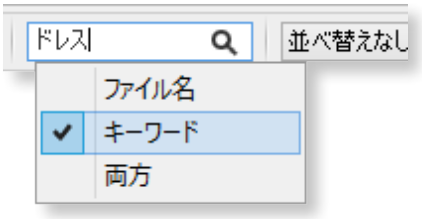
26-6-1.　サムネイルメニュー



	フォルダ選択	素材（画像ファイル）が入ったフォルダを、サムネイル領域に読み込むためのボタンです。
	ファイル選択	素材（画像ファイル）を単体でサムネイル領域に読み込むためのボタンです。
	左回転	選んだサムネイルが 90 度左回転します
	右回転	選んだサムネイルが 90 度右回転します。
	削除	サムネイル領域に表示されている画像ファイルを削除します。 元ファイルは削除されません。

① フィルタ

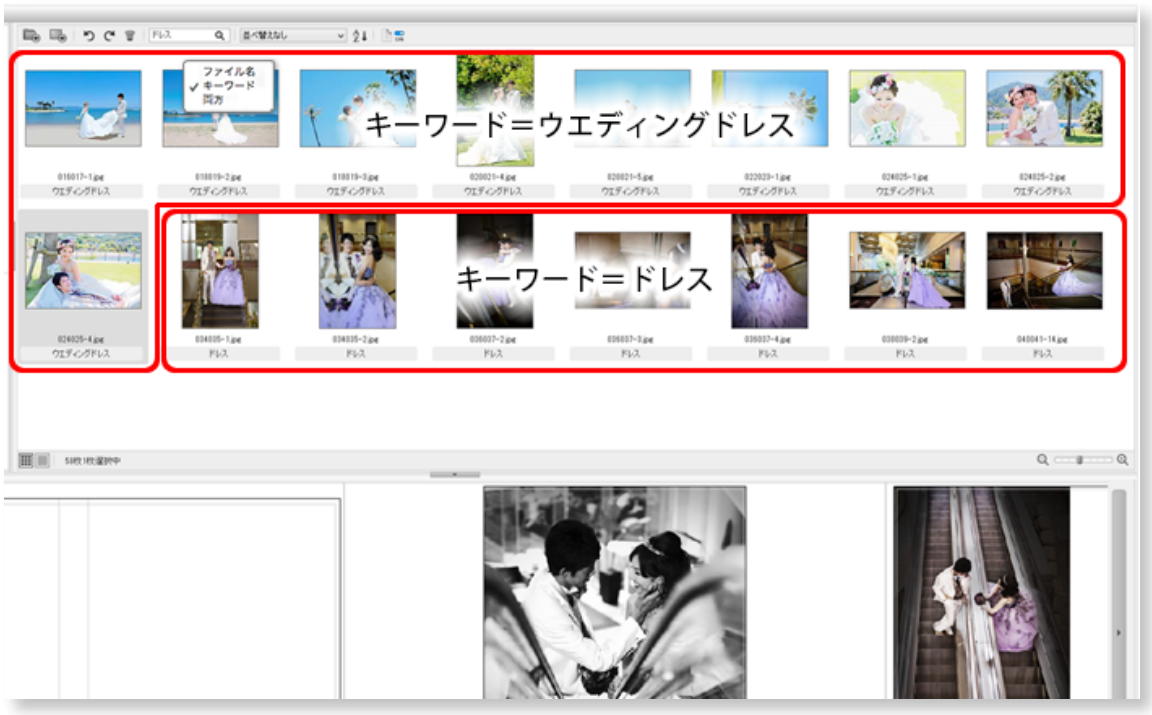
「サムネイル領域」に表示されている数多くのファイルは、フィルタ欄にファイル名か、キーワードを入れることにより、表示を絞り込むことができます。



例　題

例えば、「フィルタ」欄の「虫眼鏡ボタン」を押して「キーワード」を選択します。「フィルタ」欄に「ドレス」と入力すると、「ドレス」という語句を含むキーワードのファイルのみが表示されます。

「両方」を選択すると、ファイル名とキーワードの両方から検索します。

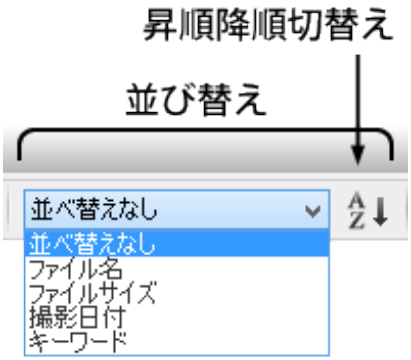


② 並び替え

「サムネイル領域」に表示されているファイルの並び順を変更します。

●並び順で指定できる条件は、ファイル名、ファイルサイズ、撮影日付、キーワード、の 4 種類です。

●それぞれに「昇順」「降順」の切り替えができます。

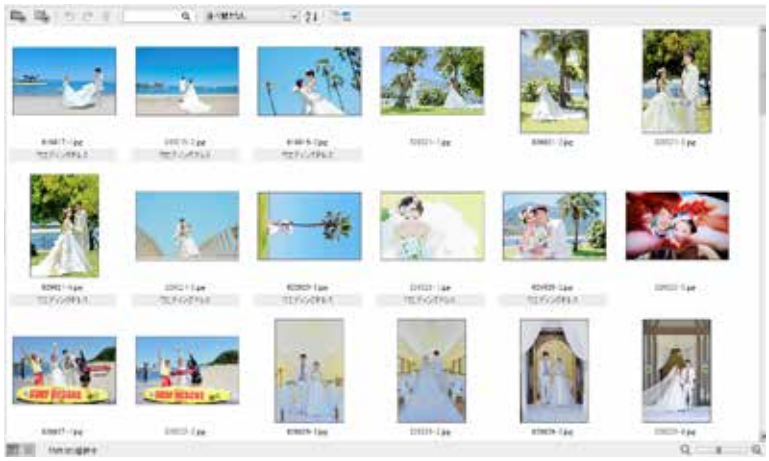


③ 情報表示

「サムネイル領域」に表示されているファイル名、キーワードなどの情報の「ON」（表示）・「OFF」（非表示）の切り替えを行います。
初期設定では、「ON」（表示）になっています。

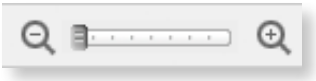
26-6-2.　サムネイル領域表示変更

「サムネイル領域」に表示されているファイルの表示方式を変更します。

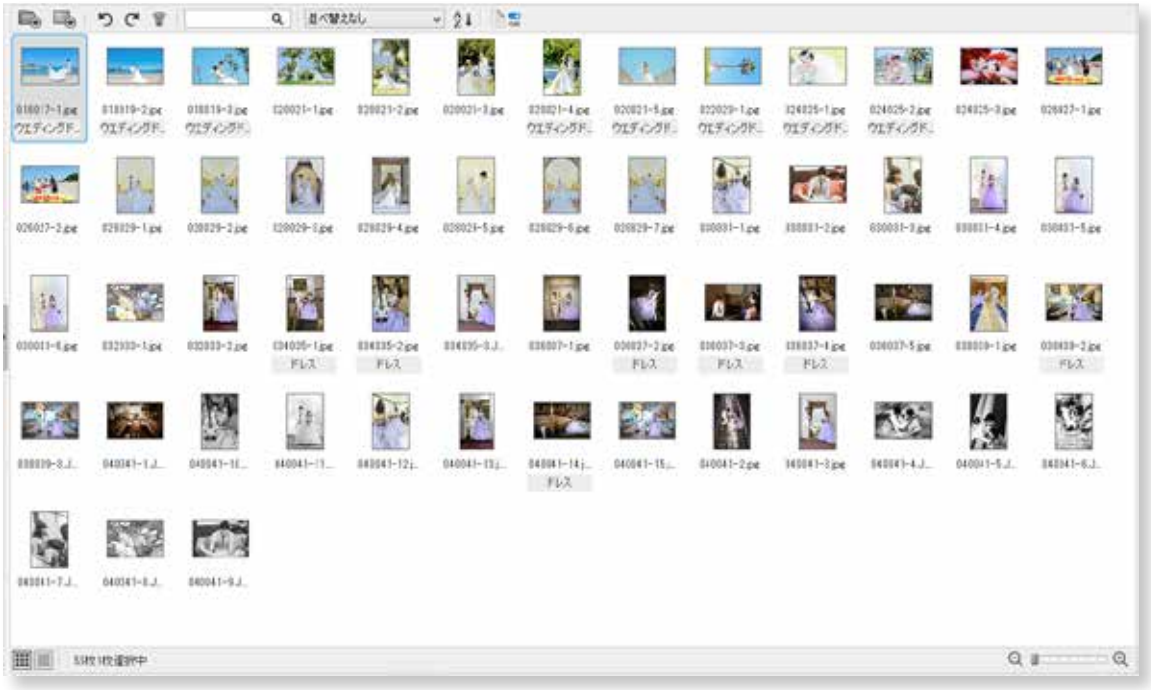
アイコン	表　示	内　容
	一画面表示	「サムネイル領域」にある全てのファイルを表示します。（初期設定） 
	拡大表示	選んだサムネイルのみを拡大表示します。

26-6-3.　サムネイルサイズ調整

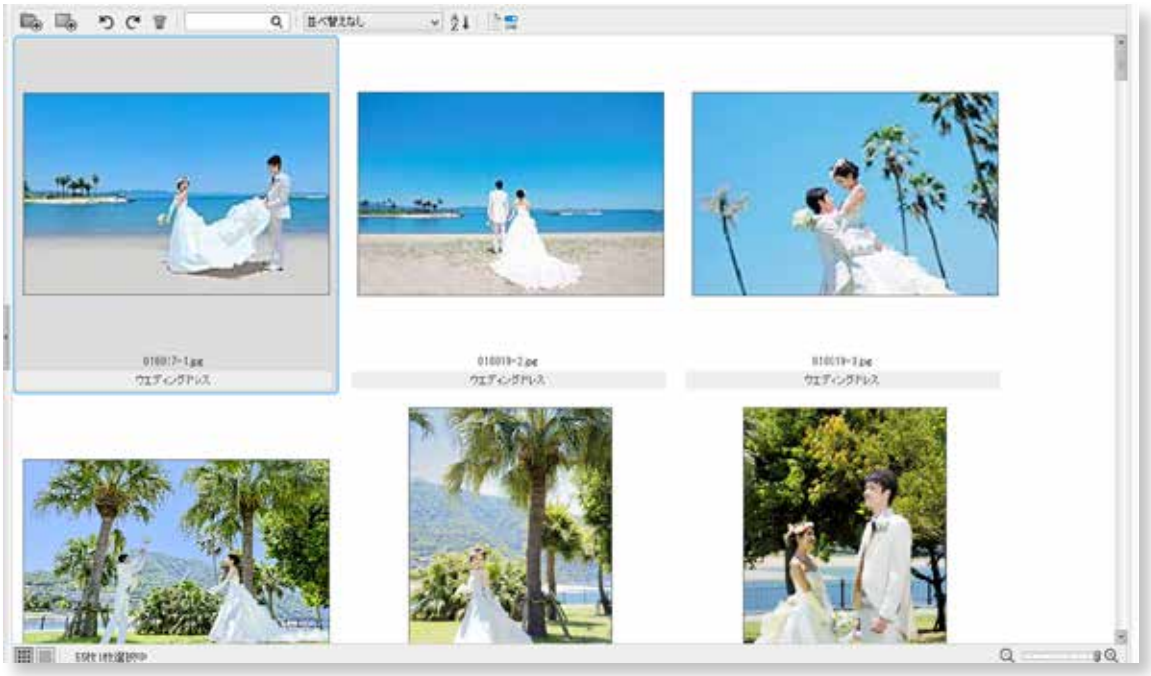
「サムネイル領域」の右下にあるスライダーを動かすことにより、サムネイルの大きさを調整することができます。



スライダー（下図赤丸）を左に振ると、サムネイルが小さくなります。



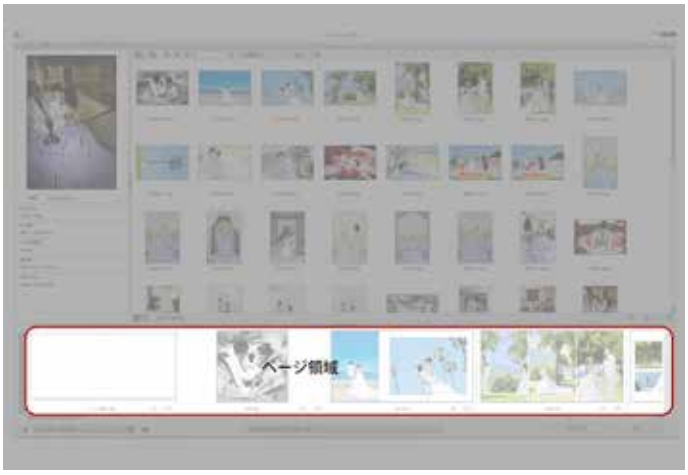
スライダー（下図赤丸）を右に振ると、サムネイルが大きくなります。



26-7.　オートレイアウト／ページ領域

◆ページ領域

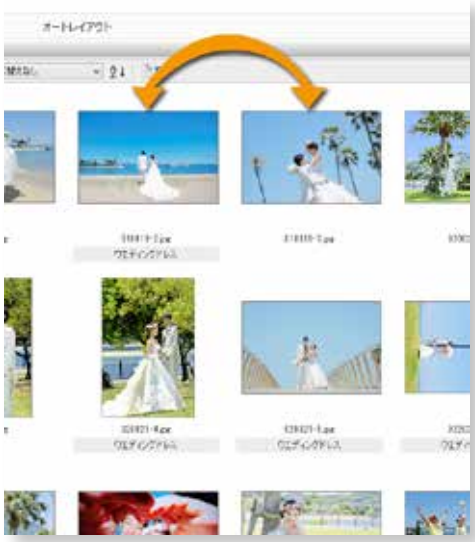
「サムネイル領域」に読み込んだ結果は、即座に「ページ領域」に反映されます。
また、この「ページ領域」には、見開きページ単位での画像の並び換え、およびボックスの変更を行う機能が用意されています。



26-7-1.　見開きページ内の並び換え

「並び換え」ボタンをクリックすると、見開きページ内での写真の並び換えを行うことができます。

●見開きページ内に 3 個以上のボックスがある場合は、「並び換え」ボタンをクリックするごとにランダムに並び換えを行います。



アドバイス！

「ページ領域」の画像を入れ替えると、「サムネイル領域」の画像の並びも同期して入れ替わります。

26-7-2.　レイアウト変更ボタン

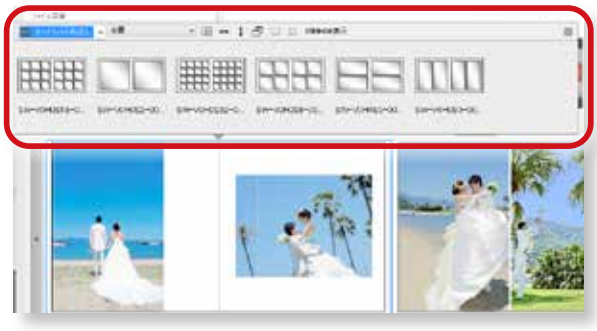
見開きページ単位でボックスのレイアウトを変更することができます。この機能を使うことにより、ユーザー独自のレイアウトを作成することができます。

手順 1 「レイアウト変更」ボタンをクリック

ボックスのレイアウトを変更したい見開きページにある「レイアウト変更」ボタンをクリックします。

●表紙ページ、ケースについても、このボタンを使用するとレイアウトを行えます。

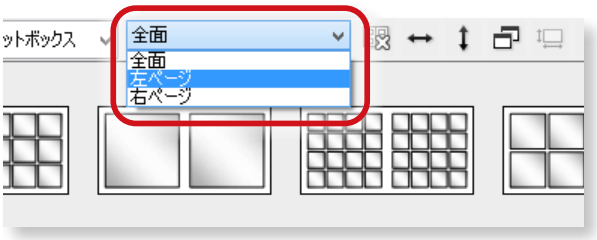
見開きページのすぐ上に「ボックス選択ウインドウ」（右図赤枠部分）が表示されます。



手順 2 変更を加えたいページを指定

レイアウトの変更を加えたいページを指定します。

●見開きページ全体にわたってボックスを変更したい場合には「全面」を選択してください。



●必要に応じて「ボックスカテゴリ」欄から通常の編集モードで使用しているボックスを選択することもできます。

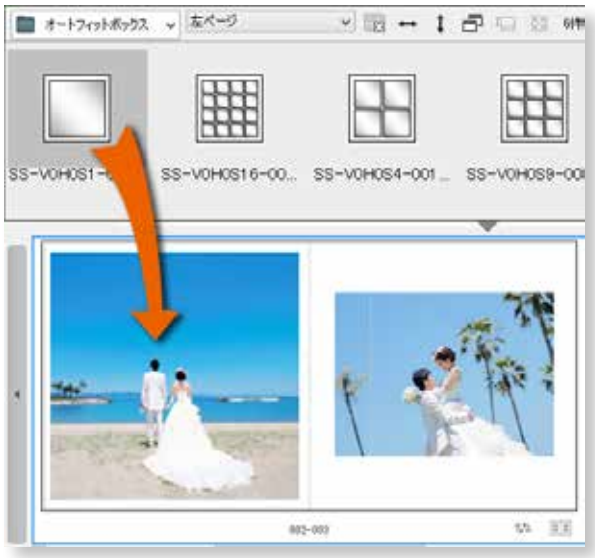
この例では「左ページ」を選択しています。

手順 3 使用したいボックス配列を選択

「ボックス選択ウインドウ」の中から使用したいボックス配列をダブルクリックして選択します。

●選択したボックス配列を、下にある見開きページにドラッグすることも可能です。

選択したボックス配列が、すぐにページ領域に反映されます。



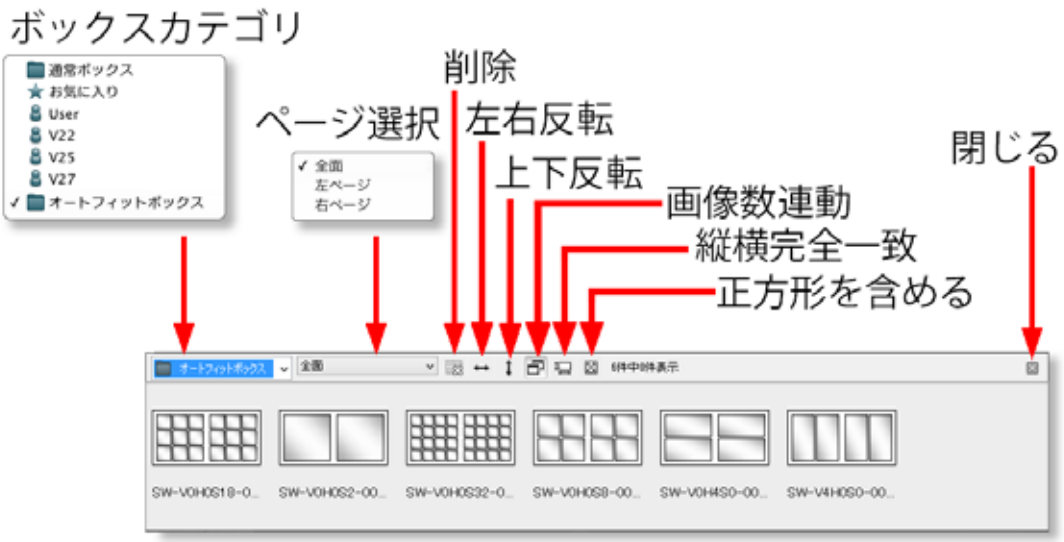
●ボックスの個数を増やした場合は、後に続く画像が順送りで前方に送られます。また、ボックスの個数を減らした場合は、後に続く画像が順送りで後方に送られます。

●変更を行ったボックス配置は「レイアウトセット」として登録することができます。

詳細については 26-25 ページの「26-8-2.　レイアウトセットの登録」をご覧ください。

26-7-3.　ボックス選択ウインドウの機能

レイアウト変更ボタンをクリックすることにより表示される「ボックス選択ウインドウ」を使って、ユーザー独自のカテゴリに保存しているボックスを利用できます。



① ボックスカテゴリ

ボックスファイルが保存されているカテゴリを切り替えます。通常の編集モードで使用しているボックスを、オートレイアウトモードでも使用できます。
「オートフィットボックス」はオートレイアウトモードのみで選択できるボックスです。

② ページ選択

レイアウト変更したい見開きページの部位を選択します。

③ 削除

登録しているボックスファイルを削除します。

詳細は、7-17 ページの「7-14.　削除」をご参照ください。

④ 左右選択

ボックス配置の左右関係を反転します。

詳細は、7-13 ページの「7-8.　左右反転」をご参照ください。

⑤ 上下選択

ボックス配置の上下関係を反転します。

詳細は、7-14 ページの「7-9.　上下反転」をご参照ください。

⑥ 画像数連動

画像に連動してボックスを表示します。

詳細は、7-4 ページの「7-3.　画像数連動」をご参照ください。

⑦ 縦横完全一致

選択している画像の縦横比を考慮したボックスを表示します。

詳細は、7-6 ページの「7-4.　縦横完全一致」をご参照ください。

⑧ 正方形を含める

正方形の縦横比を含めた条件でボックスを表示します。

詳細は、7-7 ページの「7-5.　正方形を含める」をご参照ください。

26-8.　オートレイアウト／レイアウトセット

「オートレイアウト」モードでは、ボックスのレイアウトを何通りも持つことができます。これを「レイアウトセット」と呼びます。

「レイアウトセット」は、弊社があらかじめ組み込んだものの他に、ユーザーが自由に作成したものを登録しておくことができます。

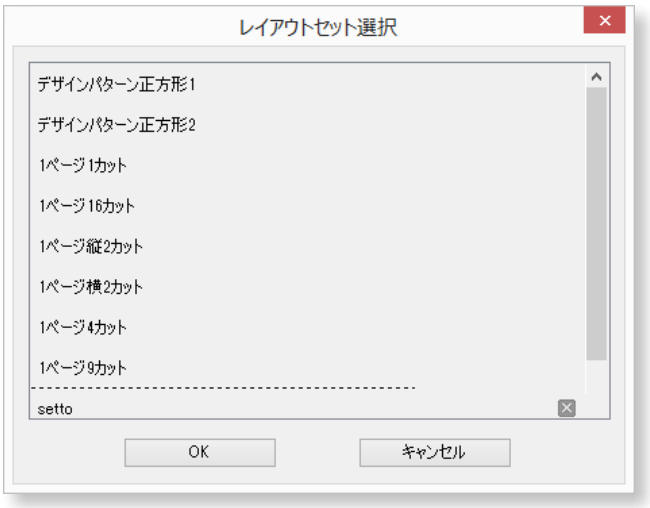
26-8-1.　レイアウトセットの呼び出し

手順 1 「レイアウトセット」ボタンをクリック

「オートレイアウト」画面の左下にある「レイアウトセット」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください。

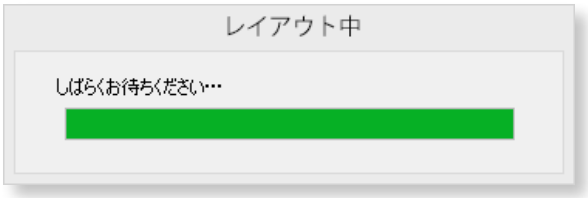
手順 2 目的とするレイアウトセットを選択

「レイアウトセット選択」ダイアログが表示されますので、目的とするレイアウトセットを選択し、「OK」をクリックしてください。



●あらかじめ設定してあるレイアウトセットでは、表紙ページ、ケースへのレイアウトを行いません。「レイアウト変更」ボタンを使用するとレイアウトを行えます。もしくは編集モードにて行ってください。

●レイアウトセットを選択し直すと、オートレイアウトをやり直すための処理が開始され、右図のようなメッセージが表示される場合があります。
処理が終わり、引き続きの作業を開始できるまでに多少の時間が掛かる場合がありますので、ご了承ください。
この時間は画像の画素数、カット数、ページ数、お使いのコンピュータの処理能力に依存します。



26-8-2.　レイアウトセットの登録

オートレイアウトモードでレイアウト変更を行った場合、そのレイアウトを登録することができます。

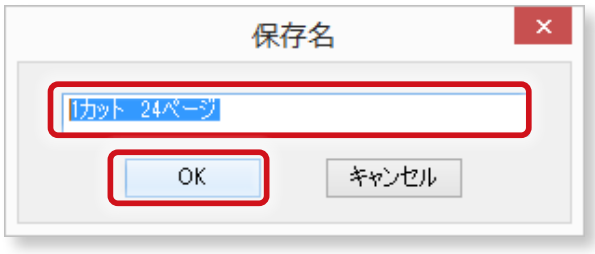
手順1 「レイアウトセット登録」ボタンをクリック

「オートレイアウト」画面の左下にある「レイアウトセット登録」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください。

手順2 保存名を入力して「OK」をクリック

「保存名」ダイアログが表示されますので、レイアウトセットの名前を入力してください。

保存名を入力したら、「OK」をクリックしてください。

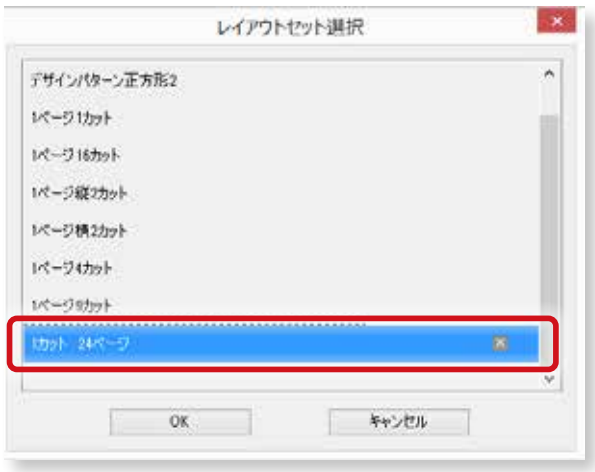


●レイアウトセットの保存名には、半角英数字の他に、全角かな漢字が使えます。

アドバイス！

登録したレイアウトセットは、「レイアウトセット選択」ダイアログに表示されるようになります。

「レイアウトセット」ボタンをクリックすると確認することができます。



26-8-3.　設定オプション

オートレイアウトモードでは、下記の内容を付加することができます。

●レイアウトされる画像にキャプションを付ける。
●キーラインを付ける。
●背景色を設定する。

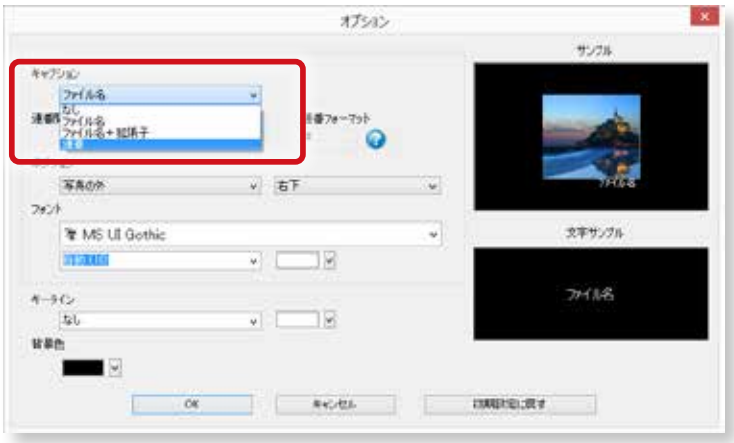
「オートレイアウト」画面の左下にある「設定オプション」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください。
設定オプションのダイアログが表示されます。

① キャプション

●「ファイル名」
レイアウトされる画像のファイル名がキャプションとして添付されます。

●「ファイル名＋拡張子」
ファイル名に更に拡張子を付けたキャプションが添付されます。

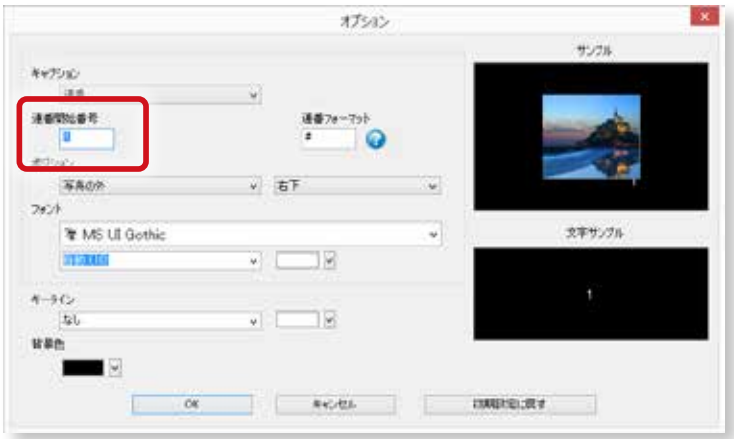
●「連番」
キャプションとして連続した数値による通し番号を添付します。



初期設定は「なし」になっています。

② 連番開始番号

「キャプション」欄の「連番」を選択すると、入力できるようになります。
連番を使用する際の開始番号を入力してください。
初期設定は「1」になっています。



③ 連番フォーマット

キャプションを「連番」にした際のオプションです。

◆例

例えば、連番フォーマット欄に「写真見本 #」と入力すると、すべてのキャプションに「写真見本」という言葉が付加されます。

④ ポジション

キャプションを添付する位置を設定できます。

●写真画像に対して「写真の外」、または「写真の中」を設定できます。

●写真に対して例えば「左上」などの位置を設定できます。

初期設定は「写真の外」、および「右下」になっています。

⑤ フォント

キャプションのフォントと、フォントサイズを設定できます。

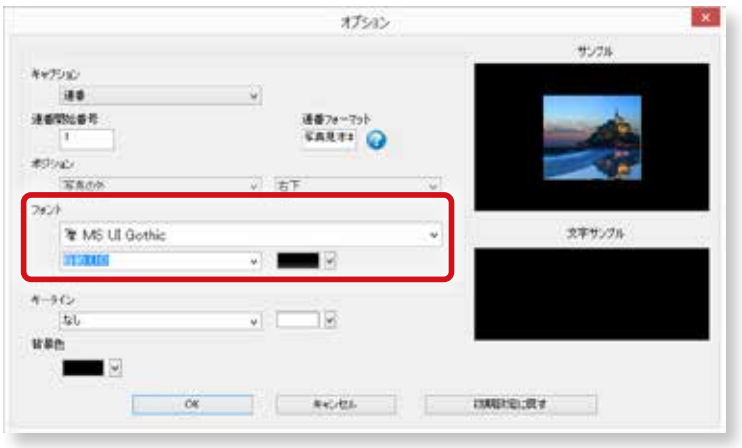
初期設定

Windowsの場合

フォントは　MS UI Gthic
フォントサイズは　10pt

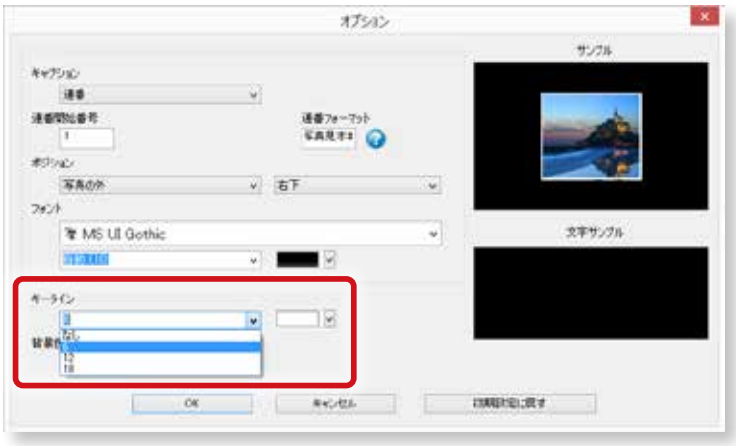
macOSの場合

フォントは　Helvetica
フォントサイズは　14pt



⑥ キーライン

レイアウトされる画像にキーラインを設定することができます。



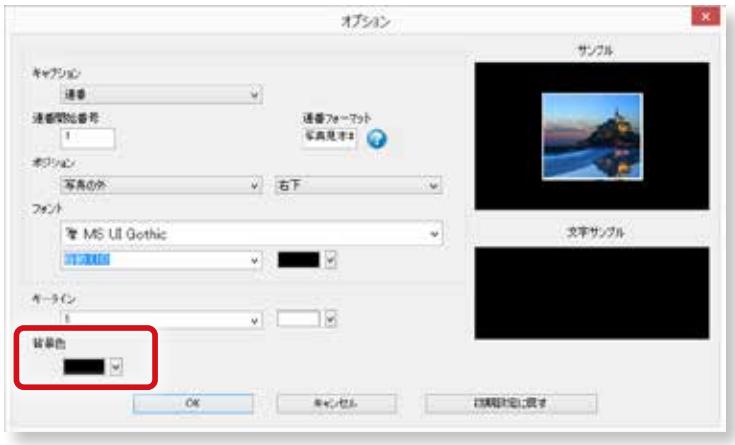
●太さの選択は「6」「12」「18」になっていますが、これ以外の数値を直接入力することもできます。

初期設定は、「なし」になっています。

●キーラインの色を設定できます。
右隣りのカラーパレットをクリックすると「色選択」ダイアログが表示されます。

⑦ 背景色

背景色を設定することができます。
カラーパレットをクリックすると「色選択」ダイアログが表示されますので、希望の色を選択してください。

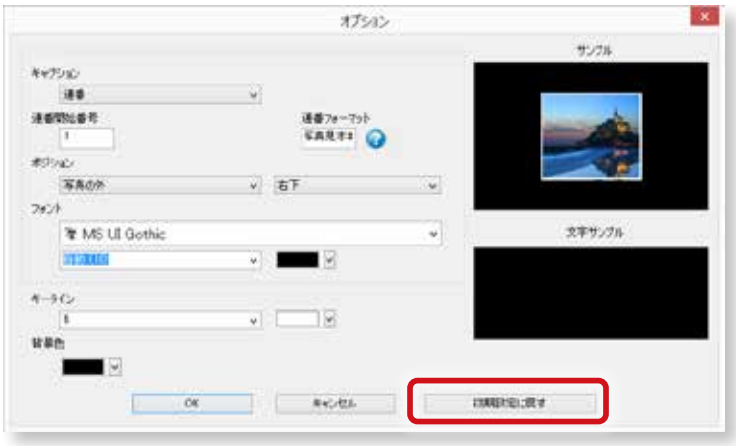


⑧ 初期設定に戻す

「オプション」ダイアログの設定を、すべて初期設定状態に戻します。

ご注意

オプションでの設定は全ページに共通して反映されます。各ページごとに指定することはできません。
もし、特定のページのみを異なる状態にしたい場合は、通常の編集モードに移ってから各ページごとに行ってください。



26-9.　オートレイアウト／ブック情報

オートレイアウト画面の下方には、ASUKABOOK の商品名、サイズ、ページ数が表示されます。

26-10.　オートレイアウト／「次へ」ボタン

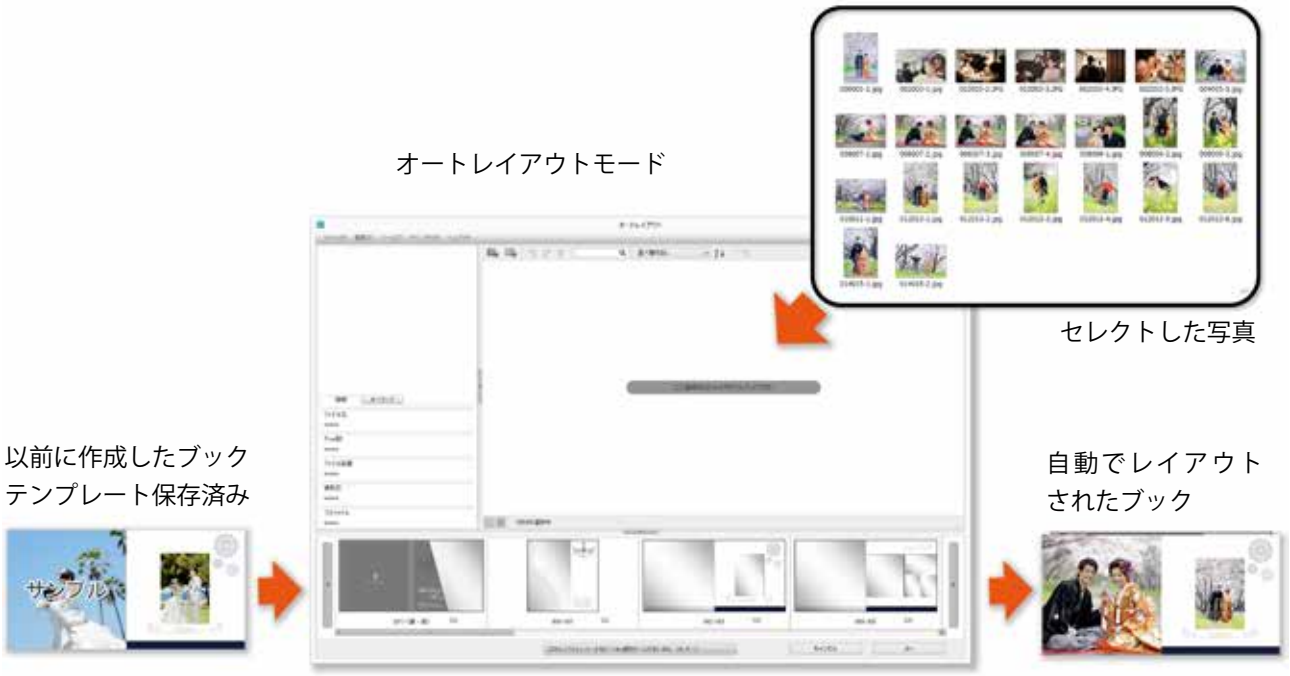
オートレイアウト画面の右下にある「次へ」ボタンをクリックすると、編集モードに移ります。（右図赤丸参照）

ご注意

「編集」モードに移ると「オートレイアウト」モードに戻ることはできません

26-11.　オートレイアウト／テンプレートの準備

26-11-1.　テンプレート読込み機能の概要



バージョン 2.7 より、「オートレイアウト」にテンプレート読込み機能を追加しました。
ABM にて以前に作成したレイアウト（ブックファイル）を ABM のテンプレート保存機能を使ってテンプレート化すれば、オートレイアウト用のテンプレートとして読み込むことができるようになりました。

26-11-2.　テンプレートの準備作業

オートレイアウト用のテンプレートを作成する手順を ご説明します。

手順 1　テンプレートにしたいブックファイルを開く

テンプレートとしたいブックファイルを選び、開いてください。

手順2 イラスト像画・位置固定を設定

①テンプレートとして利用した際に、入れ替えたくないオブジェクト（固定化して使いたい写真、イラスト）には、「イラスト画像」、「位置を固定」を設定してください。

②この設定を、表紙ページ、ケース、本文ページの全ページに行います

イラスト画像 (イラスト化) の設定

●「イラスト画像」、「位置を固定」の操作は、マウスでオブジェクトを選択してから右クリックし (macOS で、ワンボタンマウスの場合は、「control」を押しながらクリック)、メニューから「イラスト化」、もしくは「位置を固定」をクリックします。（右図参照）

●この後の手順で「テンプレート保存」を行うと、「イラスト画像」、「位置を固定」の設定を行っていないオブジェクトには「サンプル」文字が記入されます。

●サンプル文字が記入されたオブジェクトはオートレイアウトに読み込まれるとボックスが抽出されます。
つまり、ボックスとして利用したいオブジェクト（写真、イラスト）には、「イラスト画像」、「位置を固定」を設定しないでください。

●文字オブジェクトは、テンプレート保存を行ってもサンプル文字が表示されることはありません。

位置固定の操作

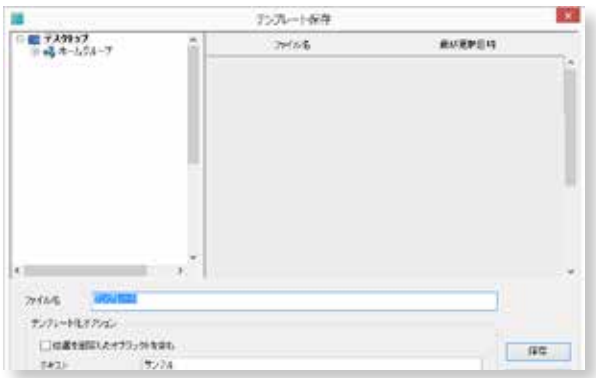
イラストや画像の上で右クリックしてください。macOS でワンボタンマウスの場合は、「control」キーを押しながらクリックします。

位置固定については、21-2 ページの「21-6.　位置を固定」も併せてご覧ください。

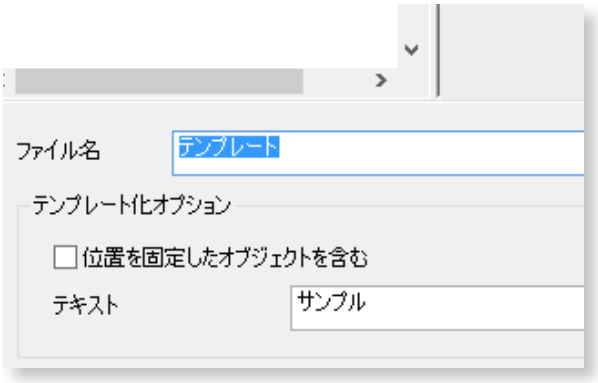
手順 3 テンプレート保存する

メニューの「ファイル」から「テンプレート保存」をクリックします。

「テンプレート保存」ダイアログが表示されますので、適当なファイル名を入力してください。



「テンプレート化オプション」欄の設定

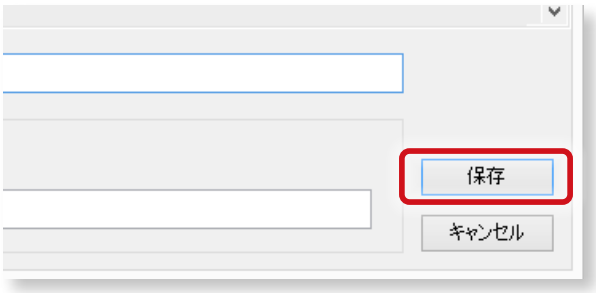


①「位置を固定したオブジェクトを含む」のチェックは必ず外してください。

②テキスト欄には初期設定では「サンプル」とカタカナで入力されています。任意のテキストに変更可能です。

※テキスト欄に入力したテキストは、消すことができません。また、空白にすることはできません。

「保存」ボタンをクリックします。



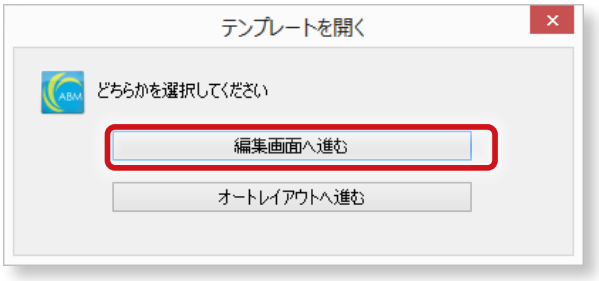
テンフレート保存されたファイルは、元になったファイルとは別に書き出されます。
ファイル名の拡張子は「.ab2template」となります。

手順4 テンプレートの確認

メニューのファイルから「ブックファイルを開く」をクリックして、「手順 3」で保存してテンプレートファイルを開いてください。

●テンプレートファイルは拡張子が「.ab2template」となっています

テンプレートファイルを開く場合には、必ず右図のようなメッセージが表示されます。
今はテンプレートファイルの確認を行いたいので、「編集画面へ進む」をクリックしてください。



「編集画面へ進む」	テンプレートの編集や確認を行いたい場合
「オートレイアウトへ進む	テンプレートをオートレイアウトで利用する場合

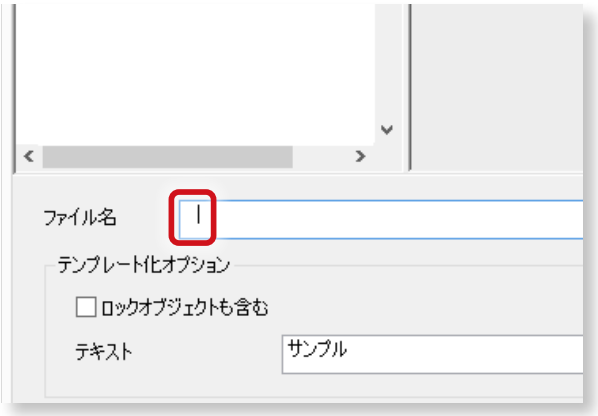
テンプレートは下図のようになります

もし、右表のようになっている場合は、
「手順 1」に戻って、位置固定の設定をやり直してください。

現象	原因
毎回入れ替えたい画像に「サンプル」文字が入っていない	画像に位置固定が設定されている
入れ替ずに使用したい画像に「サンプル」文字が入っている	画像に位置固定の設定がされていない

ご注意

テンプレートファイルに設定変更を加えて後、再びテンプレート保存する場合は、
テンプレート化オプションのテキスト欄に半角スペースを入力するようにしてください。このようにすることにより、サンプル文字が二重に描かれてしまうことを防げます。（右図参照）



26-12.　オートレイアウト／テンプレートの読込み

オートレイアウト用に作成したテンプレートを読込み、レイアウトを行う方法を解説します。

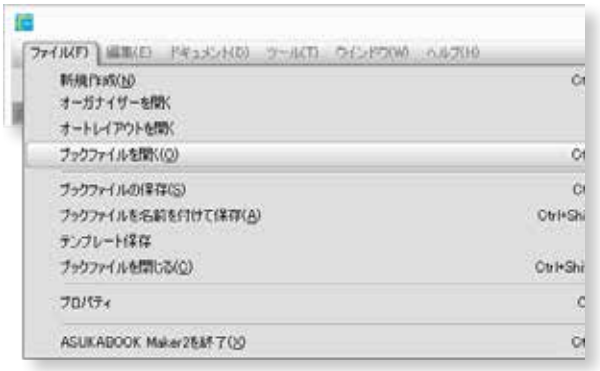
※テンプレートをオートレイアウトで利用する場合、一度、編集画面に移行しますと、再度オートレイアウト機能を利用すると全ての情報がクリアされるため、テンプレートは利用できなくなりますのでご了承ください。

テンプレートをオートレイアウト機能で利用する場合は、2-36 ページの「2-8-3　テンプレートの利用 (オートレイアウトへ進む)」をご一読ください。

手順 1　テンプレートにしたいブックファイルを開く

メニューのファイルから「ブックファイルを開く」をクリックして、前項の「手順 3」で保存してテンプレートファイルを開いてください。

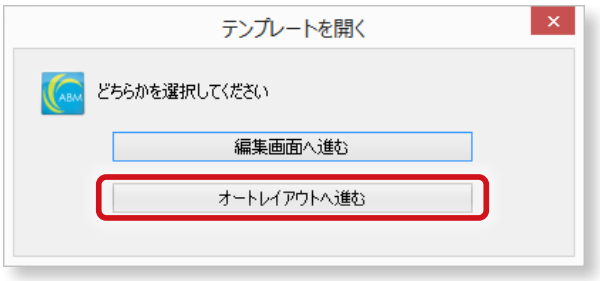
●テンプレートファイルは拡張子が「.ab2template」となっています。



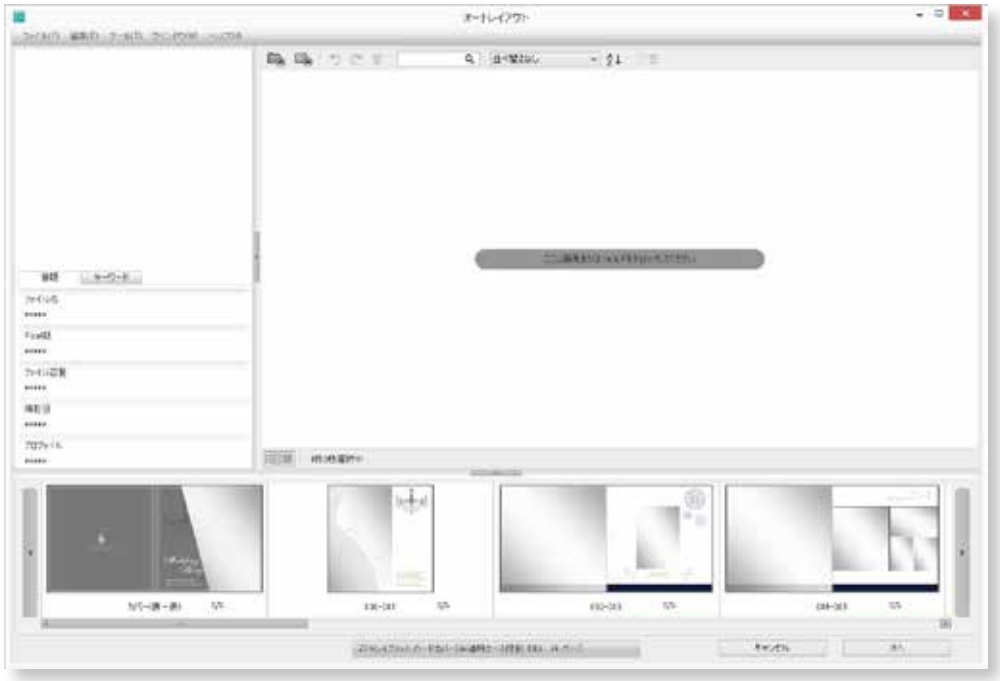
手順2 オートレイアウトへ進む

テンプレートファイルを開く場合には、必ず右図のようなメッセージが表示されます。

これからオートレイアウトを行うので、「オートレイアウトへ進む」をクリックしてください。



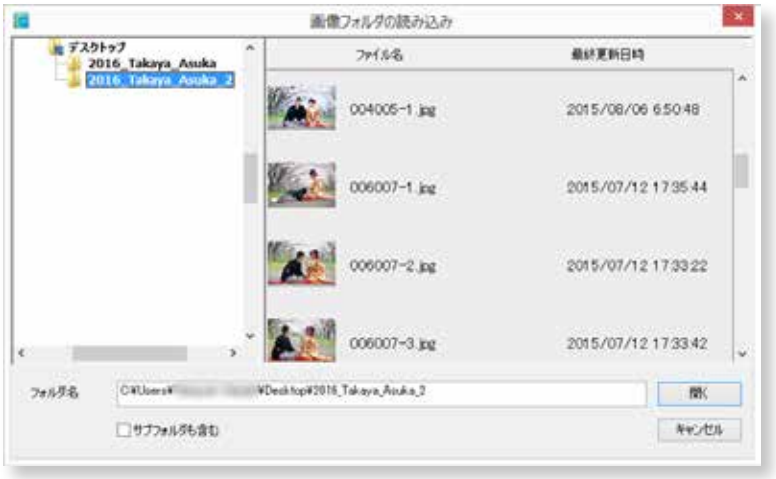
テンプレートが読み込まれ、「サンプル」文字が入っている画像からボックスが抽出され、下図のようになります。



手順3 素材画像の読込み

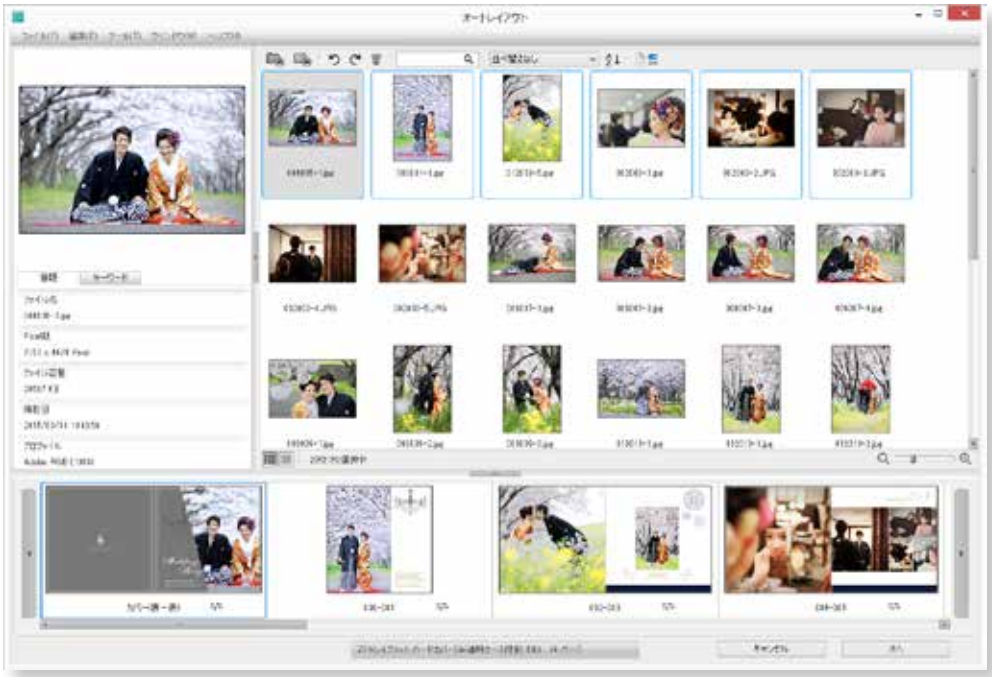
オートレイアウト画面の「サムネイルメニュー」にある「フォルダ選択」ボタン（右図赤丸部分）をクリックしてください

レイアウトに使う素材画像が入っているフォルダを選択して、「開く」ボタンをクリックします。

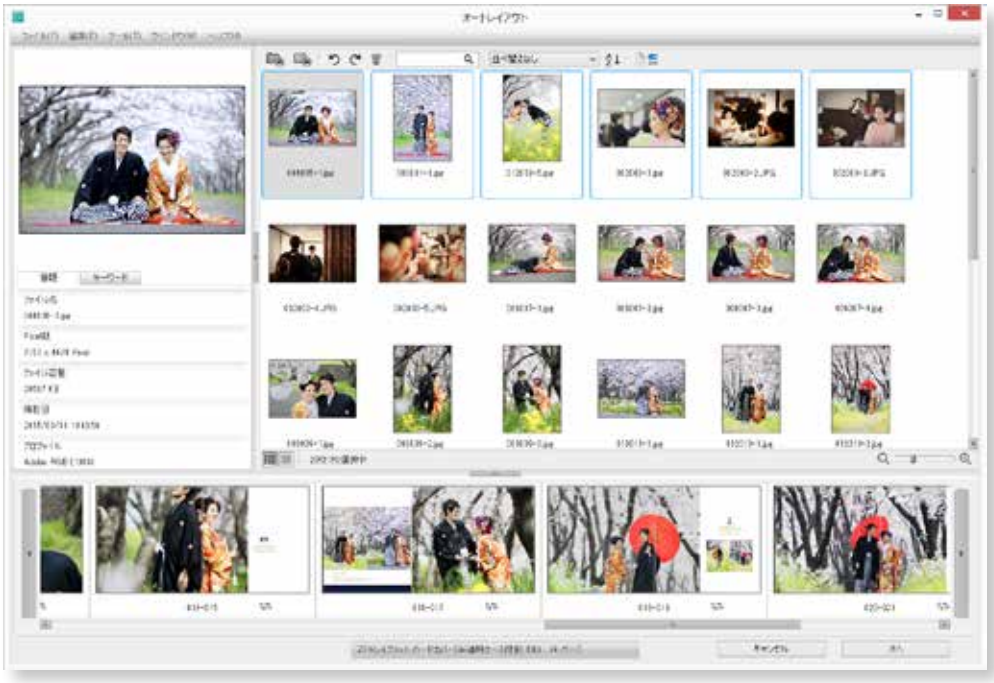


この作例では、ページに対する並び順を予め調整してあります。
先に画像の並び順の調整や色補正を行う事をおすすめいたします。

素材画像が読み込まれると同時にテンプレートのボックス部分に素材画像が流し込まれます。



目的の画像が目的のボックスに収まっているかを表紙ページから最終ページまで確認してください。



手順4　レイアウトの調整

オートレイアウト機能にて、テンプレートに流し込まれた画像の並び順を調整したい場合は、下記のそれぞれの項目をご覧ください。

①画像を取り除く場合

「26-4.　オートレイアウトの基本的な使い方」「① 必要のない画像を削除する方法」26-7 ページをご覧ください。

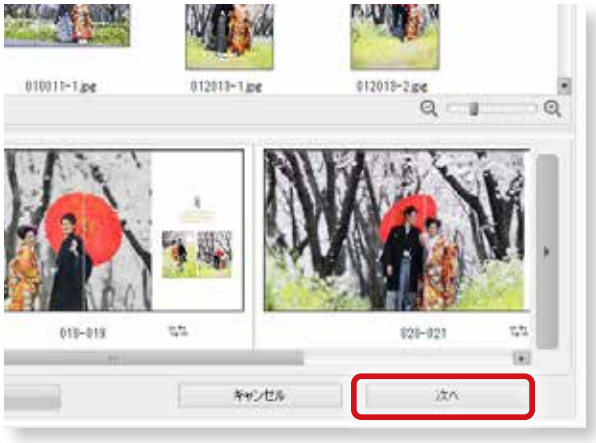
②画像を入れ替える場合

「26-4.　オートレイアウトの基本的な使い方」「② 画像を入れ替える方法」26-8 ページをご覧ください。

手順5　「編集モード」へ移る

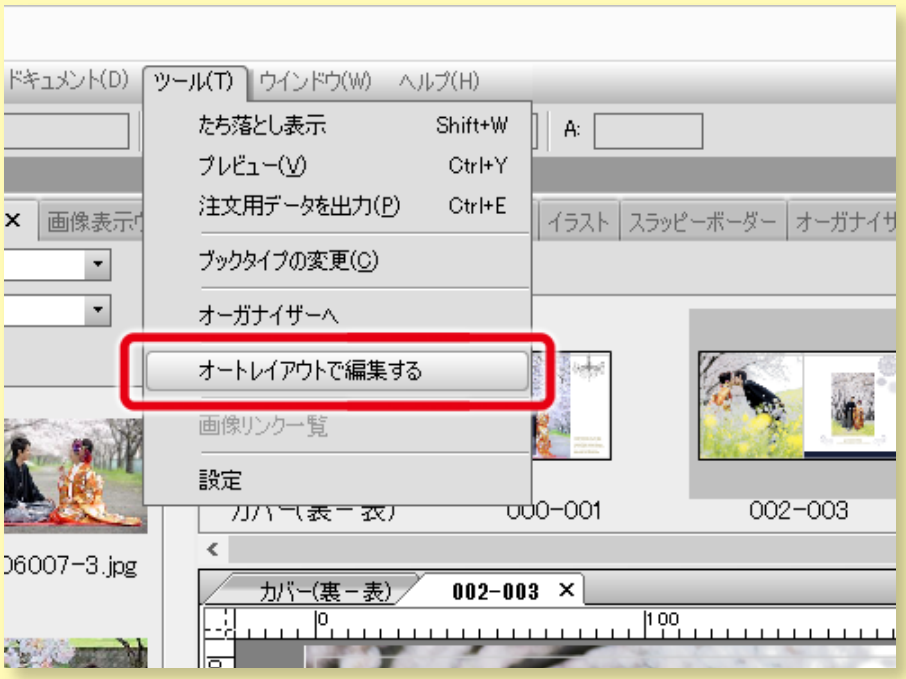
各ページのレイアウト調整が終わったら編集モードに移ります。

オートレイアウト画面の右下にある「次へ」ボタンをクリックしてください。（右図赤丸参照）

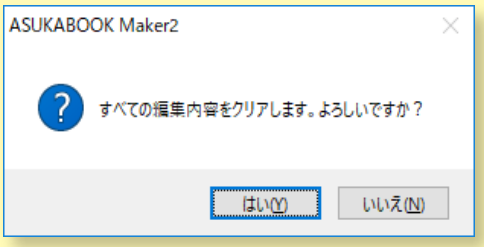


※オートレイアウトを利用する際の注意点

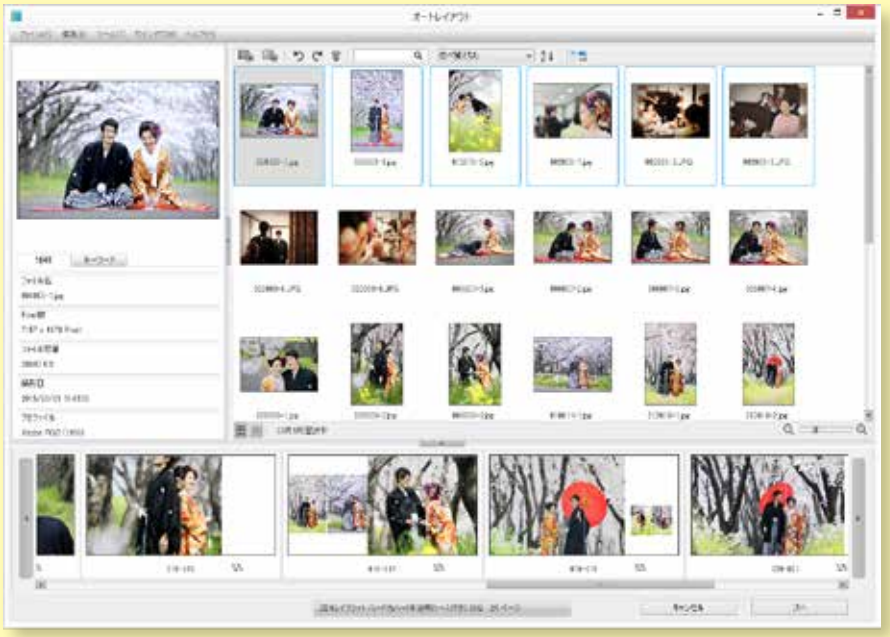
前項の「次へ」で編集画面に移行し、「ツール」メニューから「オートレイアウトで編集する」で再度オートレイアウトを行う場合、全てのレイアウト情報が一度クリアされます。また、テンプレートを利用していた場合もその内容 (ボックス、イラスト、テキスト、背景など) は一切クリアされ、テンプレートは利用できなくなりますのでご注意ください。



クリアされるメッセージが表示されます。



「はい」をクリックしますと、全ての内容がクリアされ再度オートレイアウトされ
ます。再度、テンプレート情報を読み込むことはできませんのでご注意ください。



テンプレートの内容(ボックス、イラスト、テキスト、背景等)がクリアされます

● 右画面が表示されましたら、編集モードにて調整を行う場合は、「OK」をクリックしてください。

● オートレイアウトモードに戻って確認をしたい場合は「キャンセル」をクリックしてください。

● 編集モードにて調整を行う場合は、「OK」をクリックしてください。

ご注意 もし、テンプレートのすべてのボックスに画像が入っていない場合は警告表示が出ますので写真のカット数をご確認ください。

手順5 レイアウトの表示

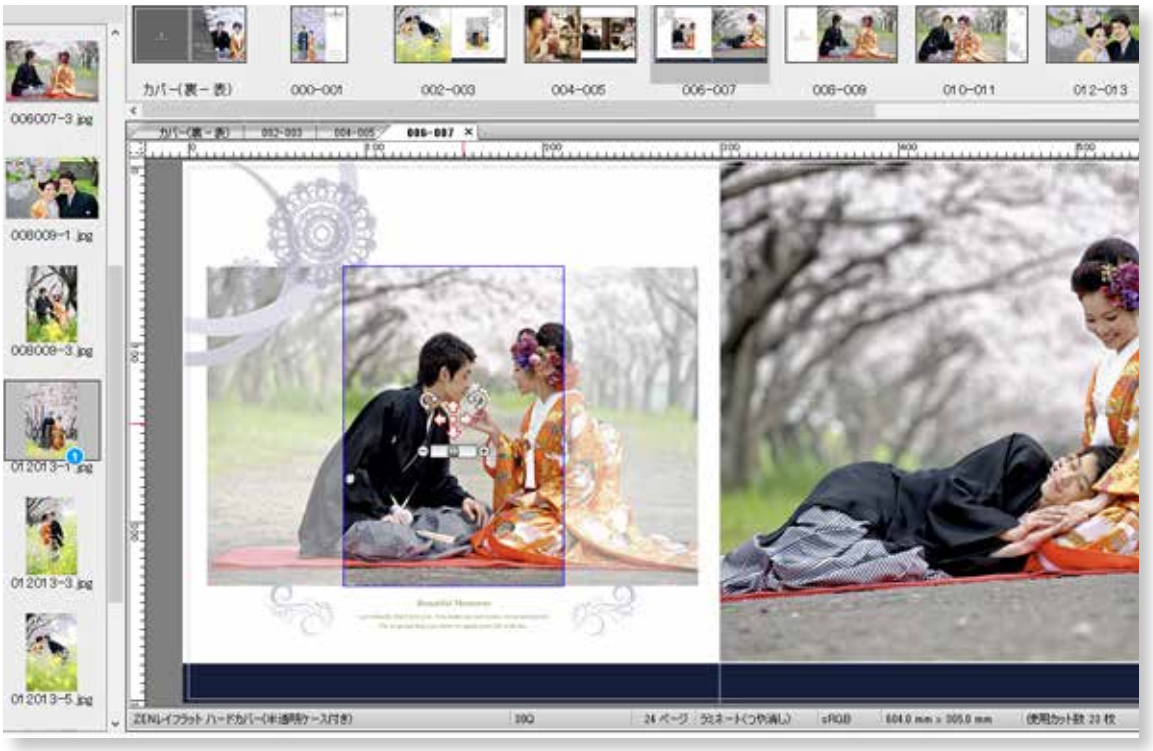
編集モードに移り、レイアウトが表示されます。

手順6 トリミングの微調整

オートレイアウトでは、ボックスの中心に対して画像の中心が一致するように幾何学的にレイアウトが行われます。

画像のトリミングやサイズ調整は、「編集モード」で行ってください。

◆例えば



27.　スマートガイド

27-1.　スマートガイドとは？

スマートガイドとは、オブジェクト（画像、図形、文字）をマウスにより操作する時に、一時的に表示されるガイドラインのことです。他のオブジェクトとの相対関係でオブジェクトの隅、および中心からガイドラインが引き出されます。このスマートガイドを使うことにより、新たにガイドラインを引くことなく、オブジェクト同士を容易に整列させることができます。

27-2.　使い方

手順 1　例. 画像の上端を揃える

上端を揃えたい画像をドラッグ（移動）してください。他の画像と上端が揃うと、右図のようにスマートガイドが表示され、オブジェクトが吸着します。

●ドラッグ（移動）しているオブジェクトの四隅、もしくは中心が、同じページにレイアウトされている他のオブジェクトの四隅、もしくは中心と一致すると、スマートガイド（赤色の線）が表示されます。

●オブジェクトとは、画像、図形、文字を示します。

①ガイドラインが表示される場合の例　その1

下記では画像の縦方向について解説していますが、横方向についても同様です。

左の画像の上端と 右の画像の上端が一致した場合	左の画像の中心と 右の画像の上端が一致した場合	左の画像の下端と 右の画像の上端が一致した場合
左の画像の上端と 右の画像の中心が一致した場合	左の画像の中心と 右の画像の中心が一致した場合	左の画像の下端と 右の画像の中心が一致した場合

手順2　揃ったらマウスボタンを話す

スマートガイドが表示されている状態の時に、マウスボタンを離してください。オブジェクトの位置が確定され、スマートガイドの表示が消えます。

②ガイドラインが表示される場合の例　その2

オブジェクトの四隅、もしくは中心がページの中心線に一致した場合も、スマートガイドが表示されます。

★この機能を利用すると、予めガイドラインを引くことなく、一回のドラッグ操作で画像をページの中心にレイアウトすることができます。（右図参照）

オブジェクトがページの中心線と一致したときにもスマートガイドが表示される。

27-3.　スマートガイドのオプション機能

① スマートガイドを一時的に無効にする方法

オブジェクトをドラッグしている時に「option」キー（macOS の場合）、もしくは「Alt」キー（Windows の場合）を押していると、スマードガイド機能が一時的に無効になり、吸着を無視することができます。

②「ガイドラインへの吸着」機能との関係

メニューのドキュメントから「ガイドラインへの吸着」をオフにした状態（チェックを外した状態）でも、スマートガイドは有効です（動作します）。

③ スマートガイドの色について

スマートガイドの色は、変更することができます。

詳しくは、本書の「3-2-1.　環境設定」「③ -8.「スマートガイドの色」」3-5 ページをご覧ください。

28.　ABM2 各バージョンで追加された新機能について

今までの各バージョンで追加された新機能を記載します。

2.19 の新機能は**こちら**	2.16 の新機能は**こちら**	2.11 の新機能は**こちら**	2.6 の新機能は**こちら**
2.18 の新機能は**こちら**	2.15 の新機能はこちら	2.10 の新機能は**こちら**	2.5 の新機能は**こちら**
2.17 の新機能は**こちら**	2.14 の新機能は**こちら**	2.9 の新機能は**こちら**	2.3 の新機能は**こちら**
	2.13 の新機能は**こちら**	2.8 の新機能は**こちら**	2.2 の新機能は**こちら**
	2.12 の新機能は**こちら**	2.7 の新機能は**こちら**	2.1 の新機能は**こちら**

ご注意　最新バージョンにより作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、それより古いバージョンでは開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.19.　バージョン 2.19 で追加された機能

2021 年 1 月 7 日リリースの macOS 版：バージョン 2.19.2.0 において macOS Big Sur(11.0.1) に対応しました。

バージョン 2.19 は、2020 年 7 月 7 日にリリースしました。

このバージョンは、2020 年 7 月 7 日にリリースした ASUKABOOK の新商品、「ボードライト Cloth」、「ボード mist」、「オンデマウント S-Plus」に対応しました。ボートライトで追加された B5Q、A5、A5W サイズを追加しました。

・Windows 版、macOS 版において、ファイル選択ダイアログを改善しました。

ブックファイルを開く、保存する際に OS 標準のダイアログに変更しました。これによりファイル選択ダイアログが早く開くようになりました。

・Windows 版において画像表示ウインドウの写真をダブルクリックするとページの中心に配置されるようになりました。

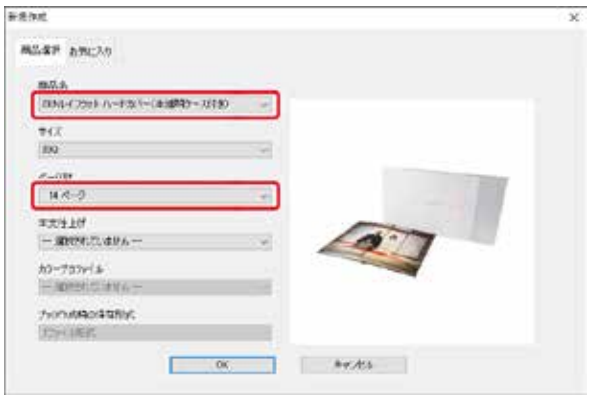
ご注意 最新バージョンにより作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、それより古いバージョンでは開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.18.　バージョン 2.18 で追加された機能

バージョン 2.18 は、2020 年 3 月 17 日にリリースしました。

このバージョンは、機能の追加のみならず操作性の改善をはかったものとなります。

・写真セレクトシステム「eraview」(エラビュー) で設定した商品名とサイズ情報が連携されるようになりました。



eraview から ABM2 に連携した際に商品名が反映されています。サイズを選択するとページ数も反映されます。

・Windows 版において起動に時間がかかる場合がありましたが、改善しました。

・Windows 版において、商品の情報表示を分割して表示していましたが、まとめて表示するように変更しました。

・macOS 版 Ver.2.18.1.3 において、Apple 社公認アプリケーションの対応を行いました。警告無しにインストールができるようになりました。

・macOS 版において、編集パレットの最大化ボタンを押したあとに元の表示サイズに戻せるように改善しました。

・macOS 版において、内部画像を回転させた場合の描画精度を以前より改善させました。

・macOS 版において、文字入力時に Bold、Italic が選択できるフォントのみ選択・変更ができるように改善しました。

・macOS 版において、「ブックタイプの変更」時の動作に時間がかかる場合がありましたが改善しました。

ご注意 最新バージョンにより作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、それより古いバージョンでは開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.17.　バージョン 2.17 で追加された機能

バージョン 2.17 は、2019 年 6 月 3 日にリリースしました。

2019 年 6 月 3 日にリリースされた新商品「BrilliArt」、「MetalGraph」への対応や仕様変更、サイズ追加等にに対応しました。

2.16.　バージョン 2.16 で追加された機能

バージョン 2.16 は、2019 年 2 月 20 日にリリースいたしました。主な新機能は下記の通りです。

2.16-1.　テンプレートをオーガナイザーで利用できるようになりました

オーガナイザーにテンプレートを読み込み、写真をセレクトするだけで簡単・スピーディーにレイアウトが行えるようになりました。

詳細は、2-30 ページの「2-8-2.　テンプレートの利用 (オーガナイザーへ進む)」をご参照ください。

2.16-2.　よく使うブックを「お気に入り」に登録して簡単に利用できるようになりました

よく使うブックをお気に入りに登録することにより、次回から同じブックを選択して簡単に利用できるようになりました。

詳細は、2-3 ページの「2-1-2.　お気に入りブックの登録」をご参照ください。

2.16-3.　全ページの背景を一括して塗りつぶすことができるようになりました

詳細は、4-47 ページの「4-17-2.　背景を塗りつぶす (全ページ一括)」をご参照ください。

2.16-4.　使用画像数の表示をわかりやすくしました

ブックに同じ画像が 2 回以上使用されると赤色で表示して、画像の重複使用などがわかりやすくなりました。

詳細は、5-14 ページの「5-11.　使用画像数の表示と確認」をご参照ください。

2.16-5.　ボックス、イラスト、ページテンプレートの追加データを簡単に登録

ボックス、イラスト、ページテンプレートの追加データを各タブにドラッグ & コピーするだけで登録できるようになりました。

ボックス追加の詳細は、7-23 ページの「他のパソコン等で作成したボックスを登録する場合」をご参照ください。

イラスト追加の詳細は、10-2 ページの「イラストタブに直接ドラッグして登録する方法」をご参照ください。

ページテンプレート追加の詳細は、14-5 ページの「他のパソコン等で作成したページテンプレートをドラッグで登録する場合」をご参照ください。

2.15.　バージョン 2.15 で追加された機能

バージョン 2.15 は、2018 年 5 月 30 日にリリースいたしました。主な新機能は下記の通りです。

2018 年 10 月 25 日　macOS Mojave (10.14) に対応しました。

ご注意

最新バージョンにより作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、それより古いバージョンでは開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.15-1.　2018 年 5 月にリリースした新商品に対応しました

2018 年 5 月に発表した ASUKABOOK® 「ボード Petit」、「プラチナクロス七五三」、「Photolet」、「pasta」に対応しました。

また、「ZEN レイフラット ART ACX」、「ボード ACX」は、サイズの追加に対応しました。

2.15-2.　ページ分割で保存する機能を追加しました

ページ分割形式とは、ページごとに分割してデータを保存する形式です。ページごとに分割して保存するため、他の保存形式のようにすべてのページを開いて編集する必要がありません。ページ分割形式は、編集したい任意のページのみを開いて編集できますので、軽快に操作が可能です。また、何らかの理由でパソコンがクラッシュしたり、正常に保存できなかった場合でも、最後に正常に保存を行ったまでのページファイルは影響を受けませんのでデータの保全性に優れています。また、ページ単位で編集し、保存することで、保存処理時間が大幅に短縮できます。

ページ分割形式は、ブック管理ファイルとページファイルの 2 種類が保存されます。

ブック管理ファイル

ページファイルを統括管理している保存データ。必ずこのデータからページファイルを開きます

ページファイル

1 ページごとに保存されているデータです。**直接開くことはできません。**ブック管理ファイルから利用します

詳細は、2-8 ページの「2-4.　ページ分割形式の活用」をご参照ください。

2.15-3.　背景パターンを追加しました

ブライダルやキッズ等幅広く活用できる背景パターンを追加しました。

2.14.　バージョン 2.14 で追加された機能

バージョン 2.14 は、2018 年 2 月 27 日にリリースいたしました。

ご注意

最新バージョンにより作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、それより古いバージョンでは開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.14-1.　「eraview」からの連携

写真セレクトシステム「eraview」(エラビュー) で写真をセレクトして ABM2 に連携する事ができます。あらかじめ写真をセレクトすることにより、写真のページ割り振りが簡単に行えます。

詳細は、22-1 ページの「22.　eraview からの連携」をご参照ください。

■「eraview」(エラビュー) に関して：

https://asukabook.jp/support_tool/eraview.html

※「eraview」の操作方法及び ABM2 への連携は、別途「eraview」のマニュアルをご参照ください。

2.14-2.　ショートカットキーを追加しました

動作	Windows	macOS
編集パレットの表示%を一つ前の%に戻す	Ctrl + Shift + 0 (ゼロ)	Command + Shift + 0 (ゼロ)

2.13.　バージョン 2.13 で追加された機能

バージョン 2.13 は、2017 年 6 月 1 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.13 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.12 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.13-1.　新商品と追加商品、ページ数変更に対応

ABM バージョン 2.13 は、2017 年 6 月 1 日に発表された ASUKABOOK の新商品に対応しています。
よって、下記の商品のブックファイル（ホワイトベース）の作成が行えます。

新商品対応：

・ZEN レイフラット ART ACX

・ZEN レイフラット ART Petit(プチ)

・ボード ACX

・オンデマウント SIMPLE

以下の追加商品に対応しました。

追加：

・KINARI プレミアム /SHIRONARI プレミアムの 2 ページ単位のページ追加に対応

・オンデマウント SHIRONARI

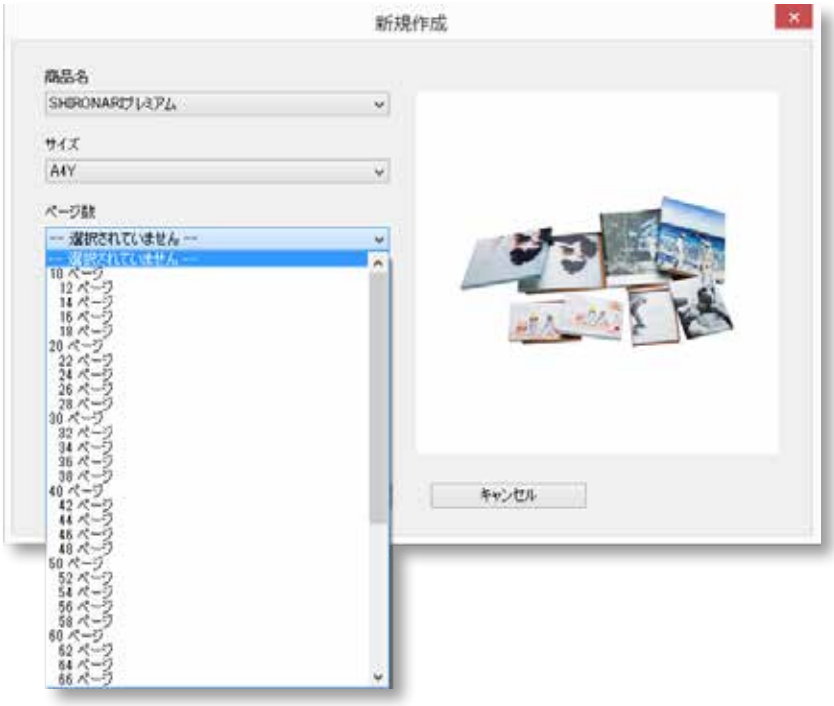
・オンデパネル SHIRONARI 応

・ボードライトに KINARI と SHIRONARI の用紙を追加

・ボードライトにオプションケースを追加

・ギャラリーボックスのオプション、ギャラリーステージの小 4 枚セット追加

● KINARI プレミアム /SHIRONARI プレミアム
10 ページから最大 100 ページまで、従来では 10 ページ単位の商品構成でしたが、10 ページから最大 100 ページまでの2ページ単位で作成できるようになりました。

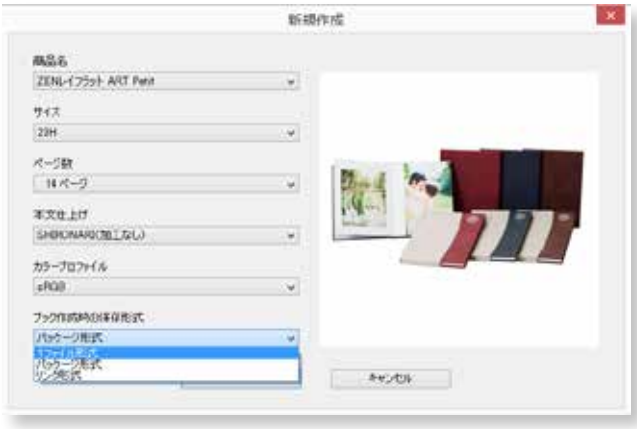


\

2.13-2. 新規作成画面で保存形式が選択できるようになりました

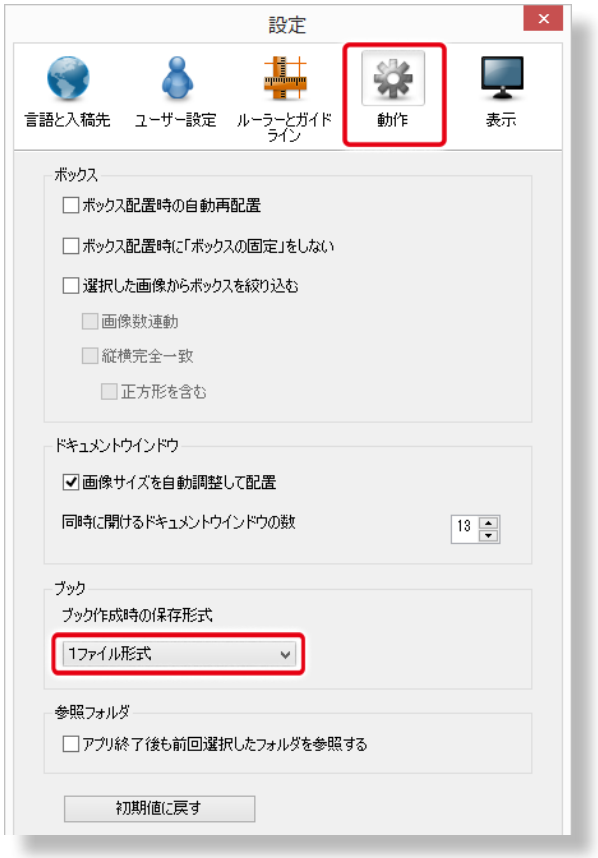
新規作成時に保存形式が選択できるようになりました。

リンク形式は、あとから保存形式の変更が出来ないため最初に保存形式を選択できるようになりました。初期設定では、「1 ファイル形式」になっています。また、下記の設定画面の「ブック作成時の保存形式」と連動します。



詳しくは、2-43 ページの「【解説】　保存ファイル形式について」をご覧ください。

ツールメニューの「設定」で「動作」を選択し、「ブック作成時の保存形式」で選択した保存形式が、新規作成時の初期設定に設定されます。また、新規作成時に設定した保存形式がこの設定画面に設定されます。つまり、どちらかで最後に設定された保存形式が相互に設定されるようになります。



また、保存ファイルそれぞれの形式ごとにアイコンを変更しました。

各保存形式アイコン

詳しくは、本 2-43 ページの「【解説】　保存ファイル形式について」をご覧ください。

その他の変更された保存形式アイコン

2.12.　バージョン 2.12 で追加された機能

バージョン 2.12 は、2017 年 2 月 28 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.12 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.11 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.12-1.　リンク形式の再リンク機能を追加

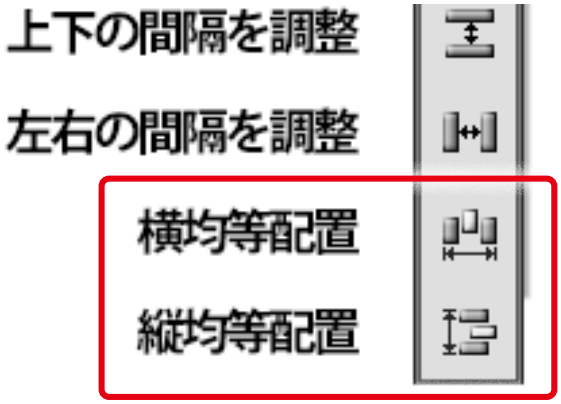
ABM2 のリンク形式を利用して保存した際に、写真のフォルダを移動したりファイル名が変更され場合など、リンクが外れた場合、再リンクが出来るようになりました。

画像リンクが外れた場合、右の「画像リンク一覧」パネルを利用して、画像が再リンクできます。また、複数のリンクが外れている場合は、フォルダ内に同じ名称のファイルがあれば、すべて自動でリンクすることが可能です。

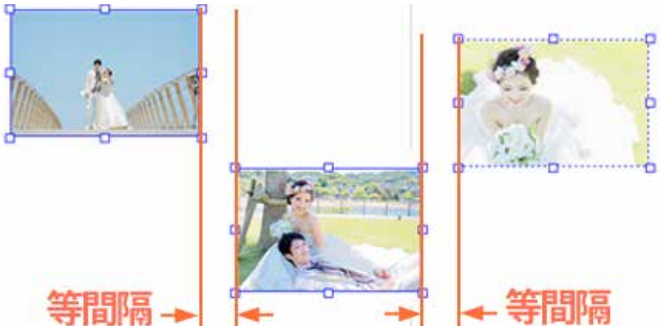
再リンクの詳細は、2-16 ページの「2-4-3.　リンク切れが発生した際の再リンク」をご参照下さい。

2.12-2.　整列ツールバーの機能追加

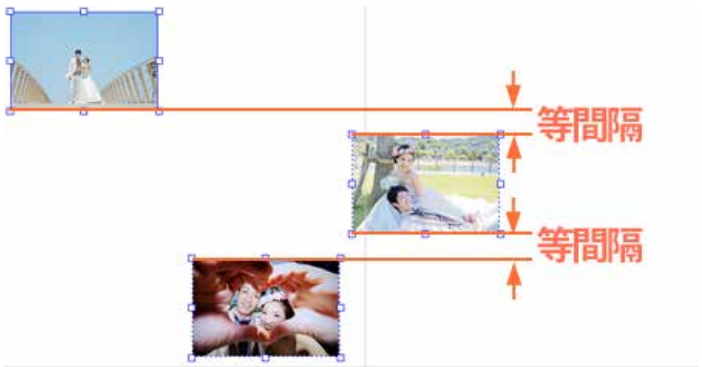
整列ツールバーに「横均等配置」と「縦均等配置」ボタンを追加しました。これにより、写真を等間隔に配置する手間を大幅に改善しました。



■横均等配置



■縦均等配置

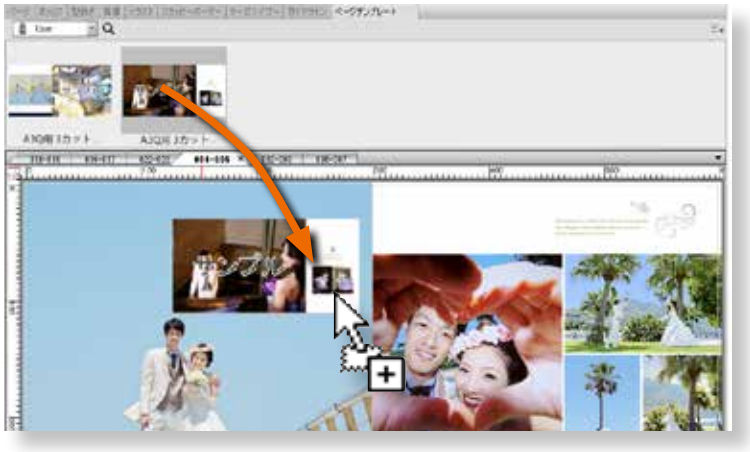


詳しくは、本書の 15-13 ページの「15-2-12.　横均等配置」をご覧ください。

詳しくは、本書の 15-15 ページの「15-2-13.　縦均等配置」をご覧ください。

2.12-3.　ページテンプレートの保存

あらかじめレイアウトしたページをテンプレートして、保存し、利用できるようになりました。ページ単位で登録したレイアウトを利用できるため、レイアウトデザインの汎用性が広がりました。



ページテンプレートに関しましては、14-1 ページの「14-1.　ページテンプレートの保存」をご参照ください。

2.12-4.　画像の全画面表示

読み込んだ画像を ABM2 のサムネイルから全画面表示できるようになりました。これにより、画像の細部を確認しながらレイアウトできるようになりました。

全画面表示の詳細は、
5-2 ページの「5-1-1.　全画面表示 (画像表示ウインドウ)」、
12-6 ページの「全画面表示 (オーガナイザーサムネイル領域)」、
26-7 ページの「全画面表示 (オートレイアウトサムネイル領域)」をご参照下さい。

2.12-5.　ショートカットキーの追加

グループ化、オブジェクトの重ね順、ボックス化、画像の 100%表示等のショートかとを追加しました。

ショートカットキーの詳細は、23-1 ページの「23.　ショートカットキー一覧」をご参照下さい。

2.11.　バージョン 2.11 で追加された機能

バージョン 2.11 は、2016 年 6 月 1 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.11 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.10 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.11-1.　新商品と追加商品、ページ数変更に対応

ABM バージョン 2.11 は、2016 年 6 月 1 日に発表された ASUKABOOK の新商品に対応しています。
よって、下記の商品のブックファイル（ホワイトベース）の作成が行えます。

新商品対応：

・ZEN レイフラット ART FBX

・SHIRONARI プレミアム

以下の追加商品に対応しました。

追加：

・ZEN レイフラットシリーズ全商品の 2 ページ単位のページ追加に対応

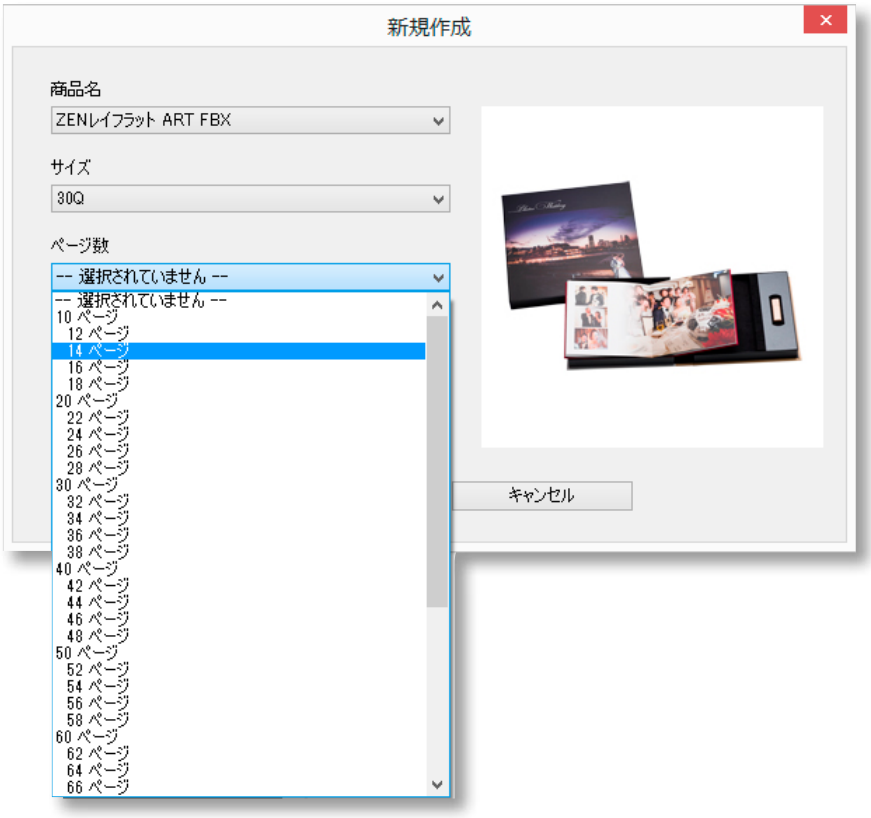
・ZEN レイフラット ART EX に追加されたケースに対応

・conté に追加されたレーザー加工枠選択に対応

・ギャラリー BOX に対応し、追加されたサイズにも対応

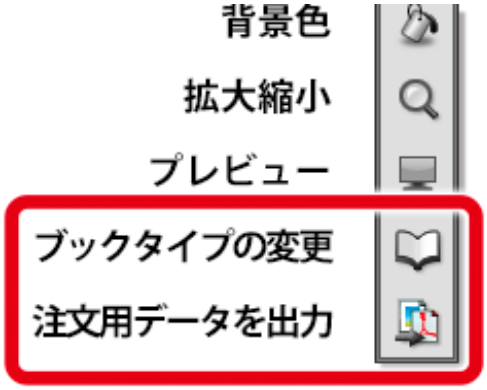
・プロモーションブック DVD/CD に追加されたケースに対応

● ZEN レイフラットシリーズ
10 ページから最大 100 ページまで、従来では 10 ページ単位の商品構成でしたが、10 ページから最大 100 ページまでの 2 ページ単位で作成できるようになりました。



2.11-2.　ツールバーの機能追加と変更

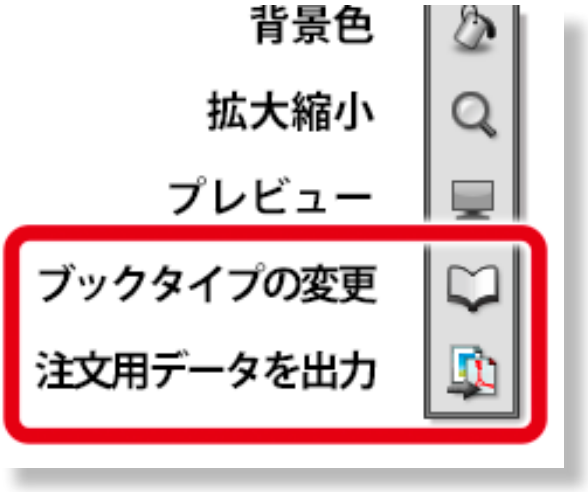
ツールバーに「ブックタイプの変更」ボタンを追加しました。
バージョン 2.11 より、ギャラリー BOX に対応しました。ギャラリー BOX は、JPEG 入稿を前提としているため注文用 JPEG データを出力できるようになりました。従来のブック製品は、注文用 PDF データ書出しとなります。そのため従来の「注文用 PDF の出力」を「注文用データを出力」ボタンに変更いたしました。



詳しくは、本書の「15-1.　ツールバー」15-1 ページをご覧ください。

2.11-3.　保存先などのフォルダを前回と同様にする

環境設定において「アプリ終了後も前回選択したフォルダを参照する」にチェックを入れますと、ブックファイルの保存先や注文用データの出力先等のフォルダに関し、前回指定したフォルダを参照します。



2.10.　バージョン 2.10 で追加された機能

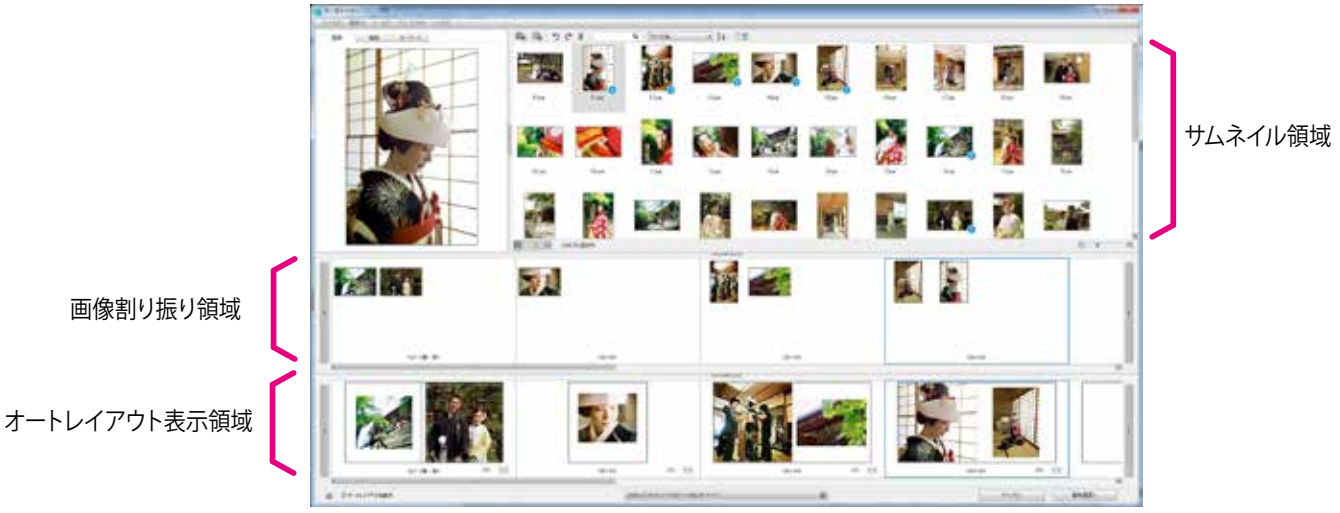
バージョン 2.10 は、2016 年 3 月 3 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.10 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.9 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.10-1.　オーガナイザー機能にオートレイアウト機能を追加

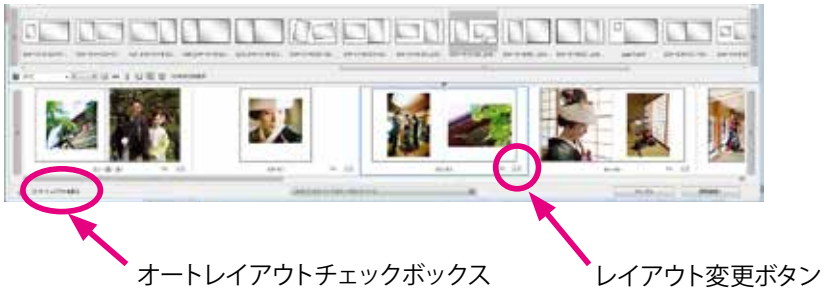
従来のオーガナイザー機能に、オートレイアウトの要素を取り入れました。



画像割り付け領域の各ページに使用したい画像を割り付ける、レイアウト表示領域には自動的にカット数に応じたレイアウトが表示されます。

また、レイアウト変更ボタンを押すことにより、すでに登録されているボックス配列の中から選択し直すことができます。

●オートレイアウトチェックボックスのチェックを外すとオートレイアウト機能が OFF になり、従来のオーガナイザー機能（各ページへの割り付けのみ）として使用することができます。



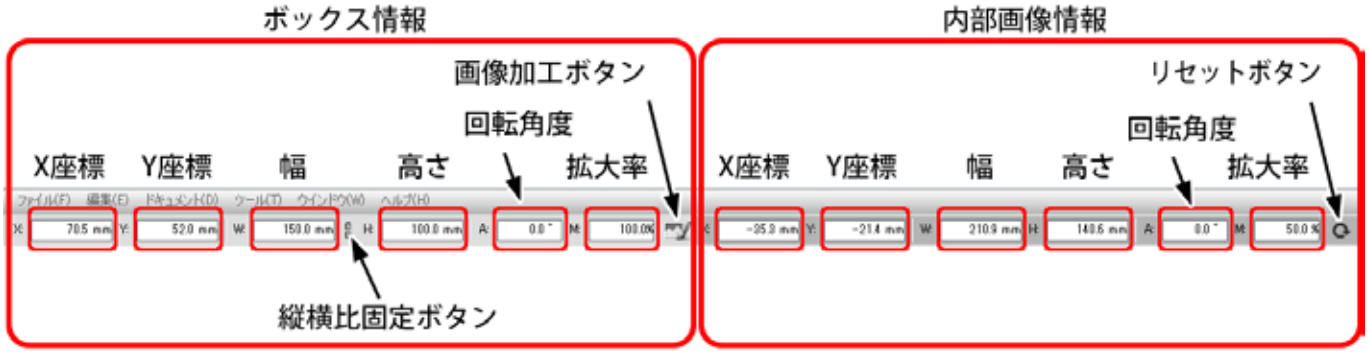
詳しくは、本書の「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。

2.10-2.　ヘッダーの機能追加（ボックス内部画像の情報表示と数値操作）

バージョン 2.10 より、オブジェクトの位置・大きさなどの情報を表示する「ヘッダー」に、ボックス内部の画像情報を表示するように改良しました。「ヘッダー」には「ボックス情報」と、「内部画像情報」が独立して表示されます。

また、情報の表示欄には数値を直接入力することができるため、画像の位置調整などのトリミング操作がより細かく調整できるようになりました。

写真を選択した場合のヘッダー

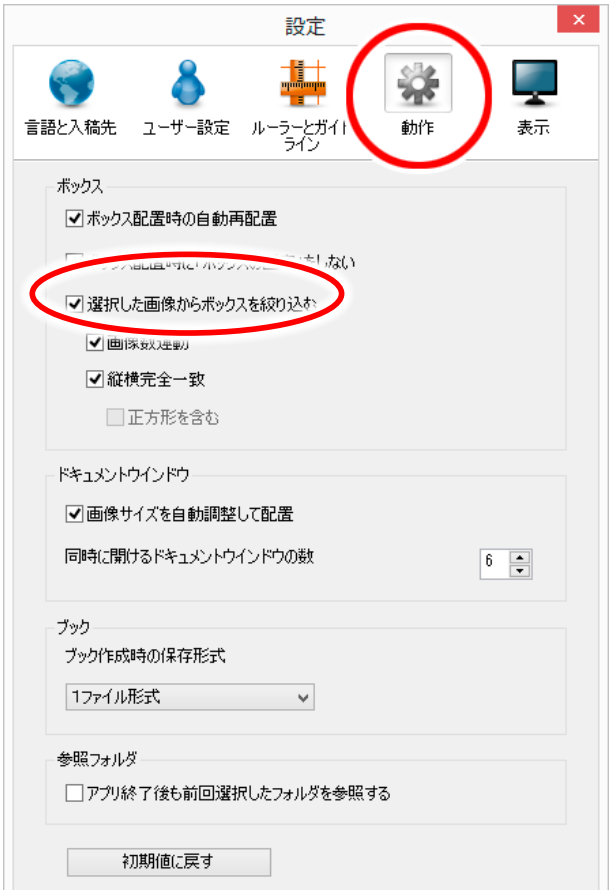


詳しくは、本書の「3-3.　ヘッダー」3-33 ページをご覧ください。

2.10-3.　ボックス絞り込み機能を改善

「ボックス」タブでの「ボックス絞り込み」機能を改善しました。ABM2.7 までに搭載されていた「ボックス自動絞り込み」機能と、ABM2.9 に搭載されていた「手動絞り込み」機能の両方を搭載しました。

環境設定の「動作」の中にある「選択した画像からボックスを絞り込む」の「ON」／「OFF」により、切り替えて使用できます。



詳しくは、本書の 7-1 ページの「7.　ボックス」、7-1 ページの「7.　ボックス」、7-1 ページの「7.　ボックス」をご覧ください。

2.10-4.　確認用 JPEG 出力のサイズを変更

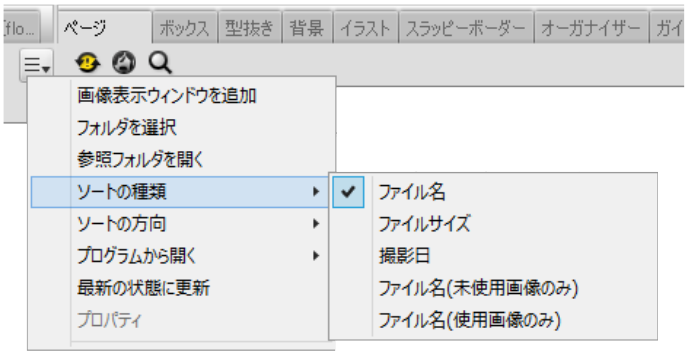
確認用 JPEG の出力サイズを 2 種類用意しました。
用途に合わせてサイズを選択できます。

●サイズ大　は、元のサイズの　80%
　サイズ小　は、元のサイズの　30%
　になるように出力します。

詳しくは、本書の「6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力」6-9 ページをご覧ください。

2.10-5.「画像表示ウインドウ」のソート機能に使用・未使用の項目を追加

「画像表示ウインドウ」のソート機能（ファイルの並び順）に、「使用済み」／「未使用」の状態を一目で判別できる項目を追加しました。



詳しくは、本書の「5-4.　ソートの種類」5-6 ページをご覧ください。

2.10-6.　全ページで使用している写真画像の使用カット数表示を追加

編集パレットの右下に、全ページで使用している画像の使用カット数を表示するようにしました。

全ページで使用してい使用カット数

●「イラスト画像」指定を施した写真画像、および「イラスト」タブからドロップしてレイアウトした画像は、使用カット数に含まれません。

●1 つの素材画像を 2 回使用している場合は、使用カット数は 2 カットと換算します。

カット数の表示ついては、本書の「5-11.　使用画像数の表示と確認」5-14 ページをご覧ください。

2.10-7.　ガイドライン保存機能

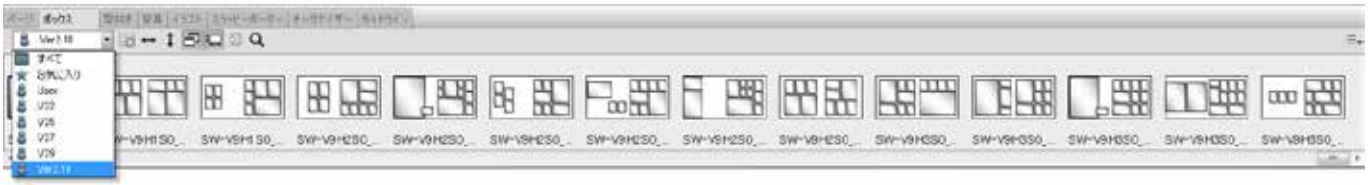
編集パレット上で使用したガイドラインを保存し、他のブックやページで呼び出して使用出来る機能を設けました。

詳しくは、本書の「13.　ガイドラインタブ」13-1 ページをご覧ください。

2.10-8.　ボックスの追加

バージョン 2.10 では、ボックスを合計 1,500 個以上を追加しました。

バージョン 2.10 で追加されたボックスだけを確認する場合は、ボックスタブのカテゴリーの中から「V210」をクリックしてください。



2.10-9.　旧レイフラット仕様の生産終了に伴う処置

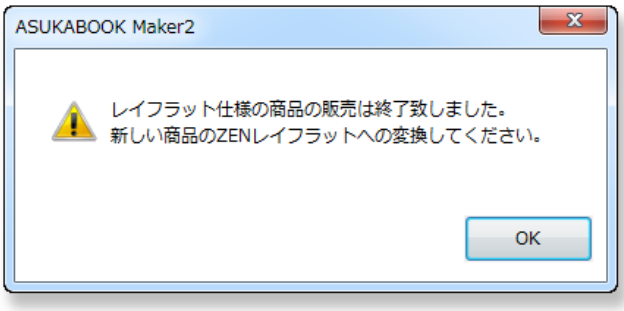
商品名に「レイフラット仕様」という名称が付く商品は、2014 年 5 月 26 日をもって生産を終了しています。「レイフラット仕様」に最も近い現行商品は、同じサイズ、同じページ数の「ZEN レイフラット」になります。

このため、過去に「レイフラット仕様」として作成された ABM2 のブックファイルを ABM2.10 で開くと下図の警告が表示されるようにしました。この場合には「OK」をクリックし、現行商品にブック変換を行ってください。

現行商品へのブック変換の手順

手順 1　旧レイフラット仕様のブックファイルを開く

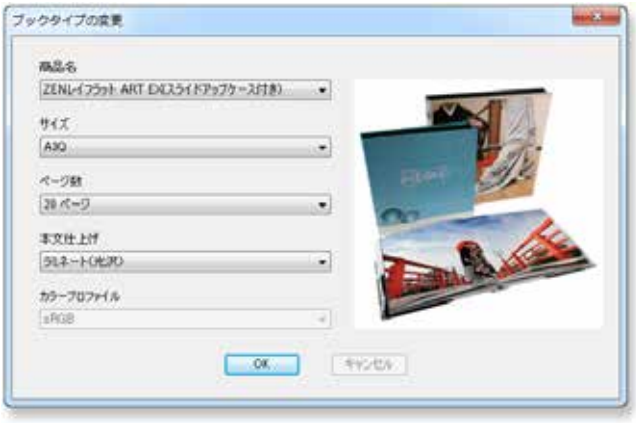
右図の警告が表示されますので、「OK」をクリックしてください。



ブックタイプ変換機能が働き、右図のダイアログが表示されます。

手順2　ブックタイプを選択する

変換する商品を選択します。



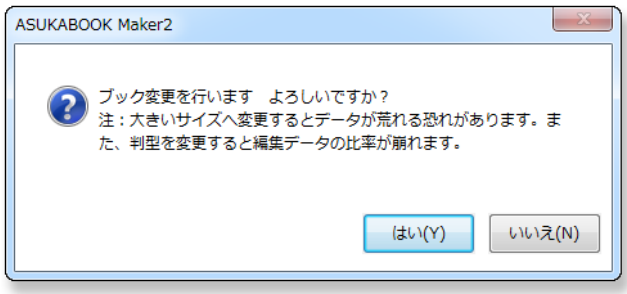
● ABM2 のブックタイプ変換機能はいろいろな商品タイプに変換することが出来ますが、「旧・レイフラット仕様」に最も近い現行商品は、「ZEN レイフラット」と名称が付くものです。

例　題

この例では「旧・レイフラット仕様」のデータは、「ART EX　レイフラット仕様（スライドアップケース付き）、A3Q、20 ページ、ラミネート（光沢）」でした。これに最も近い現行商品は「ZEN レイフラット　ART EX（スライドアップケース付き）、A3Q、20 ページ、ラミネート（光沢）」ですので、これを選択しています。

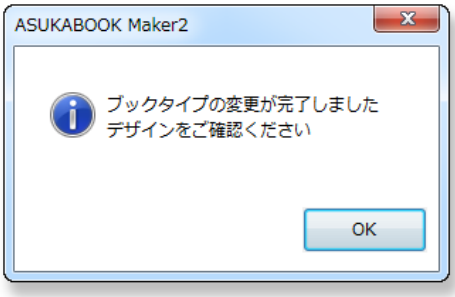
手順3　「はい」をクリック

右図のメッセージが表示されますので「はい」をクリックしてください。



手順4　「OK」をクリック

変換が終了すると右図のメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてください。



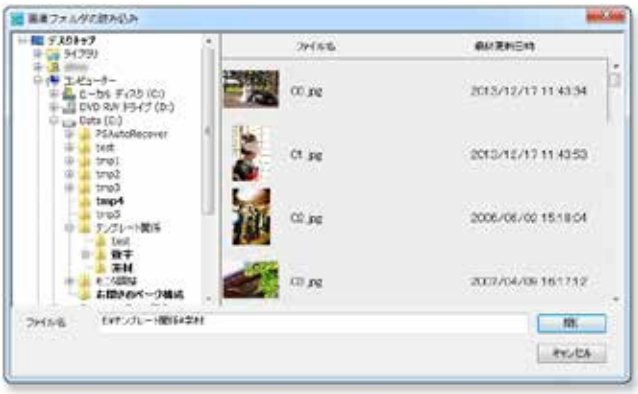
ブックタイプの変換についての詳細は、「24-1. 「ブックタイプの変更」の使い方」24-1 ページをご覧ください。

2.10-10.　ファイル表示ダイアログの変更

「画像表示ウインドウ」、「オーガナイザー」、および「オートレイアウト」などにて、画像ファイルを開く時のダイアログ表示を変更しました。

●この変更は、長いファイル名の表示と、最終更新日時を表示させるためのものです。

ファイル表示ダイアログの旧表示
ABM2.9

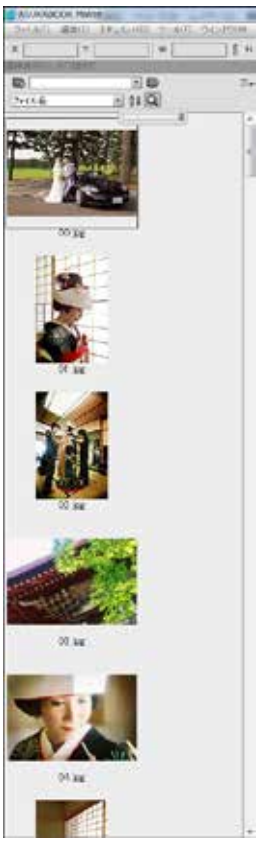


ファイル表示ダイアログの新表示
ABM2.10

2.10-11.　各タブのサムネイル拡大率の変更

「画像表示ウインドウ」などの各種タブのサムネイル拡大率を大きくしました。

ABM2.9 のサムネイル最大拡大



ABM2.10 のサムネイル最大拡大

2.10-12.　オブジェクトをグループ化した際の拡大・縮小時のズレを修正

複数のオブジェクト（画像、図形、文字）をグループ化してから拡大縮小を行うと、オブジェクトがボックスに対して位置ずれを起こす現象を修正しました。

3 個のオブジェクトをグループ化

ABM2.9 でのグループ化拡大

ABM2.10 でのグループ化拡大

2.9.　バージョン 2.9 で追加された機能

バージョン 2.9 は、2015 年 5 月 27 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.9 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.8 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.9-1.　2015 年 5 月 27 日発表の新商品に対応

ABM バージョン 2.9 は、2015 年 5 月 27 日に発表された ASUKABOOK の新商品に対応しています。
よって、下記の商品のブックファイル（ホワイトベース）の作成が行えます。

- conté　（コンテ）
- SHIRONARI　（しろなり）
- オンデパネル
- オンデパネル KINARI
- ギャラリー BOX
- メディアケース USB

また、従来からの商品においても、サイズの追加、ページ数の追加があったものにも対応しています。

- ZEN レイフラット　ハードカバー

  10 ページから最大 100 ページまで、従来では 10 ページ単位の商品構成でしたが、2015 年 5 月 27 日からは 10 ページから最大 100 ページまでの2ページ単位となりました。

上記は ABM2.9 の「新規作成」から、商品名に「ZEN レイフラット／ハードカバー」を選択した場合の選択できる「ページ数」を示しています。ページ数は 2 ページ単位で選択できるようになりました。

●ボードライト

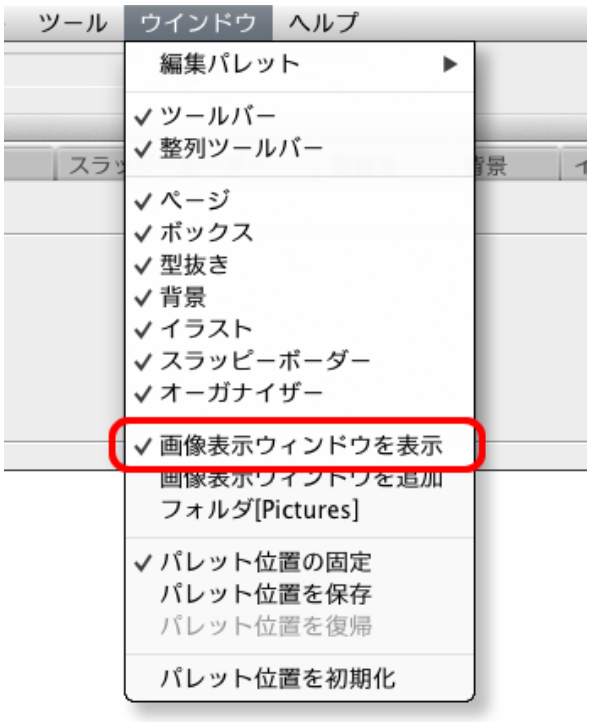
・サイズ追加　サイズが 2 種類追加されました。
いままでは　A3Q、A4、A4W　がラインナップされていましたが、更に 30Q、A4Q が加わり、合計 5 種類となりました。

・ページ数追加
いままでは　4、6、8、10 ページのラインナップでしたが、更に 12、14、16、18、20 ページが加わりました。

2.9-2.　画像表示ウインドウの動作について

　従来は「画像表示ウインドウ」を故意に非表示にしていた場合は、ABM を再起動すると再表示されるように動作していました。バージョン 2.9 からは他のタブと同様に、メニューの「ウインドウ」の中に「表示 / 非表示」の切り替え機能を設けました。

　また、ABM の再起動時には、終了時の状態を復元するようにしました。



2.9-3.　ボックスの追加

　バージョン 2.9 では、ボックスを合計 393 個追加しました。
ブックサイズが正方形、縦長、横長のそれぞれに対応するものばかりではなく、今までは数が少なかった表紙用のボックスも追加しました。また、オンデマウントの 3 面用も用意しました。

　バージョン 2.9 で追加されたボックスだけを確認する場合は、ボックスタブのカテゴリーの中から「V2.9」をクリックしてください。（下図赤枠参照）

2.8.　バージョン 2.8 で追加された機能

バージョン 2.8 は、2014 年 12 月 2 日にリリースいたしました。

ご注意

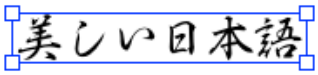
バージョン 2.8 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.7 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.8-1.　文字の均等割り付け機能の追加

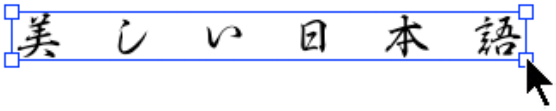
ABM バージョン 2.8 よりの機能として文字の「均等割り付け」を設けました。

これは、入力した文字をある長さの範囲内で均等に配置する機能です。

通常の文字間隔



「均等割り付け」を行った例



詳しくは、本書の「17-4.　文字ツールのオプション」、「均等割り付けの使い方」17-7 ページをご覧ください。

2.8-2.　画像表示ウィンドウにおいて、画像が使用されているページを表示する機能を追加

「画像表示ウインドウ」に表示されているサムネールにマウスを乗せると「画像情報」が表示されますが、

この時、「利用済マーク」が付いているサムネールでは、その画像が使用されているページも表示する様にしました。

2.8-3.　ボックスの絞り込みについて、ボックス個数を指定する方式に変更

ボックスタブにて数多いボックスサンプルの中からボックスレイアウトの絞り込みを行う方法を、ボックスの個数を指定する方式に改めました。

これにより、ABM2.7 まで採用していた自動絞り込み機能（縦横比考慮、正方形を含める、など）は廃止としました。

詳しくは、本書の「7-6-2.　ボックス数選択」7-10 ページをご覧ください。

2.8-4.　リンク切れのオブジェクトが存在する場合の処置

ブックファイルにリンク切れのオブジェクトが存在する場合は、ブックファイルを開く際に下図の様な警告メッセージを表示するようにしました。

この場合、ブックファイルは開くことが出来ますが、リンクを修復しない限り、「確認用 JPEG」、および「注文用 PDF」の出力が行えないようにしました。

2.7.　バージョン 2.7 で追加された機能

バージョン 2.7 は、2014 年 5 月 27 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.7 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.6 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.7-1.　イラストタブの追加

ABM バージョン 2.7 より新機能として「イラスト」タブを設けました。

これは、写真画像とは異なり、頻繁に使用するイラスト画像を登録しておき、イラストタブからすぐに使用することができる機能です。

●イラストタブには、イラスト、写真などを登録できます。
　登録できるファイル形式は、PNG、および JPEG 形式のファイルです。
● 2.7 のバージョンアップでは、ASUKABOOK Maker 素材集 1、および 2 より 54 種類を選択して用意しました。

詳しくは、本書の「10.　イラストタブ」10-1 ページをご覧ください。

2.7-2.　オートレイアウトにおけるテンプレート読み込み機能

ABM バージョン 2.7 より新機能として、オートレイアウト機能にテンプレートファイル（拡張子が ab2template ）の読み込み機能を設けました。

バージョン 2.6 までは、オートレイアウトでのレイアウトの変更は、あらかじめ登録されたボックス配列の中から選択する方法のみを用いていました。

また、背景に特定の模様や写真画像を配置したり、装飾物としてのトリム、ライン、各種のイラストを配置しておくことは出来ませんでした。

バージョン 2.7 では、過去に作成した ASUKABOOK Maker 2 でのブックファイル（拡張子 ab2、および ab2p）をオートレイアウトで利用できるテンプレートに加工することができる機能を設けました。

● 過去に作成したレイアウト（ブックファイル）を、オートレイアウト用のテンプレートとして読み込むことが出来ます。
● 背景や装飾にイラストや写真画像を利用したオートレイアウト用テンプレートを作成できます。
● オートレイアウト用テンプレートを利用することで、写真をボックスにはめ込む時間を大幅に短縮することが出来ます。

詳しくは、本書の「26-12.　オートレイアウト／テンプレートの読込み」26-35 ページをご覧ください。

2.7-3.　確認用 PDF の出力

「確認用 PDF」とは、クライアントやデザイナーの方とのレイアウト確認を行う際に、E-mail に添付して送信できるようにファイル容量を小さくしたものです。

● 確認用 PDF の解像度は、注文用 PDF の 25%（67.8dpi）になります。
● 確認用 PDF のファイル容量は、注文用 PDF の 約 1/10 になります。

詳しくは、本書の 3-21 ページの「●「確認用 JPEG を出力」」3-21 ページの「●「確認用 JPEG を出力」」をご覧ください。

2.7-4.　「ブックタイプ変更」機能でのサイズアップ変更が可能になりました

「ブックタイプ変更」機能でサイズ変更を行う場合、今までは「大きいサイズから小さいサイズ」への変更のみと制限をしていました。
バージョン 2.7 からは、「小さいサイズから大きいサイズ」への変換が可能になりました。

これを可能にした背景には、デジタルカメラに搭載されている撮影素子が高画素となり、撮影データの画素数が 2000 万画素を超えるものが主流となってきたことがあげられます。　このような撮影データを用いると、例えば A3Q サイズの見開きページいっぱいに 1 枚の画像を配置するような場合でも、画像の拡大率が 100% 以下となります。
ABM はホワイトベースに画像をレイアウトした段階では、まだ 100% のままのデータをバックグラウンドで抱えています。画像がレイアウトされた拡大率に変換されるのは PDF を出力するタイミングです。つまり、ホワイトベースの大きさが A3Q であっても、B5Q であってもバックグラウンドで抱えている画像は同じなのです。
このような ABM の画像の持ち方であれば、サイズ拡大を行っても変換による画像の劣化は無視できる程度です。以上のことからサイズアップ変換が可能となりました

解　説

A3Q 見開きページは横 5619 ×縦 2838 ピクセル、これに対し、あるメーカーの中級クラスの一眼レフカメラでは、横 5760 ×縦 3840 ピクセルの画像を出力します。

2.7-5.　ASUKABOOK 新商品に対応

2014 年 5 月に発表した新商品に対応しています。

2.7-6.　macOS 10.9 に対応

ABM バージョン 2.7 より macOS 10.9 に正式に対応しました。

2.7-7.　溝の表示について

ハードカバー系（ZEN- ハードカバーなど）の表紙には、ノドの部分に「溝」が存在します。
これは、表紙（および裏表紙）が開き安くするためですが、ABM2.7 からはこの溝の部分をグレーの帯で表示するようにしました。
（右図の赤枠部分をご参照ください）

- 溝の表示は、印刷されることはありません。
- 溝の表示があるのは、表紙ページ（カバーページ）のみです。

2.7-8.　最小フォントサイズの変更

「文字ツール」から入力できる最小のフォントサイズを変更しました。

	フォントサイズ		
	初期値	プルダウンメニューから選択できる最小値	フォントサイズ欄に直接入力できる最小値
macOS 版	12 pt	11 pt	6 pt
Windows 版	10 pt	9 pt	6 pt

- Mac 版と Windows 版では入力できる最小サイズが異なります。
  これは OS によりポイントの解釈が異なるためです。
- 同じフォントサイズであっても「表紙」と「本文」では文字高さが異なります。
  これは表紙と本文で解像度が異なるためです。
- 同じフォントサイズであっても、使用するフォントが異なると文字高さは異なります。
  OS、ページ別、フォント、文字高さの実測値との関係は下表をご参照ください。

詳しくは、本書の 17-4 ページの「⑤ フォントサイズ」17-4 ページの「⑤ フォントサイズ」17-4 ページの「⑤ フォントサイズ」をご覧ください。

2.6.　バージョン 2.6 で追加された機能

バージョン 2.6 は、2013 年 8 月 31 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.6 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.5 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.6-1.　文字のラスタライズ

ABM バージョン 2.6 より新機能として「文字のラスタライズ」機能を設けました。

ラスタライズとは、フォントデータから構成された文字を、ピクセルで構成された画像データに変換する機能です。

文字を入力した後にラスタライズを行うとお使いのコンピュータに依存しないブックファイル（拡張子 ab2、ab2p）のやり取りが行えます。

解　説

文字は「フォント」と呼ばれる文字データを使って表示されます。

このフォントはコンピュータごとにインストールされているため、例えば A さんが作成した ABM のブックファイルを、B さんのコンピュータに転送して開くと文字の形が異なってしまう、という現象が発生します。

これは B さんのコンピュータに、A さんが使用したフォントがインストールされていないために起こるものです。

また、Windows と macOS とではフォントデータの形式が異なるため、同じフォント名称であっても互換しないことがあります。

文字をラスタライズして画像データとして扱うと、上記のような機種間互換、OS 間互換の問題を回避することができます。

ご注意

1.　ラスタライズされた文字は、元に戻すことはできません。
　もし、文字を訂正する場合は、もう一度文字ツールを使って入力し直してください。

2.　文字は、文字モードのまま PDF 出力を行うと、文字の部分のみ 800dpi で出力されます。
　しかし、文字をラスタライズした場合は 271dpi（写真画像と同じ解像度）として出力されます。
　文字の輪郭をより鮮明に見せたい場合には、ラスタライズしないことをお薦めします。

詳しくは、本書の「17.　文字の入力」17-1 ページをご覧ください。

2.6-2.　背景機能の追加

ABM バージョン 2.6 より新機能として「背景」機能を設けました。

これは、あらかじめ登録してある様々なパターンをすぐに背景として適用できる機能です。

- 2.6 のバージョンアップでは、手始めに 78 パターンを用意しました。
- 背景パターンはご自分で作成したものを登録できます。

詳しくは、本書の「9-1.　背景の使い方」9-1 ページをご覧ください。

2.6-3.　型抜きパターンの追加

型抜き機能に使用するパターンを追加しました。
28 種類を追加し、合計 44 種類となりました。

型抜きの使い方については、本書の「8.　型抜き」8-1 ページをご覧ください。

2.6-4.　Windows8 および macOS 10.8 に対応

ABM バージョン 2.6 より Windows8、および macOS 10.8 に正式に対応しました。

2.6-5.　64bit 版をリリース

ABM は、バージョン 2.6 より 64bit 版をリリースしました。

2.6-5-1.　64bit と 32bit 何が違うのか?

● bit とは?

ここで言う「64bit」とは、コンピュータに使われる中央演算処理装置（以下 CPU と略す）のデータバスが 64bit 幅で構成されていることを示しています。このような CPU を持つコンピュータには、64bit 対応のオペレーティングシステム（以下 OS と略す）が必要です。
インストールされるアプリケーション・ソフトウェアも、64bit 対応のものが必要になりますが、64bitOS の元では 32bit アプリケーションも動作するように作られていますので、すべてのアプリケーションやデバイスドライバーなどが 64bit 対応である必要はありません。実際に多くのアプリケーションやドライバーは 32bit のまま使われています。
なお、Adobe 社の Photoshop は、「CS4」より 64bit 対応になっています。

● bit 数の効用

64bit 対応のアプリケーションは、32bit 対応のものより速いのか?
これは一番気になるところです。4bit、8bit、16bit、32bit・・・　過去にも CPU や OS の bit 数が上がるたびに、この質問が繰り返されてきました。
bit 数とは、高速道路の車線に例えることができます。CPU や OS としては 64 車線の用意があるのに、それを利用するアプリケーションが 32 車線分しか利用していない、としたらどうなるのでしょうか?
車線を多く使えれば、交通量を増やすことができます。そして、交通量が増えても渋滞が発生しにくいことになります。大容量の画像データや、数が多い写真データを扱う場合には bit 数が多い（車線が多い）方が有利であることがお判り頂けると思います。
フォトグラファー、デザイナー、印刷関係者が扱う画像データは、文章データや表計算データよりはるかに大容量となります。このような環境では、64bit アプリケーションが有利と言えます。

コンピュータの処理速度の面ではどうでしょうか?
車線が増えても、そこを走る車の速度は速くはなりません。車の速度はその車の性能に依存します。エンジンが強力であれば（CPU の処理能力が高ければ）速度は上がるでしょう。従って、車線が増えることは車速が上がることには直接的には寄与しません。しかし、交通量が増えてきた場合には車線が多い道路の方が渋滞しにくい、つまり平均速度が落ちにくいと言えます。車線が多いと最高速度が上がるのでは無く、平均速度が落ちにくい。コンピュータの処理能力もこれと同じで、bit 数が多いシステムの方が平均的な処理能力が高い、ということが言えます。

●メモリの話

CPU 以外にコンピュータの処理能力を示すもののひとつとして「メモリの容量」があります。現在の 64bit コンピュータ（正確にはマザーボード）では、メモリを最大 32GB も実装できるものがあります。　しかし、アプリケーションが 32bit 対応である場合は、どんなに大容量のメモリを実装していても、3GB 程度までしか利用できません。
64bitOS の上で 64bit 対応のアプリケーションを利用する場合は、メモリの制限は理論的にはありません。

●負荷

上記のことから大容量のデータを保存するなど、システムに負荷が掛かった場合に bit 数が多い方が負荷に有利であることが判ります。OS のフリーズ、アプリケーションの強制終了、保存されたはずのデータの破損などのリスクが軽減されます。

●ファイルを開く速度、保存する速度

ファイルを開く時の速度、保存する時の速度は、ハードディスクの動作状態の影響を大きく受けます。時間が掛かる場合の多くの原因は、ハードディスクの機構部分が動いているために取られる時間なのです。記憶装置であるハードディスクはその名の通り、磁気記憶媒体が塗布されている円盤が高速で回転し、磁気ヘッドでデータの書き込み、読み出しを行っています。この部分はメカですから、半導体の記憶装置と比較すれば遙かに動作時間が掛かります。特にハードディスクのヘッドがデータを探して移動している間は全くムダな時間です。

この現象は bit 数には無関係の現象です。32bit であっても、64bit であっても、書き込み、もしくは読み出し時間があまり変わらないのはこのためです。

●経済性

車線の多い道路を作ることは建設費がかさみます。最高速度の速い車を手に入れることもお金が掛かります。しかし、コンピュータの世界では、処理能力は年々上がり、そのコンピュータの価格は年々下がっています。これは有り難いことですね。

● OS の bit 数の見分け方

コチラ　http://abm.asukabook.com/jp/news/check_os.html　をご覧ください。

●過去の動向

Macintosh では、2009 年に発表されたモデルに搭載された CPU「Intel Core 2 Duo」より 64bit になり、macOS では同年 8 月に販売を開始した「Snow Leopard」（Mac OS X 10.6）より 64bit になりました。

Windows では、2003 年に「Windows XP」を基に開発された「Version 2003」が 64bit でしたが、サーバー用の OS であったこともあり普及はしませんでした。2007 年 1 月に発売された「Windows Vista」にも 64bit 版がありましたが、これも普及しませんでした。現在稼働している「Vista」はほとんどが 32bit 版のようです。これは同時期に 64bitCPU が普及していなかったことが関係しています。

intel 社が発売した 64bitCPU には 2004 年に「Xeon」がありますが、一般的には普及が始まった CPU は「Core 2」（2006 年 7 月）からと言えます。

「Windows 7」では発売当初は 32bit 版が人気であったようですが、パソコンメーカーが OEM として 64bit 版を付属したため、2013 年現在では 64bit 版が普及しています。

●現状（2013 年 9 月現在）

macOS では、「Snow Leopard」（Mac OS X 10.6）より 64bit になりました。

「Windows 8」においてもパソコン購入の際にあえて「32bitf 版」を選択しない限り、「64bit 版」になっているようです。

2.6-5-2.　64bit 版と 32bit 版では、ABM の操作方法に違いはあるか？

操作方法に違いはありません。 メニューの配列にも違いはありません。

見かけは変わりませんので、バージョン番号で区別をします。

2.6-5-3.　64bit 版と 32bit 版では、ブックファイルには互換性はあるか?

32bit 版の ABM で作成されたブックファイルは、64bit 版の ABM で開くことはできます。逆に、64bit 版の ABM で作成されたブックファイルも、32bit 版の ABM で開くことはできます。

ただし、OS の違いやバージョンによっては開くことができない場合があります。64bit 版と 32bit 版では「テキストレンダリングエンジン」が異なるため、文字の位置やサイズなどが異なってしまう場合があります。

※上記理由から 32bit 版で作成したブックファイルを 64bit で開くこと及びその逆も推奨しておりません。

※ macOS の 32bit 版 で 64bit 版で作成されたブックファイルを開くことはできません。

2.6-5-4.　64bit 版の ABM を 32bit 版の OS にインストールできるか?

64bit 版の ABM を 32bit 版の OS にインストールすることはできません。

なお、ABM は OS の bit 数を自動判別していますので、64bit 版 OS に 32bit 版 ABM をご利用の際には 64bit 版 ABM に移行して頂くようなメッセージが表示されます。

2.6-5-5.　ABM2 の開発の方向性について

macOS については現在 64bit 版しか発売されていないため、現状は 64bit のみの開発となっています。

2.5.　バージョン 2.5 で追加された機能

バージョン 2.5 は、2012 年 9 月 4 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.5 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.3 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

（ABM バージョン 2.4 は開発の都合上、飛び番となりました。）

2.5-1.　オートレイアウト

ABM2.5 より新機能として「オートレイアウト」を装備しました。

「オートレイアウト」とは、レイアウトに使用する写真素材を ASUKABOOK の各ページに自動的にレイアウトする機能です。

例えば、次のような使い方ができます。

- 1 ページに 1 枚の写真をページの中央部分に自動でレイアウトする。
- オートレイアウト機能に自分で作ったテンプレートを登録し、自動でレイアウトを行う。
- オートレイアウト機能を使いながらも、一部のページのレイアウトを変更する。

詳しくは、本書の「26.　オートレイアウト」26-1 ページをご覧ください。

2.5-2.　スマートガイド

ABM2.5 では、新機能として「スマートガイド」を装備しました。

スマートガイドとは、オブジェクト（画像、図形、文字）をマウスにより操作する時に、一時的に表示されるガイドで、他のオブジェクトとの相対関係でオブジェクトの隅、および中心から引き出されるガイドラインです。このスマートガイドを使うことにより、新たにガイドラインを引くことなく、オブジェクト同士を容易に整列させることができます。

詳しくは、本書の「27.　スマートガイド」27-1 ページをご覧ください。

2.5-3.　「表示移動」ツールにショートカットキーを追加

「ツールバー」に装備されている「表示移動」ツールは、編集パレットで拡大表示をしている時に、見えている範囲を移動させるためのツールです。

今までのバージョンでは「表示移動」ツールに相当するショートカットキーが無かったため、これを設けました。

ショートカットキーとして　「Shift」キー＋「H」キー　を押すと、マウスポインタが「手のひら」の形になり、「表示移動」ツールになります。

2.5-4.　オブジェクトの吸着を一時的に無視する機能を追加

オブジェクトをマウスで掴んでドラッグする際、

MacOSの場合　「option」キー

Windowsの場合　「Alt」キー

を押していると、スマードガイド機能が一時的に無効になり、吸着を無視することができます。
キーを離すと再び吸着されるようになります。

本書の 4-34 ページの「④ -1.　吸着を一時的に無視する方法」、4-34 ページの「④ -1.　吸着を一時的に無視する方法」も併せてご覧ください。

2.5-5.　ボックス内の画像を拡大縮小する機能にショートカットキーを追加

フレーム、もしくはボックスの大きさを変えずに、内部の画像のみを拡大縮小することは、今までのバージョンでは「画像コントローラー」を使ってマウスドラッグで行う方法のみでした。
この機能に、マウスを使わず、ショートカットキーのみで拡大縮小が行えるようにしました。

詳しくは、本書の「4-8.　ボックス内部の画像の拡大・縮小」4-23 ページをご覧ください。

2.5-6.　右クリックにコピー＆ペーストを追加

例えば、ABM 以外のアプリケーションソフトウェアからテキスト（文字）をコピーし、ABM に文字として入力する際は、キーボードのショートカットキー（「Ctrl」キー＋「V」キー）による方法しかありませんでした。
このため、文字入力時にマウスの右クリックによるサブメニューにコピー＆ペーストの機能を設けました。

2.5-7.　ボックスの種類を追加

ABM2.5 では、編集時のボックスの種類を全シリーズ併せて 153 パターンを追加しました。

2.3.　バージョン 2.3 で追加された機能

バージョン 2.3 は、2012 年 4 月 2 日にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.3 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.2 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.3-1.　レイアウト確認システム

ABM2.3 では、新機能として「レイアウト確認システム」に接続できるようになりました。

このシステムは、ABM2.3 を用いて作成したレイアウトをインターネットを使って関係者だけに公開し、校正や確認を求めることができるものです。

例えば、次のような使い方ができます。

●写真集制作者が、写真集の依頼者に対して、レイアウトの校正や、承認を求める場合。
●写真集制作者が、社外のデザイナーとレイアウト確認や校正を行う場合。

詳しくは、本書の「25.　レイアウト確認システム」25-1 ページをご覧ください。

2.3-2.　ドラッグによるオブジェクトの選択とグループ化機能

ABM2.3 では、ご要望の多かった「ドラッグによるオブジェクトの選択方法」と「グループ化」機能を実装しました。

「ドラッグによるオブジェクトの選択方法」の詳細については、本書の 4-6 ページの「4-3.　オブジェクトの選択方法」4-6 ページの「4-3.　オブジェクトの選択方法」をご覧ください。

「グループ化」の詳細については、本書の「4-13-1.　グループ化」4-35 ページをご覧ください。

●オブジェクトとは、画像、図形、文字の 3 種類を示します。
ABM2.3 では、この 3 種類を取り混ぜてドラッグすることにより、選択することができます。

●グループ化されたオブジェクトは、そのグループを一体として移動できるようになる他、画像加工による効果などもまとめて施すことができます。

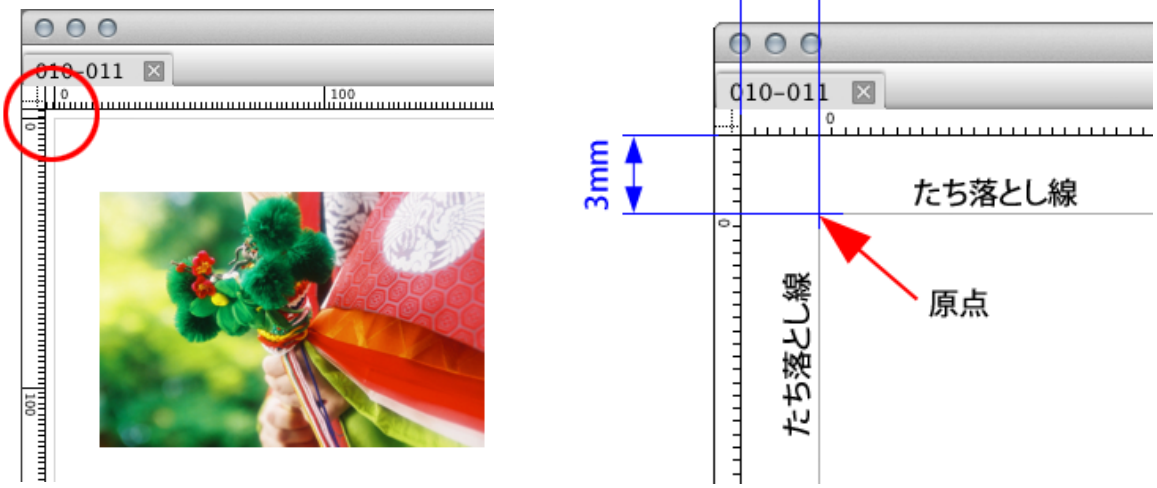
2.3-3.　レイアウト領域の原点位置の変更

ABM2.3 では、レイアウト領域の原点位置を変更しました。

従来（ABM2.2）までは、原点の初期設定をレイアウト領域の左上端に設定していました。ABM2.3 からは、本文ページについてはレイアウト領域の左上端より、右方向へ 3mm、下方向へ 3mm の交点を原点としました。

これは、ちょうど「たち落とし線」の交点に相当します。

(次頁の図を参照のこと)



27-1 ページ（前ページ）の解説は、本文ページ（開始ページ、見開きページ、最終ページ）の場合です。

表紙ページ、およびケースについても「たち落とし線」の交点を原点に設定しています。ただし、寸法についてはそれぞれのブックの構造により異なります。

2.3-4.　ファイル名の拡張子を表示

ABM2.3 では、画像表示ウインドウのファイル名について、拡張子を表示できるようにしました。

詳しくは、本書の 3-9 ページの「⑤ 環境設定／表示」・3-9 ページの「⑤ 環境設定／表示」をご覧ください。

2.3-5.　ルーラーの目盛り表示の変更

ABM2.3 では、ルーラーの目盛り表示を細かくしました。

●目盛りの間隔は、編集パレットの拡大率に応じて変化します。

●目盛りの最小単位は下表のようになります。

単位系	最小単位
mm	0.5mm
inch	1/32 inch
Pixel	5 pixel
%	1/1000%

ABM2.3 での目盛り表示

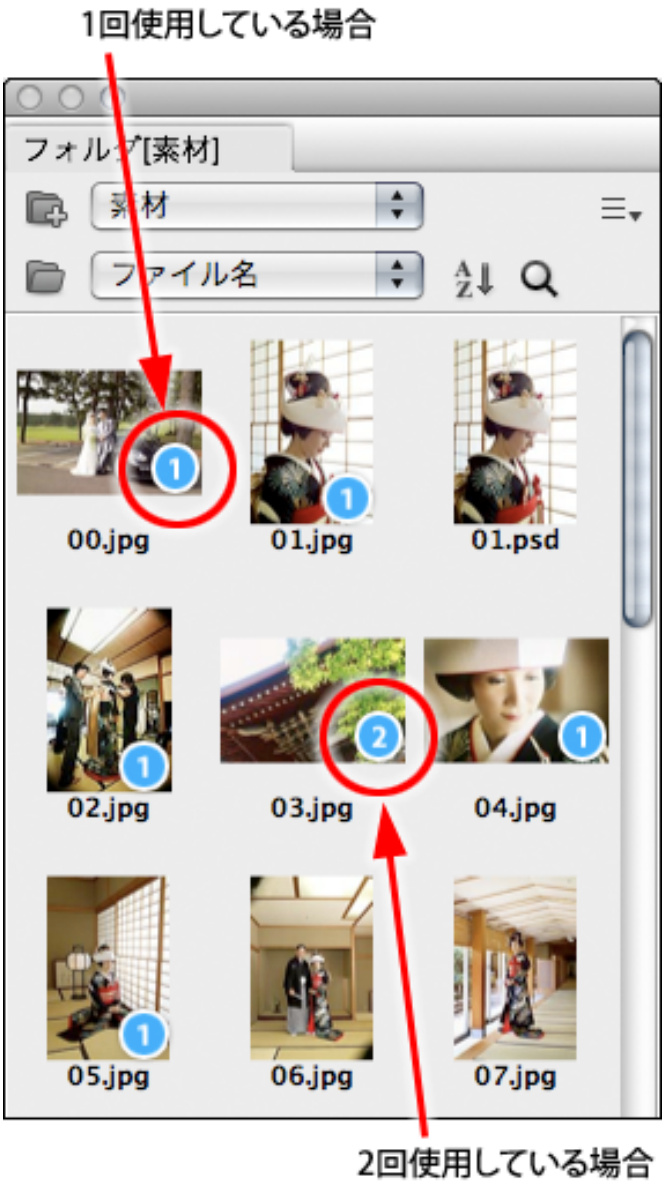
以前（ABM2.2）までの目盛り表示

2.3-6.　画像表示ウインドウの「利用済マーク」の変更

「画像表示ウインドウ」内に表示される「利用済マーク」を変更しました。

●どこかのページでレイアウトに使用している画像は、画像のサムネールの右下に青い丸印が表示されます。

●丸印の中の数字は、使用している回数を示します。



2.3-7.　画像の縦横比を元に戻す機能

トリミング作業を行っている途中で、画像を元に戻したい（トリミングをしていない状態）場合があります。 こんな時に便利なトリミング解除機能を用意しました。

選択した画像のボックスが固定されている場合と、固定されていない場合で動作が異なります。

詳しくは、本書の「21-11.　画像を元の縦横比に戻す」21-4 ページをご覧ください。

2.3-8.　画像のトリミングされている部分を半透明表示する機能

ABM2.3 では、画像を選択した時に、トリミングされている部分を半透明に表示できるようにしました。

これにより、画像全体に対してどのくらいのトリミングを行っているのかが、判りやすくなりました。

詳しくは、本書の 3-9 ページの「⑤ -2.　トリミングエリア表示」•3-9 ページの「⑤ -2.　トリミングエリア表示」をご覧ください。

2.3-9.　ページレイアウトの反転機能

すでに配置が済んだページのレイアウトを、上下方向に反転、もしくは左右方向に反転できるようにしました。

詳しくは、本書の「21-27.　上下にレイアウトを反転」21-11 ページ、および「21-27.　上下にレイアウトを反転」21-11 ページをご覧ください。

2.3-10.　ボックス固定の解除に対するオプション

初期設定では、ページにボックスを配置すると、そのボックスが不用意に移動しないように「ボックスを固定」しています。

ここにチェックを入れると、ボックスを配置した時点で「ボックス固定」を行わないように動作します。

詳しくは、本書の 3-6 ページの「④ -2.　ボックス配置時にボックスの固定をしない」3-6 ページの「④ -2.　ボックス配置時にボックスの固定をしない」をご覧ください。

2.3-11.　ズームボタンの表示方法を変更

ABM2.3 では、表示拡大縮小についてアイコンの表示方法を変更しました。

また、マウスでドラッグした部分の拡大ができるようになりました。

詳しくは、本書の 15-4 ページの「15-1-11.　拡大縮小」15-4 ページの「15-1-11.　拡大縮小」をご覧ください。

2.3-12.　画像の拡大縮小「警告マーク」について、警告拡大率を変更

ABM2.3 では、画像の拡大率がある範囲を超えた場合に表示される「警告マーク」の条件を、拡大率が「9%」以下になった場合、および「200%」以上になった場合に変更しました。

- 「警告マーク」は、画像の左上に表示されます。
- 「警告マーク」は、印刷されません。

詳しくは、本書の「4-5-3.　画像拡大縮小時の「警告マーク」について」4-16 ページをご覧ください。

2.3-13.　ドロップシャドウの改善

ABM2.3 では、ドロップシャドウの表現方法を改善しました。

オブジェクトに画像加工から「透明度」の処理を施した後、「ドロップシャドウ」を適用しても、透過部分の背景に影が見えないようにしました。

旧バージョンでのドロップシャドウ

バージョン 2.3 でのドロップシャドウ

2.2.　バージョン 2.2 で追加された機能

バージョン 2.2 は、2011 年 11 月にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.2 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.1 以下では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.2-1.　オーガナイザー

ABM2.2 で追加された機能における一番の特徴は、「オーガナイザー」機能です。

オーガナイザーとは、写真集制作にあたって事前にセレクトした写真を、あらかじめ各ページに割り振っておく機能です。

この機能により、レイアウト作業の時には各ページに割り振られた写真のみが表示されるようになります。

これにより、画像表示ウインドウの数多い写真の中から、目的とする写真を選び出す手間が省けるようになります。

詳しくは、本書の「12.　オーガナイザー（& オートレイアウト）」12-1 ページをご覧ください。

2.2-2.　Adober Photoshop® 形式画像の簡易読み込み機能

ABM2.2 では、Adober Photoshop® の保存形式である PSD 形式ファイルを利用できるようになりました。

ただし、PSD 形式は Adober Photoshop® のバージョンによっても仕様が異なり、数多くの機能が含まれているため、その全ての機能を利用できる訳ではありません。

ご利用になる前に、下記の注意事項をお読みになり、使用したい PSD 形式ファイルが正常に注文用 PDF ファイルに反映されることをご確認頂くよう、お願いいたします。

詳しくは、本書の「18-7.　PSD 形式ファイル（Adobe® Photoshop® 形式画像）の簡易読み込み機能」18-5 ページをご覧ください。

2.2-3.　3 種の保存ファイル形式に対応

ABM2.2 では、お客様が作業環境に応じて ABM ファイルの保存形式を選択できるようになりました。

これにより、レイアウト作業に使用するコンピュータの能力、他のアプリケーションソフトウェアとの親和性、ABM ファイル作成後の画像データ編集の容易性、ファイル管理・保存などの問題に柔軟に対応できるようになります。

詳しくは、本書の「① 4 種の保存ファイル形式に対応」2-43 ページをご覧ください。

2.2-4.　ヘッダーでの計算式入力

オブジェクト（写真、図形、文字列）を選択するとそのオブジェクトの位置、大きさ、回転角度、拡大率などがヘッダーに表示されます。ABM2.2 よりこの数値を変更する時に計算式が使えるようになりました。

例えば、「3.5 ミリ右側に移動したい」場合は、「＝＋ 3.5」と入力することができます。

詳しくは、本書の「3-3-4.　ヘッダーでの計算式入力」3-37 ページをご覧ください。

2.2-5.　縦横比固定機能

ヘッダーに「縦横比固定ボタン」を追加しました。写真画像、および図形を選択した時に、表示枠部分の縦横比を固定することができます。

詳しくは、本書の「3-3-5.　オブジェクトの縦横比の固定」3-38 ページをご覧ください。

2.2-5.　整列ツールバー／オブジェクト間隔の調整

整列ツールバーに、写真や図形などのオブジェクトの間隔を調整する機能を追加しました。
この機能は選択した複数のオブジェクト（写真、図形、文字）に対して機能します。

詳しくは、本書の 15-6 ページの「15-2.　整列ツールバー」をご覧ください。

2.2-6.　画像の拡大縮小時の「警告マーク」表示

ABM2.2 では、各ページにレイアウトした画像について拡大しすぎ、縮小しすぎの場合に「警告マーク」を表示するようにしました。

- 「警告マーク」が表示されるのは、拡大率が「49%」以下になった場合、および「151%」以上になった場合です。
- 「警告マーク」は、画像の左上に表示されます。
- 「警告マーク」は、印刷されません。

詳しくは、本書の「4-5-3.　画像拡大縮小時の「警告マーク」について」4-16 ページをご覧ください。

2.2-7.　テンプレート保存機能

ABM2.2 で作成したブックデータは、そのままでもテンプレートになるように作られています。ですから、写真を入れ替えれば、同じレイアウトでありながら別の写真集を作ることができます。

「テンプレート保存」という機能は、画像に特定の文字を入れる機能です。この文字を入れることにより、テンプレートブックファイルの中のどの写真を入れ替えたのか、もしくは入れ替えていないのかが、一目瞭然になります。
（右図の例では「サンプル」という文字が写真画像に入っています。）

- テンプレート保存では、元のブックファイルのコピーを作り、コピーした画像データに「サンプル」という文字をラスタライズデータとして記入します。
- テンプレート保存されたブックファイルは、拡張子が「.ab2template」となった別ファイルになります。
- 「サンプル」という語句は、他の語句に書き換えて入力することができます。

詳しくは、本書の「2-7.　テンプレート保存の方法」2-21 ページをご覧ください。

2.1.　バージョン 2.1 で追加された機能

バージョン 2.1 は、2011 年 5 月にリリースいたしました。

ご注意

バージョン 2.1 により作成されたブックファイル、もしくは再保存されたブックファイルは、ブックファイルの構造が異なるため、バージョン 2.0 では開くことができません。上位互換となりますので、ご注意ください。

2.1-1.　確認用 JPEG 画像の出力

ABM バージョン 2.1 以降、レイアウト編集結果を視覚的に確認するために、「確認用 JPEG 画像」を出力できるようになりました。ページを個別に出力する方法と、全ページをまとめて出力する方法があります。

詳しくは、本書の「6-8.　エクスポート／確認用 JPEG を出力」6-9 ページご覧ください。

2.1-2　整列機能

写真の位置や大きさなどを揃えてレイアウトするのに便利な「整列機能」を追加しました。
この機能は選択した複数のオブジェクト（写真、図形、文字）に対して機能します。

ABM バージョン 2.1 以降は、起動すると整列機能専用のツールバーが表示されます。
整列機能には下記のような機能があります。

- ●横方向の整列
- ●縦方向の整列
- ●サイズ合わせ

詳しくは、本書の「15-2.　整列ツールバー」15-6 ページをご覧ください。

2.1-3.　トリミング機能

マウス操作によるトリミングができるようになりました。
ABM2 では、画像の縁や四隅の部分（バウンディングボックス）をマウスで摘んでドラッグすると、写真の大きさを変えることができます。このとき、画像の大きさに応じて拡大率が自動的に調整されます。　しかし、拡大率を変えずに写真の大きさだけを変更したい場合もあります（このような変更を「トリミング」といいます）。
ABM バージョン 2.1 以降は、バウンディングボックスをマウスでドラッグする際にショートカットキーを併用することにより、トリミングができるようになりました。

詳しくは、本書の「4-11.　画像のトリミング方法」4-27 ページをご覧ください。

2.1-4.　ロック機能　（位置固定）

ABM バージョン 2.1 以降は、オブシェクト（写真画像、図形、文字）をロック（位置固定）できるようになりました。
ロックされたオブジェクトは、画像の変更、位置の移動、順序の変更、削除などの操作が一切できなくなります。
背景に写真を用いたり、画像を重ね合わせるなどの複雑な作り込みを行う際に 、位置決めしたオブジェクトを動かしたくない場合があります。このようなときにはオブジェクトをロックしておくと便利です。

詳しくは、本書の「21-6.　位置を固定」21-2 ページをご覧ください。

2.1-5.　キーボードによるオブジェクト移動量の変更

ABM バージョン 2.1 以降は、キーボードの矢印キーを使った操作によるオブジェクトの移動量を変更しました。
矢印キーだけの操作では 1 回に 0.5mm、「Shift」キー＋矢印キーでは 1 回に 5mm 移動します。

詳しくは、本書の 4-8 ページの「4-4.　画像を移動する」、4-8 ページの「4-4-2.　ショートカットキーによる画像の移動」をご覧ください。

2.1-6.　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動

ABM バージョン 2.1 以降は、画像コントローラを使った写真画像の移動の際、「Shift」キーを併用することにより、画像の移動方向を水平、もしくは垂直方向に制限することができます。また、回転については、同じく「Shift」キーを併用することにより、15 度ごとに回転させることができます。

詳しくは、本書の「4-10.　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動」4-26 ページをご覧ください。

2.1-7.　ボックス保存機能に「お気に入り」を追加

ABM2 の特徴でもあるボックス機能。ユーザーが独自に作成したボックスレイアウトをすぐに保存することができます。
しかし、保存数が多すぎると探しにくくなってしまいます。そこで「お気に入り」を設けました。

詳しくは、本書の 7-11 ページの「7-7.　お気に入りに追加する」をご覧ください。

2.1-8.　オブジェクトの拡大率を数値で入力する方法

ABM バージョン 2.1 以降は、写真画像を拡大率の数値入力により、拡大縮小できるようになりました。

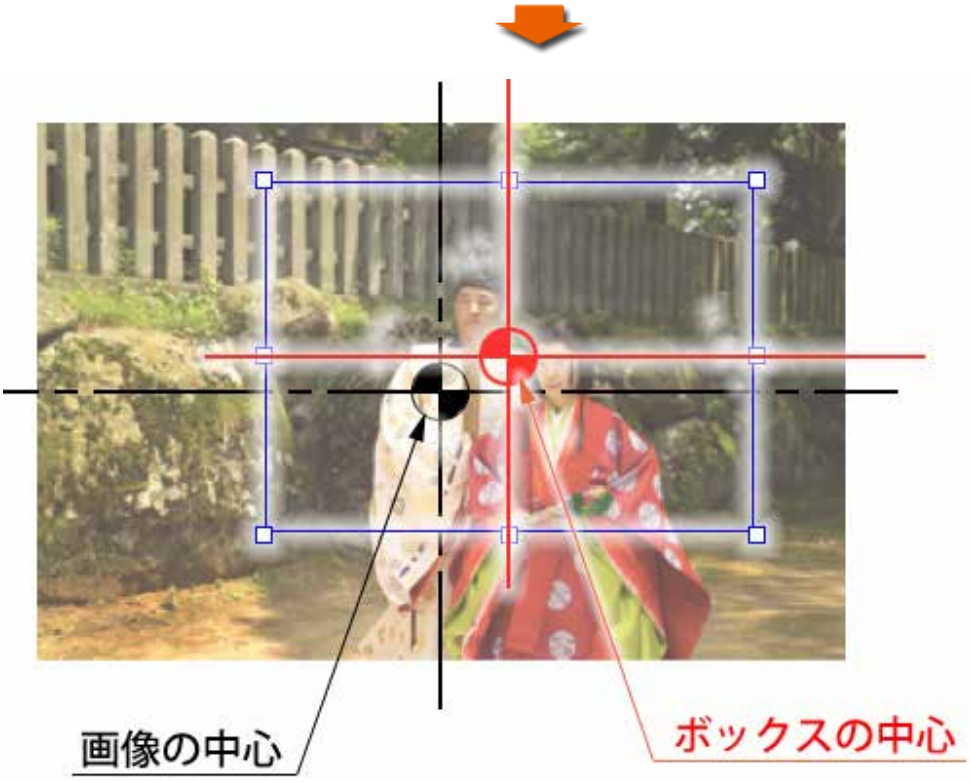
詳しくは、本書の 4-11 ページの「4-5.　画像を拡大・縮小する」、4-11 ページの「4-5.　画像を拡大・縮小する」をご覧ください。

2.1-9.　画像拡大縮小時の中心位置の変更

ABM バージョン 2.1 以降は、写真画像を拡大縮小・回転する際の中心が、ボックスの中心（トリミング範囲の中心）になるように変更しました。

ABM バージョン 2.1 以降は、画像を拡大縮小・回転する際の中心は、ボックスの中心になりました。

（ABM2.0 では、拡大縮小・回転する際の中心は画像の中心でした。）



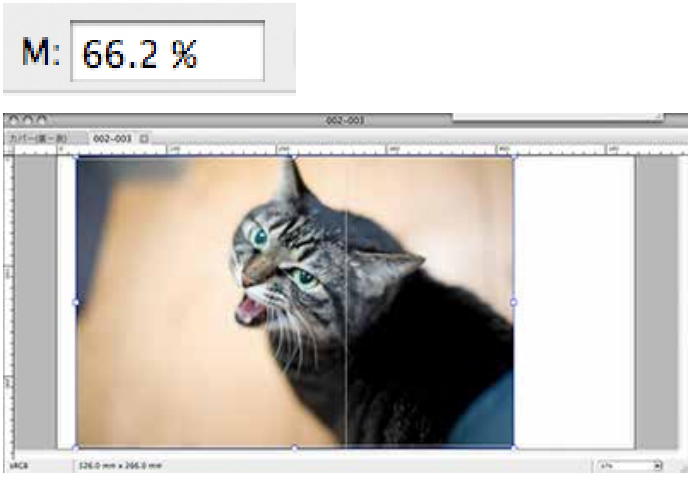
2.1-10.　画素数の大きな画像における自動サイズ調整機能

ABM バージョン 2.1 以降では、ブックサイズよりはみ出るような画素数の大きな画像を扱う場合、ページ寸法内に収まるように自動サイズ調整機能が働きます。

例　題

右図の写真画像の元データは「寸法 604mm × 401.9mm、解像度 281dpi」（6444 × 4288 pixel）あります。

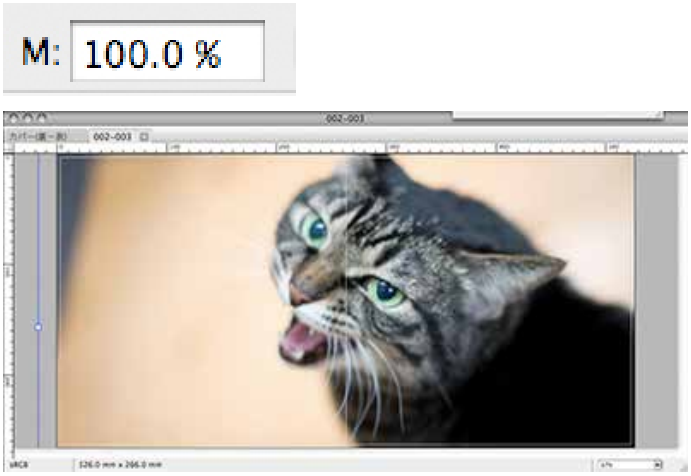
これをブックサイズ「A3Q」の見開きページに貼付すると、A3Q の高さ寸法（266mm）にジャストフィットするように自動調整機能が働きます。
結果として、右図のようになり、拡大率は 66.2% になります。



アドバイス！

自動サイズ調整機能はオフにすることができます。
メニューの「ドキュメント」から「画像サイズを自動調整して配置」をクリックしてチェックを外してください。
（ABM2 の初期設定はオンになっています）

自動サイズ調整機能をオフにした場合、貼付された画像はサイズ調整されないため、拡大率 100% で貼付されます。



29.　ブックサイズごとの寸法とピクセル数 (本文)

ASUKABOOK のサイズごとの各ページ画素数をまとめました。
レイアウトに使用する画像の画素数が、ページの縦横のピクセル数に近ければ、拡大率（もしくは縮小率）は 100% に近くなりますので、参考にしてください。

- 下表は、「オンデマウント」シリーズをのぞき**本文ページのみ**（解像度 = 271dpi　「Briliart」及び「MetalGtaph」は 300dpi）です。表紙ページ、ケースは含まれていません。
- 「仕上がり寸法」とは、各ページを裁ち落としをした状態の寸法です。

商品・シリーズ	参照ページ	備考
正方形シリーズ	29-2	
縦長シリーズ	29-2	
横長シリーズ	29-3	
Briliart(ブリリアート)	29-3	
Petit(プチ) シリーズ	29-4	
えほん BOOK	29-4	
SHIRONARI シリーズ	29-4	
KINARI シリーズ	29-5	
MetalGraph	29-5	
オンデマウント	29-6、29-7	
オンデマウント SHIRONARI / KINARI	29-8、29-9	
オンデマウント SIMPLE	29-10	
オンデマウント S-Plus	29-10	
オンデパネル	29-11	
オンデパネル SHIRONARI / KINARI	29-12	
Pasta(パスタ)	29-13	
ギャラリー BOX	29-13	

正方形シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
30Q	開始ページ 終了ページ	299 × 299 mm	3190 × 3190	10,176,100 （約 1,018 万画素）
	見開きページ	598 × 299 mm	6380 × 3190	20,352,200 （約 2,036 万画素）
A3Q	開始ページ 終了ページ	260 × 260 mm	2774 × 2774	7,695,076 （約 770 万画素）
	見開きページ	520 × 260 mm	5548 × 2774	15,390,152 （約 1,540 万画素）
A4Q	開始ページ 終了ページ	210 × 210 mm	2214 × 2214	4,901,796 （約 490 万画素）
	見開きページ	420 × 210 mm	4428 × 2214	9,803,592 （約 980 万画素）
B5Q	開始ページ 終了ページ	180 × 180 mm	1920 × 1920	3,686,400 （約 369 万画素）
	見開きページ	360 × 180 mm	3840 × 1920	7,372,800 （約 737 万画素）
CD	開始ページ 終了ページ	124 × 124 mm	1323 × 1323	1,750,329 （約 175 万画素）
	見開きページ	248 × 124 mm	2646 × 1323	3,500,658 （約 350 万画素）
※「Briliart」、「Pasta」、「オンデマウント」シリーズ、「オンデパネル」シリーズは、サイズと解像度が異なります。それぞれのサイス表をご参照ください。				

縦長シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
A4	開始ページ 終了ページ	204 × 291 mm	2177 × 3105	6,759,585 （約 676 万画素）
	見開きページ	408 × 291 mm	4354 × 3105	13,519,170 （約 1,352 万画素）
A4S	開始ページ 終了ページ	180 × 257 mm	1920 × 2742	5,264,640 （約 527 万画素）
	見開きページ	360 × 257 mm	3840 × 2742	10,529,280 （約 1,053 万画素）
A5	開始ページ 終了ページ	142 × 204 mm	1515 × 2177	3,298,155 （約 330 万画素）
	見開きページ	284 × 204 mm	3030 × 2177	6,596,310 （約 660 万画素）
ボード A3V	開始ページ 終了ページ	260 × 366 mm	2774 × 3905	10,832,470 （約 1,084 万画素）
	見開きページ	520 × 366 mm	5548 × 3905	21,664,940 （約 21,670 万画素）
ART EX・ART EXD A3T	開始ページ 終了ページ	274 × 304 mm	2923 × 3243	9,479,289 （約 950 万画素）
	見開きページ	548 × 304 mm	5847 × 3243	18,961,821 （約 1,900 万画素）
ハードカバー A5T	開始ページ 終了ページ	142 × 158 mm	1515 × 1686	2,554,250 （約 256 万画素）
	見開きページ	284 × 158 mm	3030 × 1686	5,108,580 （約 511 万画素）

横長シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
B4W	開始ページ 終了ページ	395 × 248 mm	4001 × 2646	10,586,646 （約 1,060 万画素）
	見開きページ	750 × 248 mm	8002 × 2646	21,173,292 （約 2,120 万画素）
A4W	開始ページ 終了ページ	291 × 204 mm	3104 × 2176	6,754,304 （約 675 万画素）
	見開きページ	582 × 204 mm	6210 × 2176	13,512,960 （約 1,351 万画素）
A4SW	開始ページ 終了ページ	257 × 180 mm	2742 × 1920	5,264,640 （約 527 万画素）
	見開きページ	514 × 180 mm	5484 × 1920	10,529,280 （約 1,053 万画素）
A5W	開始ページ 終了ページ	204 × 142 mm	2177 × 1515	3,298,155 （約 330 万画素）
	見開きページ	408 × 142 mm	4354 × 1515	6,596,310 （約 660 万画素）
B6W	開始ページ 終了ページ	187 × 124 mm	1995 × 1323	2,639,385 （約 264 万画素）
	見開きページ	394 × 124 mm	3990 × 1323	5,278,770 （約 528 万画素）

Briliart(ブリリアート)	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
Briliart 30Q	開始ページ 終了ページ	294.5 × 296.5 mm	3478 × 3502	12.179,960 （約 1,217 万画素）
	見開きページ	589 × 296.5 mm	6957 × 3592	24,363,410 （約 2,436 万画素）
Briliart A3Q	開始ページ 終了ページ	261.5 × 263.5 mm	3088 × 3112	9,609,860 （約 960 万画素）
	見開きページ	523 × 263.5 mm	6177 × 3112	19,222,824 （約 1,922 万画素）
Briliart A4Q	開始ページ 終了ページ	211.5 × 213.5 mm	2498 × 2522	6,299,956 （約 629 万画素）
	見開きページ	423 × 213.5 mm	4996 × 2522	12,599,912 （約 1,259 万画素）
Briliart A4	開始ページ 終了ページ	205.5 × 294.5 mm	2427 × 3478	8,441,106 （約 844 万画素）
	見開きページ	411 × 294.5 mm	4854 × 3478	16,882,212 （約 1,688 万画素）
Briliart A4W	開始ページ 終了ページ	292.5 × 207.5 mm	3454 × 2451	8,465,754 （約 846 万画素）
	見開きページ	585 × 207.5 mm	6909 × 2451	16,933,959 （約 1,693 万画素）

※ Briliart の解像度は、全て 300dpi です。

Petit(プチ) シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
23H	開始ページ 終了ページ	174 × 224 mm	1856 × 2389	4,433,984 （約 440 万画素）
	見開きページ	375 × 224 mm	3712 × 2389	8,867,968 （約 886 万画素）

えほん BOOK	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
えほん BOOK A4Q	見開きページ	420 × 210 mm	4428 × 2214	9,803,592 （約 980 万画素）
えほん BOOK B5Q	見開きページ	360 × 180 mm	3840 × 1920	7,372,800 （約 737 万画素）
えほん BOOK A4QT	見開きページ	334 × 216 mm	3564 × 2305	8,215,020 （約 830 万画素）
えほん BOOK A4QW	見開きページ	429 × 168.5 mm	4577 × 1798	8,229,446 （約 830 万画素）

SHIRONARI シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
SHIRONARI A4C	表紙ページ 開始ページ 終了ページ （解像度 271dpi）	212 × 275 mm	2262 × 2934	6,636,708 （約 660 万画素）
	見開きページ （解像度 271dpi）	424 × 275 mm	4523 × 2934	13,270,482 （約 1,320 万画素）
SHIRONARI プレミアム A4Y	開始ページ 終了ページ	226 × 291 mm	2411 × 3105	7,486,155 （約 750 万画素）
	見開きページ	452 × 291 mm	4723 × 3105	14,664,915 （約 1,470 万画素）
SHIRONARI プレミアム A5Y	開始ページ 終了ページ	142 × 183.5 mm	1515 × 1958	2,966,390 （約 300 万画素）
	見開きページ	284 × 183.5 mm	3030 × 1958	5,932,740 （約 600 万画素）
SHIRONARI プレミアム A4YW	開始ページ 終了ページ	291 × 226 mm	3105 × 2411	7,486,155 （約 750 万画素）
	見開きページ	582 × 226 mm	6210 × 2411	14,972,310 （約 1,500 万画素）
SHIRONARI プレミアム A5YW	開始ページ 終了ページ	183.5 × 142 mm	1958 × 1515	2,866,390 （約 290 万画素）
	見開きページ	367 × 142 mm	3916 × 1515	5,932,740 （約 600 万画素）

KINARI シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
KINARI ソフトカバー A4 変形	開始ページ 終了ページ	200 × 240 mm	2134 × 2561	5,468,174 （約 550 万画素）
	見開きページ	400 × 240 mm	4268 × 2561	10,930,348 （約 1,093 万画素）
KINARI ハードカバー A4W	開始ページ 終了ページ	291 × 204 mm	3104 × 2176	6,754,304 （約 675 万画素）
	見開きページ	582 × 204 mm	6210 × 2176	13,512,960 （約 1,351 万画素）
KINARI プレミアム A4Y	開始ページ 終了ページ	226 × 291 mm	2411 × 3105	7,486,155 （約 750 万画素）
	見開きページ	452 × 291 mm	4723 × 3105	14,664,915 （約 1,470 万画素）
KINARI プレミアム A5Y	開始ページ 終了ページ	142 × 183.5 mm	1515 × 1958	2,966,390 （約 300 万画素）
	見開きページ	284 × 183.5 mm	3030 × 1958	5,932,740 （約 600 万画素）
KINARI プレミアム A4YW	開始ページ 終了ページ	291 × 226 mm	3105 × 2411	7,486,155 （約 750 万画素）
	見開きページ	582 × 226 mm	6210 × 2411	14,972,310 （約 1,500 万画素）
KINARI プレミアム A5YW	開始ページ 終了ページ	183.5 × 142 mm	1958 × 1515	2,866,390 （約 290 万画素）
	見開きページ	367 × 142 mm	3916 × 1515	5,932,740 （約 600 万画素）

Metar\lGraph	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
MetalGraoh 25T	解像度 300 dpi	203 × 254 mm	2401 × 3001	7,205,401 （約 720 万画素）
MetalGraoh 35T	解像度 300 dpi	279.5 × 356 mm	3301 × 4291	13,867,501 （約 1,386 万画素）
MetalGraoh 50T	解像度 300 dpi	406.5 × 508 mm	4801 × 6001	28,810,801 （約 2,881 万画素）
MetalGraoh 25W	解像度 300 dpi	254 × 203 mm	3001 × 2401	7,205,401 （約 720 万画素）
MetalGraoh 35W	解像度 300 dpi	356 × 279.5 mm	4201 × 3301	13,867,501 （約 1,386 万画素）
MetalGraoh 50W	解像度 300 dpi	508 × 406.5 mm	6001 × 4801	28,810,801 （約 2,881 万画素）

オンデマウントシリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデマウント 30Q 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	618 × 305 mm	6326 × 3122	19,749,772 （約 1,980 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	598 × 299 mm	6380 × 3190	20,352,200 （約 2,040 万画素）
オンデマウント 30Q 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	927 × 305 mm	9489 × 3122	29,624,658 （約 2,970 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	902 × 299 mm	9624 × 3200	30,796,800 （約 3,080 万画素）
オンデマウント A3Q 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	540 × 266 mm	5527 × 2723	15,050,021 （約 1,500 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	520 × 260 mm	5548 × 2774	15,390,152 （約 1,550 万画素）
オンデマウント A3Q 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	810 × 266 mm	8291 × 2723	22,576,393 （約 2,260 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	785 × 260 mm	8396 × 2774	23,235,024 （約 2,330 万画素）
オンデマウント A4Q 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	440 × 216 mm	4504 × 2211	9,958,344 （約 1,000 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	420 × 210 mm	4481 × 2241	10,041,921 （約 1,005 万画素）
オンデマウント A4Q 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	660 × 216 mm	6756 × 2211	14,939,516 （約 1,500 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	632 × 210 mm	6743 × 2241	15,111,063 （約 1,520 万画素）
オンデマウント B5Q 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	380 × 186 mm	3890 × 1904	7,406,560 （約 750 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	360 × 180 mm	3841 × 1920	7,394,720 （約 740 万画素）
オンデマウント B5Q 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	570 × 186 mm	5835 × 1904	11,109,840 （約 1,111 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	542 × 180 mm	5783 × 1920	11,103,360 （約 1,110 万画素）
オンデマウント A4 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	428 × 297 mm	4381 × 3040	13,318,240 （約 1,340 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	408 × 291 mm	4353 × 3105	13,516,065 （約 1,350 万画素）
オンデマウント A4 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	642 × 297 mm	6571 × 3040	19,975,840 （約 2,000 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	617 × 291 mm	6583 × 3105	20,440,215 （約 2,040 万画素）
オンデマウント A5 2 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	304 × 210 mm	3112 × 2150	6,690,800 （約 670 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	284 × 204 mm	3030 × 2177	6,596,310 （約 660 万画素）
オンデマウント A5 3 面	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	456 × 210 mm	4668 × 2150	10,036,200 （約 1,000 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	428 × 204 mm	4566 × 2177	9,940,182 （約 990 万画素）

オンデマウントシリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデマウント **A3W 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	848 × 297 mm	8681 × 3041	26,398,921 （約 2,639 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	828 × 291 mm	8834 × 3104	27,420,7360 （約 2,742 万画素）
オンデマウント **A4W 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	602 × 210 mm	6162 × 2150	13.248,300 （約 1,320 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	582 × 204 mm	6210 × 2177	13,519,170 （約 1,350 万画素）
オンデマウント **A4W 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	903 × 210 mm	9243 × 2150	19,872,450 （約 2,000 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	875 × 204 mm	9336 × 2177	20,324,472 （約 2,030 万画素）
オンデマウント **A5W 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	438 × 148 mm	4381 × 1515	6,639,215 （約 664 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	408 × 142 mm	4353 × 1515	6,594,795 （約 660 万画素）
オンデマウント **A5W 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	642 × 148 mm	6572 × 1515	9,956,580 （約 1,000 万画素
	本文見開きページ 解像度 271 dp	614 × 142 mm	6551 × 1515	9,924,765 （約 993 万画素）

オンデマウント SHIRONAR I/ KINARI シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **30Q 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	618 × 305 mm	6326 × 3122	19,749,772 (約 1,980 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	598 × 299 mm	6380 × 3190	20,352,200 (約 2,040 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **30Q 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	927 × 305 mm	9489 × 3122	29,624,658 (約 2,970 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	902 × 299 mm	9624 × 3200	30,796,800 (約 3,080 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A3Q 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	540 × 266 mm	5527 × 2723	15,050,021 (約 1,500 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	520 × 260 mm	5548 × 2774	15,390,152 (約 1,550 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A3Q 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	810 × 266 mm	8291 × 2723	22,576,393 (約 2,260 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	785 × 260 mm	8396 × 2774	23,235,024 (約 2,330 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4Q 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	440 × 216 mm	4504 × 2211	9,958,344 (約 1,000 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	420 × 210 mm	4481 × 2241	10,041,921 (約 1,005 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4Q 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	660 × 216 mm	6756 × 2211	14,939,516 (約 1,500 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	632 × 210 mm	6743 × 2241	15,111,063 (約 1,520 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **B5Q 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	380 × 186 mm	3890 × 1904	7,406,560 (約 750 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	360 × 180 mm	3841 × 1920	7,394,720 (約 740 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **B5Q 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	570 × 186 mm	5835 × 1904	11,109,840 (約 1,111 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	542 × 180 mm	5783 × 1920	11,103,360 (約 1,110 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4Y 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	472 × 297 mm	4832 × 3041	14,694,112 (約 1,469 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	452 × 291 mm	4822 × 3104	14,967,488 (約 1,496 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4Y 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	708 × 297 mm	7247 × 3041	22,038,127 (約 2,203 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	683 × 291 mm	7287 × 3104	22,618,848 (約 2,261 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A5Y 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	304 × 189.5 mm	3112 × 1940	6,039,280 (約 604 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	284 × 183.5 mm	3030 × 1958	5,932,740 (約 600 万画素)
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A5Y 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	456 × 189.5 mm	4668 × 1940	9,055,920 (約 906 万画素)
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	428 × 183.5 mm	4566 × 1957	8,935,662 (約 894 万画素)

オンデマウント SHIRONAR I/ KINARI シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A3W 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	848 × 297 mm	8681 × 3041	26,398,921 （約 2,639 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	828 × 291 mm	8834 × 3104	27,420,7360 （約 2,742 万画素）
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4YW 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	602 × 232 mm	6163 × 2375	14,637,1255 （約 1,463 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	582 × 226 mm	6209 × 2411	14,969,899 （約 1,496 万画素）
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A4YW 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	903 × 232 mm	9243 × 2395	21,952,125 （約 2,200 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	878 × 226 mm	9367 × 2411	22,583,839 （約 2,260 万画素）
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A5YW 2 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	387 × 148 mm	3961 × 1515	6,000,915 （約 600 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	367 × 142 mm	3916 × 1515	5,932,740 （約 600 万画素）
オンデマウント SHIRONARI / KINARI **A5YW 3 面**	表紙見開きページ 解像度 260 dpi	580.5 × 148 mm	5943 × 1515	9,003,645 （約 900 万画素）
	本文見開きページ 解像度 271 dpi	552.5 × 142 mm	5894 × 1515	8,929,410 （約 900 万画素）

オンデマウント SIMPLE	ページの種類	仕上がり寸法	仕上がりピクセル数	ページ当たりの総画素数
オンデマウント SIMPLE 4CQ 2 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 305 × H 254 mm 縦：W 254 × H 305 mm	横：W 3254 × H 2710 縦：W 2710 × H 3254	8,818,340（約 881 万画素）
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 330 × H 330 mm 開いた時：W 665 × H 330 mm		
オンデマウント SIMPLE 4CQ 3 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 305 × H 254 mm 縦：W 254 × H 305 mm	横：W 3254 × H 2710 縦：W 2710 × H 3254	8,818,340（約 881 万画素
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 330 × H 330 mm 開いた時：W 1000 × 330 mm		
オンデマウント SIMPLE 6CQ 2 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 254 × H 203 mm 縦：W 203 × H 254 mm	横：W 2710 × H 2166 縦：W 2166 × H 2710	5,869,860（約 586 万画素）
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 280 × H 280 mm 開いた時：W 564 × H 280mm		
オンデマウント SIMPLE 6CQ 3 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 254 × H 203 mm 縦：W 203 × H 254 mm	横：W 2710 × H 2166 縦：W 2166 × H 2710	5,869,860（約 586 万画素）
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 280 × H 280 mm 開いた時：W 850 × H 280 mm		

オンデマウント S-Plus	ページの種類	仕上がり寸法	仕上がりピクセル数	ページ当たりの総画素数
オンデマウント S-Plus 6CQ 2 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 236 × H 176 mm 縦：W 176 × H 236 mm	横：W 2518 × H 1878 縦：W 1878 × H 2518	4,728,804（約 472 万画素）
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 280 × H 280 mm 開いた時：W564 × H 280 mm		
オンデマウント S-Plus 6CQ 3 面	写真のサイズ（解像度 271dpi）	横：W 236 × H 176 mm 縦：W 176 × H 236 mm	横：W 2518 × H 1878 縦：W 1878 × H 2518	4,728,804（約 472 万画素）
	台紙サイズ	折りたたみ時：W 280 × H 280 mm 開いた時：W 850 × 280 mm		

オンデパネル シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデパネル 30Q_2 面	解像度 271 dpi	598 × 299 mm	6380 × 3190	20,352,200 （約 2,040 万画素）
オンデパネル 30Q 3 面	解像度 271 dpi	902 × 299 mm	9624 × 3190	30,700,560 （約 3,070 万画素）
オンデパネル A3Q 2 面	解像度 271 dpi	520 × 260 mm	5548 × 2774	15,390,152 （約 1,550 万画素）
オンデパネル A3Q 3 面	解像度 271 dpi	785 × 260 mm	8396 × 2774	23,235,024 （約 2,330 万画素）
オンデパネル A4Q 2 面	解像度 271 dpi	420 × 210 mm	4481 × 2241	10,041,921 （約 1,005 万画素）
オンデパネル A4Q 3 面	解像度 271 dpi	632 × 210 mm	6743 × 2241	15,111,063 （約 1,520 万画素）
オンデパネル B5Q 2 面	解像度 271 dpi	360 × 180 mm	3841 × 1920	7,374,720 （約 740 万画素）
オンデパネル B5Q 3 面	解像度 271 dpi	542 × 180 mm	5783 × 1920	11,103,360 （約 1,125 万画素）
オンデパネル A4 2 面	解像度 271 dpi	408 × 291 mm	4353 × 3105	13,516,065 （約 1,350 万画素）
オンデパネル A4 3 面	解像度 271 dpi	617 × 291 mm	6583 × 3105	20,440,215 （約 2,040 万画素）
オンデパネル A5 2 面	解像度 271 dpi	284 × 204 mm	3030 × 2177	6,596,310 （約 660 万画素）
オンデパネル A5 3 面	解像度 271 dpi	428 × 204 mm	4566 × 2177	9,940,182 （約 990 万画素）
オンデパネル A4W 2 面	解像度 271 dpi	582 × 204 mm	6210 × 2177	13,519,170 （約 1,350 万画素）
オンデパネル A4W 3 面	解像度 271 dpi	875 × 204 mm	9336 × 2177	20,324,472 （約 2,030 万画素）
オンデパネル A5W 2 面	解像度 271 dpi	408 × 142 mm	4353 × 1515	6,594,795 （約 660 万画素）
オンデパネル A5W 3 面	解像度 271 dpi	614 × 142 mm	6551 × 1515	9,924,765 （約 993 万画素）

オンデパネル SHIRONARI / KINARI シリーズ	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
オンデパネル SHIRONARI / KINARII **A4Y 2 面**	解像度 271 dpi	452 × 291 mm	4823 × 3105	14,975,415 （約 1,500 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARII **A4Y 3 面**	解像度 271 dpi	683 × 291 mm	7287 × 3104	22,618,848 （約 2,270 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARIII **A4YW 2 面**	解像度 271 dpi	582 × 226 mm	6210 × 2411	14,972,310 （約 1,500 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARII **A4YW 3 面**	解像度 271 dpi	878 × 226 mm	9367 × 2411	22,583,839 （約 2,260 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARIII **A5Y 2 面**	解像度 271 dpi	284 × 183.5 mm	3030 × 1958	5,932,740 （約 600 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARII **A5Y 3 面**	解像度 271 dpi	428 × 183.5 mm	4566 × 1957	8,935,662 （約 894 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARII **A5YW 2 面**	解像度 271 dpi	367 × 142 mm	3916 × 1515	5,932,740 （約 600 万画素）
オンデパネル SHIRONARI / KINARIII **A5YW 3 面**	解像度 271 dpi	552.5 × 142 mm	5894 × 1515	8,929,410 （約 900 万画素）

Pasta(パスタ)	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
Pasta 30Q	解像度 271 dpi	305 × 305 mm	3254 × 3254	10,588,516 （約 1,058 万画素）
Pasta A3Q	解像度 271 dpi	266 × 266 mm	2838 × 2938	8,054,244 （約 805 万画素）
Pasta A4Q	解像度 271 dpi	216 × 216 mm	2304 × 2304	5,308,416 （約 530 万画素）
Pasta B5Q	解像度 271 dpi	186 × 186 mm	1984 × 1984	3,936,256 （約 393 万画素）
Pasta A3	解像度 271 dpi	297 × 420 mm	3169 × 4481	14,200,289 （約 1420 万画素）
Pasta A4	解像度 271 dpi	210 × 297 mm	2240 × 3169	7,098,560 （約 709 万画素）
Pasta A5	解像度 271 dpi	148 × 210 mm	1579 × 2240	3,536,960 （約 1420 万画素）
Pasta A3W	解像度 271 dpi	420 × 297 mm	4481 × 3169	14,200,289 （約 1420 万画素）
Pasta A4W	解像度 271 dpi	297 × 210 mm	3169 × 2240	7,098,560 （約 709 万画素）
Pasta A5W	解像度 271 dpi	210 × 148 mm	2240 × 1579	3,536,960 （約 353 万画素）

ギャラリー BOX	ページの種類	仕上がり寸法 横×縦	仕上がりピクセル数 横×縦	ページ当たりの 総画素数
ギャラリー BOX B6(縦横兼用)	カード （解像度 271dpi）	183 × 122 mm	1952 × 1302	2,541,504 （約 250 万画素）
ギャラリー BOX 10Q	カード （解像度 271dpi）	100 × 100mm	1067 × 1067	1,138,489 （約 110 万画素）

30.　お問い合わせ

サポートに関するお問い合わせは、フリーダイヤル、E メールにて受付致しております。
下記よりお気軽にお問い合わせください。

■ ASUKABOOK Maker2 に関するお問い合わせ電話番号

0120-520-410（フリーダイヤル）

電話の受付時間：

10:00 - 17:00 月曜日 ～金曜日
（土・日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始は除きます）

■ ASUKABOOK Maker2 に関するお問い合わせメールアドレス

info@asukabook.jp

メールの受付時間：

随時、お受けしておりますので、お気軽にご連絡ください。
また、弊社よりご連絡を差し上げるまでに、多少お時間を頂戴することがございます。

※ 当社はプライバシーポリシーに基づき、個人情報を管理しております。
上記よりお伝えいただいた情報は、お問い合せの回答のみに利用し、他の利用は行いません。

〒 107-0062　東京都港区南青山 2-2-3　南青山 M-SQUARE 5F
株式会社アスカネット　東京支社
フリーダイヤル ◆ 0120-520-410
ショールーム営業時間 ◆ 10:00 ～ 17:00　月～金曜日
（土・日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始休暇を除きます）
ホームページ ◆ http://asukabook.jp　E-mail ◆ info@asukabook.jp

制作：株式会社 アスカネット

索　引

数字はページ数を表します。

索引

数字

1 ファイル形式 ・・・ 2-43
64bit と 32bit 何が違うのか？ ・・・ 28-29
180 度回転 ・・・ 21-6

アルファベット

A

ab2 ・・・ 2-43
ab2l ・・・ 2-43
ab2p ・・・ 2-43
ABM2 で扱える画像ファイル形式 ・・・ 1-6
ABM2 で扱えるフォント ・・・ 1-7
ABM2 の画面構成 ・・・ 3-1
Adobe Photoshop を使って素材を開く方法 ・・・ 5-8
AdobeRGB ・・・ 2-42
ASUKABOOK Maker 2 を終了する ・・・ 3-13
ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるガイド ・・・ 13-17 , 14-17 , 14-18

B

bit 数の効用 ・・・ 28-29
bit とは？ ・・・ 28-29

C

CMYK ・・・ 1-6

E

eraview からの連携 ・・・ 22-1
eraview との連携　オーガナイザーに連携する ・・・ 22-5
eraview との連携　オートレイアウトに連携する ・・・ 22-11
eraview との連携　レーティング・カラーラベルに関して ・・・ 22-15
eraview との連携　新規作成に連携する ・・・ 22-1

J

JPEG ・・・ 1-6
JPEG で置き換え ・・・ 3-22
JPEG で置き換え（リプレース）・・・ 6-15

M

macOS で「開発元が未確認で開けません」というメッセージが出た場合 ・・・ 1-1

O

OS の bit 数の見分け方 ・・・ 28-30

P

PDF 出力（ツールバー）・・・ 15-6
PNG ・・・ 1-6
PNG 画像に影を付ける ・・・ 16-4
PSD ・・・ 1-6
PSD 形式ファイルの簡易読み込み機能 ・・・ 18-5
PSD 形式ファイル利用上の注意事項 ・・・ 18-5
PSD 形式ファイル利用における確認方法 ・・・ 18-6

R

RGB モード ・・・ 1-6

S

Shift キーを使った水平、垂直、回転移動 ・・・ 4-26
sRGB ・・・ 2-42

U

「URUSHI」（漆）の表紙レイアウトについて ・・・ 18-4

W

Web サイトボタン ・・・ 25-2

かな

あ

明るさの調整 ・・・ 16-12
アスペクト比 ・・・ 7-6
後からカテゴリ分けや整理をする場合 ・・・ 13-7 , 14-10
アプリ終了後も前回選択したフォルダを参照する ・・・ 3-8
淡い日差しを表現する ・・・ 16-3
アンチエイリアス ・・・ 17-9

い

位置を固定（画像選択時の右クリック）・・・ 21-2
「位置を固定したオブジェクトを含む」とは ・・・ 14-19
「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れた場合 ・・・ 14-20
「位置を固定したオブジェクトを含む」にチェックを入れない場合 ・・・ 14-20
一括でリンクを再更新する ・・・ 2-13 , 2-18
一旦作成したブックファイルを別名で保存する ・・・ 2-7
移動 . 画像を移動する を参照
イラスト（ウインドウ）・・・ 3-29
イラスト画像 (イラスト化) の設定 ・・・ 26-31
イラスト画像（画像選択時の右クリック）・・・ 21-2
イラストタブ ・・・ 10-1
　イラストタブの使い方 ・・・ 10-1
　イラストタブへの登録方法 ・・・ 10-2
　イラストファイルの登録削除 ・・・ 10-8
　カテゴリーの選択 ・・・ 10-5
　カテゴリの登録方法 ・・・ 10-5
　最新の状態に更新 ・・・ 10-8
　サムネイルサイズの調整 ・・・ 10-9
イラストタブ（ABM2 の画面構成）・・・ 3-1
イラストタブに直接ドラッグして登録する方法 ・・・ 10-2
イラストファイルの登録削除 ・・・ 10-8
色選択（スラッピーボーダータブ）・・・ 11-2

索引

色選択ダイアログ・・・19-1
セーフカラー選択モード・・・19-1
フルカラー選択モード・・・19-1
色選択について・・・19-1
色の調整・・・16-13
インストール・・・1-1
インストールされているフォントの確認方法・・・1-7

う

ウインドウ・・・3-27
イラスト・・・3-29
オーガナイザー・・・3-30
画像表示ウインドウを追加・・・3-31
型抜き・・・3-29
スラッピーボーダー・・・3-29
整列ツールバー・・・3-28
ツールバー・・・3-28
背景・・・3-29
パレット位置の固定・・・3-31
パレット位置を初期化・・・3-32
パレット位置を復帰・・・3-32
パレット位置を保存・・・3-31
ページ・・・3-28
編集パレット・・・3-27
ボックス・・・3-28
上揃え（整列ツールバー）・・・15-8

え

エクスポート・・・6-7
確認用 JPEG を出力・・・6-9
ページを保存・・・6-7
エクスポート（ドキュメント）・・・3-20
確認用 JPEG を出力・・・3-21
確認用 JPEG を全ページ出力・・・3-21
確認用 PDF を出力・・・3-21
ページを保存・・・3-20
eraview からの連携・・・22-1
eraview からの連携　オーガナイザーに連携する・・・22-5
eraview からの連携　オートレイアウトに連携する・・・22-11
eraview からの連携　新規作成に連携する・・・22-1
eraview からの連携　レーティング・カラーラベルに関して・・・22-15

お

オーガナイザー
オーガナイザー&オートレイアウト画面・・・12-2
オーガナイザー画面・・・12-1
オーガナイザータブ
オーガナイザー画面へ・・・12-24
オーガナイザーへ・・・12-27
このアプリケーションで開く・・・12-26
最新の状態に更新・・・12-26
サムネイルサイズ調整・・・12-24
選択したファイルの削除・・・12-26
ソートの種類・・・12-25
ソートの方向・・・12-25
並び替え・・・12-24
プロパティ・・・12-27
ページ・・・12-23, 12-25
概要・・・12-1
画像割り振り領域
レイアウト確認ボタン・・・12-19
レイアウト候補の移動・・・12-19
レイアウト候補の削除・・・12-19
レイアウト候補をドラッグ&ドロップ・・・12-18
サムネイル領域・・・12-14
サムネイルサイズ調整・・・12-17
サムネイルメニュー・・・12-14
サムネイル領域表示変更・・・12-16
情報表示・・・12-15
並び替え・・・12-15
フィルタ・・・12-15
情報領域・・・12-10
画像タブ・・・12-10
キーワードタブ・・・12-11
キーワードの入力手順・・・12-11
情報タブ・・・12-10
他のファイルのキーワードを利用する・・・12-11
ブック情報
ブック情報・・・12-21
ブックタイプの変更・・・12-21
「編集画面へ」ボタン・・・12-22
レイアウト編集画面・・・12-2
オーガナイザー（ウインドウ）・・・3-30
オーガナイザー&オートレイアウト画面・・・12-2
オーガナイザー画面・・・12-1
オーガナイザー画面に戻る場合・・・12-34
オーガナイザー画面へ・・・12-24
オーガナイザータブ・・・3-1, 12-23, 12-25
オーガナイザーでテンプレートを利用する・・・12-36
オーガナイザーで割り振っていない画像を使う方法・・・12-7
オーガナイザー（& オートレイアウト）・・・12-1
オーガナイザー & オートレイアウトの操作方法・・・12-28
オートレイアウト領域・・・12-31
オートレイアウト領域への自動配置・・・12-30
オプションボタン・・・12-31
各ページへの写真画像の割り振り・・・12-30
素材（写真画像）の読み込み・・・12-29
ボックステンプレート画面・・・12-32
見開きページの並び替え・・・12-31
レイアウト変更ボタン・・・12-32
オーガナイザーの画面構成・・・12-9
オプションボタン・・・12-9
画像割り振り領域・・・12-9

索引

サムネイル領域 ・・・ 12-9
情報領域 ・・・ 12-9
「編集画面へ」ボタン ・・・ 12-9
オーガナイザーの操作方法 ・・・ 12-3
オーガナイザーで割り振っていない画像を使う方法 ・・・ 12-7
各ページへの写真画像の割り振り ・・・ 12-6
素材（写真画像）の読み込み ・・・ 12-4
通常の使い方 ・・・ 12-3
オーガナイザーへ（ツール）・・・ 3-26
オーガナイザーを使用した場合の「画像数連動」について ・・・ 7-4
オーガナイザーを使用していない場合の「画像数連動」について ・・・ 7-5
オーガナイザーを開く（ファイル）・・・ 3-11
大きく移動する方法 ・・・ 4-9
オートフィットボックス ・・・ 26-11
オートレイアウト
オートフィットボックス ・・・ 26-11
オートレイアウト機能の概要 ・・・ 26-1
オートレイアウトの基本的な操作手順 ・・・ 26-1
オートレイアウトモード ・・・ 26-1
各ページの確認 ・・・ 26-10
画像の並び順の調整 ・・・ 26-7
画像の読み込み　その 1（フォルダ選択方式）・・・ 26-5
画像の読み込み　その 2（画像ドロップ方式）・・・ 26-6
画像ファイル名の整理 ・・・ 26-1
画像を入れ替える方法 ・・・ 26-8
画面の構成 ・・・ 26-2
基本的な使い方 ・・・ 26-3
削除 ・・・ 26-23
サムネイル領域 ・・・ 26-16
サムネイルサイズ調整 ・・・ 26-19
サムネイルメニュー ・・・ 26-16
サムネイル領域表示変更 ・・・ 26-18
情報表示 ・・・ 26-18
並び替え ・・・ 26-17
フィルタ ・・・ 26-17
左右選択 ・・・ 26-23
仕上げ ・・・ 26-12
写真素材のセレクト ・・・ 26-1
上下選択 ・・・ 26-23
情報領域 ・・・ 26-12
キーワードタブ ・・・ 26-13
キーワードの入力手順 ・・・ 26-14
情報タブ ・・・ 26-13
他のファイルのキーワードを利用する ・・・ 26-13
設定オプション
キーライン ・・・ 26-28
キャプション ・・・ 26-26
初期設定に戻す ・・・ 26-28
背景色 ・・・ 26-28
フォント ・・・ 26-27
ポジション ・・・ 26-27
連番開始番号 ・・・ 26-26
連番フォーマット ・・・ 26-27
注文用 PDF ファイルの出力 ・・・ 26-1
テンプレート
位置固定 ・・・ 26-31
イラスト化 ・・・ 26-31
画像を入れ替える場合 ・・・ 26-38
画像を取り除く場合 ・・・ 26-38
素材画像の読込み ・・・ 26-36
テンプレート化オプション ・・・ 26-33
テンプレート読込み機能の概要 ・・・ 26-30
トリミングの微調整 ・・・ 26-41
「編集モード」へ移る ・・・ 26-38
ページ選択 ・・・ 26-22
ページ領域 ・・・ 26-20
ボックス選択ウインドウの機能 ・・・ 26-22
見開きページ内の並び換え ・・・ 26-20
レイアウト変更ボタン ・・・ 26-21
編集モード ・・・ 26-1
「編集モード」へ移る ・・・ 26-10
ボックスカテゴリ ・・・ 26-22
レイアウトセット
設定オプション ・・・ 26-26
レイアウトセットの登録 ・・・ 26-25
レイアウトセットの呼び出し ・・・ 26-24
オートレイアウトで編集する（ツール）・・・ 3-26
オートレイアウト（表示 / 非表示）・・・ 12-20
オートレイアウト領域（オーガナイザー）・・・ 12-31
オートレイアウト領域への自動配置（オーガナイザー）・・・ 12-30
オートレイアウトを開く（ファイル）・・・ 3-11
※オートレイアウトを利用する際の注意点 ・・・ 26-38
オーバーレイ（画像加工）・・・ 16-19
オーバーレイ（画像選択時の右クリック）・・・ 21-8
お気に入りに追加する（ガイドラインタブ）・・・ 13-10, 14-13
お気に入りに追加する（ボックスタブ）・・・ 7-11
お気に入りブックの登録 ・・・ 2-3
お気に入りブックの変更と削除 ・・・ 2-5
オブジェクトの選択方法 ・・・ 4-6
クリックして選択する方法 ・・・ 4-6
マウスをドラッグして選択する方法 ・・・ 4-7
オブジェクトの縦横比の固定 ・・・ 3-38
オプションボタン（オーガナイザー）・・・ 12-9, 12-20, 12-31
オリジナルの型抜き、マスクの作り方 ・・・ 8-5

索引

か

開始ページ・・・4-2
解像度・・・1-5
回転（画像選択時の右クリック）・・・21-6
回転カーソル・・・4-17
ガイド機能・・・4-29
　ガイドラインの吸着について・・・4-33
　ガイドラインの吸着無視・・・4-34
　ガイドラインの利用・・・4-31
　ガイドラインを数値入力により操作・・・4-31
　ガイドラインをマウスで操作・・・4-31
　吸着しないようにする設定方法・・・4-34
　吸着を一時的に無視する方法・・・4-34
　ルーラの原点位置と変更方法・・・4-30
　ルーラ（定規）の使用・・・4-29
　ルーラの単位・・・4-29
ガイドの原点位置・・・13-17
ガイドの保存を「単位」の「%」以外で保存した場合・・・13-16
ガイドライン・・・3-30
ガイドラインタブ・・・13-1, 14-1
　後からカテゴリ分けや整理をする場合・・・13-7, 14-10
　ガイドラインタブと各種メニュー・・・13-9, 14-12
　　サムネイルサイズの変更・・・13-10, 14-13
　ガイドラインタブと各種メニュー
　　カテゴリ選択メニュー・・・13-9, 14-12
　ガイドラインタブの使い方・・・13-1, 14-1
　カテゴリの新規作成と登録・・・13-4, 14-7
　最新の状態に更新・・・13-12, 14-15
　保存したガイドの利用・・・13-13
　メニュー
　　お気に入りに追加する・・・13-10, 14-13
　　カテゴリ・・・13-11, 14-14
　　最新の状態に更新・・・13-12, 14-15
　　削除・・・13-12, 14-15
　　参照フォルダを開く・・・13-11, 14-15
ガイドラインタブ（ABM2 の画面構成）・・・3-1
ガイドラインタブと各種メニュー・・・13-9, 14-12
ガイドラインタブの使い方・・・13-1, 14-1
ガイドラインの色・・・3-5
ガイドラインの吸着無視・・・4-34
ガイドラインの吸着について・・・4-33
ガイドラインのページ種類と分類・・・13-14, 14-16, 14-19
ガイドラインの保存・・・4-35
ガイドラインへの吸着・・・3-5
ガイドラインへの吸着（ドキュメント）・・・3-18
ガイドラインをコピー・・・6-4
ガイドラインを表示（ドキュメント）・・・3-18
ガイドラインを表示する・・・3-4
ガイドラインをペースト・・・6-4
拡大縮小（ツールバー）・・・15-4
拡大縮小カーソル・・・4-11
確認用 JPEG とは？・・・6-9
確認用 JPEG を出力（ドキュメント）・・・3-21
確認用 JPEG を出力（ページタブ）・・・6-9
確認用 JPEG を全ページ出力（ドキュメント）・・・3-21
確認用 PDF を出力（ドキュメント）・・・3-21
各ページへの写真画像の割り振り（オーガナイザー）・・・12-6, 12-30
画質の劣化について・・・4-12
画像拡大縮小時の「警告マーク」・・・4-16
画像加工
　オーバーレイ・・・16-19
　「画像加工」ダイアログの表示方法・・・16-1
　キーライン・・・16-4
　色調の調整・・・16-7
　　色調調整のパラメータ・・・16-7
　色調の調整範囲・・・16-9
　　ガンマ調整の範囲と傾向・・・16-9
　　コントラスト調整の範囲と傾向・・・16-9
　　彩度調整の範囲と傾向・・・16-10
　　色調調整の範囲と傾向・・・16-10
　　露出調整の範囲と傾向・・・16-9
　写真に効果をつける　その 3
　　効果的なモノクロ写真を作る・・・16-14
　写真に効果をつける　その 4
　　セピアカラー・・・16-16
　写真の補正　その 1
　　明るさの調整・・・16-12
　写真の補正　その 2
　　色の調整・・・16-13
　透明度・・・16-22
　ドロップシャドウ・・・16-2
「画像加工」ダイアログの表示方法・・・16-1
画像加工の取消（画像選択時の右クリック）・・・21-4
画像加工のペースト（画像選択時の右クリック）・・・21-2
画像加工のペースト（編集）・・・3-15
画像コントローラ
　回転方向の動き・・・4-26
　水平、垂直方向の動き・・・4-26
画像コントローラによる内部画像の移動・・・4-20
画像サイズを自動調整して配置・・・3-7
画像サイズを自動調整して配置」の作動について・・・3-23
画像サイズを自動調整して配置（ドキュメント）・・・3-23
画像数の表示と確認・・・5-14, 5-15
画像数連動・・・3-7, 7-4
　オーガナイザーを使用した場合の「画像数連動」について・・・7-4
　オーガナイザーを使用していない場合の「画像数連動」について・・・7-5
画像選択時の右クリック・・・21-1
　位置を固定・・・21-2
　オーバーレイ・・・21-8

索引

回転 ・・・ 21-6
画像加工の取消 ・・・ 21-4
画像加工のペースト ・・・ 21-2
画像を元の縦横比に戻す ・・・ 21-4
型抜きの取消 ・・・ 21-3
キーライン ・・・ 21-7
グループ化 ・・・ 21-8
コピー ・・・ 21-1
色調調整 ・・・ 21-7
順序 ・・・ 21-6
スラッピーボーダの取消 ・・・ 21-3
透明度 ・・・ 21-8
ドロップシャドウ ・・・ 21-7
貼り付け ・・・ 21-2
ボックスを固定 ・・・ 21-3
画像タブ（オーガナイザー）・・・ 12-10
画像の拡大縮小に伴う画質の劣化について ・・・ 4-12
画像のトリミング方法 ・・・ 4-27
ショートカットキーによるトリミング操作 ・・・ 4-28
通常のマウス操作による動き ・・・ 4-27
画像の読み込み（画像表示ウインドウ）・・・ 5-1
画像の読み込み（基本操作）・・・ 4-4
画像表示ウインドウ ・・・ 3-2 , 5-1
Adobe Photoshop® を使って素材を開く方法 ・・・ 5-8
画像の読み込み ・・・ 5-1
画像表示ウインドウを追加 ・・・ 5-3
このアプリケーションで開く ・・・ 5-7
最近閉じたフォルダ ・・・ 5-12
最新の状態に更新 ・・・ 5-11
サムネイルサイズの調整 ・・・ 5-13 , 5-14 , 5-15
参照先フォルダを開く ・・・ 5-5
ソートの種類 ・・・ 5-6
ソートの方向 ・・・ 5-6
プロパティ ・・・ 5-12
画像表示ウインドウを追加（ウインドウ）・・・ 3-30 , 3-31
画像表示ウインドウを追加（画像表示ウインドウ）・・・ 5-3
画像ファイル形式 ・・・ 1-5 , 1-6
ABM2 で扱える画像ファイル形式 ・・・ 1-6
JPEG ・・・ 1-6
PNG ・・・ 1-6
PSD ・・・ 1-6
画像リンク一覧 ・・・ 1-1 , 2-10 , 2-11 , 2-16
画像割り振り領域（オーガナイザー）・・・ 12-9 , 12-18
画像を新しいボックスに再配置 ・・・ 7-3
画像を移動する ・・・ 4-8
ショートカットキーによる画像の移動 ・・・ 4-8
大きく移動する方法 ・・・ 4-9
細かく移動する方法 ・・・ 4-8
数値入力による画像の移動 ・・・ 4-9
ボックスの位置は変更せずに内部画像のみを移動する ・・・ 4-10
ボックスの位置を移動する ・・・ 4-9
マウスでドラッグして画像を移動 ・・・ 4-8
画像を回転する ・・・ 4-17
数値入力による画像の回転 ・・・ 4-18
ボックスと共に画像を回転させる ・・・ 4-18
ボックスの回転角度は変更せずに内部画像のみ回転させる ・・・ 4-19
マウスでドラッグして画像を回転 ・・・ 4-17
画像を拡大縮小する ・・・ 4-11
数値入力による画像の拡大縮小 ・・・ 4-13
ボックスサイズと共に画像を拡大縮小する ・・・ 4-13
ボックスサイズは変更せずに内部画像のみ拡大縮小する ・・・ 4-14
マウスでドラッグして画像を拡大縮小 ・・・ 4-11
画像を選択して再リンクする ・・・ 2-13 , 2-18
画像を元の縦横比に戻す（画像選択時の右クリック）・・・ 21-4
型抜き（ウインドウ）・・・ 3-29
型抜きタブ ・・・ 8-1
型抜きの取消 ・・・ 8-2
カテゴリ ・・・ 8-3
最新の状態に更新 ・・・ 8-4
削除 ・・・ 8-4
サムネイルサイズの調整 ・・・ 8-4 , 8-5
参照先フォルダを開く ・・・ 8-3
型抜きタブ（ABM2 の画面構成）・・・ 3-1
型抜きの縦横比 ・・・ 8-2
型抜き（マスク）の使い方 ・・・ 8-1
型抜きの取消 ・・・ 8-2
型抜きの取消（画像選択時の右クリック）・・・ 21-3
カット（画像選択時の右クリック）・・・ 21-1
カット（編集）・・・ 3-14
カテゴリ ・・・ 7-15
カテゴリ（ガイドラインタブ）・・・ 13-11 , 14-14
カテゴリ（スラッピーボーダータブ ・・・ 11-3
カテゴリ（型抜きタブ）・・・ 8-3
カテゴリーの選択（イラストタブ）・・・ 10-5
カテゴリーの作り方 ・・・ 7-24
カテゴリ選択メニュー ・・・ 13-9 , 14-12
カテゴリの新規作成と登録（ガイドライン）・・・ 13-4 , 14-7
カテゴリの選択（背景タブ）・・・ 9-3
カテゴリの登録方法（イラストタブ）・・・ 10-5
カテゴリの登録方法（背景タブ）・・・ 9-4
カラープロファイルについて ・・・ 2-42
カラーモード ・・・ 1-6
カラーラベルのキーワード検索 ・・・ 22-16
カラーラベルのキーワード検索 (オーガナイザー及びオートレイアウト) ・・・ 22-16
環境設定 ・・・ 3-2
言語と入稿先 ・・・ 3-3
動作 ・・・ 3-6
画像サイズを自動調整して配置 ・・・ 3-7
選択した画像からボックスを絞り込む ・・・ 3-6

索引

画像数連動 ・・・ 3-7
縦横完全一致 ・・・ 3-7
同時に開けるドキュメントウインドウの数 ・・・ 3-8
ブック作成時の保存形式 ・・・ 3-8, 28-9, 28-11
ボックス配置時にボックスの固定をしない ・・・ 3-6
ボックス配置時の自動再配置 ・・・ 3-6
表示 ・・・ 3-3
拡張子表示 ・・・ 3-9
警告 ・・・ 3-10
トリミングエリア表示 ・・・ 3-9
ユーザー設定 ・・・ 3-3, 3-4
お名前 ・・・ 3-4
電話番号 ・・・ 3-4
パスワード ・・・ 3-4
ユーザー ID ・・・ 3-4
ルーラーとガイドライン ・・・ 3-4
ガイドラインの色 ・・・ 3-5
ガイドラインへの吸着 ・・・ 3-5
ガイドラインを表示する ・・・ 3-4
起点のポインタを表示する ・・・ 3-5
スマートガイドの色 ・・・ 3-5
スマートガイドを表示する ・・・ 3-5
ルーラー単位 ・・・ 3-4
ルーラーを表示する ・・・ 3-4
拡張子表示 ・・・ 3-9

き

キーライン（画像加工／キーライン）・・・ 16-4
キーライン（画像選択時の右クリック）・・・ 21-7
キーワードタブ（オーガナイザー）・・・ 12-11
キーワードの入力手順（オーガナイザー）・・・ 12-11
起点のポインタを表示する ・・・ 3-5
基本操作 ・・・ 4-1
キャンセルボタン（オーガナイザー）・・・ 12-21
吸着無視 ・・・ 4-34
共通して使用できるボックス ・・・ 7-19
共通して使用できるガイド ・・・ 13-17, 14-17
均等割り付け ・・・ 17-7

く

グラデーション ・・・ 16-22, 16-24
グラデーション開始位置とは ・・・ 16-24
グループ化 ・・・ 4-35, 4-45, 4-47
グループ化（画像選択時の右クリック）・・・ 21-8
グループ化の解除（画像選択時の右クリック）・・・ 21-8
グループ化の解除（基本操作）・・・ 4-37
グレースケール ・・・ 1-6

け

警告 ・・・ 3-10
警告マーク ・・・ 4-16
罫線の太さについて ・・・ 16-7
言語と入稿先 ・・・ 3-3
原点位置 ・・・ 4-30, 13-17

こ

異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合 ・・・ 13-15, 14-17
このアプリケーションで開く（オーガナイザータブ）・・・ 12-26
このアプリケーションで開く（画像表示ウインドウ）・・・ 5-7
コピー（画像選択時の右クリック）・・・ 21-1
コピー（編集）・・・ 3-15

さ

最近閉じたフォルダ（画像表示ウインドウ）・・・ 5-12
最終ページ ・・・ 4-2
最新の状態に更新（イラストタブ）・・・ 10-8
最新の状態に更新（オーガナイザータブ）・・・ 12-26
最新の状態に更新（スラッピーボーダータブ ・・・ 11-4
最新の状態に更新（ボックスタブ）・・・ 7-17
最新の状態に更新（画像表示ウインドウ）・・・ 5-11
最新の状態に更新（型抜きタブ）・・・ 8-4
最新の状態に更新（背景タブ）・・・ 9-7
最新の状態に更新（ガイドラインタブ）・・・ 13-12, 14-15
サイズ（ブックタイプの変更）・・・ 24-2
サイズ（新規作成）・・・ 2-2, 2-4
サイズを合わせる（整列ツールバー）・・・ 15-10
最前面へ移動（画像選択時の右クリック）・・・ 21-6
最背面へ移動（画像選択時の右クリック）・・・ 21-6
削除（ガイドラインタブ）・・・ 13-12, 14-15
削除（スラッピーボーダータブ ・・・ 11-5
削除（ツールバー）・・・ 15-2
削除（ボックスタブ）・・・ 7-17
削除（型抜きタブ）・・・ 8-4
削除（編集）・・・ 3-17
動作環境 ・・・ 1-5
サムネイルサイズの調整（イラストタブ）・・・ 10-9
サムネイルサイズの調整（オーガナイザー／サムネイル領域）・・・ 12-17
サムネイルサイズの調整（オーガナイザータブ）・・・ 12-24
サムネイルサイズの調整（スラッピーボーダータブ ・・・ 11-5
サムネイルサイズの調整（ページタブ）・・・ 6-18
サムネイルサイズの調整（ボックスタブ）・・・ 7-18
サムネイルサイズの調整（画像調整ウインドウ）・・・ 5-13, 5-14, 5-15
サムネイルサイズの調整（型抜きタブ）・・・ 8-4, 8-5
サムネイルサイズの調整（背景タブ）・・・ 9-8
サムネイルサイズの変更（ガイドラインタブ）・・・ 13-10, 14-13
サムネイルメニュー（オーガナイザー）・・・ 12-14
サムネイル領域（オーガナイザー）・・・ 12-14
サムネイル領域（オートレイアウト）・・・ 26-16
左右にレイアウトを反転（余白での右クリック）・・・ 21-13
左右の間隔を調整（整列ツールバー）・・・ 15-12
左右反転 ・・・ 7-13

参照先フォルダを開く（スラッピーボーダータブ ・・・ 11-4
参照先フォルダを開く（ボックスタブ）・・・ 7-16
参照先フォルダを開く（画像表示ウインドウ）・・・ 5-5
参照先フォルダを開く（型抜きタブ）・・・ 8-3
参照先フォルダを開く（背景タブ）・・・ 9-4
参照フォルダを開く（ガイドラインタブ）・・・ 13-11 , 14-15

し

仕上がりサイズと裁ちしろ ・・・ 4-3
色相・彩度の調整 ・・・ 16-18
色相 と 彩度 について ・・・ 16-10
色調調整 ・・・ 16-7
色調調整（画像選択時の右クリック）・・・ 21-7
色調調整のバラメータ ・・・ 16-7
下揃え（整列ツールバー）・・・ 15-9
自動的に隠す (Windows 版のみ) ・・・ 4-41
自動的に隠すを解除する方法 ・・・ 4-43
写真を選択した場合のヘッダー ・・・ 3-33
　内部画像情報について ・・・ 3-35
　ボックス情報について ・・・ 3-34
ジャストフィット ・・・ 15-4
順序（画像選択時の右クリック）
　最前面へ移動 ・・・ 21-6
　最背面へ移動 ・・・ 21-6
　前面へ移動 ・・・ 21-6
　背面へ移動 ・・・ 21-6
使用画像数の表示と確認 ・・・ 5-14 , 5-15
使用画像の状態を表示 ・・・ 5-15
定規 , ルーラー を参照
上下にレイアウトを反転（余白での右クリック）・・・ 21-11
上下の間隔を調整（整列ツールバー）・・・ 15-10
上下反転 ・・・ 7-14
商品セレクトセットで連携した場合 ・・・ 22-3 , 22-8
商品名（ブックタイプの変更）・・・ 24-2
商品名（新規作成）・・・ 2-2 , 2-4
情報表示（オーガナイザー）・・・ 12-15
情報領域（オーガナイザー）・・・ 12-10
情報領域（オートレイアウト）・・・ 26-12
ショートカットキー一覧 ・・・ 23-1
ショートカットキーによる画像の移動 ・・・ 4-8
ショートカットキーによる内部画像の移動 ・・・ 4-21
ショートカットキーによる内部画像の拡大縮小 ・・・ 4-24
新規作成 ・・・ 2-1 , 2-3 , 2-5
　一旦作成したブックファイルを別名で保存する ・・・ 2-7
　テンプレート保存の方法 ・・・ 2-21 , 2-27
　　テンプレートブックファイルの確認 ・・・ 12-36
　　テンプレートブックファイルの作成方法 ・・・ 2-21 , 2-26
　ブックファイルの作り方 ・・・ 2-1
　ブックファイルの開き方 ・・・ 2-8 , 2-14 , 2-20
　ブックファイルの保存 ・・・ 2-6
　ブックファイルを閉じる ・・・ 2-41
新規作成（ファイル）・・・ 3-11

す

水平、垂直、回転移動 ・・・ 4-26
数値入力による画像の移動 ・・・ 4-9
　ボックスの位置は変更せずに内部画像のみを移動する ・・・ 4-10
　ボックスの位置を移動する ・・・ 4-9
数値入力による画像の回転 ・・・ 4-18
　ボックスと共に画像を回転させる ・・・ 4-18
　ボックスの回転角度は変更せずに内部画像のみ回転させる ・・・ 4-19
数値入力による画像の拡大縮小 ・・・ 4-13
　ボックスサイズと共に画像を拡大縮小する ・・・ 4-13
　ボックスサイズは変更せずに内部画像のみ拡大縮小する ・・・ 4-14
数値入力による内部画像の移動 ・・・ 4-22
数値入力による内部画像の回転 ・・・ 4-25
数値入力による内部画像の拡大縮小 ・・・ 4-24
図形（ツールバー）・・・ 15-2
図形を選択した場合のヘッダー ・・・ 3-36
ステータスバー ・・・ 3-40
すべてを選択（編集）・・・ 3-17
スマートガイド
　一時的に無効にする方法 ・・・ 27-2
　ガイドラインが表示される場合の例　その1 ・・・ 27-1
　ガイドラインが表示される場合の例　その2 ・・・ 27-2
　ガイドラインへの吸着機能との関係 ・・・ 27-2
　スマートガイドとは？ ・・・ 27-1
　スマートガイドの色について ・・・ 27-2
　スマートガイドのオプション機能 ・・・ 27-2
　使い方 ・・・ 27-1
スマートガイドの色 ・・・ 3-5
スマートガイドを表示 ・・・ 3-19
スマートガイドを表示する ・・・ 3-5
スラッピーボーダー ・・・ 11-1
　色選択 ・・・ 11-2
　カテゴリ ・・・ 11-3
　最新の状態に更新 ・・・ 11-4
　削除 ・・・ 11-5
　サムネイルサイズの調整 ・・・ 11-5
　参照先のフォルダを開く ・・・ 11-4
　スラッピーボーダーの取消 ・・・ 11-3
スラッピーボーダー（ウインドウ）・・・ 3-29
スラッピーボーダータブ ・・・ 3-1
スラッピーボーダーの使い方 ・・・ 11-1
スラッピーボーダーの取消 ・・・ 11-3
スラッピーボーダーの取消（画像選択時の右クリック）・・・ 21-3

索引

せ

正方形を含める・・・7-7
整列ツールバー・・・3-2, 15-6
　上揃え・・・15-8
　サイズ合わせについて・・・15-9
　サイズを合わせる・・・15-10
　左右の間隔を調整・・・15-12
　下揃え・・・15-9
　上下の間隔を調整・・・15-10
　高さを合わせる・・・15-10
　縦中央揃え・・・15-8
　縦方向の整列について・・・15-8
　幅を合わせる・・・15-9
　左揃え・・・15-7
　右揃え・・・15-8
　横中央揃え・・・15-7
　横方向の整列について・・・15-7
整列ツールバー（ウインドウ）・・・3-28
セーフカラー選択モード・・・19-1
設定・・・3-27
セピアカラー（写真に効果を付ける）・・・16-16
セピアカラー（色相・彩度の調整）・・・16-18
全画面表示（オーガナイザーサムネイル領域）・・・12-6, 26-7
全画面表示（オートレイアウトサムネイル領域）・・・26-7
全画面表示（画像表示ウインドウ）・・・5-2
選択（ツールバー）・・・15-1
選択した画像からボックスを絞り込む・・・3-6
　画像数連動・・・3-7
選択した画像からボックスを絞り込む
　縦横完全一致・・・3-7
「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を使用しない場合・・・7-9
選択したファイルの削除（オーガナイザータブ）・・・12-26
選択したページを後方に移動する場合・・・6-20
選択したページを前方に移動する場合・・・6-19
全ページのテキストをラスタライズ・・・3-20
全ページを JPEG で置き換え・・・3-22
全ページをまとめて JPEG 出力する方法・・・6-12
前面へ移動・・・21-6

そ

ソートの種類（オーガナイザータブ）・・・12-25
ソートの種類（画像表示ウインドウ）・・・5-6
ソートの方向（オーガナイザータブ）・・・12-25
ソートの方向（画像表示ウインドウ）・・・5-6
素材（写真画像）の読み込み（オーガナイザー）・・・12-4, 12-29
ソフトウェア更新の確認方法・・・1-9

た

高さを合わせる（整列ツールバー）・・・15-10
たち落とし表示（ツール）・・・3-25
たち落とし表示（基本操作）・・・4-3
たち落とし領域・・・18-1
たち落とし領域 について・・・18-3
縦均等配置・・・15-15
縦均等配置　適用例・・・15-16
縦均等配置の基準・・・15-16
「縦均等配置」ボタン・・・15-15
縦中央揃え（整列ツールバー）・・・15-8
縦横完全一致（ボックスタブ）・・・7-6
縦横完全一致（環境設定／動作）・・・3-7
縦横比・・・7-6
他のファイルのキーワードを利用する（オーガナイザー）・・・12-11
タブやパレット位置を元に戻す・・・4-44, 4-45
タブを自動的に隠す (Windows 版のみ)・・・4-41
タブを自動的に隠すを解除する方法・・・4-43
タブをフローティングパレットで利用する・・・4-38

ち

チャンネルミキサー・・・16-15
チャンネルミキサーの効果・・・16-16
注文・・・20-3
注文用 PDF ファイルの確認方法　その 1　Adobe Reader で開く・・・18-7
注文用 PDF ファイルの確認方法　その 2　Adober Photoshop で開く・・・18-7
注文用データを出力・・・26-1
注文用データを出力（注文）・・・20-4
注文用データを出力（ツール）・・・15-6
注文用ファイルの送信・・・20-7

つ

通常のセレクトセットの場合（商品セレクトセット以外）・・・22-1, 22-5
ツール（メニュー）・・・3-25
　オーガナイザーへ・・・3-26
　オートレイアウトで編集する・・・3-26
　注文用 PDF を出力・・・3-25
　たち落とし表示・・・3-25
　ブックタイプの変更・・・3-26
　プレビュー・・・3-25
ツールバー・・・3-2, 15-1
　PDF 出力・・・15-6
　表示移動・・・15-1
　拡大縮小・・・15-4
　削除・・・15-2
　図形・・・15-2
　選択・・・15-1
　背景色・・・15-4
　左回転・・・15-4

プレビュー・・・15-6
右回転・・・15-4
文字入力・・・15-3
元に戻す・・・15-1
やり直し・・・15-1
ツールバー（ウインドウメニュー）・・・3-28
強い日差しを表現する・・・16-3

て

デザインパレット・・・3-1
テンプレートブックファイルの作成方法・・・2-21, 2-26
テンプレートの確認方法・・・2-26
テンプレートの準備作業（オートレイアウト）・・・26-30
テンプレートの利用方法・・・2-27
テンプレートの利用（編集画面へ進む）・・・2-27
テンプレートの利用（オーガナイザーへ進む）・・・2-30, 12-36
テンプレートの利用（オートレイアウトへ進む）・・・2-36
テンプレートブックファイルの確認・・・12-36
テンプレート保存（ファイル）・・・3-12
※テンプレートをオーガナイザーで利用する際の保存と注意点・・・12-40
テンプレートをオーガナイザー機能で利用する場合の注意点・・・2-34, 12-30, 12-40

と

問い合わせ・・・30-1
動作・・・3-6
　画像サイズを自動調整して配置・・・3-7
　選択した画像からボックスを絞り込む
　　画像数連動・・・3-7
　　縦横完全一致・・・3-7
　同時に開けるドキュメントウインドウの数・・・3-8
　ブック作成時の保存形式・・・3-8, 28-9, 28-11
同時に開けるドキュメントウインドウの数・・・3-8
透明色を含む PNG ファイルの作り方・・・2-51
透明度（画像加工）・・・16-22
透明度（画像選択時の右クリック）・・・21-8
ドキュメント
　エクスポート・・・3-20
　　確認用 JPEG を出力・・・3-21
　　確認用 JPEG を全ページ出力・・・3-21
　　確認用 PDF を出力・・・3-21
　　ページを保存・・・3-20
　ガイドラインの保存・・・4-35
　ガイドラインへの吸着・・・3-18
　ガイドラインを表示・・・3-18
　画像サイズを自動調整して配置・・・3-23
　スマートガイドを表示・・・3-19
　編集パレットの拡大率・・・3-19
　ボックス保存・・・3-22
　ラスタライズ・・・3-20
　　このページのテキストをラスタライズ・・・3-20
　　全ページのテキストをラスタライズ・・・3-20
　リプレース・・・3-21
　　JPEG で置き換え・・・3-22
　　全ページを JPEG で置き換え・・・3-22
　　ページを置き換え・・・3-21
　ルーラの単位・・・3-19
　ルーラを表示・・・3-18
特定のページのみを「ページ保存」する場合・・・6-7
閉じる・・・6-18
トリミングエリア表示・・・3-9
ドロップシャドウ（画像加工）・・・16-2
ドロップシャドウ（画像選択時の右クリック）・・・21-7
ドロップシャドウのパラメータ（調整要素）・・・16-3

な

内部画像情報について・・・3-35
並び替え（オーガナイザー／サムネイル領域）・・・12-15
並び替え（オーガナイザータブ）・・・12-24

の

のど部分・・・18-1

は

バーコードの印刷廃止について・・・18-2
バージョン 2.10 で追加された機能・・・28-12
バージョン 2.11 で追加された機能・・・28-10
バージョン 2.12 で追加された機能・・・28-8
バージョン 2.13 で追加された機能・・・28-6
バージョン 2.14 で追加された機能・・・28-5
バージョン 2.15 で追加された機能・・・28-4
バージョン 2.16 で追加された機能・・・28-3
バージョン 2.17 で追加された機能・・・28-3
バージョン 2.18 で追加された機能・・・28-1, 28-2
バージョン 2.1 で追加された新機能
　オブジェクトの拡大率を数値で入力する方法・・・28-44
　確認用 JPEG 画像の出力・・・28-42
　画像拡大縮小時の中心位置の変更・・・28-44
　画像コントローラ／ Shift キーを使った水平・垂直・回転移動・・・28-43
　画素数の大きな画像における自動サイズ調整機能・・・28-45
　キーボードによるオブジェクト移動量の変更・・・28-43
　整列機能・・・28-42
　トリミング機能・・・28-42
　ボックス保存機能に「お気に入り」を追加・・・28-43
　ロック機能（位置固定）・・・28-43
バージョン 2.2 で追加された新機能
　3 種の保存ファイル形式に対応・・・28-40
　オーガナイザー・・・28-40
　画像の拡大縮小時の「警告マーク」表示・・・28-41
　整列ツールバー／オブジェクト間隔の調整・・・28-41
　縦横比固定機能・・・28-41
　テンプレート保存機能・・・28-41
　ヘッダーでの計算式入力・・・28-40

バージョン 2.3 で追加された新機能
画像の縦横比を元に戻す機能 ・・・ 28-37
画像のトリミングされている部分を半透明表示する機能 ・・・ 28-37
画像表示ウインドウの「利用済マーク」の変更 ・・・ 28-36
「警告マーク」について、警告拡大率を変更 ・・・ 28-38
ズームボタンの表示方法を変更 ・・・ 28-37
ドラッグによるオブジェクトの選択 ・・・ 28-34
トリミングされている部分を半透明表示する機能 ・・・ 28-37
ドロップシャドウの改善 ・・・ 28-38
ファイル名の拡張子を表示 ・・・ 28-35
ページレイアウトの反転機能 ・・・ 28-37
ボックス固定の解除に対するオプション ・・・ 28-37
ルーラーの目盛り表示の変更 ・・・ 28-35
レイアウト確認システム ・・・ 28-34
レイアウト領域の原点位置の変更 ・・・ 28-35
バージョン 2.5 で追加された新機能
オートレイアウト ・・・ 28-32
オブジェクトの吸着を一時的に無視する機能を追加 ・・・ 28-33
拡大縮小する機能にショートカットキーを追加 ・・・ 28-33
スマートガイド ・・・ 28-32
表示移動ツールにショートカットキーを追加 ・・・ 28-32
ボックス内の画像を拡大縮小する機能にショートカットキーを追加 ・・・ 28-33
ボックスの種類を追加 ・・・ 28-33
右クリックにコピー＆ペーストを追加 ・・・ 28-33
バージョン 2.6 で追加された新機能
64bit 版をリリース ・・・ 28-29
Windows8 および MacOS 10.8 に対応 ・・・ 28-29
型抜きパターンの追加 ・・・ 28-29
背景機能の追加 ・・・ 28-28
文字のラスタライズ ・・・ 28-28
バージョン 2.7 で追加された新機能について
MacOS 10.9 に対応 ・・・ 28-26
イラストタブの追加 ・・・ 28-24
オートレイアウトにおけるテンプレート読み込み機能 ・・・ 28-24
確認用 PDF の出力 ・・・ 28-25
最小フォントサイズの変更 ・・・ 28-26
「ブックタイプ変更」機能でのサイズアップ変更が可能に ・・・ 28-25
溝の表示について ・・・ 28-26
バージョン 2.8 で追加された新機能について
画像表示ウィンドウにおいて、画像が使用されているページを表示する機能を追加 ・・・ 28-22
ボックスの絞り込みについて、ボックス個数を指定する方式に変更 ・・・ 28-23
文字の均等割り付け機能の追加 ・・・ 28-22
リンク切れのオブジェクトが存在する場合の処置 ・・・ 28-23
バージョン 2.9 で追加された新機能について
2015 年 5 月 27 日発表の新商品に対応 ・・・ 28-20
画像表示ウインドウの作動について ・・・ 28-21
ボックスの追加 ・・・ 28-21
バージョン 2.10 で追加された新機能について ・・・ 28-1
オーガナイザー機能にオートレイアウト機能を追加 ・・・ 28-1 , 28-2 , 28-3 , 28-4 , 28-6 , 28-8 , 28-10 , 28-12
オブジェクトをグループ化した際の拡大縮小時のズレを修正 ・・・ 28-18
ガイドライン保存機能 ・・・ 28-15
各タブのサムネイル拡大率の変更 ・・・ 28-17
確認用 JPEG 出力のサイズを変更 ・・・ 28-14
画像表示ウインドウ」のソート機能に使用・未使用の項目を追加 ・・・ 28-14
旧レイフラット仕様の生産終了に伴う処置 ・・・ 28-15
全ページで使用している写真画像の使用カット数表示を追加 ・・・ 28-14
ファイル表示ダイアログの変更 ・・・ 28-17
ヘッダーの機能追加（ボックス内部画像の情報表示と数値操作）・・・ 28-7 , 28-8 , 28-9 , 28-11 , 28-13
ボックス絞り込み機能を改善 ・・・ 28-13
ボックスの追加 ・・・ 28-15
バージョンアップについて ・・・ 1-8
バージョン確認方法 ・・・ 1-8
背景（ウインドウ）・・・ 3-29
「背景機能」の構造 ・・・ 9-9
背景色（ツールバー）・・・ 15-4
背景色ツールの使い方 ・・・ 4-45
背景タブ
カテゴリの選択 ・・・ 9-3
カテゴリの登録方法 ・・・ 9-4
最新の状態に更新 ・・・ 9-7
サムネイルサイズの調整 ・・・ 9-8
参照先フォルダを開く ・・・ 9-4
背景画像の登録を削除する ・・・ 9-7
「背景機能」の構造 ・・・ 9-9
背景の適用方法 ・・・ 9-1
背景の取消 ・・・ 9-2
背景タブ（ABM2 の画面構成）・・・ 3-1
背景の使い方 ・・・ 9-1
背景の取消 ・・・ 9-2
背景を塗りつぶす (全ページ一括) ・・・ 4-47
背景を塗りつぶす (ページごと) ・・・ 4-45
背面へ移動 ・・・ 21-6

パッケージ形式・・・2-43
幅を合わせる（整列ツールバー）・・・15-9
貼り付け（画像選択時の右クリック）・・・21-2
貼り付け（余白での右クリック）・・・22-1, 22-5, 22-11, 22-15
パレット位置の固定（ウインドウ）・・・3-31
パレット位置を初期化（ウインドウ）・・・3-32
パレット位置を復帰（ウインドウ）・・・3-32
パレット位置を保存（ウインドウ）・・・3-31
パレット位置を元に戻す・・・4-44

ひ

左 90 度回転・・・21-6
左回転（ツールバー）・・・15-4
左揃え（整列ツールバー）・・・15-7
表示
　拡張子表示・・・3-9
　警告・・・3-10
　トリミングエリア表示・・・3-9
表示移動（ツールバー）・・・15-1
表示拡大率の調整
　表示拡大率の表示欄・・・3-41
　表示拡大率調整スライダー・・・3-41
表示拡大率の表示欄・・・3-41
表示拡大率調整スライダー・・・3-41
表紙ページ・・・4-1
開く・・・6-1

ふ

ファイル
　ASUKABOOK Maker 2 を終了する・・・3-13
　オーガナイザーを開く・・・3-11
　オートレイアウトを開く・・・3-11
　新規作成・・・3-11
　テンプレート保存・・・3-12
　ブックファイルの名前を付けて保存・・・3-12
　ブックファイルの保存・・・3-12
　ブックファイルを閉じる・・・3-12
　ブックファイルを開く・・・3-11
　プロパティ・・・3-13
ファイル操作
　テンプレート保存の方法
　　・・・1-1
ファイルを開く速度、保存する速度・・・28-30
フィルタ（オーガナイザー）・・・12-15
フォルダを選択（画像表示ウインドウ）・・・5-4
フォント・・・1-7
フォントのウエイト・・・17-2
フォントの選択・・・17-2
負荷・・・28-30
複数のオブジェクトをグループ化する・・・4-35
　グループ化・・・4-35, 4-45, 4-47
複数のページを「ページ保存」する場合・・・6-8
ブックサイズごとの寸法とピクセル数（本文）・・・29-1
ブック作成時の保存形式・・・3-8, 28-9, 28-11
ブック情報（オーガナイザー）・・・12-21
ブック情報（オーガナイザー構成画面）・・・12-9
ブック作成時の保存形式・・・2-47, 2-48, 2-50, 2-52
ブックタイプ変更時の注意点：表紙の例・・・24-12
ブックタイプの変更・・・3-26
ブックタイプの変更（オーガナイザー）・・・12-21
ブックタイプの変更（ツール）・・・15-6
「ブックタイプの変更」の使い方・・・24-1
ブックタイプ変更の制限事項・・・24-2
ブックファイルの作り方・・・2-1
ブックファイルの開き方・・・2-8, 2-14, 2-20
ブックファイルの保存（ファイル）・・・2-6, 3-12
ブックファイルを閉じる（ファイル）・・・2-41, 3-12
ブックファイルを名前を付けて保存（ファイル）・・・3-12
ブックファイルを開く（ファイル）・・・3-11
ブック変換時の注意点・・・24-11
フルカラー選択モード・・・19-1
プレビュー（ツール）・・・3-25
プレビュー（ツールバー）・・・15-6
プレビュー（注文）・・・20-3
フローティングパレット・・・4-38
フローティングパレットをタブに戻す場合・・・4-40
プロパティ（オーガナイザータブ）・・・12-27
プロパティ（ファイル）・・・3-13
プロパティ（画像表示ウインドウ）・・・5-12
プロファイルについて・・・2-42

へ

ページ（ウインドウ）・・・3-28
ページ（オーガナイザータブ）・・・12-25
ページ構成・・・4-1
　仕上がりサイズ と たち落とし・・・4-3
　表紙ページ・・・4-1
　本文ページ・・・4-2, 5-2
　　開始ページ・・・4-2
　　最終ページ・・・4-2
　　見開きページ・・・4-2
ページごとに背景色をつける・・・4-45
ページ数（ブックタイプの変更）・・・24-2
ページ数（新規作成）・・・2-2, 2-4
ページタブ
　エクスポート
　　確認用 JPEG を出力・・・6-9
　　ページを保存・・・6-7
　ガイドラインをコピー・・・6-4
　ガイドラインをペースト・・・6-4
　サムネイルサイズの調整・・・6-18
　閉じる・・・6-18
　開く・・・6-1
　ページの入れ替え・・・6-19
　ページをクリア・・・6-5
　ページをコピー・・・6-2

ページをペースト・・・6-2
ボックス保存・・・6-17
リプレース
JPEG で置き換え・・・6-15
ページを置き換え・・・6-13
ページタブ（ABM2 の画面構成）・・・3-1
ページテンプレートの「テキスト」表示例・・・14-4
ページテンプレート・・・3-30
ページテンプレートタブ・・・14-1
ページテンプレートタブと各種メニュー・・・14-12
ページテンプレートの保存・・・14-1
ページテンプレートの名称を設定する・・・14-4
ページテンプレートの利用・・・14-16
ページテンプレート・・・3-30
ページテンプレート保存・・・3-22
ページテンプレートを登録する場合・・・14-5, 14-6
ページドキュメントタブ・・・3-40
ページの入れ替え・・・6-19
ページの種類と構成・・・7-18
ページの種類と表示されるボックスとの関係・・・7-19
ページ別に確認用 JPEG を出力する方法・・・6-10
ページ領域（オートレイアウト）・・・26-20
ページを置き換え（ドキュメント／リプレース）・・・3-21
ページを置き換え（ページタブ）・・・6-13
ページをクリア・・・6-5
ページをコピー・・・6-2
ページを増やす場合（ブックタイプの変更）・・・24-5
ページをペースト・・・6-2
ページを減らす場合（ブックタイプの変更）・・・24-7
ページを保存（ドキュメント／エクスポート）・・・3-20
ページを保存（ページタブ）・・・6-7
ペースト（編集）・・・3-15
ヘッダー・・・3-33
オブジェクトの縦横比の固定・・・3-38
写真を選択した場合のヘッダー・・・3-33
図形を選択した場合のヘッダー・・・3-36
ヘッダーでの計算式入力・・・3-37
文字を選択した場合のヘッダー・・・3-37
ヘッダー（ABM2 画面構成）・・・3-1
ヘッダーでの計算式入力・・・3-37
ヘルプ・・・3-32
編集
画像加工のペースト・・・3-15
カット・・・3-14
コピー・・・3-15
削除・・・3-17
すべてを選択・・・3-17
特殊文字・・・3-17
ペースト・・・3-15
元に戻す・・・3-14
やり直し・・・3-14
「編集画面へ」ボタン（オーガナイザー）・・・12-22
編集時のご注意・・・18-1
PSD 形式ファイル利用上の注意事項・・・18-5
たち落とし領域・・・18-1
のど部分・・・18-1
バーコードの印刷廃止について・・・18-2
巻き込み部分・・・18-1
レイアウト中のフォルダ、ファイルについて・・・18-2
編集パレット・・・3-27, 3-40
ステータスバー・・・3-40
表示拡大率の調整
表示拡大率の表示欄・・・3-41
表示拡大率調整スライダー・・・3-41
ページドキュメントタブ・・・3-40
編集パレットの表示拡大率調整・・・3-41
編集パレットの拡大率（ドキュメント）・・・3-19

ほ

保存形式・・・3-8
保存形式の比較・・・2-44
保存形式を環境設定から設定する (Windows)・・・2-48
保存形式を環境設定から設定する (MacOS)・・・2-46
保存形式を新規作成時に設定する (Windows)・・・2-49
保存形式を新規作成時に設定する (MacOS)・・・2-47
保存先などのフォルダを前回と同様にする・・・3-8
保存したガイドの便利な使い方と注意点・・・13-14, 14-16, 14-19
ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるガイド・・・13-17, 14-17, 14-18
ガイドの原点位置・・・13-17
ガイドの保存を「単位」の「%」以外で保存した場合・・・13-16
ガイドラインのページ種類と分類・・・13-14, 14-16, 14-19
異なるブックサイズで同じガイドラインを使用したい場合・・・13-15, 14-17
保存したページテンプレートの利用・・・14-18
保存したページテンプレートの利用　便利な使い方と注意点・・・14-16
保存したボックスの整理・・・7-28
保存ファイル形式
1 ファイル形式・・・2-43
パッケージ形式・・・2-43
リンク形式・・・2-43
保存ファイル形式について・・・2-43
保存ファイル形式の設定方法・・・2-46
保存ファイル形式の変換について・・・2-45
ボックス（ウインドウ）・・・3-28
ボックスサイズと共に画像を拡大縮小する・・・4-13
ボックスサイズは変更せずに内部画像のみ拡大縮小する・・・4-14
ボックス絞り込み機能の作動について・・・7-7
ボックス情報について・・・3-34
ボックス数選択・・・7-10
ボックスタブ・・・3-1, 7-1
お気に入りに追加する・・・7-11

画像数連動 ・・・ 7-4
オーガナイザーを使用した場合の「画像数連動」について ・・・ 7-4
オーガナイザーを使用していない場合の「画像数連動」について ・・・ 7-5
画像を新しいボックスに再配置 ・・・ 7-3
カテゴリ ・・・ 7-15
カテゴリーの作り方 ・・・ 7-24
最新の状態に更新 ・・・ 7-17
削除 ・・・ 7-17
サムネイルサイズの調整 ・・・ 7-18
左右反転 ・・・ 7-13
参照先フォルダを開く ・・・ 7-16
上下反転 ・・・ 7-14
正方形を含める ・・・ 7-7
整理用のカテゴリを作る ・・・ 7-29
「選択した画像からボックスを絞り込む」機能を使用しない場合 ・・・ 7-9
ボックス数選択 ・・・ 7-10
ボックスタブのプルダウンメニューの表示 ・・・ 7-10
縦横完全一致 ・・・ 7-6
保存したボックスの整理 ・・・ 7-28
ボックス絞り込み機能の作動について ・・・ 7-7
ボックスの仕様 ・・・ 7-18
ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるボックス ・・・ 7-19
ページの種類と構成 ・・・ 7-18
ページの種類と表示されるボックスとの関係 ・・・ 7-19
ボックスの使い方 ・・・ 7-1
ボックスの取消 ・・・ 7-15
ボックスの保存について ・・・ 7-20
ボックス保存のルールについて ・・・ 7-25
ボックステンプレート画面（オーガナイザー）・・・ 12-32
ボックステンプレートメニュー ・・・ 12-35
ボックスと共に画像を回転させる ・・・ 4-18
ボックス内部の画像の移動 ・・・ 4-20
画像コントローラによる内部画像の移動 ・・・ 4-20
ショートカットキーによる内部画像の移動 ・・・ 4-21
数値入力による内部画像の移動 ・・・ 4-22
ボックス内部の画像の回転 ・・・ 4-25
画像コントローラによる内部画像の回転 ・・・ 4-25
数値入力による内部画像の回転 ・・・ 4-25
ボックス内部の画像の拡大縮小 ・・・ 4-23
画像コントローラによる内部画像の拡大縮小 ・・・ 4-23
ショートカットキーによる内部画像の拡大縮小 ・・・ 4-24
数値入力による内部画像の拡大縮小 ・・・ 4-23
ボックスの位置は変更せずに内部画像のみを移動する ・・・ 4-10
ボックスの位置を移動する ・・・ 4-9
ボックスの回転角度は変更せずに内部画像のみ回転させる ・・・ 4-19
ボックスの仕様 ・・・ 7-18
ASUKABOOK の縦横比により共通して使用できるボックス ・・・ 7-19
ページの種類と構成 ・・・ 7-18
ページの種類と表示されるボックスとの関係 ・・・ 7-19
ボックスの縦横比とは ・・・ 7-6
ボックスの使い方 ・・・ 7-1
ボックスの取消 ・・・ 7-15
ボックスの保存について ・・・ 7-20
ボックス配置時にボックスの固定をしない ・・・ 3-6
ボックス配置時の自動再配置 ・・・ 3-6
ボックス保存（ドキュメント）・・・ 3-22
ボックス保存（ページタブ）・・・ 6-17
ボックス保存のルールについて ・・・ 7-25
ボックスを固定（画像選択時の右クリック）・・・ 21-3
ボックスを登録する場合 ・・・ 7-23
本文仕上げ ・・・ 2-2 , 2-4 , 24-2
本文ページ ・・・ 4-2 , 5-2

ま

マウスでドラッグして画像を移動 ・・・ 4-8
マウスでドラッグして画像を回転 ・・・ 4-17
マウスでドラッグして画像を拡大縮小 ・・・ 4-11
マウスドラッグによる部分拡大 ・・・ 15-5
巻き込み部分 ・・・ 18-1
macOS で「開発元が未確認で開けません」というメッセージが出た場合 ・・・ 1-1

み

右 90 度回転 ・・・ 21-6
右回転（ツールバー）・・・ 15-4
右揃え（整列ツールバー）・・・ 15-8
見開きページ ・・・ 4-2
見開きページ全体を左右反転させる ・・・ 21-14
見開きページの並び替え（オーガナイザー）・・・ 12-31

め

メインメニューの解説 ・・・ 3-1 , 3-2
環境設定 ・・・ 3-2
メモリの話 ・・・ 28-29

も

文字　小さな文字、細い文字の注意点 ・・・ 17-9
文字ツール
色選択 ・・・ 17-1 , 17-6
カーニング ・・・ 17-1 , 17-6
回転角度 ・・・ 17-1
下線 ・・・ 17-1 , 17-4
行揃え ・・・ 17-1 , 17-7
均等割り付けの使い方 ・・・ 17-7
斜体 ・・・ 17-1 , 17-4
高さ ・・・ 17-1
縦書き横書き ・・・ 17-1 , 17-4
縦方向位置 ・・・ 17-1

索引

幅・・・17-1
フォントサイズ・・・17-1，17-4
フォントのウエイト・・・17-2
フォントの選択・・・17-1
太文字・・・17-1，17-4
文字ツールのオプション・・・17-4
文字ツールの概要・・・17-1
文字の変更、修正の方法・・・17-3
文字のラスタライズ・・・17-8，17-9
横方向位置・・・17-1
文字入力（ツールバー）・・・15-3
文字入力の方法・・・17-2
文字高さについて・・・17-5
文字の変更、修正の方法・・・17-3
文字のラスタライズ・・・17-8，17-9
文字を選択した場合のヘッダー・・・3-37
元に戻す（ツールバー）・・・15-1
元に戻す（編集）・・・3-14
モノクロ画像・・・1-6

や

やり直し（ツールバー）・・・15-1
やり直し（編集）・・・3-14

ゆ

ユーザー ID・・・3-3
ユーザー情報の入力・・・2-1
ユーザー設定・・・3-3，3-4

よ

横均等配置・・・15-13
横均等配置　適用例・・・15-14
横均等配置の基準・・・15-14
「横均等配置」ボタン・・・15-13
横中央揃え（整列ツールバー）・・・15-7
余白での右クリック
左右にレイアウトを反転・・・21-13
上下にレイアウトを反転・・・21-11
貼り付け・・・22-1，22-5，22-11，22-15

ら

ラスタライズ（ドキュメント）・・・3-20
ラスタライズ（ラスタライズの方法）・・・17-8

り

リプレース・・・6-13，6-15
JPEG で置き換え・・・6-15
ページを置き換え・・・6-13
リプレース（ドキュメント）・・・3-21
JPEG で置き換え・・・3-22
全ページを JPEG で置き換え・・・3-22
ページを置き換え・・・3-21
リンク切れが発生した際の再リンク・・・2-16
リンク切れ警告・・・2-11，2-17
リンク形式・・・2-43
リンク形式の活用・・・2-8，2-14
リンク形式の設定と保存・・・2-1，2-3，2-5，2-9，2-15
リンク形式の注意点・・・2-20
リンク状況の確認・・・2-10，2-16

る

ルーラー単位・・・3-4
ルーラーとガイドライン・・・3-4
ルーラーの原点位置と変更方法・・・4-30
ルーラー（定規）の使用・・・4-29
ルーラーの単位・・・4-29
ルーラーの単位（ドキュメント）・・・3-19
ルーラーを表示（ドキュメント）・・・3-18
ルーラーを表示する（環境設定）・・・3-4

れ

レイアウト確認システム
Web サイトボタン・・・25-2
サーバーの接続に必要なユーザー設定・・・25-2
サーバーへの接続方法・・・25-2
レイアウト確認システムの概要・・・25-1
レイアウト確認システムの操作方法・・・25-4
レイアウト確認システムの特徴・・・25-1
連携ボタン・・・25-2
レイアウト確認ボタン（オーガナイザー）・・・12-19
レイアウト候補の移動（オーガナイザー）・・・12-19
レイアウト候補の削除（オーガナイザー）・・・12-19
レイアウト変更ボタン（オーガナイザー）・・・12-32
レイアウト編集画面（オーガナイザー）・・・12-2
レーティングのキーワード検索・・・22-15
レーティングのキーワード検索 (オーガナイザー及びオートレイアウト) ・・・22-15
レーティングを完全一致で検索する・・・22-16
連携ボタン（レイアウト確認システム）・・・25-2